

TASCAM

Sonicview 16

Sonicview 24

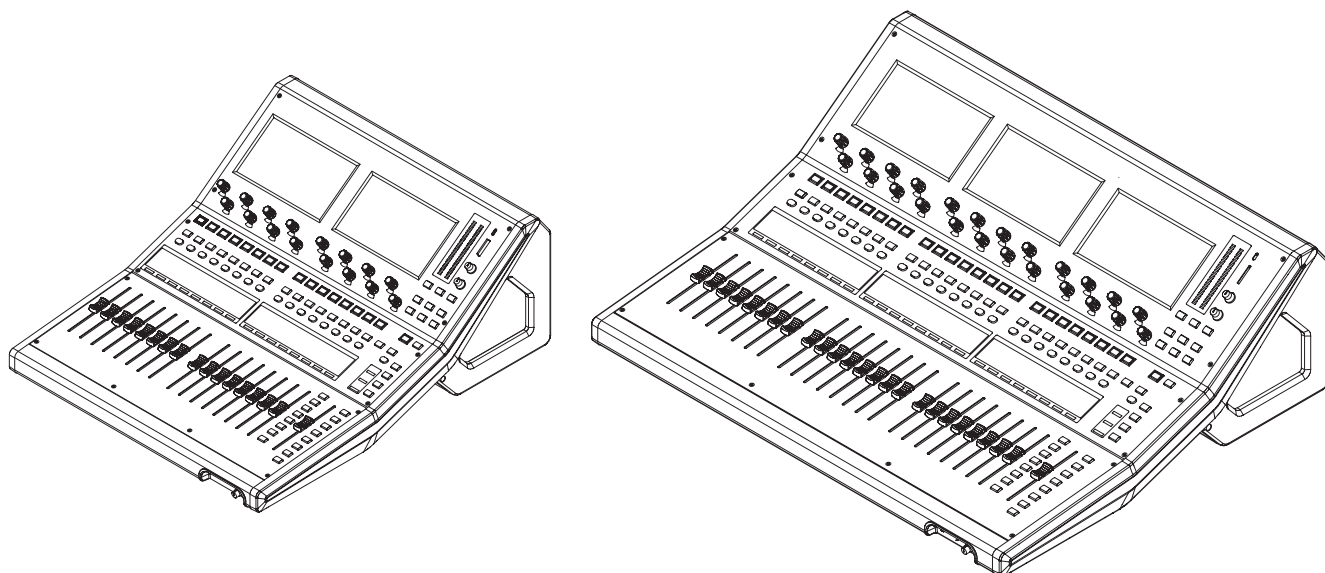
Sonicview 16dp

Sonicview 24dp

Digital Mixer

リファレンスマニュアル

V2.3



目次

第1章 はじめに	5
本機の概要	5
本書の表記	5
商標および著作権に関して	5
SDカード／USBメモリーについて	6
取り扱い上の注意	6
SDカードのライトプロテクトについて	6
フォーマットについて	6
本機の特徴	7
主な特徴	7
主な仕様	7
第2章 各部の名称と働き	8
トップパネル	8
フロントパネル	12
リアパネル	13
GPIO端子について	15
本機の基本操作	16
ホーム画面	17
CH1-40 モジュールのホーム画面	17
ST IN1-2 モジュール／FX RTN1-4 モジュールの ホーム画面	22
MIX1-22 モジュール／MAIN L/R マスターモジュールの ホーム画面	26
DCA モジュールのホーム画面	30
メニュー画面	31
メニュー画面の操作	31
メニューの構成	32
第3章 準備	34
別売の拡張カードを取り付ける	34
電源をオンにする／オフにする	34
内蔵時計の日時を設定する	34
SDカード／USBメモリーを装着する／取り外す	35
SDカードのライトプロテクトスイッチについて	35
SDカード／USBメモリーを使えるようにする	35
本機で使用するSDカード／USBメモリー	35
第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定	36
SYNC CLOCK画面	36
サンプリング周波数を設定する	37
マスタークロックを設定する	37
PREFERENCES画面	39
ON AIR Tally入力中の操作制限	43
METER画面	44
METER SETUP画面	46
METERING POINT タブ画面	46
METER HEADROOM タブ画面	47
LOCK SETUP画面	48
SELECTED LOCK設定ウィンドウ	48
MIXER CONFIG画面	50
CH1-40 CONFIG タブ画面	50
LOCATION CONFIG タブ画面	51
BUS CONFIG タブ画面	53
USER DEFINED CONTROLS画面	54
USER DEFINED CONTROLS画面の構成	72
User Key タブ画面	74
Foot Switch タブ画面	74
GPIO-IN タブ画面	75
GPIO-OUT タブ画面	75
フェーダースタートレベルの設定	76
USER KEY EXTENSION画面	77
STATUS OUT GROUP SETUP画面	78
MUTE Assign タブ画面	78
SOLO Assign タブ画面	79
Layer Key SETUP タブ画面	80
Custom Layer SETUP タブ画面	81
カスタムレイヤーのアサイン 操作手順	83
TALKBACKの設定	84
RETURN TALKBACKの設定	87
MONITOR出力の設定	90
MONITOR SOURCE ASSIGN画面	93
追加設定ウィンドウ	94
SOLOと内蔵オシレーターの設定	96
Dante SETUP画面	98
Dante Settings タブ画面	98
I/O Device タブ画面	99
SB-16Dを使用する	101
SB-16Dのコントロール	110
GPIO拡張機能を使う	120
SB-16DとのDante接続手順	120
Danteについて	126
Danteネットワークとの接続方法	126
Dante Controller使用方法	127
SLOT SETUP画面	129
IF-DA64（Danteカード）を装着時	129
IF-AE16（AES/EBUカード）を装着時	130
IF-MA64/EXまたはIF-MA64/BN（MADIカード）を装着時	130
IF-AN16/OUT（アナログ出力カード）を装着時	131
IF-MTR32（マルチトラックレコーディングカード）を 装着時	131
IF-ST2110（ST 2110 カード）を装着時	131
LABEL SETUP画面	132
DISPLAY MODE タブ画面	132
MODULE LABEL タブ画面	134
INPUT PORT LABEL タブ画面	134
OUTPUT PORT LABEL タブ画面	135
USER LABEL (INPUT PORT / OUTPUT PORT) 画面	135
Network Setup画面	136
カレント設定の保存	138
第5章 ルーティング	140
入カルーティング	140
複数のチャンネル間の入力ソースを一括で設定する	142
ダイレクトアウト信号の出力ルーティング	143
インサート入出力ルーティング	144
出カルーティング	146
複数のチャンネル間の出力ポートを一括で設定する	148
INPUT SOURCE SELECT画面	149
DIRECT OUT PORT SELECT画面	151
INSERT SEND PORT SELECT画面	153
INSERT RETURN PORT SELECT画面	155
OUTPUT PORT SELECT画面	157
ルーティング画面	159
ルーティング画面の構成	159
INPUT PORT タブ画面	160
INPUT MODULE タブ画面	162
OUTPUT MODULE タブ画面	164
OUTPUT PORT タブ画面	165
PORT to PORT A.GAIN (INPUT) タブ画面	166
第6章 モジュール	168
MODULE画面	168
MODULE画面の構成	168
MODULE (OVERVIEW) 画面	170
CH1-40 モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面	170
ST IN1-2 モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面	176
FX RTN1-4 モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面	180
MIX1-22 モジュール／MAIN L/R マスターモジュールの MODULE (OVERVIEW) 画面	182
MODULE (INPUT) 画面	186
デジタルトリム値を一括で設定する	190
MODULE (FX) 画面	191
エフェクトパラメーター	192

MODULE (GATE / EXPANDER / DE-ESSER) 画面.....	194	ERRORタブ 画面.....	267
ダイナミクスパラメーター.....	195	エラー／アラートメッセージ表示.....	268
MODULE (EQ) 画面.....	196	OPEN SOURCE SOFTWARE LICENSE画面.....	269
MODULE (GEQ) 画面.....	199	Sonicview 16 / 24 / 16dp / 24dp エラー画面	
MODULE (COMP / DUCKER) 画面.....	200	SYSTEMエラー／アラートメッセージ一覧.....	270
ダイナミクスパラメーター.....	202	Media Manage画面.....	276
KEY IN SOURCE SELECT画面.....	202	メディアをフォーマットする.....	276
MODULE (SEND/PAN) 画面.....	203	Version Information画面.....	277
MODULE (OUTPUT) 画面.....	207	ファームウェアアップデート手順.....	278
MODULE (Audio Follow Video) 画面.....	210		
AFV TRIGGER SOURCE SELECT画面.....	211	第 10 章 録音／再生.....	280
MODULE メニュー.....	212	SD カードのフォーマットについて.....	280
第 7 章 その他モジュールパラメーター設定画面.....	214	本機で使用する SD カード／USB メモリー.....	280
SENDS ON FADER機能.....	214	RECORDER / PLAYER画面.....	280
SENDS ON FADER画面.....	214	RECORDER部.....	280
SEND OVERVIEW画面.....	215	PLAYER部.....	281
MIX1-22 バスの SEND OVERVIEW画面.....	215	BROWSE画面.....	283
FX1-4 バスの SEND OVERVIEW画面.....	218	録音フォルダー選択の BROWSE画面.....	283
MAIN L/Rバスの SEND OVERVIEW画面.....	220	再生メディア／再生ファイル／再生フォルダー選択の	
SEND OVERVIEW メニュー.....	223	BROWSE画面.....	285
Mute Group機能と DCA機能.....	225	録音フォルダーの設定方法.....	287
Mute Group機能.....	225	再生フォルダーの設定方法.....	288
DCA (Digital Control Amplifier) 機能.....	225		
DCA スピルモード.....	225	第 11 章 USB オーディオインターフェース.....	290
DCA/Mute Group SETUP画面.....	226	専用ソフトウェアをインストールする.....	290
DCA Assign タブ 画面.....	226	Windows 専用ソフトウェアのインストール.....	290
Mute Group Assign タブ 画面.....	227	専用ソフトウェアをアンインストールする.....	291
Mute Group Master タブ 画面.....	228	Windows 専用ソフトウェアのアンインストール.....	291
MODULE LABEL画面.....	229	専用ソフトウェアを開く.....	291
USER MODULE LABELの登録／編集方法.....	230	Windows.....	291
モジュール設定色の変更方法.....	231	入力遅延.....	291
モジュールアイコンの設定方法.....	232	ビット深度.....	292
AUTO MIXER機能.....	233	サウンドプロパティについて.....	292
AUTO MIXERについて.....	233	ASIO/WDMの同時再生について.....	293
AUTO MIXER機能を使うための準備／手順.....	233	OBS Studioなどの配信用アプリケーションで	
AUTOMATIC MIXER画面.....	233	使用するための設定方法.....	293
第 8 章 設定データの保存／呼び出し.....	240	第 12 章 マルチトラックレコーダー.....	296
Snapshot機能.....	240	録音可能時間.....	296
メニュー画面上部での Snapshot機能の操作.....	241	SD カードのフォーマットについて.....	296
Snapshotを STOREする.....	242	IF-MTR32 で使用する SD カード.....	296
Snapshotを RECALLする.....	243	プロジェクトとテイク.....	296
Snapshot リスト 画面.....	245	MTR動作モード.....	296
ライブラリーメニュー.....	247	MULTI TRACK RECORDER画面.....	297
Snapshotをコピーする.....	248	AUTO ROUTINGの実行.....	302
SNAPSHOT RECALL SAFE画面.....	249	MTR動作モードの切り換え.....	304
PARAMETER SAFE タブ 画面.....	249	REC READY / INPUT MONITORの設定.....	305
MODULE SAFE タブ 画面.....	249	MULTI TRACK RECORDER - MENU画面.....	307
SNAPSHOT IMPORT / EXPORT画面.....	250	MULTI TRACK RECORDER - BROWSE画面.....	309
Snapshotをエクスポートする.....	251	フォルダー構成について.....	310
Snapshotをインポートする.....	252	フォルダー構成.....	310
各種 LIBRARY画面.....	254	録音ファイル名.....	310
LIBRARY画面の構成.....	254	ファイルフォーマットについて.....	311
MODULE RECALL SAFE画面.....	257	プロジェクトの管理.....	311
USER DEFINED CONTROLS LIBRARY画面.....	258	プロジェクトリスト／テイクリストを見る.....	311
USER DEFINED CONTROLS LIBRARY画面の構成.....	258	プロジェクト操作.....	311
ALL SYSTEM DATA画面.....	260	新しいプロジェクトを作成する.....	312
ミキサー全体の設定を SAVEする.....	261	プロジェクトを選択する.....	312
ミキサー全体の設定を LOADする.....	261	プロジェクトを削除する.....	312
ミキサー全体の設定をバックアップする.....	262	プロジェクト名を変更する.....	313
ミキサー全体の設定をリストアする.....	263	基本レコーディング.....	313
出荷時の設定に戻す.....	265	MTRの入力ソースを選択する.....	313
第 9 章 各種情報表示.....	266	レコーディングする.....	314
INFORMATION画面.....	266	レコーディングした音声を確認する (再生する).....	315
STATUS タブ 画面.....	266	レコーダー機能.....	315
		ロケート 機能.....	315
		リピート 再生機能.....	316

目次

オートレック機能	316
プリレック機能.....	317
パンチイン／アウト機能	317
オートパンチイン／アウト機能.....	318
パンチインアウト操作を取り消す（アンドゥ）	320
テイクの編集	320
テイク名を変更する	320
テイクを削除する	321
外部機器で録音したファイルを取り込む	321
ファイル名フォーマット	321
取り込み前の準備	322
取り込んだファイルを本機で扱う	322
マーク機能	322
マークポイントを登録する	322
マークの位置へ移動する	323
任意のマークポイントを削除する	323
第 13 章 拡張カード IF-ST2110	324
ST 2110 SETUP画面	324
Audio Network Config. タブ 画面.....	324
HOME (Source / Destination) タブ 画面	326
第 14 章 ネットワーク経由での外部制御	328
TASCAM Sonicview Controlで本機を制御する	328
外部制御プロトコル（Ember+）で本機を制御する	328
Ember+ デバイスの接続台数について.....	328
監視・制御について	328
メーターデータの取得について.....	328
仕様書の入手方法	328
SNMPで本機を監視する	329
第 15 章 フェーダーとタッチパネルのキャリブレーション	330
キャリブレーションモードの起動と終了.....	330
CALIBRATION MODE画面表示.....	330
キャリブレーションモードメニュー操作.....	330
FADER CALIBRATION	331
FADER SPEED CALIBRATION	331
FADER CALIBRATION CHECK.....	332
TOUCH PANEL CALIBRATION	332
TOUCH PANEL CALIBRATION CHECK.....	333
第 16 章 ショートカット操作の一覧表	334
第 17 章 トラブルシューティング	336
第 18 章 仕様／定格.....	338
内部処理.....	338
オーディオ性能.....	339
アナログオーディオ入出力定格.....	339
デジタルオーディオ入出力定格.....	340
コントロール入出力定格	340
その他の入出力定格	340
レコーダー部仕様.....	341
OS／動作条件.....	341
対応 OS.....	341
一般	341
AC アダプター仕様（Sonicview 16dp ／ 24dpのみ）.....	341
寸法図.....	342
第 19 章 ブロックダイアグラム	343
第 20 章 資料	344
Sonicview 16/24/16dp/24dp Mixer Basic Parameters.....	344
Sonicview 16/24/16dp/24dp Mixer Basic Parameters (FX) ...	350
Sonicview 16/24/16dp/24dp Preset List	353

本機の概要

本機は、2つ（Sonicview 16 / 16dp）または3つ（Sonicview 24 / 24dp）のカラータッチスクリーンを装備、16ch（Sonicview 16 / 16dp）または24ch（Sonicview 24 / 24dp）のマイクプリアンプ、44インプットチャンネル / 24バス、DanteインターフェースとUSBオーディオインターフェースを搭載したデジタルミキサーです。

主な特長

- 2つの7インチカラータッチスクリーン搭載（Sonicview 16 / 16dp）
- 3つの7インチカラータッチスクリーン搭載（Sonicview 24 / 24dp）
- 96kHz 54bit float FPGAハードウェアミキシングエンジン
- 超低レイテンシー：ミキシングエンジン遅延：20.8 μsec、2サンプル、アナログ to アナログ遅延：0.51ms
- 96kHz/32bit ADC、HDIAマイクプリ搭載
- 44入力チャンネル / 22フレックスバス+MAIN L/Rバス（全バスに31バンドGEQを搭載） / 4つのLoopタイプのFX
- 16 XLR Mic/Line入力（最大入力+32dBu）（Sonicview 16 / 16dp）
- 24 XLR Mic/Line入力（最大入力+32dBu）（Sonicview 24 / 24dp）
- 16 XLR Line出力
- 64in/64outのDanteインターフェース内蔵（リダンダント対応）
- 2 TASCAM スロット（別売カード：MADI、AES/EBU、Analog out、Dante、32トラックMTRに対応）
- 32bit、32in/32out USBオーディオインターフェース
- 8 TRS Line入力（Sonicview 16 / 16dp：CH9-16 / Sonicview 24 / 24dp：CH17-24）
- 2 INSERT（Sonicview 16 / 16dp：CH7-8 / Sonicview 24 / 24dp：CH15-16）
- 2系統のステレオRCA ST IN入力
- XLR TALKBACK入力
- 個別および外部トークバック機能を搭載
- XLR MONITOR出力
- φ6.3mm（1/4"）とφ3.5mm（1/8"）の2つのヘッドホン出力
- 2系統のモニターセクション
- ワンマンDJ向けのロケーション設定
- 16+1 100mm モーターフェーダー（Sonicview 16 / 16dp）
- 24+1 100mm モーターフェーダー（Sonicview 24 / 24dp）
- 専用アプリケーション「TASCAM Sonicview Control」（macOS / Windows / iPadOS）でリモートコントロール、オフライン編集が可能
- ミキシングエンジンとコントロールサーフェースをハードウェア / OSともに完全分離した高安定性
- Library：Snapshot / Module / Effect / EQ / GEQ / Gate / Comp
- 18アサインابلUSER KEYS、7カスタムレイヤー、モジュールアサインابلMASTERセクション、8つのDCA
- 16/24 カラー LED付きロータリーエンコーダーノブ
- 16/24 カラー LED付きチャンネルネームLCD（入力レベルメーター、ゲインリダクションメーターの表示にも対応）
- ステレオ録音（SDカード） / ステレオ再生（SDカード / USBメモリー）

- WORD IN / OUT / THRU
- 1000BASE-T ギガビットイーサネット
- 8in/8out GPIO
- TS FOOT SW
- XLR-4-31 LAMP端子
- ガード付き電源スイッチ

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機には、操作可能なボタンがトップパネルのボタンとタッチスクリーンの画面表示ボタンの2種類あります。トップパネルにあるボタンを「MUTEキー」のように表記します。
- タッチスクリーンの下に並ぶ8つのつまみをLCDノブと呼び、左から順にLCDノブ1～LCDノブ8と表記します。
- 「SDHC/SDXCメモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- 「USBフラッシュドライブ」のことを「USBメモリー」と表記します。
- ステレオ信号を扱う以下のモジュールを「ステレオモジュール」と呼びます。
 - Stereo Link設定がオンのCH1-40モジュール
 - Stereo Link設定がオンのMIX1-22モジュール
 - ST IN1-2モジュール
 - FX RTN1-4モジュール
 - MAIN L/Rマスターモジュール
- 最後にStore/RecallしたSnapshotを「カレントSnapshot」と表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

⚠ 注意

指示を守らないと、人がけがをする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。



第1章 はじめに

- VST is a trademark of Steinberg Media Technologies GmbH, registered in Europe and other countries.



- Microsoft、Windows および Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Mac、macOS、iPad、iPadOS および iTunes は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- etherCON は、Neutrik AG の登録商標です。
- Audinate®, the Audinate logo and Dante are trademarks of Audinate Pty Ltd.
www.audinate.com/patents
- ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。



- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではありません。したがって、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどの場合は、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

SD カード / USB メモリーについて

本機では、SD カードを使って録音や再生を行います。使用できる SD カードは、Class10 以上の SDHC / SDXC 規格に対応した SD カードです。USB メモリーを使って、メモリー内のファイルを再生したり、本機にデータを取り込んだり、本機のデータをバックアップしたりします。本機にて動作が確認された SD カード / USB メモリーのリストが、TASCAM のウェブサイトに掲載されています。

Sonicview 16 / 16dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_16/support

Sonicview 24 / 24dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_24/support

このリストに掲載されている SD カード / USB メモリーをご使用ください。もしくは、タスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

- ご使用になったカセットテープ、CD、SD カード、USB フラッシュメモリー等の記録媒体（以下「媒体」といいます）が原因で本機が故障した場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。
 - 長年ご使用になっていない、または、すでに長時間使用された媒体、カビ・汚れ・ベタつき・折れ・捻じれなどが見られる媒体のご使用は、避けてください。
- 媒体に起因して生じた製品または媒体の破損、テープの巻き込み、データの喪失等につきましても、弊社では一切の責任を負いかねます。また、その他の逸失利益、間接的・派生的な損害、その他特殊な事情から生じた損害につきましても、同様です。
 - 万が一の場合に備えて、あらかじめデータのバックアップの作成等、お客様にてデータの保存や保護措置を講じられることをお勧めいたします。

取り扱い上の注意

SD カード / USB メモリーは、精密にできています。SD カード / USB メモリーの破損を防ぐため、取り扱いに当たって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高いあるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を載せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。
- 録音、再生状態やデータ転送などアクセス中に、抜き差しを行わないこと。
- 持ち運ぶ際、メモリーカードケースなどに入れて運ぶこと。

SD カードのライトプロテクトについて

本機は、録音 / 再生フォルダーの設定情報をメディアに書き込みます。ライトプロテクトをされた SD カードには設定情報の書き込みなどができないため、再起動時に録音 / 再生フォルダーの設定を保持していないなどの影響が出ます。

フォーマットについて

本機で SD カード / USB メモリーを使用する際は、必ず本機にてフォーマットを行ってください。（→ 276 ページ「Media Manage 画面」）他の機器、パソコンなどでフォーマットした SD カード / USB メモリーを使用した場合は、動作に影響が出る場合があります。

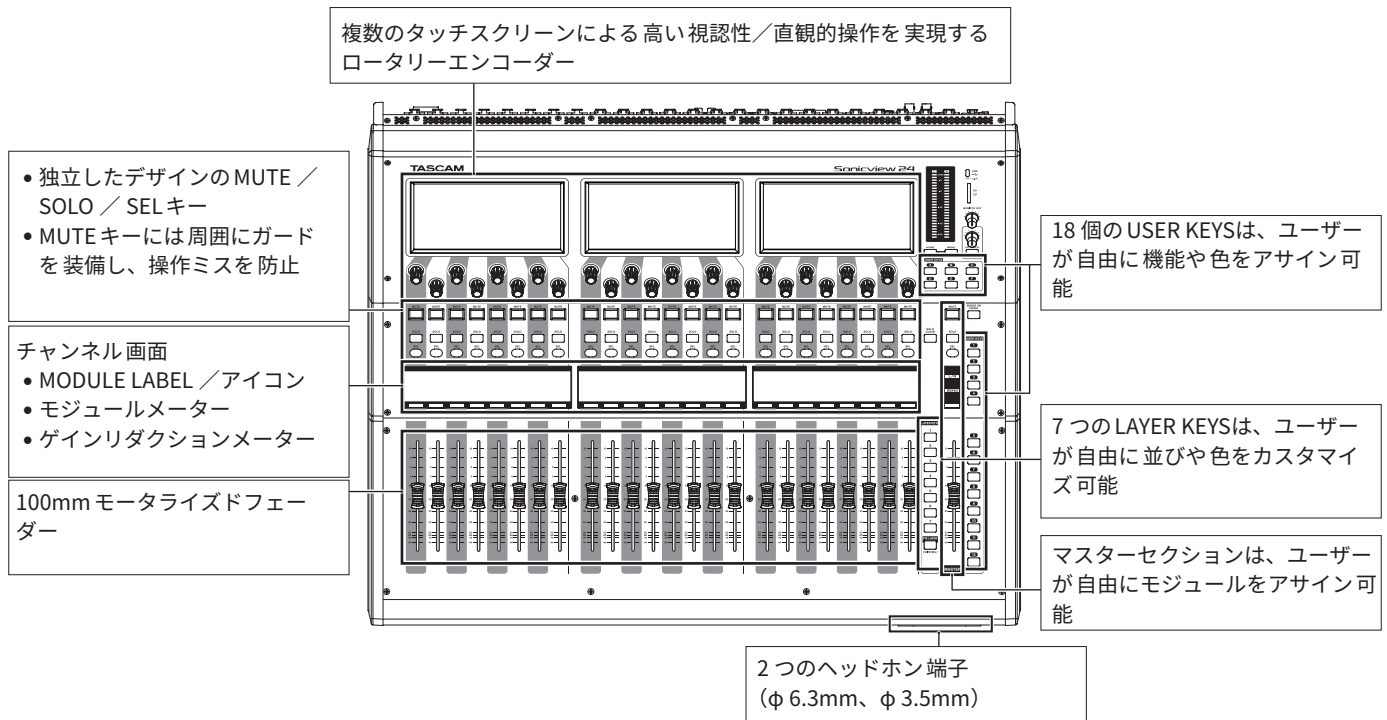
注意

- フォーマットを行うと、SD カード / USB メモリー上のデータはすべて消去されます。
- 本機でフォーマットされた SD カードは、録音時の性能向上のために最適化されています。そのため、本機で使用する SD カードは本機でフォーマットを行ってください。他の機器、パソコンなどでフォーマットされた SD カードは、本機での録音時にエラーになる可能性があります。

本機の特徴

主な特徴

8つのLCDノブを備えたタッチスクリーンを8つのチャンネルモジュールごとに装備し、各チャンネルの各種パラメーターを同時に俯瞰・確認しながら直観的な操作ができます。



主な仕様

同時処理能力

- 入力：モノラル 40 チャンネル、ステレオ 2 チャンネル
- 出力バス：AUX/GROUP切り換え可能な 22 のバスとステレオメインバス
- 4 つの内蔵 FX、4 つの FX Send バス、4 つのステレオ FX Return チャンネル

入出力ポート

- 16 または 24 マイク／ライン入力
- 2 系統のステレオ RCA 入力
- 16 アナログライン出力
- ステレオアナログ MONITOR 出力
- リダンダント対応の Dante I/O ポート
- 2 つの拡張スロット
- 32 入力、32 出力の USB Audio I/F ポート

内部処理

- 96kHz / 浮動小数点 54bit 演算

第2章 各部の名称と働き

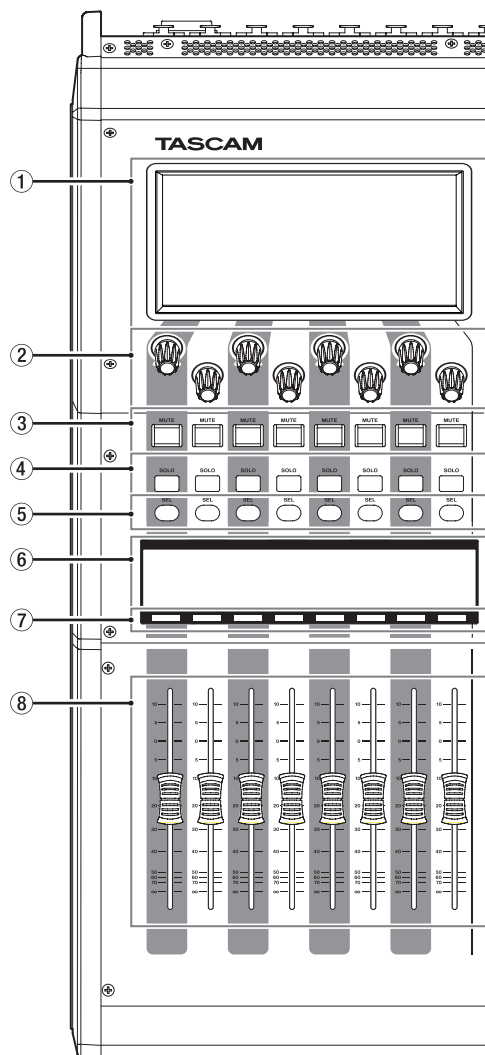
トップパネル

ここでは、トップパネルの表示器・操作子について説明します。

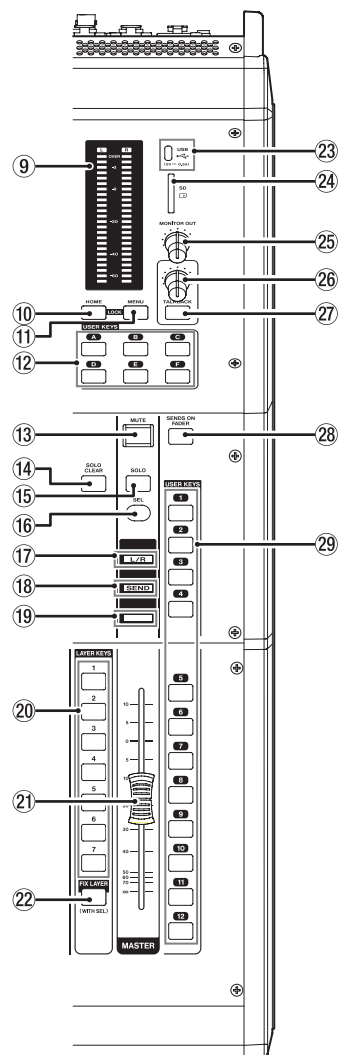
メモ

インジケーター付きの各種キーは、消灯時も淡く光り、暗い場所での視認性・操作性を確保しています。

チャンネルセクション



マスターセクション



① タッチスクリーン

- 抵抗膜方式（感圧式）のタッチパネルを搭載した 800x480 ピクセルのカラー LCD です。
- 各種情報を表示します。
- 表示中の画面をタップやスワイプして、画面を操作します。
- 2 か所以上同時に押して操作することはできません。
- 明るさは、PREFERENCES画面で設定します。（→ 39 ページ「PREFERENCES画面」）

② LCD ノブ／インジケーター

- タッチスクリーンに表示されている画面に対応して、操作が可能なLCD ノブのインジケーターが点灯します。
- LCD ノブを回して、タッチスクリーンに表示されている各種パラメーターを調節します。

メモ

● LCD ノブでのパラメーター調節

- LCD ノブを押さずに回すと、LCD ノブの 1 クリックでパラメーター値が 1 ステップ変化します。細かいパラメーター調節ができます。
- LCD ノブで高分解能のパラメーターを調節する際、LCD ノブを押しながら回すと、LCD ノブの 1 クリックでパラメーター値が数ステップ変化します。効率良くパラメーターを調節することができます。
- HOME キーを押しながらいずれかのLCD ノブを回すと、タッチスクリーン／チャンネル画面／各種インジケーター／リアパネルのLAMP端子に接続しているランプの輝度を一括で調節することができます。
- HOME キーを押しながらいずれかのLCD ノブを押し回しすると、タッチスクリーン／チャンネル画面の輝度を一括で調節することができます。

- MENUキーを押しながらいずれかのLCDノブを回すと、回したLCDノブに対応したチャンネル画面のコントラストを調節することができます。(→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)

③ MUTEキー／インジケーター

- 選択したレイヤーにアサインされているモジュールのMUTEのオン／オフを切り換えます。
- このキーがオン（キー点灯）のとき、対応モジュールの信号がMUTEされます。
- DCAまたはMute GroupによりMUTEされている場合は、キーが点滅します。
- SENDS ON FADERキーがオン（Sends On Faderモード・オン）のとき、選択したレイヤーにアサインされている各モジュールから選択されたバスへのSEND ON/OFFを切り換えます（MUTEキー点灯時：SEND OFF、MUTEキー消灯時：SEND ON）。ただし、操作対象バスへのSEND ON/OFF機能がないモジュール（例：操作対象バスがFX1でモジュールがFX RTN 1、操作対象バスがMIX1でモジュールがMIX1）の場合は、該当するモジュールのMUTE ON/OFFを切り換えます。

④ SOLOキー／インジケーター

- 選択したレイヤーにアサインされているモジュールのSOLOのオン／オフを切り換えます。
- このキーがオン（キー点灯）のとき、対応モジュールの信号がSOLO L/Rバスに送られます。
- DCAによりSOLOがオンになっている場合は、キーが点滅します。

メモ

MENUキーを押しながらこのキーを押すと、SOLOの各種設定を行うTALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面のSOLO / OSCILLATORタブ画面に切り換わります。(→ 96 ページ「SOLOと内蔵オシレーターの設定」、→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)

⑤ SELキー／インジケーター

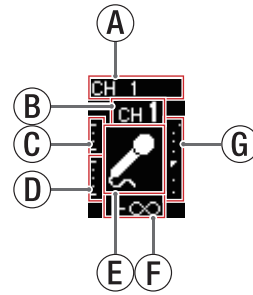
- このキーを押すと、選択したレイヤーにアサインされているモジュールのMODULE画面が表示され、キーが点灯します。タッチスクリーン上でMODULE画面に表示するモジュールを切り換えた場合は、対応するSELキーが点灯します。
- 点灯しているSELキーを押すと、押したモジュールのMODULE画面がSELキーに対応するタッチスクリーンに表示されていない場合は、押したモジュールのMODULE画面が表示されます。押したモジュールのMODULE画面がSELキーに対応するタッチスクリーンに表示されている場合は、押したSELキーに対応するMODULE画面を閉じてSELキーが消灯します。

メモ

HOMEキーを押しながらこのキーを押すと、対応するモジュールのFADERレベル（Sends On Faderモード・オン時はSENDレベル）の設定を「0dB」に設定します。(→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)

⑥ チャンネル画面

- 選択したレイヤーにアサインされているモジュールの以下の情報を表示します。



① MODULE LABEL Sub

DISPLAY MODEタブ画面のMODULE LABEL Subで設定した表示モードのMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)

初期設定では、FIXED MODULE LABELが表示されます。

② MODULE LABEL Main

DISPLAY MODEタブ画面のMODULE LABEL Mainで設定した表示モードのMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)

初期設定では、USER MODULE LABELが表示されます。

メモ

- MODULE LABEL MainおよびMODULE LABEL Subの表示モードは、以下の3種類です。

表示モード	内容
USER MODULE LABEL	ユーザーが設定したモジュール名
FIXED MODULE LABEL	「CH1」や「MIX1」のようなモジュールごとに決められたモジュール名
PORT LABEL	入出力端子名

- USER MODULE LABELの登録は、MODULE LABEL画面で行います。(→ 230 ページ「USER MODULE LABELの登録／編集方法」)

③ GATE / EXPANDER / DE-ESSERゲインリダクションメーター

④ COMP / DUCKERゲインリダクションメーター

⑤ モジュールアイコン

- モジュールアイコンの設定は、229 ページ「MODULE LABEL画面」で行います。

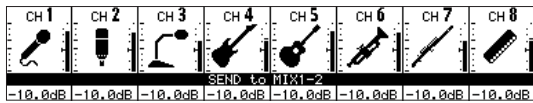
⑥ フェーダーレベル値

⑦ モジュールメーター（設定されているMetering Pointの信号レベルを表示）

- モジュールがステレオモジュールのとき、モジュールメーターはステレオ表示になります。
- モジュールメーターの最上部は、オーバーロードインジケーターです。信号レベルが -0.00026dBFS （16bitフルスケール値）以上のときに点灯します。
- モジュールメーター下端の -60dBFS 以下のエリアは、 -70dBFS 以上で点灯します。

第2章 各部の名称と働き

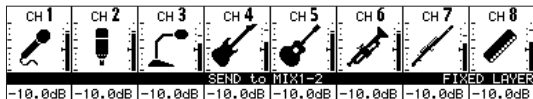
- SENDS ON FADERキーがオン (Sends On Faderモード・オン) のとき、白黒反転して表示し、画面下部に黒い帯で「SEND to [バス名]」と表示します。



- FIX LAYERキー (②) でレイヤーを固定された8チャンネルブロックでは、画面上部に白い帯で「FIXED LAYER」と表示します。



- Sends On Faderモードがオン、かつレイヤーを固定された8チャンネルブロックでは、白黒反転して表示し、画面下部に黒い帯で「SEND to [バス名]」「FIXED LAYER」と表示します。



- チャンネル画面の明るさとコントラストは、PREFERENCES画面で調節します。(→ 39 ページ「PREFERENCES画面」)

⑦ チャンネルカラーバー

選択したレイヤーにアサインされているモジュールの設定色で点灯します。(→ 231 ページ「モジュール設定色の変更方法」)

⑧ チャンネルフェーダー

- SENDS ON FADERキーがオフ (Sends On Faderモード・オフ) のとき、選択したレイヤーにアサインされている各モジュールのFADERレベルを調節します。
- SENDS ON FADERキーがオン (Sends On Faderモード・オン) のとき、選択したレイヤーにアサインされている各モジュールから選択されたバスへのSENDレベルを調節します。

⑨ OUTPUT メーター

MAIN L/RバスのOUTPUTメーターを表示します。
OVERインジケータは、 -0.00026dBFS (16bitフルスケール値) 以上で赤く点灯します。
一番下のインジケータは、 -70dBFS 以上で点灯します。

⑩ HOMEキー

- メニュー画面および各種設定画面を表示中に押すと、すべてのタッチスクリーンがホーム画面に戻ります。
- このキーとMENUキーを同時に5秒間押し続けると、LOCK SETUP画面に切り換わります。(→ 48 ページ「LOCK SETUP画面」)

メモ

このキーとの組み合わせで各種ショートカット操作ができます。詳細については、334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」をご参照ください。

⑪ MENUキー

- このキーを押すと、右端のタッチスクリーンにメニュー画面を表示します。
- このキーとHOMEキーを同時に5秒間押し続けると、LOCK SETUP画面に切り換わります。(→ 48 ページ「LOCK SETUP画面」)

メモ

このキーとの組み合わせで各種ショートカット操作ができます。詳細については、334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」をご参照ください。

⑫ USER KEYS A-Fキー／インジケータ

ユーザーが自由に機能や色をアサインできるキーです。ステータスを持つ機能を設定した場合には、ステータスに合わせてキーが点灯／点滅／消灯します。(→ 54 ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」)

メモ

MENUキーを押しながらこのキーを押すと、このキーにアサインされた機能に対応した画面に切り換わります。(→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)

⑬ MUTEキー／インジケータ (MASTER)

- MUTEのオン／オフを切り換えます。
- SENDS ON FADERキーがオフ (Sends On Faderモード・オフ) のとき、Layer Key SETUP画面のCustom Layer SETUPタブ画面のMASTERスロットにアサインされたモジュール (初期値: MAIN L/R) のMUTEキーになります。
- SENDS ON FADERキーがオン (Sends On Faderモード・オン) のとき、選択されたバスマスターモジュールのMUTEキーになります。
- このキーがオン (キー点灯) のとき、対応モジュールの信号がMUTEされます。
- DCAまたはMute GroupによりMUTEされている場合は、キーが点滅します。

⑭ SOLO CLEARキー／インジケータ

- いずれかのモジュールのSOLOがオンのとき、SOLO CLEARインジケータが点灯します。
- SOLO CLEARインジケータが点灯しているときに押すと、全チャンネルのSOLOを解除します。

メモ

MENUキーを押しながらこのキーを押すと、TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面のSOLO / OSCILLATORタブ画面に切り換わります。(→ 96 ページ「SOLOと内蔵オシレータの設定」、→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)

⑮ SOLOキー／インジケーター (MASTER)

- SOLOのオン／オフを切り換えます。
- SENDS ON FADERキーがオフ (Sends On Fader モード・オフ) のとき、Layer Key SETUP画面のCustom Layer SETUPタブ画面のMASTERスロットにアサインされたモジュール (初期値: MAIN L/R) のSOLOキーになります。
- SENDS ON FADERキーがオン (Sends On Fader モード・オン) のとき、選択されたバスマスターモジュールのSOLOキーになります。
- このキーがオン (キー点灯) のとき、対応モジュールの信号がSOLO L/Rバスに送られます。
- DCAによりSOLOがオンになっている場合は、キーが点滅します。

メモ

MENUキーを押しながらこのキーを押すと、SOLOの各種設定を行うTALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面のSOLO / OSCILLATORタブ画面に切り換わります。(→ 96 ページ「SOLOと内蔵オシレーターの設定」、→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)

⑯ SELキー／インジケーター (MASTER)

- SENDS ON FADERキーがオフ (Sends On Fader モード・オフ) のとき、Layer Key SETUP画面のCustom Layer SETUPタブ画面のMASTERスロットにアサインされたモジュール (初期値: MAIN L/R) のSELキーになります。
- SENDS ON FADERキーがオン (Sends On Fader モード・オン) のとき、選択されたバスマスターモジュールのSELキーになります。
- このキーを押すと、押したモジュールのMODULE画面が右端タッチスクリーンに表示され、キーが点灯します。タッチスクリーン上でMODULE画面に表示するモジュールを切り換えた場合、対応するSELキーが点灯します。
- 点灯しているSELキーを押すと、押したモジュールのMODULE画面がSELキーに対応するタッチスクリーンに表示されていない場合は、押したモジュールのMODULE画面が表示されます。押したモジュールのMODULE画面がSELキーに対応するタッチスクリーンに表示されている場合は、押したSELキーに対応するMODULE画面を閉じてSELキーが消灯します。

メモ

HOMEキーを押しながらこのボタンを押すと、対応するモジュールのFADERレベル / SENDレベルを「0dB」に設定します。(→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)

⑰ L/Rインジケーター

- SENDS ON FADERキーがオフ (Sends On Fader モード・オフ) で、Layer Key SETUP画面のCustom Layer SETUPタブ画面のMASTERスロットにアサインされたモジュールがMAIN L/Rのときは、トップパネルのマスターセクションのMUTE / SOLO / SEL / カラーバー / MASTERフェーダーがMAIN L/Rマスターモジュールの操作子 / 表示器になり、インジケーターが点灯します。
- SENDS ON FADERキーがオン (Sends On Fader モード・オン)、または、SENDER ON FADERキーがオフでLayer Key SETUP画面のCustom Layer SETUPタブ画面のMASTERスロットにアサインされたモジュールがMAIN L/R以外のときは、インジケーターが消灯します。

⑱ SENDインジケーター

- SENDS ON FADERキーがオフ (Sends On Fader モード・オフ) のときは、インジケーターが消灯します。
- SENDS ON FADERキーがオン (Sends On Fader モード・オン) のときは、トップパネルのマスターセクションのMUTE / SOLO / SEL / カラーバー / MASTERフェーダーがSENDER ON FADER操作対象バス (MIX1-22 バス / FX1-4 バス) の操作子 / 表示器になり、インジケーターが点灯します。

⑲ カラーバー (MASTER)

- SENDS ON FADERキーがオフ (Sends On Fader モード・オフ) のとき、Layer Key SETUP画面のCustom Layer SETUPタブ画面のMASTERスロットにアサインされたモジュール (初期値: MAIN L/R) の設定色で点灯します。(→ 231 ページ「モジュール設定色の変更方法」)
- SENDS ON FADERキーがオン (Sends On Fader モード・オン) のとき、選択されたバスマスターモジュールの設定色で点灯します。(→ 231 ページ「モジュール設定色の変更方法」)

⑳ LAYER KEYS 1-7 キー／インジケーター

- このキーを押すと、レイヤーが切り換わります。最後に押したキーが点灯し、現在選択中であることがわかります。レイヤーを切り換えると、各モジュールのフェーダー、MUTE / SOLO / SELキー、チャンネル画面、カラーバー、タッチスクリーンが現在のレイヤーの状態に応じて変化します。
- 各キーに割り当てるレイヤーとキーの点灯色は、メニュー画面 > Front Panel Setupメニュー > 「Layer / Master Fader Setup」で自由に設定できます。(→ 80 ページ「Layer Key SETUPタブ画面」)

メモ

MENUキーを押しながらこのキーを押すと、選択したLAYERキーのLayer Key SETUP画面に切り換わります。(→ 80 ページ「Layer Key SETUPタブ画面」、→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)

㉑ MASTERフェーダー

- SENDS ON FADERキーがオフ (Sends On Fader モード・オフ) のとき、Layer Key SETUP画面のCustom Layer SETUPタブ画面のMASTERスロットにアサインされたモジュール (初期値: MAIN L/R) のFADERレベルを調節します。
- SENDS ON FADERキーがオン (Sends On Fader モード・オン) のとき、選択されたバスマスターモジュールのFADERレベルを調節します。

㉒ FIX LAYERキー／インジケーター

- このキーを押しながら、レイヤーを固定したいブロックのいずれかのSELキーを押すと、該当の8チャンネルブロックが現在のレイヤーで固定されます。また、このキーと固定されたレイヤーに対応したLAYER KEYSが点滅します。さらに、対応したチャンネル画面上部に白い帯で「FIXED LAYER」と表示します。
- このキーを押しながら、レイヤーが固定されたブロックのいずれかのSELキーを押すと、該当の8チャンネルブロックのレイヤー固定が解除されます。また、このキーと固定が解除されたレイヤーに対応したLAYER KEYSの点滅が解除されます。さらに、対応したチャンネル画面上部の「FIXED LAYER」表示が消えます。
- 固定できるブロックは、左端または右端の8チャンネルブロックのいずれか一方だけです。

第2章 各部の名称と働き

②③ USB端子 (5V --- 0.5A)

USB Type-CのUSBポートです。(USB2.0 に対応)

- USBキーボードを接続し、名前などの入力に使用します。工場出荷時の設定は、日本語用キーボードに設定されています。英語用キーボードは日本語用キーボードと配列が異なるため、英語用キーボードを使用する場合にはPREFERENCES 画面で設定を変更してください。(→ 39 ページ「PREFERENCES画面」)
- USBメモリーを装着し、メモリー内のファイルを再生したり、本機にデータを取り込んだり、本機のデータをバックアップしたりします。
- マウスなどのポインティングデバイスには非対応です。

②④ SDカードスロット

SDカードを装着するカードスロットです。(→ 35 ページ「SDカード / USBメモリーを装着する / 取り外す」)

SDカードを装着し、メモリー内のファイルを再生したり、メモリーに録音したり、本機にデータを取り込んだり、本機のデータをバックアップしたりします。

②⑤ MONITOR OUT ボリューム

MONITOR OUT L / R端子の出力レベルを調節します。

②⑥ TALKBACK ボリューム

TALKBACKの入力レベルを調節します。

②⑦ TALKBACK キー / インジケーター

- TALKBACKのオン / オフを切り換えるキーです。このキーを押してすぐに離すと、オン / オフを切り換えます。このキーを押し続けると、押し続けている間だけオンになります。
- MENUキーを押しながらこのキーを押すと、TALKBACKの各種設定を行うTALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面のTALKBACKタブ画面に切り換わります。(→ 84 ページ「TALKBACKの設定」、→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)

②⑧ SENDS ON FADER キー / インジケーター

Sends On Faderモードのオン / オフを切り換えます。

- SENDS ON FADERキーがオン (Sends On Faderモード・オン) のとき、このキーが点灯し、本機が以下の状態になります。
 - 一番右のタッチスクリーンがSENDS ON FADER画面に切り換わります。(→ 214 ページ「SENDS ON FADER機能」)
 - チャンネル画面がSends On Faderモード表示に切り換わります。
 - チャンネルフェーダーが選択バスへのSENDレベルの位置に移動します。
 - MASTERフェーダーが選択バスのFADERレベルの位置に移動します。
- SENDS ON FADER画面を表示中にこのキーを押すと、Sends On Faderモードが解除されます。SENDS ON FADER画面が閉じて、チャンネルフェーダー / MASTERフェーダー、およびチャンネル画面が通常表示に戻ります。(→ 214 ページ「SENDS ON FADER機能」)

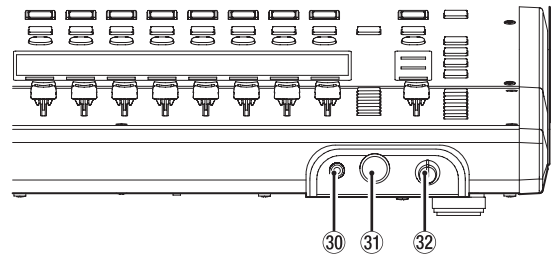
②⑨ USER KEYS 1-12 キー / インジケーター

ユーザーが自由に機能や色をアサインできるキーです。ステータスを持つ機能を設定した場合には、ステータスに合わせてキーが点灯 / 点滅 / 消灯します。(→ 54 ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」)

メモ

MENUキーを押しながらこのキーを押すと、このキーにアサインされた機能に対応した画面に切り換わります。(→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)

フロントパネル



③⑩ ヘッドホン端子 (ステレオミニジャック)

ステレオヘッドホンを接続するためのφ3.5mm (1/8") ステレオミニジャックです。

③⑪ ヘッドホン端子 (ステレオフォンジャック)

ステレオヘッドホンを接続するためのφ6.3mm (1/4") ステレオフォンジャックです。

③⑫ ヘッドホンボリューム

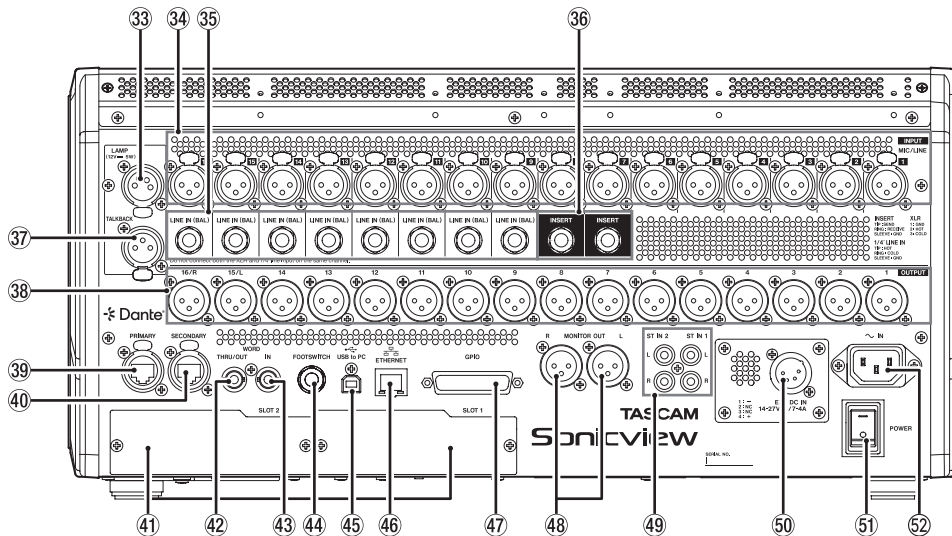
ヘッドホンの出力レベルを調節します。

⚠ 注意

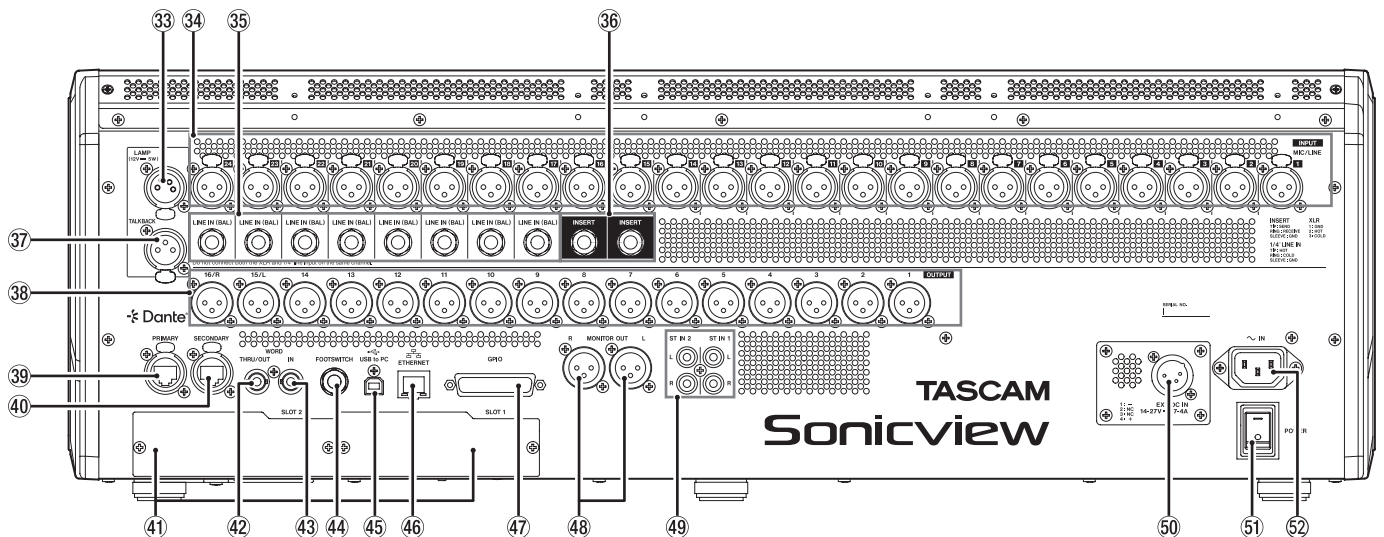
ヘッドホンを接続する前には、ヘッドホンボリュームで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴覚障害などの原因となることがあります。

リアパネル

Sonicview 16 / 16dp



Sonicview 24 / 24dp



③③ LAMP端子

トップパネルを照らすグースネックランプを接続します。
XLR 4pin コネクターのランプを使用することができます。
ランプの輝度は、PREFERENCES画面で調節します。(→ 39
ページ「PREFERENCES画面」)

- XLR 4pin メス (4pin : +12V、3pin : GND)

③④ MIC/LINE入力端子

XLR バランスタイプのマイク／ライン入力端子です。

- XLR (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)

③⑤ LINE IN (BAL) 端子 (TRS フォンジャック)

φ 6.3mm (1/4") TRS フォンジャックタイプのライン入力端子
です。

- TRS (Tip : HOT、Ring : COLD、Sleeve : GND)

メモ

- 本機には 2 種類の入力端子 (XLR と TRS) を持つチャンネル
があります。同じチャンネルの XLR 端子と TRS 端子には、同
時に信号を入力しないでください。同時に信号を入力すると、
信号が正しく入力されません。
- ファンタム電源が供給される入力端子は、MIC/LINE 入力端
子 (③④) だけです。

第2章 各部の名称と働き

③⑥ INSERT端子 (TRS フォンジャック)

φ 6.3mm (1/4") TRS フォンジャックタイプの外部機器 (エフェクターなど) を挿入する端子です。

- TRS (Tip : SEND、Ring : RETURN、Sleeve : GND)

③⑦ TALKBACK入力端子

- トークバックマイクを接続します。
- TALKBACKボリューム (②⑥) で TALKBACK の入力レベルを調節し、TALKBACK キー (②⑦) でオン/オフを切り換えます。
- TALKBACK の各種設定は、TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP 画面の TALKBACK タブ画面で行います。(→ 84 ページ「TALKBACK の設定」)

③⑧ アナログ出力端子

XLR タイプのアナログ出力端子です。

- XLR (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)

③⑨ Dante PRIMARY端子

メインの etherCON Cat5e 互換の Dante 通信端子です。常時、Dante ネットワークに接続します。接続に使用する LAN ケーブルは、カテゴリ 5e 以上の STP ケーブルをご使用ください。(→ 126 ページ「Dante ネットワークとの接続方法」)
内蔵 Dante モジュールの設定は、Dante SETUP 画面で行います。(→ 98 ページ「Dante SETUP 画面」)

④⑩ Dante SECONDARY端子

サブの etherCON Cat5e 互換の Dante 通信端子です。モードによって、用途が切り換わります。
Redundant (二重化) モード時は、二重化した Dante ネットワークのうち、セカンダリーネットワークに接続します。
Switched (デジタイゼーション) モード時は、数珠つなぎで Dante 機器と接続する際に使用します。接続に使用する LAN ケーブルは、カテゴリ 5e 以上の STP ケーブルをご使用ください。(→ 126 ページ「Dante ネットワークとの接続方法」)
内蔵 Dante モジュールの設定は、Dante SETUP 画面で行います。(→ 98 ページ「Dante SETUP 画面」)

④⑪ 拡張カードスロット (SLOT 1 / SLOT 2)

別売の拡張カードを搭載するためのカードスロットです。SLOT の設定は、SLOT SETUP 画面で行います。(→ 129 ページ「SLOT SETUP 画面」)

④⑫ WORD THRU/OUT端子

BNC コネクタのワードクロック出力端子です。ワードクロック信号をスルー出力/出力します。スルー/ワード出力の切り換えは、SYNC CLOCK 画面で行います。(→ 36 ページ「SYNC CLOCK 画面」)

④⑬ WORD IN端子

BNC コネクタのワードクロック入力端子です。ワードクロック信号を入力します。
本機を他の機器のワードクロックと同期するとき、この端子にワードクロック信号を接続します。

④⑭ FOOTSWITCH端子

φ 6.3mm (1/4") TS フォンジャックタイプのフットスイッチ接続端子です。

フットスイッチに割り当てる機能の設定は、USER DEFINED CONTROL 画面の Foot Switch タブ画面で行います。(→ 74 ページ「Foot Switch タブ画面」)

- TS (Tip : HOT、Sleeve : GND)

④⑮ USB to PC端子

USB Type-B の USB ポートです。

USB ケーブル (Type-A - Type-B) を使って、パソコンと接続することができます。

注意

パソコンとの接続は、USB ハブを経由せずに直接接続してください。また、ケーブルが長すぎるとパソコンと正常に通信できなくなる恐れがあります。

④⑯ ETHERNET端子

イーサネット端子です。

ネットワーク接続し、主に専用アプリケーション「TASCAM Sonicview Control」から本機をリモートコントロールする目的で使用します。

ネットワークの設定は、Network Setup 画面で行います。(→ 136 ページ「Network Setup 画面」)

「TASCAM Sonicview Control」については、アプリケーションの取扱説明書をご参照ください。「TASCAM Sonicview Control」およびアプリケーションの取扱説明書は、TASCAM のウェブサイトからダウンロードすることができます。

Sonicview 16 / 16dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_16/support

Sonicview 24 / 24dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_24/support

④⑰ GPIO端子

D-sub 25 ピンのパラレルコントロール入出力端子です。

8 入力 / 8 出力の制御コマンドを送受信します。ピンアサインについては、15 ページ「GPIO 端子について」をご参照ください。
GPIO 入力端子に割り当てる機能の設定は、USER DEFINED CONTROL 画面の GPIO-IN タブ画面で行います。(→ 75 ページ「GPIO-IN タブ画面」)

GPIO 出力端子に割り当てる機能の設定は、USER DEFINED CONTROL 画面の GPIO-OUT タブ画面で行います。(→ 75 ページ「GPIO-OUT タブ画面」)

④⑧ MONITOR OUT L / R端子

XLRタイプのアナログ出力端子です。

MONITOR出力の各種設定は、TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面のMONITOR 1 / 2 タブ画面で行います。(→ 90 ページ「MONITOR出力の設定」)

- XLR (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)

④⑨ ST IN 1 / ST IN 2 端子

RCA ピンジャックタイプのアナログライン入力端子です。

RCA ケーブルを使用して CD プレイヤーなどを接続します。

⑤⑩ EXT DC IN端子 (Sonicview 16dp / 24dpのみ)

付属の AC アダプター (PS-P2450) を接続します。

付属アダプター以外の外部電源を使用する場合は、DC電源の電圧が 14V ~ 27V の範囲内であり、14V の場合は 6A 以上、27V の場合は 3A 以上の電流を供給できるものを使用してください。

⑤⑪ POWER スイッチ

電源のオン／オフを切り換えます。

⚠ 注意

電源を入れる前や切る前には、接続機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴覚障害などの原因となることがあります。

メモ

- 本機が動作中 (録音中、再生中、SD カードや USB メモリーにデータを書き込み中など) には電源を切らないでください。録音が正しく行われなかったり、録音したデータが破損したりする可能性があります。
- 電源を切る前にメニュー画面の Save Current Settings を実施することをお勧めします。(→ 138 ページ「カレント設定の保存」)

⑤⑫ AC IN端子

付属の電源コードを接続します。

GPIO端子について

リアパネルにある GPIO 端子は、外部機器から本機器の制御、本機器から外部機器の制御を行うためのパラレルコントロール端子です。GPIO 端子の機能の設定内容は、USER DEFINED CONTROLS 画面の GPIO-IN タブ画面 / GPIO-OUT タブ画面で変更することができます。(→ 54 ページ「USER DEFINED CONTROLS 画面」)

ピンアサインは、以下の通りです。

Pin No.	機能	IN / OUT
1	GND	—
2	GPIO IN 2	IN
3	GPIO IN 4	IN
4	GPIO IN 6	IN
5	GPIO IN 8	IN
6	NC	—
7	NC	—
8	NC	—
9	GPIO OUT 2	OUT
10	GPIO OUT 4	OUT
11	GPIO OUT 6	OUT
12	GPIO OUT 8	OUT
13	NC	—
14	GPIO IN 1	IN
15	GPIO IN 3	IN
16	GPIO IN 5	IN
17	GPIO IN 7	IN
18	NC	—
19	NC	—
20	GND	—
21	GPIO OUT 1	OUT
22	GPIO OUT 3	OUT
23	GPIO OUT 5	OUT
24	GPIO OUT 7	OUT
25	+5V	—

IN : コマンド入力用

- 内部回路で +5V にプルアップ
- 50msec 以上の LOW 信号の入力で動作

OUT : コマンド / タリー出力用

- 内部回路は、オープンコレクタ (出力インピーダンス : 10 Ω)

- 耐圧 20V、最大電流 35mA

+5V : 最大供給電流 50mA

第2章 各部の名称と働き

本機の基本操作

タッチスクリーン操作

タッチスクリーン上で操作したいものをタップ／スワイプして操作します。

特別なタッチスクリーン操作

押し続ける	+48Vボタンを押し続けると、ファンタム電源（+48V）のオン／オフを切り換えます。
タップする／押し続ける	TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面のMONITOR 1 / 2 タブ画面のDIMボタン、およびTALKBACKタブ画面のTALKBACKボタン、TARGETボタン、SELECTEDボタン、RETURN TALKBACK画面のSELECTEDボタンは、タップするとオン／オフを切り換え、押し続けると押している間だけオンになります。



LCD ノブ操作

LCD ノブを使用して、その上のタッチスクリーンに表示／選択されているパラメーターを操作します。
操作可能なLCD ノブは、対応するインジケーターが点灯します。

LCD ノブ操作の種類	説明
押さずに回す	1 クリックで 1 ステップずつ細かく 調節できます。
押しながら回す	パラメーターを端から端まで素早く 調節できます。

トップパネルのキー操作

トップパネルのキーを押して操作します。
以下は、特殊な操作方法のキーです。

キー	内容
TALKBACK キー	このキーを押してすぐに離すと、TALKBACKのオン／オフを切り換えます。 このキーを押し続けると押している間だけオンになります。
HOME キー + MENU キー	HOME キーと MENU キーを同時に 5 秒間押し続けると、LOCK SETUP画面に切り換えます。

メモ

本機ではパラメーターごとに下記のような統一したイメージカラーを持っており、色によってパラメーターの種類を判別しやすくなっています。

- GAIN/Level系：赤
- GATE系：黄緑
- EQ：青
- COMP系：緑
- FX：黄緑
- AUX モードバス：オレンジ
- GROUP モードバス：紫
- PAN：黄色
- FADER：水色

ホーム画面

本機のホーム画面は、レイヤーごとに複数あり、各レイヤーにアサインされたモジュールの名前、各種パラメーター、メーターなどを一覧表示します。

ホーム画面の表示は、LAYER KEYS 1-7 キーを押して切り換えます。

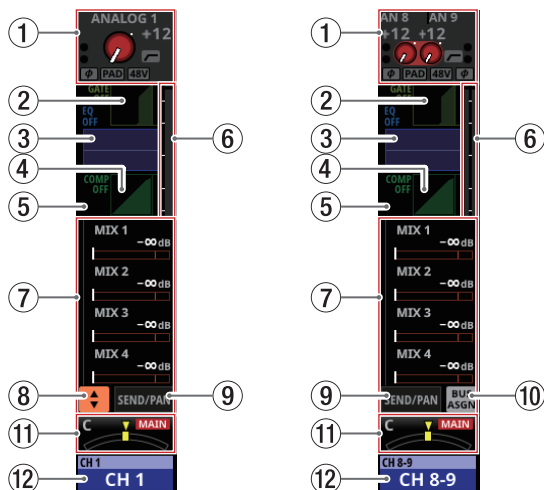
メモ

メニュー画面および各種設定画面を表示中にHOMEキーを押すと、ホーム画面に戻ります。

CH1-40 モジュールのホーム画面



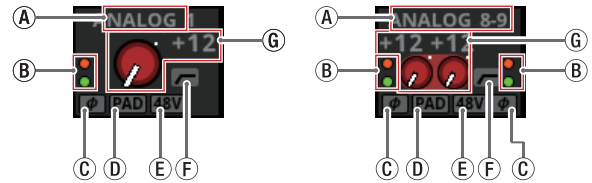
[ホーム画面・CH1-40 モジュール]



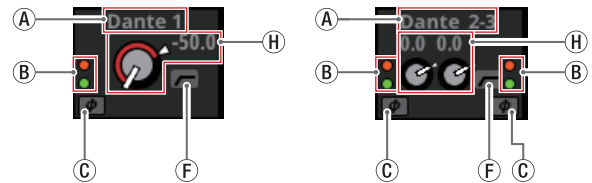
[ホーム画面・CH1-40 モジュール詳細]

① INPUT エリア

- 選択した入力ソースの入力の設定状態を表示します。(右側: ステレオモジュール)



[入力ソースが「ANALOG」または「内蔵 Dante 経由で接続された SB-16D」で、PORT LABEL の表示モードが「FIXED」のとき、または PORT LABEL の表示モードが「USER」で USER PORT LABEL が未定義の場合の INPUT エリア表示]



[入力ソースが「ANALOG」または「内蔵 Dante 経由で接続された SB-16D」以外で、PORT LABEL の表示モードが「FIXED」のとき、または PORT LABEL の表示モードが「USER」で USER PORT LABEL が未定義の場合の INPUT エリア表示]

- ① 入力ソース名を表示します。

- PORT LABEL の表示モードが「USER」に設定されている場合は、USER PORT LABEL (ユーザーが設定した端子名) を表示します。USER PORT LABEL が未定義の場合には、FIXED PORT LABEL を表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」)
- PORT LABEL の表示モードが「FIXED」に設定されている場合は、FIXED PORT LABEL (「ANALOG 1」や「Dante 1」のような端子ごとに決められた端子名) を表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」)
- マウント済み SB-16D がアサインされた Dante ポートを選択した場合は、「SB#[ID] ポート番号」と表示します。



また、バーチャルマウントされた SB-16D の場合は、ポート名左下に (V) マークを表示します。



- 選択した INPUT SOURCE が「INPUT B」の場合は、背景白で入力ソース名が表示されます。



第2章 各部の名称と働き

- ステレオモジュールのとき、左右で隣接していない入力ソースを選択している場合は、以下のような略称で左右に分割して入力ソースのFIXED PORT LABELを表示します。

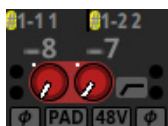


入力ソース名	入力ソース名の略称
ANALOG	AN
Dante	DA
SLOT 1	S1
USB	US
ST IN 1	ST1
PLAYER	PL

- ステレオモジュールのとき、マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、「#[ID]ポート番号」と表示します。



また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、「#」の背景を黄色で表示します。



- ⑧ 入力レベルに応じてインジケータが以下の色でハイライト表示になります。また、ステレオモジュールのとき、2つのモジュールのインジケータを左右に分けて表示します。

赤：-3dBFS、緑：-40dBFS

- ⑨ 入力信号の位相（フェーズ）の設定状態を表示します。また、ステレオモジュールのとき、2つのモジュールの位相（フェーズ）の設定状態を左右に分けて表示します。

	正相（ノーマル）
	逆相（リバース）

- ⑩ 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、-20dBのパッドの設定状態を表示します。オンのとき、アイコンがハイライト表示になります。

ステレオモジュールで入力ソースがL/Rチャンネルともに「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」の場合は、L/Rチャンネルで設定が異なるときはボタンの左右で色が違う状態になります。



- ⑪ 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、ファンタム電源（+48V）の設定状態を表示します。オンのとき、アイコンがハイライト表示になります。

ステレオモジュールで入力ソースがL/Rチャンネルともに「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」の場合は、L/Rチャンネルで設定が異なるときはボタンの左右で色が違う状態になります。



- ⑫ HPFの設定状態を表示します。オンのとき、アイコンがハイライト表示になります。

- ⑬ 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、Analog GAINノブが表示され、本機またはSB-16DのMIC/LINE入力端子からの入力レベル値を表示します。また、ステレオモジュールのとき、2つのモジュールのノブ表示と入力レベル値を表示します。

入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合は、黒いノブで表示されて操作できません。



- ⑭ 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」以外のとき、D.TRIMノブが表示され、デジタルトリム値を表示します。また、ステレオモジュールのとき、2つのモジュールのノブ表示とデジタルトリム値を表示します。

- この部分をタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中は、対応するLCDノブを使って、表示中のパラメータを調節することができます。

- 選択枠を表示中にこの部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (INPUT) 画面に切り換わります。（→ 186 ページ「MODULE (INPUT) 画面」）

② GATE / EXPANDER / DE-ESSER エリア

- ダイナミクスエフェクトの特性グラフとゲインリダクションメータを表示します。

- この部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (GATE / EXPANDER / DE-ESSER) 画面に切り換わります。（→ 194 ページ「MODULE (GATE / EXPANDER / DE-ESSER) 画面」）

③ HPF / EQ エリア

- HPFとEQの周波数特性グラフを表示します。

- この部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (EQ) 画面に切り換わります。（→ 196 ページ「MODULE (EQ) 画面」）

④ COMP / DUCKER エリア

- ダイナミクスエフェクトの特性グラフとゲインリダクションメータを表示します。

- この部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (COMP / DUCKER) 画面に切り換わります。（→ 200 ページ「MODULE (COMP / DUCKER) 画面」）

⑤ INSERTマーク表示

CH1-40 モジュールのINSERTボタンがオンのとき、**I** マークを表示します。

⑥ レベルメーター

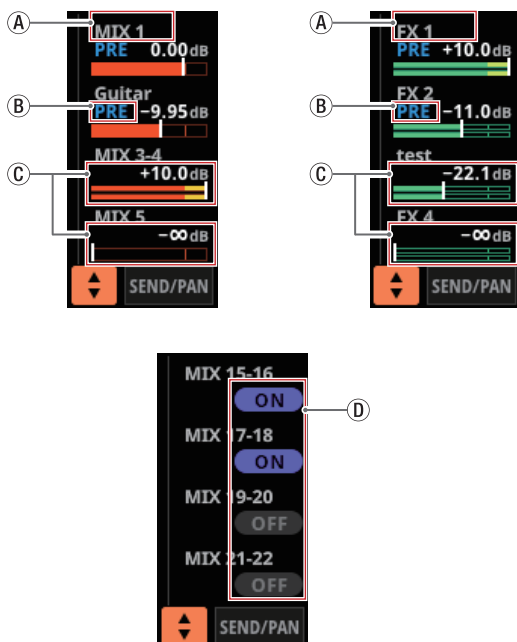
設定されている Metering Point の信号レベルを表示します。(→ 46 ページ「METERING POINT タブ画面」、→ 170 ページ「MODULE (OVERVIEW) 画面」)

メモ

- 選択したモジュールがステレオモジュールのとき、レベルメーターはステレオ表示になります。
- 各レベルメーターの最上部は、オーバーロードインジケータです。信号レベルが -0.00026dBFS (16bit フルスケール値) 以上のときに赤くハイライト表示します。
- レベルのオーバーロードが発生すると、バーメーター全体が赤くなります。
- レベルメーター下端の -60dBFS 以下のエリアは、 -70dBFS 以上で点灯します。

⑦ SEND エリア

- MIX1-22 バスおよび FX1-4 バスへの SEND の設定状態を 4 つずつ表示します。また、Audio Follow Video 機能のパラメーターも表示します。



- ① MIX1-22 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールの MODULE LABEL Main で設定した MODULE LABEL を表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」)

MODULE LABEL Main の表示モードが「USER」に設定されている場合に、該当モジュールの USER MODULE LABEL が未定義の場合は、「MIX 1」や「FX 1」のような FIXED MODULE LABEL を表示します。

- ② MIX1-22 バスおよび FX1-4 バスへの PRE / POST の設定状態を表示します。

表示なし	POST 設定
PRE	PRE 設定

- ③ AUX モードの MIX1-22 バスおよび FX1-4 バスへのアサイン状態および SEND レベルを表示します。

MIX1-22 バス	オレンジ色にハイライト表示
FX1-4 バス	緑色にハイライト表示

アサイン状態がオフのときには、グレースアウト表示になります。

ステレオリンクされた MIX バスや FX バスの場合は、SEND レベルが 2 本のバーで表示されます。

- ④ GROUP モードの MIX1-22 バスは、ON 時に紫色でハイライト表示する角丸ボタンを表示します。ホーム画面では表示のみで、ON / OFF の切り換え操作はできません。

- SEND レベルをタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中に、対応する LCD ノブを使って、表示中の SEND レベルを調節することができます。
- 選択枠を表示中にこの部分をタップすると、選択したモジュールの MODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。(→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」)
- HOME キーを押しながら SEND レベルをタップすると、タップしたバスの SEND レベルを「0dB」に設定します。(→ 334 ページ「第 16 章 ショートカット操作の一覧表」)

第2章 各部の名称と働き

⑧ ④ ボタン

このボタンをタップすると、SENDエリアに表示するパラメーターの選択ウィンドウを表示します。



パラメーター選択ボタン

- パラメーター選択ボタンをタップすると、選択されたパラメーター群をSENDエリアに表示します。
- 選択ウィンドウ左上の ✕ ボタンをタップすると、ウィンドウを閉じます。
- ④ ボタンがオフ (✕) のとき、パラメーター選択ボタンをタップすると自動的にこのウィンドウを閉じます。
- ④ ボタンがオン (④) のとき、パラメーター選択ボタンをタップしてもこのウィンドウを閉じずに表示を維持します。
- AFVボタンをタップすると、SENDエリアにAudio Follow Video機能の代表的な4つのパラメーターを表示します。



① 選択モジュールのAudio Follow Video機能のON / OFFボタン

- このボタンをタップすると、選択したモジュールのAudio Follow Video機能のON / OFFが切り換わります。ONのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- AFV TRIGGER SOURCE SELECT画面で選択したAFV TRIGGER SOURCE名を表示します。

② WAIT

AFV ON イベントを受けてから、フェードを開始するまでの時間を調節します。

③ RISE

AFV ON イベントを受けたときの、フェード開始からON LEVELに到達するまでのフェード時間を調節します。

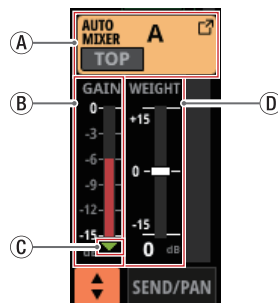
④ FALL

AFV OFF イベントを受けたときの、フェード開始からOFF LEVELに到達するまでのフェード時間を調節します。

- ② ~ ④をタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中に、対応するLCDノブを使って、表示中のパラメーターを調節することができます。
- 選択枠を表示中にこの部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (Audio Follow Video) 画面に切り換わります。(→ 210 ページ「MODULE (Audio Follow

Video) 画面」)

- AUTO MIXERボタンをタップすると、CH1-16 モジュールのSENDエリアにAUTO MIXER機能のパラメーターやメーターを表示します。このとき、CH1-16 モジュール以外のモジュールのSENDエリアは空欄になります。



① AUTO MIXER GROUP ボタン

- 対応するチャンネルモジュールが属するAUTO MIXERグループ (A/B/C/D) の名前を表示します。AUTO MIXER対象外のグループが選択されているとき、「---」を表示します。
- TOP PRIORITY対象として選択されたグループの場合、ボタン左下に「TOP」のアイコンが表示されます。TOP PRIORITY設定がONのとき、この「TOP」アイコンがハイライトになります。
- グループのAUTO MIXER機能がOFFのときには、暗い色で表示されます。
- このボタンをタップすると、AUTOMATIC MIXER画面に切り換わります。(→ 233 ページ「AUTO MIXER機能」)

② AUTO MIXER GAIN レベルメーター

AUTO MIXERにより自動調整されたGAINレベルを表示します。

③ AUTO MIXER GATE インジケーター

AUTO MIXER内の該当チャンネルのGATEが閉じているかどうかを示すインジケーターです。

AUTO MIXERへの入力レベルが-90dB以下でGATEが閉じているときに点灯、AUTO MIXERへの入力レベルが-84dB以上でGATEが開いているときに消灯します。

④ AUTO MIXER WEIGHT設定値インジケーター

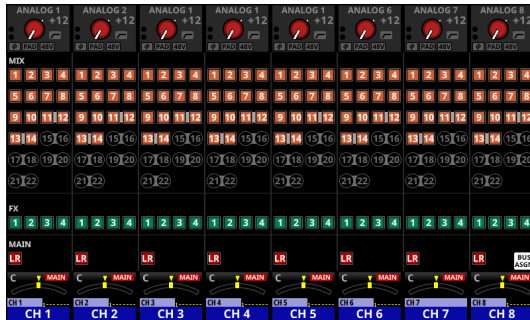
- AUTO MIXERのWEIGHT値を表示します。
- このエリアをタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中に、対応するLCDノブ (水色で点灯) を使って、表示中のWEIGHT値を調整することができます。

⑨ SEND/PAN ボタン





このボタンをタップすると、MODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。(→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」)

⑩ BUS ASGN ボタン ()




- このボタンをタップすると、通常表示から BUS ASSIGN 表示に切り換わります。




- MIX1-22 バス / FX1-4 バス / MAIN L/R バス への SEND の設定状態を下記のように表示します。(→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」)

アイコン	SEND ON/OFF	PRE/POST
	ON	POST
	ON	PRE
	OFF	POST
	OFF	PRE

- MIX1-22 モジュールの BUS モードの設定状態を下記のように表示します。(→ 53 ページ「BUS CONFIG タブ画面」)

アイコン	内容
	BUS モードが「AUX」の MIX1-22 モジュール
	BUS モードが「GROUP」の MIX1-22 モジュール
	MIX1-22 モジュールの Stereo Link 設定のオン

- BUS ASSIGN 表示を表示中に  ボタンをタップすると、通常表示に戻ります。

⑪ PAN エリア

- MAIN L/R バスに送り出す信号のパン／バランスの設定状態と MAIN L/R バスへのアサイン状態を表示します。
- この部分をタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中は、対応する LCD ノブを使って、送り出す信号のパン／バランスを調節することができます。
- HOME キーを押しながらこの部分をタップすると、タップしたパン／バランスの設定を中央 (C) に設定します。(→ 334 ページ「第 16 章 ショートカット操作の一覧表」)
- 選択枠を表示中にこの部分をタップすると、MODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。(→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」)

⑫ MODULE LABEL エリア

- 上段左側には、DISPLAY MODE タブ画面の MODULE LABEL Sub で設定した表示モードの MODULE LABEL を表示します。初期設定では、FIXED MODULE LABEL が表示されます。(→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」)
- 上段右側の上部に Mute Group へのアサイン状態、下部に DCA へのアサイン状態を表示します。アサインされている Mute Group 番号は赤い数字、アサインされている DCA 番号は黄色い数字で表示します。



Mute Group へのアサイン状態の変更は、227 ページ「Mute Group Assign タブ画面」または 170 ページ「MODULE (OVERVIEW) 画面」で行います。
DCA へのアサイン状態の変更は、226 ページ「DCA Assign タブ画面」または 170 ページ「MODULE (OVERVIEW) 画面」で行います。

- 下段には、DISPLAY MODE タブ画面の MODULE LABEL Main で設定した表示モードの MODULE LABEL を表示します。初期設定では、USER MODULE LABEL が表示されます。(→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」)
- MODULE LABEL エリアの背景色は、アサインされているモジュールの設定色になります。モジュール設定色の変更は、231 ページ「モジュール設定色の変更方法」で行います。
- このエリアをタップすると、MODULE (OVERVIEW) 画面に切り換わります。(→ 170 ページ「MODULE (OVERVIEW) 画面」)

メモ

- MODULE LABEL Main および MODULE LABEL Sub の表示モードは、以下の 3 種類です。

表示モード	内容
USER MODULE LABEL	ユーザーが設定したモジュール名
FIXED MODULE LABEL	「CH1」や「MIX1」のようなモジュールごとに決められたモジュール名
PORT LABEL	入出力端子名

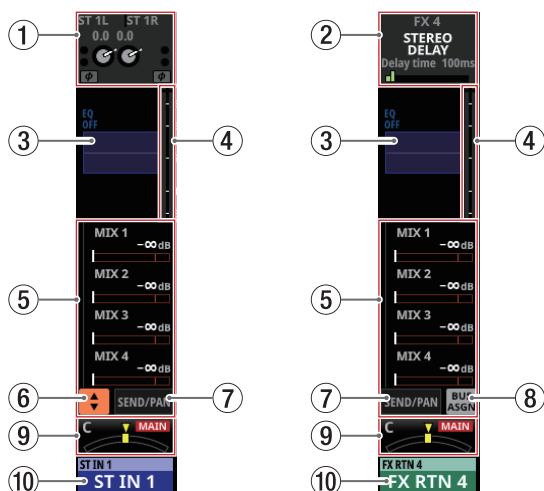
- USER MODULE LABEL の登録は、MODULE LABEL 画面で行います。(→ 230 ページ「USER MODULE LABEL の登録／編集方法」)

第2章 各部の名称と働き

ST IN1-2 モジュール／ FX RTN1-4 モジュールのホーム画面



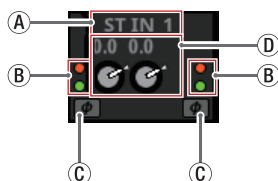
[ホーム画面・ST IN1-2 / FX RTN1-4 モジュール]



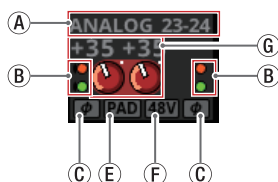
[ホーム画面・ST IN1-2 / FX RTN1-4 モジュール詳細]

① INPUTエリア

- 選択した入力ソースの入力の設定状態を表示します。



[入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」以外のときのINPUTエリア表示]



[入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のときのINPUTエリア表示]

④ 入力ソース名を表示します。

- PORT LABELの表示モードが「USER」に設定されている場合は、USER PORT LABEL（ユーザーが設定した端子名）を表示します。USER PORT LABELが未定義の場合には、FIXED PORT LABELを表示します。（→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」）
- PORT LABELの表示モードが「FIXED」に設定されている場合は、FIXED PORT LABEL（「ANALOG 1」や「Dante 1」のような端子ごとに決められた端子名）を表示します。（→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」）
- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、「SB#[ID] ポート番号」と表示します。



また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、ポート名左下にVマークを表示します。



- ステレオモジュールのとき、左右で隣接していない入力ソースを選択している場合は、以下のような略称で左右に分割して入力ソースのFIXED PORT LABELを表示します。



入力ソース名	入力ソース名の略称
ANALOG	AN
Dante	DA
SLOT 1	S1
USB	US
ST IN 1	ST1
PLAYER	PL

- ステレオモジュールのとき、マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、「#[ID] ポート番号」と表示します。





また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、「#」の背景を黄色で表示します。



- ⑧ 入力レベルに応じてインジケーターが以下の色でハイライト表示になります。

赤：-3dBFS、緑：-40dBFS

- ⑨ 入力信号の位相（フェーズ）の設定状態を表示します。

	正相（ノーマル）
	逆相（リバース）

- ⑩ 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」以外のとき、D.TRIMノブが表示され、デジタルトリム値を表示します。

- ⑪ 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、-20dBのパッドの設定状態を表示します。オンのとき、アイコンがハイライト表示になります。

ステレオモジュールで入力ソースがL/Rチャンネルともに「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」の場合は、Lチャンネルの設定を表示します。

- ⑫ 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、ファンタム電源（+48V）の設定状態を表示します。オンのとき、アイコンがハイライト表示になります。

ステレオモジュールで入力ソースがL/Rチャンネルともに「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」の場合は、Lチャンネルの設定を表示します。

- ⑬ 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、2つのAnalog GAINノブが表示され、本機またはSB-16DのMIC/LINE入力端子からの入力レベル値を2つ表示します。

入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合は、黒いノブで表示されて操作できません。



- この部分をタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中は、対応するLCDノブを使って、表示中のパラメーターを調節することができます。
- 選択枠を表示中にこの部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (INPUT) 画面に切り換わります。（→ 186 ページ「MODULE (INPUT) 画面」）

② FXエリア

- エフェクト名とメインのエフェクトパラメーターを表示します。
- この部分をタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中は、対応するLCDノブを使って、表示中のエフェクトパラメーターを調節することができます。
- 選択枠を表示中にこの部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (FX) 画面に切り換わります。（→ 191 ページ「MODULE (FX) 画面」）
- MODULE (FX) 画面のFX SEND MUTE ボタンがオンのとき、FX RTN1-4 モジュールのホーム画面でも赤くハイライト表示されます。



③ EQエリア

- EQの周波数特性グラフを表示します。
- この部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (EQ) 画面に切り換わります。（→ 196 ページ「MODULE (EQ) 画面」）

④ レベルメーター

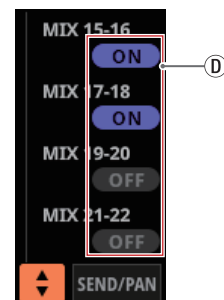
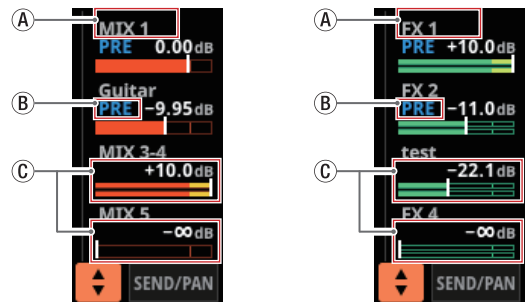
設定されている Metering Point の信号レベルを表示します。（→ 46 ページ「METERING POINT タブ画面」、→ 176 ページ「ST IN1-2 モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面」、→ 180 ページ「FX RTN1-4 モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面」）

メモ

- ST IN1-2 モジュール／FX RTN 1-4 モジュールはステレオモジュールのため、レベルメーターはステレオ表示になります。
- レベルメーターの最上部は、オーバーロードインジケーターです。信号レベルが-0.00026dBFS（16bitフルスケール値）以上のときに赤くハイライト表示します。
- レベルのオーバーロードが発生すると、バーメーター全体が赤くなります。
- レベルメーター下端の-60dBFS以下のエリアは、-70dBFS以上で点灯します。

⑤ SENDエリア

- MIX1-22 バスおよびFX1-4 バスへのSENDの設定状態を4つずつ表示します。また、Audio Follow Video機能のパラメーターも表示します。



- MIX1-22 モジュールおよびFX RTN1-4 モジュールのMODULE LABEL Mainで設定したMODULE LABELを表示します。（→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」）
MODULE LABEL Mainの表示モードが「USER」に設定されている場合に、該当モジュールのUSER MODULE LABELが未定義の場合は、「MIX 1」や「FX 1」のようなFIXED MODULE LABELを表示します。
- MIX1-22 バスおよびFX1-4 バスへのPRE / POSTの設定状態を表示します。

表示なし	POST設定
PRE	PRE設定

第2章 各部の名称と働き

- ④ AUXモードのMIX1-22バスおよびFX1-4バスへのアサイン状態およびSENDレベルを表示します。

MIX1-22 バス	オレンジ色にハイライト表示
FX1-4 バス	緑色にハイライト表示

アサイン状態がオフのときには、グレーアウト表示になります。

ステレオリンクされたMIXバスやFXバスの場合は、SENDレベルが2本のバーで表示されます。

- ⑤ GROUPモードのMIX1-22バスは、ON時に紫色でハイライト表示する角丸ボタンを表示します。ホーム画面では表示のみで、ON / OFFの切り換え操作はできません。

※ FX RTNモジュールのFX1-4 エリアには、⑧ / ⑨ / ⑩は表示されません。



- SENDレベルをタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中に、対応するLCDノブを使って、表示中のSENDレベルを調節することができます。
- HOMEキーを押しながらSENDレベルをタップすると、タップしたバスのSENDレベルを「0dB」に設定します。(→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)

⑥ ボタン

このボタンをタップすると、SENDエリアに表示するパラメーターの選択ウィンドウを表示します。



パラメーター選択ボタン

- パラメーター選択ボタンをタップすると、選択されたパラメーター群をSENDエリアに表示します。
- 選択ウィンドウ左上の✕ボタンをタップすると、ウィンドウを閉じます。
- ✕ボタンがオフ(✕)のとき、パラメーター選択ボタンをタップすると自動的にこのウィンドウを閉じます。
- ✕ボタンがオン(☑)のとき、パラメーター選択ボタンをタップしてもこのウィンドウを閉じずに表示を維持します。

- AFVボタンをタップすると、SENDエリアにAudio Follow Video機能の代表的な4つのパラメーターを表示します。



- ⑦ 選択モジュールのAudio Follow Video機能のON / OFFボタン

- このボタンをタップすると、選択したモジュールのAudio Follow Video機能のON / OFFが切り換わります。ONのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- AFV TRIGGER SOURCE SELECT画面で選択したAFV TRIGGER SOURCE名を表示します。

⑧ WAIT

AFV ONイベントを受けてから、フェードを開始するまでの時間を調節します。

⑨ RISE

AFV ONイベントを受けたときの、フェード開始からON LEVELに到達するまでのフェード時間を調節します。

⑩ FALL

AFV OFFイベントを受けたときの、フェード開始からOFF LEVELに到達するまでのフェード時間を調節します。

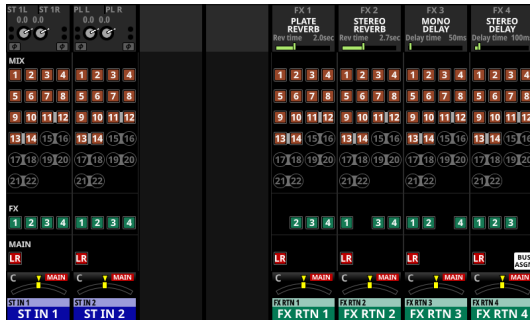
- ⑧ ~ ⑩をタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中に、対応するLCDノブを使って、表示中のパラメーターを調節することができます。
- 選択枠を表示中にこの部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (Audio Follow Video) 画面に切り換わります。(→ 210 ページ「MODULE (Audio Follow Video) 画面」)
- AUTO MIXERボタンをタップすると、CH1-16モジュールのSENDエリアにAUTO MIXER機能のパラメーターやメーターを表示します。このとき、CH1-16モジュール以外のモジュールのSENDエリアは空欄になります。

⑦ SEND/PANボタン





このボタンをタップすると、MODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。(→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」)

⑧ BUS ASGN ボタン ()




- このボタンをタップすると、通常表示からBUS ASSIGN表示に切り換わります。




- MIX1-22バス／FX1-4バス／MAIN L/RバスへのSENDの設定状態を下記のように表示します。(→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」)

アイコン	SEND ON/OFF	PRE/POST
	ON	POST
	ON	PRE
	OFF	POST
	OFF	PRE

- MIX1-22 モジュールのBUSモードの設定状態を下記のように表示します。(→ 53 ページ「BUS CONFIG タブ画面」)

アイコン	内容
	ジュール
	BUSモードが「GROUP」のMIX1-22 モジュール
	MIX1-22 モジュールのStereo Link設定のオン

- BUS ASSIGN表示を表示中に  ボタンをタップすると、通常表示に戻ります。

⑨ PAN エリア

- MAIN L/Rバスに送り出す信号のパン／バランスの設定状態とMAIN L/Rバスへのアサイン状態を表示します。
- この部分をタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中は、対応するLCDノブを使って、送り出す信号のパン／バランスを調節することができます。
- HOMEキーを押しながらこの部分をタップすると、タップしたパン／バランスの設定を中央 (C) に設定します。(→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)
- 選択枠を表示中にこの部分をタップすると、MODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。(→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」)

⑩ MODULE LABEL エリア

- 上段左側には、DISPLAY MODE タブ画面のMODULE LABEL Subで設定した表示モードのMODULE LABELを表示します。初期設定では、FIXED MODULE LABELが表示されます。(→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」)
- 上段右側の上部にMute Groupへのアサイン状態、下部にDCAへのアサイン状態を表示します。アサインされているMute Group番号は赤い数字、アサインされているDCA番号は黄色い数字で表示します。



Mute Groupへのアサイン状態の変更は、227 ページ「Mute Group Assign タブ画面」または170 ページ「MODULE (OVERVIEW) 画面」で行います。

DCAへのアサイン状態の変更は、226 ページ「DCA Assign タブ画面」または170 ページ「MODULE (OVERVIEW) 画面」で行います。

- 下段には、DISPLAY MODE タブ画面のMODULE LABEL Mainで設定した表示モードのMODULE LABELを表示します。初期設定では、USER MODULE LABELが表示されます。(→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」)
- MODULE LABELエリアの背景色は、アサインされているモジュールの設定色になります。モジュール設定色の変更は、231 ページ「モジュール設定色の変更方法」で行います。
- このエリアをタップすると、MODULE (OVERVIEW) 画面に切り換わります。(→ 176 ページ「ST IN1-2 モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面」)

メモ

- MODULE LABEL MainおよびMODULE LABEL Subの表示モードは、以下の3種類です。

表示モード	内容
USER MODULE LABEL	ユーザーが設定したモジュール名
FIXED MODULE LABEL	「CH1」や「MIX1」のようなモジュールごとに決められたモジュール名
PORT LABEL	入出力端子名

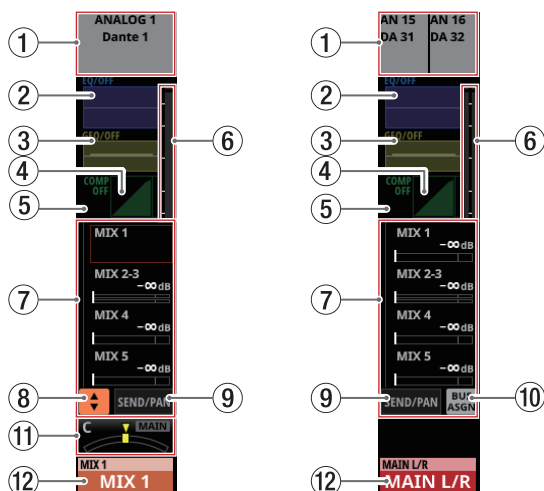
- USER MODULE LABELの登録は、MODULE LABEL画面で行います。(→ 230 ページ「USER MODULE LABELの登録／編集方法」)

第2章 各部の名称と働き

MIX1-22 モジュール／ MAIN L/R マスターモジュールのホーム画面



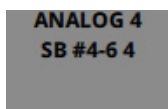
[ホーム画面・MIX1-22 モジュール／ MAIN L/R マスターモジュール]



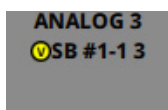
[ホーム画面・MIX1-22 モジュール／ MAIN L/R マスターモジュール詳細]

① OUTPUT エリア

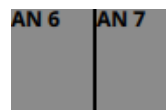
- PORT LABELの表示モードが「USER」に設定されている場合、USER PORT LABEL（ユーザーが設定した端子名）を表示します。USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。（→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」）
- PORT LABELの表示モードが「FIXED」に設定されている場合、FIXED PORT LABEL（「ANALOG 1」や「Dante 1」のような端子ごとに決められた端子名）を表示します。（→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」）
- 出力ポートのアサイン状態を表示します。
 - マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、「SB#[ID] ポート番号」と表示します。



また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、ポート名左にVマークを表示します。

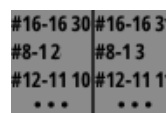


- ステレオモジュールのとき、以下のような略称で左右に分割して出力ポートのFIXED PORT LABELを表示します。

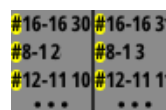


出力ポート名	出力ポート名の略称
ANALOG	AN
RECORDER	RE
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB	US

- ステレオモジュールのとき、マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、「#[ID] ポート番号」と表示します。



また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、「#」の背景を黄色で表示します。



- この部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (OUTPUT) 画面に切り換わります。（→ 207 ページ「MODULE (OUTPUT) 画面」）

② EQ エリア

- EQの周波数特性グラフを表示します。
- この部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (EQ) 画面に切り換わります。（→ 196 ページ「MODULE (EQ) 画面」）

③ GEQ エリア

- GEQの周波数特性グラフを表示します。
- この部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (GEQ) 画面に切り換わります。（→ 199 ページ「MODULE (GEQ) 画面」）

④ COMP / DUCKER エリア

- ダイナミクスエフェクトの特性グラフとゲインリダクションメーターを表示します。
- この部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (COMP / DUCKER) 画面に切り換わります。（→ 200 ページ「MODULE (COMP / DUCKER) 画面」）

⑤ INSERT マーク表示

MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/RマスターモジュールのINSERTボタンがオンのとき、Iマークを表示します。

⑥ レベルメーター

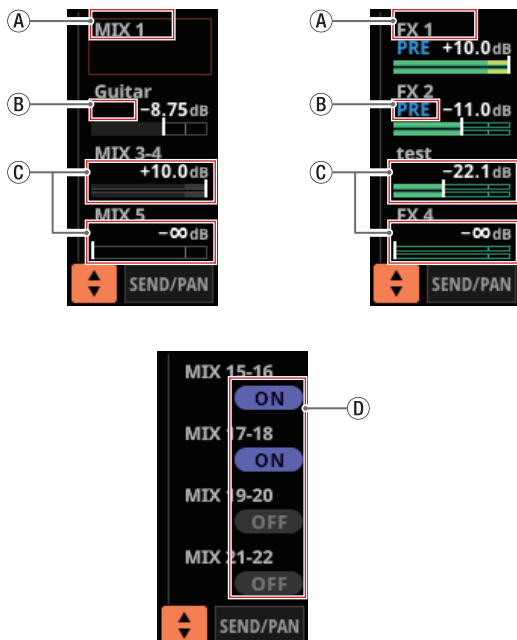
設定されている Metering Point の信号レベルを表示します。
(→ 46 ページ「METERING POINT タブ 画面」、→ 182 ページ「MIX1-22 モジュール / MAIN L/R マスターモジュールの MODULE (OVERVIEW) 画面」)

メモ

- 選択したモジュールがステレオモジュールのとき、レベルメーターはステレオ表示になります。
- 各レベルメーターの最上部は、オーバーロードインジケータです。信号レベルが -0.00026dBFS (16bit フルスケール値) 以上のときに赤くハイライト表示します。
- レベルのオーバーロードが発生すると、バーメーター全体が赤くなります。
- レベルメーター下端の -60dBFS 以下のエリアは、 -70dBFS 以上で点灯します。

⑦ SEND エリア

- MIX1-22 バスおよび FX1-4 バスへの SEND の設定状態を 4 つずつ表示します。また、Audio Follow Video 機能のパラメーターも表示します。



- ④ MIX1-22 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールの MODULE LABEL Main で設定した MODULE LABEL を表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ 画面」)

MODULE LABEL Main の表示モードが「USER」に設定されている場合に、該当モジュールの USER MODULE LABEL が未定義の場合は、「MIX 1」や「FX 1」のような FIXED MODULE LABEL を表示します。

- ⑤ MIX1-22 バスおよび FX1-4 バスへの PRE / POST の設定状態を表示します。

表示なし	POST 設定
PRE	PRE 設定

- ⑤ AUX モードの MIX1-22 バスおよび FX1-4 バスへのアサイン状態および SEND レベルを表示します。

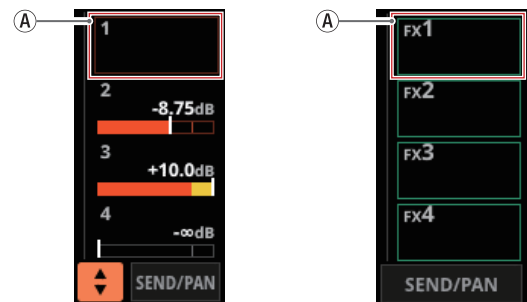
MIX1-22 バス	オレンジ色にハイライト表示
FX1-4 バス	緑色にハイライト表示

アサイン状態がオフのときには、グレイアウト表示になります。

ステレオリンクされた MIX バスや FX バスの場合は、SEND レベルが 2 本のバーで表示されます。

- ⑥ GROUP モードの MIX1-22 バスは、ON 時に紫色でハイライト表示する角丸ボタンを表示します。ホーム画面では表示のみで、ON / OFF の切り換え操作はできません。

※ 該当するモジュール自身のバスエリアには、③ / ④ / ⑤ は表示されません。また、MAIN L/R マスターモジュールの FX1-4 エリアには、③ / ④ / ⑤ は表示されません。

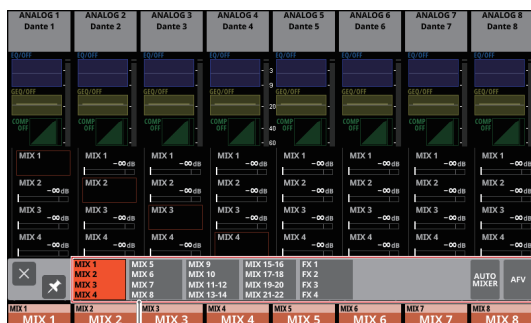


- SEND レベルをタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中に、対応する LCD ノブを使って、表示中の SEND レベルを調節することができます。
- HOME キーを押しながら SEND レベルをタップすると、タップしたバスの SEND レベルを「0dB」に設定します。(→ 334 ページ「第 16 章 ショートカット操作の一覧表」)






第2章 各部の名称と働き

⑧ ボタン

このボタンをタップすると、SENDエリアに表示するパラメータの選択ウィンドウを表示します。



パラメーター選択ボタン

- パラメーター選択ボタンをタップすると、選択されたパラメーター群をSENDエリアに表示します。
- 選択ウィンドウ左上の  ボタンをタップすると、ウィンドウを閉じます。
-  ボタンがオフ () のとき、パラメーター選択ボタンをタップすると自動的にこのウィンドウを閉じます。
-  ボタンがオン () のとき、パラメーター選択ボタンをタップしてもこのウィンドウを閉じずに表示を維持します。
- AFVボタンをタップすると、SENDエリアにAudio Follow Video機能の代表的な4つのパラメーターを表示します。



⑨ 選択モジュールのAudio Follow Video機能のON / OFF ボタン

- このボタンをタップすると、選択したモジュールのAudio Follow Video機能のON / OFFが切り換わります。ONのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- AFV TRIGGER SOURCE SELECT画面で選択したAFV TRIGGER SOURCE名を表示します。

⑩ WAIT

AFV ON イベントを受けてから、フェードを開始するまでの時間を調節します。

⑪ RISE

AFV ON イベントを受けたときの、フェード開始からON LEVELに到達するまでのフェード時間を調節します。

⑫ FALL

AFV OFF イベントを受けたときの、フェード開始からOFF LEVELに到達するまでのフェード時間を調節します。

- ⑩ ~ ⑫ をタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中に、対応するLCDノブを使って、表示中のパラメーターを調節することができます。
- 選択枠を表示中にこの部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (Audio Follow Video) 画面に切り換わります。(→ 210 ページ「MODULE (Audio Follow

Video) 画面」)

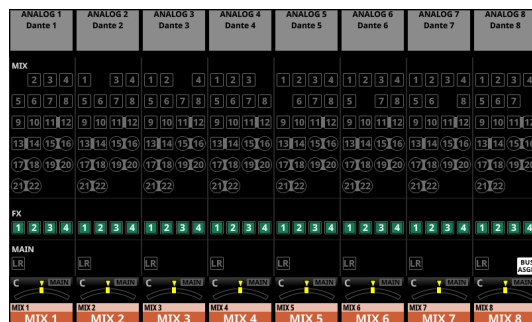
- AUTO MIXERボタンをタップすると、CH1-16 モジュールのSENDエリアにAUTO MIXER機能のパラメーターやメーターを表示します。このとき、CH1-16 モジュール以外のモジュールのSENDエリアは空欄になります。

⑨ SEND/PAN ボタン





このボタンをタップすると、MODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。(→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」)

⑩ BUS ASGN ボタン ()




- このボタンをタップすると、通常表示からBUS ASSIGN表示に切り換わります。




- MIX1-22 バス / FX1-4 バス / MAIN L/RバスへのSENDの設定状態を下記のように表示します。(→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」)

アイコン	SEND ON/OFF	PRE/POST
	ON	POST
	ON	PRE
	OFF	POST
	OFF	PRE

- MIX1-22 モジュールのBUSモードの設定状態を下記のように表示します。(→ 53 ページ「BUS CONFIGタブ画面」)

アイコン	内容
	BUSモードが「AUX」のMIX1-22 モジュール
	BUSモードが「GROUP」のMIX1-22 モジュール
	MIX1-22 モジュールのStereo Link設定のオン

- BUS ASSIGN表示を表示中に  ボタンをタップすると、通常表示に戻ります。

⑪ PANエリア (MIX1-22 モジュールのみ)

- MAIN L/Rバスに送り出す信号のパン／バランスの設定状態とMAIN L/Rバスへのアサイン状態を表示します。
- この部分をタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中は、対応するLCDノブを使って、送り出す信号の定位／バランスを調節することができます。
- HOMEキーを押しながらこの部分をタップすると、タップしたパン／バランスの設定を中央 (C) に設定します。(→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)
- 選択枠を表示中にこの部分をタップすると、MODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。(→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」)

⑫ MODULE LABELエリア

- 上段左側には、DISPLAY MODEタブ画面のMODULE LABEL Subで設定した表示モードのMODULE LABELを表示します。初期設定では、FIXED MODULE LABELが表示されます。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- 上段右側の上部にMute Groupへのアサイン状態、下部にDCAへのアサイン状態を表示します。アサインされているMute Group番号は赤い数字、アサインされているDCA番号は黄色い数字で表示します。



Mute Groupへのアサイン状態の変更は、227 ページ「Mute Group Assignタブ画面」または170 ページ「MODULE (OVERVIEW) 画面」で行います。

DCAへのアサイン状態の変更は、226 ページ「DCA Assignタブ画面」または170 ページ「MODULE (OVERVIEW) 画面」で行います。

- 下段には、DISPLAY MODEタブ画面のMODULE LABEL Mainで設定した表示モードのMODULE LABELを表示します。初期設定では、USER MODULE LABELが表示されます。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- MODULE LABELエリアの背景色は、アサインされているモジュールの設定色になります。モジュール設定色の変更は、231 ページ「モジュール設定色の変更方法」で行います。
- このエリアをタップすると、MODULE (OVERVIEW) 画面に切り換わります。(→ 182 ページ「MIX1-22 モジュール／MAIN L/R マスターモジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面」)

メモ

- MODULE LABEL MainおよびMODULE LABEL Subの表示モードは、以下の3種類です。

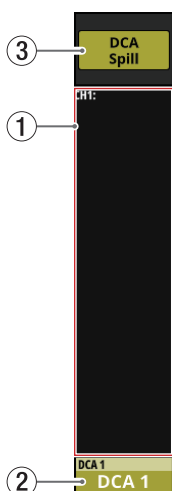
表示モード	内容
USER MODULE LABEL	ユーザーが設定したモジュール名
FIXED MODULE LABEL	「CH1」や「MIX1」のようなモジュールごとに決められたモジュール名
PORT LABEL	入出力端子名

- USER MODULE LABELの登録は、MODULE LABEL画面で行います。(→ 230 ページ「USER MODULE LABELの登録／編集方法」)

DCAモジュールのホーム画面



[ホーム画面・DCAモジュール]



[ホーム画面・DCAモジュール詳細]

① DCAアサイン表示エリア

- 対象のDCAにアサインされているモジュールのFIXED MODULE LABELとUSER MODULE LABELを表示します。
- この部分をタップするとDCA/Mute Group SETUP画面のDCA Assignタブ画面に切り換わります。(→ 226 ページ「DCA Assignタブ画面」)

② MODULE LABELエリア

- 上段左側には、DISPLAY MODEタブ画面のMODULE LABEL Subで設定した表示モードのMODULE LABELを表示します。初期設定では、FIXED MODULE LABELが表示されます。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- 上段右側の上部にMute Groupへのアサイン状態、下部にDCAへのアサイン状態を表示します。アサインされているMute Group番号は赤い数字、アサインされているDCA番号は黄色い数字で表示します。



Mute Groupへのアサイン状態の変更は、227 ページ「Mute Group Assignタブ画面」で行います。

DCAへのアサイン状態の変更は、226 ページ「DCA Assignタブ画面」で行います。

- 下段には、DISPLAY MODEタブ画面のMODULE LABEL Mainで設定した表示モードのMODULE LABELを表示します。初期設定では、USER MODULE LABELが表示されます。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- MODULE LABELエリアの背景色は、アサインされているモジュールの設定色になります。モジュール設定色の変更は、231 ページ「モジュール設定色の変更方法」で行います。
- このエリアをタップすると、USER MODULE LABELおよびモジュール設定色を変更するMODULE LABEL画面に切り換わります。(→ 229 ページ「MODULE LABEL画面」)

メモ

- MODULE LABEL MainおよびMODULE LABEL Subの表示モードは、以下の3種類です。

表示モード	内容
USER MODULE LABEL	ユーザーが設定したモジュール名
FIXED MODULE LABEL	「CH1」や「MIX1」のようなモジュールごとに決められたモジュール名
PORT LABEL	入出力端子名

- USER MODULE LABELの登録は、MODULE LABEL画面で行います。(→ 230 ページ「USER MODULE LABELの登録／編集方法」)

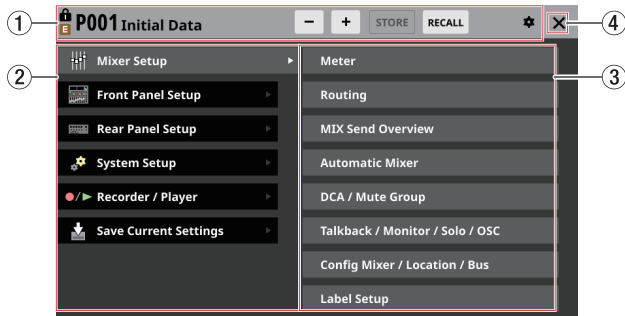
③ DCA Spillボタン

対象のDCAにモジュールがアサインされているとき、このボタンが表示されます。

このボタンをタップすると、DCAスパイルモード表示に変わります。(→ 225 ページ「DCAスパイルモード」)

メニュー画面

各種設定画面の呼び出しやSnapshot機能の操作を行う画面です。MENUキーを押すと、右端のタッチスクリーンに表示されます。



① Snapshot機能項目表示エリア

Snapshot機能に関連するアイテムを表示しています。Snapshot機能の操作については、240 ページ「Snapshot機能」をご参照ください。

② メニュー項目表示エリア

メニュー項目を表示します。
メニュー項目をタップすると、サブメニュー項目を表示します。

③ サブメニュー項目表示エリア

サブメニュー項目を表示します。サブメニュー項目が9項目以上ある場合は、サブメニュー項目表示エリアを上下にスワイプしてスクロールさせます。
サブメニュー項目をタップすると、各設定画面を表示します。

④ ✕ ボタン

このボタンをタップすると、メニュー画面を閉じます。

メモ

メニュー画面の「System Setup」メニュー項目と「Version Information」サブメニュー項目に ⓘ マークが表示されることがあります。

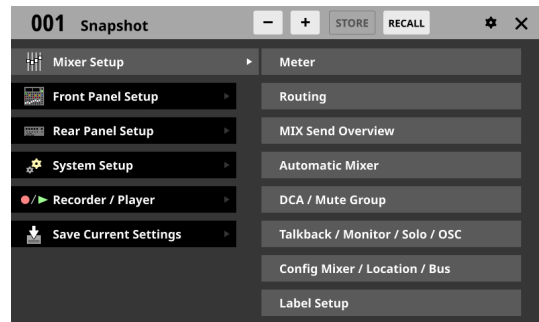
この場合、各デバイスやアプリケーション、または本機のアップデートが必要な場合があります。

Version Information画面をご確認ください。(→ 277 ページ「Version Information画面」)

メニュー画面の操作

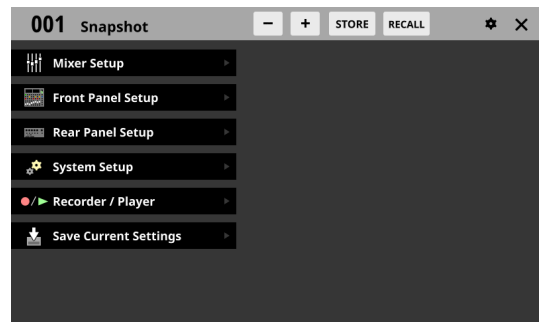
TALKBACK設定画面への切り換えを例に説明します。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面に切り換えます。

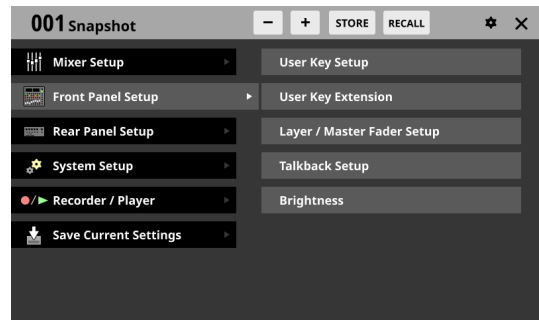


メモ

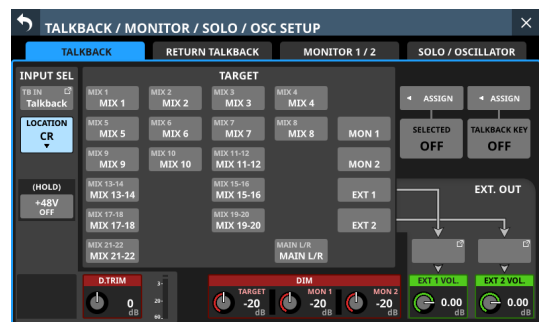
起動後はじめてメニュー画面を表示したときは、サブメニュー項目が表示されません。



2. メニュー項目表示エリアの「Front Panel Setup」をタップして、サブメニュー項目を表示します。



3. 「Talkback Setup」をタップして、TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面のTALKBACKタブ画面に切り換えます。



第2章 各部の名称と働き

メニューの構成

各メニュー項目の内訳は、以下の通りです。

メニュー項目	サブメニュー項目	機能	参照ページ
Mixer Setup	Meter	各種メーターの表示、メーター表示パラメーターの設定	→ 44 ページ
	Routing	入出力端子またはモジュールのルーティング設定	→ 159 ページ
	MIX Send Overview	MIX1-22 バス／ FX1-4 バス／ MAIN L/R バスへの SEND 設定の一覧表示／操作	→ 215 ページ
	Automatic Mixer	AUTO MIXER の設定	→ 233 ページ
	DCA / Mute Group	以下の設定 • DCA へのアサイン • Mute Group へのアサイン • Mute Group Master のオン／オフ	→ 226 ページ
	Talkback / Monitor / Solo / OSC	TALKBACK ／ RETURN TALKBACK ／ MONITOR 出力／ SOLO ／ 内蔵オシレーターの設定	→ 84 ページ
			→ 87 ページ
			→ 90 ページ
			→ 96 ページ
	Config Mixer / Location / Bus	以下の設定 • CH1-40 の Stereo Link 設定 • DIRECT OUT POINT 設定 • DELAY POINT 設定 • INSERT POINT の一括設定 • Location 設定 • BUS MODE 設定 • MIX 1-22 の Stereo Link 設定 • PAN LINK 設定	→ 50 ページ
	Label Setup	モジュールや入出力ポートのラベル設定	→ 132 ページ
Front Panel Setup	User Key Setup	18 個の USER KEYS への機能のアサイン	→ 74 ページ
	User Key Extension	拡張 USER KEY の機能のアサイン	→ 77 ページ
	Layer / Master Fader Setup	以下の設定 • 7 つの LAYER KEYS へのチャンネルセットやカスタムレイヤーのアサイン • カスタムレイヤーへのモジュール群のアサイン • Master フェーダーへのモジュールのアサイン	→ 80 ページ
	Talkback Setup	TALKBACK の設定	→ 84 ページ
	Brightness	各種表示器の輝度の設定	→ 39 ページ
Rear Panel Setup	Dante Setup	内蔵 Dante モジュールおよび内蔵 Dante 経由で接続された SB-16D の設定と状態表示	→ 98 ページ
	ST 2110 Setup	リアパネルの SLOT 1 または SLOT 2 に装着された IF-ST2110 (ST-2110 カード) の設定と状態表示 メモ 以下の場合は、サブメニュー項目がグレイアウト表示され、タップしても ST 2110 Setup 画面に切り換わりません。 • IF-ST2110 が未装着 • IF-ST2110 が初期化中	→ 324 ページ
	Slot Setup	SLOT 1 および SLOT 2 に装着した拡張カードの各種機能の設定	→ 129 ページ
	WORD OUT Mode Setup	WORD OUT 端子の出力モードの設定	→ 36 ページ
	Network Setup	ネットワークの設定	→ 136 ページ
	FOOT SW Setup	フットスイッチへの機能のアサイン	→ 74 ページ
	GPIO Input Setup	GPIO 入力端子への機能のアサイン	→ 75 ページ
	GPIO Output Setup	GPIO 出力端子への機能のアサイン	→ 75 ページ

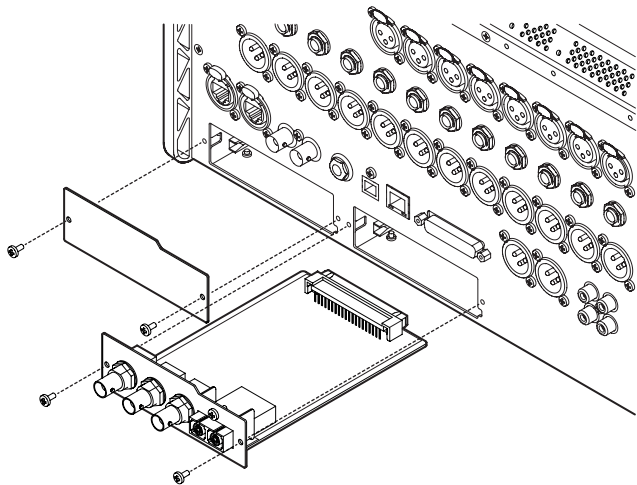
メニュー項目	サブメニュー項目	機能	参照ページ
System Setup	Information	本機の状態とエラー情報の表示	→ 266 ページ
	Sync Clock	以下の設定 <ul style="list-style-type: none"> • サンプル周波数 • マスタークロック • ワードクロック出力端子の出力モード 	→ 36 ページ
	Preferences	以下の設定 <ul style="list-style-type: none"> • USBキーボードタイプ設定 • SnapshotのSTORE / RECALL確認 • リファレンスレベル • 冷却ファンの動作モード／速度 • 各種表示器の輝度 • チャンネル画面のコントラスト 	→ 39 ページ
	Media Manage	メディア情報の表示とフォーマットの実行	→ 276 ページ
	All System Data	ミキサー全体のデータのSAVE / LOADやバックアップ／リストア	→ 260 ページ
	Clock Adjust	内蔵時計の日時の設定	→ 34 ページ
	Version Information	システムのバージョン情報の表示	→ 277 ページ
	Firmware Update	ファームウェアのアップデート	→ 278 ページ
	Recorder / Player	内蔵レコーダー／プレイヤーの操作	→ 280 ページ
Recorder / Player	Multi Track Recorder	リアパネルのSLOT 1 またはSLOT 2 に装着されたIF-MTR32 (マルチトラックレコーディングカード) の操作 <div>メモ</div> 以下の場合はサブメニュー項目がグレーアウト表示され、タップしてもMULTI TRACK RECORDER画面に切り換わりません。 <ul style="list-style-type: none"> • IF-MTR32 が未装着 • IF-MTR32 が初期化中 	→ 296 ページ
	Save Current Settings	現在のミキサー設定の内蔵メモリーへの保存 (電源を切る前に実施することをお勧めします)	→ 138 ページ

第3章 準備

別売の拡張カードを取り付ける

注意

別売の拡張カードを取り付けるまたは取り外す際は、あらかじめ電源コードをコンセント、または本体から抜いた状態で作業を行ってください。



1. ブランクパネルを止めている2本のネジを外し、パネルを外します（別のカードが取り付けられている場合は、そのカードを外します）。
2. 拡張カードをカードスロットに挿入します。拡張カードの端をカードスロット内側の白いガイドに合わせて確実に差し込んでください。カチッと音がして拡張カードのバックプレートが本機リアパネルと隙間がなくなるまで拡張カードを押してください。無理に押し込まないでください。うまく差し込めない場合は、いったん抜き出してからやり直してください。
3. 外した2本のネジで、拡張カードを固定します。
4. 本機の電源を入れて、メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「SLOT SETUP」画面で挿入した拡張カードを認識していることを確認します。（→ 129 ページ「SLOT SETUP画面」）「SLOT 1 (None)」のように表示されている場合は、拡張カードが正しく挿入されていないか、ネジがしっかり締められていない可能性があります。再度拡張カードを本機に確実に挿入してください。

電源をオンにする／オフにする

注意

- 本機の電源のオン／オフは、本機に接続しているモニターシステムのボリュームを絞った状態で行ってください。
- 電源のオン／オフ時にヘッドホンを装着しないでください。ノイズによっては、スピーカーや聴覚を損傷する恐れがあります。

電源を入れる前に

1. 本機の出力系のフェーダーやモニターアウトとヘッドホンのボリュームを最小にします。
2. 本機に接続している音源の出力レベル、アンプの入力レベルを最小にします。

電源をオンにする

1. 本機リアパネルのPOWERスイッチを使って本機の電源をオンにします。
本機が起動し、起動画面が表示されたあとホーム画面になります。
2. 接続した入力音源機器の電源をオンにします。
3. 最後にアンプの電源をオンにします。

注意

電源をオンにした後、装着したIF-ST2110（ST 2110 カード）で音声入出力ができるようになるまで2分30秒程度かかります。この時間は、IF-ST2110のネットワーク環境によって異なります。

電源をオフにする

電源をオフするときは、本機の出力系のフェーダーやモニターアウトとヘッドホンのボリュームを最小にしたあとに、上記と反対の順序でオフにします。
正しい順序で行わないと、クリックノイズなどで機器を破損する恐れがあります。

注意

本機が動作中（録音中、再生中、SDカードやUSBメモリーにデータを書き込み中、内蔵メモリーに設定を保存中など）は、電源を切る、または電源コードを抜かないでください。録音が正しく行われなかったり、録音したデータが破損したり、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴覚障害の原因になるなどの可能性があります。

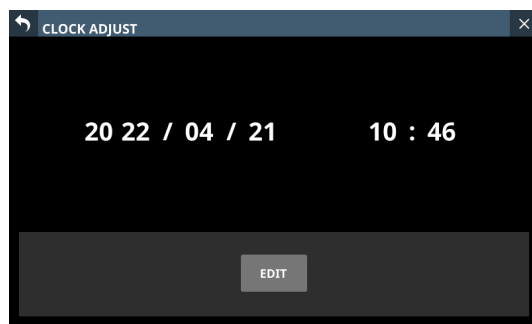
メモ

電源を切る前にメニュー画面のSave Current Settingsを実施することをお勧めします。（→ 138 ページ「カレント設定の保存」）

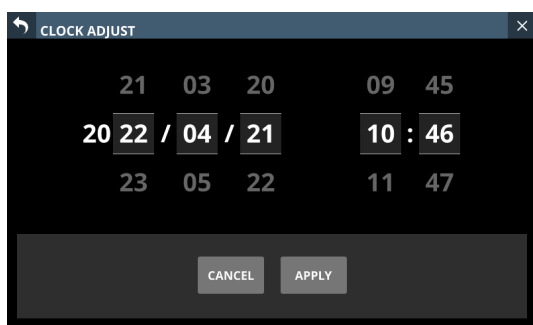
内蔵時計の日時を設定する

本機は、本体内の時計を基に、ファイル作成日時を記録します。また、各種LIBRARYの設定データやAll System Dataなどを保存する際のファイル名や、録音ファイル名にも、内蔵時計の日時情報を使用します。
そのため、正しい日時を設定しておくことをお勧めします。

1. メニュー画面 > System Setupメニュー > 「Clock Adjust」をタップしてCLOCK ADJUST画面を表示します。



2. EDIT ボタンをタップすると、この画面の設定モードに切り換わります。



3. 上下にスワイプして、値を変更します。
4. APPLY ボタンをタップすると、内蔵時計の日時の設定が終了します。

メモ

設定中に CANCEL ボタンをタップすると、設定モードを解除します。

SD カード / USB メモリーを装着する / 取り外す

電源がオン / オフどちらのときも SD カード / USB メモリーの装着 / 取り外しができます。(→ 6 ページ「SD カード / USB メモリーについて」)

注意

下記のような SD カード / USB メモリーアクセス中は、絶対に SD カード / USB メモリーを取り外さないでください。

録音が正しく行われなかったり、データが破損したり、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になるなどの可能性があります。また、ファームウェアをアップデート中に取り外した場合、本機が正常に起動 / 動作できなくなる可能性があります。

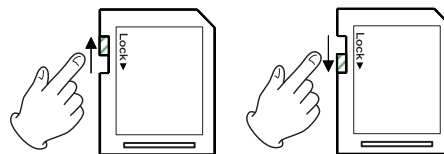
- 録音中 (SD カードのみ)
- 再生中
- Snapshot の IMPORT / EXPORT を実行中
- All System Data の BACKUP / RESTORE を実行中
- ファームウェアアップデートを実行中 (→ 278 ページ「ファームウェアアップデート手順」)
- BROWSE 画面で SD カード / USB メモリーにアクセス中

メモ

- SD カードは、トップパネルの SD カードスロットに SD カードのラベル面を右にして装着します。
- SD カードを取り出す際は、SD カードを軽く押し込むと上に出てきますので、SD カードを引き出して取り出します。

SD カードのライトプロテクトスイッチについて

SD カードには、ライトプロテクト (書き込み防止) スイッチが付いています。



ライトプロテクトスイッチを「LOCK」の方向へスライドすると書き込みができなくなります。録音や削除などを行う場合は、ライトプロテクトを解除してください。

また本機は、録音 / 再生フォルダーの設定情報をメディアに書き込みます。ライトプロテクトをされた SD カードには設定情報の書き込みなどができないため、再起動時に録音 / 再生フォルダーの設定を保持していないなどの影響が出ます。

SD カード / USB メモリーを使えるようにする

本機で SD カード / USB メモリーを使用する際は、必ず本機にてフォーマットを行ってください。(→ 276 ページ「Media Manage 画面」)

他の機器、パソコンなどでフォーマットした SD カード / USB メモリーを使用した場合は、動作に影響が出る場合があります。

注意

- フォーマットを行うと、SD カード / USB メモリー上のデータはすべて消去されます。
- 本機でフォーマットされた SD カードは、録音時の性能向上のために最適化されています。そのため、本機で使用する SD カードは本機でフォーマットを行ってください。他の機器、パソコンなどでフォーマットされた SD カードは、本機での録音時にエラーになる可能性があります。

本機で使用する SD カード / USB メモリー

本機にて動作が確認された SD カード / USB メモリーのリストが、TASCAM のウェブサイトに掲載されています。

Sonicview 16 / 16dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_16/support

Sonicview 24 / 24dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_24/support

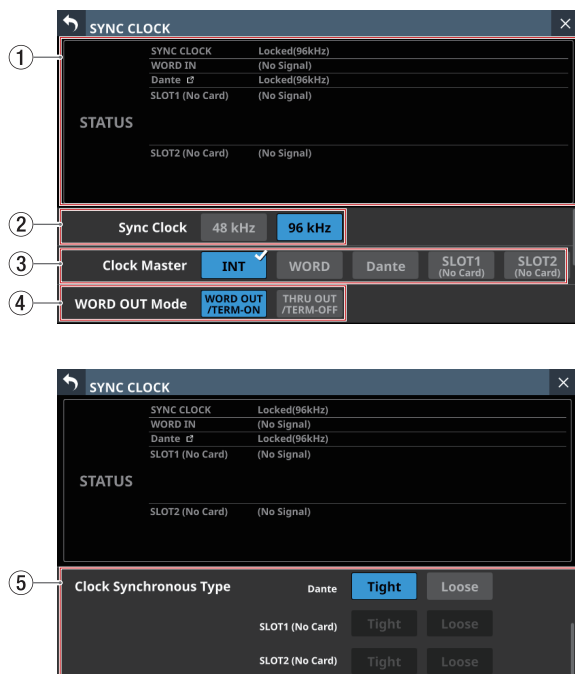
このリストに掲載されている SD カード / USB メモリーをご使用ください。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

SYNC CLOCK画面

この画面では、各オーディオクロックの状態表示、オーディオ同期設定およびワードクロック出力端子の出力モードの設定を行います。

この画面は、メニュー画面＞System Setupメニュー＞「Sync Clock」をタップして表示します。



① STATUS表示部

各オーディオクロックの状態を表示します。

表示	内容
SYNC CLOCK	マスタークロックと本機との同期状態 (Locked / Unlocked / Regained)、動作周波数 (96kHz / 48kHz / No Signal) を表示します。
WORD IN	WORD IN端子に入力されるWORD信号と本機との同期状態 (Locked / Unlocked / Regained)、動作周波数 (実測値 / No Signal) を表示します。
Dante	接続されているDanteシステムと本機との同期状態 (Locked / Unlocked / Regained)、動作周波数 (実測値 / No Signal) を表示します。🔍アイコンをタップすると、Dante Setup画面 Dante Settingsタブ画面に切り換わります。
SLOT1	SLOT 1 / SLOT 2 に装着した拡張カードの名称、本機との同期状態 (Locked / Unlocked / Regained)、動作周波数 (実測値 / No Signal) を表示します。
SLOT2	

メモ

IF-MTR32 (マルチトラックレコーディングカード) が装着されたSLOT1 またはSLOT2 には、動作周波数は表示しません。

② Sync Clock ボタン

デジタル入出力信号の同期クロック周波数を設定します。選択したボタンが水色のハイライト表示になります。

選択肢：48kHz、96kHz (初期値)

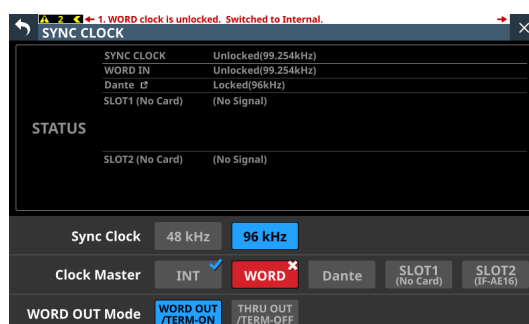
メモ

- 本機では、同期しているマスタークロックが48kHzの場合でも、内部は常に96kHzで動作します。
- 内蔵Danteの「Sampling rate」と本機の「Sync Clock」は、設定が違っていても同期できます。
- IF-DA64 (Danteカード) の「Sampling rate」が44.1k/88.2kHzの場合は同期できません。
- IF-DA64 (Danteカード) の「Sampling rate」が48k/96kHzの場合は、本機の「Sync Clock」と違っていても同期できます (IF-DA64 (Danteカード) の「Sampling rate」はDante controllerで設定してください)。
- Clock MasterがDanteでSampling rate設定とDanteのサンプリングレートが違う場合、SYNC CLOCKの動作周波数には以下の数値が表示されます。
 - 内蔵Danteの「Sampling rate」が「96kHz」、Sync Clockが48kHzの場合は、内蔵Danteの測定値を1/2した値
 - 内蔵Danteの「Sampling rate」が「48kHz」、Sync Clockが96kHzの場合は、内蔵Danteの測定値を2倍した値

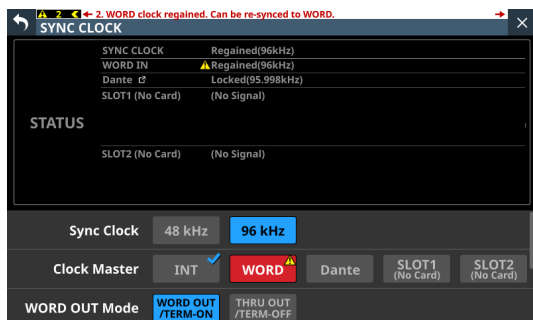
③ Clock Master ボタン

本機のオーディオ同期用のマスタークロックを設定します。(初期値：INT)

- 動作中のマスタークロックには、✓マークを表示します。
- 選択したマスタークロックがLock状態の場合、選択ボタンは水色のハイライト表示になります。
- 内蔵Danteの「Sampling rate」が「96kHz」のときに、Sync Clockが「48kHz」の場合は、Danteボタンの右上に「1/2」マークが表示されます。
- 内蔵Danteの「Sampling rate」が「48kHz」のときに、Sync Clockが「96kHz」の場合は、Danteボタンの右上に「x2」マークが表示されます。
- SLOT 1 / SLOT 2 に装着したIF-DA64 (Danteカード) の「Sampling rate」が「96kHz」のときに、Sync Clockが「48kHz」の場合は、該当SLOTボタンの右上に「1/2」マークが表示されます。
- SLOT 1 / SLOT 2 に装着したIF-DA64 (Danteカード) の「Sampling rate」が「48kHz」のときに、Sync Clockが「96kHz」の場合は、該当SLOTボタンの右上に「x2」マークが表示されます。
- 選択した外部クロックがUnlock状態の場合は、内部クロックで動作します。この際、動作クロックであるINTボタンに✓マークを表示し、Unlock状態の選択ボタンには✕マークを表示します。また、Unlock状態の選択ボタンは、赤いハイライト表示になります。



- 同期できなくなった選択外部クロックに再度同期できるようになると（Regain状態）、動作クロックであるINTボタンに✓マークを表示し、Regain状態の選択ボタンには⚠マークを表示します。⚠マークが表示され赤くハイライトしたボタンをタップすると、選択したマスタークロックへの切り換え確認メッセージが表示されます。



OKボタンをタップすると、選択した外部クロックとの同期動作に切り換えます。

④ WORD OUT Mode ボタン

リアパネルのWORD THRU/OUT端子の出力モードを設定します。選択したボタンが水色のハイライト表示になります。

選択肢	内容
WORD OUT/TERM-ON (初期値)	WORD THRU/OUT端子からの出力信号をWORD OUT信号に設定、WORD IN端子の終端抵抗（75 Ω）をオンに設定します。
THRU OUT/TERM-OFF	WORD THRU/OUT端子からの出力信号をWORD IN端子からのTHRU出力に設定、WORD IN端子の終端抵抗（75 Ω）をオフに設定します。

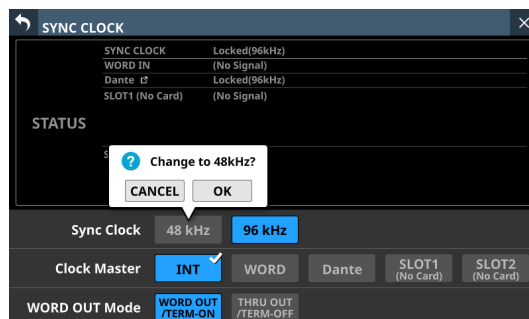
⑤ Clock Synchronous Type ボタン

- SYNC CLOCK画面下部を上にスワイプ操作することで表示されます。
- 本機とDante信号の同期状態（Lock／Unlock）判定の設定です。

ボタン	内容
Tight（初期値）	同期状態の判定を厳密に行います。
Loose	同期状態の判定を緩めに行います。

サンプリング周波数を設定する

1. メニュー画面>System Setupメニュー>「Sync Clock」をタップして、SYNC CLOCK画面を表示します。
2. 設定したいサンプリング周波数のボタンをタップします。確認メッセージが表示されます。



3. サンプリング周波数を切り換えるには、OKボタンをタップします。

注意

サンプリング周波数を切り換える際、音が数秒間MUTEされます。そのため、切り換えるタイミングには、ご注意ください。

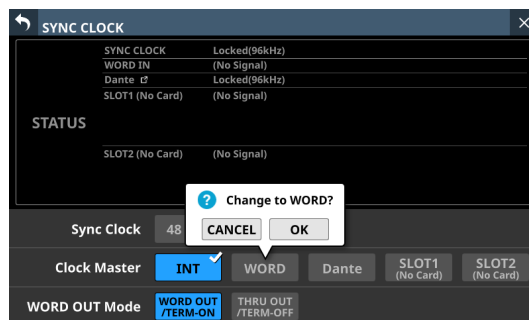
マスタークロックを設定する

本機のマスタークロックを設定します。

注意

複数のデジタルオーディオ機器を接続する場合、システム内のマスタークロックが、1つになるように構成してください。

1. メニュー画面>System Setupメニュー>「Sync Clock」をタップして、SYNC CLOCK画面を表示します。
2. マスタークロックに設定したいボタンをタップします。確認メッセージが表示されます。

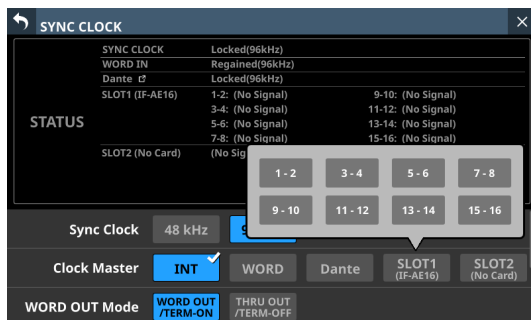


ボタン	内容
INT	本機の内部クロックを使用します。
WORD IN	WORD IN端子に入力されるワードクロックに同期します。
Dante	接続されているDanteシステムのクロックに同期します。
SLOTT1	SLOTT1で受信しているデジタル信号のクロックに同期します。
SLOTT2	SLOTT2で受信しているデジタル信号のクロックに同期します。

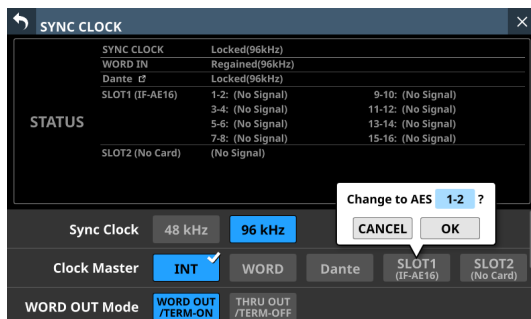
第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

メモ

IF-AE16 が装着された SLOT1 または SLOT2 のボタンをタップした場合、8 組の入力信号のどのペアをマスタークロックに設定するかを選択するウィンドウが表示されますので、マスタークロックに設定したい入力信号のボタンをタップします。



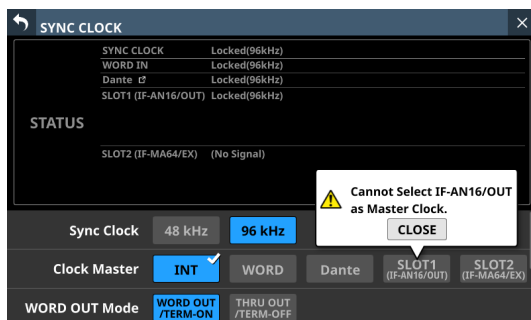
確認メッセージが表示されます。



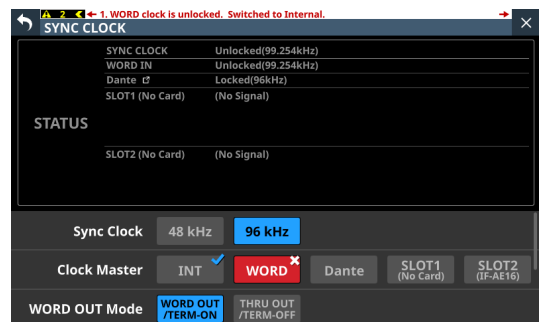
3. マスタークロックを切り換えるには、OK ボタンをタップします。

メモ

- SLOT 1 および SLOT 2 に IF-AN16/OUT、IF-MTR32 装着時、または拡張カード未装着時の場合に SLOT1 ボタンまたは SLOT2 ボタンをタップすると、以下のメッセージが表示され、マスタークロックに選択できません。



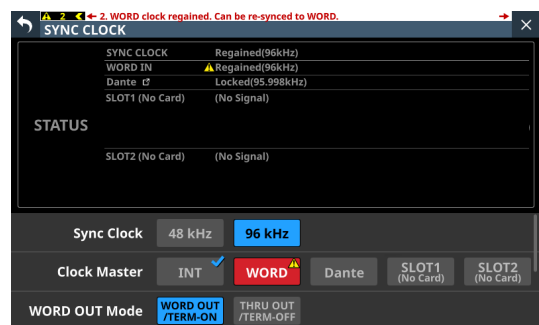
- 選択した外部クロックがUnlock状態の場合は、内部クロックで動作します。この際、動作クロックであるINTボタンに✓マークを表示し、Unlock状態の選択ボタンには✕マークを表示します。また、Unlock状態の選択ボタンは、赤いハイライト表示になります。



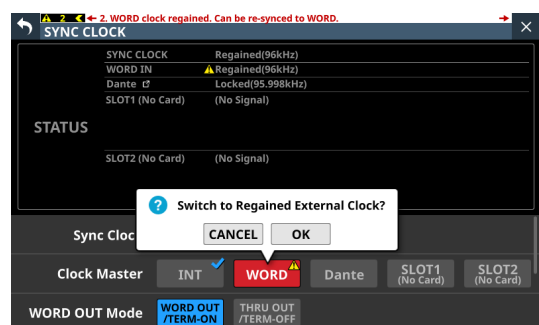
- 同期できなくなった選択外部マスタークロックに再度同期できるようになると、下記のようなエラーメッセージがすべてのタッチスクリーン上部に表示されます。

WORD clock regained. Can be re-synced to WORD.

このメッセージをタップすると、右端のタッチスクリーンが SYNC CLOCK画面に切り換わります。



- ▲ マークが表示され赤くハイライトしたボタンをタップすると、選択したマスタークロックへの切り換え確認メッセージが表示されます。



OK ボタンをタップすると、選択した外部クロックとの同期動作に切り換えます。

注意

マスタークロックを切り換える際、音声入出力にノイズが発生する可能性があります。

そのため、マスタークロックを切り換えるタイミングにはご注意ください。

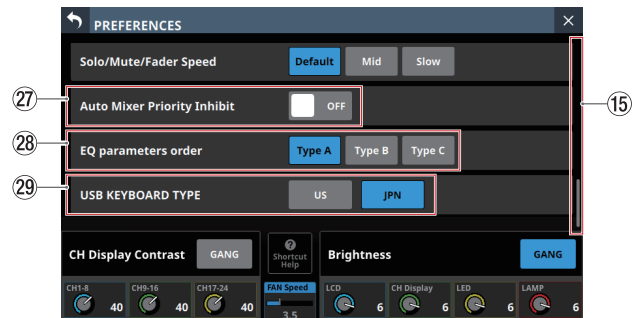
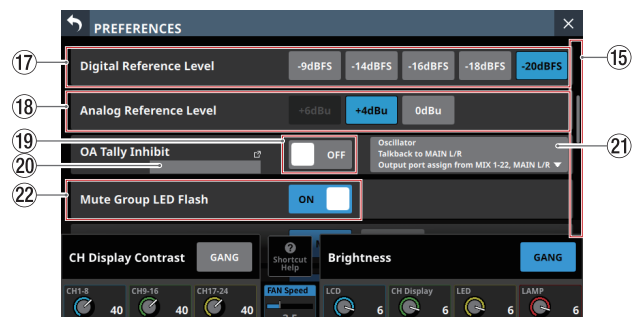
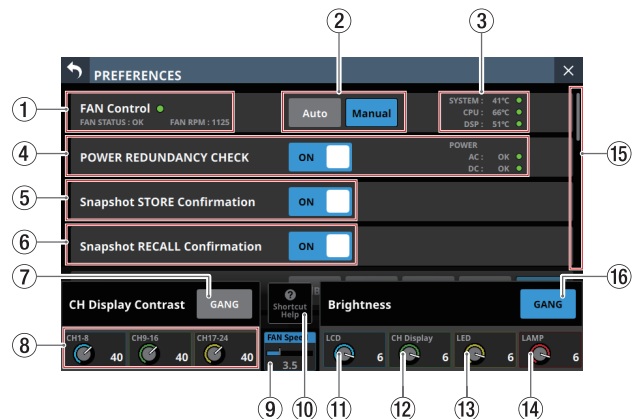
PREFERENCES画面

この画面では、以下の設定／表示を行います。

- 冷却ファンの動作モード／速度設定
- 冷却ファンの動作状態の表示
- 各所の温度数値と状態の表示
- AC / DC電源の状態表示
- AC / DC電源の動作設定
- SnapshotのSTORE / RECALL確認設定
- デジタルリファレンスレベル設定
- アナログリファレンスレベル設定
- ON AIR Tally Inhibit設定
- Mute Group LED Flash設定
- Solo/Mute/Fader Speed設定
- Auto Mixer Priority Inhibit設定
- EQ parameters order設定
- USB キーボードタイプ設定
- 各種表示器の輝度設定
- チャンネル画面のコントラスト設定

この画面は、メニュー画面の下記いずれかをタップして表示します。

- Front Panel Setup メニューの「Brightness」
- System Setup メニューの「Preferences」



① FAN Status

冷却ファンの動作状況と回転数を表示します。

インジケータ表示	FAN STATUS表示	内容
緑色	OK	正常
赤色	FAILURE	故障

② FAN Control ボタン

本機内部の冷却ファンの動作モードを設定します。
選択したボタンがハイライト表示になります。

ボタン	内容
Auto (初期値)	自動で冷却ファンの動作を制御します。
Manual	FAN Speed (⑨) が表示され、ユーザーが冷却ファンの動作を設定することができます。

③ Temperature Status

SYSTEM (機内温度)、CPUおよびDSPの温度数値と状態を表示します。

インジケータ表示	内容
緑インジケータを表示	温度数値が正常範囲内
⚠ マーク & オレンジ色 WARNING	温度数値が正常範囲外

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

④ POWER REDUNDANCY CHECK スイッチ

本機に供給される電源電圧が正常動作範囲外となった際に、アラートメッセージを表示するかどうかを設定します。

選択肢	内容
ON	AC/DCどちらかの電源電圧が異常な場合にアラートメッセージを表示します。
OFF (初期値)	アラートメッセージは表示されません。

POWER表示は、AC電源およびDC電源の電圧状態を表示します。

インジケータ表示	内容
緑色	電源電圧が正常動作範囲内です。
赤色	電源電圧が正常動作範囲外です。

メモ

Sonicview16 / 24 の場合は、スイッチがグレイアウト表示になって設定できません。

⑤ Snapshot STORE Confirmation スイッチ

SnapshotをSTOREするときの確認メッセージの表示の有無を設定します。

ONのとき、スライドスイッチがハイライト表示になります。

メモ

メニュー画面上部のSnapshot機能項目表示エリアの  アイコンをタップして表示するCONFIRMATION設定ウィンドウから設定することもできます。(→ 240 ページ「Snapshot機能」)

⑥ Snapshot RECALL Confirmation スイッチ

SnapshotをRECALLするときの確認メッセージの表示の有無を設定します。

ONのとき、スライドスイッチがハイライト表示になります。

メモ

メニュー画面上部のSnapshot機能項目表示エリアの  アイコンをタップして表示するCONFIRMATION設定ウィンドウから設定することもできます。(→ 240 ページ「Snapshot機能」)

⑦ CH Display Contrast GANG ボタン

チャンネル画面用コントラスト調節ノブのGANG機能のオン／オフを切り換えます。(初期値：オフ)

GANG機能がオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。GANG機能がオンの状態でLCDノブ1～3のいずれかを操作すると、それぞれのコントラスト設定の差分を保った状態ですべてのコントラスト設定が連動します。

⑧ CH Display Contrast ノブ

チャンネル画面のコントラストを調節します。

設定範囲：0～60 (初期値：40)

- LCDノブを回す (1ステップ刻みに調節)
- LCDノブを押しながら回す (4ステップ刻みに調節)

LCDノブ1	CH1-8
LCDノブ2	CH9-16
LCDノブ3	CH17-24 (Sonicview 24 / 24dpのみ)

メモ

トップパネルのMENUキーを押しながらいずれかのLCDノブを回すと、回したLCDノブに対応したチャンネル画面のコントラストを調節することができます。(→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)

⑨ FAN Speed

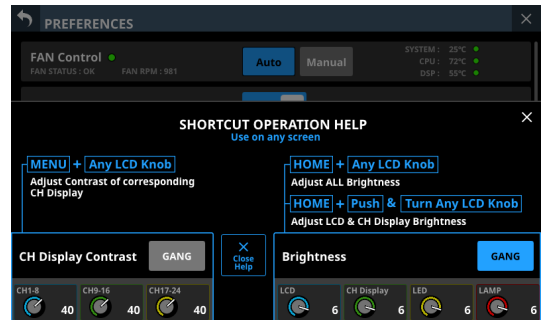
冷却ファンの動作モードが「Manual」のときの冷却ファンの回転数を調節します。


選択肢：1.0～10.0 (36ポイント／初期値：3.5)

LCDノブ4 (青色で点灯) を使って調節します。

⑩ Shortcut Help ボタン

このボタンをタップすると、チャンネル画面のコントラスト調節、および各種表示器の輝度調節のショートカット操作説明ウィンドウが表示されます。



操作説明ウィンドウ右上の  や Close Help ボタンをタップすると、ショートカット操作説明ウィンドウを閉じます。

⑪ Brightness LCD ノブ

LCDノブ5 (青色で点灯) を回して、タッチスクリーンの輝度を調節します。

選択肢：0～7 (初期値：6)

⑫ Brightness CH Display ノブ

LCDノブ6 (緑色で点灯) を回して、チャンネル画面の輝度を調節します。

選択肢：0～7 (初期値：6)

⑬ Brightness LED ノブ

LCDノブ7 (黄色で点灯) を回して、インジケータの輝度を調節します。

選択肢：0～7 (初期値：6)

⑭ Brightness LAMP ノブ

LCDノブ8 (赤色で点灯) を回して、リアパネルのLAMP端子に接続しているランプの輝度を調節します。

選択肢：0～7 (初期値：6)

⑮ スクロールバー表示

PREFERENCES画面の設定項目全体に対して、画面内に表示されている設定項目の相対位置をスクロールバーで表示します。

メモ

画面に表示されていない設定項目を表示するには、設定項目表示を上下にスワイプして画面をスクロールします。

⑯ Brightness GANG ボタン

各BrightnessノブのGANG機能のオン／オフを切り換えます。(初期値：オン)

GANG機能がオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。GANG機能がオンの状態でLCDノブ5～8のいずれかを操作すると、それぞれの輝度設定の差分を保った状態ですべての輝度設定が連動します。

⑰ Digital Reference Level ボタン

Digitalの基準レベルを設定します。

選択したボタンがハイライト表示になります。

選択肢：-9dBFS、-14dBFS、-16dBFS、-18dBFS、
-20dBFS（初期値）

⑱ Analog Reference Level ボタン

Analogの基準レベルを設定します。

選択したボタンがハイライト表示になります。

選択肢：+6dBu、+4dBu（初期値）、0dBu

メモ

Digital Reference Level ボタンの設定状態によっては、Analog Reference Level ボタンの選択ができないことがあります。

選択できないボタンは、グレイアウト表示になります。

		Analog Reference Level		
		+6dBu	+4dBu	0dBu
Digital Reference Level	-9dBFS	○	×	×
	-14dBFS	×	○	×
	-16dBFS	×	○	×
	-18dBFS	×	○	○
	-20dBFS	×	○	○

○：選択可

×：選択不可

⑲ OA Tally Inhibit スイッチ

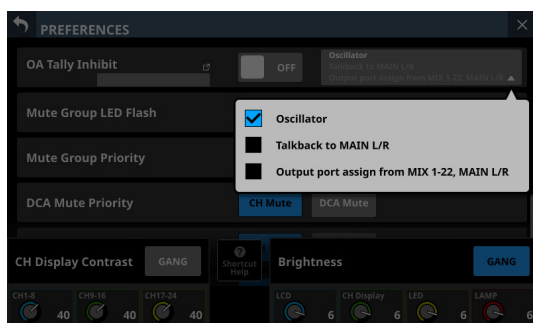
ON AIR Tally入力中に操作制限をするON AIR Tally Inhibit機能（→ 43 ページ「ON AIR Tally入力中の操作制限」）のON / OFFを切り換えます。（初期値：OFF）

⑳ OA Tally Input ポート 表示

- ON AIR Tally Input機能がアサインされたGPIO-INポート名を表示します。
- この部分をタップすると、USER DEFINED CONTROLS画面のGPIO-INタブ画面に切り換わります。（→ 75 ページ「GPIO-INタブ画面」）

㉑ ON AIR Tally Inhibit対象表示

- ON AIR Tally Inhibit対象の選択状態を表示します。
 - ON AIR Tally Inhibit対象として選択されている場合、対象項目をハイライト表示します。
 - ON AIR Tally Inhibit対象として選択されていない場合、対象項目をグレイアウト表示します。
- このエリアをタップすると、ON AIR Tally Inhibit対象の選択状態を設定するウィンドウを表示します。
チェックボックスをタップしてチェックマーク（✓）を付けると、ON AIR Tally入力中の操作制限（→ 43 ページ「ON AIR Tally入力中の操作制限」）の対象として選択されます。



㉒ Mute Group LED Flash スイッチ

Mute GroupおよびDCAによりMUTEされたモジュールのMUTEボタンや、トップパネルのMUTEキーを点滅させるかどうかを設定します。

ONのとき、スライドスイッチがハイライト表示になります。

選択肢	内容
ON（初期値）	MUTEボタンやトップパネルのMUTEキーを点滅させる
OFF	MUTEボタンやトップパネルのMUTEキーを点滅させない

㉓ Mute Group Priority ボタン

モジュール自身のMUTEをONにした状態で、アサイン先のMute GroupのMUTEを解除した際の、Mute GroupにアサインされているモジュールのMUTEの振る舞いを切り換えます。

選択肢	内容
CH Mute（初期値）	該当モジュールのMUTEをONにした状態を維持
Mute Group	Mute GroupのMUTEを解除した動作に連動して該当モジュールのMuteを解除

㉔ DCA Mute Priority ボタン

モジュール自身のMUTEをONにした状態で、アサイン先のDCAのMUTEを解除した際のDCAにアサインされているモジュールのMUTEの振る舞いを切り換えます。

選択肢	内容
CH Mute（初期値）	該当モジュールのMUTEをONにした状態を維持
DCA Mute	DCAのMUTEを解除した動作に連動して該当モジュールのMuteを解除

㉕ DCA Solo Priority ボタン

SOLO MODEがMIXに設定されている際、モジュール自身のSoloをONにした状態で、アサイン先のDCAのSoloをOFFにした際の、DCAにアサインされているモジュールのSoloの振る舞いを切り換えます。

選択肢	内容
CH Solo（初期値）	該当モジュールのSolo ON状態を維持
DCA Solo	DCAのSolo OFF切り換え動作に連動して該当モジュールのSoloをOFFに切り換える

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

②⑥ Solo/Mute/Fader Speed ボタン

SOLOのオン／オフ、Muteのオン／オフ、フェーダー操作などの際のフェードイン／アウトの速さを調節します。

選択肢	内容
Default (初期値)	フェードイン／アウトが一番速い設定です。
Mid	フェードイン／アウトの速さが「Default」と「Slow」の中間となる設定です。
Slow	フェードイン／アウトが一番遅い設定です。

②⑦ Auto Mixer Priority Inhibit スイッチ

- AUTO MIXERの下記PRIORITY設定の操作制限をするAuto Mixer Priority Inhibit機能のON / OFFを切り換えます。(初期値：ON)
 - TOP PRIORITY設定
(→ 234 ページ「③ TOP PRIORITYのON / OFF ボタン」)
 - グループPRIORITY設定
(→ 237 ページ「⑫ グループPRIORITY設定のON / OFF ボタン」)
 - チャンネルPRIORITY設定
(→ 238 ページ「⑧ チャンネルPRIORITY設定のON / OFF ボタン」)
- このスイッチをONに切り換えると、AUTO MIXERの上記PRIORITY設定がすべて「OFF」に切り換わり、操作できなくなります。

②⑧ EQ parameters order ボタン

MODULE (EQ) 画面の赤枠部分のEQパラメーターの表示モードを3種類のレイアウトから選択できます。
選択したボタンがハイライト表示になります。

Type A (初期値)



Type B



Type C



②⑨ USB KEYBOARD TYPE ボタン

トップパネルのUSB端子に接続したUSBキーボードのタイプを設定します。
選択したボタンがハイライト表示になります。

ボタン	内容
US	英語対応キーボード
JPN (初期値)	日本語対応キーボード

ON AIR Tally入力中の操作制限

● ON AIR Tally Inhibit対象が「Oscillator」の場合

- OA Tally Inhibitスイッチが「ON」
- ON AIR Tally Inhibit対象「Oscillator」のチェックボックスがチェックされている

上記すべての条件がそろっているときにON AIR Tallyが入力されると、内蔵オシレーター（→ 96 ページ「⑦ OSCILLATOR ボタン」）が自動的にオフになります。また、ON AIR Tally入力中は、内蔵オシレーターをオンにすることはできません。

● ON AIR Tally Inhibit対象が「Talkback to MAIN L/R」の場合

- OA Tally Inhibitスイッチが「ON」
- ON AIR Tally Inhibit対象の「Talkback to MAIN L/R」のチェックボックスがチェックされている

上記すべての条件がそろっているときにON AIR Tallyが入力されると、MAIN L/RへのTALKBACK出力（→ 85 ページ「⑩ TARGET ボタン」）のMAIN L/Rボタンが自動的にオフになります。また、ON AIR Tally入力中はMAIN L/RへのTALKBACK出力をオンにすることはできません。

● ON AIR Tally Inhibit対象が「Output port assign from MIX 1-22, MAIN L/R」の場合

- OA Tally Inhibitスイッチが「ON」
- ON AIR Tally Inhibit対象の「Output port assign from MIX 1-22, MAIN L/R」のチェックボックスがチェックされている

上記すべての条件がそろっている状態でON AIR Tally入力中は、MIX 1-22 および MAIN L/Rの出力ポートのアサインは変更できません。

メモ

- 下記2つの条件がそろっているときは、All System DataはLoadできません。

- ON AIR TallyがGPIO-INに入力されている
- OA Tally Inhibitスイッチが「ON」

- ON AIR TallyがGPIO-INに入力されているときにSnapshot Recallを実施した場合、ON AIR Tally Inhibit対象の設定は次のようになります。

1) Oscillator

- ON AIR TallyがGPIO-INに入力されている
- OA Tally Inhibitスイッチが「ON」
- ON AIR Tally Inhibit対象の「Oscillator」のチェックボックスがチェックされている

上記すべての条件がそろっているときにSnapshot Recallを実施した場合は、内蔵オシレーターの信号のオン／オフ状態をRecallしません。

上記いずれかの条件を満たしていないときにSnapshot Recallを実施した場合は、内蔵オシレーターの信号のオン／オフ状態をRecallします。

2) Talkback to MAIN L/R

この設定はSnapshot対象外です。
そのため、以下のようになります。

- ON AIR TallyがGPIO-INに入力されている
- OA Tally Inhibitスイッチが「ON」
- ON AIR Tally Inhibit対象の「Talkback to MAIN L/R」のチェックボックスがチェックされている

上記すべての条件がそろっているときにSnapshot Recallを実施した場合は、Talkback to MAIN L/Rの設定が「OFF」になります。

上記いずれかの条件を満たしていないときにSnapshot Recallを実施した場合は、Talkback to MAIN L/Rの設定は維持されます。

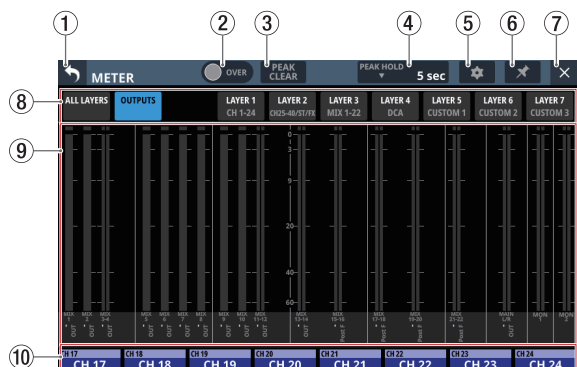
3) Output port assign from MIX1-22, MAIN L/R

- ON AIR TallyがGPIO-INに入力されている
- OA Tally Inhibitスイッチが「ON」
- ON AIR Tally Inhibit対象の「Output port assign from MIX 1-22, MAIN L/R」のチェックボックスがチェックされている

上記すべての条件がそろっているときにSnapshot Recallを実施した場合は、MIX 1-22 と MAIN L/R モジュールから出力ポートへのRouting設定をRecallせずに維持します。

METER画面

この画面では、各種メーター表示とメーター表示設定を行います。
この画面は、メニュー画面＞Mixer Setupメニュー＞「Meter」をタップして表示します。



メモ

この画面は、User Defined Control機能によりUSER KEYやFOOTSWITCH、GPIO-INで表示することもできます。(→ 54 ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」)

① 戻るボタン

このボタンをタップすると、メニュー画面に戻ります。

メモ

この画面の [X] ボタン (⑥) がハイライト表示 ([X]) のときは、このボタンをタップしてもメニュー画面に戻りません。

② OVERインジケーター

- いずれかのモジュールの Metering Pointの信号レベルにオーバーロードが発生すると赤くハイライト表示します。ハイライト表示時間は、この画面のPEAK HOLD時間表示部 (④) の設定にしたがいます。
- この部分をタップすると、このインジケーターおよび各レベルメーターのオーバーロードインジケーターのハイライト表示をクリアします。

メモ

−0.00026dBFS (16bitフルスケール値) 以上で赤くハイライト表示します。

③ PEAK CLEARボタン

このボタンをタップすると、以下のレベルメーターのピークホールド表示をクリアします。

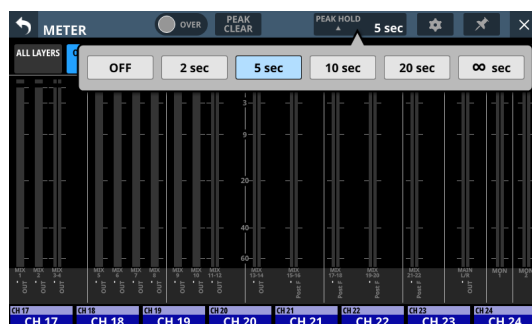
- オーバーロード未満でピークホールドしているピークインジケーター
- 各レベルメーターのオーバーロードインジケーター

メモ

この画面のOVERインジケーター (②) のハイライト表示は、クリアしません。

④ PEAK HOLD時間表示部

- レベルメーターのピークホールド時間を表示します。
- この部分をタップすると、レベルメーターのピークホールド時間を設定するウィンドウを表示します。



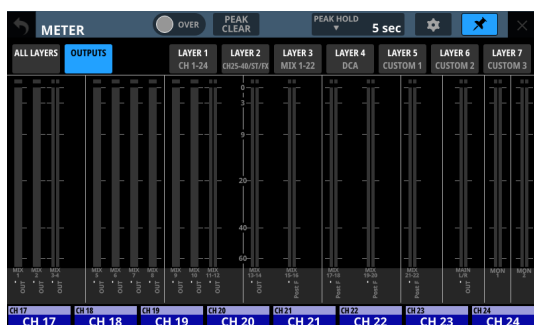
選択肢：OFF (ホールドしない)、2 sec、5 sec (初期値)、10 sec、20 sec、∞ sec (クリアするまでホールド)

⑤ 設定ボタン

このボタンをタップすると、METER SETUP画面に切り換わります。(→ 46 ページ「METER SETUP画面」)

⑥ ㊦ ボタン

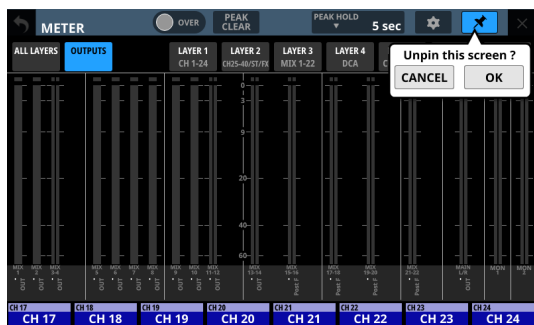
- このボタンをタップしてハイライト表示にすると、METER画面 ㊦ ボタン (①) と ㊦ ボタン (⑦) が以下のように無効状態になり、METER画面を閉じることができなくなります。



この状態のとき、トップパネルのHOMEキーを押してもMETER画面の表示を維持します。

ただし、下記の操作による画面の切り換えを行うことは可能です。

- ㊦ ボタン (⑤) をタップして、METER SETUP画面に切り換える。
- トップパネルのMENUキーを押して、メニュー画面に切り換える。
- トップパネルのHOMEキーとMENUキーを同時に押して、LOCK SETUP画面に切り換える。
- トップパネルのSELキーを押して、MODULE画面に切り換える。
- 画面下部のホーム画面MODULE LABELエリア (⑩) をタップして、MODULE (OVERVIEW) 画面に切り換える。
- ㊦ ボタンがハイライト表示 (㊦) のときにタップすると、確認メッセージが表示されます。



OKボタンをタップすると、㊦ ボタンのハイライト表示が解除され、METER画面を閉じることができるようになります。

⑦ ㊦ ボタン

このボタンをタップすると、ホーム画面に戻ります。

メモ

この画面の ㊦ ボタン (⑥) がハイライト表示 (㊦) のときは、このボタンをタップしてもホーム画面に戻りません。

⑧ タブ画面選択ボタン

- 選択中のタブ画面ボタンをハイライト表示し、該当するレベルメーターをメーター表示エリア (⑨) に表示します。
- ボタンをタップすると、タップしたボタンに該当するレベルメーター表示に切り換えます。

⑨ メーター表示エリア

- ハイライト表示しているタブ画面選択ボタンに該当するレベルメーターを表示します。

ページ名	内容
ALL LAYERS	7つあるすべてのレイヤーにアサインされたモジュールのレベルメーターを1レイヤーに1行ずつ表示します。レベルメーターの下部にMODULE LABEL Mainで設定されたMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」)
OUTPUTS	MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/R マスターモジュール、MONITOR OUTのレベルメーターを表示します。レベルメーターの下部にFIXED MODULE LABEL / MODULE LABEL Mainで設定されたMODULE LABEL (→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」) / Metering Pointを表示します。
LAYER1	該当するレイヤーにアサインされたモジュールのレベルメーターを表示します。レベルメーターの下部にFIXED MODULE LABEL / MODULE LABEL Mainで設定されたMODULE LABEL (→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」) / Metering Point名を表示します。
LAYER2	
LAYER3	
LAYER4	
LAYER5	
LAYER6	
LAYER7	

- ステレオモジュールのメーターは、1モジュールのエリアに2本のメーターを表示します。
- 各レベルメーターの最上部は、オーバーロードインジケータです。信号レベルが -0.00026dBFS (16bit フルスケール値) 以上のときに赤くハイライト表示します。
- レベルのオーバーロードが発生すると、バーメーター全体が赤くなります。
- レベルメーター下端の -60dBFS 以下のエリアは、 -70dBFS 以上で点灯します。

⑩ ホーム画面のMODULE LABELエリア表示

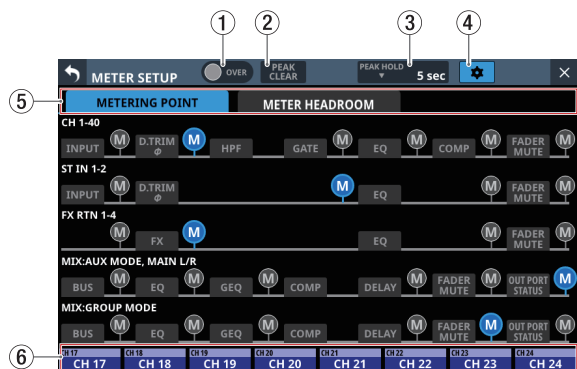
- 現在のレイヤーの右端タッチスクリーンにアサインされたモジュールのホーム画面のMODULE LABELエリアと同じ内容 (MODULE LABEL SubおよびMODULE LABEL Mainで設定された表示モードのMODULE LABEL (→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」) / Mute Groupアサイン設定 / DCAアサイン設定) を表示します。
- このエリアをタップすると、MODULE (OVERVIEW) 画面に切り換わります。(→ 170 ページ「MODULE (OVERVIEW) 画面」)

METER SETUP画面

この画面では、以下の設定を行います。

- METERING POINT タブ画面
各モジュールタイプの Metering Point を設定します。
- METER HEADROOM タブ画面
各画面のレベルメーターの色替え位置を設定します。

この画面は、METER画面の ボタンをタップして表示します。



① OVERインジケーター

METER画面のOVERインジケーターと同じ働きをします。(→ 44 ページ「METER画面」)

② PEAK CLEARボタン

METER画面のPEAK CLEARボタンと同じ働きをします。(→ 44 ページ「METER画面」)

③ PEAK HOLD時間表示部

METER画面のPEAK HOLD時間表示部と同じ働きをします。(→ 44 ページ「METER画面」)

④ ボタン

このボタンをタップすると、METER画面に戻ります。(→ 44 ページ「METER画面」)

⑤ タブ画面選択ボタン

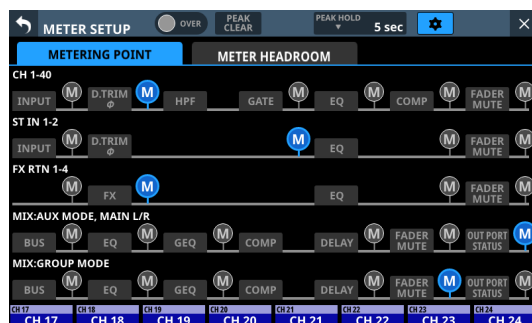
このボタンをタップして、表示する画面を切り換えます。

⑥ ホーム画面のMODULE LABELエリア表示

右端タッチスクリーンのホーム画面のMODULE LABELエリアを表示しています。(→ 44 ページ「METER画面」)

METERING POINT タブ画面

このタブ画面では、各モジュールタイプの Metering Point を設定します。



アイコンをタップして、Metering Pointを設定します。Metering Pointに選択中の アイコンがハイライト表示 () になります。

モジュールタイプ	初期値
CH1-40 モジュール	PRE HPF
ST IN1-2 モジュール	PRE EQ
FX RTN1-4 モジュール	FX OUTPUT
BUSモードが「AUX」のMIX1-22 モジュール、MAIN L/R マスターモジュール	OUTPUT*
BUSモードが「GROUP」のMIX1-22 モジュール	POST FADER

* Metering Pointの設定が「OUTPUT」とは以下のモジュールタイプの Metering Point設定が、「OUT PORT STATUS」よりも右側の アイコンがハイライト表示 () の状態を指します。

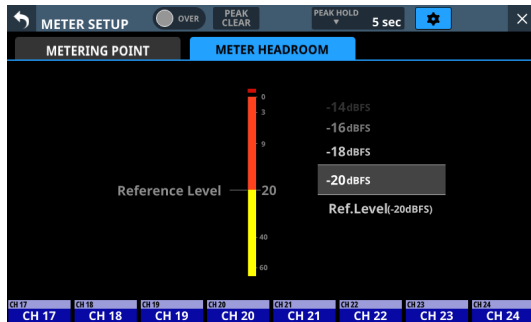
- MIX: AUX MODE, MAIN L/R
- MIX: GROUP MODE

メモ

- 各モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面の Metering Point ボタンを使って設定することもできます。(→ 170 ページ「MODULE (OVERVIEW) 画面」)
- Metering Pointの設定が「OUTPUT*」のとき、該当するバスを出力ポートにアサインしていない(本機から外部に出力していない)状態では、メーターは表示されません。

METER HEADROOM タブ画面

このタブ画面では、各画面のレベルメーターの色替え位置を設定します。



選択肢：- 9 dBFS、- 14 dBFS、- 16 dBFS、- 18 dBFS、
- 20 dBFS、Ref.Level（初期値）

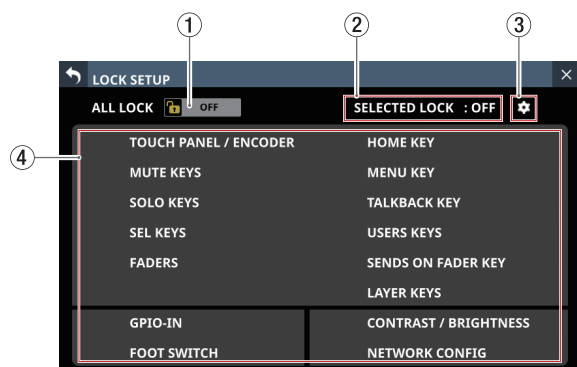
選択肢を上下にスワイプして、色替え位置を選択します。

LOCK SETUP画面

この画面では、フロントパネルや外部機器からの操作を禁止するロック機能の設定を行います。

選択した操作だけを禁止することもできます。

この画面は、トップパネルのHOMEキーとMENUキーを同時に5秒間押し続けることで、右端のタッチスクリーンに表示します。



① ALL LOCK ボタン

このボタンをタップすると、ON / OFFが切り換わります。(初期値：OFF)

ONのとき、ボタンがハイライト表示になり、すべてのロック対象の操作を禁止します。

② SELECTED LOCK表示

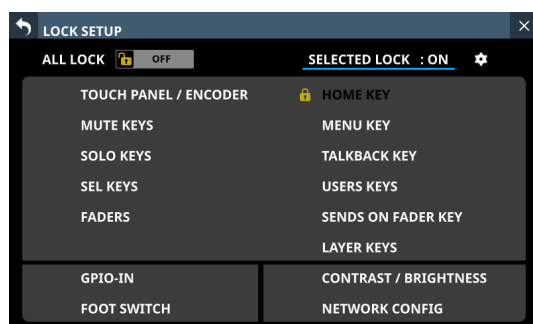
選択した項目の操作を禁止するSELECTED LOCKのON / OFF状態を表示します。(初期値：OFF)

③ アイコン

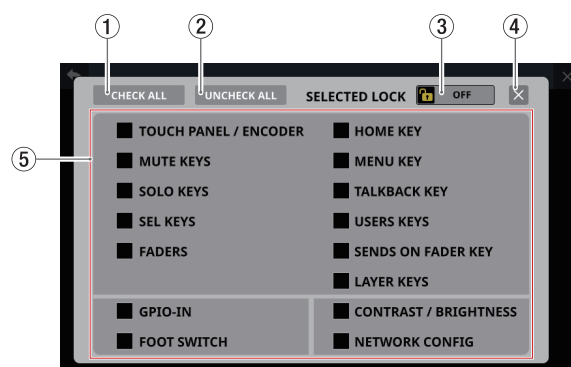
このアイコンをタップすると、SELECTED LOCK設定ウィンドウを表示します。

④ ロック対象項目リスト

各ロック対象項目がロック状態かどうかを表示します。ロックされていない項目は、白い文字で表示されます。ロックされて操作禁止状態の項目は、錠マークが表示され、黒い文字で表示されます。



SELECTED LOCK設定ウィンドウ



① CHECK ALL ボタン

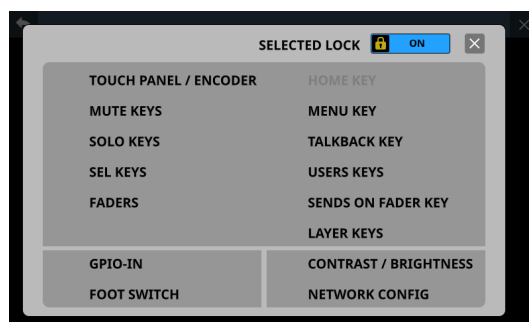
すべてのロック対象項目のチェックボックスにチェックマーク(✓)を付けます。

② UNCHECK ALL ボタン

すべてのロック対象項目のチェックボックスからチェックマーク(✓)を外します。

③ SELECTED LOCK ボタン

- ロック対象項目のチェックボックスに1つ以上チェックマーク(✓)が付いているときにこのボタンをタップすると、ON / OFFが切り換わります。
- ONのとき、ボタンがハイライト表示になり、選択したロック対象の操作を禁止します。このとき、CHECK ALL ボタン(①)、UNCHECK ALL ボタン(②)およびロック対象項目のチェックボックスの表示が消えて操作できなくなります。



[HOME KEY項目をロック対象に設定したときの表示]

④ クローズボタン

このボタンをタップすると、SELECTED LOCK設定ウィンドウを閉じます。

⑤ 個別ロック対象選択リスト

ロック機能のオン／オフを切り換えます。

ロック対象として選択したい項目のチェックボックスをタップして、チェックマーク (✓) を付けます。

メモ

- ロック対象の操作子／操作
 - LCDタッチパネル／LCDノブの操作
 - MUTEキー操作
 - SOLOキー操作
 - SELキー操作
 - FADER操作
 - HOMEキー操作
 - MENUキー操作
 - TALKBACKキー操作
 - USER KEYS操作
 - SENDS ON FADERキー操作
 - LAYER KEYS操作
 - GPIO-IN操作
 - FOOT SWITCH操作
 - Contrast／Brightnessの各パラメーターの設定変更操作
 - Network Setup画面 (→ 136 ページ「Network Setup画面」) の設定変更操作
- 以下の操作子／操作は、ロック対象外です。
 - ヘッドホンボリューム
 - MONITOR OUT ボリューム
 - TALKBACKボリューム
 - POWERスイッチ
 - HOMEキーとMENUキーを同時に押す操作
 - LOCK SETUP画面でのタッチパネル操作

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

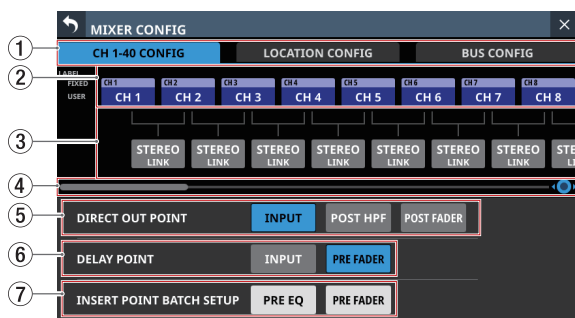
MIXER CONFIG画面

この画面では、以下の設定を行います。

- CH1-40 CONFIG タブ画面
 - CH1-40 の Stereo Link設定
 - DIRECT OUT POINT設定
 - DELAY POINT設定
 - INSERT POINTの一括設定
- LOCATION CONFIG タブ画面
 - CH 1-40 / ST IN 1-2 / FX RTN 1-4 / MIX 1-22 の LOCATION設定
 - MONITOR 1 / MONITOR 2 の LOCATION設定
- BUS CONFIG タブ画面
 - BUS MODE設定
 - MIX 1-22 の Stereo Link設定
 - PAN LINK設定

この画面は、メニュー画面 > Mixer Setupメニュー > 「Config Mixer / Location / Bus」をタップして表示します。

CH1-40 CONFIG タブ画面



① タブ画面選択ボタン

このボタンをタップすると、表示する画面が切り換わります。

② CH1-40 モジュールMODULE LABEL ボタンエリア

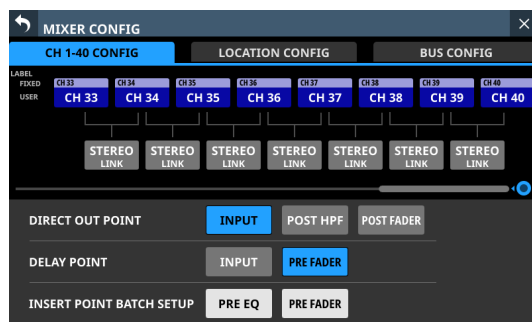
- CH1-40 モジュールのMODULE LABEL SubおよびMODULE LABEL Mainで設定された表示モードのMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- このボタンをタップすると、USER MODULE LABELおよびモジュール設定色を変更するMODULE LABEL画面に切り換わります。(→ 229 ページ「MODULE LABEL画面」)

③ STEREO LINK ボタンエリア

- CH1-40 モジュールのStereo Link設定の状態を表示します。
- このボタンをタップすると、CH1-40 モジュールのStereo Link設定のオン／オフを切り換えます。(初期値：オフ) Stereo Link設定がオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

④ スクロールノブ／スクロールバー表示

スクロールバー表示を左右にドラッグすることで、画面内に表示しきれていないCH1-40 モジュールのチャンネルを表示します。また、LCD ノブ8を回して、画面をスクロールすることもできます。



メモ

CH1-40 モジュールMODULE LABELエリア (②) からSTEREO LINK ボタンエリア (③)間を左右にスワイプして画面をスクロールすることもできます。

⑤ DIRECT OUT POINT ボタン

このボタンをタップすると、CH1-40 モジュールのDIRECT OUT の位置が一括で切り換わります。

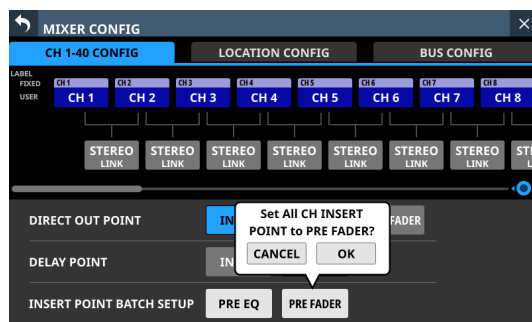
選択肢：INPUT (初期値)、POST HPF、POST FADER

⑥ DELAY POINT ボタン

このボタンをタップすると、CH1-40 モジュールのDELAY機能の挿入位置が一括で切り換わります。

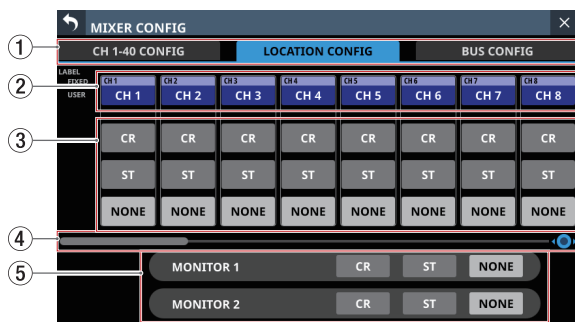
⑦ INSERT POINT BATCH SETUP ボタン

MODULE (OVERVIEW) 画面で個別に設定できるCH1-40 モジュールのインサートポイントを一括で切り換えます。ボタンをタップすると、設定変更の確認メッセージが表示されます。



OKボタンをタップすると、CH1-40 モジュールのインサートポイントの設定を一括で変更します。

LOCATION CONFIG タブ 画面



① タブ画面選択ボタン

このボタンをタップすると、表示する画面が切り換わります。

② CH1-40 モジュール／ST IN1-2 モジュール／FX RTN モジュール／MIXモジュールのMODULE LABEL エリア

- CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュール、FX RTN モジュールおよびMIXモジュールのMODULE LABEL SubおよびMODULE LABEL Mainで設定された表示モードのMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」)
- このボタンをタップすると、USER MODULE LABELおよびモジュール設定色を変更するMODULE LABEL画面に切り換わります。(→ 229 ページ「MODULE LABEL画面」)

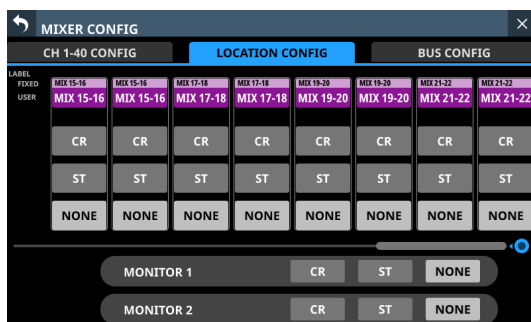
③ モジュールのLocation設定エリア

このボタンをタップすると、CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュール、FX RTN モジュールおよびMIXモジュールのLocation設定が切り換わります。

ボタン	内容
CR	LocationをCR (Control Room) に設定します。
ST	LocationをST (Studio) に設定します。
NONE (初期値)	Locationを未設定にします。

④ スクロールノブ／スクロールバー表示

スクロールバー表示を左右にドラッグすることで、画面内に表示しきれていないCH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュール、FX RTN モジュールおよびMIXモジュールのチャンネルを表示します。また、LCD ノブ 8 を回して画面をスクロールすることもできます。



メモ

CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュール、FX RTN モジュールおよびMIXモジュールのMODULE LABEL エリア (②) からモジュールのLocation設定エリア (③) 間を左右にスワイプして画面をスクロールすることもできます。

⑤ モニターのLocation設定エリア

このボタンをタップすると、MONITOR 1 および MONITOR 2 のLocation設定が切り換わります。

ボタン	内容
CR	LocationをCR (Control Room) に設定します。
ST	LocationをST (Studio) に設定します。
NONE (初期値)	Locationを未設定にします。

メモ

いずれかのモニターのLocationが「ST」に設定されている場合、Monitor Exclusive ボタン (→ 94 ページ「① Monitor Exclusive ボタン」) が「オン」に切り換えできず、MONITOR 1 と MONITOR 2 の排他選択機能が使用できなくなります。

MONITOR 1 と MONITOR 2 の排他選択機能を使用する場合は、モニターのLocation設定を「CR」または「NONE」に切り換えてください。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Location機能によるモニター信号の自動MUTE動作について

Location機能では、ワンマンDJ向けの以下のようなモニター信号のMUTE制御を行います。

- MONITOR 1 または MONITOR 2 と同一の Location (NONE以外) に設定された入力信号および経由するバスが、MAIN L/Rバスに1つも出力されていない状態から1つ以上出力された状態になる直前に、自動的に該当するモニター信号のMUTEを「オン」にします。
- MONITOR 1 または MONITOR 2 と同一の Location (NONE以外) に設定された入力信号および経由するバスが、MAIN L/Rバスに1つも出力されていない状態になった直後に、自動的に該当するモニター信号のMUTEを「オフ」にします。
- 入力信号から MAIN L/Rバスまでの経路の間に、別の Location に設定されたバスを経由した場合には、モニター信号のMUTE制御は実施しません。

例：

- CH1 モジュール (Location : CR) ⇒ MIX1 モジュール (Location : CR) ⇒ MAIN L/Rバス：モニター信号のMUTE制御を実施する
- CH1 モジュール (Location : CR) ⇒ MIX1 モジュール (Location : ST) ⇒ MAIN L/Rバス：モニター信号のMUTE制御を実施しない
- CH1 モジュール (Location : CR) ⇒ MIX1 モジュール (Location : NONE) ⇒ MAIN L/Rバス：モニター信号のMUTE制御を実施しない

下記パラメーター操作の結果、条件がそろった場合にモニター信号のMUTE制御を実施します。

- FADER LEVELの $-\infty$ dB ⇔ $-\infty$ dB超の間での操作 (DCAレイヤーによるレベル操作も考慮)
- MUTEのオン／オフ切り換え (DCA/Mute GroupのMUTE操作も考慮)
- SENDのオン／オフ、MAIN L/R アサインのオン／オフ切り換え
- SEND レベルの $-\infty$ dB ⇔ $-\infty$ dB超の間での操作
- SENDのPRE / POST切り換え
- MODULE LibraryのRECALL
- Snapshot Recall
- Location設定の変更
- バスモード設定 (AUX / GROUP) の変更
- CH MUTE / PRE-SEND LINKの設定変更
- DCAアサインの変更
- Mute Groupアサインの変更
- All System Data Load

入力から MAIN L/Rバスまでの経路探索は、以下の経路に対応しています。

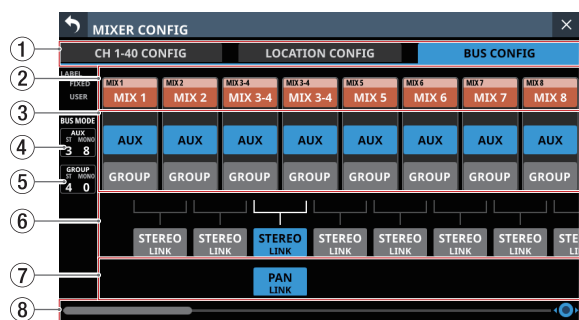
- 対応している経路
 - バス経由なしの経路
 - 入力モジュール ⇒ MAIN
 - バス1段経由の経路
 - 入力モジュール ⇒ MIX ⇒ MAIN
 - 入力モジュール ⇒ FX ⇒ MAIN
 - バス2段経由の経路
 - 入力モジュール ⇒ MIX ⇒ MIX ⇒ MAIN
 - 入力モジュール ⇒ MIX ⇒ FX ⇒ MAIN
 - 入力モジュール ⇒ FX ⇒ MIX ⇒ MAIN
 - バス3段経由の経路
 - 入力モジュール ⇒ MIX ⇒ FX ⇒ MIX ⇒ MAI

以下の経路には未対応となります。

未対応の経路の場合、「MAIN L/Rバスに到達しない」=「MAIN L/Rバスから出力されない」と判定します。そのため、未対応経路のモジュールパラメーターを操作すると、モニター信号のMUTEが「オフ」になる方向に動作します。

- 未対応の経路
 - バス3段経由の経路のうちの下記経路
 - 入力モジュール ⇒ MX ⇒ MX ⇒ MX ⇒ MAIN
 - 入力モジュール ⇒ MX ⇒ MX ⇒ FX ⇒ MAIN
 - 入力モジュール ⇒ FX ⇒ MX ⇒ MX ⇒ MAIN
 - 入力モジュール ⇒ FX ⇒ MX ⇒ FX ⇒ MAIN
 - バスを4段以上経由する経路

BUS CONFIG タブ画面



① タブ画面選択ボタン

このボタンをタップすると、表示する画面が切り換わります。

② MIX1-22 モジュールMODULE LABEL エリア

- MIX1-22 モジュールのMODULE LABEL SubおよびMODULE LABEL Mainで設定された表示モードのMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- このボタンをタップすると、USER MODULE LABELおよびモジュール設定色を変更するMODULE LABEL画面に切り換わります。(→ 229 ページ「MODULE LABEL画面」)

③ BUS MODE エリア

このボタンをタップすると、MIX1-22 モジュールのBUSモードが切り換わります。

ボタン	内容
AUX	ボタンに対応するMIXバスをAUXバスとして動作させるモードに設定します。 AUXモードのバスでは、各モジュールからAUXバスへのSENDレベル、オン／オフ、PRE／POSTを設定することができます。(PRE／POSTは入力モジュールのみ)
GROUP	ボタンに対応するMIXバスをGROUPバスとして動作させるモードに設定します。 GROUPモードのバスでは、各モジュールからGROUPバスへのオン／オフだけが設定可能で、POST FADER送り固定となります。

メモ

- BUSモードを「GROUP」から「AUX」に変更すると、該当するMIX 1-22のモジュール設定色をオレンジ色に変更します。
- BUSモードを「AUX」から「GROUP」に変更すると、該当するMIX 1-22のモジュール設定色を紫色に変更します。

④ AUX バス数表示

BUS MODEエリアで、「AUX」に設定されたモジュール数を表示します。

- 「ST」にはStereo Link設定がオン状態のAUXモードモジュールのペア数を表示します。
- 「MONO」にはStereo Link設定がオフ状態のAUXモードモジュールの数を表示します。

⑤ GROUP バス数表示

BUS MODEエリアで、「GROUP」に設定されたモジュール数を表示します。

- 「ST」にはStereo Link設定がオン状態のGROUPモードモジュールのペア数を表示します。
- 「MONO」にはStereo Link設定がオフ状態のGROUPモードモジュールの数を表示します。

⑥ STEREO LINK ボタンエリア

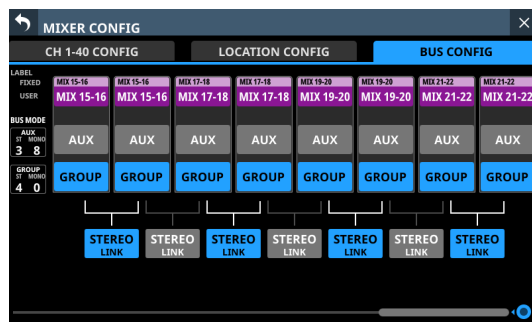
- MIX1-22 モジュールのStereo Link設定の状態を表示します。
- このボタンをタップして、MIX1-22 モジュールのStereo Link設定のオン／オフを切り換えます。
Stereo Link設定がオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

⑦ PAN LINK ボタンエリア

MIX1-22 モジュールのStereo Link設定がオンで、BUSモードが「AUX」のとき、このボタンを表示します。
PAN LINK設定が「オン」のとき、AUXバスへのパン／バランス(SEND PAN)の設定が、MAIN L/Rバスへのパン／バランスの設定に連動します。

⑧ スクロールノブ／スクロールバー表示

スクロールバー表示を左右にドラッグすることで、画面内に表示しきれていないMIX1-22 モジュールのチャンネルを表示します。また、LCD ノブ 8 を回して画面をスクロールすることもできます。



メモ

MIX1-22 モジュールMODULE LABEL エリア (②) からPAN LINK ボタンエリア (⑦)間を左右にスワイプして画面をスクロールすることもできます。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

USER DEFINED CONTROLS画面

この画面では、以下の設定を行います。

- User Key タブ画面
USER KEYS A-F キーおよび USER KEYS 1-12 キーに機能をアサインします。
このタブ画面は、メニュー画面 > Front Panel Setup メニュー > 「User Key Setup」をタップして表示します。
- Foot Switch タブ画面
フットスイッチに機能をアサインします。
このタブ画面は、メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「FOOT SW Setup」をタップして表示します。
- GPIO-IN タブ画面
本機および内蔵 Dante 経由で接続された SB-16D の GPIO 入力端子に機能をアサインします。
このタブ画面は、メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「GPIO Input Setup」をタップして表示します。
- GPIO-OUT タブ画面
本機および内蔵 Dante 経由で接続された SB-16D の GPIO 出力端子に機能をアサインします。
このタブ画面は、メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「GPIO Output Setup」をタップして表示します。

各キー／端子の設定は、各タブ画面の操作子設定表示で行います。

4 つのタブ画面は、タブ画面選択ボタンをタップして切り換えます。(→ 72 ページ「USER DEFINED CONTROLS画面の構成」)

これらの画面でアサインできる機能は、以下の通りです。

User Key タブ画面／Foot Switch タブ画面／GPIO-IN タブ画面

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
Snapshot	Select	Next		メニュー画面上部に表示された STORE / RECALL 対象の Snapshot 番号を 1 つ増やします。(→ 240 ページ「Snapshot機能」)
		Prev		メニュー画面上部に表示された STORE / RECALL 対象の Snapshot 番号を 1 つ減らします。(→ 240 ページ「Snapshot機能」)
		No.	001-128/P001	指定番号の Snapshot をメニュー画面上部に表示し、STORE / RECALL 対象にします。(→ 240 ページ「Snapshot機能」)
	Recall	Selected		メニュー画面上部に表示された RECALL 対象の番号の Snapshot を RECALL します。(→ 240 ページ「Snapshot機能」)
		Next		メニュー画面上部に表示された RECALL 対象の Snapshot 番号を 1 つ後に存在する Preset 以外の Snapshot の番号にしてから RECALL します。(→ 240 ページ「Snapshot機能」)
		Prev		メニュー画面上部に表示された RECALL 対象の Snapshot 番号を 1 つ前に存在する Preset 以外の Snapshot の番号にしてから RECALL します。(→ 240 ページ「Snapshot機能」)
		No.	001-128/P001	指定番号の Snapshot を RECALL します。(→ 240 ページ「Snapshot機能」)
		+Target Key		このキーと Function:Snapshot / Parameter1:Target を設定されたキーを同時に押すと、Function:Snapshot / Parameter1:Target で設定された番号の Snapshot を RECALL します。(→ 240 ページ「Snapshot機能」)

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
Snapshot	Store	Selected		メニュー画面上部に表示されたSTORE対象の番号にSnapshotをSTOREします。(→240ページ「Snapshot機能」)
		No.	001-128	指定番号のSnapshotにSTOREします。(→240ページ「Snapshot機能」)
		+Target Key		このキーとFunction:Snapshot / Parameter1:Targetを設定されたキーを同時に押すと、Function:Snapshot / Parameter1:Targetで設定された番号にSnapshotをSTOREします。(→240ページ「Snapshot機能」) ただし、Function:Snapshot / Parameter1:TargetのParameter2が「Next」または「Prev」に設定されたキーと同時に押した場合は動作しません。
	Target	Selected		このキーとFunction:Snapshot / Parameter1:STORE or RECALL / Parameter2:+Target Keyを設定されたキーを同時に押すと、メニュー画面上部に表示されたSnapshot番号にSTORE / メニュー画面上部に表示されたSnapshot番号をRECALLします。
		Next		このキーとFunction:Snapshot / Parameter1:RECALL / Parameter2:+Target Keyを設定されたキーを同時に押すと、メニュー画面上部に表示された番号の1つ後に存在するPreset以外のSnapshotをRECALLします。
		Prev		このキーとFunction:Snapshot / Parameter1:RECALL / Parameter2:+Target Keyを設定されたキーを同時に押すと、メニュー画面上部に表示された番号の1つ前に存在するPreset以外のSnapshotをRECALLします。
		No.	001-128/P001	このキーとFunction:Snapshot / Parameter1:STORE or RECALL / Parameter2:+Target Keyを設定されたキーを同時に押すと、指定番号のSnapshotにSTORE / 指定番号のSnapshotをRECALLします。
	Undo/Redo	Undo Color (USER KEYのみ)	Redo Color (USER KEYのみ)	Snapshot RECALLのUndo / Redoを実施します。(→240ページ「Snapshot機能」) Undoが実施可能な状態では、この機能がアサインされたUSER KEYSがParameter2: Undo Colorで設定した色で点灯します。Redoが実施可能な状態では、この機能がアサインされたUSER KEYSがParameter3: Redo Colorで設定した色で点灯します (Parameter2 / 3はUSER KEYSでのみ設定できます)
Monitor	MONITOR 1 MONITOR 2	Source select	1 (MAIN L/R) 2 (MIX 15-16) 3 (MIX 1) 4 (MIX 11-12) 5 (Dante 31-32) 6 (USB 31-32)	単独で押すと、Parameter1で指定したモニター用のParameter3で指定した番号のモニターソースを1つだけ選択状態にします。(→90ページ「⑥ MONITOR SELECT ボタン (MONITOR 1)」、→92ページ「⑫ MONITOR SELECT ボタン (MONITOR 2)」) この機能がアサインされたボタンを複数同時に押すとADD機能がオンに切り換わり、同時に押したモニターソースが複数同時に選択状態になります。これにより、選択した複数のモニターソースをミックスしてモニターできます。 選択状態の場合、USER KEYSが点灯します。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
Monitor	MONITOR 1 MONITOR 2	MUTE		Parameter1 で指定したモニター信号の MUTE のオン／オフを切り換えます。(→ 90 ページ「③ MUTE ボタン (MONITOR 1)」、→ 92 ページ「②⑩ MUTE ボタン (MONITOR 2)」) オンの場合、USER KEYS が点灯します。
		DIM		Parameter1 で指定したモニター信号の DIM 機能のオン／オフを切り換えます。(→ 91 ページ「⑩ DIM ボタン (MONITOR 1)」、→ 92 ページ「⑩ DIM ボタン (MONITOR 2)」) オンの場合、USER KEYS が点灯します。
		PFL to MON		Parameter1 で指定したモニターの PFL to MON のオン／オフを切り換えます。(→ 91 ページ「⑧ PFL to MON 1 / AFL to MON 1 ボタン」、→ 92 ページ「⑭ PFL to MON 2 / AFL to MON 2 ボタン」) オンの場合、USER KEYS が点灯します。
		AFL to MON		Parameter1 で指定したモニターの AFL to MON のオン／オフを切り換えます。(→ 91 ページ「⑧ PFL to MON 1 / AFL to MON 1 ボタン」、→ 92 ページ「⑭ PFL to MON 2 / AFL to MON 2 ボタン」) オンの場合、USER KEYS が点灯します。
		MON 2 FOLLOW MON 1 FOLLOW		Parameter1 で指定したモニターの FOLLOW のオン／オフを切り換えます。(→ 90 ページ「⑤ MON 2 FOLLOW ボタン」、→ 92 ページ「⑩ MON 1 FOLLOW ボタン」) オンの場合、USER KEYS が点灯します。
		ADD		Parameter1 で指定したモニターの ADD 機能のオン／オフを切り換えます。(→ 91 ページ「⑦ ADD ボタン (MONITOR 1)」、→ 92 ページ「⑬ ADD ボタン (MONITOR 2)」) オンの場合、USER KEYS が点灯します。
		STEREO/MONO	MONO COLOR (USER KEYのみ)	Parameter1 で指定したモニターの STEREO/MONO を切り換えます。 STEREO に設定されている場合、この USER KEYS の設定色で点灯します。 MONO に設定されている場合、Parameter3: MONO COLOR で設定した色で点灯します。
	Exclusive	MON 1/MON 2	MON 2 COLOR (USER KEYのみ)	モニターの排他選択を MONITOR 1 と MONITOR 2 で交互に切り換えます。 <ul style="list-style-type: none"> • MONITOR 1 が選択されているときは、USER KEYS の設定色で点灯します。 • MONITOR 2 が選択されているときは、Parameter3 の設定色で USER KEYS が点灯します。 • Monitor Exclusive 機能がオフの場合は USER KEYS は消灯し、動作しません。
		MONITOR 1 MONITOR 2		このキーを押すと、Parameter2 で設定したモニターを排他選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Parameter2 で設定したモニターが選択されているときは、USER KEYS の設定色で点灯します。 • Monitor Exclusive 機能がオフの場合は USER KEYS が消灯し、動作しません。
SOLO	PFL/AFL	AFL COLOR (USER KEYのみ)		SOLO TYPE の PFL / AFL を切り換えます。 SOLO TYPE が PFL の場合、この USER KEYS の設定色で点灯します。SOLO TYPE が「AFL」の場合、Parameter2: AFL Color で設定した色で点灯します。
OSC	ON/OFF			内蔵オシレーターの信号のオン／オフを切り換えます。 設定がオンの場合、USER KEYS が点灯します。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
Talkback	TALKBACK Key to MIX1-to MIX22 to MAIN L/R to Selected BUS to MON 1 to MON 2 to EXT 1 to EXT 2	Single Key +SLATE Key		<ul style="list-style-type: none"> Parameter1 が「TALKBACK Key」の場合、フロントパネルのTALKBACKキーと同じ動作をします。TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP 画面 TALKBACK タブ画面の TALKBACK KEY ボタンにアサインされた出力先へのTALKBACK出力のオン／オフを切り換えます。オンの場合、USER KEYSが点灯します。 Parameter1 が「to ~」の場合、対応する出力先へのTALKBACK出力のオン／オフを切り換えます。オンの場合、USER KEYSが点灯します。 Parameter2 で「Single Key」を選択した場合、このキー単独で動作します。USERキーの場合、このキーを押してすぐ離すと、オン状態を保持し、もう一度押すとオフになります。このキーを押し続けると、押している間だけオンになり、離すとオフになります。 Parameter2 で「+SLATE Key」を選択した場合、Function: Talkback / Parameter1: SLATE Keyを設定したUSERキー／FOOTSWITCH／GPIO-INを先に押した状態で、このキーを押している間だけ、Parameter1 の出力先へのTALKBACK出力をオンにします。
	SLATE Key			
Return Talkback	to Selected BUS to MON 1 to MON 2 to EXT OUT to SOLO	Single Key + SLATE Key		<ul style="list-style-type: none"> Parameter1 が「to ~」の場合、対応する出力先へのRETURN TALKBACK出力のオン／オフを切り換えます。オンの場合、USER KEYSが点灯します。 Parameter2 で「Single Key」を選択した場合、このキー単独で動作します。USERキーの場合、このキーを押してすぐ離すと、オン状態を保持し、もう一度押すとオフになります。このキーを押し続けると、押している間だけオンになり、離すとオフになります。 Parameter2 で「+SLATE Key」を選択した場合、Function: Return Talkback / Parameter1: SLATE Keyを設定したUSERキー／FOOTSWITCH／GPIO-INを先に押した状態で、このキーを押している間だけ、Parameter1 の出力先へのRETURN TALKBACK出力をオンにします。
	SLATE Key			
AUTO MIXER	TOP PRIORITY			AUTO MIXERのTOP PRIORITY設定のON / OFFを切り換えます。 オンの場合、USER KEYSが点灯します。
	PRIORITY A-D			AUTO MIXERのグループPRIORITY設定のON / OFFを切り換えます。 オンの場合、USER KEYSが点灯します。
	LO CUT A-D ON/OFF			AUTO MIXERグループ (A/B/C/D) のLO CUT ボタンのオン／オフを切り換えます。 オンの場合、USER KEYSが点灯します。
	GROUP A-D ON/OFF			AUTO MIXERグループ (A/B/C/D) のオン／オフを切り換えます。 オンの場合、USER KEYSが点灯します。
	AUTO MIXER ON/OFF			AUTO MIXER機能のオン／オフを切り換えます。 オンの場合、USER KEYSが点灯します。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
AFV	ON/OFF			Audio Follow Video機能全体のオン／オフを切り換えます。(→ 210 ページ「MODULE (Audio Follow Video) 画面」) オンの場合、USER KEYSが点灯します。
	MODULE ON/OFF	CH1-40 STIN1-2 FXRTN1-4 MIX1-22 MAIN L/R		モジュールごとのAudio Follow Video機能のオン／オフを切り換えます。 オンの場合、USER KEYSが点灯します。
	Trigger Source Emulate (USER KEYのみ)	GPIO-IN 1-8 #--- GPIO-IN 1-8 #--- GPIO-IN 1-8 #--- GPIO-IN 1-8 #--- GPIO-IN 1-8 FOOT SW	Unlatch Latch	Parameter2 で指定したTrigger Source (GPIO-IN ポート、FOOT SW) によるAFVトリガー入力を、USER KEY操作でエミュレートします。 Parameter3 が「Unlatch」の場合、以下のように動作します。 <ul style="list-style-type: none"> このキーを押すと、Parameter2 で選択したTrigger SourceのClosed状態をエミュレートします。 このキーを離すと、Parameter2 で選択したTrigger SourceのOpen状態をエミュレートします。 Parameter3 が「Latch」の場合、以下のように動作します。 <ul style="list-style-type: none"> AFV動作していないときにこのキーを押すと、Parameter2 で選択したTrigger SourceのClosed状態をエミュレートします。 AFV動作中にこのキーを押すと、Parameter2 で選択したTrigger SourceのOpen状態をエミュレートします。 USER KEYがParameter2 で選択したTrigger SourceのClosed状態をエミュレートしている間、対応するUSER KEYSが点灯します。
LED Indication (USER KEYのみ)	GPIO-IN	GPIO-IN 1-8 #--- GPIO-IN 1-8 #--- GPIO-IN 1-8 #--- GPIO-IN 1-8 #--- GPIO-IN 1-8	Closed-LIT Open-LIT	<ul style="list-style-type: none"> Parameter1、2 で指定したGPIO-IN / OUT信号によって、該当するUSER KEYSを点灯します。 Parameter3 が「Closed-LIT」の場合、選択したGPIO-IN / OUT信号が短絡状態 (Closed) になると該当するUSER KEYSを点灯します。
	GPIO-OUT	GPIO-OUT 1-8 #--- GPIO-OUT 1-8 #--- GPIO-OUT 1-8 #--- GPIO-OUT 1-8 #--- GPIO-OUT 1-8	Closed-LIT Open-LIT	<ul style="list-style-type: none"> Parameter3 が「Open-LIT」の場合、選択したGPIO-IN / OUT信号が開放状態 (Open) になると該当するUSER KEYSを点灯します。 User Keyタブ画面だけで設定できます。 #---：接続されているSB-16DのID
	ON AIR Tally			OA Tally Inputに指定されたGPIO-IN ポートが短絡状態 (Closed) になると、該当するUSER KEYSを点灯します。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
LED Indication (USER KEYのみ)	MON DIM Status	TB DIM (MON 1)		MONITOR 1 において、TALKBACK操作による DIM が有効になると、該当する USER KEYS を点灯します。
		TB DIM (MON 2)		MONITOR 2 において、TALKBACK操作による DIM が有効になると、該当する USER KEYS を点灯します。
		TB DIM/DIM (MON 1)		MONITOR 1 において、TALKBACK操作による DIM、または DIM (→ 91 ページ「⑩ DIM ボタン (MONITOR 1)」) が有効になると、該当する USER KEYS を点灯します。
		TB DIM/DIM (MON 2)		MONITOR 2 において、TALKBACK操作による DIM、または DIM (→ 92 ページ「⑩ DIM ボタン (MONITOR 2)」) が有効になると、該当する USER KEYS を点灯します。
		TB DIM (MON 1/MON 2)		MONITOR 1 または MONITOR 2 において、TALKBACK操作による DIM が有効になると、該当する USER KEYS を点灯します。
		ALL		MONITOR 1 または MONITOR 2 において、TALKBACK操作による DIM、または DIM (→ 91 ページ「⑩ DIM ボタン (MONITOR 1)」、→ 92 ページ「⑩ DIM ボタン (MONITOR 2)」) が有効になると、該当する USER KEYS を点灯します。
OA Tally Input (GPIO-INのみ)				この機能は、1 つの GPIO-IN ポートにだけアサインできます。 この機能をアサインした GPIO-IN ポートが短絡状態 (Closed) になると、ON AIR Tally Inhibit 対象の設定 (→ 41 ページ「⑫ ON AIR Tally Inhibit 対象表示」) にしたがって ON AIR Tally Inhibit 動作を実施します。
Sends On Fader	MIX1-22 FX1-4			選択したバスの Sends On Fader モードのオン／オフを切り換えます。(→ 214 ページ「SENDS ON FADER 画面」)
DCA Spill	DCA 1-8			DCA スpillモードのオン／オフを切り換えます。 オンの場合、USER KEYS が点灯します。 メモ 該当 DCA に 1 つもモジュールがアサインされていない場合はオンになりません。
Recorder/Player	Recorder	REC		RECORDER / PLAYER 画面左側のレコーダー用 ● ボタン (録音ボタン) と同じ以下の動作をします。 • レコーダーが停止中に押すと、録音を開始します。レコーダーが録音一時停止中に押すと、録音を再開します。 • レコーダーが録音中または録音一時停止中は、USER KEYS が点灯します。
		PAUSE		RECORDER / PLAYER 画面左側のレコーダー用 ■ ボタン (一時停止ボタン) と同じ以下の動作をします。 • レコーダーが録音中に押すと、録音一時停止状態になります。 • レコーダーが録音一時停止中は、USER KEYS が点灯します。
		STOP		RECORDER / PLAYER 画面左側のレコーダー用 ■ ボタン (停止ボタン) と同じ以下の動作をします。 • レコーダーが録音中に押すと、録音を停止します。 • レコーダーが停止中は、USER KEYS が点灯します。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
Recorder/Player	Player	PLAY/PAUSE	PAUSE COLOR (USER KEYのみ)	<p>RECORDER / PLAYER画面右側のプレイヤーの再生／再生一時停止を操作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プレイヤーが再生中に押すと、再生を一時停止します。 • プレイヤーが停止中／再生一時停止中に押すと、再生を開始します。 • プレイヤーが再生中は、USER KEYSの設定色でキーが点灯します。 • プレイヤーが再生一時停止中は、Parameter3で設定した色でUSER KEYSが点灯します。
		PLAY		<p>RECORDER / PLAYER画面右側のプレイヤー用 ► ボタン（再生ボタン）と同じ動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プレイヤーが停止中／再生一時停止中に押すと、再生を開始します。 • プレイヤーが再生中は、USER KEYSが点灯します。
		PAUSE		<p>RECORDER / PLAYER画面右側のプレイヤー用 ■ ボタン（一時停止ボタン）と同じ以下の動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プレイヤーが再生中に押すと、再生を一時停止します。 • プレイヤーが再生一時停止中は、USER KEYSが点灯します。
		STOP		<p>RECORDER / PLAYER画面右側のプレイヤー用 ■ ボタン（停止ボタン）と同じ以下の動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プレイヤーが再生中に押すと、再生を停止します。 • プレイヤーが停止中は、USER KEYSが点灯します。
		FAST FORWARD		<p>RECORDER / PLAYER画面右側のプレイヤー用 ►► ボタンと同じ動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プレイヤーが停止中／再生中／再生一時停止中にこのキーを押すと早送りを開始し、押し続けるとその間早送りを行います。 • プレイヤーが早送り中にこのキーを押すと、早送り前の状態に戻ります。 • プレイヤーが早送り中、USER KEYSが点灯します。
		REWIND		<p>RECORDER / PLAYER画面右側のプレイヤー用 ◀◀ ボタンと同じ動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プレイヤーが停止中／再生中／再生一時停止中にこのキーを押すと早戻しを開始し、押し続けるとその間早戻しを行います。 • プレイヤーが早戻し中にこのキーを押すと、早戻し前の状態に戻ります。 • プレイヤーが早戻し中、USER KEYSが点灯します。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
Recorder/Player	Player	FILE SKIP NEXT		RECORDER / PLAYER画面右側のプレイヤー用 ▶▶ ボタンと同じ動作をします。 <ul style="list-style-type: none"> プレイヤーが停止中／再生中／再生一時停止中に押すと、次のファイルにスキップします。
		FILE SKIP PREV		RECORDER / PLAYER画面右側のプレイヤー用 ◀◀ ボタンと同じ動作をします。 <ul style="list-style-type: none"> プレイヤーが停止中に押すと、手前のファイルにスキップします。 プレイヤーが再生中／再生一時停止中に押すとファイルの先頭に戻ります。 ファイルの先頭で停止しているときに押すと、手前のファイルにスキップします。
		DIRECT PLAY	1-100 (ファイル番号)	キーを押すと、RECORDER / PLAYER画面右側のプレイヤーにおいて、Parameter3 で指定された番号のファイルをファイルの先頭から再生します。プレイヤーが指定された番号のファイルを再生中は、USER KEYSが点灯します。
MTR	REC			MULTI TRACK RECORDER画面の ● ボタンと同じ以下の動作をします。 <ul style="list-style-type: none"> REC READYが1つ以上オン状態で停止中に押すと、録音一時停止状態になります。 MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEのとき、録音中に押すと録音は継続したままですが、現在のテイクへの録音を停止し、新しいテイクへの録音を継続します(テイクスプリット動作)。 MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのとき、録音一時停止中に押すと、新しいテイクへの録音一時状態になります。 MTR動作モードがOVERDUB MODEのとき、REC READYが1つ以上オン状態で再生中に押すと、パンチイン録音を開始します。 録音中／録音一時停止中は、USER KEYSが点灯します。 停止中／再生中は、USER KEYSが消灯します。
	PLAY			MULTI TRACK RECORDER画面の ▶ ボタンと同じ以下の動作をします。 <ul style="list-style-type: none"> 停止中／再生一時停止中に押すと、再生を開始します。 録音一時停止中に押すと、録音を再開します。 録音中／再生中は、インジケーターが点灯します。 停止中は、USER KEYSが消灯します。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
MTR	STOP			MULTI TRACK RECORDER画面の ■ ボタンと同じ以下の動作をします。 <ul style="list-style-type: none"> • 録音中／再生中に押すと、録音／再生を停止します。 • 停止中は、USER KEYSが点灯します。
	PAUSE			MULTI TRACK RECORDER画面の ■■ ボタンと同じ以下の動作をします。 <ul style="list-style-type: none"> • 停止中／再生中に押すと、再生一時停止状態になります。 • MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのとき、録音中に押すと、録音一時停止状態になります。 • MTR動作モードがOVERDUB MODEのときは、録音中には使用できません。 • 録音一時停止中や再生一時停止中は、USER KEYSが点灯します。
	FAST FORWARD			MULTI TRACK RECORDER画面の ►► (F.FWD) ボタンと同じ以下の動作をします。 <ul style="list-style-type: none"> • 停止中／再生中／再生一時停止中にこのキーを押すと早送りを開始し、押し続けるとその間早送りを行います。 • 早送り中にこのキーを押すと、早送り前の状態に戻ります。 • 早送り中は、USER KEYSが点灯します。
	REWIND			MULTI TRACK RECORDER画面の ◀◀ (REW) ボタンと同じ以下の動作をします。 <ul style="list-style-type: none"> • 停止中／再生中／再生一時停止中にこのキーを押すと早戻しを開始し、押し続けるとその間早戻しを行います。 • 早戻し中にこのキーを押すと、早戻し前の状態に戻ります。 • 早戻し中は、USER KEYSが点灯します。
	TAKE SKIP NEXT			MULTI TRACK RECORDER画面の ►► (SKIP NEXT) ボタンまたは ► (TO END) ボタンをタップしたときと同じ以下の動作をします。 MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのとき： <ul style="list-style-type: none"> • 停止中／再生中／再生一時停止中にタップすると、次のテイクにスキップします。 • スキップ中、USER KEYSが点灯します。 MTR動作モードがOVERDUB MODEのとき： <ul style="list-style-type: none"> • 停止中／再生中／再生一時停止中にタップすると、テイクの末尾にスキップします。 • スキップ中、USER KEYSが点灯します。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
MTR	TAKE SKIP PREV			<p>MULTI TRACK RECORDER画面の ◀◀ (TO TOP/SKIP PREV.)ボタンまたは ◀ (TO TOP) ボタンをタップしたときと同じ以下の動作をします。</p> <p>MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのとき：</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生中／再生一時停止中に押すと、カレントテイクの先頭に戻ります。 テイクの先頭で停止しているときに押すと、手前のテイクにスキップします。 スキップ中、USER KEYSが点灯します。 <p>MTR動作モードがOVERDUB MODEのとき：</p> <ul style="list-style-type: none"> 停止中／再生中／再生一時停止中にタップすると、テイクの先頭に戻ります。 スキップ中、USER KEYSが点灯します。
	MARK SKIP NEXT			<p>MULTI TRACK RECORDER画面の ▶ MARK SKIP ボタンをタップしたときと同じ以下の動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> このキーを押すと、現在の再生位置より後ろにあるマーク位置に移動します。
	MARK SKIP PREV			<p>MULTI TRACK RECORDER画面の ◀ MARK SKIP ボタンをタップしたときと同じ以下の動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> このキーを押すと、現在の再生位置より前にあるマーク位置に移動します。
	Undo/Redo	Undo Color (USER KEYのみ)	Redo Color (USER KEYのみ)	<p>MULTI TRACK RECORDER画面の UNDO / REDO ボタンをタップしたときと同じ以下の動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> キーがParameter2の UNDO色（初期値：青）で点灯しているときに押すと、UNDOを実行します。 キーがParameter3の REDO色（初期値：橙）で点灯しているときに押すと、REDOを実行します。 キーが消灯しているときは、UNDO/REDOは実行できません。
	Punch IN/OUT			<p>MULTI TRACK RECORDERの PUNCH IN/OUT操作を行います。</p> <p>MTR動作モードがOVERDUB MODEのとき、REC READYが1つ以上オン状態で再生中に押すと、パンチイン録音を開始します。</p> <p>録音中に押すと、パンチアウトして再生を継続します。</p>
	SET MARK			<p>MULTI TRACK RECORDER画面の SET MARK ボタンをタップしたときと同じ以下の動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> このキーを押すと、現在の録音／再生時刻にマークポイントを設定します。 押している間、USER KEYSが点灯します。
	SOUND CHECK	SOUND CHECK		<p>MULTI TRACK RECORDER画面の SOUND CHECK ボタンをタップしたときと同じ動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> SOUND CHECKモードが「ON」の場合、USER KEYSが点灯します。
		YES		<p>MTRの SOUND CHECKの確認メッセージが表示されているときにこのボタンを押すと、確認メッセージのYESボタンをタップしたときと同じ動作をします。</p>

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
MTR	IN-OUT	SET IN		MULTI TRACK RECORDER画面のSET IN ボタンをタップしたときと同じ動作をします。 • IN ポイントが設定されている場合、USER KEYS が点灯します。
		SET OUT		MULTI TRACK RECORDER画面のSET OUT ボタンをタップしたときと同じ動作をします。 • OUT ポイントが設定されている場合、USER KEYSが点灯します。
		I-O CLEAR		MULTI TRACK RECORDER画面のCLEAR ボタンをタップしたときと同じ動作をします。 • 押している間、USER KEYSが点灯します。
	REPEAT			MULTI TRACK RECORDER画面のリピーモード設定ボタンをタップしたときと同じ動作をします。 • リピーモードが「OFF」以外の場合、USER KEYSが点灯します。
	REHEARSAL			MULTI TRACK RECORDER画面のREHEARSAL ボタンをタップしたときと同じ動作をします。 • REHEARSAL モードが「ON」の場合、USER KEYS が点灯します。 • MTR動作モードがOVERDUB MODEのときのみ動作します。
Input Source	CH1-40 STIN1-2 ALL	A B Toggle	B COLOR	Parameter1 で指定したモジュールの入力ソースを切り換えます。 Parameter1 が「ALL」で、Parameter2 が「Toggle」の場合、各モジュールのINPUT SOURCEの状態にかかわらず起動時はUSER KEYSの設定色で点灯します。 USER KEYSを押すと、INPUT SOURCEはすべて「INPUT B」に変わり、USER KEYSはParameter3：B COLORで設定した色で点灯します。
Insert On/Off	CH1-40 MIX1-22 MAIN L/R			Parameter1 で指定したモジュールのINSERTのON / OFFを切り換えます。 該当する設定がオンの場合、USER KEYSが点灯します。
Send On/Off	CH1-40 STIN1-2 FXRTN1-4 MIX1-22 MAIN L/R	MIX1-22 FX1-4 MAIN L/R		Parameter1 で指定したモジュールからParameter2 で指定したバスへのSENDのON / OFFを切り換えます。 該当する設定がオンの場合、USER KEYSが点灯します。
Mute	CH1-40 STIN1-2 FXRTN1-4 MIX1-22 MAIN L/R DCA1-8 Mute Group1-8	Mute - LIT Unmute - LIT (USER KEYのみ)		<ul style="list-style-type: none"> 指定したモジュールのMUTE / UNMUTEを切り換えます。 Parameter2 が「Mute - LIT」の場合、MUTE状態のときにUSER KEYSが点灯します。 Parameter2 が「Unmute - LIT」の場合、UNMUTE状態のときにUSER KEYSが点灯します。
		Closed - Mute Closed - Unmute (FOOT Switch/GPIO-IN)		<ul style="list-style-type: none"> 指定したモジュールのMUTE / UNMUTEを切り換えます。 Parameter2 が「Closed - Mute」の場合、FOOTSWITCH / GPIO-INが短絡状態（Closed）になるとMUTE状態になります。 Parameter2 が「Closed - Unmute」の場合、FOOTSWITCH / GPIO-INが短絡状態（Closed）になるとUNMUTE状態になります。
FX Send Mute	FX1-4	Mute - LIT Mute - UNLIT		指定したFX1-4 に対するSENDのMUTE処理のオン / オフを切り換えます。 Parameter2 が「Mute - LIT」の場合は、MUTE時にUSER KEYが点灯します。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
Tap Tempo	FX1-4	Delay1-3		<p>選択したエフェクトのタイプがDELAYのとき、DELAY TIMEをタップテンポ入力します。(→ 191 ページ「MODULE (FX) 画面」)</p> <p>エフェクトタイプが「DELAY LCR」以外のDELAYのときは、Parameter2 に「Delay1」を設定します。エフェクトタイプが「DELAY LCR」のときは、Parameter2 を以下のように設定します。</p> <p>操作したいパラメーター : Parameter2 の設定</p> <p>DELAY TIME L : Delay1</p> <p>DELAY TIME C : Delay2</p> <p>DELAY TIME R : Delay3</p>
Screen	Information	ERROR COLOR (USER KEYのみ)		<p>右端のタッチスクリーンにINFORMATION画面を表示します。この際、本機が正常に動作しているときは、最後にINFORMATION画面を表示したときのタブ画面を表示します。</p> <p>本機にエラーまたは注意事項が発生しているときは、ERRORタブ画面を表示します。</p> <p>INFORMATION画面のいずれかのタブ画面が表示されているときに該当するUSER KEYSを押すと、この画面を閉じます。また、INFORMATION画面が表示されているかどうかにかかわらず、該当するUSER KEYSは以下のように点灯／点滅します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本機が正常に動作しているとき：USER KEYS設定色で点灯 • 本機にエラーまたは注意事項が発生しているとき：Parameter2 で選択した色で点滅
	Snapshot			<p>右端のタッチスクリーンにSNAPSHOT画面を表示し、該当するUSER KEYSを点灯します。</p> <p>この画面が表示されているときに該当するUSER KEYSを押すと、この画面を閉じます。</p>
	METER	ALL LAYERS OUTPUTS LAYER1-7 LAST TAB		<p>METER画面のParameter2 で指定したタブ画面を右端タッチスクリーンに表示し、該当するUSER KEYSを点灯します。</p> <p>この画面が表示されているときに該当するUSER KEYSを押すと、この画面を閉じます。</p>
	METER SETUP	METERING POINT METER HEADROOM		<p>METER SETUP画面のParameter2 で指定したタブ画面を右端タッチスクリーンに表示し、該当するUSER KEYSを点灯します。</p> <p>この画面が表示されているときに該当するUSER KEYSを押すと、この画面を閉じます。</p>
	TB/Monitor/OSC	TALKBACK		<p>TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面 TALKBACKタブ画面を右端タッチスクリーンに表示し、該当するUSER キーを点灯します。</p> <p>この画面が表示されているときに該当するUSER KEYSを押すと、この画面を閉じます。</p>
		RETURN TALKBACK		<p>TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面 RETURN TALKBACKタブ画面を右端タッチスクリーンに表示し、該当するUSER キーを点灯します。</p> <p>この画面が表示されているときに該当するUSER KEYSを押すと、この画面を閉じます。</p>
		MONITOR 1/2		<p>TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面 MONITOR 1/2 タブ画面を右端タッチスクリーンに表示し、該当するUSER キーを点灯します。</p> <p>この画面が表示されているときに該当するUSER KEYSを押すと、この画面を閉じます。</p>
		SOLO/OSCILLATOR		<p>TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面 SOLO/OSCILLATORタブ画面を右端タッチスクリーンに表示し、該当するUSER キーを点灯します。</p> <p>この画面が表示されているときに該当するUSER KEYSを押すと、この画面を閉じます。</p>

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
Screen	ROUTING	Input Port Input Module Output Module Output Port Analog GAIN		右側のタッチスクリーンにROUTING画面を表示します。
	SEND OVERVIEW	MIX1-22 FX1-4 MAIN L/R	LCD L LCD C (Sonicview 24 / 24dpのみ) LCD R	Parameter3 で指定されたタッチスクリーンにParameter2 で指定されたバスの Send Overview画面を表示し、該当するUSER KEYSを点灯します。この画面が表示されているときに該当するUSER KEYSを押すと、この画面を閉じます。
	MODULE(FX)	FX RTN1-4	LCD L LCD C (Sonicview 24 / 24dpのみ) LCD R	Parameter3 で指定されたタッチスクリーンに、Parameter2 で指定されたFXのMODULE (FX) 画面を表示し、該当するUSER KEYSを点灯します。この画面が表示されているときに該当するUSER KEYSを押すと、この画面を閉じます。
	HOME	SEND 1st BLOCK SEND 2nd BLOCK SEND 3rd BLOCK SEND 4th BLOCK SEND 5th BLOCK SEND 6th BLOCK SEND 7th BLOCK BUS ASSIGN AUTO MIXER AFV		タッチスクリーンにParameter2 で指定されたブロックの4つのSendバス、すべてのSendバス、AUTO MIXER設定、またはAudio Follow Video機能のパラメーター設定を表示したホーム画面を表示し、該当するUSER KEYSを点灯します。
	AUTO MIXER			右端のタッチスクリーンにAUTOMATIC MIXER画面を表示し、該当するUSER KEYSを点灯します。この画面が表示されているときに該当するUSER KEYSを押すと、この画面を閉じます。
	RECORDER/PLAYER			右端のタッチスクリーンにRECORDER / PLAYER画面を表示し、該当するUSER KEYSを点灯します。この画面が表示されているときに該当するUSER KEYSを押すと、この画面を閉じます。
	MULTI TRACK RECORDER			右端のタッチスクリーンにMULTI TRACK RECORDER画面を表示し、該当するUSER KEYSを点灯します。この画面が表示されているときに該当するUSER KEYSを押すと、この画面を閉じます。
	USER KEY EXTENSION			右側のタッチスクリーンにUSER KEY EXTENSION画面を表示します。
	ST2110	Audio Network Config. HOME		右側のタッチスクリーンにST2110 SETUP画面を表示します。
Label	Module Main Label Module Sub Label	User		Parameter1 で指定したMODULE LABEL表示モードを「USER」に切り換えます。MODULE LABEL表示モードが「USER」のときに該当USER KEYSが点灯します。
		Fixed		Parameter1 で指定したMODULE LABEL表示モードを「FIXED」に切り換えます。MODULE LABEL表示モードが「FIXED」のときに該当USER KEYSが点灯します。
		Port Label		Parameter1 で指定したMODULE LABEL表示モードを「PORT LABEL」に切り換えます。MODULE LABEL表示モードが「PORT LABEL」のときに該当USER KEYSが点灯します。
		Rotation		このキーを押すたびに、Parameter1 で指定したMODULE LABEL表示モードをUSER → FIXED → PORT LABELと順番に切り換えます。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
Label	Port Label	User		PORT LABELの表示モードを「USER」に切り換えます。PORT LABELの表示モードが「USER」のときに該当USER KEYSが点灯します。
		Fixed		PORT LABELの表示モードを「FIXED」に切り換えます。PORT LABELの表示モードが「PORT LABEL」のときに該当USER KEYSが点灯します。
		Toggle		このキーを押すたびに、PORT LABELの表示モードを「USER」と「FIXED」で交互に切り換えます。
User Defined Controls Lib	Recall	Current		カレントライブラリー（最後にSTORE／RECALLしたライブラリー）をRECALLします。
		Next		カレントライブラリー（最後にSTORE／RECALLしたライブラリー）の1つ後に存在するPreset以外のLIBRARYデータをRECALLします。
		Prev		カレントライブラリー（最後にSTORE／RECALLしたライブラリー）の1つ前に存在するPreset以外のLIBRARYデータをRECALLします。
		No.	001-128/P001	指定番号のLIBRARYをRECALLします。
		+Target Key		このキーとParameter1：Targetを設定されたキーを同時に押すと、TargetのParameter2で設定された番号のLIBRARYをRECALLします。
	Store	Current		カレントライブラリー（最後にSTORE／RECALLしたライブラリー）に上書きSTOREします。カレントライブラリーがP001（Preset）の場合は何もしません。
		No.	001-128	指定番号のLIBRARYにSTOREします。
		+Target Key		このキーとParameter1：Targetを設定されたキーを同時に押すと、TargetのParameter2で設定された番号にLIBRARYをSTOREします。ただし、TargetのParameter2が「Next」または「Prev」に設定されたキーと同時に押した場合は動作しません。
	Target	Current		RECALLやSTOREのParameter2：+Target Keyと組み合わせて使うターゲットを指定します。
		Next		
		Prev		
		No.	001-128/P001	
User Defined Controls Lib	Undo/Redo	Undo Color (USER KEYのみ)	Redo Color (USER KEYのみ)	LIBRARYのRECALLのUndo／Redoを実施します。Undo／Redoが実施可能な状態では、それぞれ設定した色で点灯します（Parameter2／3はUSER KEYSでのみ設定できます）。



第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

メモ

• Foot Switch / GPIO-IN :

- 以下の機能をアサイン時：Low レベル信号を入力している間、選択した機能がアクティブになります。また、同一機能が複数のGPIO-IN、フットスイッチにアサインされている場合は、いずれか1つの対象GPIO-IN、フットスイッチの信号がLowレベルならばアクティブ、すべての対象GPIO-IN、フットスイッチの信号がHighレベルならばインアクティブ（OR動作）となります。
- 以下の機能をアサインした状態での起動時とAll System DataのLoad時・Snapshot Recall時・User Defined Control LibraryのRecall時、GPIO-IN端子 / Foot Switchの状態にしたがって該当機能がアクティブ／インアクティブ状態になります。
 - Monitor Mute
 - Monitor DIM
 - Monitor PFL to MON
 - Monitor AFL to MON
 - Monitor FOLLOW
 - Monitor Stereo/Mono（LowレベルでMono）
 - SOLO（LowレベルでAFL）
 - OSC
 - Talkback
 - Return Talkback
 - AUTO MIXER
 - AFV
 - OA Tally Input
 - Insert On/Off
 - Send On/Off
 - Mute
 - FX Send Mute
- 以下の機能をアサイン時：50ms以上のLowレベル信号を入力すると、選択した機能が動作します。
 - Snapshot
 - User Key Library
 - Monitor Source Select
 - Monitor Exclusive MONITOR 1
 - Monitor Exclusive MONITOR 2
 - Sends On Fader
 - Recorder/Player
 - MTR
 - Input Source
 - Tap Tempo
 - Screen
 - Label
- 以下の機能をアサイン時：50ms以上のLowレベル信号を入力すると、選択した機能がON/OFFトグル動作します。
 - Monitor ADD
 - Monitor Exclusive MON 1/MON 2
- USERキー / FOOTSWITCH / GPIO-INでカレントSnapshot以外にSTOREしたSnapshot名は、「USER KEY」に3桁のスロット番号が追加されたものとなります。（例：USER KEY 018）
- Function = Snapshot / Parameter2 = Noに設定されている場合、Parameter3とカレントSnapshot番号が一致したら、該当するUSERキーが点灯します。
- Function = MTRが設定されたUSERキーを操作すると、右端のタッチスクリーンにMULTI TRACK RECORDER画面を表示します。ただし、現在のMTR動作モードだとMULTI TRACK RECORDER画面に該当機能のボタンがない場合には、操作してもMULTI TRACK RECORDER画面を表示しません。



GPIO-OUT タブ 画面

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
Fader Start	CH1-40 STIN1-2 FXRTN1-4 MIX1-22 MAIN L/R	Pulse 30msec Pulse 50msec Pulse 100msec Pulse 150msec Pulse 200msec Pulse 250msec Pulse 300msec	NORMAL-Open NORMAL-Closed	指定モジュールが下記の状態になったときに、Parameter2で指定した幅のパルス信号を出力します。Parameter3が「NORMAL-Open」の場合、  形状のパルス信号を出力します。Parameter3が「NORMAL-Closed」の場合、  形状のパルス信号を出力します。 <ul style="list-style-type: none">MUTEが「オフ」の状態、FADERレベルがフェーダースタートレベル設定値以下からフェーダースタートレベル設定値を超えたレベルに変化したときFADERレベルがフェーダースタートレベル設定値を超えている状態で、MUTEが「オン」から「オフ」に変化したとき

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明									
Fader Stop	CH1-40 STIN1-2 FXRTN1-4 MIX1-22 MAIN L/R	Pulse 30msec Pulse 50msec Pulse 100msec Pulse 150msec Pulse 200msec Pulse 250msec Pulse 300msec	NORMAL-Open NORMAL-Closed	指定モジュールが下記の状態になったときに、Parameter2で指定した幅のパルス信号を出力します。Parameter3が「NORMAL-Open」の場合、  形状のパルス信号を出力します。Parameter3が「NORMAL-Closed」の場合、  形状のパルス信号を出力します。 <ul style="list-style-type: none">MUTEが「オフ」の状態、FADERレベルがフェーダースタートレベル設定値を超えたレベルからフェーダースタートレベル設定値以下に変化したときFADERレベルがフェーダースタートレベル設定値を超えている状態で、MUTEが「オフ」から「オン」に変化したとき									
Fader Start/Stop	CH1-40 STIN1-2 FXRTN1-4 MIX1-22 MAIN L/R	Alternate	NORMAL-Open NORMAL-Closed	<div>指定モジュールのMUTEとFADERレベルの状態によって、出力する信号レベルが変化します。 指定モジュールのMUTEが「オフ」かつ、FADERレベルがフェーダースタートレベル設定値を超えているとき、Parameter3が「NORMAL-Open」の場合はローレベル信号をラッチ出力します。Parameter3が「NORMAL-Closed」の場合はハイレベル信号をラッチ出力します。</div> <table><tr><td>Parameter 3</td><td>指定モジュールのMUTEが「オン」、またはFADERレベルがフェーダースタートレベル設定値を超えていない</td><td>指定モジュールのMUTEが「オフ」、かつFADERレベルがフェーダースタートレベル設定値を超えている</td></tr><tr><td>NORMAL-Open</td><td>ハイレベル（Open）を出力</td><td>ローレベル（Closed）を出力</td></tr><tr><td>NORMAL-Closed</td><td>ローレベル（Closed）を出力</td><td>ハイレベル（Open）を出力</td></tr></table>	Parameter 3	指定モジュールのMUTEが「オン」、またはFADERレベルがフェーダースタートレベル設定値を超えていない	指定モジュールのMUTEが「オフ」、かつFADERレベルがフェーダースタートレベル設定値を超えている	NORMAL-Open	ハイレベル（Open）を出力	ローレベル（Closed）を出力	NORMAL-Closed	ローレベル（Closed）を出力	ハイレベル（Open）を出力
Parameter 3	指定モジュールのMUTEが「オン」、またはFADERレベルがフェーダースタートレベル設定値を超えていない	指定モジュールのMUTEが「オフ」、かつFADERレベルがフェーダースタートレベル設定値を超えている											
NORMAL-Open	ハイレベル（Open）を出力	ローレベル（Closed）を出力											
NORMAL-Closed	ローレベル（Closed）を出力	ハイレベル（Open）を出力											
Mute Status	CH1-40 STIN1-2 FXRTN1-4 MIX1-22 MAIN L/R DCA1-8 Mute Group1-8	SINGLE	Mute-Closed Mute-Open	<ul style="list-style-type: none">Parameter1で指定したモジュールのMUTE状態を出力します。Parameter3が「Mute-Closed」の場合、該当モジュールがMuteされているときに、ローレベル信号（Closed）をラッチ出力します。Parameter3が「Mute-Open」の場合、該当モジュールがMuteされているときに、ハイレベル信号（Open）をラッチ出力します。									
Mute Status	GPIO-OUT Group1-8	AND OR	Mute-Closed Mute-Open	<div>Parameter1で指定したGPIO-OUT Group1-8にアサインされた複数のモジュール群のMUTE状態を出力します。 グループの設定は、78ページ「STATUS OUT GROUP SETUP画面」で行います。</div> <ul style="list-style-type: none">Parameter2が「AND」でParameter3が「Mute-Closed」の場合、GPIO-OUT Group1-8にアサインされたすべて（AND）のモジュールがMUTEされているときに、ローレベル信号（Closed）をラッチ出力します。Parameter2が「AND」でParameter3が「Mute-Open」の場合、GPIO-OUT Group1-8にアサインされたすべて（AND）のモジュールがMUTEされているときに、ハイレベル信号（Open）をラッチ出力します。Parameter2が「OR」でParameter3が「Mute-Closed」の場合、GPIO-OUT Group1-8にアサインされたいずれか1つ（OR）のモジュールがMUTEされているときに、ローレベル信号（Closed）をラッチ出力します。Parameter2が「OR」でParameter3が「Mute-Open」の場合、GPIO-OUT Group1-8にアサインされたいずれか1つ（OR）のモジュールがMUTEされているときに、ハイレベル信号（Open）をラッチ出力します。									

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

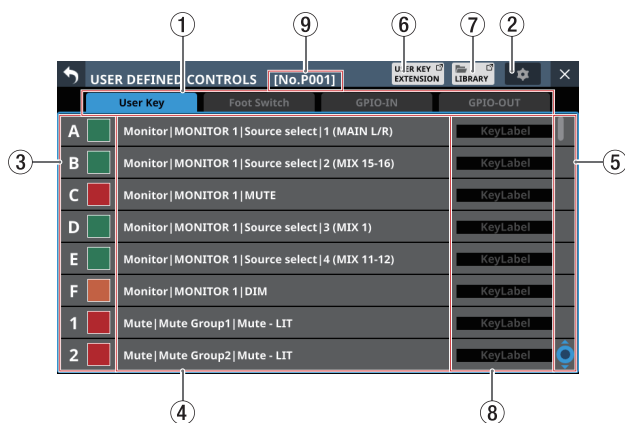
Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
Solo Status	CH1-40 STIN1-2 FXRTN1-4 MIX1-22 MAIN L/R DCA1-8	SINGLE	ON-Closed Off-Closed	<ul style="list-style-type: none"> Parameter1 で指定したモジュールのSOLO状態を出力します。 Parameter3 が「ON-Closed」の場合、該当モジュールが Solo ONのときに、ローレベル信号 (Closed) をラッチ出力します。 Parameter3 が「OFF-Closed」の場合、該当モジュールが Solo OFFのときに、ローレベル信号 (Closed) をラッチ出力します。
	GPIO-OUT Group1-8	AND OR	ON-Closed Off-Closed	<p>Parameter1 で指定した GPIO-OUT Group1-8 にアサインされた複数のモジュール群のSOLO状態を出力します。グループの設定は、78 ページ「STATUS OUT GROUP SETUP 画面」で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> Parameter2 が「AND」で Parameter3 が「ON-Closed」の場合、GPIO-OUT Group1-8 にアサインされたすべて (AND) のモジュールが Solo ONのときに、ローレベル信号 (Closed) をラッチ出力します。 Parameter2 が「AND」で Parameter3 が「OFF-Closed」の場合、GPIO-OUT Group1-8 にアサインされたすべて (AND) のモジュールが Solo OFFのときに、ローレベル信号 (Closed) をラッチ出力します。 Parameter2 が「OR」で Parameter3 が「ON-Closed」の場合、GPIO-OUT Group1-8 にアサインされたいずれか 1 つ (OR) のモジュールが Solo ONのときに、ローレベル信号 (Closed) をラッチ出力します。 Parameter2 が「OR」で Parameter3 が「OFF-Closed」の場合、GPIO-OUT Group1-8 にアサインされたいずれか 1 つ (OR) のモジュールが Solo OFFのときに、ローレベル信号 (Closed) をラッチ出力します。
	Solo Clear	LIT-Closed UNLIT-Closed		<ul style="list-style-type: none"> Solo Clearが点灯状態の時に GPIO-OUT ポートがローレベル信号 (Closed) になります。 Solo Clearが消灯状態の時に GPIO-OUT ポートがローレベル信号 (Closed) になります。
USER KEY OUT	USER KEY A-F USER KEY 1-12	Pulse 30msec Pulse 50msec Pulse 100msec Pulse 150msec Pulse 200msec Pulse 250msec Pulse 300msec Alt. Latch Alt. Unlatch	NORMAL-Open NORMAL-Closed	<p>Parameter1 で指定した USER KEYS を押すと、GPIO-OUT 端子の出力状態を変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Parameter2 が「Pulse xxx msec」の場合、Parameter1 で指定した USER KEYS を押すと、対応する GPIO-OUT 端子から Parameter2 で指定した幅のパルス信号を出力します。Parameter3 が「NORMAL-Open」の場合、 形状のパルス信号を出力します。Parameter3 が「NORMAL-Closed」の場合、 形状のパルス信号を出力します。 Parameter2 が「Alt.Latch」の場合、Parameter1 で指定した USER キーを押すと、対応する GPIO-OUT 端子からの出力がローレベルとハイレベルで交互に切り換わります。Parameter3 が「NORMAL-Open」の場合、初期状態でハイレベル (Open) を出力します。Parameter3 が「NORMAL-Closed」の場合、初期状態でローレベル (Closed) を出力します。 Parameter2 が「Alt.Unlatch」の場合、Parameter1 で指定した USER KEYS を押し続けている間だけ、対応する GPIO-OUT 端子から出力する信号レベルを変更します。Parameter3 が「NORMAL-Open」の場合、USER KEYS を押さない状態でハイレベル (Open)、USER KEYS を押すとローレベルを出力します。Parameter3 が「NORMAL-Closed」の場合、USER KEYS を押さない状態でローレベル (Closed)、USER KEYS を押すとハイレベルを出力します。
GPIO-IN OUT	GPIO-IN 1-8 #--- GPIO-IN 1-8 #--- GPIO-IN 1-8 #--- GPIO-IN 1-8 #--- GPIO-IN 1-8	NORMAL INVERT		<ul style="list-style-type: none"> Parameter1 で指定した GPIO-IN の入力状態 (ハイレベル／ローレベル) を GPIO-OUT に出力します。Parameter2 が「NORMAL」の場合、入力された状態をそのまま出力します。Parameter2 が「INVERT」の場合、入力された状態を反転して出力します。 #---：接続されている SB-16D の ID

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

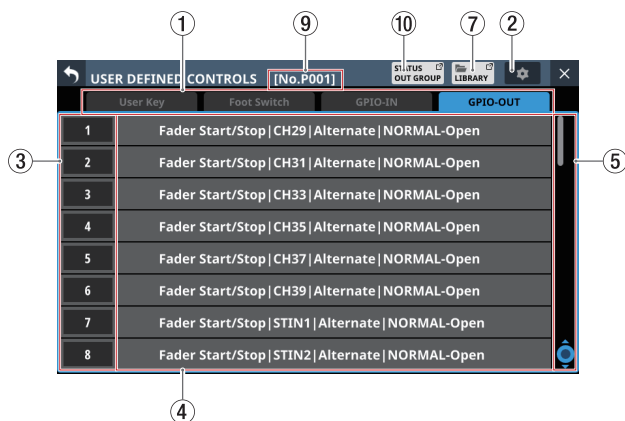
Function	Parameter1	Parameter2	Parameter3	機能説明
MTR Status	REC PLAY STOP PAUSE FAST FORWARD REWIND TAKE SKIP NEXT TAKE SKIP PREV			MTRの状態をGPIO-OUTポートに出力します。 選択した状態になっている間、LOWレベルを出力します。
AUTO MIXER Tally	TOP PRIORITY	NORMAL- Open NORMAL- Closed		AUTO MIXERのTOP PRIORITY設定のON / OFF状態をGPIO-OUTポートに出力します。 TOP PRIORITYがONのとき、Parameter2 が「NORMAL-Open」の場合はローレベル信号（Closed）をラッチ出力します。 Parameter3 が「NORMAL-Closed」の場合はハイレベル信号（Open）をラッチ出力します。
	PRIORITY A-D	NORMAL- Open NORMAL- Closed		AUTO MIXERグループ（A/B/C/D）のPRIORITYのオン／オフ状態をGPIO-OUTポートに出力します。 AUTO MIXERグループ（A/B/C/D）のPRIORITYがONのとき、Parameter2 が「NORMAL-Open」の場合はローレベル信号（Closed）をラッチ出力します。 Parameter3 が「NORMAL-Closed」の場合はハイレベル信号（Open）をラッチ出力します。
	LO CUT A-D ON/OFF	NORMAL- Open NORMAL- Closed		AUTO MIXERグループ（A/B/C/D）のLO CUTボタンのオン／オフ状態をGPIO-OUTポートに出力します。 AUTO MIXERグループ（A/B/C/D）のLO CUTがONのとき、Parameter2 が「NORMAL-Open」の場合はローレベル信号（Closed）をラッチ出力します。 Parameter3 が「NORMAL-Closed」の場合はハイレベル信号（Open）をラッチ出力します。
	GROUP A-D ON/OFF	NORMAL- Open NORMAL- Closed		AUTO MIXERグループ（A/B/C/D）がONの時、Parameter2 が「NORMAL-Open」の場合はローレベル信号（Closed）をラッチ出力します。 Parameter2 が「NORMAL-Closed」の場合はハイレベル信号（Open）をラッチ出力します。
	AUTO MIXER ON/OFF	NORMAL- Open NORMAL- Closed		AUTO MIXERがONの時、Parameter2 が「NORMAL-Open」の場合はローレベル信号（Closed）をラッチ出力します。 Parameter2 が「NORMAL-Closed」の場合はハイレベル信号（Open）をラッチ出力します。
Monitor Status	MONITOR 1 MONITOR 2	1-6		Parameter1 で指定したモニターのモニターソースの選択状態をGPIO-OUTに出力します。 Parameter2 で指定した番号のモニターソースが選択されているとき、ローレベル（Closed）を出力します。
		Mute		Parameter1 で指定したモニターのMUTEのオン／オフ状態をGPIO-OUTに出力します。 MUTEがONのとき、ローレベル（Closed）を出力します。
		Add		Parameter1 で指定したモニターのADD機能のオン／オフ状態をGPIO-OUTに出力します。 ADD機能がONのとき、ローレベル（Closed）を出力します。
ERROR/ALERT	ERROR (RED)	Power Status	ERROR-Closed NORMAL-Closed	<p>本機に表示されるエラーまたはアラートメッセージの有無をGPIO-OUTに出力します。</p> <p>注意</p> <p>Parameter2 で設定可能な「Power Status」項目は、電源二重化モデル専用です。シングル電源モデルでは正常に動作しません。</p>
	ALERT (YELLOW)	Power Status	ALERT-Closed NORMAL-Closed	
	ERROR or ALERT	Power Status	ERROR or ALERT-Closed NORMAL-Closed	
INFORMATION	Power Status	AC* DC* AC or DC* OFF	NG-Open	<p>本機に供給される電源電圧が、正常動作範囲内か範囲外かの状態をGPIO-OUTに出力します。</p> <p>注意</p> <p>「*」がついた項目は、電源二重化モデル専用です。シングル電源モデルでは正常に動作しません。</p>

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

USER DEFINED CONTROLS画面の構成



[User Keyタブ画面]



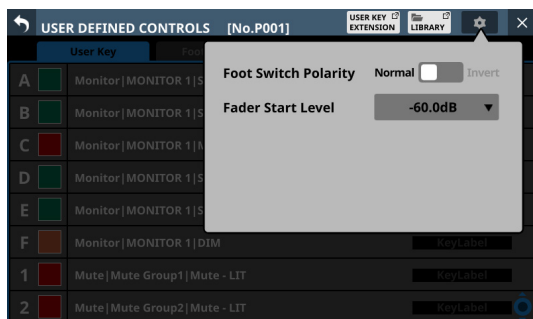
[GPIO-OUTタブ画面]

① タブ画面選択ボタン

このボタンをタップすると、表示する画面が切り換わります。

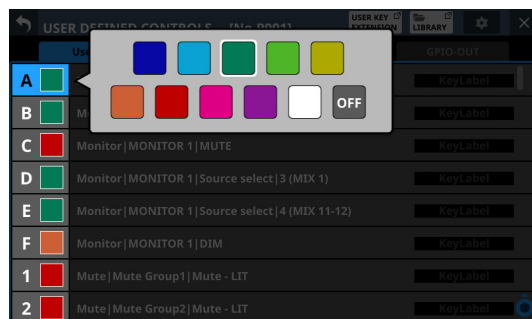
② 設定ボタン

このボタンをタップすると、フットスイッチの極性設定およびフェーダースタートレベルを設定するウィンドウを表示します。(→ 74 ページ「フットスイッチの極性を設定する」、→ 76 ページ「フェーダースタートレベルの設定」)



③ 操作子名／色ボタン (User Keyタブ画面のみ)

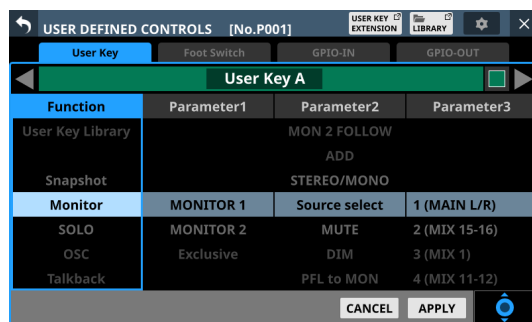
USER KEYSの機能が有効なときに点灯するキーの色を設定します。このボタンをタップすると、カラーパレットウィンドウを表示します。



カラーパレットの色をタップすると、カラーパレットウィンドウを閉じて、操作子名表示部の色が変更されます。

④ 設定機能名表示部

- 操作子にアサインされた機能名を表示します。
- このエリアをタップすると、各操作子の操作子設定表示に切り換わります。



⑤ スクロールノブ／スクロールバー表示

選択可能な選択肢が画面内に表示しきれない場合に表示します。表示をドラッグすることで選択肢がスクロールします。また、操作子名(③)／設定機能名表示部(④)を上下にスワイプする、またはLCDノブ8を回して選択肢をスクロールすることもできます。

⑥ USER KEY EXTENSION ボタン

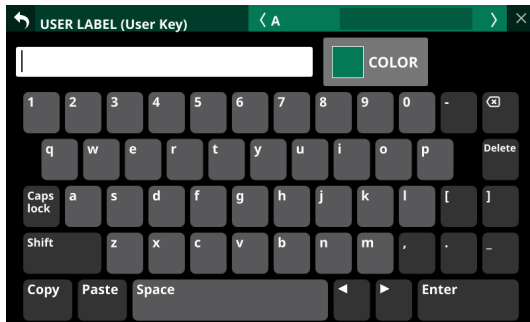
このボタンをタップすると、USER KEY EXTENSION画面に切り換わります。(→ 77 ページ「USER KEY EXTENSION画面」)


⑦ LIBRARY ボタン

このボタンをタップすると、USER DEFINED CONTROLS LIBRARY画面に切り換わります。(→ 258 ページ「USER DEFINED CONTROLS LIBRARY画面」)

⑧ Key Label表示エリア (User Key タブ画面のみ)

ラベル表示エリアをタップすると、USER LABEL (User Key) 画面に切り換わります。



- Key Labelの名前は、最大8文字です。
-  ボタンをタップすると、USER DEFINED CONTROLS画面に戻ります。
- Enterボタンをタップすると、入力対象が次のアサインに移動します。

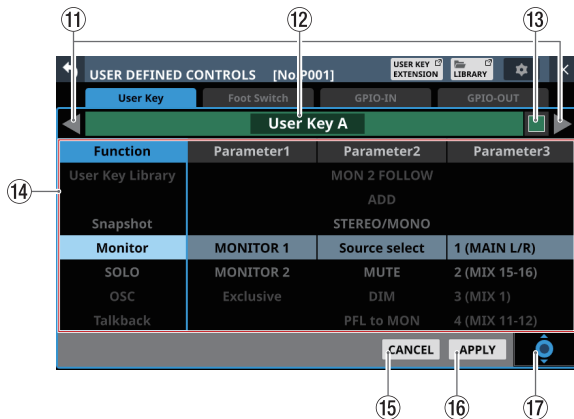
⑨ ライブラリー番号

最後にSTORE／RECALL対象のカレントライブラリー番号を表示します。

⑩ STATUS OUT GROUP ボタン (GPIO-OUT タブ画面のみ)

このボタンをタップすると、STATUS OUT GROUP SETUP画面に切り換わります。(→ 78 ページ「STATUS OUT GROUP SETUP画面」)

USER DEFINED CONTROLS画面の操作子設定表示



⑪ ボタン

このボタンをタップすると、編集対象の操作子が切り換わります。

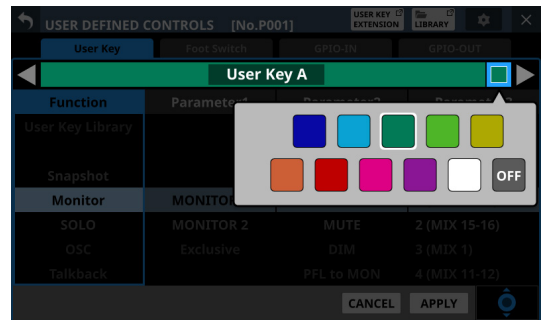
⑫ 操作子名表示部

選択中の操作子名を表示します。

⑬ ボタン (User Key タブ画面のみ)

USER KEYSの機能が有効なときに点灯するキーの色を設定します。

このボタンをタップすると、カラーパレットウィンドウを表示します。



カラーパレットの色をタップすると、カラーパレットウィンドウを閉じて、操作子名表示部の色が変更されます。

⑭ 機能リスト表示

- 操作子に設定可能な機能とパラメーターが4列でリスト表示されます。
- 列をタップして、設定を変更する対象を選択します。選択された列はハイライト表示になります。
- 設定を変更するには、ハイライト表示された列のリストを上下にスワイプします。LCDノブ8 (水色で点灯) を回して設定を変更することもできます。

⑮ CANCEL ボタン

このボタンをタップすると、変更した設定を破棄し、USER DEFINED CONTROLS画面に戻ります。

⑯ APPLY ボタン

このボタンをタップすると、変更した設定を確定し、USER DEFINED CONTROLS画面に戻ります。

⑰ スクロールノブアイコン

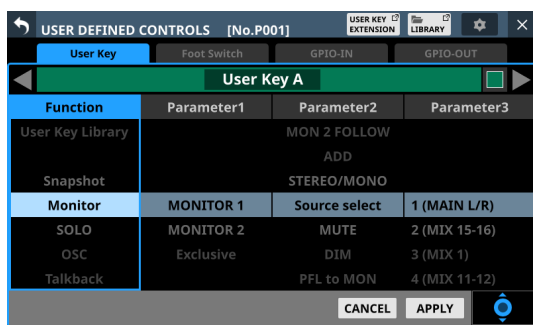
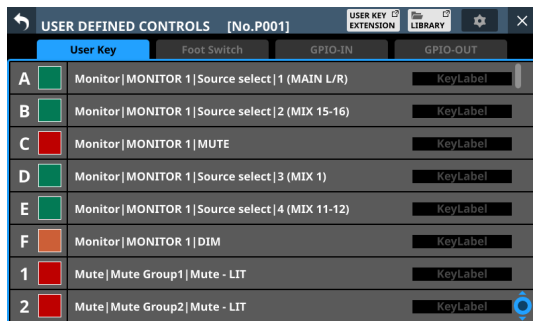
LCDノブ8 (水色で点灯) を用いてスクロールが可能であることを示すアイコンです。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

User Keyタブ画面

このタブ画面では、USER KEYS A-F キーおよびUSER KEYS 1-12 キーに機能をアサインします。

この画面は、メニュー画面 > Front Panel Setup メニュー > 「User Key Setup」をタップして表示します。



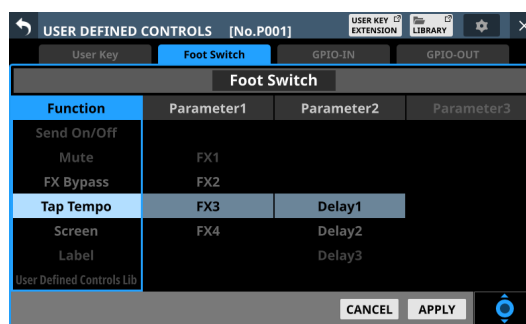
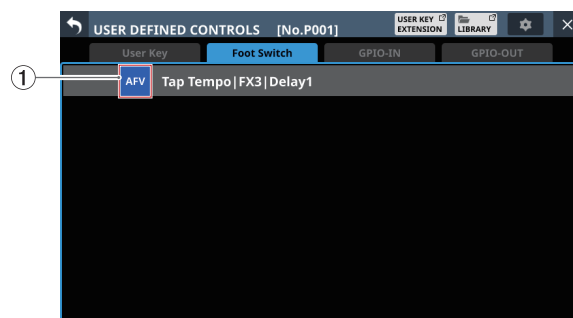
[User Key タブ画面の操作子設定表示]

工場出荷時の設定は、以下の通りです。

キー	点灯色	割り当て機能
USER KEYS A	緑	Monitor MONITOR 1 Source select 1 (MAIN L/R)
USER KEYS B	緑	Monitor MONITOR 1 Source select 2 (MIX 15-16)
USER KEYS C	赤	Monitor MONITOR 1 MUTE
USER KEYS D	緑	Monitor MONITOR 1 Source select 3 (MIX 1)
USER KEYS E	緑	Monitor MONITOR 1 Source select 4 (MIX 11-12)
USER KEYS F	オレンジ	Monitor MONITOR 1 DIM
USER KEYS 1	赤	Mute Mute Group1 Mute - LIT
USER KEYS 2	赤	Mute Mute Group2 Mute - LIT
USER KEYS 3	赤	Mute Mute Group3 Mute - LIT
USER KEYS 4	赤	Mute Mute Group4 Mute - LIT
USER KEYS 5	オレンジ	Sends On Fader MIX1
USER KEYS 6	オレンジ	Sends On Fader MIX2
USER KEYS 7	オレンジ	Sends On Fader MIX3
USER KEYS 8	オレンジ	Sends On Fader MIX4
USER KEYS 9	オレンジ	Sends On Fader MIX5
USER KEYS 10	オレンジ	Sends On Fader MIX6
USER KEYS 11	オレンジ	Sends On Fader MIX7
USER KEYS 12	オレンジ	Sends On Fader MIX8

Foot Switchタブ画面

このタブ画面では、フットスイッチに機能をアサインします。この画面は、メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「FOOT SW Setup」をタップして表示します。



[Foot Switch タブ画面の操作子設定表示]

① AFV表示

Foot SwitchがAudio Follow Video機能のトリガーソースとして選択されている場合は、ここに青色で「AFV」と表示されます。Foot Switchに複数の機能を重複してアサインしているかどうかを確認できます。

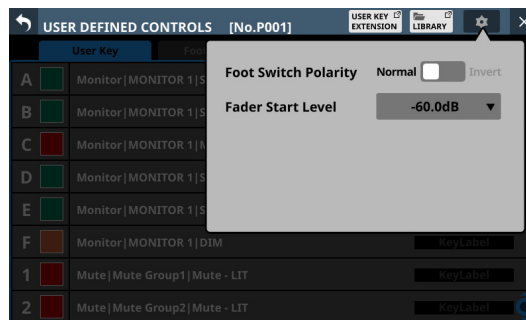
工場出荷時の設定は、「Tap Tempo | FX3 | Delay1」です。

フットスイッチの極性を設定する

本機は、フットスイッチとしてプッシュ・トゥ・メイク（押したときに短絡状態）のモーメンタリースイッチを使用する前提で設計されていますが、この極性を逆にすることができますので、プッシュ・トゥ・ブレイク（離したときに短絡状態）のスイッチも使用できます。

お使いのフットスイッチの極性に合わせて、本機の設定を変更することができます。

1. USER DEFINED CONTROLS画面の ボタンをタップして、設定ウィンドウを表示します。



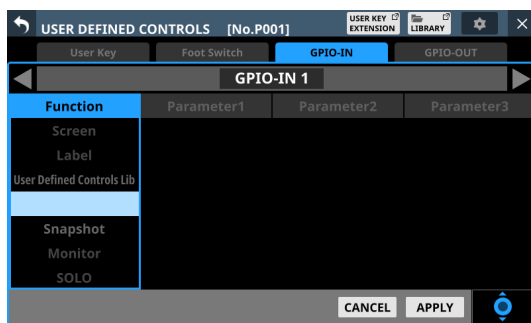
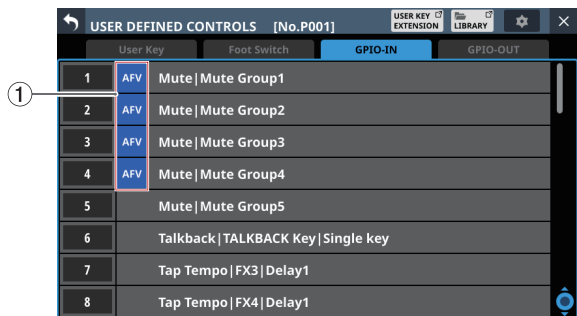
2. ウィンドウ内のFoot Switch Polarity項目のスライドスイッチをタップして、フットスイッチの極性を設定します。

選択肢：Normal（初期値）、Invert

GPIO-IN タブ画面

このタブ画面では、本機および内蔵 Dante 経由で接続されたマウント済み SB-16D の GPIO 入力端子に機能をアサインします。マウント済み SB-16D の GPIO 端子を使用する方法は、120 ページ「GPIO 拡張機能を使う」を参照ください。

この画面は、メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「GPIO Input Setup」をタップして表示します。



[GPIO-IN タブ画面の操作子設定表示]

① AFV表示

Audio Follow Video 機能のトリガーソースとして選択されているポートの場合は、ここに青色で「AFV」と表示されます。1 つのポートに複数の機能を重複してアサインしているかどうかを確認できます。

工場出荷時の設定は、機能未割り当ての状態となります。

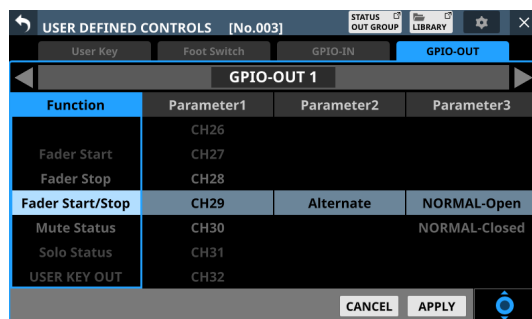
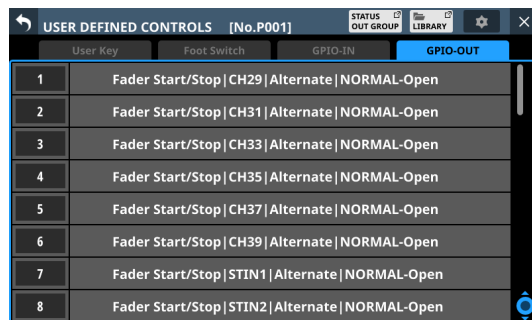
メモ

マウント済み SB-16D の GPIO 入力端子の工場出荷時の設定は、機能未割り当ての状態となります。

GPIO-OUT タブ画面

このタブ画面では、本機および内蔵 Dante 経由で接続されたマウント済み SB-16D の GPIO 出力端子に機能をアサインします。マウント済み SB-16D の GPIO 端子を使用する方法は、120 ページ「GPIO 拡張機能を使う」を参照ください。

この画面は、メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「GPIO Output Setup」をタップして表示します。



[GPIO-OUT タブ画面の操作子設定表示]

工場出荷時の設定は、以下の通りです。

ポート番号	割り当て機能
1	Fader Start/Stop CH29 Alternate NORMAL-Open
2	Fader Start/Stop CH31 Alternate NORMAL-Open
3	Fader Start/Stop CH33 Alternate NORMAL-Open
4	Fader Start/Stop CH35 Alternate NORMAL-Open
5	Fader Start/Stop CH37 Alternate NORMAL-Open
6	Fader Start/Stop CH39 Alternate NORMAL-Open
7	Fader Start/Stop STIN1 Alternate NORMAL-Open
8	Fader Start/Stop STIN2 Alternate NORMAL-Open


メモ

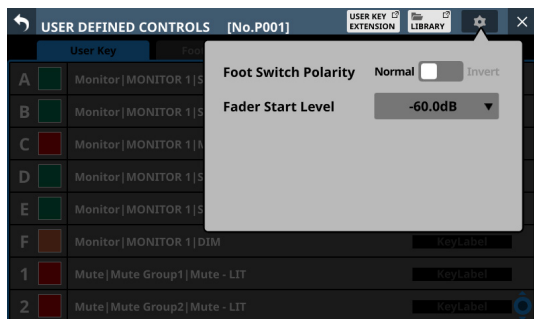
マウント済み SB-16D の GPIO 出力端子の工場出荷時の設定は、機能未割り当ての状態となります。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

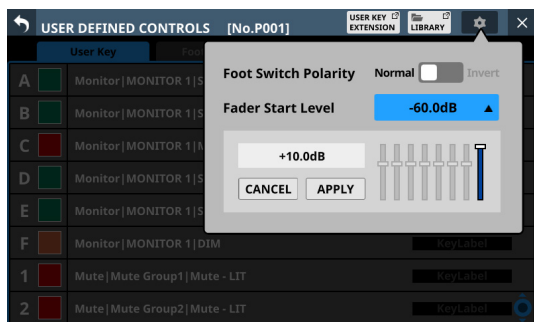
フェーダースタートレベルの設定

フェーダースタート／ストップ機能のトリガーレベルを設定します。(初期値：-60dB)

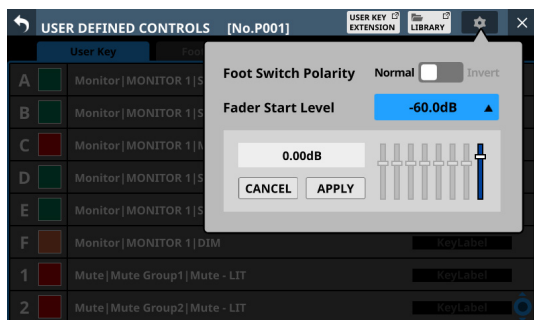
1. USER DEFINED CONTROLS画面の  ボタンをタップして、設定ウィンドウを表示します。



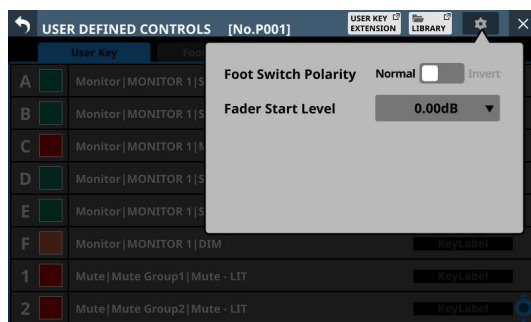
2. ウィンドウ内の Fader Start Level項目の設定レベル値をタップすると、ウィンドウが以下の表示に変わります。また、チャンネル画面の表示がフェーダースタート設定表示に切り換わります。



3. トップパネルの右端のチャンネルフェーダーを使って、スタートストップトリガーを出したいレベルに調節します。ウィンドウ内に調節した値が表示されます。



4. APPLYボタンをタップすると、該当するフェーダーの位置をフェーダースタートレベルに設定し、ウィンドウを閉じて通常表示に戻ります。

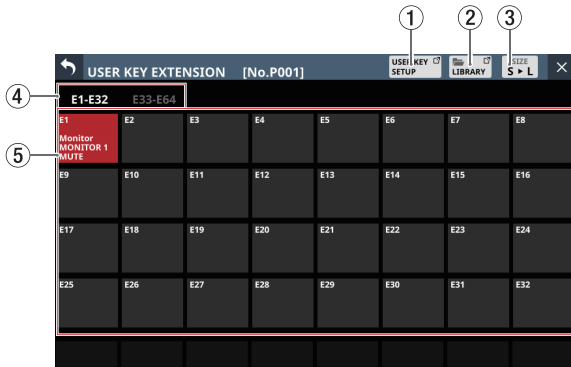


CANCELボタンをタップすると、ウィンドウを閉じて通常表示に戻ります。

USER KEY EXTENSION画面

この画面では、USER DEFINED CONTROLS画面でアサインした拡張USER KEYの機能を表示／実行することができます。
この画面は、以下の手順で表示します。

- メニュー画面 > Mixer Setup メニュー > 「User Key Extension」のタップ
- USER DEFINED CONTROLS画面のUSER KEY EXTENSIONボタンをタップ



① USER KEY SETUP ボタン

このボタンをタップすると、USER DEFINED CONTROLS画面に切り換わります。(→ 54 ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」)

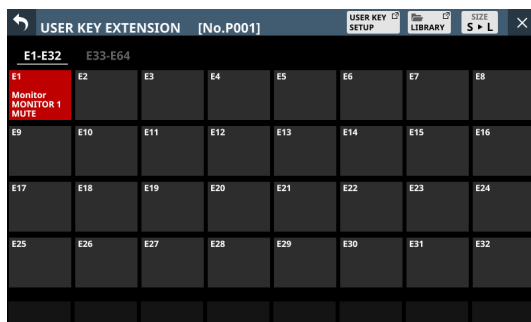
② LIBRARY ボタン

このボタンをタップすると、USER DEFINED CONTROLS LIBRARY画面に切り換わります。(→ 258 ページ「USER DEFINED CONTROLS LIBRARY画面」)

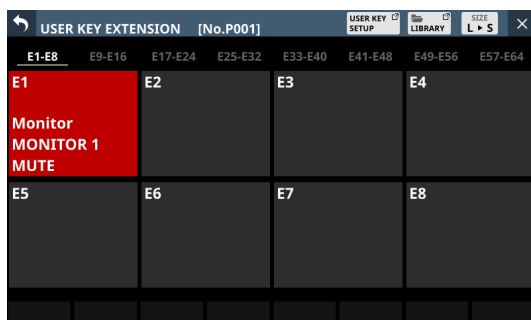
③ SIZE ボタン

USER KEYの表示サイズを切り換えます。
一度に表示できるアイテムの数は、次の通りです。

サイズS (32 個)



サイズL (8 個)



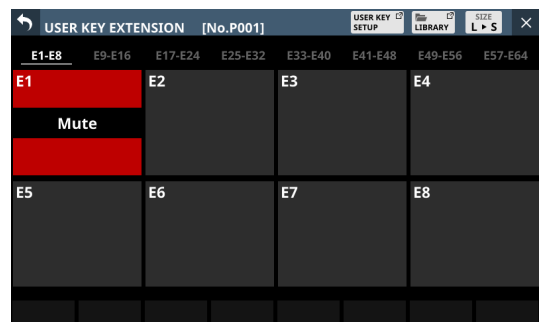
④ ページ切り換えボタン

選択されているページがハイライト表示になります。

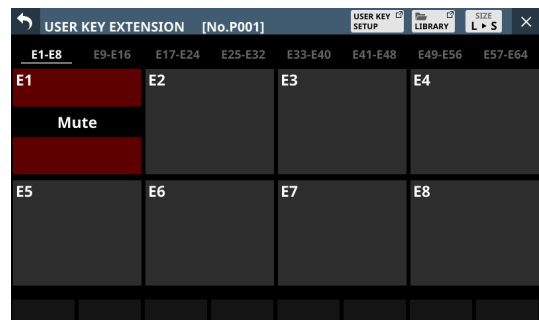
⑤ 拡張USER KEY表示

- 拡張USER KEYにアサインされている機能を表示します。
- 機能の実行は、表示されている各エリアをタップすることで行えます。
- 表示内容（色・機能など）は、USER DEFINED CONTROLS画面でのアサインが反映されます。
- USER KEYにラベルがつけられている場合は、黒い帯の上に登録されているラベルが表示されます。
また、USER KEYS A-FキーおよびUSER KEYS 1-12 キーに機能をアサイン時と同様に、実行ステータス等を表現するため、明るさが変わります。

- MUTE機能実行時の表示例



- MUTE機能非実行時の表示例



STATUS OUT GROUP SETUP画面

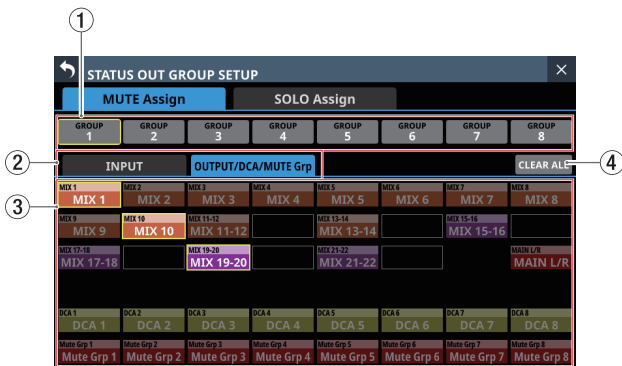
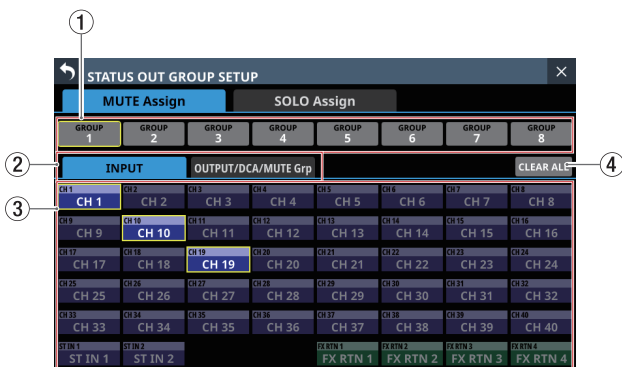
この画面では、GPIO-OUTポートのMUTE StatusおよびSOLO Statusのグループ設定を行います。

設定したグループをGPIO-OUTタブ画面のFunctionの設定がMute StatusまたはSolo StatusのときのParameter1で選択すると、該当のGPIO-OUTポートからそのグループのMUTEまたはSOLOの状態を出力します。

この画面は、メニュー画面>Rear Panel Setupメニュー>「GPIO Output Setup」のSTATUS OUT GROUPボタンをタップして表示します。

MUTE Assign タブ画面

GPIO-OUTタブ画面のFunctionの設定がMute StatusのときのParameter1で指定したGPIO-OUT Group1-8にアサインするモジュールを選択します。



① GROUP ボタン

GROUP番号を選択するボタンです。

② 選択タブ

選択したグループにアサインするモジュールタイプを選択するタブボタンです。

タップして選択したタブボタンがハイライト表示になります。

③ モジュールボタン

- 選択したグループにアサインするモジュールを選択するボタンです。

上段左側には、MODULE LABEL Subで設定したMODULE LABELを表示します。

下段には、MODULE LABEL Mainで設定したMODULE LABELを表示します。(→132ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)

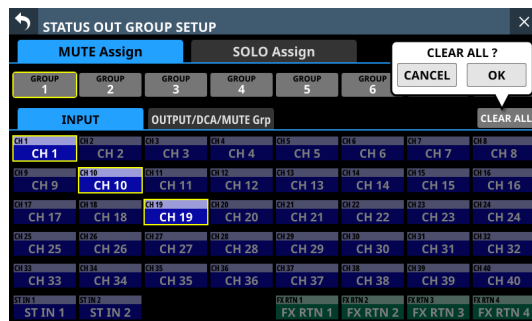
- このボタンをタップしてグループにアサインすると、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

ホーム画面のMODULE LABELエリアと同様に、各ボタン上段右側の上部にMute Groupへのアサイン状態を、下部にDCAへのアサイン状態を表示します。(→21ページ「⑫ MODULE LABELエリア」)

④ CLEAR ALL ボタン

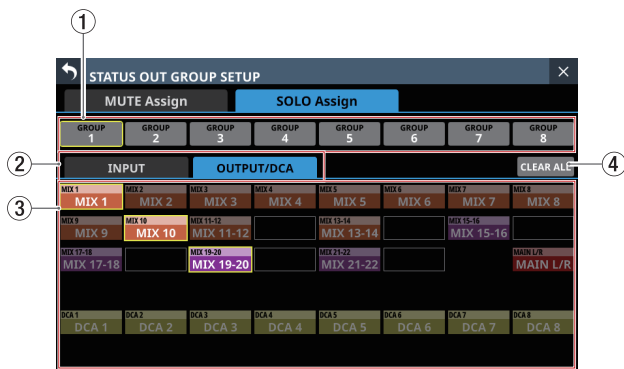
このボタンをタップすると、選択したMUTE AssignのGROUP番号の「INPUT」および「OUTPUT/DCA/MUTE Grp」のアサイン状態をすべてクリアするか確認するメッセージを表示します。



OKボタンをタップすると、アサイン状態をすべてクリアにします。

SOLO Assign タブ 画面

GPIO-OUT タブ 画面のFunctionの設定がSolo StatusのときのParameter1で指定したGPIO-OUT Group1-8にアサインするモジュールを選択します。



① GROUP ボタン

GROUP番号を選択するボタンです。

② 選択タブ

選択したグループにアサインするモジュールタイプを選択するタブボタンです。
タップして選択したタブボタンがハイライト表示になります。

③ モジュールボタン

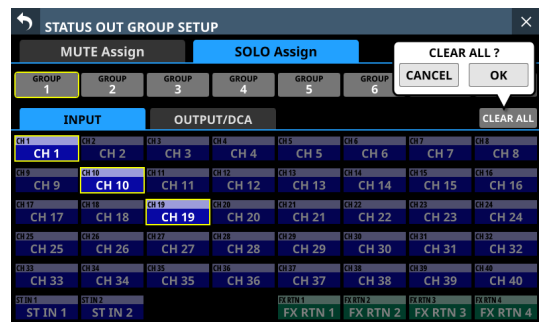
- 選択したグループにアサインするモジュールを選択するボタンです。
上段左側には、MODULE LABEL Subで設定したMODULE LABELを表示します。
下段には、MODULE LABEL Mainで設定したMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- このボタンをタップしてグループにアサインすると、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

ホーム画面のMODULE LABELエリアと同様に、各ボタン上段右側の上部にMute Groupへのアサイン状態を、下部にDCAへのアサイン状態を表示します。(→ 29 ページ「⑫ MODULE LABELエリア」)

④ CLEAR ALL ボタン

このボタンをタップすると、選択したSOLO AssignのGROUP番号の「INPUT」および「OUTPUT/DCA」のアサイン状態をすべてクリアするか確認するメッセージを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)

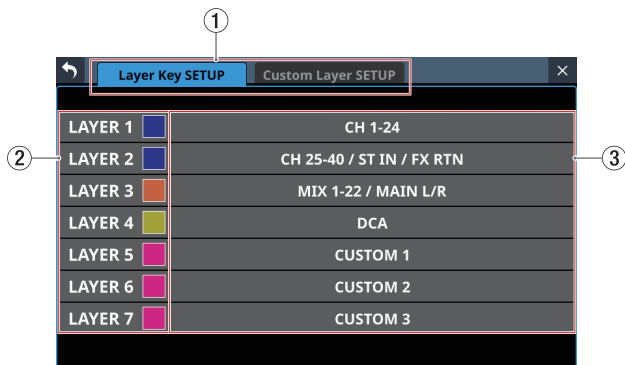


OKボタンをタップすると、アサイン状態をすべてクリアにします。

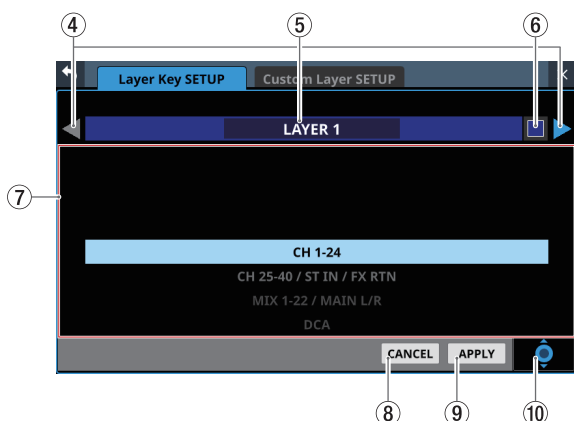
Layer Key SETUP タブ 画面

この画面では、LAYER KEYS 1-7 キーにチャンネルセットやカスタムレイヤーをアサインします。

この画面は、メニュー画面 > Front Panel Setup メニュー > 「Layer / Master Fader Setup」をタップして表示します。



[Sonicview 24 / 24dpの Layer Key SETUP画面]



[Layer Key SETUPのレイヤーキー設定画面]

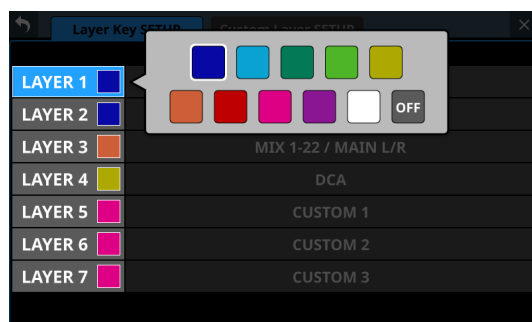
① タブ画面選択ボタン

このボタンをタップすると、表示する画面が切り換わります。

② レイヤーキー名表示部

LAYER KEYS 1-7 キーが選択されているときに点灯するキーの色を選択します。

このエリアをタップすると、カラーパレットウィンドウを表示します。



カラーパレットの色をタップすると、カラーパレットウィンドウを閉じて、レイヤーキー名ボタンの色が変更されます。

③ レイヤーキー設定表示部

- LAYER KEYS 1-7 キーにアサインされているチャンネルセットやカスタムレイヤーを表示します。
- このエリアをタップすると、各レイヤーキーの設定画面に切り換わります。

④ ◀ / ▶ ボタン

このボタンをタップすると、編集対象の LAYER KEYS 1-7 キーが切り換わります。

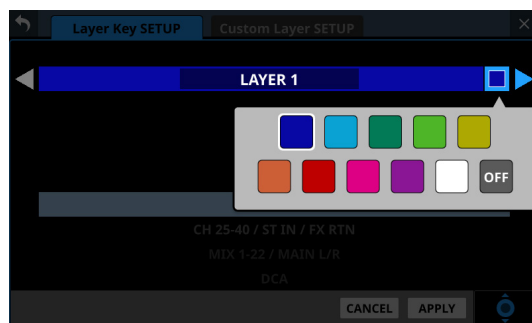
⑤ レイヤーキー名表示部

選択中の LAYER KEYS 1-7 キーの名前を表示します。

⑥ ■ ボタン

LAYER KEYS 1-7 キーが選択されているときに点灯するキーの色を選択します。

このボタンをタップすると、カラーパレットウィンドウを表示します。



カラーパレットの色をタップすると、カラーパレットウィンドウを閉じて、レイヤーキー名表示部の色が変更されます。

⑦ 設定リスト表示

- LAYER KEYS 1-7 キーに設定可能なチャンネルセットやカスタムレイヤーが表示されます。
- 設定を変更するには、リスト表示を上下にスワイプします。LCD ノブ 8（青で点灯）を使って、設定を変更することもできます。
- 選択できる設定は、以下の通りです。

機種	選択肢
Sonicview 16 / 16dp	CH 1-16
	CH 17-32
	CH 33-40 / ST IN / FX RTN
	MIX 1-16
	MIX 17-22 / MAIN L/R
	DCA
	CUSTOM 1
	CUSTOM 2
	CUSTOM 3
	CUSTOM 4
	CUSTOM 5
	CUSTOM 6
	CUSTOM 7
Sonicview 24 / 24dp	CH 1-24
	CH 25-40 / ST IN / FX RTN
	MIX 1-22 / MAIN L/R
	DCA
	CUSTOM 1
	CUSTOM 2
	CUSTOM 3
	CUSTOM 4
	CUSTOM 5
	CUSTOM 6
	CUSTOM 7

⑧ CANCEL ボタン

このボタンをタップすると、変更した設定を破棄し、レイヤー設定画面を閉じます。

⑨ APPLY ボタン

このボタンをタップすると、変更した設定を確定し、レイヤー設定画面を閉じます。

⑩ スクロールノブアイコン

LCD ノブ 8（水色で点灯）を用いてスクロールが可能であることを示すアイコンです。

LAYER KEYS 1-7 キーの初期設定

工場出荷時の設定は、以下の通りです。

Sonicview 16 / 16dp

キー	点灯色	割り当て機能
LAYER 1	青	CH 1-16
LAYER 2	青	CH 17-32
LAYER 3	青	CH 33-40 / ST IN / FX RTN
LAYER 4	オレンジ	MIX 1-16
LAYER 5	オレンジ	MIX 17-22 / MAIN L/R
LAYER 6	黄	DCA
LAYER 7	ピンク	CUSTOM 1

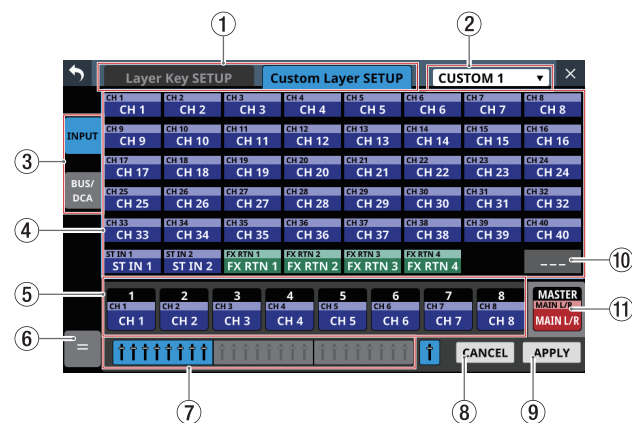
Sonicview 24 / 24dp

キー	点灯色	割り当て機能
LAYER 1	青	CH 1-24
LAYER 2	青	CH 25-40 / ST IN / FX RTN
LAYER 3	オレンジ	MIX 1-22 / MAIN L/R
LAYER 4	黄	DCA
LAYER 5	ピンク	CUSTOM 1
LAYER 6	ピンク	CUSTOM 2
LAYER 7	ピンク	CUSTOM 3

Custom Layer SETUP タブ画面

この画面では、設定リスト内のカスタムレイヤーにアサインするモジュール群と、MASTER フェーダーにアサインするモジュールを設定します。

この画面は、メニュー画面 > Front Panel Setup メニュー > 「Layer / Master Fader Setup」をタップして Layer Key SETUP 画面を表示し、Custom Layer SETUP タブをタップして表示します。



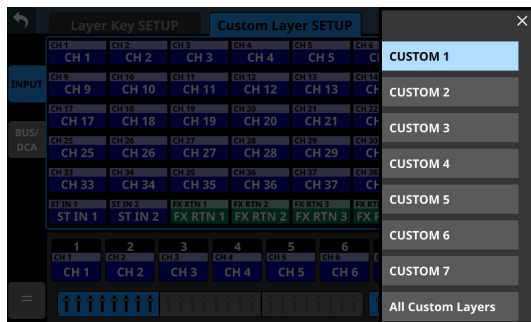
① タブ画面選択ボタン

このボタンをタップすると、表示する画面が切り換わります。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

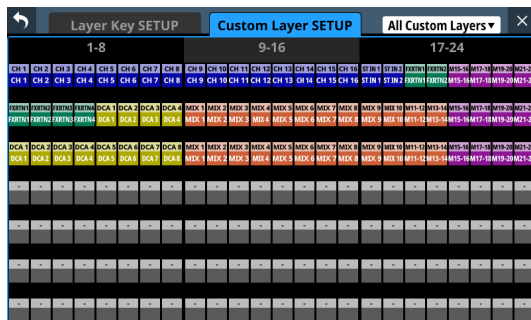
② カスタムレイヤー選択表示

- 編集対象のカスタムレイヤー名を表示します。
- この部分をタップすると、カスタムレイヤーを選択するウィンドウを表示します。



編集したいカスタムレイヤー名をタップすると、ウィンドウを閉じ、選択したカスタムレイヤーにアサインされているモジュールのMODULE LABEL SubおよびMODULE LABEL Main (→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ 画面」) で設定された表示モードのMODULE LABELをカスタムレイヤースロットボタン (⑤) に表示します。

- ウィンドウ内の「All Custom Layers」をタップすると、ウィンドウを閉じてALL Custom Layers表示に切り換わります。

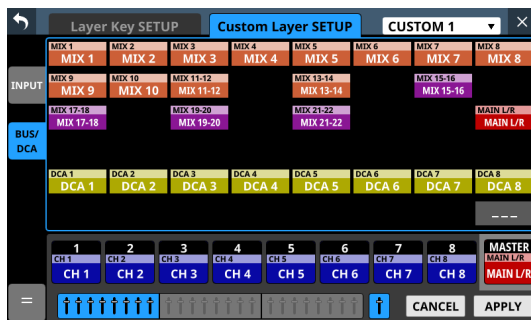


この表示では、7つあるすべてのカスタムレイヤーにアサインされたモジュールのMODULE LABEL SubおよびMODULE LABEL Main (→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ 画面」) で設定された表示モードのMODULE LABELを1レイヤーに1行ずつ表示します。

表示しているボタンをタップすると、タップしたカスタムレイヤーの表示に切り換わります。

③ モジュール群の切り換えボタン

このボタンをタップすると、レイヤーにアサインするモジュール群の表示が切り換わります。



④ モジュールボタン表示

- レイヤーにアサインするモジュール群のボタンです。
- モジュール群の切り換えボタンで選択したモジュール群を表示します。

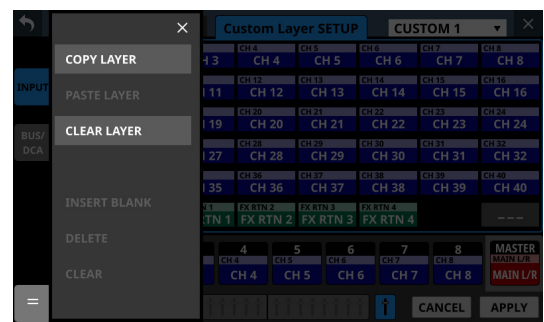
⑤ カスタムレイヤースロットボタン

編集対象のカスタムレイヤーにアサインされているモジュールのMODULE LABEL SubおよびMODULE LABEL Main (→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ 画面」) で設定された表示モードのMODULE LABELを8チャンネル単位で表示します。モジュールがアサインされていない場合は、ブランク表示 (---) になります。

表示する8チャンネルはブロック選択ボタン (⑦) で切り換えます。

⑥ 〇 ボタン

このボタンをタップすると、カスタムレイヤーの編集メニューを表示します。



操作可能なメニュー項目がハイライト表示になります。

メニュー項目	内容
COPY LAYER	選択したカスタムレイヤーの設定状態をバッファにコピーします。
PASTE LAYER	バッファにコピーしたカスタムレイヤーの設定状態を選択したカスタムレイヤーに貼り付けます。
CLEAR LAYER	選択したカスタムレイヤーの設定をすべてブランクにします。 クリア実施前に確認メッセージを表示します。
INSERT BLANK	選択したスロットボタン (黄色枠表示) の位置にブランクを挿入します。 このとき、選択したスロットボタンおよび右側のスロットボタンにアサインされた内容は右側に移動します。
DELETE	選択したスロットボタン (黄色枠表示) のアサインを削除し、選択スロット右側の設定が1つずつ左にずれます。 このとき右端のスロットボタンがブランクになります。
CLEAR	選択したスロットボタン (黄色枠表示) のアサインをブランクにします。 スロットボタンの移動はありません。

⑦ ブロック選択ボタン

- 表示中の8チャンネルブロックの選択ボタンをハイライト表示します。
- このボタンをタップすると、カスタムレイヤースロットボタン（④）に表示する8チャンネルブロックの表示を切り換えます。

⑧ CANCEL ボタン

このボタンをタップすると、変更した設定を破棄します。

⑨ APPLY ボタン

このボタンをタップすると、変更した設定を確定します。

⑩ --- ボタン

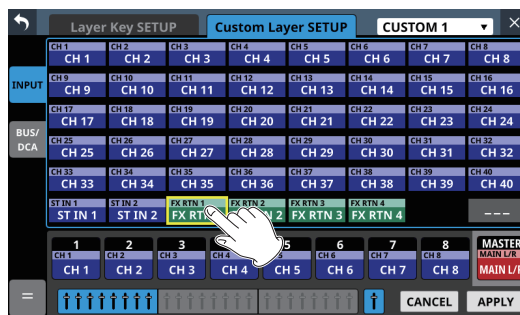
このボタンをタップすると、選択中（黄色い枠表示）のスロットボタンのアサインをブランクにします。

⑪ MASTER スロットボタン

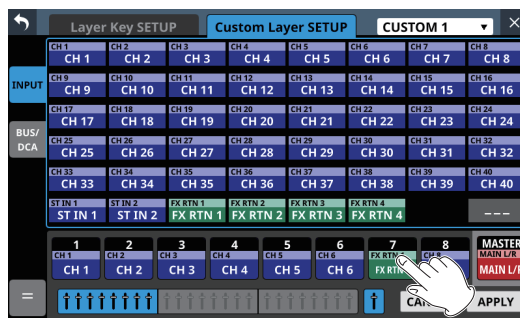
レイヤー選択状態に依存しないMASTERフェーダーにアサインされているモジュール（初期値：MAIN L/R）のMODULE LABEL SubおよびMODULE LABEL Mainで設定された表示モードのMODULE LABELを表示します。（→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ 画面」）

モジュールボタン ➡ カスタムレイヤースロットボタンの順に選択する場合

1. アサインしたいモジュールボタンをタップします。
選択すると黄色い枠が表示されます。



2. 選択したモジュールをアサインしたいカスタムレイヤースロットボタンをタップします。
手順 1. で選択したモジュールが、タップしたカスタムレイヤースロットにアサインされます。



3. APPLY ボタンをタップすると、変更した設定を確定します。
CANCEL ボタンをタップすると、変更した設定を破棄します。

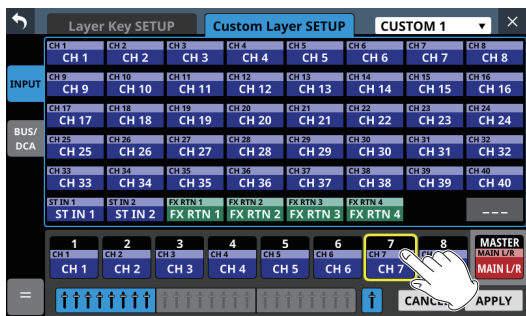
メモ

いずれの場合も、手順 1. で複数のボタンを選択すると、一括で連続してアサインすることができます。

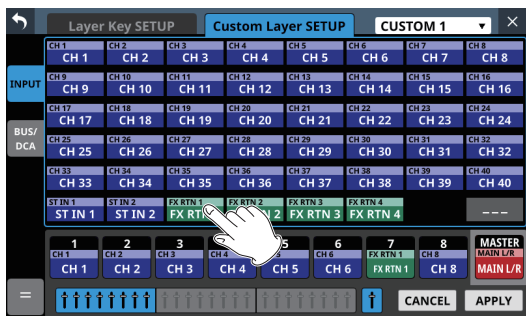
カスタムレイヤーのアサイン操作手順

カスタムレイヤースロットボタン ➡ モジュールボタンの順に選択する場合

1. アサインを変更したいカスタムレイヤースロットボタンをタップします。
選択すると黄色い枠が表示されます。



2. 選択したスロットにアサインしたいモジュールボタンをタップします。
手順 1. で選択したカスタムレイヤースロットに、タップしたモジュールがアサインされます。



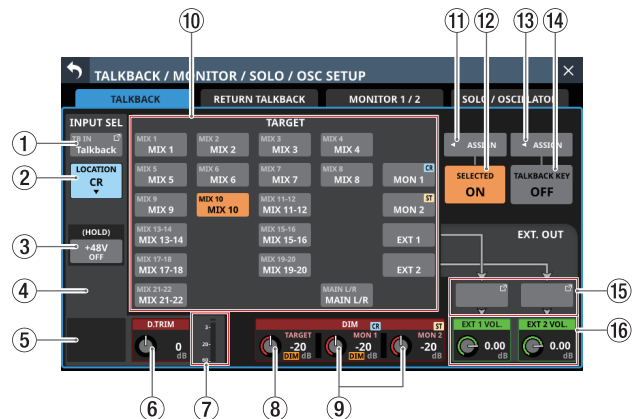
3. APPLY ボタンをタップすると、変更した設定を確定します。
CANCEL ボタンをタップすると、変更した設定を破棄します。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

TALKBACKの設定

TALKBACKの設定は、TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面のTALKBACKタブ画面で行います。

この画面は、メニュー画面>Mixer Setupメニュー>「Talkback / Monitor / Solo / OSC」をタップして表示します。



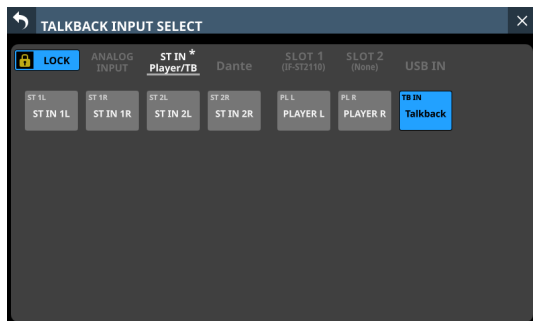
[TALKBACK信号の入力ソースが「TALKBACK IN」のときのタブ画面表示]

メモ

- この画面は、MENUキーを押しながらTALKBACKキーを押すことでも表示できます。(→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)
- この画面は、User Defined Control機能によりUSER KEYSやFOOTSWITCH、GPIO-INで表示することもできます。(→ 54 ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」)
- レベルメーターの最上部は、オーバーロードインジケータです。

① INPUT SEL ボタン

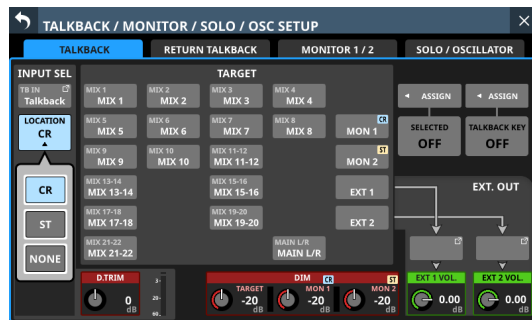
- TALKBACK信号の入力ソース名を表示します。
上段には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
下段には、USER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- このボタンをタップすると、TALKBACK信号の入力ポートを選択するTALKBACK INPUT SELECT画面に切り換わります。



この画面は、ST INおよびPlayer/TBページにて「TALKBACK IN」を選択できる点を除き、INPUT SOURCE SELECT画面と表示内容および操作方法是同じになります。
詳細については、149 ページ「INPUT SOURCE SELECT画面」をご参照ください。

② LOCATION設定ボタン

- TALKBACKマイクのLocation設定を表示します。
- この部分をタップすると、Location設定メニューを表示します。



ボタン	内容
CR (初期値)	TALKBACKマイクのLocationをCR (Control Room) に設定します。
ST	TALKBACKマイクのLocationをST (Studio) に設定します。
NONE	TALKBACKマイクのLocationを未設定にします。

③ +48Vボタン

- TALKBACK信号の入力ソースにファンタム電源を供給するためのボタンです。
- +48Vボタンを押し続けると、ファンタム電源のオン／オフが切り換わります。(初期値：OFF)
- オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- INPUT SELボタンに表示されている入力が「ANALOG」、「内蔵 Dante経由で接続されたSB-16D」または「TALKBACK IN」の時だけ表示されます。
- TALKBACK信号の入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合は、黒いボタンで表示されて操作できません。

④ PAD ボタン

- TALKBACK信号の入力ソースが「ANALOG」または「内蔵 Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、PADボタンを表示します。
- このボタンをタップすると、-20dBのパッドのオン／オフが切り換わります。(初期値：オフ)
このボタンがオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- TALKBACK信号の入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合は、黒いボタンで表示されて操作できません。

⑤ Analog GAIN ノブ

- TALKBACK信号の入力ソースが「ANALOG」または「内蔵 Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、本機またはSB-16DのAnalog GAIN ノブが表示され、MIC/LINE入力端子からの入力レベルを調節します。
LCDノブ1（赤色で点灯）を使って調節します。
- TALKBACK信号の入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合は、黒いノブで表示されて操作できません。

メモ

TALKBACK INのアナログ入力レベルは、トップパネルのTALKBACKボリュームで調節します。（→12ページ「⑫ TALKBACKボリューム」）

⑥ D.TRIM ノブ

TALKBACK信号のデジタルトリム値を調節します。

設定範囲：-20dB～+20dB（初期値：0dB）

LCDノブ2（赤色で点灯）を使って調節します。

⑦ TALKBACK レベルメーター

TALKBACK信号の入力レベルを表示します。

⑧ DIM TARGET ノブ

- TALKBACKがオンのときの、TALKBACK信号が割り込まれるTARGET信号の減衰量を調節します。
設定範囲：-40dB～0dB（初期値：-20dB）
LCDノブ4（赤色で点灯）を使って調節します。
- いずれかのTARGETボタンがオンで、TARGET信号にDIM TARGETノブで設定したDIMが掛かっているとき、このエリアにオレンジ色の「DIM」が表示されます。

メモ

RETURN TALKBACKタブ画面の88ページ「⑧ DIM TARGET ノブ」と共通の設定です。

⑨ DIM MON 1 ノブ／DIM MON 2 ノブ

- TALKBACKがオンのときの、MONITOR 1 およびMONITOR 2 の減衰量を調節します。
設定範囲：-40dB～0dB（初期値：-20dB）
LCDノブ5/6（赤色で点灯）を使って調節します。
- TALKBACKがオンでMON1にDIM MON 1ノブで設定したDIMが掛かっているとき、DIM MON 1のエリアにオレンジ色の「DIM」が表示されます。
- TALKBACKがオンでMON2にDIM MON 2ノブで設定したDIMが掛かっているとき、DIM MON 2のエリアにオレンジ色の「DIM」が表示されます。
- MONITOR 1 およびMONITOR 2 のLocation設定が「CR」または「ST」の場合、DIM MON 1／DIM MON 2ノブエリアの右上に「CR」または「ST」を表示します。

メモ

RETURN TALKBACKタブ画面の88ページ「⑨ DIM MON 1 ノブ／DIM MON 2 ノブ」と共通の設定です。

⑩ TARGET ボタン

- バスモジュールのボタンをタップして、TALKBACK信号を割り込ませるバスを選択します。（初期値：オフ）
- 割り込み先に選択したボタンがハイライト表示になります。
- MON 1／MON 2 ボタンをタップすると、TALKBACK信号をMONITOR 1／MONITOR 2に出力します。
- MONITOR 1 およびMONITOR 2 のLocation設定が「CR」または「ST」の場合、MON 1／MON 2 ボタンに「CR」または「ST」を表示します。
- EXT 1 ボタンをタップすると、TALKBACK信号をEXT 1 OUT ボタンにアサインされている出力ポートに出力します。
- EXT 2 ボタンをタップすると、TALKBACK信号をEXT 2 OUT ボタンにアサインされている出力ポートに出力します。

メモ

- バスモジュールのボタンには、上段にMODULE LABEL Subを、下段にMODULE LABEL Mainで設定された表示モードのMODULE LABELを表示します。（→132ページ「DISPLAY MODE タブ画面」）
- ステレオバスでは、ペアでボタンが1つになります。
- このボタンをタップすると、オン／オフを切り換えます。ボタンを押し続けると、押し続けている間だけオン状態になります。

⑪ SELECTED ASSIGN ボタン

- このボタンをタップすると、SELECTEDボタンを押したときにTALKBACK出力をオンにしたい出力先を選択するウィンドウを表示します。



選択肢をタップして、TALKBACK信号の出力先を選択します。（初期値：オフ）

出力先に選択したボタンがハイライト表示になります。

- MONITOR 1 およびMONITOR 2 のLocation設定が「CR」または「ST」の場合、MON 1／MON 2 ボタンに「CR」または「ST」を表示します。
- 選択ウィンドウを表示中にこのボタンをタップすると、設定を確定しウィンドウを閉じます。

メモ

ステレオバスでは、ペアでボタンが1つになります。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

⑫ SELECTED ボタン

このボタンをタップして、SELECTED ASSIGN ボタンで表示するウィンドウで選択した出力先へのTALKBACKのオン／オフを切り換えます。

このボタンがオンのとき、設定したボタンがハイライト表示になります。

メモ

このボタンをタップすると、オン／オフを切り換えます。ボタンを押し続けると、押し続けている間だけON状態になります。

⑬ TALKBACK KEY ASSIGN ボタン

- このボタンをタップすると、トップパネルのTALKBACKキーやTALKBACK KEYボタンを押したときにTALKBACK出力をオンにしたい出力先を選択するウィンドウを表示します。



選択肢をタップして、出力先を選択します。(初期値：オフ)
出力先に選択したボタンがハイライト表示になります。

- MONITOR 1 および MONITOR 2 の Location 設定が「CR」または「ST」の場合、MON 1 / MON 2 ボタンに「CR」または「ST」を表示します。
- 選択ウィンドウを表示中にこのボタンをタップすると、設定を確定しウィンドウを閉じます。

⑭ TALKBACK KEY ボタン

このボタンをタップして、TALKBACK KEY ASSIGN ボタンで表示するウィンドウで選択した出力先へのTALKBACKのオン／オフを切り換えます。(初期値：OFF)

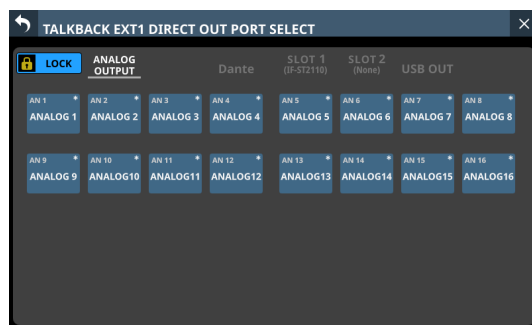
オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

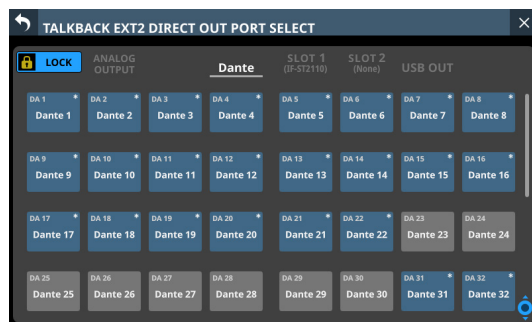
- トップパネルのTALKBACKキーと同じ働きをします。
- このボタンをタップすると、ON / OFFを切り換えます。ボタンを押し続けると、押し続けている間だけON状態になります。
- TALKBACKのオン／オフの切り換えは、User Defined Control機能によりUSER KEYやFOOTSWITCH、GPIO-INで操作できます。(→ 54 ページ「USER DEFINED CONTROLS 画面」)

⑮ EXT 1 OUT ボタン／EXT 2 OUT ボタン

- EXT 1 OUT ボタンまたはEXT 2 OUT ボタンにアサインされている出力ポート名を表示します。
上段には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
下段には、USER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- このボタンをタップすると、TALKBACK信号の出力ポートを選択するTALKBACK EXT1 DIRECT OUT PORT SELECT画面およびTALKBACK EXT2 DIRECT OUT PORT SELECT画面に切り換わります。



[TALKBACK EXT1 DIRECT OUT PORT SELECT画面]



[TALKBACK EXT2 DIRECT OUT PORT SELECT画面]

この画面は、OUTPUT PORT SELECT画面と表示内容および操作方法は同じになります。

詳細については、157 ページ「OUTPUT PORT SELECT画面」をご参照ください。

⑯ EXT 1 VOL. ノブ／EXT 2 VOL. ノブ

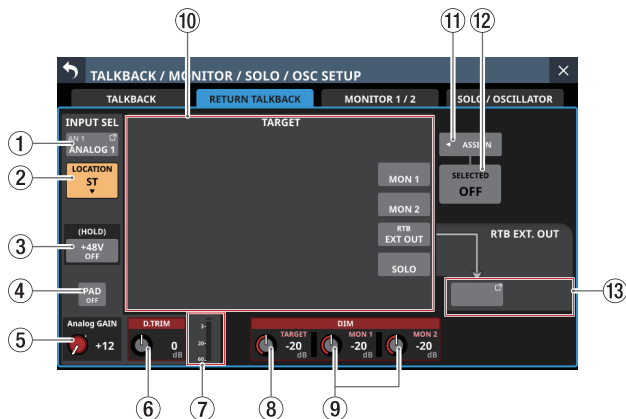
EXT 1 ボタンまたはEXT 2 ボタンにアサインされている出力ポートへのTALKBACK信号の出力レベルを調節します。

設定範囲：-∞dB～+10dB（初期値：0dB）

LCD ノブ 7/8（緑色で点灯）を使って調節します。

RETURN TALKBACKの設定

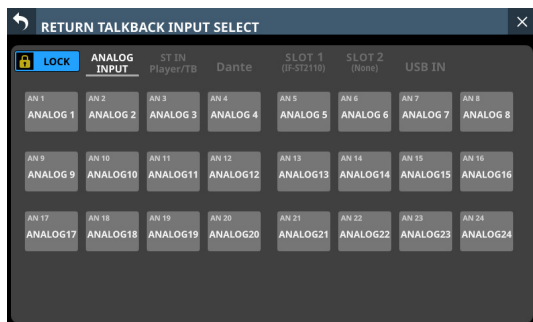
RETURN TALKBACKの設定は、TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面のRETURN TALKBACKタブ画面で行います。この画面は、メニュー画面 > Mixer Setupメニュー > 「Talkback / Monitor / Solo / OSC」をタップして表示します。



[TALKBACK信号の入力ソースが「ANALOG 1」のときのタブ画面表示]

① INPUT SELボタン

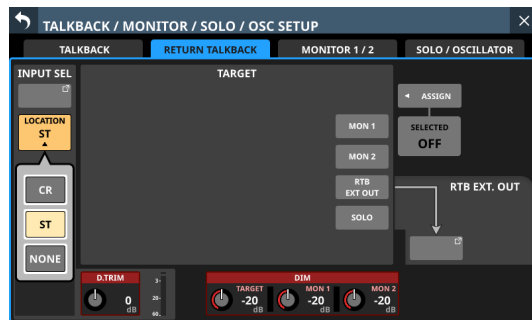
- RETURN TALKBACK信号の入力ソース名を表示します。上段には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。下段には、USER PORT LABELを表示します。USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- このボタンをタップすると、RETURN TALKBACK信号の入力ポートを選択するRETURN TALKBACK INPUT SELECT画面に切り換わります。



この画面は、ST INおよびPlayer/TBページにて「TALKBACK IN」を選択できる点を除き、INPUT SOURCE SELECT画面と表示内容および操作方法是同じになります。詳細については、149 ページ「INPUT SOURCE SELECT画面」をご参照ください。

② LOCATION設定ボタン

- RETURN TALKBACKマイクのLocation設定を表示します。
- この部分をタップすると、Location設定メニューを表示します。



ボタン	内容
CR	RETURN TALKBACKマイクのLocationをCR（Control Room）に設定します。
ST（初期値）	RETURN TALKBACKマイクのLocationをST（Studio）に設定します。
NONE	RETURN TALKBACKマイクのLocationを未設定にします。

③ +48Vボタン

- RETURN TALKBACK信号の入力ソースにファンタム電源を供給するためのボタンです。
- +48Vボタンを押し続けると、ファンタム電源のオン／オフが切り換わります。（初期値：OFF）
- オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- INPUT SELボタンに表示されている入力が「ANALOG」、「内蔵 Dante経由で接続されたSB-16D」または「TALKBACK IN」の時だけ表示されます。
- RETURN TALKBACK信号の入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合は、黒いボタンで表示されて操作できません。

④ PADボタン

- RETURN TALKBACK信号の入力ソースが「ANALOG」または「内蔵 Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、PADボタンを表示します。
- このボタンをタップすると、-20dBのパッドのオン／オフが切り換わります。（初期値：オフ）このボタンがオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- RETURN TALKBACK信号の入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合は、黒いボタンで表示されて操作できません。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

⑤ Analog GAIN ノブ

- RETURN TALKBACK信号の入力ソースが「ANALOG」または「内蔵 Dante 経由で接続された SB-16D」のとき、本機または SB-16D の Analog GAIN ノブが表示され、MIC/LINE 入力端子からの入力レベルを調節します。
LCD ノブ 1（赤色で点灯）を使って調節します。
- RETURN TALKBACK信号の入力ソースが制御権のない SB-16D の場合は、黒いノブで表示されて操作できません。

メモ

TALKBACK IN のアナログ入力レベルは、トップパネルの TALKBACK ボリュームで調節します。（→ 12 ページ「⑫ TALKBACK ボリューム」）

⑥ D.TRIM ノブ

RETURN TALKBACK 信号のデジタルトリム値を調節します。

設定範囲：-20dB ~ +20dB（初期値：0dB）

LCD ノブ 2（赤色で点灯）を使って調節します。

⑦ TALKBACK レベルメーター

RETURN TALKBACK 信号の入力レベルを表示します。

⑧ DIM TARGET ノブ

- TALKBACK がオンのときの、TALKBACK 信号が割り込まれる TARGET 信号の減衰量を調節します。

設定範囲：-40dB ~ 0dB（初期値：-20dB）

LCD ノブ 5（赤色で点灯）を使って調節します。

- いずれかの TARGET ボタンがオンで、TARGET 信号に DIM TARGET ノブで設定した DIM が掛かっているとき、このエリアにオレンジ色の DIM ボタンが表示されます。

メモ

TALKBACK タブ 画面の 85 ページ「⑧ DIM TARGET ノブ」と共通の設定です。

⑨ DIM MON 1 ノブ／DIM MON 2 ノブ

- TALKBACK がオンのときの、MONITOR 1 および MONITOR 2 の減衰量を調節します。

設定範囲：-40dB ~ 0dB（初期値：-20dB）

LCD ノブ 5/6（赤色で点灯）を使って調節します。

- TALKBACK がオンで MON1 に DIM MON 1 ノブで設定した DIM が掛かっているとき、DIM MON 1 のエリアにオレンジ色の DIM ボタンが表示されます。
- TALKBACK がオンで MON2 に DIM MON 2 ノブで設定した DIM が掛かっているとき、DIM MON 2 のエリアにオレンジ色の DIM ボタンが表示されます。
- MONITOR 1 および MONITOR 2 の Location 設定が「CR」または「ST」の場合、DIM MON 1／DIM MON 2 ノブエリアの右上に「CR」または「ST」を表示します。

メモ

TALKBACK タブ 画面の 85 ページ「⑨ DIM MON 1 ノブ／DIM MON 2 ノブ」と共通の設定です。

⑩ TARGET ボタン

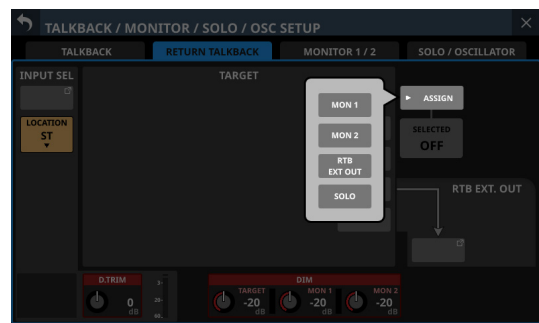
- このボタンをタップして、RETURN TALKBACK 信号を割り込ませる対象を選択します。（初期値：オフ）
- 割り込み先に選択したボタンがハイライト表示になります。
- MON 1／MON 2 ボタンをタップすると、RETURN TALKBACK 信号を MONITOR 1／MONITOR 2 に出力します。
- MONITOR 1 および MONITOR 2 の Location 設定が「CR」または「ST」の場合、MON1／MON2 ボタンに「CR」または「ST」を表示します。
- EXT OUT ボタンをタップすると、RETURN TALKBACK 信号を RTB EXT. OUT ボタンにアサインされている出力ポートに出力します。
- SOLO ボタンをタップすると、RETURN TALKBACK 信号を SOLO パスに出力します。

メモ

このボタンをタップすると、オン／オフを切り換えます。ボタンを押し続けると、押し続けている間だけオン状態になります。

⑪ SELECTED ASSIGN ボタン

- このボタンをタップすると、SELECTED ボタンを押したときに RETURN TALKBACK 出力をオンにしたい出力先を選択するウィンドウを表示します。



選択肢をタップして、RETURN TALKBACK 信号の出力先を選択します。（初期値：オフ）

出力先に選択したボタンがハイライト表示になります。

- MONITOR 1 および MONITOR 2 の Location 設定が「CR」または「ST」の場合、MON 1／MON 2 ボタンに「CR」または「ST」を表示します。
- 選択ウィンドウを表示中にこのボタンをタップすると、設定を確定しウィンドウを閉じます。

⑫ SELECTED ボタン

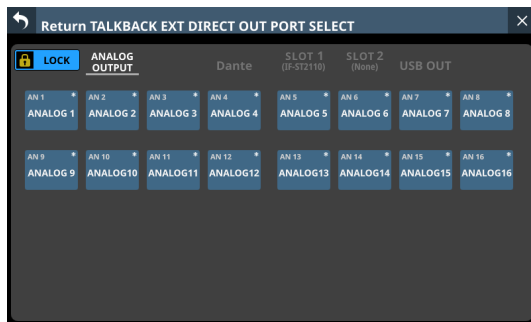
このボタンをタップして、SELECTED ASSIGN ボタンで表示するウィンドウで選択した出力先へのRETURN TALKBACKのオン／オフを切り換えます。
このボタンがオンのとき、設定したボタンがハイライト表示になります。

メモ

このボタンをタップすると、オン／オフを切り換えます。ボタンを押し続けると、押し続けている間だけON状態になります。

⑬ RTB EXT.OUT ボタン

- RETURN TALKBACK信号がアサインされている出力ポート名を表示します。
上段には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
下段には、USER PORT LABELを表示します。
- USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- このボタンをタップすると、RETURN TALKBACK信号の出力ポートを選択するReturn TALKBACK EXT DIRECT OUT PORT SELECT画面に切り換わります。

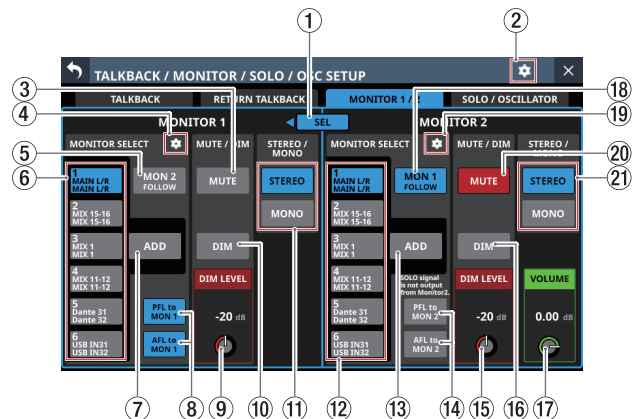


この画面は、OUTPUT PORT SELECT画面と表示内容および操作方法は同じになります。
詳細については、157 ページ「OUTPUT PORT SELECT画面」をご参照ください。

MONITOR出力の設定

MONITOR出力の設定は、TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面のMONITOR 1 / 2タブ画面で行います。

この画面は、メニュー画面 > Mixer Setupメニュー > 「Talkback / Monitor / Solo / OSC」をタップして表示します。

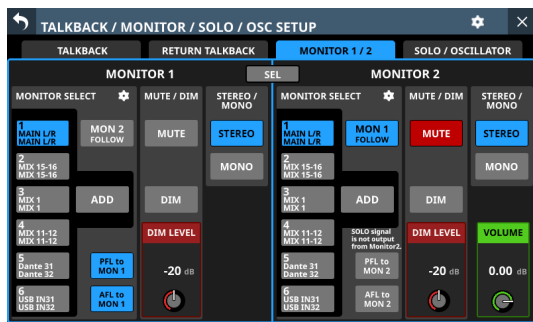


① SELボタン

- このボタンは、MONITOR 1 / MONITOR 2をラージモニター / スモールモニターとして使用する際の切り換えに利用します。
- 追加設定ウィンドウ (→ 94 ページ) のMonitor Exclusiveボタンが「オン」のときは、このボタンがハイライト表示になり、◀または▶が点灯し、このボタンを操作できます。この状態でこのボタンをタップすると、MONITOR 1およびMONITOR 2の出力を排他的に選択し、ボタンの左右にある◀ / ▶の表示が切り換わります。

	MONITOR 1の MUTEボタン	MONITOR 2の MUTEボタン
◀点灯時	オフ	オン
▶点灯時	オン	オフ

- Monitor Exclusiveボタンが「オフ」のときはこのボタンがグレイアウト表示になり、◀ / ▶が表示されず、このボタンを操作できません。



② アイコン

このアイコンをタップすると、追加設定ウィンドウを表示します。(→ 94 ページ「追加設定ウィンドウ」)

③ MUTEボタン (MONITOR 1)

このボタンをタップして、モニター信号のMUTEのオン／オフを切り換えます。(初期値：オフ)

オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

- PHONES端子の出力は、MUTEされません。
- Monitor Exclusive機能やLocation機能によりMONITOR 1がMUTEされている場合は、このボタンをタップしてもMUTEを解除できません。
- Monitor MUTEは、User Defined Control機能によりUSER KEYSやFOOTSWITCH、GPIO-INで操作できます。(→ 54 ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」)
- MONITOR 1のMUTEは、User Keyタブ画面の工場出荷時の設定であらかじめ以下のUSER KEYSにアサインされています。
 - USER KEYS C (Monitor | MONITOR1 | MUTE)

④ アイコン (MONITOR 1)

このアイコンをタップすると、MONITOR 1 SOURCE ASSIGN画面に切り換わります。(→ 93 ページ「MONITOR SOURCE ASSIGN画面」)

⑤ MON 2 FOLLOWボタン

このボタンをタップして、MONITOR 2のモニター信号をMONITOR 1でモニターする機能のオン／オフを切り換えます。(初期値：オフ)

オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

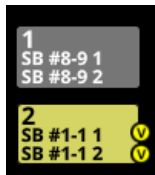
⑥ MONITOR SELECTボタン (MONITOR 1)

- MONITOR 1 SOURCE ASSIGN画面で選択したモニターソース名を表示します。(→ 93 ページ「MONITOR SOURCE ASSIGN画面」)
- このボタンには、上段にLチャンネルのモニターソース名を、下段にRチャンネルのモニターソース名を表示します。選択したモニターソースがバスモジュールの場合、USER MODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」) USER MODULE LABELが未定義の場合は、FIXED MODULE LABELを表示します。選択したモニターソースが入力端子の場合、PORT LABELの表示モード設定で選択されたPORT LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- マウント済みSB-16DのアサインされたDanteポートをモニターソースに選択している場合、ボタン上に「SB #[ID] ポート番号」と表示します。また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、モニターソース名の右にVマークを表示します。



- このボタンをタップすると、以下の端子から出力するモニターソースを選択します。
 - フロントパネルのヘッドホン端子
 - リアパネルのMONITOR OUT L / R端子
 - MONITOR 1 Direct OUT PORT (→ 94 ページ「⑥ Direct OUT PORTボタン (MONITOR 1)」)

- MONITOR 1 のADDボタンがオフの状態でのボタンをタップすると、モニターソースを1つだけ選択します。選択したボタンが水色でハイライト表示になります。
- MONITOR 1 のADDボタンがオンの状態でこのボタンをタップすると、モニターソースを複数選択できます。これにより、選択した複数のモニターソースをミックスしてモニターできます。選択したボタンが黄緑色でハイライト表示になります。
- バーチャルマウントされたSB-16DがアサインされたDanteポートのモニターセレクトボタンを選択した場合は、選択したボタンが黄色でハイライト表示になります。



メモ

- モニターソースとしてバスを選択した場合、本機からの出力音声をモニターします。選択したバスのMetering Pointの設定が「OUTPUT」で、出力ポートにアサインしていない（本機から外部に出力していない）状態では、モニターも無音になります。バスのAFLをモニターしたい場合は、SOLO機能をご利用ください。

- MONITOR SELECT1-6は、User Defined Control機能によりUSER KEYSやFOOTSWITCH、GPIO-INで操作できます。（→54ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」）

MONITOR SELECT1-4は、User Keyタブ画面の工場出荷時の設定であらかじめ以下のUSER KEYSにアサインされています。

- USER KEYS A (Monitor | MONITOR 1 | Source select | 1 (MAIN L/R))
- USER KEYS B (Monitor | MONITOR 1 | Source select | 2 (MIX 15-16))
- USER KEYS D (Monitor | MONITOR 1 | Source select | 3 (MIX 1))
- USER KEYS E (Monitor | MONITOR 1 | Source select | 4 (MIX 11-12))

⑦ ADDボタン (MONITOR 1)

このボタンをタップして、MONITOR 1のADD機能（同時に複数のモニターソースを選択する機能）のオン／オフを切り換えます。（初期値：オフ）

オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

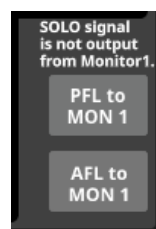
⑧ PFL to MON 1 / AFL to MON 1 ボタン

このボタンをタップして、MONITOR 1のモニター信号をSOLO信号に切り換えるかどうかを設定します。（初期値：オン）オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

ボタン	内容
PFL to MON 1	SOLO TYPEが「PFL」のときにSOLOをオンにすると、MONITOR 1のモニター信号がSOLO信号に切り換わります。
AFL to MON 1	SOLO TYPEが「AFL」のときにSOLOをオンにすると、MONITOR 1のモニター信号がSOLO信号に切り換わります。

メモ

両方のボタンをオフにすると、SOLOキーを押してもMONITOR 1からSOLOの音声出力されなくなります。そのため、注意喚起としてPFL to MON 1ボタン上部のエリアに「SOLO signal is not output from Monitor1」と表示されます。



⑨ DIM LEVEL ノブ (MONITOR 1)

MONITOR 1のDIM機能がオンのときのモニター信号の減衰量を調節します。

設定範囲：-40dB～0dB（初期値：-20dB）

LCDノブ3（赤色で点灯）を使って調節します。

⑩ DIMボタン (MONITOR 1)

このボタンをタップして、モニター信号のDIM機能のオン／オフを切り換えます。（初期値：オフ）

MONITOR 1のDIM機能を「オン」にすると、DIM LEVEL（⑨）の設定にしたがってモニター信号の出力レベルが下がります。オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

- このボタンは、MONITOR OUT L / R端子とPHONES端子の両方の出力信号に機能します。
- このボタンをタップすると、オン／オフを切り換えます。ボタンを押し続けると、押し続けている間だけオン状態になります。
- MONITOR 1のDIM機能は、User Defined Control機能によりUSER KEYやFOOTSWITCH、GPIO-INで操作できます。（→54ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」）

MONITOR 1のDIM機能は、User Keyタブ画面の工場出荷時の設定であらかじめ以下のUSER KEYSにアサインされています。

- USER KEYS F (Monitor | MONITOR 1 | DIM)

⑪ STEREO / MONO ボタン (MONITOR 1)

このボタンをタップして、モニター信号のモノ／ステレオを切り換えます。（初期値：STEREO）

選択したボタンがハイライト表示になります。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

⑫ MONITOR SELECT ボタン (MONITOR 2)



- MONITOR 2 SOURCE ASSIGN画面で選択したモニターソース名を表示します。(→ 93 ページ「MONITOR SOURCE ASSIGN画面」)
- このボタンをタップすると、以下の端子から出力するモニターソースを選択します。
 - MONITOR 2 Direct OUT PORT (→ 95 ページ「⑦ Direct OUT PORT ボタン (MONITOR 2)」)
 - MONITOR 2 OUTPUT PORT (→ 95 ページ「⑩ OUTPUT PORT ボタン (MONITOR 2)」)
- MONITOR 2 のADDボタンがオフの状態でのこのボタンをタップすると、モニターソースを1つだけ選択します。選択したボタンが水色でハイライト表示になります。
- MONITOR 2 のADDボタンがオンの状態でのこのボタンをタップすると、モニターソースを複数選択できます。これにより、選択した複数のモニターソースをミックスしてモニターできます。選択したボタンが黄緑色でハイライト表示になります。
- 上記以外は、MONITOR 1 のMONITOR SELECT ボタン (⑥) と同様の働きをします。

⑬ ADD ボタン (MONITOR 2)

このボタンをタップして、MONITOR 2 のADD機能 (同時に複数のモニターソースを選択する機能) のオン/オフを切り換えます。(初期値: オフ)
オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

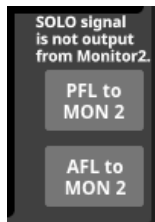
⑭ PFL to MON 2 / AFL to MON 2 ボタン

このボタンをタップして、MONITOR 2 のモニター信号を SOLO 信号に切り換えるかどうかを設定します。(初期値: オフ)
オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

ボタン	内容
	SOLO TYPEが「PFL」のときにSOLOをオンにすると、MONITOR 2 のモニター信号がSOLO信号に切り換わります。
	SOLO TYPEが「AFL」のときにSOLOをオンにすると、MONITOR 2 のモニター信号がSOLO信号に切り換わります。

メモ

両方のボタンをオフにすると、SOLO キーを押しても MONITOR 2 から SOLO の音声出力されなくなります。そのため、注意喚起として PFL to MON 2 ボタン上部のエリアに「SOLO signal is not output from Monitor2」と表示されます。



⑮ DIM LEVEL ノブ (MONITOR 2)

MONITOR 2 のDIM機能がオンのときのモニター信号の減衰量を調節します。

設定範囲: -40dB ~ 0dB (初期値: -20dB)

LCD ノブ 7 (赤色で点灯) を使って調節します。

⑯ DIM ボタン (MONITOR 2)

このボタンをタップして、モニター信号のDIM機能のオン/オフを切り換えます。(初期値: オフ)

MONITOR 2 のDIM機能を「オン」にすると、DIM LEVEL (⑮) の設定にしたがってモニター信号の出力レベルが下がります。オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

- このボタンをタップすると、オン/オフを切り換えます。ボタンを押し続けると、押し続けている間だけオン状態になります。
- MONITOR 2 のDIM機能は、User Defined Control機能により USER KEYやFOOTSWITCH、GPIO-INで操作できます。(→ 54 ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」)

⑰ VOLUME ノブ (MONITOR 2)

MONITOR 2 の出力レベルを調節します。

設定範囲: -∞dB ~ +10dB (初期値: 0dB)

LCD ノブ 8 (緑色で点灯) を使って調節します。

⑱ MON 1 FOLLOW ボタン

このボタンをタップして、MONITOR 1 のモニター信号を MONITOR 2 でモニターする機能のオン/オフを切り換えます。(初期値: オン)

オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

⑲ アイコン (MONITOR 2)

このアイコンをタップすると、MONITOR 2 SOURCE ASSIGN画面に切り換わります。(→ 93 ページ「MONITOR SOURCE ASSIGN画面」)

⑳ MUTE ボタン (MONITOR 2)

このボタンをタップして、モニター信号のMUTEのオン/オフを切り換えます。(初期値: オン)

オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

- Monitor Exclusive機能やLocation機能により MONITOR 2 が MUTEされている場合は、このボタンをタップしても MUTE を解除できません。
- MONITOR 2 のMUTEは、User Defined Control機能により USER KEYSやFOOTSWITCH、GPIO-INで操作できます。(→ 54 ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」)

㉑ STEREO / MONO ボタン (MONITOR 2)

このボタンをタップして、モニター信号のモノ/ステレオを切り換えます。(初期値: STEREO)

選択したボタンがハイライト表示になります。

MONITOR SOURCE ASSIGN画面

この画面では、フロントパネルのヘッドホン端子およびリアパネルのMONITOR OUT L／R端子でモニターするモニターソースを6つのMONITOR SELECTボタンにアサインします。

この画面は、TALKBACK／MONITOR／SOLO／OSC SETUP画面のMONITOR SELECTボタン右側にあるMONITOR SELECTエリアのアイコンをタップして表示します。



[MONITOR 1 SOURCE ASSIGN画面]

① L／R選択ボタン

モニターソースのL/Rチャンネルのどちらの出力ポートを設定するかを選択します。
このボタンをタップすると、L／Rを切り換えます。選択したボタンがハイライト表示になります。

② MONITOR SELECTタブ切り換え表示

- 各MONITOR SELECTタブごとにモニターソースをアサインすることができます。
- MONITOR SELECTタブには、アサインしたモニターソース名を表示します。
- このボタンには、上段にLチャンネルのモニターソース名を、下段にRチャンネルのモニターソース名を表示します。選択したモニターソースがバスモジュールの場合、USER MODULE LABELを表示します。(→ 134 ページ「MODULE LABEL タブ画面」)
USER MODULE LABELが未定義の場合は、FIXED MODULE LABELを表示します。
選択したモニターソースが入力端子の場合、PORT LABELの表示モード設定で選択されたPORT LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」)
- この部分をタップすると、MONITOR SELECTタブを切り換えて表示します。

③ モニターソース群ページ切り換え表示

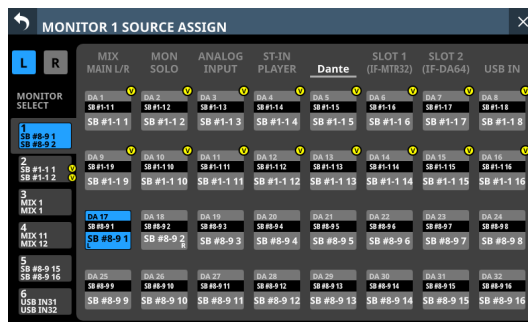
モニターソース群のページ名を表示します。
ページ名をタップすると、ページ名に該当するモニターソースのページに切り換えます。
選択したページ名がハイライト表示になります。

ページ名	内容
MIX MAIN L/R	MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/R マスターモジュールからの出力信号を選択します。
MON SOLO	もう一方のモニターの信号およびSOLOバスの信号を選択します。
ANALOG INPUT	アナログMIC/LINE入力端子からの入力信号を選択します。
ST-IN PLAYER	2組のST IN端子および内蔵プレイヤーからの入力信号を選択します。
Dante	Dante端子からの入力信号を選択します。

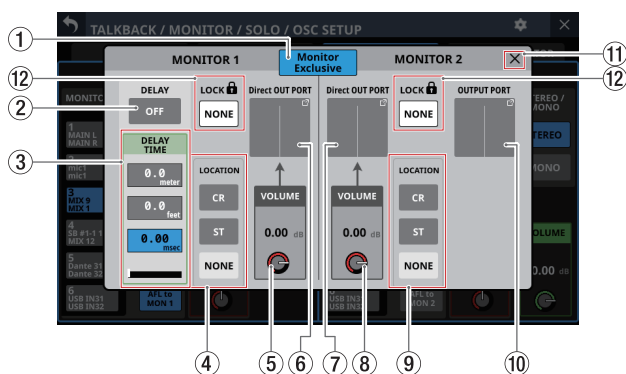
ページ名	内容
SLOT 1	SLOT 1 に装着中の拡張カード 入力を選択します。
SLOT 2	SLOT 2 に装着中の拡張カード 入力を選択します。
USB IN	USB Audio I/F入力を選択します。

④ モニターソースアサインボタン

- ボタンをタップして、選択したMONITOR SELECTボタンにアサインするモニターソースを選択します。アサインしたボタンが水色でハイライト表示になります。バーチャルマウントされたSB-16Dの Danteポートの場合は、アサインしたボタンが黄色でハイライト表示になります。
- バスモジュールのボタンには、上段にFIXED MODULE LABELを、下段にUSER MODULE LABELを表示します。(→ 134 ページ「MODULE LABEL タブ画面」)
USER MODULE LABELが未定義の場合は、FIXED MODULE LABELを表示します。
- 入力端子のボタンには、上段には省略されたFIXED PORT LABELを、下段にはUSER PORT LABELを表示します。(→ 134 ページ「INPUT PORT LABEL タブ画面」、→ 135 ページ「OUTPUT PORT LABEL タブ画面」)
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートのボタンは、以下のように表示します。
 - 1行目：DAポート番号
 - 2行目：SB#[ID]ポート番号
 - 3行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB#[ID]ポート番号」
 また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、右上に④マークを表示します。



追加設定ウィンドウ



① Monitor Exclusive ボタン

このボタンをタップして、MONITOR 1 / MONITOR 2 をラージモニター／スモールモニターとして使用する際の切り換えに利用する Monitor Exclusive 機能（MONITOR 1 および MONITOR 2 の出力を排他的に選択する機能）のオン／オフを切り換えます。（初期値：オン）

オンのときはボタンがハイライト表示になり、MONITOR 1 / 2 タブ画面の SEL ボタンが有効になります。

メモ

いずれかのモニターの Location（→ 51 ページ「⑤ モニターの Location 設定エリア」）が「ST」に設定されている場合、Monitor Exclusive ボタンが「オン」に切り換えできず、MONITOR 1 と MONITOR 2 の排他選択機能が使用できなくなります。

MONITOR 1 と MONITOR 2 の排他選択機能を使用する場合は、モニターの Location を「CR」または「NONE」に設定してください。

② DELAY ボタン

このボタンをタップして、モニター信号のタイミング補正などに使う DELAY 機能のオン／オフを切り換えます。（初期値：OFF）

オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

③ DELAY TIME

モニター信号のタイミング補正などに使うディレイ時間を調節します。

ハイライトされた単位を基準にして操作しますので、操作したい単位のボタンをタップします。

単位の選択肢	設定範囲
meter	0 ～ 117.3 (meter)
feet	0 ～ 384.8 (feet)
msec (初期値)	0 ～ 341.32 (msec)

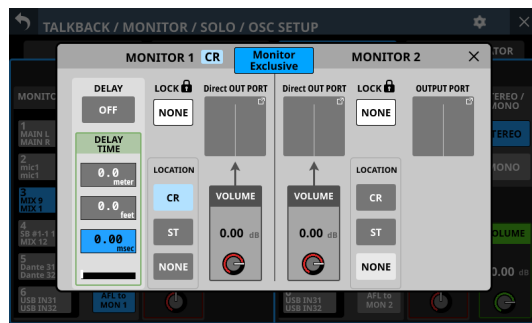
LCD ノブ 2（緑色で点灯）を使って調節します。

④ LOCATION 設定ボタン (MONITOR 1)

このボタンをタップして MONITOR 1 の Location 設定を切り換えます。（初期値：NONE）

Location 設定の詳細については、51 ページ「⑤ モニターの Location 設定エリア」をご参照ください。

MONITOR 1 の Location が設定されていると、追加設定ウィンドウおよび MONITOR 1 / 2 タブ画面の MONITOR 1 表示の右側に「CR」または「ST」のアイコンが表示されます。



[MONITOR 1 の Location を「CR」に設定した表示]

⑤ Direct OUT PORT VOLUME ノブ (MONITOR 1)

MONITOR 1 の DIRECT OUT PORT からの出力レベルを調節します。

設定範囲：-∞dB～+10dB（初期値：0dB）

LCD ノブ 4（赤色で点灯）を使って調節します。

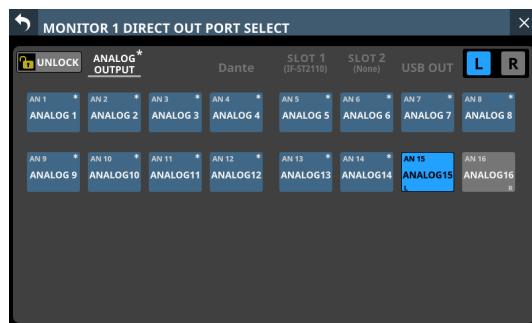
⑥ Direct OUT PORT ボタン (MONITOR 1)

- MONITOR 1 の DIRECT OUT 信号がアサインされている出力ポート名を表示します。

上段には、省略された FIXED PORT LABEL を表示します。

下段には、USER PORT LABEL を表示します。USER PORT LABEL が未定義の場合は、FIXED PORT LABEL を表示します。

- このボタンをタップすることで、MONITOR 1 の DIRECT OUT 信号の出力ポートを選択する MONITOR 1 DIRECT OUT PORT SELECT 画面に切り換えます。

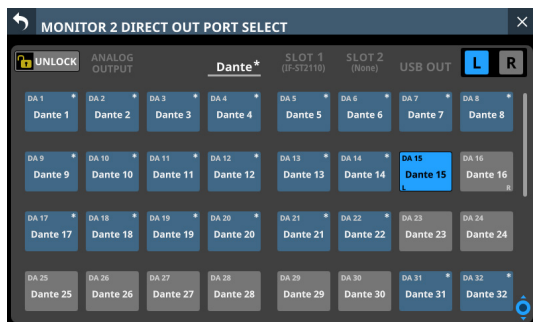


この画面は、OUTPUT PORT SELECT 画面と表示内容および操作方法は同じになります。

詳細については、157 ページ「OUTPUT PORT SELECT 画面」をご参照ください。

⑦ Direct OUT PORT ボタン (MONITOR 2)

- MONITOR 2 のDIRECT OUT信号がアサインされている出力ポート名を表示します。
- このボタンには、上段に省略されたFIXED PORT LABELを、下段にUSER PORT LABELを表示します。USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- このボタンをタップすることで、MONITOR 2のDIRECT OUT信号の出力ポートを選択するMONITOR 2 DIRECT OUT PORT SELECT画面に切り換えます。



この画面は、OUTPUT PORT SELECT画面と表示内容および操作方法是同じになります。
詳細については、157 ページ「OUTPUT PORT SELECT画面」をご参照ください。

⑧ Direct OUT PORT VOLUME ノブ (MONITOR 2)

MONITOR 2 のDIRECT OUT PORTからの出力レベルを調節します。

設定範囲：-∞dB～+10dB（初期値：0dB）

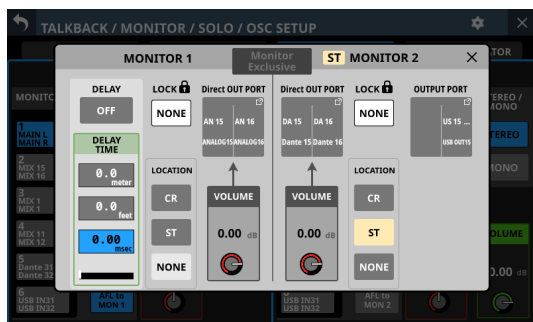
LCD ノブ 5（赤色で点灯）を使って調節します。

⑨ LOCATION設定ボタン (MONITOR 2)

このボタンをタップしてMONITOR 2のLocation設定を切り換えます。（初期値：NONE）

Location設定の詳細については、51 ページ「⑤ モニターのLocation設定エリア」をご参照ください。

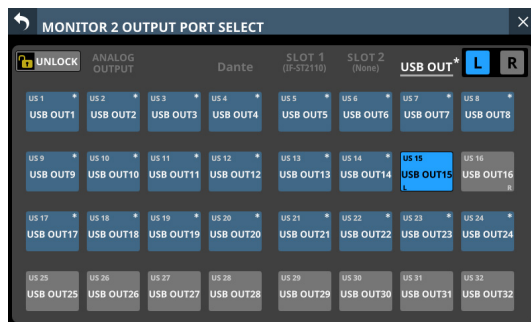
MONITOR 2のLocationが設定されていると、追加設定ウィンドウおよびMONITOR 1/2 タブ画面のMONITOR 2表示の横に「CR」または「ST」のアイコンが表示されます。



[MONITOR 2 のLocationを「ST」に設定した表示]

⑩ OUTPUT PORT ボタン (MONITOR 2)

- MONITOR 2 のOUTPUT信号がアサインされている出力ポート名を表示します。
- このボタンには、上段に省略されたFIXED PORT LABELを、下段にUSER PORT LABELを表示します。USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- このボタンをタップすることで、MONITOR 2のOUTPUT信号の出力ポートを選択するOUTPUT PORT SELECT画面に切り換えます。



この画面は、OUTPUT PORT SELECT画面と表示内容および操作方法是同じになります。
詳細については、157 ページ「OUTPUT PORT SELECT画面」をご参照ください。

⑪ ✕ ボタン

✕ ボタンをタップすると、追加設定ウィンドウを閉じます。

⑫ Monitor Lock ボタン

このボタンをタップすると、常にモニターソースとして選択状態にするためにロックするモニターソースを設定するウィンドウを表示します。



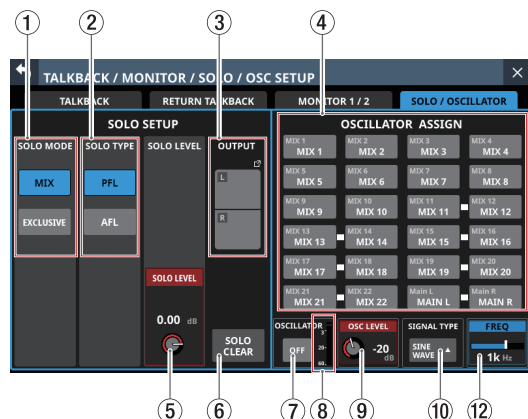
選択肢をタップして、ロックするモニターソースを選択します。（初期値：NONE）

メモ

- MONITOR 1 と MONITOR 2 のそれぞれで、どれか 1 つのモニターソースを選んでロックすることができます。
- ロックしたモニターソースに該当するMONITOR SELECTボタンに🔒マークが表示されます。（→ 90 ページ「MONITOR 出力の設定」）

SOLOと内蔵オシレーターの設定

SOLOと内蔵オシレーターの設定は、TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面のSOLO / OSCILLATORタブ画面で行います。この画面は、メニュー画面 > Mixer Setupメニュー > 「Talkback / Monitor / Solo / OSC」をタップして表示します。



メモ

この画面は、MENUキーを押しながら、いずれかのSOLOキーまたはSOLO CLEARキーを押すことでも表示できます。(→ 334 ページ「第16章 ショートカット操作の一覧表」)

① SOLO MODE ボタン

このボタンをタップして、SOLO機能の動作モードを設定します。

選択肢	内容
MIX (初期値)	SOLOモード中、SOLOキーを押したモジュールの信号をミックスしてSOLOモニターします。
EXCLUSIVE	SOLOモード中、最後にSOLOキーを押したモジュールの信号のみをSOLOモニターします。

選択したボタンがハイライト表示になります。

② SOLO TYPE ボタン

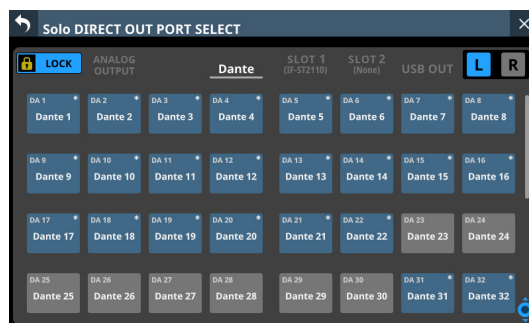
このボタンをタップして、SOLO機能のTYPEを設定します。

選択肢	内容
PFL (初期値)	プリフェーダーの信号をSOLOモニターします。
AFL	ポストパン (MAIN L/R マスターモジュールはポストフェーダー) の信号をSOLOモニターします。

選択したボタンがハイライト表示になります。

③ OUTPUT ボタン

- SOLO信号がアサインされている出力ポート名を表示します。
- このボタンには、上段に省略されたFIXED PORT LABELを、下段にUSER PORT LABELを表示します。USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- このボタンをタップすると、SOLO信号の出力ポートを選択するSolo DIRECT OUT PORT SELECT画面に切り換わります。



この画面は、OUTPUT PORT SELECT画面と表示内容および操作方法是同じになります。

詳細については、157 ページ「OUTPUT PORT SELECT画面」をご参照ください。

④ OSCILLATOR ASSIGN

このボタンをタップして、内蔵オシレーターの信号の出力先を選択します。(初期値：オフ)

出力先に選択したボタンがハイライト表示になります。

メモ

- ステレオバスでも、各バス個別にオン／オフできます。
- このボタンには、上段にFIXED MODULE LABELを、下段にUSER MODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)

⑤ SOLO LEVEL ノブ

SOLO L / Rバスからの出力レベルを調節します。

設定範囲：-∞dB～+10dB (初期値：0dB)

LCDノブ3 (赤色で点灯) を使って調節します。

⑥ SOLO CLEAR ボタン

- いずれかのモジュールのSOLOがオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- このボタンがハイライト表示中にタップすると、全チャンネルのSOLOを解除します。

メモ

トップパネルのSOLO CLEARキーと同じ働きをします。

⑦ OSCILLATOR ボタン

このボタンをタップして、内蔵オシレーターの信号のオン／オフを切り換えます。(初期値：OFF)

オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

⑧ OSCILLATOR レベルメーター

内蔵オシレーターからの出力レベルを表示します。

⑨ OSC LEVEL ノブ

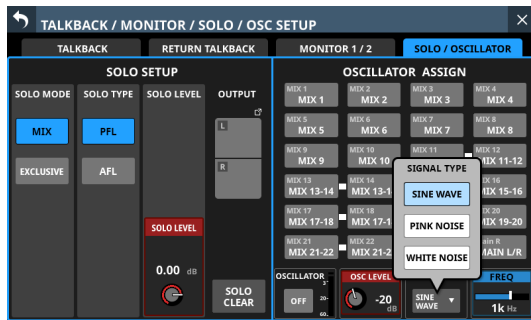
内蔵オシレーターの出力レベルを調節します。

設定範囲：-36dB～0dB（初期値：-20dB）

LCD ノブ 6（赤色で点灯）を使って調節します。

⑩ SIGNAL TYPE ボタン

- 内蔵オシレーターの SIGNAL TYPE名を表示します。
- このボタンをタップすると、TYPE選択メニューを表示します。



選択肢：SINE WAVE（初期値）、PINK NOISE、WHITE NOISE

選択肢のボタンをタップするとメニューを閉じ、選択した SIGNAL TYPE名を表示します。

⑪ FREQ

SIGNAL TYPEの設定が「SINE WAVE」のときに表示します。

内蔵オシレーターが出力する周波数を調節します。

選択肢：100Hz、440Hz、1kHz（初期値）、10kHz

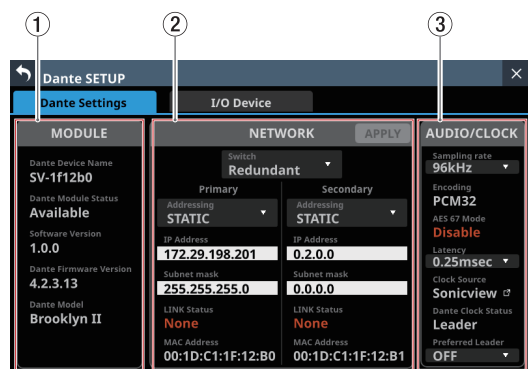
LCD ノブ 8（青色で点灯）を使って調節します。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

Dante SETUP画面

この画面では、「内蔵 Dante モジュール」および「内蔵 Dante 経由で接続された SB-16D」の設定や状態表示を行います。
この画面は、メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「Dante Setup」をタップして表示します。

Dante Settings タブ 画面



① MODULE状態表示

Dante モジュールの状態を表示します。

項目名	内容
Dante Device Name	Dante デバイスのモジュール名を表示します。
Dante Module Status	Dante モジュールのステータスを表示します。
Software Version	本機の内蔵 Dante モジュールのバージョンを表示します。Dante Controller に表示される Product Version と同じものです。
Dante Firmware Version	Dante システム部のファームウェアバージョンを表示します。Dante Controller に表示される Dante Firmware Version と同じものです。
Dante Model	本機の内蔵 Dante モジュールのハードウェアの種類を表示します。Dante Controller に表示される Dante Model と同じものです。

② NETWORK状態表示

Dante ネットワークの設定状態を表示します。
Redundant（二重化）モードのときは、左側に Primary 端子、右側に Secondary 端子の設定を表示します。
Switched（デジチェーン）モードのときは、左側だけが有効になります。

項目名	内容
Switch	選択中の接続モードを表示します。 この部分をタップすると、Redundant（二重化）モードと Switched（デジチェーン）モードを選択するウィンドウを表示します。 (初期値：Redundant)
Addressing	IP アドレス設定モード名を表示します。 この部分をタップすると、「AUTO (DHCP)」と「STATIC」を選択するウィンドウを表示します。 (初期値：AUTO (DHCP))

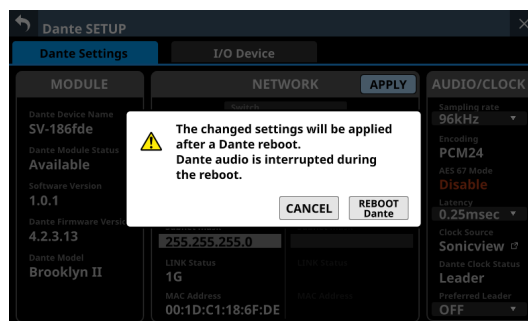
項目名	内容
IP Address	Addressing 項目の設定が「AUTO」の場合は割り振られた IP アドレス、「STATIC」の場合はユーザーが設定した IP アドレスを表示します。 Addressing 項目の設定が「STATIC」のときにこの部分をタップすると、IP ADDRESS 画面に切り換わります。(→ 137 ページ「IP Address / Subnet Mask / Default Gateway の設定手順」)
Subnet mask	Addressing 項目の設定が「AUTO」の場合は割り振られたサブネットマスク、「STATIC」の場合はユーザーが設定したサブネットマスクを表示します。 Addressing 項目の設定が「STATIC」のときにこの部分をタップすると、SUBNET MASK 画面に切り換わります。(→ 137 ページ「IP Address / Subnet Mask / Default Gateway の設定手順」)
LINK Status	Dante ネットワークのリンク状態を表示します。1G 以外の場合、赤字で表示します。
MAC Address	Primary / Secondary の各 Dante 端子の MAC アドレスを表示します。

メモ

Dante ネットワークの設定を確定するには、Dante モジュールを再起動する必要があります。

Dante ネットワークの設定が変更された場合のみ、APPLY ボタンがハイライト表示になります。

ハイライト表示中の APPLY ボタンをタップすると、確認メッセージが表示されます。




REBOOT Dante ボタンをタップすると、Dante モジュールを再起動します。

注意

Dante モジュールの再起動中は、Dante 入出力音が途切れますのでご注意ください。

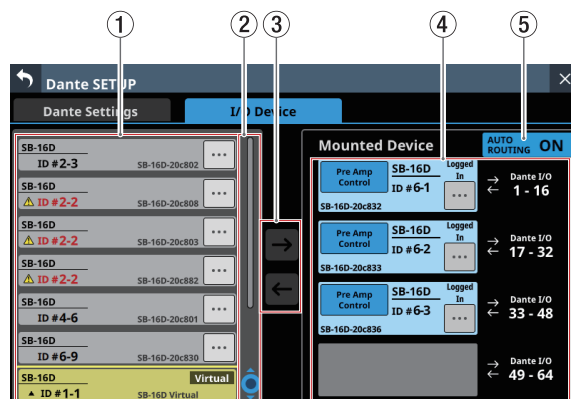
③ AUDIO/CLOCK設定状態表示

Danteの音声信号とクロックの状態を表示します。


項目名	内容
Sampling rate	<p>内蔵 Dante モジュールのサンプリング周波数の設定状態を表示します。この部分をタップすると、48kHzと 96kHz を選択するウィンドウを表示します。(初期値：96kHz)</p> <p>メモ</p> <p>サンプリング周波数が 48kHz の場合は 64IN/64OUT、96kHz の場合は 32IN/32OUTとなります。</p>
Encoding	エンコーディングの設定を表示します。
AES 67 Mode	AES67 モードの状態を表示します。
Latency	Latency の設定状態を表示します。この部分をタップすると、Latency 設定 (0.25msec、0.5msec、1.0msec、2.0msec、5.0msec) を選択するウィンドウを表示します。(初期値：1.0msec)
Clock Source	Dante モジュールのクロック同期先 (Dante、Sonicview) を表示します。  アイコンをタップすると、SYNC CLOCK画面に切り換わります。
Dante Clock Status	Dante Clock のステータス (Leader、Follower、Unlock) を表示します。Unlock の場合、赤文字で表示します。
Preferred Leader	Preferred Leader の設定状態を表示します。この部分をタップすると、ON / OFF を選択するウィンドウを表示します。(初期値：OFF)

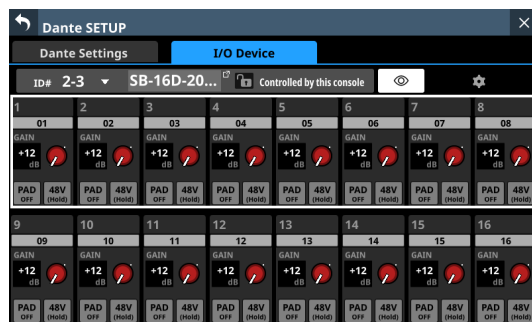
I/O Device タブ画面

サポート I/O デバイスである SB-16D のマウントや設定などを行う画面です。



① デバイスエリア表示部

- 接続した Dante ネットワーク内で検出された SB-16D の ID 番号、機種名 (SB-16D)、Dante デバイスのモジュール名が表示されます。ネットワークアドレスが違っていたり、ルーターを経由していたりする SB-16D は、ここに表示されません。
- 選択したデバイスは、黄色い枠でハイライト表示されます。
-  ボタンをタップすると、SB-16D のコントロール画面に切り換わります。(→ 112 ページ「コントロール画面の操作」)



② スクロールノブ／スクロールバー表示

- 検出された Dante デバイスの数が画面内に表示しきれない場合にスクロールバーを表示し、スクロールノブをハイライト表示します。
- スクロールバー表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、デバイスエリア表示部 (①) を上下にスワイプする、または LCD ノブ 4 を回してスクロールすることもできます。

③ マウント／アンマウントボタン

SB-16D をマウントする、またはマウント済みデバイスをアンマウントするためのボタンです。

操作手順は、以下をご参照ください。

- 101 ページ「Dante ネットワークに接続されているデバイスのマウント」
- 104 ページ「デバイスのアンマウント」
- 104 ページ「Dante ネットワークに存在しないデバイスのマウント」

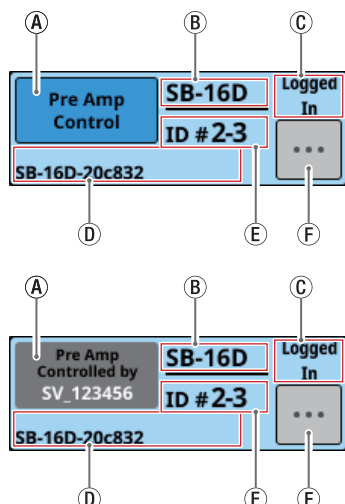
第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

④ Mounted Device エリア表示部

マウント済みデバイスを表示します。
デバイスは、状態によって以下のような色で表示されます。

表示	状態
	Dante ネットワークに接続されたデバイス
	Dante ネットワークに存在しない Virtual デバイス

選択したデバイスやマウント位置は、黄色い枠でハイライト表示されます。



① 制御権表示部：制御権の状態を表示します。

表示	内容
	この Sonicview に制御権がある状態。
	この Sonicview に制御権がなく、[デバイス名] の Sonicview が制御権を持っている状態。タップすると制御権を取得するかどうかの確認メッセージが表示されます。(→ 105 ページ「マウント後の制御権の設定」)
	どのデバイスからも制御できる状態。タップすると制御権を取得するかどうかの確認メッセージが表示されます。(→ 105 ページ「マウント後の制御権の設定」)
	この Sonicview に制御権がなく、ホーム画面や MODULE 画面から操作できない状態。タップすると制御権を取得するかどうかの確認メッセージが表示されます。(→ 105 ページ「マウント後の制御権の設定」)
	マウント中。

- ⑧ 機種名を表示します。同一の Dante ネットワーク上に同一 ID のデバイスが接続されていない場合 (仮想マウント時) には「Virtual」と表示されます。
- ⑨ ログイン状態を表示します。

表示	内容
Logged In	この SB-16D の情報が、この Sonicview から取得できる状態。
Logged Out	この SB-16D の情報が、この Sonicview から取得できない状態 (10 台の Sonicview が、この SB-16D をマウント済みの状態でマウントした状態、もしくは通信エラーでログインできない状態)。(→ 108 ページ「ログイン失敗」)

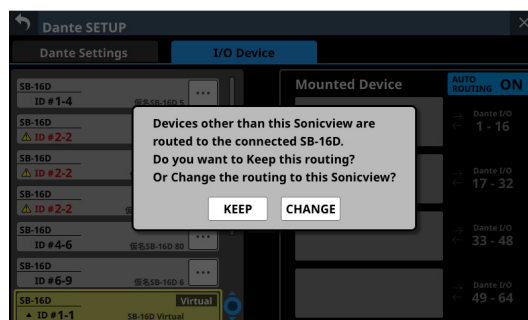
- ⑩ この SB-16D に設定されている Dante デバイスのモジュール名を表示します。
- ⑪ ID を表示します。同一の Dante ネットワーク上に同一 ID のデバイスが複数接続されている場合 (ID が重複している場合) は、⚠ マークとともに「ID」が赤く表示されます。
- ⑫ このボタンをタップすると、SB-16D のコントロール画面に切り換わります。(→ 112 ページ「コントロール画面の操作」)

⑤ AUTO ROUTING ボタン

Dante ルーティングの設定を SB-16D のマウント状態に合わせて自動で行うか、Dante Controller で行うかの設定です。
このボタンをタップして ON / OFF を切り換えます。

選択肢	内容
ON (初期値)	SB-16D のマウント状態に合わせて自動で SB-16D と Sonicview の Dante ルーティングを設定します。 Sonicview に接続する Dante 機器が SB-16D のみの場合にお勧めです。
OFF	SB-16D がマウント状態になっても Dante ルーティングを設定しません。 Dante Controller でルーティングしてください。SB-16D 以外の Dante 機器と接続する場合こちらに設定してください。

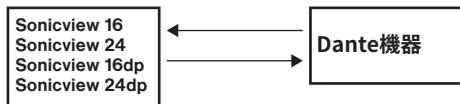
- AUTO ROUTING ボタンを「OFF」から「ON」に変更する際、自動的に Dante ルーティングが実施されると本機の Dante 入力ルーティングが変更される場合に、以下の確認メッセージが表示されます。



KEEP ボタンをタップすると AUTO ROUTING ボタンが「ON」に切り換わりますが、Dante ルーティング設定はそのまま維持されます。AUTO ROUTING ボタンを「ON」に切り換えたあとに SB-16D をマウントした場合は、自動でルーティングされます。

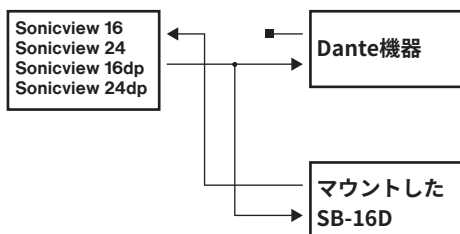
CHANGE ボタンをタップすると、マウント状態に合わせて Dante ルーティングが変更されます。その際、「Sonicview」から「他の Dante 機器」への出力ルーティングは維持された状態のまま、「Sonicview」から「マウントしている SB-16D」への出力ルーティングが追加されます。

- AUTO ROUTING ボタンが「OFF」の状態での Dante ルーティング例



マウントした
SB-16D

- 上記状態から AUTO ROUTING ボタンを「ON」に切り換えた際に、CHANGE ボタンをタップした場合の Dante ルーティングの状況



メモ

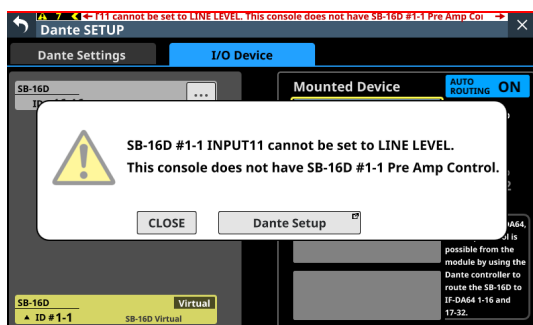
CHANGE ボタンをタップした際に以下の条件をすべて満たした場合、Insert Return ポートにアサインされた SB-16D の Pre Amp をラインレベルの基準設定値である下記設定になります。

- マウントした SB-16D の制御権を本機が取得している状態
- マウントした SB-16D の入力ポートが Insert Return ポートにアサインされた状態

Pre Amp 設定

- PAD : ON
- Analog GAIN : 0
- Phantom : OFF

ただし、該当の SB-16D の制御権を本機が取得していない場合、Pre Amp 設定をラインレベルの基準設定値に変更できず、下記メッセージが表示されます。



SB-16D を使用する

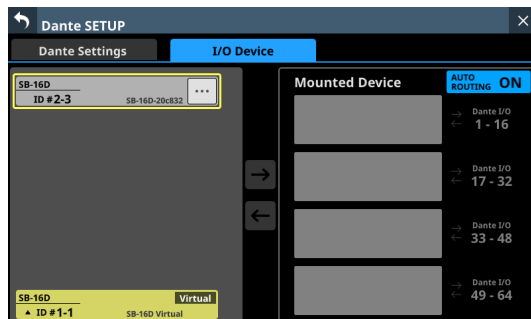
SB-16D を Sonicview の I/O Box として利用するには、事前にマウント（登録）が必要です。

操作手順は、以下をご参照ください。




- 101 ページ「Dante ネットワークに接続されているデバイスのマウント」
- 104 ページ「Dante ネットワークに存在しないデバイスのマウント」
- 1 台の Sonicview に対して最大 4 台の SB-16D がマウント可能です。
- マウントして制御権を取得すると、マウントした SB-16D の以下の内容を本機から実施できるようになります。
 - SB-16D の Pre Amp の制御
 - スナップショットリコールによる SB-16D の Pre Amp の制御
 - GPIO ポート（拡張モード）の制御／使用
 - Dante 出力ルーティングの制御
- Sonicview は、SB-16D のマウント状態を ID で管理しています。マウントした ID と同じ ID のデバイスが Dante ネットワークに接続されていない場合は、デバイス名の代わりに「Virtual」と表示されます。
- 同一 Dante ネットワーク上に同じ ID のデバイスが複数接続されている場合（ID が重複している場合）、該当するデバイスは ⚠ マークとともに ID が赤く表示されます。
- マウント済みデバイスの ID が重複している場合、先に Sonicview に認識された SB-16D は使用できます。ただし、SB-16D のコントロール画面を表示するには、ID の重複を解消する必要があります。（→ 105 ページ「重複した ID の解消方法」）また、ID が重複しているデバイスのうち、あとから Sonicview に認識された SB-16D は使用できません。
- I/O Device タブ画面の AUTO ROUTING ボタンが「ON」の場合は、Mounted Device エリア表示部（④）のマウント位置により、マウントした SB-16D の I/O ポートと本機の内蔵 Dante I/O が、マウント時に自動的に Dante ルーティングされます。詳細については、109 ページ「Dante ルーティング」の表をご参照ください。

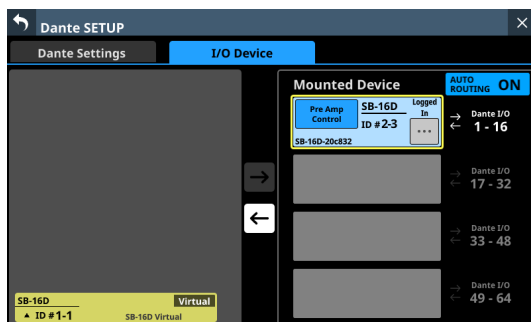
Dante ネットワークに接続されているデバイスのマウント

1. 左側の Dante ネットワーク上のマウントしたいデバイスをタップします。
選択したデバイスに黄色い枠が表示されます。



第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

- 右側のマウント先（空きマウントスロット）をタップします。選択したマウント先に黄色い枠が表示され、中央の  ボタンがハイライト表示（）になります。
- 中央の  ボタンをタップすると、右側で選択したマウント先にマウントされます。



マウント処理が完了するとメッセージが表示され、マウント後の制御権に関する情報がマウントスロット内の左上に表示されます。

表示	内容
Pre Amp Control	このSonicviewから制御できます。
Pre Amp Control by [デバイス名]	「デバイス名」のSonicviewが制御権を持っています。このSonicviewからは、制御できません（音は通ります）。

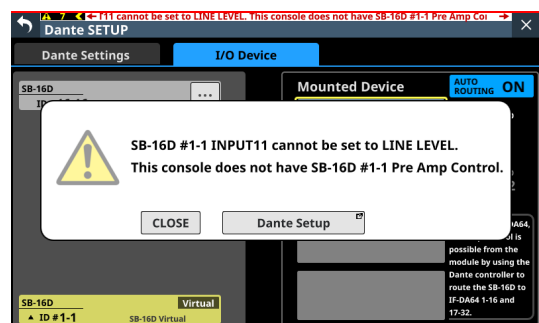
メモ

- 制御権を持っていない場合は、マウント状態でもPre Amp、GPIO（拡張モード）、スナップショットリコール、出カルーティングの制御がこのSonicviewからできません。
制御権を取得した場合は上記の制御が可能になり、サンプリングレートやリファレンスレベルの設定が他のSonicviewに対して優先されます。
- SB-16Dをマウントした際に以下の条件をすべて満たした場合、Insert ReturnポートにアサインされたSB-16DのPre Ampを、ラインレベルの基準設定値である下記設定になります。
 - マウントしたSB-16Dの制御権を本機が取得した状態
 - マウントしたSB-16Dの入力ポートが本機の入力としてDanteルーティングされた状態
 - マウントしたSB-16Dの入力ポートがInsert Returnポートにアサインされた状態

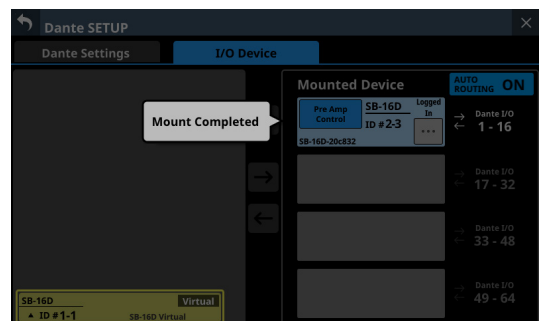
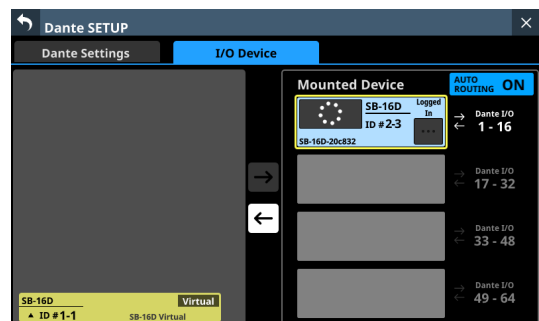
Pre Amp設定

- PAD : ON
- Analog GAIN : 0
- Phantom : OFF

ただし、該当するSB-16Dの制御権を本機が取得していない場合は、Pre Amp設定をラインレベルの基準設定値に変更できず、下記メッセージが表示されます。

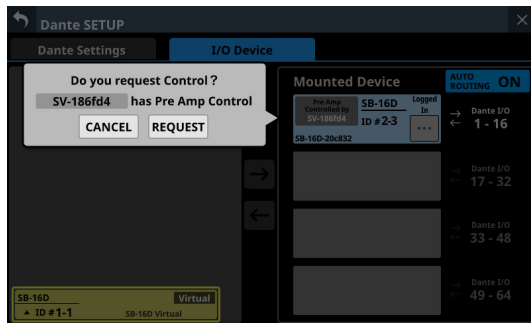


- 制御権を持っているSonicviewがDanteネットワーク上に存在しない場合：
マウント中の表示が消えると、マウント完了メッセージが表示されます。このメッセージは、数秒で自動的に消えます。

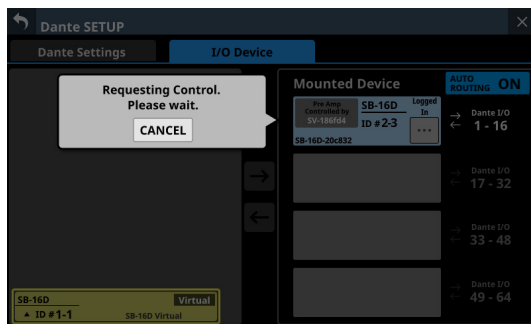


第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

- 制御権を持っている Sonicview が Dante ネットワーク 上に存在する場合：
マウント完了後、「Pre Amp Control by ～」のボタンをタップします。下記のメッセージが表示されるので、REQUEST ボタンをタップして制御権を持っている Sonicview の許可を待ちます。



許可を待っている間、下記のメッセージが表示されます。CANCEL ボタンをタップすると、許可待ち状態を中断してマウント操作を終了します。



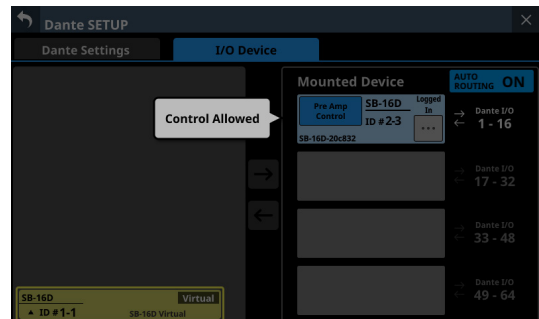
制御権を持っている Sonicview の画面に許可要求のメッセージが表示されます。



- 制御権を持っている Sonicview で操作する前に要求側が CANCEL ボタンをタップした場合には、自動的にメッセージが消えます。

- 制御権を持っている Sonicview にて許可要求のメッセージ内の各ボタンをタップすると、要求側の Sonicview が以下のように表示されます。

- ALLOW ボタンをタップされると、制御権を取得したメッセージが表示されます。このメッセージは 2 秒で自動的に消えます。





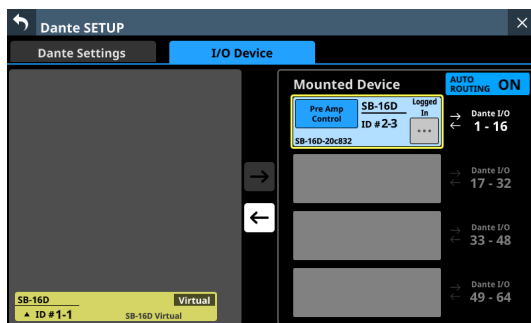
- DENY ボタンをタップされると、要求拒否のメッセージを表示します。OK ボタンをタップすると、メッセージが消えます。




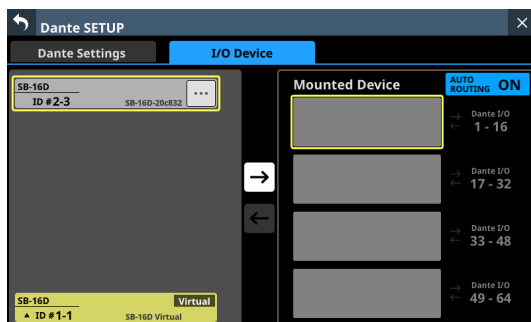
第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

デバイスのアンマウント

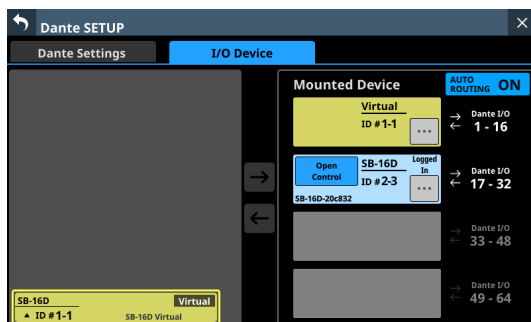
1. 右側のリストのアンマウントしたいデバイスをタップします。
選択したデバイスに黄色い枠が表示され、中央の  ボタンがハイライト表示 () になります。



2. 中央の  ボタンをタップします。
選択したデバイスがアンマウントされ左側のリストに移動します。



アンマウント前に制御権を持っていた場合は、制御権がクリアされます。
このデバイスをマウントしていた他のSonicviewでは、制御権表示部に「Open Control」と表示されます。

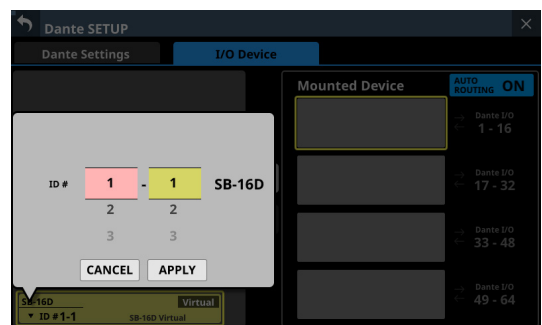


Dante ネットワークに存在しないデバイスのマウント

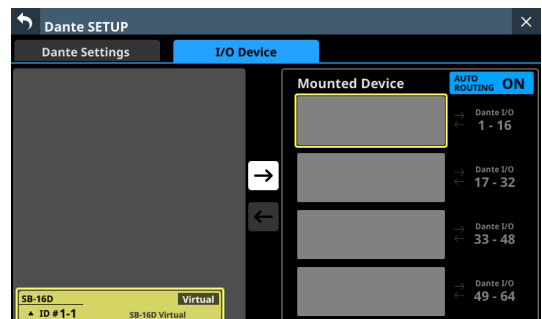
Dante ネットワークに接続されていないデバイスでも仮想的にマウントすることができます。




I/O Device タブ画面の AUTO ROUTING ボタンが「ON」のときに対応するIDのデバイスが接続されると、Pre Ampやルーティングの情報が反映されます。

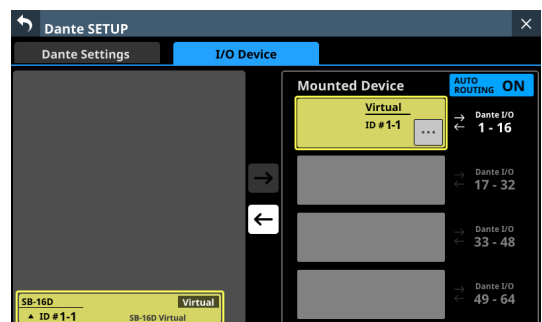
1. 左側のリスト表示に一番下のIDをタップして、仮想的にマウントするデバイスのID番号を設定するウィンドウを表示します。



2. 選択肢を上下にスワイプして、マウントしたいIDを選択します。
ピンクと黄色で点灯したLCDノブ2／LCDノブ3を回して選択肢を変更することもできます。
すでにDanteネットワーク上に存在するIDを選択したときはIDが赤くなり、APPLYボタンがグレースアウト表示になって設定できません。
3. APPLYボタンをタップして、変更した設定を確認します。
選択したIDの番号が表示されます。



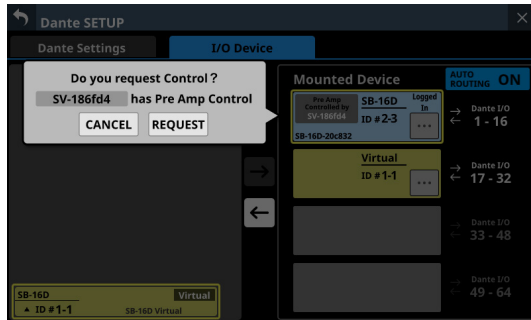
4. 右側のマウント先 (空きマウントスロット) をタップします。
選択したマウント先に黄色い枠が表示され、中央の  ボタンがハイライト表示 () になります。
5. 中央の  ボタンをタップすると、右側で選択したマウント位置にマウントされます。



マウント後の制御権の設定

マウントしたあとに制御権を要求することができます。

1. 制御権を取得していないマウントされたSB-16Dの制御権表示部をタップすると、メッセージが表示されます。



2. REQUEST ボタンをタップすると、制御権の要求を開始します。CANCEL ボタンをタップすると、制御権の要求をせずに終了します。

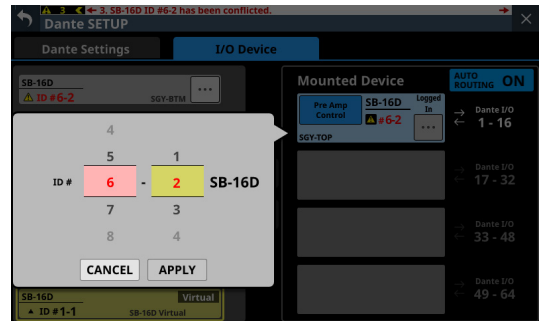
メモ

制御権を取得しない場合は、マウント状態でも該当のSB-16D に対する Pre Amp、GPIO (拡張モード)、スナップショットリコール、出力ルーティングの制御がこの Sonicview からできません。制御権を取得した場合は上記の制御が可能になり、該当のSB-16D に対するサンプリングレートやリファレンスレベルの設定が他の Sonicview に対して優先されます。

重複したIDの解消方法

- 右側リストで解消する場合

1. ID が重複しているデバイスの [] ボタンをタップして、ID を設定するウィンドウを表示します。

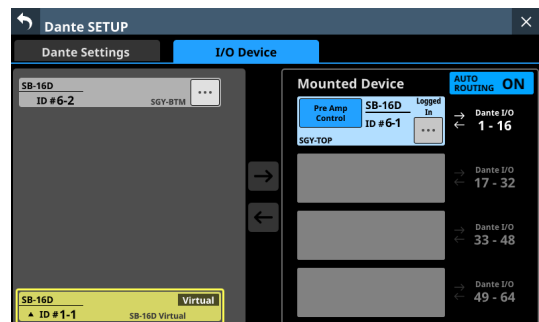


2. 選択肢を上下にスワイプして、設定したいID を選択します。ピンクと黄色で点灯したLCD ノブ2 / LCD ノブ3 を回して選択肢を変更することもできます。

メモ

すでに Dante ネットワーク 上に存在するID を選択したときはID が赤くなり、APPLY ボタンがグレイアウト表示になって設定できません。


3. APPLY ボタンをタップして、変更した設定を確定します。選択したID の番号が表示されます。

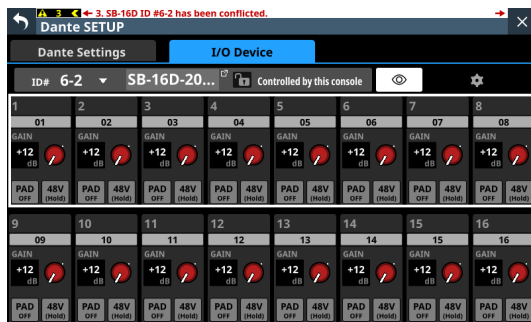


重複が解消され、通常の表示に戻ります。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

- 左側リストで解消する場合

1. IDが重複しているデバイスの  ボタンをタップします。タップしたデバイスのコントロール画面が表示されます。



2. デバイス名表示部の右側に「Controlled by this console」と表示されたら、画面左上のID表示部をタップして、IDを設定するウィンドウを表示します。

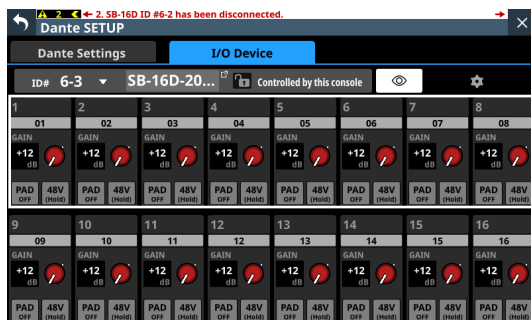


3. 選択肢を上下にスワイプして、設定したいIDを選択します。ピンクと黄色で点灯したLCDノブ2／LCDノブ3を回して選択肢を変更することもできます。

メモ

すでに Dante ネットワーク上に存在するIDを選択したときはIDが赤くなり、APPLYボタンがグレイアウト表示になって設定できません。

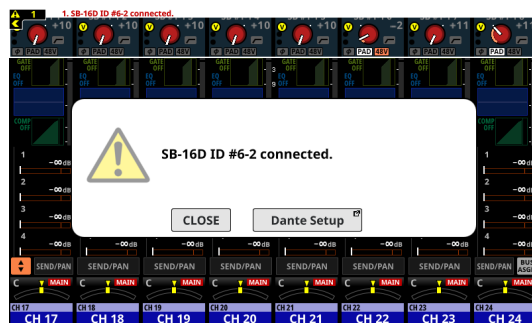
4. APPLYボタンをタップして、変更した設定を確定します。選択したIDの番号が表示されます。



重複が解消され、通常の表示に戻ります。


SB-16Dに関するアラート・エラー表示

- パーチャルマウント状態からマウント状態に切り換わった場合：右端のタッチスクリーンに以下のメッセージウィンドウを表示します。



CLOSEボタンをタップすると、メッセージを閉じます。Dante SETUPボタンをタップすると、右端のタッチスクリーンがDante SETUP画面のI/O Deviceタブ画面に切り換わります。また、すべてのタッチスクリーン上部に以下のアラートメッセージを表示します。


SB-16D ID #xx-xx connected.

このアラートメッセージをタップすると、Dante SETUP画面のI/O Deviceタブ画面に切り換わります。画面上部のアラート表示を消すには、INFORMATION画面のERRORタブ画面で該当するアラートメッセージの  ボタンをタップします。(→ 267 ページ「ERRORタブ画面」)

- マウント状態からパーチャルマウント状態に切り換わった場合：マウントしていたSB-16DがDanteネットワークから切断されパーチャルマウント状態に切り換わり、すべてのタッチスクリーン上部に以下のエラーメッセージを表示します。

SB-16D ID #xx-xx has been disconnected.

このエラーメッセージをタップすると、Dante SETUP画面のI/O Deviceタブ画面に切り換わります。このエラーメッセージ表示は、以下の方法で解除できます。

- SB-16DがDanteネットワークに復帰した場合は、自動的にエラーが解消し、画面上部のエラーメッセージ表示が消えます。
- INFORMATION画面のERRORタブ画面で該当するエラーメッセージの  ボタンをタップすると、画面上部のエラーメッセージ表示が消えます。
- Dante Setup画面のI/O DEVICEタブ画面の操作で該当するデバイスをアンマウントした場合も、エラーが解消し、画面上部のエラーメッセージ表示が消えます。

- IDが重複した状態になった場合：

マウントされているSB-16Dと同じIDのSB-16DがDanteネットワークに接続された場合はIDが重複した状態となり、すべてのタッチスクリーン上部に以下のエラーメッセージを表示します。

SB-16D ID #xx-xx has a ID conflict.

このエラーメッセージをタップすると、Dante SETUP画面のI/O Deviceタブ画面に切り換わります。

このとき、先にマウントされていたデバイスが優先されますのでミキサーとしての動作に影響はありません。

バーチャルマウント状態からマウント状態に切り換わったときのアラートメッセージが残ったままIDが重複した状態になった場合は、アラート表示を解除したのちにエラーメッセージを表示します。

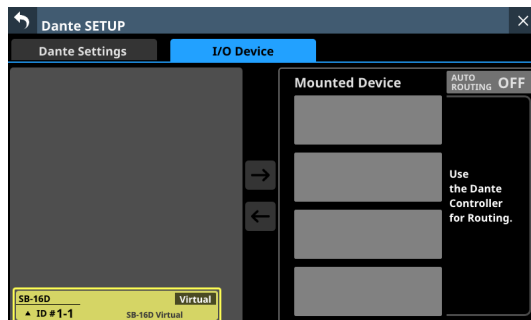
このエラーメッセージ表示は、以下の方法で解除できます。

- Dante画面のI/O Deviceタブ画面の操作で重複したIDを解消すると、画面上部のエラーメッセージ表示が消えます。
- 重複しているデバイスがDanteネットワーク上から切断され正常なマウント状態に戻ると、画面上部のエラー表示が消えます。
- このエラーメッセージ表示が解除されると、INFORMATION画面のERRORタブ画面に以下のエラー復帰メッセージが登録されます。

SB-16D ID #xx-xx conflict has been resolved.

Dante Controllerでルーティング、96kHz動作時のルーティングのときの制限

- AUTO ROUTINGボタンが「OFF」に設定されている場合は、I/O Deviceタブ画面の右側のリストに「Sonicview Dante I/O」と「≧1-16」などが表示されません。

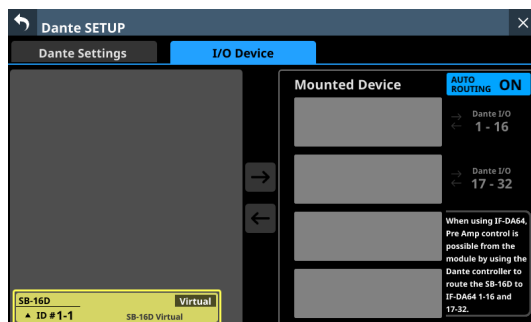


代わりに、下記のメッセージが表示されます。

Use the Dante Controller for Routing.

- Dante SETUP画面のDante Settingsタブ画面のSampling rateが「96kHz」に設定されている場合は、I/O Deviceタブ画面の右側リストのマウントスロット下2つに「≧33-48」と「≧49-64」が表示されません。

代わりに、以下のメッセージが表示されます。



この場合、マウント後に制御権の取得操作が必要です。

マウント時に自動で取得はしません。

マウント直後には、制御権表示部に「Pre Amp Control OFF」と表示されます。

- IF-DA64（Danteカード）が装着されていない場合：制御権表示部をタップすると、以下のメッセージが表示されます。

IF-DA64 is required to enable Pre Amp Control.
[CANCEL]

CANCELボタンをタップすると、メッセージウィンドウを閉じて元の画面に戻ります。この場合は、本機からのPre Ampの制御はできません。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

- IF-DA64（Danteカード）が装着されている場合：制御権表示部をタップすると、以下のメッセージが表示されます。

Route as follows by Dante Controller.
[SB-16D 1-16ch] to [IF-DA64 (Slot1) 1-16ch]*
Do you want to enable Pre Amp Control?
[CANCEL] [ENABLE]

- CANCEL ボタンをタップすると、メッセージウィンドウを閉じて元の画面に戻ります。この場合は、本機からのPre Ampの制御はできません。
- ENABLE ボタンをタップすると、制御権が設定され制御権表示部に「Pre Amp Control」と表示されます。
- 他のSonicviewなどが、すでにSB-16Dの制御権を持っている場合：制御権表示部をタップすると、以下のメッセージが表示されます。

Route as follows by Dante Controller.
[SB-16D 1-16ch] to [IF-DA64 (Slot1) 1-16ch]*
Do you request control?
Sonicview XXX has Pre Amp control.
[CANCEL] [REQUEST]

このあとは、101 ページ「Dante ネットワークに接続されているデバイスのマウント」の手順 5. 以降の手順で制御権を取得できます。

上記方法で制御権を取得すると、IF-DA64（Danteカード）が装着されている SLOT を入力ソースとしてアサインしているモジュールからのPre Ampの制御が可能になります。

- * この表示は、マウントスロットの3つ目にSB-16Dをマウントし、SLOT 1 にIF-DA64（Danteカード）を装着している場合の表示です。
マウントスロットの4つ目にSB-16Dをマウントし、SLOT 2 にのみIF-DA64（Danteカード）を装着している場合は、以下のメッセージが表示されます。


Route as follows by Dante Controller.
[SB-16D 1-16ch] to [IF-DA64 (Slot2) 17-32ch]

ログイン失敗

1 台のSB-16Dに対して、同時に最大 10 台までSonicviewからアクセスが可能です。

10 台を超えると、それ以降にそのSB-16DにアクセスしようとしたSonicviewはアクセスに失敗（ログイン失敗）し、そのSB-16Dは制御できません。

ログイン失敗しているマウント済みデバイスは、右上に「Logged Out」と表示されます。

未マウントデバイスまたはマウント済みデバイスの  ボタンをタップすると、ログイン失敗している旨の以下のメッセージが表示されます。

メッセージのOKボタンをタップすると元に戻ります。

メッセージの内容は、ログイン失敗の理由によって異なります。

- すでに 10 台ログイン済みの場合

Login failed. Exceeded maximum number of connections.

- 通信エラーでログインできない場合

Login failed. TCP Error.

SB-16Dをマウントするときにログイン失敗すると、マウントは実行されますが、上記メッセージが表示されます。

ログイン失敗したマウント済みデバイスで可能なことと不可能なことは、以下の通りです。

- 可能なこと

- 「SB-16DからSonicviewへの入力Danteルーティング」を本機で設定することができ、このSB-16Dの入力音を本機に入力できます。

- Dante Controllerでルーティング設定すると、このSB-16Dから音を入出力することができるようになります。

- 不可能なこと

- 「SonicviewからSB-16Dへの出力Danteルーティング」を本機で設定することができません。そのため、このSB-16Dから本機の音を出力できません。

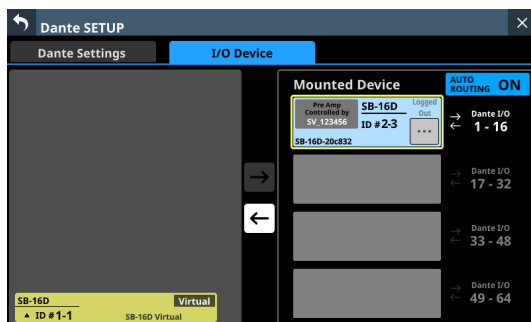
- 制御権の取得、Pre Ampの設定、その他の設定を変更／確認できません。

ログイン失敗のエラーが出た場合の対処方法

- マウントしていない該当SB-16Dの操作画面を表示しているSonicviewがある場合は、SB-16Dの操作画面を閉じます。
- 該当SB-16Dが 10 台以上のSonicviewでマウントされている場合は、該当SB-16Dが不要なSonicviewでアンマウントします。
- マウント済みでログイン失敗している場合は、上記を行った上でいったんアンマウントしてマウントをし直します。
- 上記の対処方法で解決しない場合は、いったんSB-16Dの電源を切り、数秒待ってから電源を再投入します。

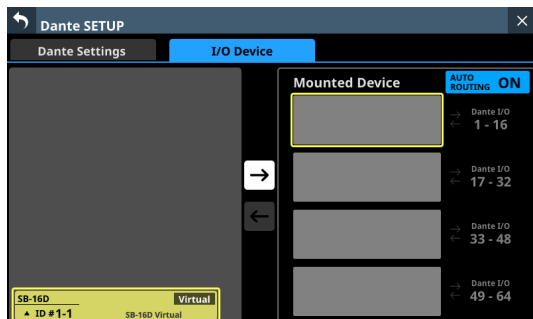
オーディオ設定の同期

マウント後の制御権をSonicviewが持つ場合は、SB-16Dはサンプリングレートとリファレンスレベル（アナログ・デジタル両方）の設定がマウントしたSonicviewの設定と自動的に同期されます。また、SnapshotのRecall対象デバイスとして設定され、Dante出力ルーティングを優先する機器としても設定されます。



Dante ルーティング

Sonicviewは、マウントしたSB-16DのDante I/OとSonicviewのDante I/Oを自動でルーティングすることができます。一方、ルーティングをDante Controllerに任せて、Sonicviewではルーティングしない設定も選択することができます。設定は、I/O Deviceタブ画面のAUTO ROUTINGボタンで行います。(→ 100 ページ「⑤ AUTO ROUTING ボタン」)



- SonicviewとマウントしたSB-16DのDanteルーティングをSonicviewから行うには、AUTO ROUTINGボタンを「ON」に設定します。
マウント時に自動でDanteルーティングが設定されます。この際、SB-16Dのマウント位置により、マウントしたSB-16DのI/Oポートと本機の内蔵Dante I/Oが、マウント時に以下のように自動的にDanteルーティングされます。

Sync Clock = 48kHz時

Mounted Device エリア 表示部のマウント 位置	ルーティング先
一番上	本機の内蔵 Dante I/O の 1-16
上から二番目	本機の内蔵 Dante I/O の 17-32
上から三番目	本機の内蔵 Dante I/O の 33-48
上から四番目	本機の内蔵 Dante I/O の 49-64

Sync Clock = 96kHz時

Mounted Device エリア 表示部のマウント 位置	ルーティング先
一番上	本機の内蔵 Dante I/O の 1-16
上から二番目	本機の内蔵 Dante I/O の 17-32
上から三番目	自動では、ルーティングされません。「本機に装着した IF-DA64 の Dante I/O 1-16」と「ここにマウントした SB-16D の Dante I/O 1-16」を Dante Controller でルーティングしてください。
上から四番目	自動では、ルーティングされません。「本機に装着した IF-DA64 の Dante I/O 17-32」と「ここにマウントした SB-16D の Dante I/O 1-16」を Dante Controller でルーティングしてください。

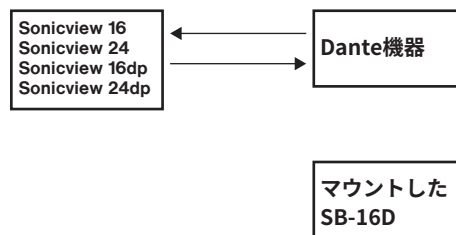
メモ

AUTO ROUTING ボタンを「OFF」から「ON」に変更する際、自動的にDanteルーティングが実施されると本機のDante入力ルーティングが変更される場合に、下記のメッセージが表示され、ルーティングをマウント状態に合わせるかを確認します。

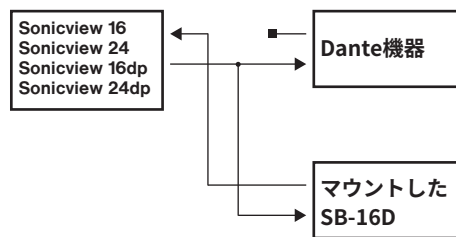
Devices other than this Sonicview are routed to the mounted SB-16D.
Do you want to KEEP the routing? Or Change the routing to this Sonicview?
[KEEP] [CHANGE]

KEEP ボタンをタップすると、AUTO ROUTING ボタンが「ON」に切り換わりますが、Danteルーティング設定はそのまま維持されます。AUTO ROUTING ボタンを「ON」に切り換えたあとにSB-16Dをマウントした場合は、自動でルーティングされます。CHANGE ボタンをタップすると、マウント状態に合わせてDanteルーティングが変更されます。その際、「Sonicview」から「他のDante機器」への出力ルーティングは維持された状態のまま、「Sonicview」から「マウントしているSB-16D」への出力ルーティングが追加されます。

- AUTO ROUTING ボタンが「OFF」の状態でのDanteルーティング例



- 上記状態からAUTO ROUTINGボタンを「ON」に切り換えた際に、CHANGEボタンをタップした場合のDanteルーティングの状況



- SonicviewのDanteルーティングをDante Controllerから行うには、AUTO ROUTINGボタンを「OFF」に設定します。Dante Controllerでルーティングできるようになります。
 - Dante ControllerからDanteルーティングを行う設定にした場合は、Sonicviewからのルーティング設定は相手がSB-16Dでもできません。

メモ

マウント済みSB-16Dのルーティングは、そのまま維持します。AUTO ROUTING ボタンを「OFF」に設定したあとからSB-16Dをマウントしても自動でルーティングしません。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

SB-16Dのコントロール

Sonicviewの拡張I/OとしてのPre Ampコントロール

内蔵 Dante 入力ポートがルーティングされたモジュールの操作画面から、この Dante 入力ポートに Dante ルーティングされた SB-16D の入力端子の Pre Amp を操作することができます。

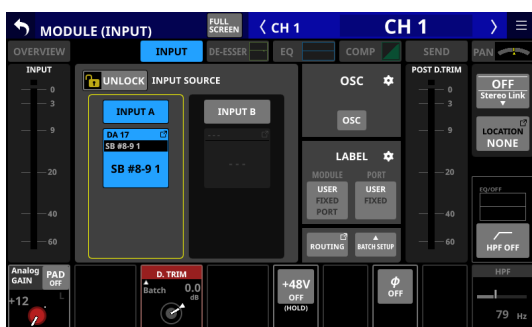
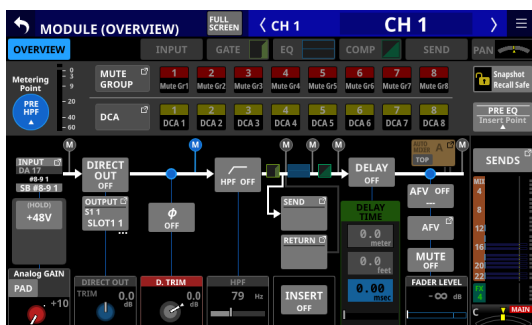
この場合は、Sonicview 内蔵のアナログ入力端子の Pre Amp と同じように操作することが可能です。

以下の条件をすべて満たしている場合のみ、ホーム画面／MODULE (OVERVIEW) 画面／MODULE (INPUT) 画面で Pre Amp の操作が可能です。

- Dante ポートがモジュールにアサインされている
- この Dante ポートに SB-16D の Dante ポートがルーティングされている
- この Dante ポートにルーティングされている SB-16D が Sonicview にマウントされて制御権を持っている、もしくはパッチャルマウントされている

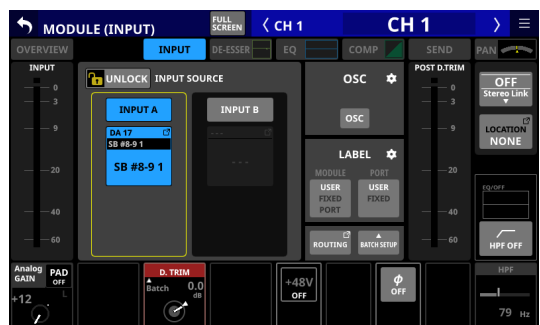
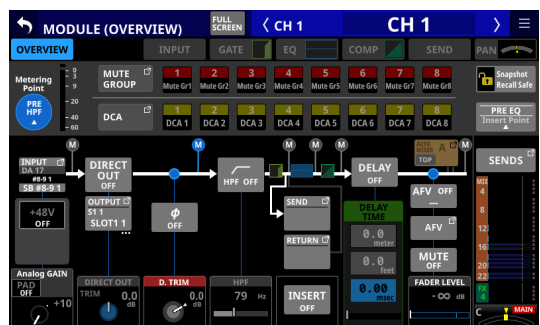
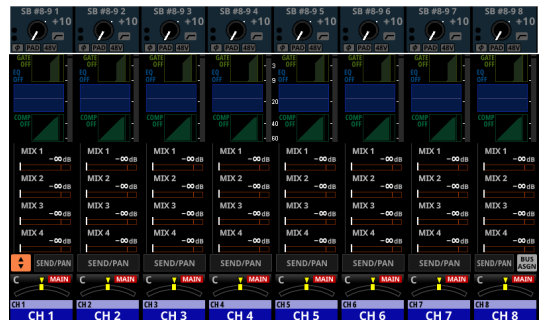
マウントされて、制御権を持っている場合の表示例

この場合、内蔵アナログ入力端子をルーティングした場合と同じ Pre Amp 設定の表示になります。



マウントされているが、制御権を持たない場合の表示例

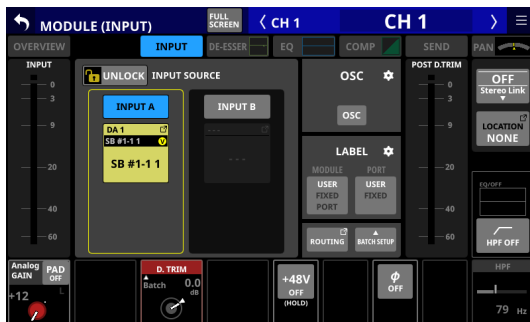
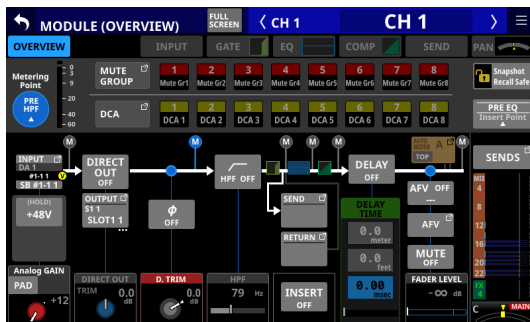
この場合、SB-16D の Pre Amp 設定は表示できますが、GAIN ノブ中央や PAD ボタン、48V ボタンが黒く表示され、操作できません。



第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

バーチャルマウントの場合の表示例

この場合、内蔵Analog入力端子をルーティングした場合と同じPre Amp設定の表示になり、ルーティング設定に **V** マークが表示されます。



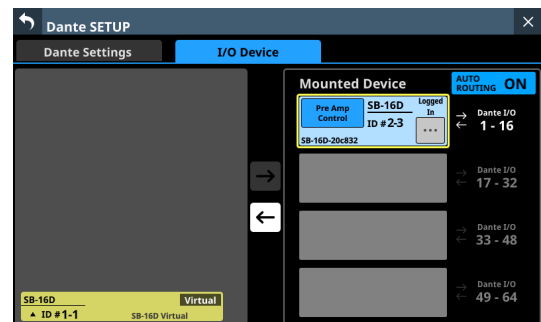
SB-16Dのフルコントロール

同じ Dante ネットワークに接続されている SB-16D は、マウントしているデバイスだけでなく、マウントしていないデバイスでも、Sonicview からフルコントロールすることができます。

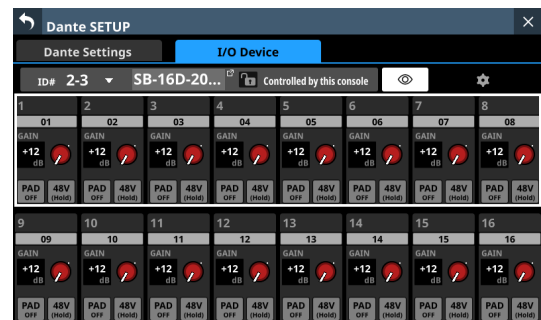
メモ

他の Sonicview が制御権を持っている SB-16D の場合、設定値の表示はできますが、コントロールすることはできません。この場合、SB-16D のコントロール画面上部に **H** マークと制御権を持っている Sonicview の Dante デバイスのモジュール名が表示されます。

1. メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「Dante Setup」をタップして Dante SETUP 画面を表示し、I/O Device タブをタップします。

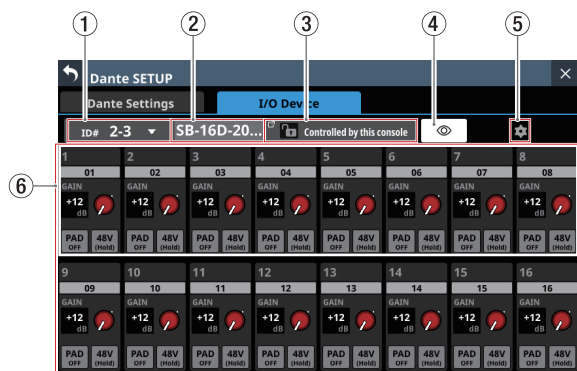


2. コントロールしたいデバイスの **...** ボタンをタップします。コントロール画面に切り換わります。



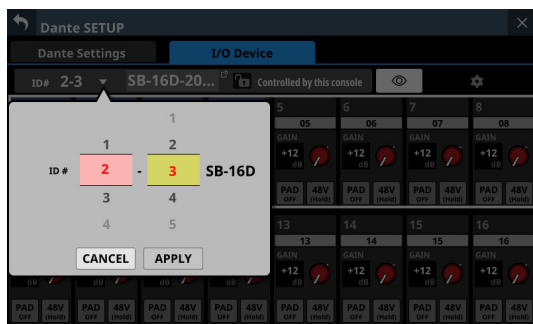
第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

コントロール画面の操作



① ID表示部

- 現在のIDを表示します。
- この部分をタップすると、IDを変更するウィンドウを表示します。



選択肢を上下にスワイプして、IDを変更します。
ピンクと黄色で点灯したLCDノブ2 / LCDノブ3を回して
選択肢を変更することもできます。

- APPLYボタンをタップすると、選択したIDに変更されます。
- CANCELボタンをタップすると、IDを変更せずにウィンドウを閉じます。



メモ

- すでに Dante ネットワーク 上に存在するIDを選択したときはIDが赤くなり、APPLYボタンがグレイアウト表示になって設定できません。
- マウント中のIDを変更すると、マウントが解除されてしまう場合があります。

② デバイス名表示部

- SB-16Dの Dante デバイスのモジュール名を表示します。
- この部分をタップすると、Dante デバイスのモジュール名を変更することができます。
- バーチャルマウントデバイスの場合は「---」と表示され、タップしても変更できません。

③ 制御権表示部

- 制御権の状態を表示します。
- 本機が制御権を持っている状態では、マークとともに、「Controlled by this console」と表示されます。
- 本機が制御権を持っていない状態では、マークとともに「Controlled by [制御権を持っている Sonicview の Dante デバイスのモジュール名]」と表示されます。
- 以下の場合は、何も表示しません
 - 該当SB-16Dの制御権を持っている機器がない場合

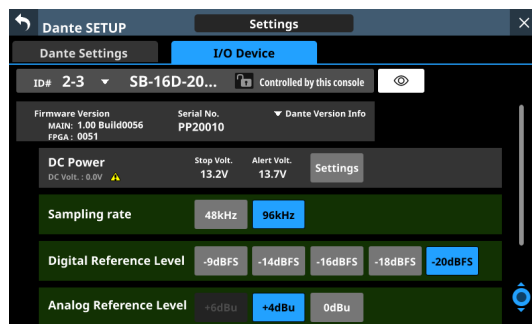
- バーチャルマウントデバイスの場合

④ ボタン

- このボタンをタップすると、Identify コマンドを SB-16D へ送信します。Identify コマンドを受信した SB-16D は、SIG インジケーターと STATUS インジケーターが点滅して応答しますので、どれが該当するデバイスか確認することができます。SB-16D が応答中に再度このボタンをタップして Identify コマンドを送信すると、該当する SB-16D の応答を終了します。
- バーチャルマウントデバイスの場合は、このボタンは表示されません。

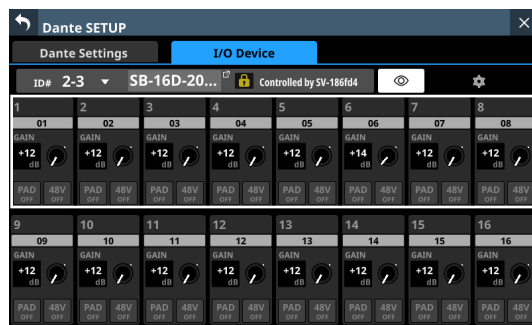
⑤ ボタン

このボタンをタップすると、Pre Amp 操作以外の設定を確認する Settings 画面に切り換わります。



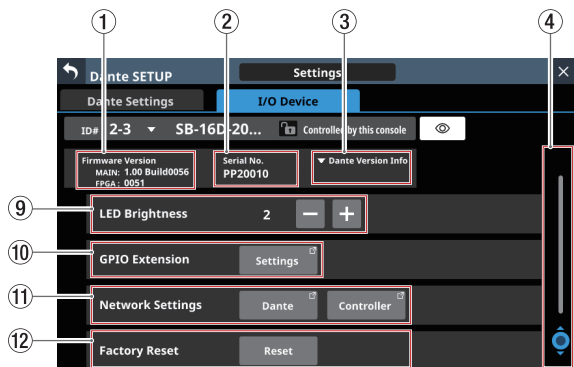
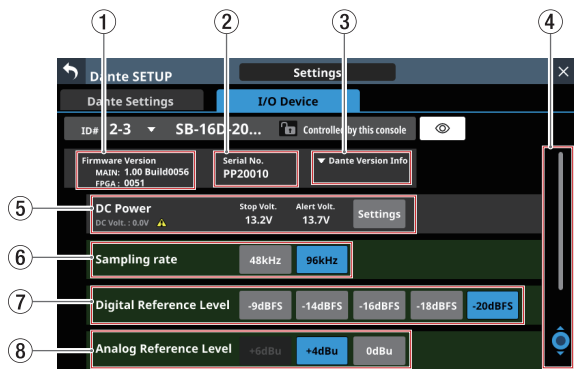
⑥ チャンネルモジュール表示部

- チャンネルの名前 / GAIN ノブ / PAD ボタン / 48V ボタンの操作を行います。
- チャンネル名をタップすると RENAME 画面に切り換わり、チャンネル名を編集することができます。
- 選択枠で選択中のチャンネル群の GAIN を、赤く点灯した LCD ノブ 1～8 を使って調節します。
- PAD ボタンをタップすると、20dB のパッドのオン / オフが切り換わります。このボタンがオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- 48V ボタンを押し続けると、ファンタム電源のオン / オフが切り換わります。ファンタム電源がオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- GAIN ノブ / PAD ボタン / 48V ボタンは、バーチャルマウントデバイスの場合も操作できます。
- 表示している SB-16D の制御権を他の Sonicview が持っている場合は、下記のように表示されて操作できません。



[制御権を持っていない場合の表示例]

Settings画面



① Firmware Version

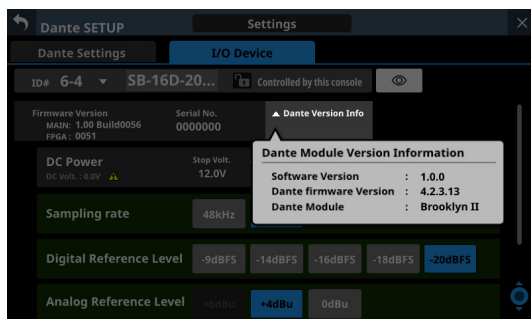
SB-16Dのファームウェアバージョンを表示します。
バーチャルマウントデバイスの場合は、番号部分を「---」と表示します。

② Serial No.

SB-16Dのシリアル番号を表示します。
バーチャルマウントデバイスの場合は、「---」と表示します。

③ Dante Version Info

- SB-16DのDanteモジュールファームウェアバージョンを表示します。
バーチャルマウントデバイスの場合は、タップしても何も表示しません。
- この部分をタップすると、Danteインフォメーションのウィンドウを表示します。



④ スクロールノブ／スクロールバー表示

Settings画面の設定項目全体に対して、画面内に表示されている設定項目の相対位置をスクロールバーで表示します。

メモ

画面に表示されていない設定項目を表示するには、設定項目表示を上下にスワイプして画面をスクロールします。

水色で点灯したLCDノブ8を回してスクロールすることもできます。

⑤ DC Power表示部

SB-16DのDC電源の状態表示と設定を行います。

項目名	内容
DC Volt.	DC電源の現在の電圧と状態を表示します。 DC電源が正常に供給されている場合は、緑色のインジケーターが表示されます。 アラート表示設定がONで、DC電源電圧がアラート電圧を下回っている場合、インジケーターが表示されます。 DC電源が供給されていない場合（DC電源電圧が終止電圧を下回っている場合）は、インジケーターは表示されません。
Stop Volt.	終止電圧の設定値を表示します。
Alert Volt.	アラート表示する電圧の設定値を表示します。 DC Powerの設定ウィンドウのAlert Voltage ON / OFF ボタンが「OFF」に設定されている場合は、「--.-V」と表示します。
Settings ボタン	このボタンをタップすると、DC Powerの設定ウィンドウを表示します。（→ 114 ページ「DC Powerの設定」）

バーチャルマウントデバイスの場合は、すべての設定値が「---」表示となります。また、Settingsボタンはグレイアウト表示になり、操作できません。

⑥ Sampling rate ボタン

SB-16Dのサンプリング周波数を設定します。
選択したボタンがハイライト表示になります。

⑦ Digital Reference Level ボタン

SB-16DのDigitalの基準レベルを設定します。
選択したボタンがハイライト表示になります。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

⑧ Analog Reference Level ボタン

SB-16DのAnalogの基準レベルを設定します。
選択したボタンがハイライト表示になります。

メモ

- 背景色が緑色のSampling rateボタン(⑥)／Digital Reference Levelボタン(⑦)／Analog Reference Levelボタン(⑧)の設定は、制御権を持っているSonicviewの設定に連動します。そのため、マウントされている場合はこのSettings画面での設定変更はできません。
- バーチャルマウントデバイスの場合は、Sampling rateボタン(⑥)／Digital Reference Levelボタン(⑦)／Analog Reference Levelボタン(⑧)の設定は、すべてのボタンがグレースアウト表示になり操作できません。

⑨ LED Brightness ボタン

- ／■ ボタンを使って、SB-16Dのインジケータの輝度を設定します。
選択肢：0～3（初期値：3）
- バーチャルマウントデバイスの場合は、「一」と表示され、ボタンがグレースアウト表示になり操作できません。

⑩ GPIO Extension

Settingsボタンをタップすると、GPIO Extension Settings画面に切り換わります。（→ 115 ページ「GPIO Extension Settings画面」）

バーチャルマウントデバイスでも操作が可能です。

⑪ Network Settings

- Danteボタンをタップすると、Network Settings画面のDante Network Settings表示に切り換わります。（→ 117 ページ「Dante Network Settings表示」）
- Controllerボタンをタップすると、Network Settings画面のControl Network Settings表示に切り換わります。（→ 118 ページ「Control Network Settings表示」）
- バーチャルマウントデバイスの場合は、DanteボタンとControllerボタンがグレースアウト表示されて設定画面に切り換えできません。

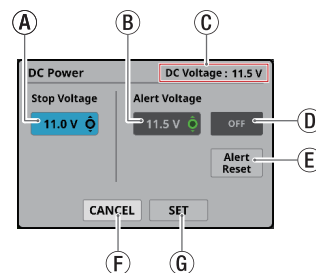
⑫ Factory Reset ボタン

Resetボタンをタップすると、工場出荷時に設定に戻す操作をするウィンドウを表示します。（→ 119 ページ「Factory Reset」）

バーチャルマウントデバイスの場合は、ボタンがグレースアウト表示になり操作できません。

DC Powerの設定

DC Power表示部にあるSettingボタンをタップすると、以下のDC Powerの設定ウィンドウを表示します。



① Stop Voltage：終止電圧を設定します。

水色で点灯したLCDノブ4を使って調節します。

選択肢：11.0V～27.0V

（0.1V刻み、初期値：11.0V）

SB-16DがDC電源のみで動作している場合は、DC電源電圧がこの電圧を下回るとSB-16Dがシャットダウンします。DC電源をバッテリーから供給している場合は、バッテリー仕様の終止電圧を設定してください。それ以外の場合は、最低の「11.0V」に設定してください（初期値：11.0V）。

② Alert Voltage：アラート電圧を設定します。

緑色で点灯したLCDノブ5を使って調節します。

選択肢：OFF、11.0V～28.0V

（0.1V刻み、初期値：11.5V）

Stop Voltageの設定を変更すると自動的に「Stop Voltage +0.5V」に設定されます。

アラート表示されるタイミングが早かったり遅かったりする場合は、この設定を変更することで調節してください。

③ DC Voltage：現在のDC入力電圧を表示します。

④ Alert Voltage ON / OFF ボタン：このボタンをタップすると、アラート表示のオン／オフが切り換わります。（初期値：ON）

ONのとき、DC電源電圧がアラート電圧を下回っている場合に以下のアラート表示をします。

- SB-16DのDC POWERインジケータ点滅

- DC Power表示部(⑤)の▲インジケータ表示

⑤ Alert Reset ボタン：このボタンをタップすると、「Alert Voltage」の設定値が初期値（Stop Voltage +0.5V）に戻ります。

⑥ CANCEL ボタン：このボタンをタップすると、DC Powerの設定ウィンドウの値を破棄し、ウィンドウを閉じます。

⑦ SET ボタン：このボタンをタップすると、DC Powerの設定ウィンドウの値を確定し、ウィンドウを閉じます。

GPIO Extension Settings画面

SB-16DのGPIOポートには、以下の機能があります。

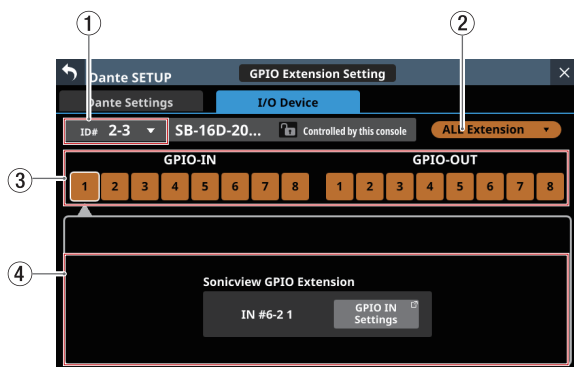
GPIO-IN

- SB-16Dの入出力信号のMUTE制御（Localモードの機能）
- マウントしているSonicviewの拡張GPIO-INポート動作（Extensionモードの機能）

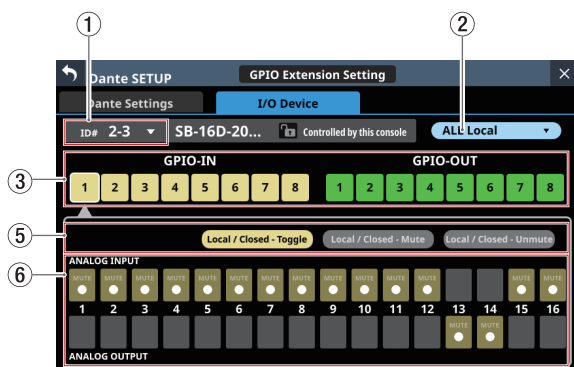
GPIO-OUT

- SB-16Dの入出力信号のMUTE状態のタリー出力（Localモードの機能）
- マウントしているSonicviewの拡張GPIO-OUTポート動作（Extensionモードの機能）

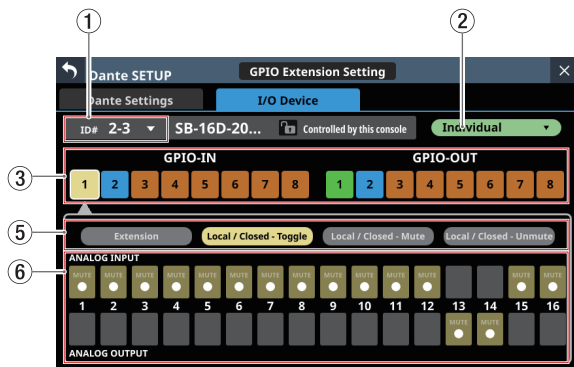
この画面では、これらの機能を使うための設定を行います。



[ALL Extension モード]



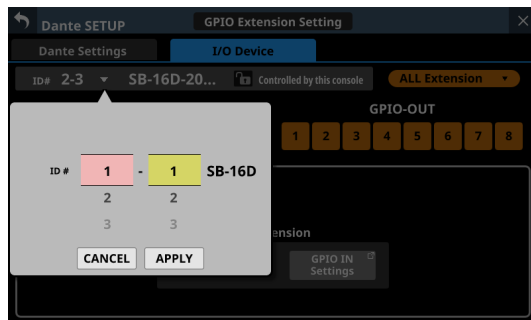
[ALL Local モード]



[Individual モード]

① ID表示部

- 現在のIDを表示します。
- この部分をタップすると、IDを変更するウィンドウを表示します。



選択肢を上下にスワイプして、IDを変更します。ピンクと黄色で点灯したLCDノブ2／LCDノブ3を回して選択肢を変更することもできます。

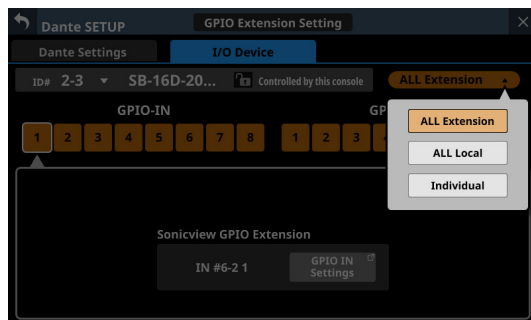
- APPLYボタンをタップすると、選択したIDに変更されます。
- CANCELボタンをタップすると、IDを変更せずにウィンドウを閉じます。

メモ

- すでにDanteネットワーク上に存在するIDを選択したときは、IDが赤くなり、APPLYボタンがグレイアウト表示になって設定できません。
- マウント中のIDを変更すると、マウントが解除されてしまう場合があります。

② GPIOポート全体の動作モード表示部

- 現在のGPIOポート全体の動作モード名を表示します。
- この部分をタップすると、SB-16DのGPIOポート全体の動作モードを変更するウィンドウを表示します。



表示	内容
ALL Extension	すべてのGPIOポートを、SB-16DをマウントしたSonicviewのGPIO拡張端子として使用するALL Extensionモードに設定します。
ALL Local	すべてのGPIOポートを、下記を行う端子として使用するALL Localモードに設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● GPIO-IN：SB-16D入出力信号のMUTE制御 ● GPIO-OUT：SB-16D入出力信号のMUTE状態のタリー出力
Individual	各GPIOポートの動作モードをポートごとに設定するモードにします。

選択肢をタップして、SB-16DのGPIOポート全体の動作モードを切り換えます。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

③ 端子番号ボタン

- この部分をタップすると、タップした端子が選択状態になり、Sonicview GPIO Extension表示部（④）／ポートごとの動作モード・アクションモード切り換えボタン（⑤）／入力信号／出力信号の選択状態表示部（⑥）の表示内容が選択した端子の設定状態に切り換わります。
- GPIOポート全体の動作モードが「ALL Local」および「Individual」のときに端子番号ボタンをタップすると、選択した端子番号ボタンに白い枠が表示されます。

④ Sonicview GPIO Extension表示部

GPIO IN Settingsボタン（GPIO-IN端子選択時）またはGPIO OUT Settingsボタン（GPIO-OUT端子選択時）を、選択したGPIOポートの動作モードが以下の場合に表示します。

- GPIOポート全体の動作モード表示部（②）が「ALL Extension」のとき
- GPIOポート全体の動作モード表示部（②）が「Individual」で動作モード・アクションモード切り換えボタン（⑤）が「Extension」のとき

選択中のGPIOポートを、対象のSB-16DをマウントしているSonicviewのGPIO拡張端子として使用します。

対象のSB-16DをマウントしているSonicviewのUSER DEFINED CONTROLS画面のGPIO-INタブ画面またはGPIO-OUTタブ画面で設定してください。

⑤ ポートごとの動作モード・アクションモード切り換えボタン

- 選択したGPIOポートの動作モードが以下の場合に表示します。
 - GPIOポート全体の動作モード表示部（②）が「ALL Local」のとき
 - GPIOポート全体の動作モード（②）が「Individual」のとき
- 選択中のGPIOポートの動作モードとアクションモード名を表示します。
- このボタンをタップして、ポートごとの動作モードとアクションモードの設定を切り換えます。

GPIO-OUTポートの場合

表示	内容
Extension	選択したポートを、SB-16DをマウントしたSonicviewのGPIO拡張端子として使用するExtensionモードに設定します。 GPIOポート全体の動作モード（②）が「Individual」のときのみ選択できます。
Local / Mute - Closed	入力信号／出力信号の選択状態表示部（⑥）で選択したSB-16Dの入出力信号がMUTE状態になると、選択したOUTポートを短絡状態（Closed）にするモードです。
Local / Unmute - Closed	入力信号／出力信号の選択状態表示部（⑥）で選択したSB-16Dの入出力信号がUNMUTE状態になると、選択したOUTポートを短絡状態（Closed）にするモードです。

GPIO-INポートの場合

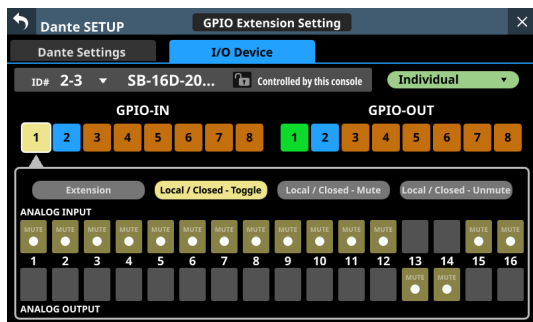
表示	内容
Extension	選択したポートを、SB-16DをマウントしたSonicviewのGPIO拡張端子として使用するExtensionモードに設定します。 GPIOポート全体の動作モード（②）が「Individual」のときのみ選択できます。
Local / Closed - Toggle	選択したINポートが短絡状態（Closed）になると、入力信号／出力信号の選択状態表示部（⑥）で選択したSB-16Dの入出力信号のMUTE／UNMUTEを切り換えるモードです。
Local / Closed - Mute	選択したINポートが短絡状態（Closed）になると、入力信号／出力信号の選択状態表示部（⑥）で選択したSB-16Dの入出力信号をMUTE状態に切り換えるモードです。
Local / Closed - Unmute	選択したINポートが短絡状態（Closed）になると、入力信号／出力信号の選択状態表示部（⑥）で選択したSB-16Dの入出力信号をUNMUTE状態に切り換えるモードです。

⑥ 入力信号／出力信号の選択状態表示部

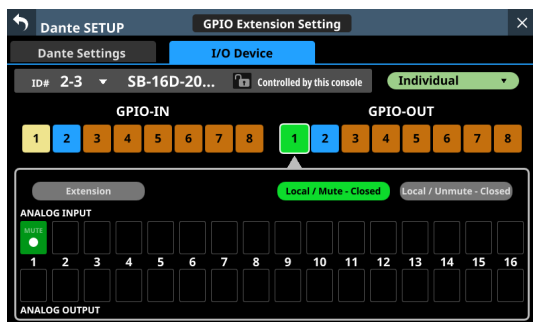
選択したGPIOポートの動作モードが以下の場合に表示します。

- GPIOポート全体の動作モード表示部(②)が「ALL Local」のとき
- GPIOポート全体の動作モード(②)が「Individual」でポートごとの動作モード・アクションモード切り換えボタン(⑤)が「Local / xxxxx」のとき

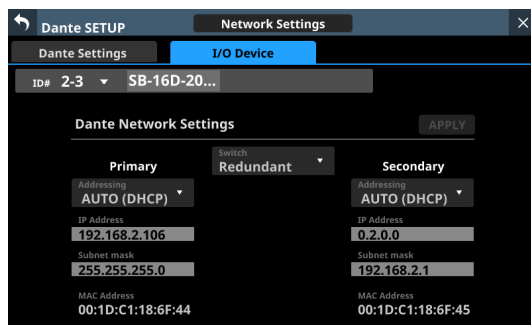
GPIO-IN端子を選択している場合は、選択端子によるMUTE制御対象となるSB-16Dの入出力信号を選択します。
GPIO-IN端子によるMUTE制御対象は、最大16個まで選択可能です。
選択可能な個数を超えると、チェック欄がグレイアウト表示になります。



GPIO-OUT端子を選択している場合は、選択端子からMUTE / UNMUTE状態をタリー出力したいSB-16Dの入出力信号を選択します。
タリー出力対象のSB-16Dの入出力信号は、最大16個まで選択可能です。選択可能な個数を超えると、チェック欄がグレイアウト表示になり、選択できなくなります。
複数の入出力信号が選択されている場合は、選択したいいずれかの入出力信号がMUTE状態の場合 (Local / Mute - Closed設定時) / UNMUTE状態 (Local / Unmute - Closed設定時) にタリー出力します。



Dante Network Settings表示

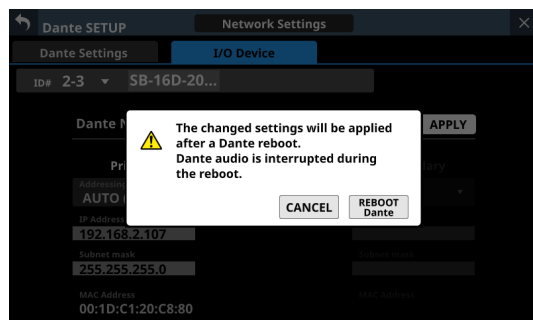


SB-16DのDanteネットワークの設定状態を表示します。
Redundant (二重化) モードのときは、左側にPrimary端子、右側にSecondary端子の設定を表示します。
Switched (デジチェーン) モードのときは、左側だけが有効になります。

項目名	内容
Switch	選択中の接続モードを表示します。 この部分をタップすると、Redundant (二重化) モードとSwitched (デジチェーン) モードを選択するウィンドウを表示します。 (初期値: Redundant)
Addressing	IPアドレス設定モード名を表示します。 この部分をタップすると、「AUTO (DHCP)」と「STATIC」を選択するウィンドウを表示します。 (初期値: AUTO (DHCP))
IP Address	Addressing項目の設定が「AUTO」の場合は割り振られたIPアドレス、「STATIC」の場合はユーザーが設定したIPアドレスを表示します。 Addressing項目の設定が「STATIC」のときにこの部分をタップすると、IP ADDRESS画面に切り換わります。(→ 137 ページ「IP Address / Subnet Mask / Default Gateway の設定手順」)
Subnet mask	Addressing項目の設定が「AUTO」の場合は割り振られたサブネットマスク、「STATIC」の場合はユーザーが設定したサブネットマスクを表示します。 Addressing項目の設定が「STATIC」のときにこの部分をタップすると、SUBNET MASK画面に切り換わります。(→ 137 ページ「IP Address / Subnet Mask / Default Gateway の設定手順」)
LINK Status	Danteネットワークのリンク状態を表示します。 1G以外の場合、赤字で表示します。
MAC Address	Primary / Secondaryの各Dante端子のMACアドレスを表示します。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

SB-16DのDanteネットワークの設定を確定するには、SB-16DのDanteモジュールを再起動する必要があります。
SB-16DのDanteネットワークの設定が変更された場合のみ、APPLYボタンがハイライト表示になります。
ハイライト表示中のAPPLYボタンをタップすると、確認メッセージが表示されます。

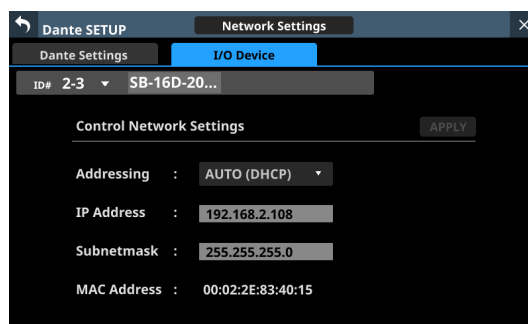


CANCELボタンをタップすると再起動は実行されませんので、設定はそのままですが動作に反映されません。
REBOOT Danteボタンをタップすると変更を確定し、SB-16DのDanteモジュールを再起動します。
再起動完了後、設定が動作に反映されます。

注意

SB-16DのDanteモジュールの再起動中は、SB-16DのDante入出力音が途切れますのでご注意ください。

Control Network Settings表示

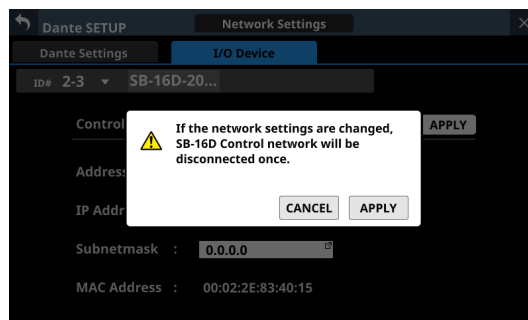


SB-16D制御用のDanteネットワークの設定状態を表示します。

項目名	内容
Addressing	IPアドレス設定モード名を表示します。 この部分をタップすると、「AUTO (DHCP)」と「STATIC」を選択するウィンドウを表示します。(初期値：AUTO (DHCP))
IP Address	Addressing項目の設定が「AUTO」の場合は割り振られたIPアドレス、「STATIC」の場合はユーザーが設定したIPアドレスを表示します。 Addressing項目の設定が「STATIC」のときにこの部分をタップすると、IP ADDRESS画面に切り換わります。(→ 137 ページ「IP Address / Subnet Mask / Default Gateway の設定手順」)
Subnet mask	Addressing項目の設定が「AUTO」の場合は割り振られたサブネットマスク、「STATIC」の場合はユーザーが設定したサブネットマスクを表示します。 Addressing項目の設定が「STATIC」のときにこの部分をタップすると、SUBNET MASK画面に切り換わります。(→ 137 ページ「IP Address / Subnet Mask / Default Gateway の設定手順」)
MAC Address	SB-16D制御用のMACアドレスを表示します。

SB-16D制御用のDanteネットワークの設定が変更された場合のみ、APPLYボタンがハイライト表示になります。

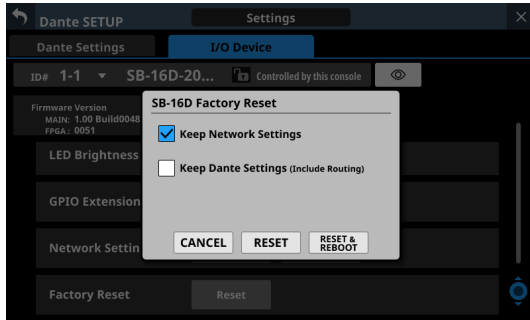
設定を確定した場合は、SB-16DのDanteネットワーク接続がいったん切れます。そのため、ハイライト表示中のAPPLYボタンをタップすると確認メッセージが表示されます。



CANCELボタンをタップすると変更を破棄して元に戻します。
APPLYボタンをタップすると変更を確定します。

Factory Reset

1. Reset ボタンをタップして、工場出荷時の設定に戻す操作をするウィンドウを表示します。



項目名	内容
Keep Network Settings	チェックマーク (✓) が付いていると、SB-16Dの Dante ネットワークの設定を維持します。 チェックマーク (✓) を外すと、SB-16Dの Dante ネットワークの設定を工場出荷時の設定に戻します。 (初期状態：チェックマーク (✓) あり)
Keep Dante Settings (Include Routing)	チェックマーク (✓) が付いていると、SB-16Dの Dante設定を維持します。 チェックマーク (✓) を外すと、SB-16Dの Dante設定を工場出荷時の設定に戻します。 (初期状態：チェックマーク (✓) なし)

2. 設定を維持したい項目は、チェックマーク (✓) を付けます。設定を工場出荷時の設定に戻したい場合は、チェックマーク (✓) を外します。

メモ

両方にチェックマーク (✓) を付けた場合は、Dante ネットワークと Dante 以外の設定だけを工場出荷時の設定に戻します。

3. RESET ボタンもしくは RESET&REBOOT ボタンをタップすると、以下の注意喚起のメッセージがウィンドウ内に表示されます。

- Keep Network Settings のチェックマーク (✓) がいない場合のメッセージ：

Network may be disconnected.

- Keep Dante Settings (Include Routing) のチェックマーク (✓) がいない場合のメッセージ：

Audio will be interrupted.
Dante routing will be cleared.

- RESET & REBOOT ボタンをタップした場合のメッセージ：

Audio will be interrupted.



[Keep Network Settings のチェックマーク (✓) がいない場合のメッセージ表示]

4. 注意喚起メッセージの RESET ボタンをタップすると、以下の項目を工場出荷時の設定に戻しウィンドウを閉じます。
 - チェックマーク (✓) を付けなかった設定
 - Dante ネットワークと Dante 以外の設定

注意

RESET&REBOOT ボタンをタップした場合は、工場出荷時の設定に戻したあと、Dante Setup画面の I/O Device タブ画面に戻ります。また、リセットした SB-16D は再起動が完了するまで、Dante ネットワークから切断されます。

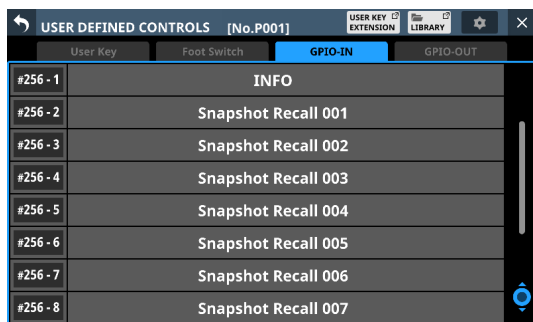
CANCEL ボタンをタップすると、設定を変更せずにウィンドウを閉じます。

GPIO拡張機能を使う

SB-16DのGPIO端子の動作モードを「Extension」に設定すると、SonicviewのGPIO拡張端子として使うことができます。この設定は、バーチャルマウントのSB-16Dに対しても可能です。Sonicview側で設定を記憶することでオフライン設定ができます。

設定手順

- 115 ページ「GPIO Extension Settings画面」の「GPIOポート全体の動作モード切り換えボタン (②)」または「ポートごとの動作モード切り換えボタン (⑤)」で、本機のGPIO拡張端子として使用したいポートの動作モードを「Extension」に設定します。
- GPIO-INまたはGPIO-OUT画面を、以下の手順で表示します。
 - メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「GPIO Input Setup」
 - メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「GPIO Output Setup」



- LCDノブ8でリストをスクロールすると、マウント位置に対応した8ポートごとの設定リストが表示されます。
 - SB-16DのGPIO端子名部分には、「#ID ポート番号」の書式で、SB-16DのIDとポート番号が表示されます。
 - バーチャルマウントデバイスの場合、GPIOポート名の背景が黄色で表示されます。
 - 動作モードをExtensionに設定したポートのリストは、ハイライト表示されます。
 - 動作モードをLocalに設定したポートのリストは、グレイアウト表示されます。
- 設定を変更したいポートのリストをタップし、本機の内蔵GPIOと同じ手順で各機能をアサインします。

SB-16DとのDante接続手順

SB-16Dをステージボックスとして本機と接続し、内蔵Danteポートがアサインされたモジュールから内蔵アナログ入力と同じようにPre Ampを制御するための手順を説明します。

SB-16DとのDante接続について

- 本機が48kHz動作時、SB-16Dを4台までなら、Dante Controllerなしで接続できます。
- 本機が96kHz動作時、SB-16Dを2台までなら、Dante Controllerなしで接続できます。
- 上記以外の場合は、Dante Controllerでの設定が必要になります。

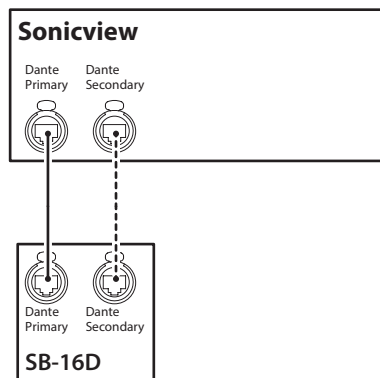
本機と「1台のSB-16D」をDante接続する手順

この場合、本機の内蔵Danteの「Sampling rate」が48kHz動作／96kHz動作のどちらの場合でも、Dante Controllerを使用せずにDante接続することができます。また、内蔵Danteポートをアサインしたモジュールから対応するSB-16DのPre Ampを制御することができます。

- 複数台のSB-16DがDanteネットワークに接続された場合の個体識別のため、あらかじめSB-16D側で重複しないIDを設定してください。IDの設定方法は、SB-16Dの取扱説明書をご参照ください。
- 以下のDanteポートを同一のDanteネットワークに接続します。
 - 本機の内蔵Danteポート
 - SB-16DのDanteポート

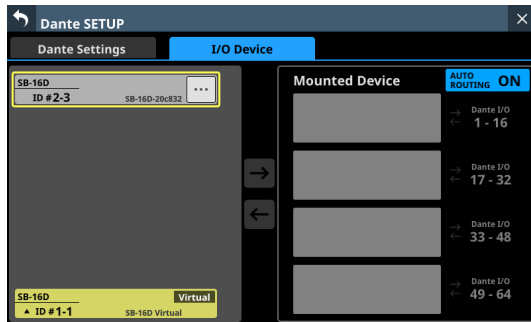
メモ

本機とSB-16Dが1台だけの場合は、本機とSB-16DのDanteポートを以下のように直接接続することができます。

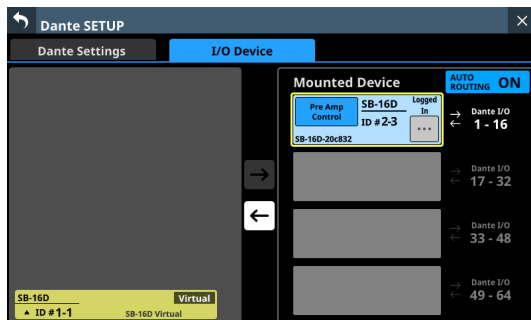


- Danteルーティングの制御方法を設定します。
メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「Dante Setup」をタップしてDante SETUP画面を表示し、I/O Deviceタブをタップします。

4. AUTO ROUTING ボタンを「ON」に設定します。

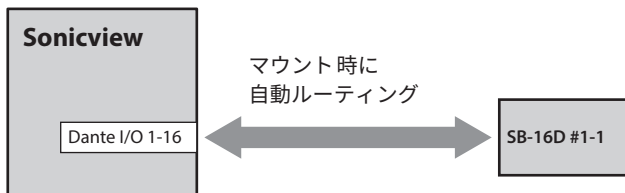


5. 101 ページ「Dante ネットワークに接続されているデバイスのマウント」の手順で、選択した SB-16D を Mounted Device リストの上から 1 つ目にマウントします。



この操作で「本機」と「1 台の SB-16D」の Dante I/O ポートが、以下のように Dante 上でルーティングされます。

本機の Dante I/O ポート	SB-16D の Dante I/O ポート
本機の Dante I/O 1-16	SB-16D の Dante I/O 1-16



これにより、Dante IN 1-16 の入力ポートをアサインしたモジュールのホーム画面や MODULE 画面で、対応する SB-16D INPUT の Pre Amp (Analog GAIN、PAD ON/OFF、Phantom ON/OFF) を操作することができます。

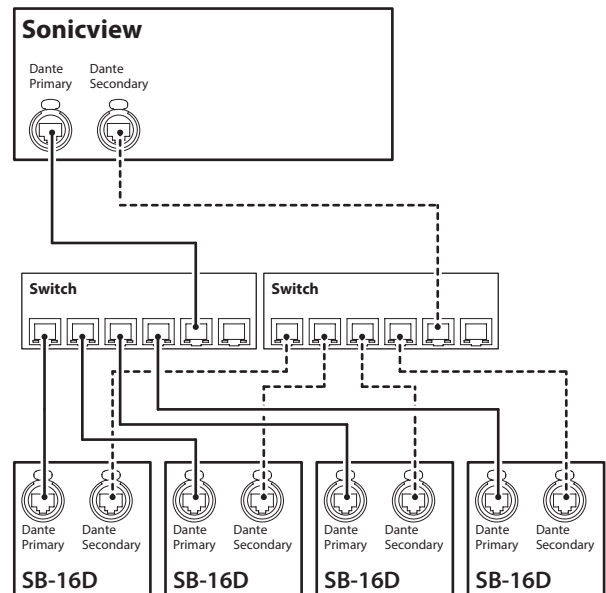
SB-16D の Pre Amp を操作可能なモジュール	左記モジュールのホーム画面／MODULE 画面での Pre Amp 操作対象
Dante IN 1-16 がアサインされたモジュール	上から 1 つ目にマウントした SB-16D の INPUT 1-16

本機の内蔵 Dante モジュールの Sampling rate が「48kHz」の場合に「4 台の SB-16D」と Dante 接続する手順

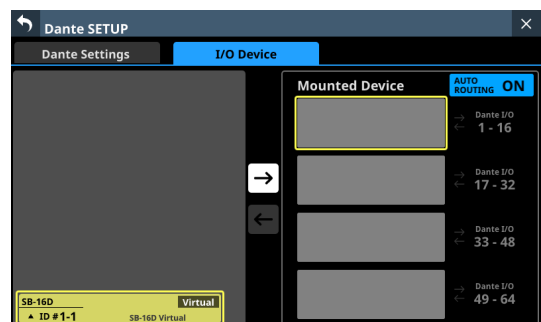
この場合、Dante Controller を使用せずに Dante 接続することができます。また、内蔵 Dante ポートをアサインしたモジュールから対応する SB-16D の Pre Amp を制御することができます。

1. 複数台の SB-16D が Dante ネットワークに接続された場合の個体識別のため、あらかじめ SB-16D 側で重複しない ID を設定してください。ID の設定方法は、SB-16D の取扱説明書をご参照ください。
2. 以下の Dante ポートを同一の Dante ネットワークに接続します。
 - 本機の内蔵 Dante ポート
 - 4 台の SB-16D の Dante ポート

複数の SB-16D と接続する場合は、以下のようにスイッチングハブを経由して接続します。その際、Primary と Secondary で別のスイッチングハブを使用します。

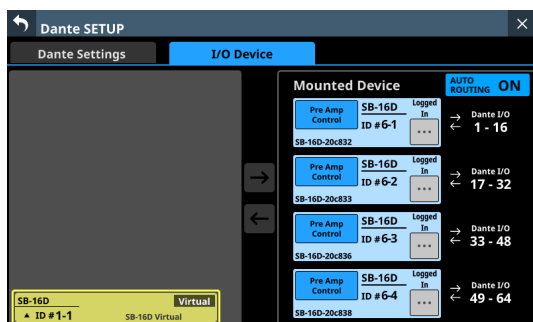


3. Dante ルーティングの制御方法を設定します。
メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「Dante Setup」をタップして Dante SETUP 画面を表示し、I/O Device タブをタップします。
4. AUTO ROUTING ボタンを「ON」に設定します。



第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

5. 101 ページ「Dante ネットワークに接続されているデバイスのマウント」の手順で、4 台の SB-16D を Mounted Device リストの上から 1 つずつマウントします。

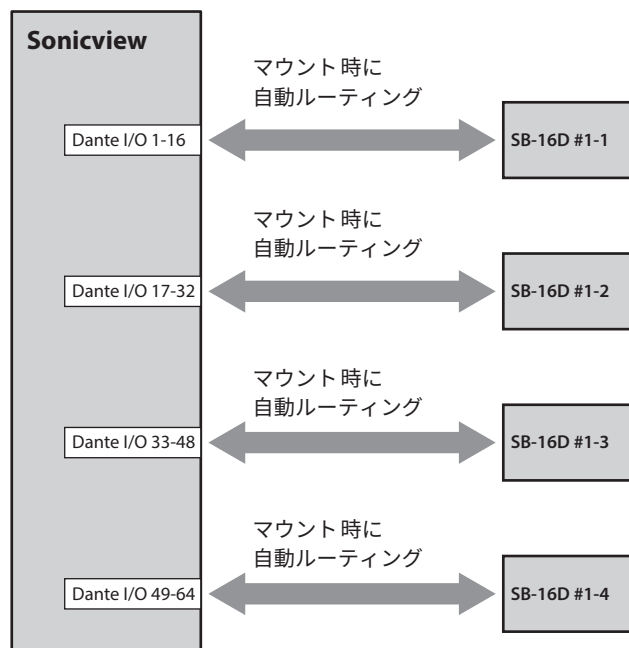


この操作で「本機」と「4 台の SB-16D」の Dante I/O ポートが、以下のように Dante 上でルーティングされます。

本機の Dante I/O ポート	SB-16D の Dante I/O ポート
本機の Dante I/O 1-16	上から 1 つ目にマウントした SB-16D の Dante I/O 1-16
本機の Dante I/O 17-32	上から 2 つ目にマウントした SB-16D の Dante I/O 1-16
本機の Dante I/O 33-48	上から 3 つ目にマウントした SB-16D の Dante I/O 1-16
本機の Dante I/O 49-64	上から 4 つ目にマウントした SB-16D の Dante I/O 1-16

これにより、Dante 1-64 の入力ポートをアサインしたモジュールのホーム画面や MODULE 画面で、対応する SB-16D の INPUT の Pre Amp (Analog GAIN、PAD ON/OFF、Phantom ON/OFF) を操作することができます。

SB-16D の Pre Amp を操作可能なモジュール	左記モジュールのホーム画面／MODULE 画面での Pre Amp 操作対象
Dante IN 1-16 がアサインされたモジュール	上から 1 つ目にマウントした SB-16D の INPUT 1-16
Dante IN 17-32 がアサインされたモジュール	上から 2 つ目にマウントした SB-16D の INPUT 1-16
Dante IN 33-48 がアサインされたモジュール	上から 3 つ目にマウントした SB-16D の INPUT 1-16
Dante IN 49-64 がアサインされたモジュール	上から 4 つ目にマウントした SB-16D の INPUT 1-16

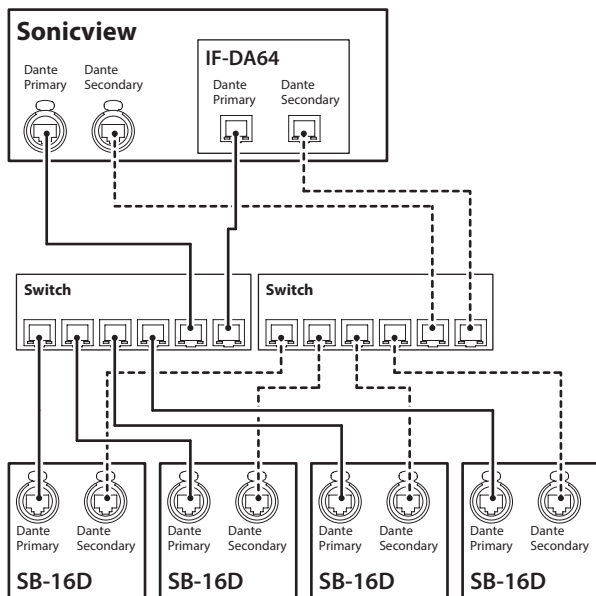


本機の内蔵 Dante モジュールの Sampling rate が「96kHz」の場合に「4 台の SB-16D」と Dante 接続する手順

- この場合、Dante Controller を使用する必要があります。
- 本機の内蔵 Dante モジュールの「Sampling rate」の Sync Clock を「96kHz」に設定した場合、本機の内蔵 Dante I/O 数は 32in/32out となります。そのため、33in/33out 以上の SB-16D 入出力ポートを本機と Dante 接続するには、IF-DA64（Dante カード）をカードスロットに装着する必要があります。（ここでは、IF-DA64 を SLOT 1 に装着した場合として説明します。（→ 34 ページ「別売の拡張カードを取り付ける」）

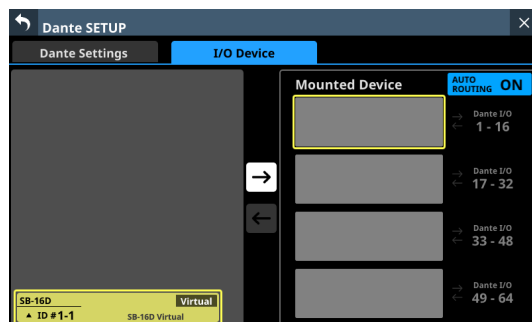
1. 複数台の SB-16D が Dante ネットワークに接続された場合の個体識別のため、あらかじめ SB-16D 側で重複しない ID を設定してください。ID の設定方法は、SB-16D の取扱説明書をご参照ください。
2. 「本機の内蔵 Dante」と「IF-DA64（Dante カード）」の 2 つの Dante モジュールを本機のマスタークロックと同期できるよう、129 ページ「IF-DA64 を使用する場合の注意」にしたがって設定します。
3. 以下の Dante ポートを同一の Dante ネットワークに接続します。
 - 本機の内蔵 Dante ポート
 - 本機に装着した IF-DA64 の Dante ポート
 - 4 台の SB-16D の Dante ポート

複数の SB-16D と接続する場合は、以下のようにスイッチングハブを経由して接続します。その際、Primary と Secondary で別のスイッチングハブを使用します。

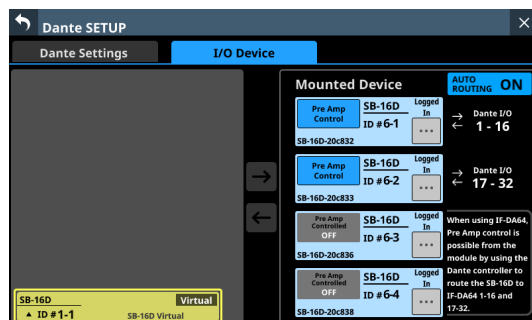


4. Dante ルーティングの制御方法を設定します。
メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「Dante Setup」をタップして Dante SETUP 画面を表示し、I/O Device タブをタップします。

5. AUTO ROUTING ボタンを「ON」に設定します。

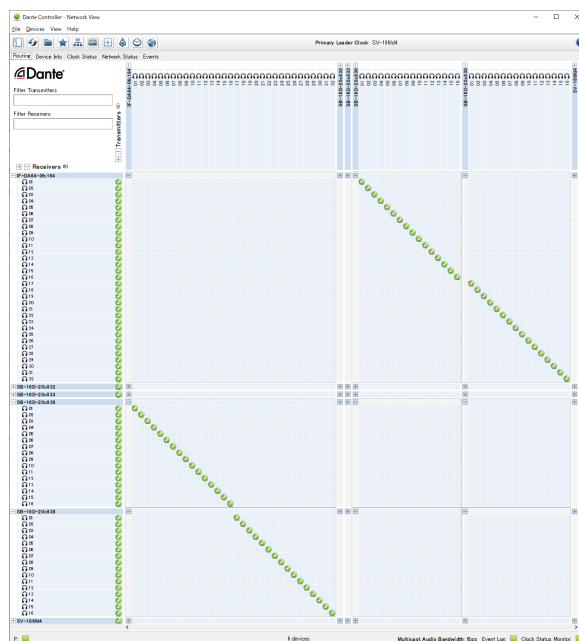


6. 101 ページ「Dante ネットワークに接続されているデバイスのマウント」の手順で、4 台の SB-16D を Mounted Device リストの上から 1 つずつマウントします。



7. 手順 3. の Dante ネットワークに接続したパソコン上の Dante Controller を使い、以下を接続するルーティング設定を行います。

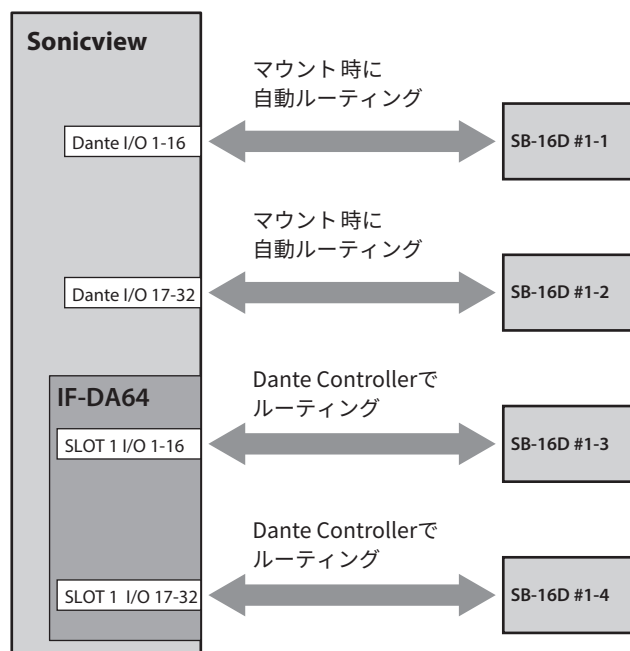
- 「本機に装着した IF-DA64 の Dante I/O 1-16」と「上から 3 つ目にマウントした SB-16D の Dante I/O 1-16」を接続
- 「本機に装着した IF-DA64 の Dante I/O 17-32」と「上から 4 つ目にマウントした SB-16D の Dante I/O 1-16」を接続



これにより「本機の内蔵 Dante」、「本機の SLOT 1 に装着した IF-DA64（Dante カード）」と「4 台の SB-16D」の Dante I/O ポートが、以下のように Dante 上でルーティングされます。

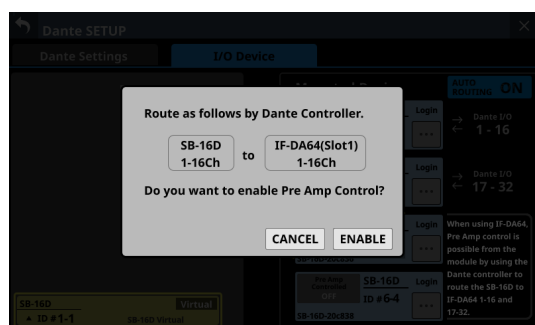
第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

本機の Dante I/O ポート	SB-16Dの Dante I/O ポート
本機の Dante I/O 1-16	上から1つ目にマウントしたSB-16Dの Dante I/O 1-16
本機の Dante I/O 17-32	上から2つ目にマウントしたSB-16Dの Dante I/O 1-16
本機の SLOT 1 I/O 1-16	上から3つ目にマウントしたSB-16Dの Dante I/O 1-16
本機の SLOT 1 I/O 17-32	上から4つ目にマウントしたSB-16Dの Dante I/O 1-16



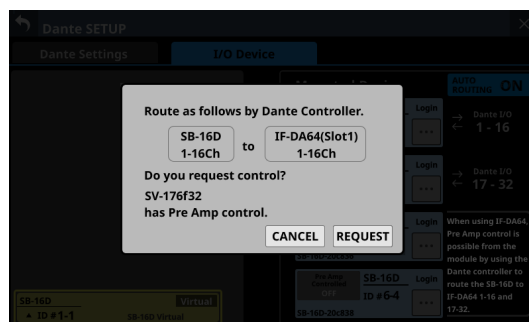
8. IF-DA64 経由でルーティングする上から3つ目と4つ目にマウントしたSB-16Dを本機のホーム画面やMODULE画面から操作できるようにするため制御権を取得します。上から3つ目と4つ目のデバイスの「Pre Amp Control OFF」ボタンをタップすると、下記のような確認メッセージが表示されます。

- 対象となるSB-16Dの制御権を、他の機器に取得されていない場合：
以下のメッセージが表示されます。



ENABLE ボタンをタップすると制御権が設定され、制御権表示部分に「Pre Amp Control」と表示されます。

- 対象となるSB-16Dの制御権を、他の機器に取得されている場合：
以下のメッセージが表示されます。



REQUEST ボタンをタップして、101 ページ「Dante ネットワークに接続されているデバイスのマウント」の手順5.以降の手順で制御権を取得すると、制御権表示部分に「Pre Amp Control」と表示されます。

9. 手順8. を上から3つ目と4つ目にマウントしたSB-16Dに対して実施します。
これにより、IF-DA64 経由でルーティングする上から3つ目と4つ目にマウントしたSB-16Dも本機から操作できるようになります。

ここまでの手順を実施後は、Dante 1-32、SLOT 1-1 ～ 1-32 の入力ポートをアサインしたモジュールのホーム画面やMODULE画面で、対応するSB-16DのPre Amp（Analog GAIN、PAD ON/OFF、Phantom ON/OFF）を操作することができます。

SB-16Dの Pre Ampを操作可能なモジュール	左記モジュールのホーム画面／MODULE画面での Pre Amp操作対象
Dante IN 1-16 がアサインされたモジュール	上から1つ目にマウントしたSB-16DのINPUT 1-16
Dante IN 17-32 がアサインされたモジュール	上から2つ目にマウントしたSB-16DのINPUT 1-16
SLOT 1 IN 1-16 がアサインされたモジュール	上から3つ目にマウントしたSB-16DのINPUT 1-16
SLOT 1 IN 17-32 がアサインされたモジュール	上から4つ目にマウントしたSB-16DのINPUT 1-16

注意

この手順で上から3番目と4番目にマウントしたSB-16DとIF-DA64（Danteカード）のルーティング設定は、以下の状態を保ってください。

- 「本機に装着したIF-DA64のDante I/O 1-16」と「上から3つ目にマウントしたSB-16DのDante I/O 1-16」を接続
- 「本機に装着したIF-DA64のDante I/O 17-32」と「上から4つ目にマウントしたSB-16DのDante I/O 1-16」を接続

Dante Controllerで上記以外のルーティングに変更した場合は、本機において該当するSLOT入力をアサインしたモジュールのホーム画面やMODULE画面でPre Ampを操作した際、意図しないSB-16DのチャンネルのPre Ampが操作されてしまうことになります。

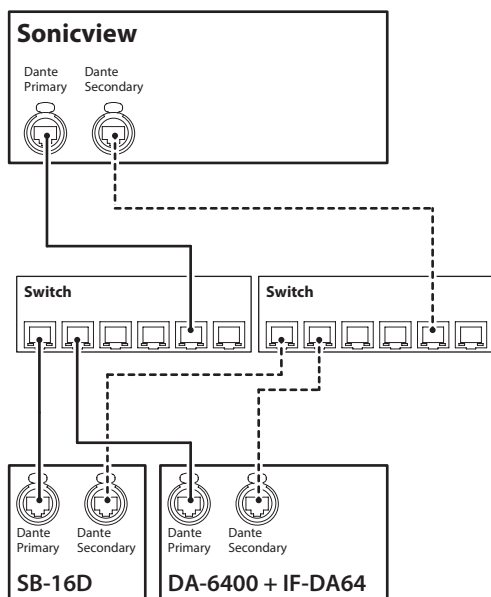
「1 台の SB-16D」と「IF-DA64（Dante カード）を装着した DA-6400*」を本機と Dante 接続する手順

* この例では、DA-6400 に装着した IF-DA64 の Dante I/O 1-16 と接続します。

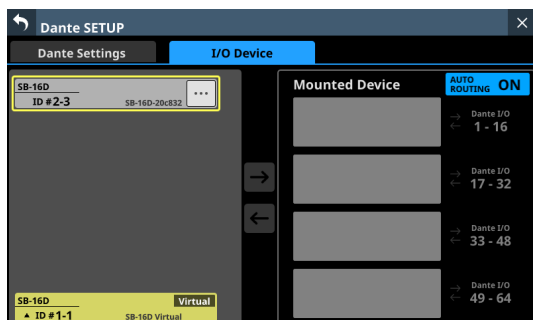
この場合、Dante Controller を使用する必要があります。

1. 複数台の SB-16D が Dante ネットワークに接続された場合の個体識別のため、あらかじめ SB-16D 側で重複しない ID を設定してください。ID の設定方法は、SB-16D の取扱説明書をご参照ください。
2. 以下の Dante ポートを同一の Dante ネットワークに接続します。
 - 本機の内蔵 Dante ポート
 - SB-16D の Dante ポート
 - DA-6400 に装着した IF-DA64 の Dante ポート

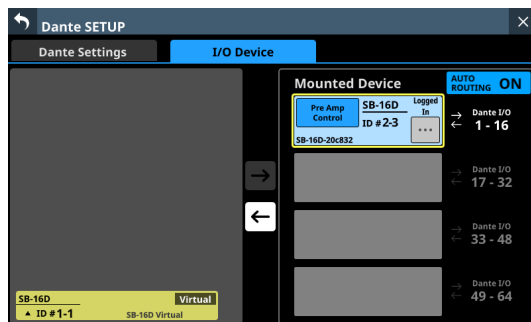
3 台以上の Dante 機器を接続する場合は、以下のようにスイッチングハブを経由して接続します。その際、Primary と Secondary で別のスイッチングハブを使用します。



3. Dante ルーティングの制御方法を設定します。
メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「Dante Setup」をタップして Dante SETUP 画面を表示し、I/O Device タブをタップします。
4. AUTO ROUTING ボタンを「ON」に設定します。

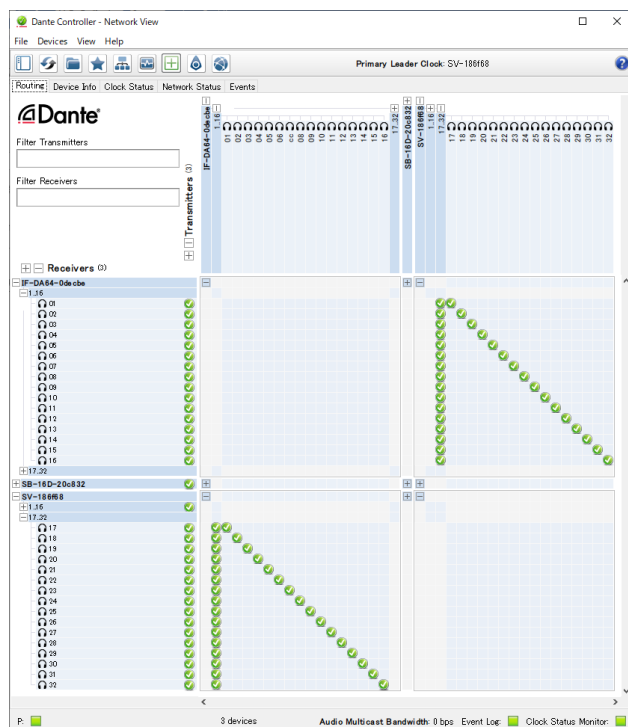


5. 101 ページ「Dante ネットワークに接続されているデバイスのマウント」の手順で、SB-16D を Mounted Device リストの上から 1 つ目にマウントします。



6. Dante ルーティングの制御方法を変更します。
7. AUTO ROUTING ボタンを「OFF」に設定します。
8. 手順 2. の Dante ネットワークに接続したパソコン上の Dante Controller を使い、以下の ①と ②を接続するルーティング設定を行います。
 - ① 本機の Dante I/O 17-32
 - ② DA-6400 に装着した IF-DA64 の Dante I/O 1-16

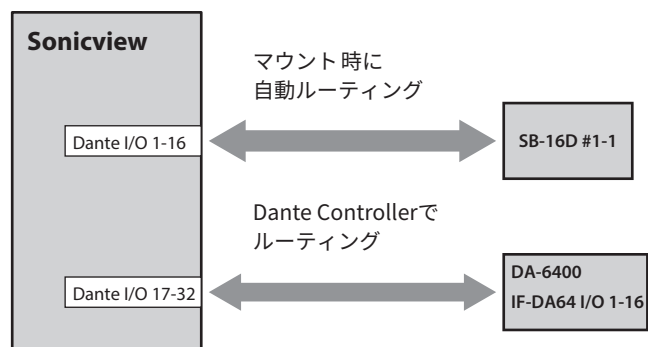
「本機の Dante I/O 17-32」と「DA-6400 に装着した IF-DA64 の Dante I/O 1-16」を接続するルーティング設定を行った状態の Dante Controller 表示例



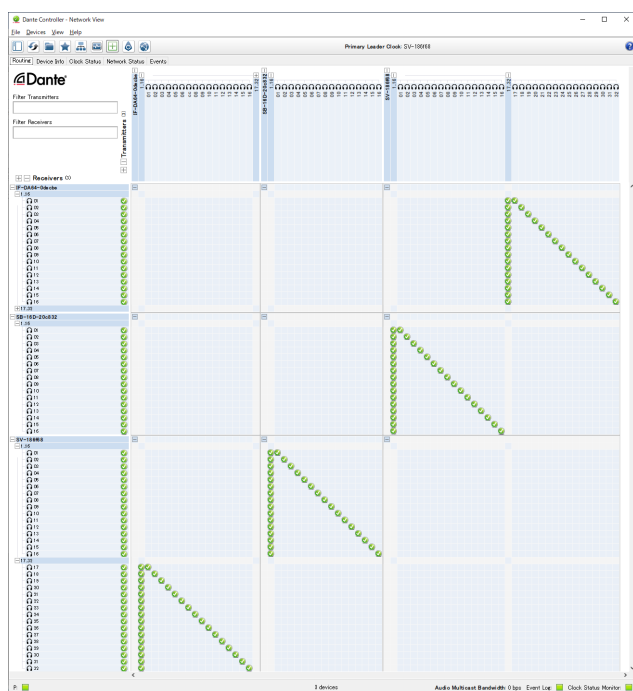
第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

これにより、「本機」と「SB-16D」、「DA-6400 に装着した IF-DA64 (Dante カード)」の Dante I/O ポートが、以下のように Dante 上でルーティングされます。

本機の Dante I/O ポート	外部機器の Dante I/O ポート
本機の Dante I/O 1-16	上から 1 つ目にマウントした SB-16D の Dante I/O 1-16
本機の Dante I/O 17-32	DA-6400 に装着した IF-DA64 の Dante I/O 1-16



上記ルーティング設定を行った状態の Dante Controller 表示例



ここまでの手順を実施後は、Dante IN 1-16 の入力ポートをアサインしたモジュールのホーム画面や MODULE 画面で、対応する SB-16D INPUT の Pre Amp (Analog GAIN、PAD ON/OFF、Phantom ON/OFF) を操作することができるようになります。

SB-16D の Pre Amp を操作可能なモジュール	左記モジュールのホーム画面／MODULE 画面での Pre Amp 操作対象
Dante IN 1-16 がアサインされたモジュール	上から 1 つ目にマウントした SB-16D の INPUT 1-16

Dante について

Dante とは、Audinate 社が開発した伝送プロトコルです。ギガビットイーサネット規格に基づいたネットワークにおいて、多チャンネル伝送 (512ch IN / 512ch OUT) や高精度でのクロック同期などを可能としています。Dante の詳細については、Audinate 社のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.audinate.com/>

Dante ネットワークとの接続方法

本機を設定して使用するには、本機に接続されたイーサネットネットワーク、Dante Controller が動作するパソコン、および他の Dante 対応機器の設定を行う必要があります。ただし、SB-16D と組み合わせて使う場合は Dante controller がなくても使用できます。

各端子の接続に使用する LAN ケーブルについて

カテゴリ 5e 以上の STP ケーブルをご使用ください。クロスオーバー・ケーブル、ストレート・ケーブルのどちらでも使用できます。

注意

本機は、100Mbps のイーサネットスイッチングハブには対応していません。必ずギガビットイーサネットに対応したスイッチングハブを使用してください。

メモ

- Dante Network の Addressing 設定が AUTO (DHCP) の場合、パソコンは IP アドレスを自動設定するように設定してください。
- Dante Network の Addressing 設定が STATIC の場合、パソコンは Dante とネットワークアドレスを合わせて設定してください。

スイッチド (デジチェーン) 接続

接続機器の台数が少ない場合や、スイッチングハブを使用しない場合に、Dante 機器を数珠つなぎにする接続する方法です。以下のように接続します。

スイッチド (デジチェーン) 接続の例



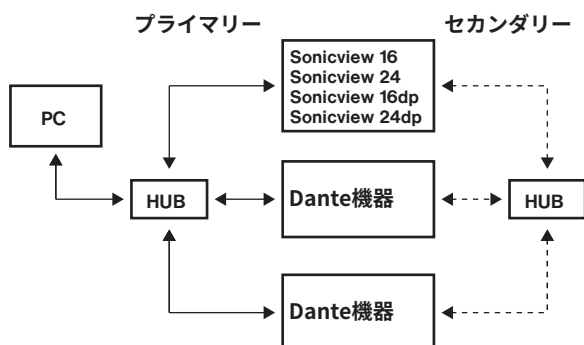
メモ

- スイッチド (デジチェーン) 接続の場合、PRIMARY 端子と SECONDARY 端子どちらの端子に接続してもかまいません。
- 接続する機器が多くなると、レイテンシーの設定を大きくする必要があります。

リダンダント（二重化）接続

ライブ環境など録り直しができない状況での録音に対応する場合、プライマリーとセカンダリーの完全に独立した2つのネットワークを使用し、以下のように接続します。

リダンダント（二重化）接続の例

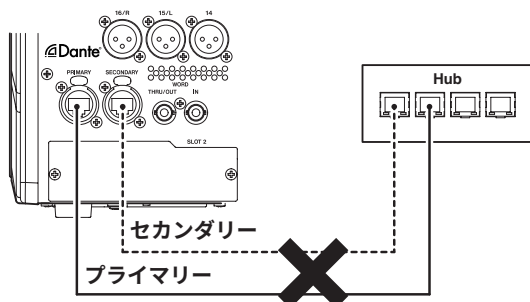


メモ

スイッチド（デジチェーン）接続とリダンダント（二重化）接続の設定は、自動では切り換わりません。メニュー画面＞Rear Panel Setupメニュー＞「Dante Setup」をタップして表示するDante SETUP画面、またはDante ControllerのNetwork Config画面で設定を切り換えてください。

注意

プライマリーネットワークとセカンダリーネットワーク同士は、同じLAN（VLAN）に接続できません。



Dante Controller使用方法

Dante Controllerについて

本機は、Audinate社のホームページにて公開されているDante Controllerを使用して、他のDante対応機器と接続します。Dante Controller本体および取扱説明書は、Audinate社のホームページより最新版をダウンロードしてください。

Audinate ダウンロードページ

<https://www.audinate.com/products/software/dante-controller>

パソコンにインストールしたDante Controllerで最低限以下を設定してください。

- オーディオ・ルーティングを設定します。
- 各Dante機器のサンプリング周波数および量子化ビット数を合わせます。

メモ

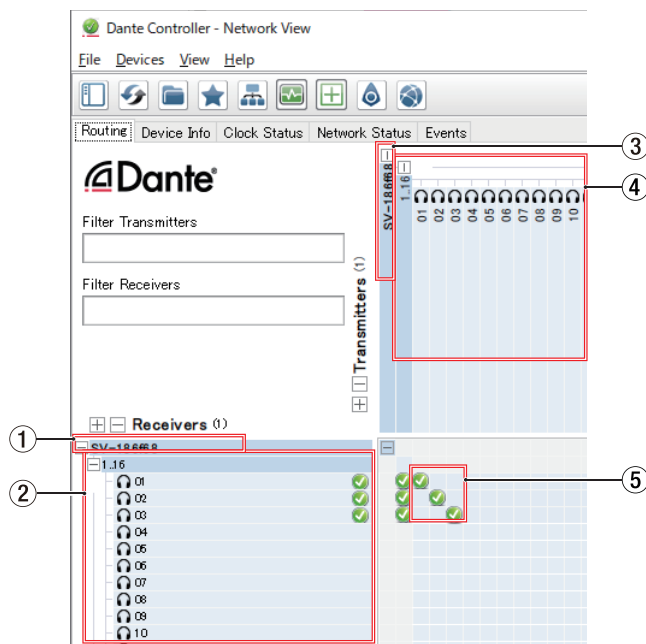
Dante Controllerで設定したデータは、各Dante機器内の内部メモリに記憶されます。

Dante Controllerを終了した場合やパソコンをDanteネットワークから切断した場合でも、設定を変更しない限り接続は変わりません。

オーディオ・ルーティング設定

Dante Controllerを起動すると、下図のNetwork View画面が開きます。

ここでは、Danteネットワークに関する状態を設定・監視することができます。



① 受信デバイス名

Danteネットワーク上に存在する受信デバイスの名前です。

② 受信デバイスチャンネル

Danteネットワーク上に存在する受信デバイスのチャンネル名です。

③ 送信デバイス名

Danteネットワーク上に存在する送信デバイスの名前です。

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

④ 送信デバイスチャンネル

Dante ネットワーク上に存在する送信デバイスのチャンネル名です。

⑤ オーディオ・ルーティング

送信機と受信機の接続したいオーディオチャンネル同士をここでルーティングします。
マトリックス上の接続したいチャンネル同士の交点を、マウスでクリックして接続します。

メモ

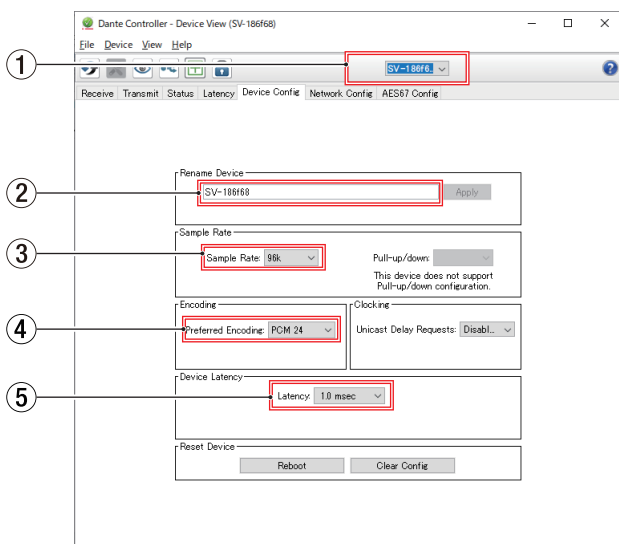
パソコンキーボードのCtrlキーを押しながら、デバイス名の交点にある「-」をクリックすると、接続可能なすべてのチャンネルが一括で接続でき便利です。

Dante Controller サンプルレート／量子化ビット数の変更

Network View画面でデバイス名をダブルクリックすると、Device View画面が開きます。

ここでは、Dante ネットワーク上に存在するデバイスの状態を設定・監視することができます。

Device Configタブを選択すると、下図 ① で選択されているデバイスのサンプルレートや量子化ビット数などの設定を変更できます。



① デバイス名

Device Viewにて設定を変更するデバイスの名前です。

② デバイス名変更

デバイス名を変更します。

③ サンプルレート

サンプルレートを変更します。

メモ

本機でも設定できます。

④ 量子化ビット数

量子化ビット数を変更します。

⑤ レイテンシー設定

レイテンシー設定を変更します。

レイテンシー設定は、下表を目安に変更してください。

選択可能なレイテンシー値	接続ネットワーク環境の目安
250usec	送信機から受信機までの伝送経路がギガビット対応スイッチングハブを1台経由する場合
500usec	送信機から受信機までの伝送経路がギガビット対応スイッチングハブを5台経由する場合
1msec	送信機から受信機までの伝送経路がギガビット対応スイッチングハブを10台経由する場合
2msec	送信機の伝送速度が100Mbpsの場合
5msec	選択できるレイテンシー値の最大値で大規模なネットワークを構築する場合

注意

- 本機は、100Mbpsのイーサネットスイッチングハブには対応していません。必ずギガビットイーサネットに対応したスイッチングハブを使用してください。
- デバイス名を変更するとオーディオ・ルーティング設定がクリアされます。そのため、オーディオ・ルーティングを設定する前にわかりやすいデバイス名に変更することをお勧めします。
- ネットワークの接続環境によっては、目安以上のレイテンシー値を設定しなければならない場合があります。

メモ

- 本機でも設定できます。
- スイッチングハブを使用しないスイッチド（デジチェーン）接続の場合は、以下のように経由するDante機器の台数を目安にレイテンシーを設定してください。

スイッチド（デジチェーン）接続の場合の例

2台経由



1台経由



メモ

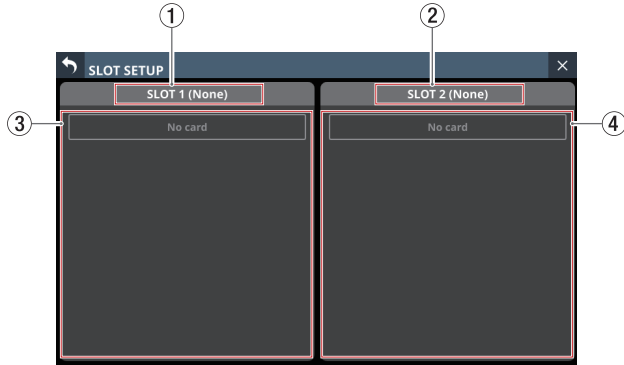
本機の内蔵Danteモジュールや別売のIF-DA64（Danteカード）にはスイッチングハブが内蔵されています。

そのため、Dante機器の台数を数える際は、本機やIF-DA64を1台につき+1台として数えてください。

SLOT SETUP画面

この画面では、SLOT 1 および SLOT 2 に装着した拡張カードの設定や状態表示を行います。

この画面は、メニュー画面 > Rear Panel Setup メニュー > 「Slot Setup」をタップして表示します。



① SLOT 1

リアパネルの SLOT 1 に装着中の拡張カード名を表示します。

② SLOT 2

リアパネルの SLOT 2 に装着中の拡張カード名を表示します。

③ SLOT 1 パラメーター表示

リアパネルの SLOT 1 に装着中の拡張カードのパラメーターを表示します。

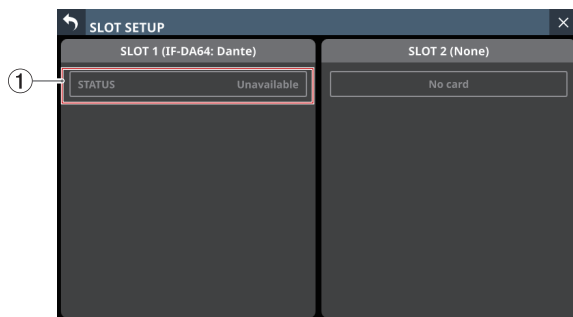
④ SLOT 2 パラメーター表示

リアパネルの SLOT 2 に装着中の拡張カードのパラメーターを表示します。

メモ

SLOT 1 または SLOT 2 に拡張カードが未装着の場合には、「No Card」と表示します。

IF-DA64（Danteカード）を装着時



① STATUS表示部

装着した IF-DA64 の動作状態を表示します。

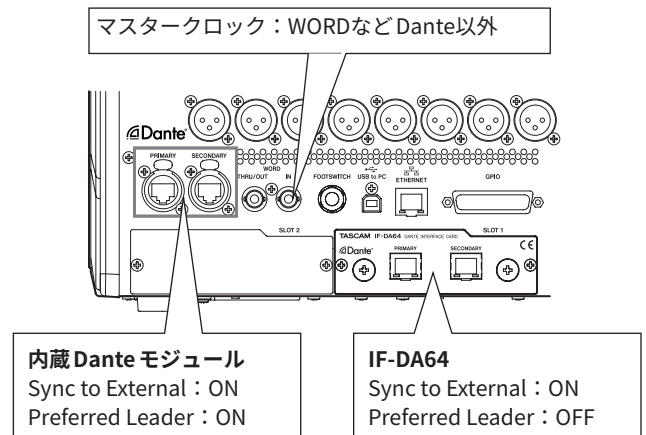
STATUS表示	内容
Available	装着した IF-DA64 が正常に動作している。
Unavailable	装着した IF-DA64 が正常に動作していない。

IF-DA64 を使用する場合の注意

本機の内蔵 Dante モジュール、SLOT に装着した IF-DA64 (Dante カード) の 2 つの Dante モジュールと本機のマスタートラックは同期する必要がありますので、次のように設定してください。

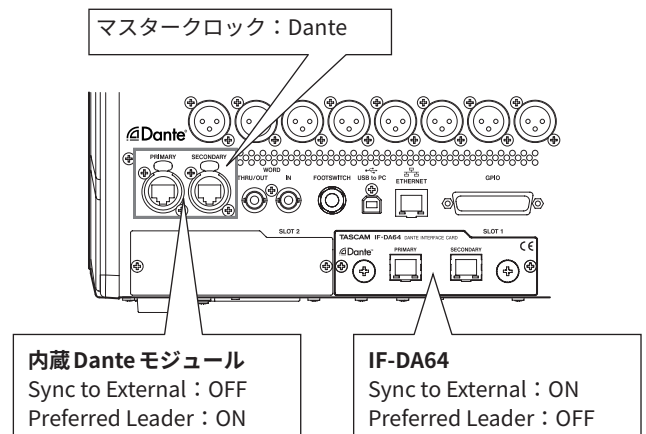
- 本機のマスタートラックを Dante 以外 (INT、WORD など) にする場合

本機の内蔵 Dante モジュールと IF-DA64 の Sync to External 設定を、Dante Controller で両方とも「ON」にしてください。その上で、どちらか一方 (本機の内蔵 Dante モジュールを推奨) の Preferred Leader 設定を、Dante Controller で「ON」にしてください。



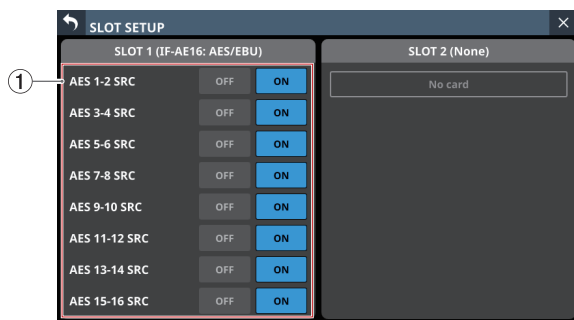
- 本機のマスタートラックを Dante にする場合

IF-DA64 の Sync to External 設定を、Dante Controller で「ON」にしてください。IF-DA64 以外の Dante モジュール (本機の内蔵 Dante モジュールを推奨) の Preferred Leader 設定を、Dante Controller で「ON」にしてください。



第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

IF-AE16 (AES/EBUカード) を装着時

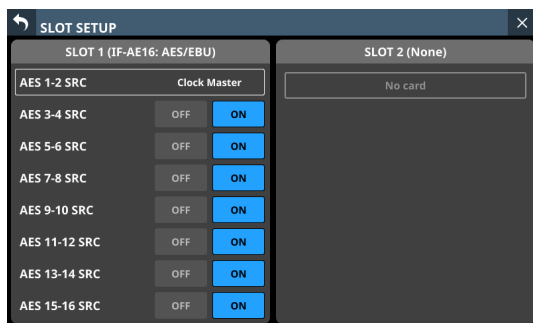


① SRC ON / OFF切り換えボタン

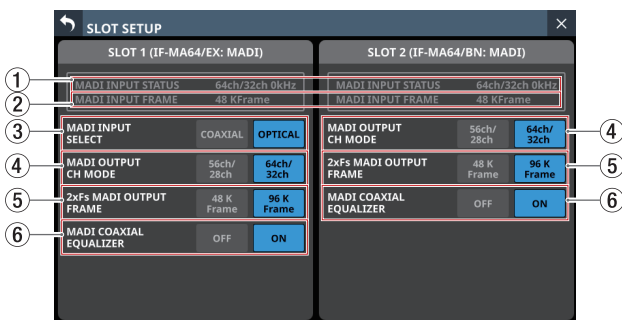
各信号ラインのSRC (サンプルレートコンバーター) 機能のオン／オフを切り換えます。(初期値: ON)
選択したボタンがハイライト表示になります。

メモ

マスタークロックに選択されている信号ラインは、「SRC」項目を「ON」に切り換えることができません。そのため、マスタークロックに選択されている信号ラインは以下のように表示されます。



IF-MA64/EXまたはIF-MA64/BN (MADIカード) を装着時



① MADI INPUT STATUS表示部

MADI入力信号のチャンネルモード／フレーム周波数を表示します。
入力信号がない場合は、「No signal」と表示します。

② MADI INPUT FRAME表示部

MADI入力信号のフレームタイプ (48K Frame / 96K Frame) を表示します。
入力信号がない場合は、「No signal」と表示します。

③ MADI INPUT SELECTボタン (IF-MA64/EX装着時のみ表示)

使用する入力端子を設定します。

選択肢: COAXIAL、OPTICAL (初期値)

選択したボタンがハイライト表示になります。

④ MADI OUTPUT CH MODEボタン

出力チャンネルモードを設定します。

選択肢: 56ch/28ch、64ch/32ch (初期値)

選択したボタンがハイライト表示になります。

メモ

- 「/」の左側: 1xFs時のチャンネルモード
- 「/」の右側: 2xFs時のチャンネルモード

⑤ 2xFs MADI OUTPUT FRAMEボタン

本機のサンプリング周波数が「96kHz」のときのMADI出力信号のフレームタイプを設定します。

選択肢: 48K Frame、96K Frame (初期値)

選択したボタンがハイライト表示になります。

注意

サンプリング周波数が「96kHz」でフレームタイプが「48K Frame」のMADI信号と、サンプリング周波数が「48kHz」のMADI信号は区別ができません。

そのため、受信側機器のサンプリング周波数と一致しない48K FrameのMADI入力信号は、正しいオーディオデータとして受信できません。

48K FrameのMADI信号を扱う場合は、必ず送受信双方の機器のサンプリング周波数を一致させた上でご利用ください。

メモ

IF-MA64/EXのMADI COAXIAL THRU端子の信号は、電源のオン／オフにかかわらずMADI COAXIAL IN端子の信号をスルー出力します。

ただし、電源をオン／オフするタイミングで、MADI COAXIAL THRU端子の信号に瞬間的な乱れが生じます。

そのため、MADI COAXIAL THRU端子の信号を外部機器で使用している場合には、電源をオン／オフするタイミングにご注意ください。

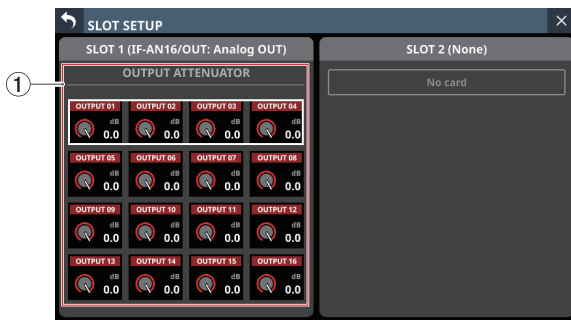
⑥ MADI COAXIAL EQUALIZERボタン

MADI COAXIAL入力信号へのイコライザーの設定を行います。
低電圧のMADI COAXIAL信号源や長いBNCケーブルを使ってIF-MA64/EXおよびIF-MA64/BNに接続する場合、正常に受信できない場合があります。
このような場合には、MADI COAXIAL EQUALIZER項目を「OFF」に設定してお試しください。

選択肢: OFF、ON (初期値)

選択したボタンがハイライト表示になります。

IF-AN16/OUT（アナログ出力カード）を装着時



① OUTPUT ATTENUATOR ノブ

出力レベルを調節します。

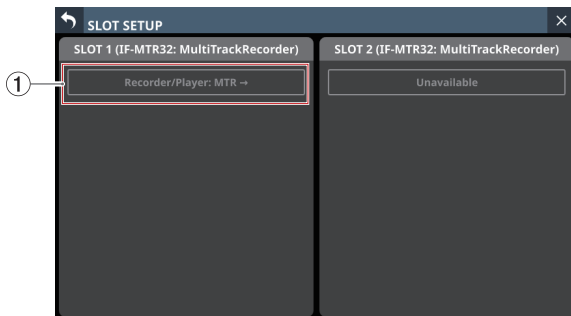
設定範囲：-14.0dB～0.0dB（初期値：0.0dB）

選択枠を表示中に、対応するLCDノブを使って調節します。

メモ

IF-AN16/OUTは、同期しているマスタークロックが48kHzの場合でも、常に96kHzで動作します。

IF-MTR32（マルチトラックレコーディングカード）を装着時



[IF-MTR32 を2枚装着時のSLOT SETUP画面]

① Recorder/Player: MTR →

この部分をタップすると、MULTI TRACK RECORDER画面に切り換わります。（→297ページ「MULTI TRACK RECORDER画面」）

注意

IF-MTR32は、同時に1枚しか使用できません。

2枚装着した場合は、SLOT 1のIF-MTR32だけが使用できます。この場合、SLOT SETUP画面のSLOT 2部分には上記画像のように「Unavailable」と表示されます。

IF-ST2110（ST 2110 カード）を装着時



[IF-ST2110 を2枚装着時のSLOT SETUP画面]

① ST 2110 CONFIG


この部分をタップすると、ST2110 SETUP画面に切り換わります。（→324ページ「第13章 拡張カードIF-ST2110」）

注意

IF-ST2110は、同時に1枚しか使用できません。

2枚装着した場合は、SLOT 1のIF-ST2110だけが使用できます。この場合、SLOT SETUP画面のSLOT 2部分には上記画像のように「Unavailable」と表示されます。

LABEL SETUP画面

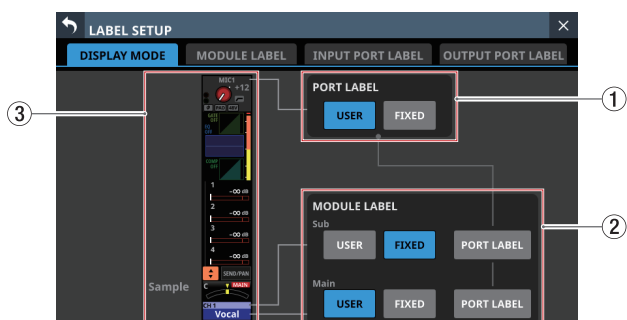
この画面では、各所に表示されるPORT LABEL（入出力端子名）やMODULE LABELの「表示モード」や「表示ラベル」を設定します。この画面は、メニュー画面＞Mixer Setupメニュー＞「Label Setup」をタップして表示します。また、MODULE (INPUT) 画面またはMODULE (OUTPUT) 画面のLABEL設定エリアの  アイコンをタップして表示することもできます。

メモ

この画面の設定は、SnapshotのStore/Recall対象です。また、対応するPARAMETER SAFEタブ画面の設定群は「LABEL / COLOR / ICON」です。（→ 249 ページ「PARAMETER SAFE タブ画面」）

DISPLAY MODE タブ画面

この画面では各所に表示されるPORT LABEL（入出力端子名）やMODULE LABELの表示モードを設定します。



① PORT LABELの表示モード設定ボタン

このボタンをタップして、以下に表示されるPORT LABEL（入出力端子名）の表示モードを設定します。設定したボタンがハイライト表示になります。

ボタン	内容
USER（初期値）	USER PORT LABEL（ユーザーが設定した端子名）を表示します。USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
FIXED	FIXED PORT LABEL（「ANALOG 1」や「Dante 1」のような端子ごとに決められた端子名）を表示します。

設定が反映される場所については、133 ページ「PORT LABELの表示モード設定が反映される場所」をご参照ください。

② MODULE LABELの表示モード設定ボタン

このボタンをタップして、以下に表示されるMODULE LABELの表示モードを設定します。設定したボタンがハイライト表示になります。

ボタン	内容
USER	USER MODULE LABEL（ユーザーが設定したモジュール名）を表示します。USER MODULE LABELが未定義の場合は、FIXED MODULE LABELを表示します。
FIXED	FIXED MODULE LABEL（「CH1」や「MIX1」のようなモジュールごとに決められたモジュール名）を表示します。
PORT LABEL	PORT LABELの表示モード設定ボタン（①）で選択したモードで、該当モジュールにアサインされた端子名を表示します。

- MODULE LABEL Subの表示モード設定ボタン初期値：FIXED
- MODULE LABEL Mainの表示モード設定ボタン初期値：USER

設定が反映される場所については、133 ページ「MODULE LABEL Subの表示モード設定が反映される場所」または133 ページ「MODULE LABEL Mainの表示モード設定が反映される場所」をご参照ください。

③ ホーム画面での表示例

PORT LABELの表示モード設定ボタン（①）およびMODULE LABELの表示モード設定ボタン（②）に合わせたホーム画面での表示例のサンプル画像です。

PORT LABELの表示モード設定が反映される場所

- ホーム画面（最上部の入出力端子名）
- MODULE LABELの表示モード設定により表示内容が変わる場所（MODULE LABELの表示モードが「PORT LABEL」のときのみ）


メモ

- 入力PORT LABELを表示するエリアがステレオリンク時に1チャンネル分しかない場合は、Lチャンネルの入力PORT LABELを表示します。
- 出力ポートは複数選択できますが、複数の出力PORT LABELを表示するエリアがない場合は、MODULE (OUTPUT) 画面のSELECT PORT LABELモード（→ 208 ページ「④ SELECT PORT LABELボタン」）で選択した出力ポートのPORT LABELを表示します。SELECT PORT LABELモードで未選択の場合は、MODULE (OUTPUT) 画面で左上に表示された出力ポートのPORT LABELを表示します。

MODULE LABEL Subの表示モード設定が反映される場所

- チャンネル画面（上から1行目）
- ホーム画面（MODULE LABELエリア上段）
- DCA/Mute Group SETUP画面（各モジュールボタン上段）
- KEY IN SOURCE SELECT画面（各モジュールボタン上段）
- TALKBACKタブ画面（バス名ボタン上段）
- TALKBACKタブ画面（SELECTED ASSIGNウィンドウのバス名ボタン上段）
- TALKBACKタブ画面（TALKBACK KEY ASSIGNウィンドウのバス名ボタン上段）
- MIXER CONFIG画面の全タブ画面（モジュール名ボタン上段）
- Custom Layer SETUPタブ画面（モジュール名ボタン上段）
- SENDS ON FADER画面（バス選択ボタン上段）

MODULE LABEL Mainの表示モード設定が反映される場所

- チャンネル画面（上から2行目）
- チャンネル画面（Sends On Faderモード中の「SEND to [バス名]」部分）
- チャンネル画面（GEQ FADER Ctrlモード中のバス名部分）
- ホーム画面（MODULE LABELエリア下段）
- ホーム画面（SENDエリアのバス名）
- ホーム画面（ ボタンをタップして表示する選択ウィンドウのバス選択ボタン）
- MODULE画面（USER MODULE LABEL表示）
- MODULE (COMP) 画面（KEY IN SOURCEボタン）
- MODULE (DUCKER) 画面（KEY IN SOURCEボタン）
- Module/GATE/EQ/COMP/GEQの各LIBRARY画面（USER MODULE LABEL表示）
- MODULE (SEND/PAN) 画面（バス名部分）
- DCA/Mute Group SETUP画面（各モジュールボタン下段）
- KEY IN SOURCE SELECT画面（各モジュールボタン下段）
- METER画面の全タブ画面
- SEND OVERVIEW画面の全タブ画面（SEND元のモジュール名）
- TALKBACKタブ画面（バス名ボタン下段）
- TALKBACKタブ画面（SELECTED ASSIGNウィンドウのバス名ボタン下段）
- TALKBACKタブ画面（TALKBACK KEY ASSIGNウィンドウのバス名ボタン下段）
- MIXER CONFIG画面の全タブ画面（モジュール名ボタン下段）
- Custom Layer SETUPタブ画面（モジュール名ボタン下段）
- SENDS ON FADER画面（バス選択ボタン下段）
- ST2110 SETUP画面のHOME (Source / Destination) タブ画面（Source InformationウィンドウのMODULE欄）

メモ

MODULE LABELの表示モードが「PORT LABEL」に設定されている場合、入出力ポートがアサインされない下記モジュールでは、MODULE LABELの表示モード設定が「USER」のときと同じ表示になります。

- FX RTN1-4 モジュール
- DCA 1-8 モジュール

第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

MODULE LABEL タブ 画面

この画面では各所に表示されるモジュールの表示ラベルの一覧表示および編集をします。



① モジュール群ページ切り換え表示

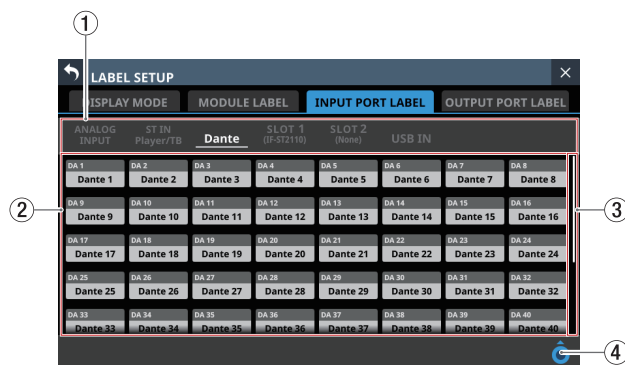
モジュール群のページ名を表示します。
ページ名をタップすると、ページ名に該当するモジュール群のページに切り換えます。
選択したページ名がハイライト表示になります。

② モジュールボタン表示

- このボタンの上段にはFIXED MODULE LABELを、下段にはUSER MODULE LABELを表示します。USER MODULE LABELが未定義の場合は、FIXED MODULE LABELを表示します。
- このボタンをタップすると、タップしたモジュールのUSER MODULE LABELを編集するMODULE LABEL画面に切り換わります。(→ 229 ページ「MODULE LABEL画面」)

INPUT PORT LABEL タブ 画面

この画面では各所に表示される入力端子のUSER PORT LABELの一覧表示および編集をします。



① 入力端子群ページ切り換え表示

入力端子群のページ名を表示します。
ページ名をタップすると、ページ名に該当する入力端子群のページに切り換えます。
選択したページ名がハイライト表示になります。

② 入力端子選択ボタン

- このボタンの上段にはFIXED PORT LABELを、下段にはUSER PORT LABELを表示します。USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- このボタンをタップすると、タップした入力端子のUSER PORT LABELを編集するUSER LABEL (INPUT PORT) 画面に切り換わります。(→ 135 ページ「USER LABEL (INPUT PORT / OUTPUT PORT) 画面」)

③ スクロールバー表示

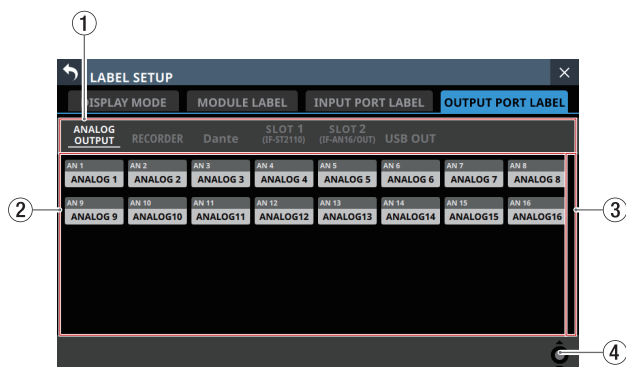
選択可能な選択肢が画面内に表示しきれない場合に表示します。
表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、入力端子選択ボタン(②)エリアを上下にスワイプして画面がスクロールすることもできます。

④ スクロールノブ

選択可能な選択肢が画面内に表示しきれない場合にハイライト表示になります。
LCDノブ8(水色で点灯)を用いてスクロールが可能であることを示すアイコンです。

OUTPUT PORT LABEL タブ 画面

この画面では各所に表示される出力端子のUSER PORT LABELの一覧表示および編集をします。



① 出力端子群ページ切り換え表示

出力端子群のページ名を表示します。
ページ名をタップすると、ページ名に該当する出力端子群のページに切り換えます。
選択したページ名がハイライト表示になります。

② 出力端子選択ボタン

- このボタンの上段にはFIXED PORT LABELを、下段にはUSER PORT LABELを表示します。USER PORT LABELが未定義の場合はFIXED PORT LABELを表示します。
- このボタンをタップすると、タップした出力端子のUSER PORT LABELを編集するUSER LABEL (OUTPUT PORT) 画面に切り換わります。(→ 135 ページ「USER LABEL (INPUT PORT / OUTPUT PORT) 画面」)

③ スクロールバー表示

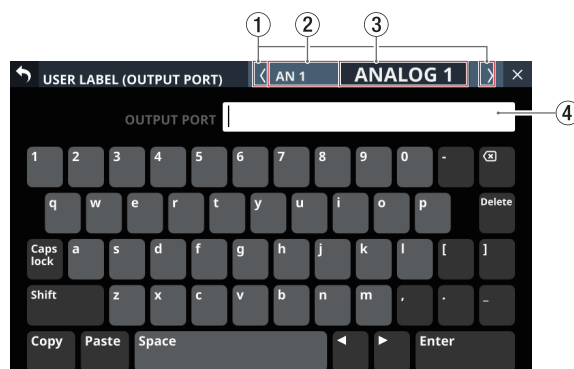
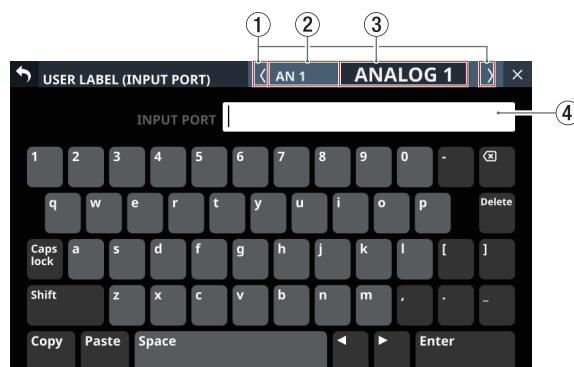
選択可能な選択肢が画面内に表示しきれない場合に表示します。表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、出力端子選択ボタン (②) エリアを上下にスワイプして画面がスクロールすることもできます。

④ スクロールノブ

選択可能な選択肢が画面内に表示しきれない場合にハイライト表示になります。
LCD ノブ 8 (水色で点灯) を用いてスクロールが可能であることを示すアイコンです。

USER LABEL (INPUT PORT / OUTPUT PORT) 画面

この画面では、入出力端子のUSER PORT LABELの登録／編集を行います。



メモ

- USER PORT LABELは、初期状態では設定されていません。
- USER PORT LABELは、最大 8 文字です。

① 〠／〡 ボタン

このボタンをタップすると、表示／編集対象の入出力端子を、INPUT PORT LABELタブ画面の入力端子群ページまたはOUTPUT PORT LABELタブ画面の出力端子群ページの並び順にしたがって左右に移動します。

② FIXED PORT LABEL表示

FIXED PORT LABELを表示します。

③ USER PORT LABEL表示

設定されているUSER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。

④ キーボード入力表示エリア

編集するUSER PORT LABELを表示します。この画面のキーボードボタンやトップパネルのUSB端子に接続したUSBキーボードで表示された文字列を編集します。
キーボードのCaps lockボタンとShiftボタンの設定状態によって、入力できる文字の組み合わせを変更することができます。キーボードの変更方法については、230 ページ「キーボードの変更方法」をご参照ください。

注意

以下の記号や句読点は、入力できません。

¥ / : * ? “ < > |

Network Setup画面

- この画面では、主に専用アプリケーション「TASCAM Sonicview Control」から本機をリモートコントロールする目的で使用するネットワークの設定を行います。
- 「TASCAM Sonicview Control」については、アプリケーションの取扱説明書をご参照ください。
- 「TASCAM Sonicview Control」およびアプリケーションの取扱説明書は、TASCAMのウェブサイトからダウンロードすることができます。

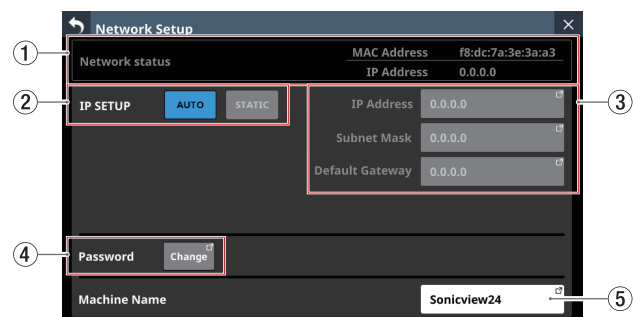
Sonicview 16 / 16dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_16/support

Sonicview 24 / 24dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_24/support

- この画面は、メニュー画面 > Rear Panel Setupメニュー > 「Network Setup」をタップして表示します。



① Network status表示

本機のネットワークの状態を表示します。

項目名	内容
MAC Address	本機のMACアドレスを表示します。
IP Address	本機のIPアドレスを表示します。

② IP SETUP

IPアドレスの設定モードを設定します。

選択肢：AUTO（初期値）、STATIC

③ IP Address / Subnet Mask / Default Gateway

- IP SETUPが「STATIC」のときに使用する本機のIP Address / Subnet Mask / Default Gatewayの設定値を表示します。
初期値：0.0.0.0
- IP SETUPが「AUTO」のときは、グレイアウト表示になります。
- アドレス表示部をタップすると、IP ADDRESS画面 / SUBNET MASK画面 / DEFAULT GATEWAY画面に切り換わります。



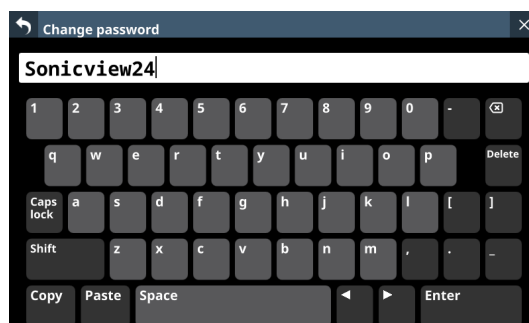
[IP ADDRESS設定画面]

上記の設定画面の操作については、137 ページ「IP Address / Subnet Mask / Default Gatewayの設定手順」をご参照ください。

④ Password

本機にネットワーク接続する際のパスワードを設定します。

Changeボタンをタップすると、Change password画面に切り換わります。



パスワードは、最大16文字です。

Change password画面のキーボードのCaps lockボタンとShiftボタンの設定状態によって、入力できる文字の組み合わせを変更することができます。キーボードの変更方法については、230 ページ「キーボードの変更方法」をご参照ください。

注意

以下の記号や句読点は、入力できません。

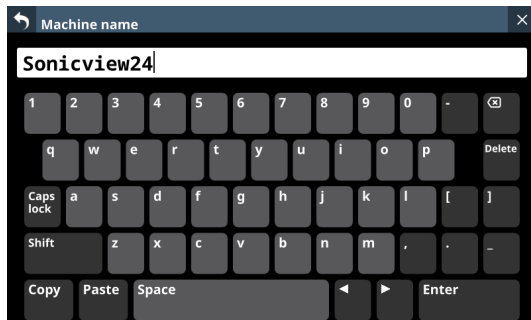
¥ / : * ? “ < > |

メモ

- トップパネルのUSB端子に接続したUSBキーボードを使って文字を入力／編集することもできます。
- TASCAM Sonicview Controlから本機へ接続する際のパスワードは、この画面でご確認ください。

⑤ Machine Name

ネットワーク上にある複数のSonicviewを専用のリモートアプリケーションで区別をつけるためのネットワーク上の機器名(Machine Name)を設定します。
この部分をタップすると、Machine name画面に切り換わります。



Machine Nameは最大 16 文字です。

機種	Machine Name初期値
Sonicview 16 / 16dp	Sonicview16
Sonicview 24 / 24dp	Sonicview24

Machine name画面のキーボードのCaps lockボタンとShiftボタンの設定状態によって、入力できる文字の組み合わせを変更することができます。キーボードの変更方法については、230ページ「キーボードの変更方法」をご参照ください。

注意

以下の記号や句読点は、入力できません。

¥ / : * ? “ < > |

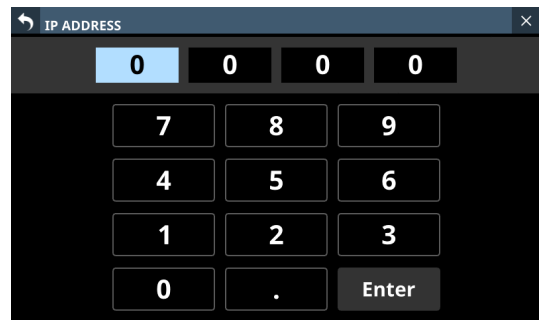
メモ

トップパネルのUSB端子に接続したUSBキーボードを使って文字を入力／編集することもできます。

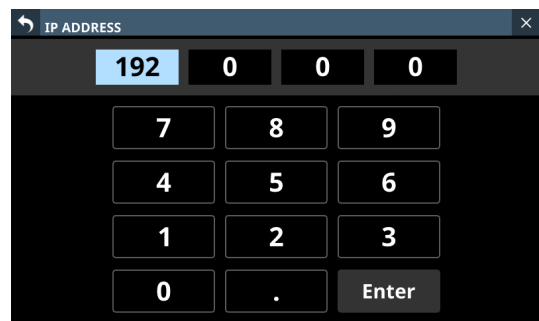
IP Address / Subnet Mask / Default Gatewayの設定手順

IP Addressを「192.168.1.1」に設定する手順を例に説明します。

1. IP Address / Subnet Mask / Default Gatewayのアドレス表示部をタップして、設定画面に切り換えます。



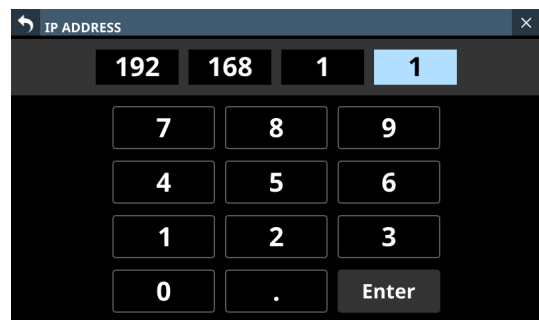
2. 数字ボタンをタップして、設定値を入力します。



3. 「.」ボタンをタップして、次の桁にカーソルを移動させます。設定を変更したい桁をタップしてカーソルを移動することもできます。

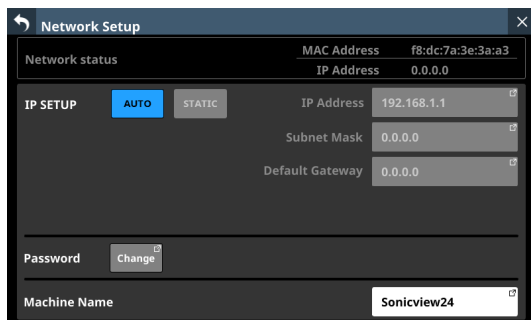


4. 手順の2.～3. を繰り返して、すべての桁の設定値を入力します。



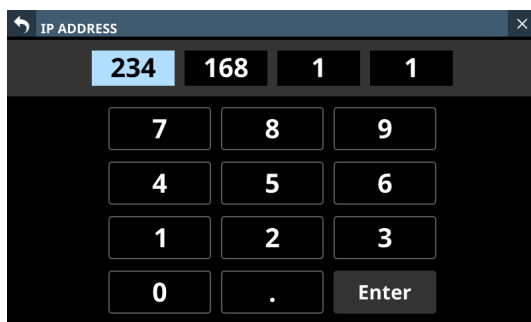
第4章 ミキサーのコンフィギュレーション／各種設定

5. Enterボタンをタップすると、入力を確定し Network Setup画面に戻ります。
Network Setup画面のIP Address／Subnet Mask／Default Gatewayのアドレス表示部に反映されます。



メモ

- 各入力箇所の桁数は、3桁です。2桁以下の数値を入力する場合は、上位桁の「0」入力は不要です。
- 画面を表示後は、最上位桁がハイライト表示になります。
- ハイライト表示になってから最初の数字ボタンをタップすると、タップしたボタンの数字だけが入力された状態になります。それ以後は電卓方式で数字が入力されます。
- 「1234」と4桁の数字を入力すると、最初に入力した「1」が押し出され以下の表示になります。



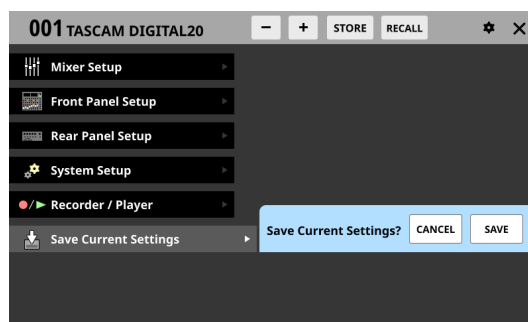
カレント設定の保存

本機の設定は、最長1分周期で内蔵メモリーに保存しています。本機の電源を切る前に、確実に本機の設定を内蔵メモリーに保存するには、ここで説明する「Save Current Settings」を行ってから本機の電源を切るようにしてください。

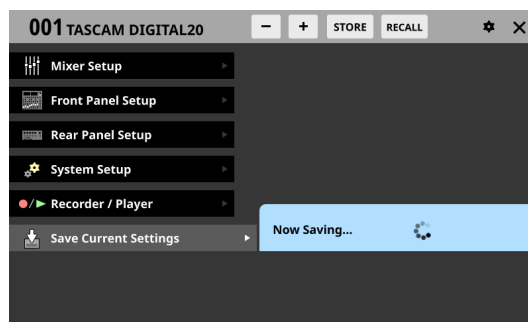
メモ

SnapshotやEQなどのLIBRARYの設定データやAll System Dataは、STORE／SAVE処理完了時に内蔵メモリーに出力済みのため、本操作なしで電源を切っても問題ありません。

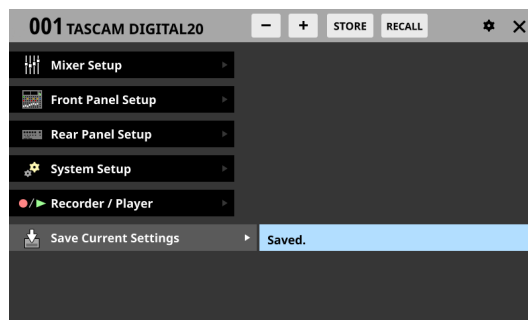
- MENUキーを押して、メニュー画面を表示します。
- メニュー画面の「Save Current Settings」項目を表示します。
- 「Save Current Settings」項目をタップすると、メニューリスト右側に保存確認メッセージが表示されます。



- SAVEボタンをタップすると、本機の設定が内蔵メモリーに保存されます。
 - 保存処理中は、以下のメッセージが表示されます。



- 保存処理が完了すると、「Saved.」とメッセージが表示され、その後自動的にメッセージが消えます。



第5章 ルーティング

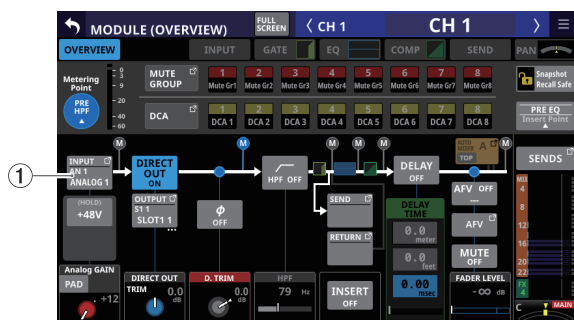
本章では、ミキサーの入出ルーティングについて説明します。

入ルーティング

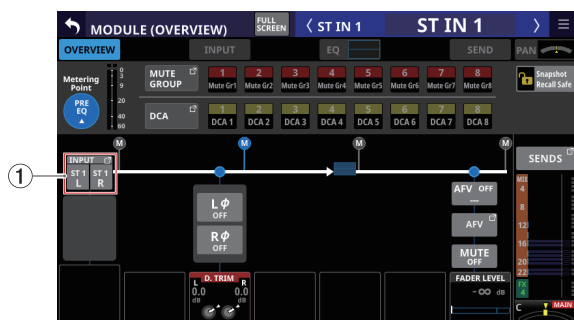
入ルーティングは、以下の画面で行います。

CH1-40 モジュール、STIN1-2 モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面

この画面は、ホーム画面の各モジュールのMODULE LABELエリアをタップして表示します。



[CH1-40 モジュール]

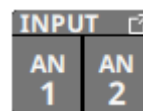


[ST IN1-2 モジュール]

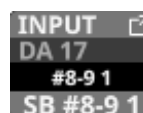
① INPUT ボタン

- 選択したモジュールにアサインされた入力ソース名を表示します。
2 行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
3 行目には、USER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- ステレオモジュールのとき、以下のような略称で左右に分割して入力ソースのFIXED PORT LABELを表示します。

モジュールの表示	ステレオモジュールの表示
ANALOG	AN
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB IN	USB
ST IN 1	ST1
ST IN 2	ST2
PLAYER	PL
SB-16D	SB



- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 2 行目：DAポート番号
 - 3 行目：#[ID] ポート番号
 - 4 行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」



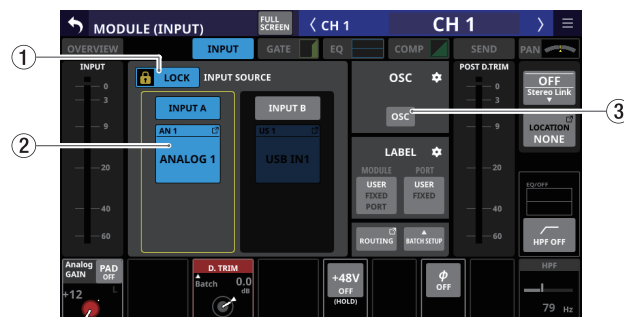
また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、Vマークを表示します。



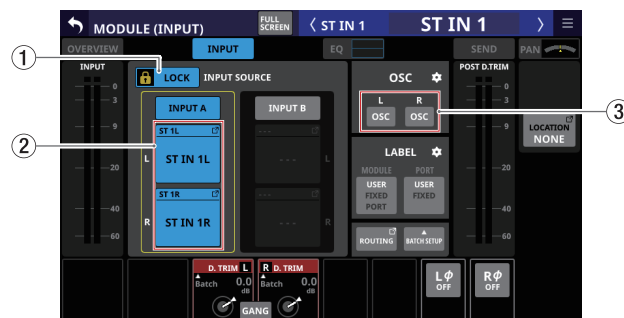
- このボタンをタップすることで、入力ソースを選択するINPUT SOURCE SELECT画面に切り換えます。(→ 149 ページ「INPUT SOURCE SELECT画面」)

CH1-40 モジュール、STIN1-2 モジュールのMODULE (INPUT) 画面

この画面は、選択枠が表示されたCH1-40 モジュール、STIN1-2 モジュールのホーム画面のINPUTエリアをタップして表示します。INPUT SOURCEは、INPUT AとINPUT Bの2系統設定ができます。



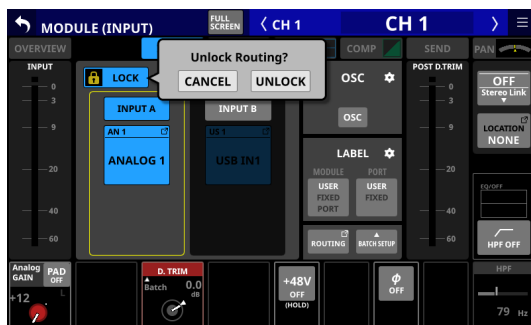
[CH1-40 モジュール]



[ST IN1-2 モジュール]

① LOCK / UNLOCK切り換えボタン

- 本機のルーティング設定変更操作のロック／アンロックを切り換えるボタンです。起動時は、必ずロック状態になっています。
- 「LOCK」時は、OSCボタン（③）をタップしても設定を変更しません。また、BATCH SETUPボタンの操作もできません。ただし、INPUT SOURCEボタンをタップしてINPUT SOURCE SELECT画面に切り換えることは可能です。
- 「LOCK」時にこのボタンをタップすると、確認メッセージが表示されます。確認メッセージでUNLOCKボタンをタップすると、メッセージを閉じて「UNLOCK」に切り換わります。確認メッセージでCANCELボタンをタップすると、メッセージを閉じてロック状態を維持します。



- 「UNLOCK」時にこのボタンをタップすると、「LOCK」に切り換わります。

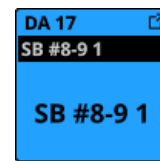
メモ

LOCK / UNLOCK切り換えボタン（①）の設定は、下記ルーティング設定画面で共通の設定です。

- MODULE (INPUT) 画面
- MODULE (OUTPUT) 画面
- INPUT SOURCE SELECT画面
- OUTPUT PORT SELECT画面
- DIRECT OUT PORT SELECT画面
- INSERT SEND PORT SELECT画面
- INSERT RETURN PORT SELECT画面
- TALKBACK INPUT SELECT画面
- TALKBACK EXT1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- TALKBACK EXT2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- Return TALKBACK EXT DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 OUTPUT PORT SELECT画面
- Solo DIRECT OUT PORT SELECT画面
- ルーティング画面

② INPUT SOURCE ボタン

- このボタンには、現在選択されている入力ソースが表示されます。
1 行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
2 行目には、USER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- このボタンをタップすると、INPUT SOURCE SELECT画面に切り換わります。（→ 149 ページ「INPUT SOURCE SELECT画面」）
- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートのボタンは、以下のように表示します。
 - 1 行目：DAポート番号
 - 2 行目：SB #[ID] ポート番号
 - 3 行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」



- パーチャルマウントされたSB-16DのDanteポートの場合は、アサインしたボタンが黄色でハイライト表示になります。




メモ

複数のチャンネルの入力ソースを一括で設定することもできます。（→ 142 ページ「複数のチャンネル間の入力ソースを一括で設定する」）

③ OSC ボタン

- LOCK / UNLOCK切り換えボタン（①）が「UNLOCK」のときにこのボタンをタップすると、内蔵オシレーター信号入力のオン／オフが切り換わります。（初期値：オフ）
- オンにすると、選択したモジュールの入力が内蔵オシレーターからの信号に切り換わります。オンのとき、ボタンがハイライト表示になり、INPUT SOURCE選択ボタン（②）のエリアが暗くなります。
- オフにすると、選択したモジュールの入力が選択された入力ソースに戻ります。

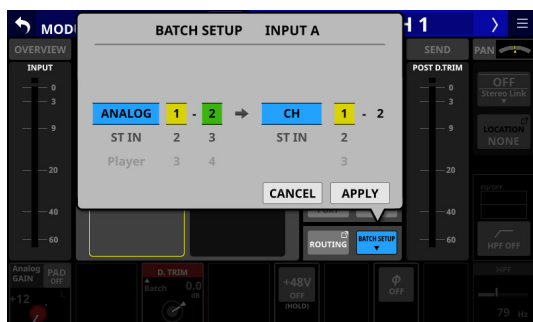
メモ

内蔵オシレーターのオン／オフやレベルなどの各種設定は、OSCボタン右上の  アイコンをタップして切り換えるTALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面のSOLO / OSCILLATORタブ画面で変更します。（→ 96 ページ「SOLOと内蔵オシレーターの設定」）

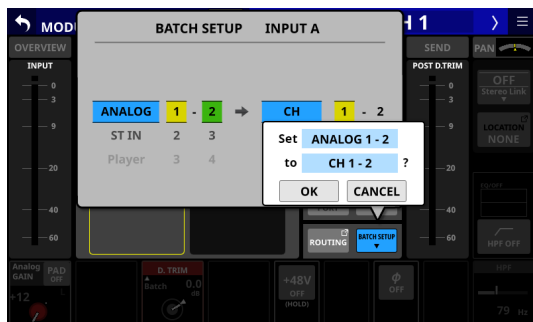
第5章 ルーティング

複数のチャンネル間の入力ソースを一括で設定する

1. LOCK / UNLOCK切り換えボタン (①) が「UNLOCK」のときに MODULE (INPUT) 画面の BATCH SETUP ボタンをタップすると、選択されている INPUT に対して入力ソースを一括で設定する BATCH SETUP ウィンドウを表示します。



2. 選択肢を上下にスワイプして、入力ソースとアサイン先モジュールを選択します。
各選択肢と同じ色で点灯した LCD ノブ 2 ～ 6 を回して選択肢を変更することもできます。
3. APPLY ボタンをタップすると、設定確認のウィンドウを表示します。



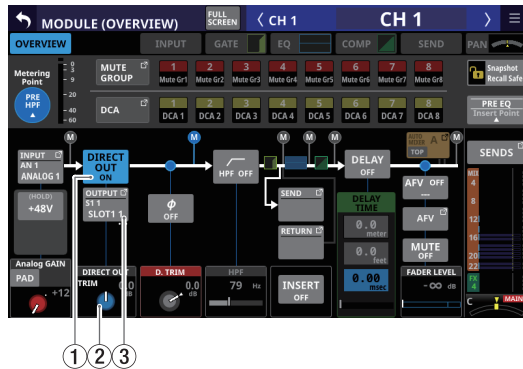
4. OK ボタンをタップして、入力ソースを一括設定します。
BATCH SETUP ウィンドウを閉じて、選択した入力ソースが INPUT SOURCE 選択ボタンに表示されます。

メモ

- この画面の LOCK/UNLOCK ボタンが「LOCK」に設定されているときは、BATCH SETUP ボタンの操作はできません。
- 一括設定ウィンドウが表示されている状態で、他のタッチスクリーンでルーティング操作を「LOCK」に設定された場合は、一括設定ウィンドウが自動的に閉じます。

ダイレクトアウト信号の出力ルーティング

ダイレクトアウト機能は、CH1-40 モジュールに搭載されています。ダイレクトアウト信号の出力ルーティングは、CH1-40 モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面で行います。この画面は、ホーム画面の各モジュールのMODULE LABELエリアをタップして表示します。



[CH1-40 モジュール]

① DIRECT OUT ボタン

このボタンをタップして、DIRECT OUTのオン／オフを切り換えます。(初期値：ON)
 オンのとき、このボタンとDIRECT OUT TRIM ノブがハイライト表示になり、このポイントの信号をDIRECT OUTに出力します。

メモ

CH1-40 モジュールのDIRECT OUT POINTは、50 ページ「CH1-40 CONFIGタブ画面」で切り換えることができます。

② DIRECT OUT TRIM ノブ

DIRECT OUT信号の出力レベルを調節します。

設定範囲：-20dB～+20dB（初期値：0dB）

LCD ノブ 2/4/5/7（青色で点灯）を使って調節します。

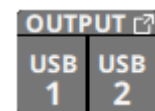
メモ

DIRECT OUT POINTやDELAY POINTの設定によって、操作に用いるノブの番号が変わります。

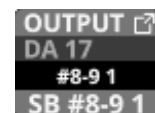
③ OUTPUT ボタン

- DIRECT OUT信号がアサインされている出力ポート名を表示します。
 2 行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
 3 行目には、USER PORT LABELを表示します。
 USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- 複数の出力ポートがアサインされている場合、ボタン右下に「…」を表示します。
- ステレオモジュールのとき、以下のような略称で左右に分割して出力ポートのFIXED PORT LABELを表示します。

モジュールの表示	ステレオモジュールの表示
ANALOG	AN
RECORDER	RE
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB OUT	USB



- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 2 行目：DAポート番号
 - 3 行目：#[ID] ポート番号
 - 4 行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」



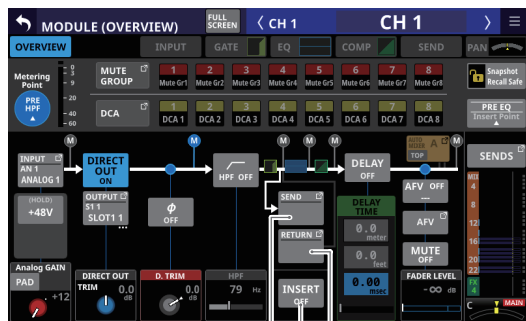
また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、V マークを表示します。



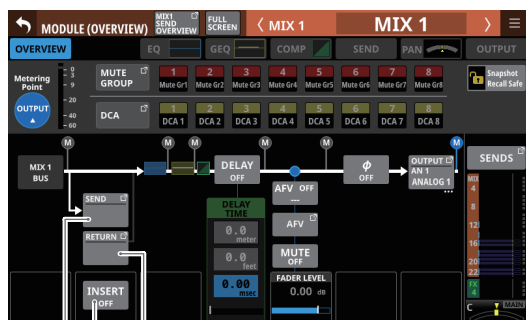
- このボタンをタップすることで、DIRECT OUT出力ポートを選択するDIRECT OUT PORT SELECT画面に切り換えます。(→ 151 ページ「DIRECT OUT PORT SELECT画面」)

インサート入出力ルーティング

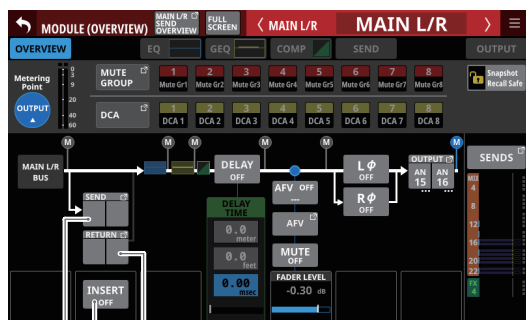
インサート機能は、CH1-40 モジュール／MIX1-22 モジュール／MAIN L/R マスターモジュールに搭載されています。
インサート入出力ルーティングは、これらのモジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面で行います。
この画面は、ホーム画面の各モジュールのMODULE LABELエリアをタップして表示します。



[CH1-40 モジュール]



[MIX1-22 モジュール]

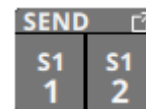


[MAIN L/R マスターモジュール]

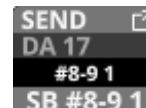
① SEND ボタン


- INSERT SEND信号がアサインされている出力ポート名を表示します。
2 行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
3 行目には、USER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- 複数の出力ポートがアサインされている場合、ボタン右下に「…」を表示します。
- ステレオモジュールのとき、以下のような略称で左右に分割して出力ポートのFIXED PORT LABELを表示します。

モジュールの表示	ステレオモジュールの表示
ANALOG	AN
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB OUT	USB



- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 2 行目：DAポート番号
 - 3 行目：#[ID] ポート番号
 - 4 行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB#[ID] ポート番号」



また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、 マークを表示します。



- このボタンをタップすることで、INSERT SEND信号の出力ポートを選択するINSERT SEND PORT SELECT画面に切り換えます。(→ 153 ページ「INSERT SEND PORT SELECT画面」)

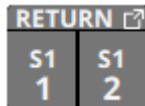
② INSERT ボタン

このボタンをタップして、INSERTのオン／オフを設定します。
(初期値：OFF)
オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

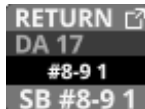
③ RETURNボタン


- INSERT RETURN信号がアサインされている入力ポート名を表示します。
2行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
3行目には、USER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- ステレオモジュールのとき、以下のような略称で左右に分割して入力ポートのFIXED PORT LABELを表示します。

モジュールの表示	ステレオモジュールの表示
ANALOG	AN
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB IN	USB
ST IN 1	ST1
ST IN 2	ST2
PLAYER	PL
SB-16D	SB



- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 2行目：DAポート番号
 - 3行目：#[ID] ポート番号
 - 4行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」



また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、マークを表示します。



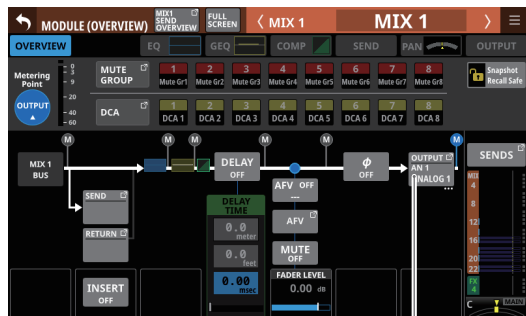
- このボタンをタップすることで、INSERT RETURN信号の入力ポートを選択するINSERT RETURN PORT SELECT画面に切り換えます。(→ 155 ページ「INSERT RETURN PORT SELECT画面」)

出力ルーティング

出力ルーティングは、以下の画面で行います。

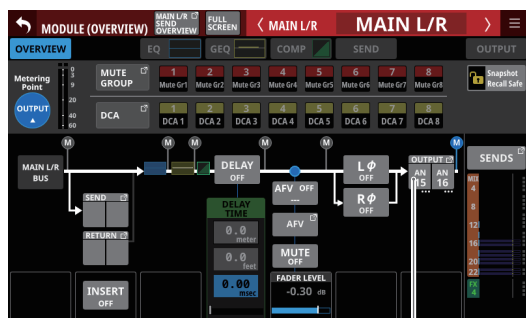
MIX1-22 モジュール、MAIN L/R マスターモジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面

この画面は、ホーム画面の各モジュールのMODULE LABELエリアをタップして表示します。



①

[MIX1-22 モジュール]



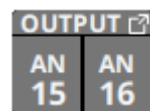
①

[MAIN L/R マスターモジュール]

① OUTPUT ボタン


- 選択したモジュールの出力信号がアサインされている出力ポート名を表示します。
2 行目には、省略された FIXED PORT LABEL を表示します。
3 行目には、USER PORT LABEL を表示します。
USER PORT LABEL が未定義の場合は、FIXED PORT LABEL を表示します。
- 複数の出力ポートがアサインされている場合、ボタン右下に「…」を表示します。
- ステレオモジュールのとき、以下のような略称で左右に分割して出力ポートの FIXED PORT LABEL を表示します。

モジュールの表示	ステレオモジュールの表示
ANALOG	AN
RECORDER	RE
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB OUT	USB



- マウント済み SB-16D がアサインされた Dante ポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 2 行目：DA ポート番号
 - 3 行目：#[ID] ポート番号
 - 4 行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABEL が未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」



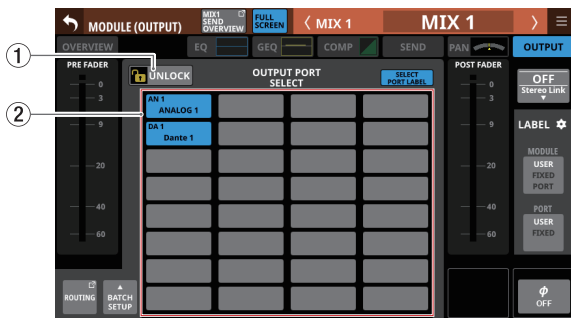
また、バーチャルマウントされた SB-16D の場合は、 マークを表示します。



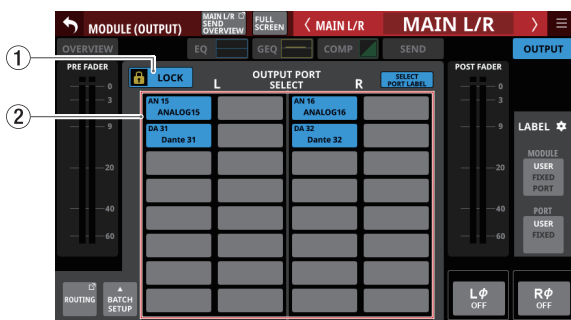
- このボタンをタップすることで、出力ポートを選択する OUTPUT PORT SELECT 画面に切り換えます。(→ 157 ページ「OUTPUT PORT SELECT 画面」)

MIX1-22 モジュール、MAIN L/R マスターモジュールのMODULE (OUTPUT) 画面

この画面は、MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/R マスターモジュールのホーム画面上部のOUTPUTエリアをタップして表示します。



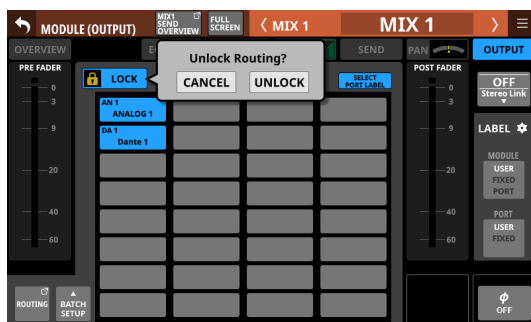
[MIX1-22 モジュール]



[MAIN L/R マスターモジュール]

① LOCK / UNLOCK切り換えボタン

- 本機のルーティング設定変更操作のロック／アンロックを切り換えるボタンです。起動時は、必ずロック状態になっています。
- 「LOCK」時は、BATCH SETUPボタンの操作はできません。ただし、OUTPUT PORT SELECT表示エリア (2) をタップしてOUTPUT PORT SELECT画面に切り換えることは可能です。
- 「LOCK」時にこのボタンをタップすると、確認メッセージが表示されます。確認メッセージでUNLOCKボタンをタップすると、メッセージを閉じて「UNLOCK」に切り換わります。確認メッセージでCANCELボタンをタップすると、メッセージを閉じてロック状態を維持します。



- 「UNLOCK」時にこのボタンをタップすると、「LOCK」に切り換わります。

メモ

LOCK / UNLOCK切り換えボタン (1) の設定は、下記ルーティング設定画面で共通の設定です。

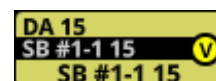
- MODULE (INPUT) 画面
- MODULE (OUTPUT) 画面
- INPUT SOURCE SELECT画面
- OUTPUT PORT SELECT画面
- DIRECT OUT PORT SELECT画面
- INSERT SEND PORT SELECT画面
- INSERT RETURN PORT SELECT画面
- TALKBACK INPUT SELECT画面
- TALKBACK EXT1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- TALKBACK EXT2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- Return TALKBACK EXT DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 OUTPUT PORT SELECT画面
- Solo DIRECT OUT PORT SELECT画面
- ルーティング画面

② OUTPUT PORT SELECT表示エリア

- このエリアには、選択したモジュールの信号がアサインされた出力ポートを表示します。
1行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
2行目には、USER PORT LABELを表示します。USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- モノラルモジュールの場合、最大32ポートまで表示できます。
- ステレオモジュールの場合、1モジュールにつき最大16ポートまで表示できます。
- アサインされた出力ポート数が上記を超えている場合、該当エリア右下に「...」と表示します。
- このエリアをタップすると、タップした出力ポートがあるOUTPUT PORT SELECT画面に切り換わります。(→ 157 ページ「OUTPUT PORT SELECT画面」)
- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 1行目：DAポート番号
 - 2行目：SB #[ID] ポート番号
 - 3行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」



- パーチャルマウントされたSB-16DのDanteポートの場合は、アサインしたボタンが黄色でハイライト表示になります。

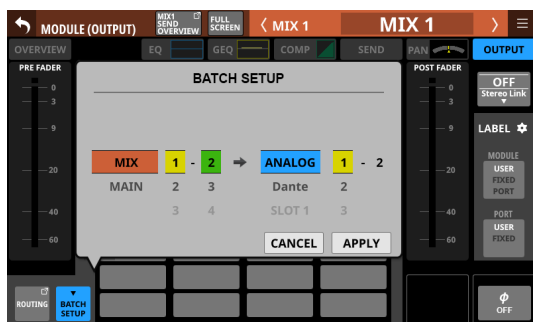


メモ

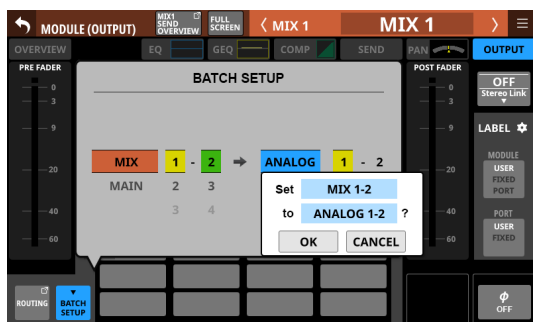
複数のチャンネルの出力ポートを一括で設定することもできます。(→ 148 ページ「複数のチャンネル間の出力ポートを一括で設定する」)

複数のチャンネル間の出力ポートを一括で設定する

1. LOCK / UNLOCK切り換えボタン (①) が「UNLOCK」のときにMODULE (OUTPUT) 画面のBATCH SETUPボタンをタップして、出力ポートを一括で設定するBATCH SETUPウィンドウを表示します



2. 選択肢を上下にスワイプして、出力ポートを選択します。各選択肢と同じ色で点灯したLCDノブ2～6を回して選択肢を変更することもできます。
3. APPLYボタンをタップすると、設定確認のウィンドウを表示します。



4. OKボタンをタップして、出力ポートを一括変更します。BATCH SETUPウィンドウを閉じて、選択した出力ポートがOUTPUT PORT選択ボタンに表示されます。

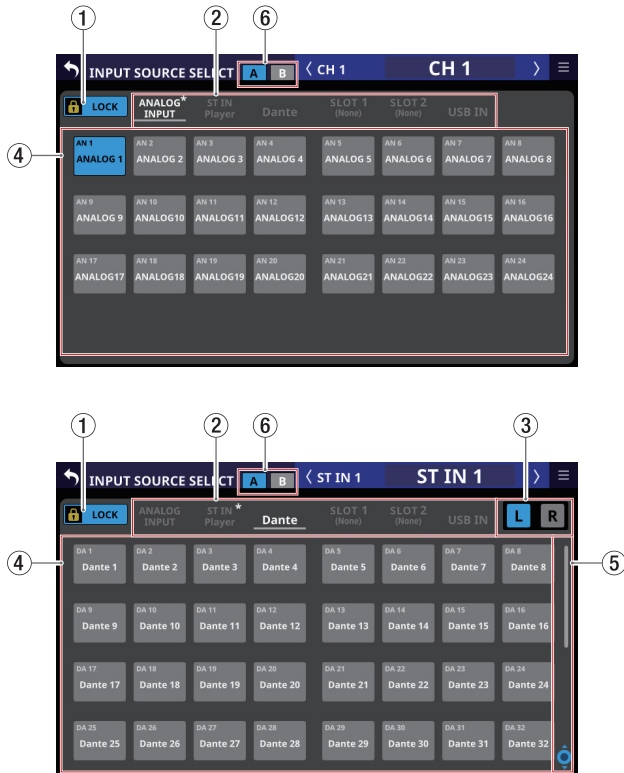
メモ

- この画面のLOCK/UNLOCKボタンが「LOCK」に設定されているときは、BATCH SETUPボタンの操作はできません。
- 一括設定ウィンドウが表示されている状態で、他のタッチスクリーンでルーティング操作を「LOCK」に設定された場合は、一括設定ウィンドウが自動的に閉じます。

INPUT SOURCE SELECT画面

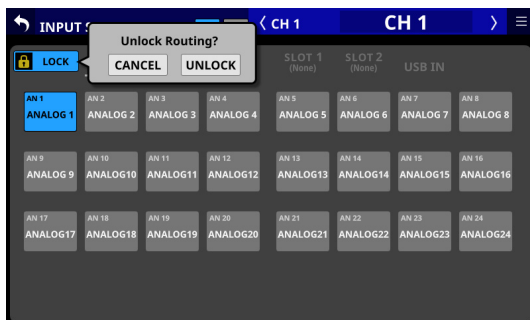
この画面では、CH1-40 モジュールおよびST IN1-2 モジュールの入力ソースの選択を行います。

この画面は、これらのモジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面のINPUTボタン、またはMODULE (INPUT) 画面のOthersボタンをタップして表示します。(→ 140 ページ「入カルーティング」)



① LOCK / UNLOCK切り換えボタン

- 本機のルーティング設定変更操作のロック／アンロックを切り換えるボタンです。起動時は、必ずロック状態になっています。
- 「LOCK」時は、入力ソース選択ボタン（④）をタップしても設定を変更しません。
- 「LOCK」時にこのボタンをタップすると、確認メッセージが表示されます。確認メッセージでUNLOCKボタンをタップすると、メッセージを閉じて「UNLOCK」に切り換わります。確認メッセージでCANCELボタンをタップすると、メッセージを閉じてLOCK状態を維持します。



- 「UNLOCK」時にこのボタンをタップすると、「LOCK」に切り換わります。

メモ

LOCK / UNLOCK切り換えボタン（①）の設定は、下記ルーティング設定画面で共通の設定です。

- MODULE (INPUT) 画面
- MODULE (OUTPUT) 画面
- INPUT SOURCE SELECT画面
- OUTPUT PORT SELECT画面
- DIRECT OUT PORT SELECT画面
- INSERT SEND PORT SELECT画面
- INSERT RETURN PORT SELECT画面
- TALKBACK INPUT SELECT画面
- TALKBACK EXT1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- TALKBACK EXT2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- Return TALKBACK EXT DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 OUTPUT PORT SELECT画面
- Solo DIRECT OUT PORT SELECT画面
- ルーティング画面

② 入力ソース群ページ切り換え表示

- 入力ソース群のページ名を表示します。
- ページ名をタップすると、ページ名に該当する入力ソース群のページに切り換えます。選択したページ名がハイライト表示になります。選択中の入力ソースがあるページ名に「*」が付きます。

ページ名	内容
ANALOG INPUT	アナログ MIC/LINE入力端子を選択します。
ST IN Player	2組のST IN端子および内蔵メモリープレイヤーを選択します。
Dante	内蔵Danteの入力を選択します。
SLOT 1	SLOT 1 に装着中の拡張カード入力を選択します。
SLOT 2	SLOT 2 に装着中の拡張カード入力を選択します。
USB IN	USB Audio I/F入力を選択します。

③ L / R選択ボタン

ステレオモジュールのL/Rチャンネルのどちらの入力ポートを設定するかを選択します。


このボタンをタップすると、L / Rを切り換えます。選択したボタンがハイライト表示になります。

第5章 ルーティング

④ 入力ソース選択ボタン

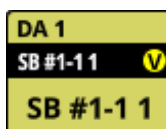
- LOCK / UNLOCK切り換えボタン (①) が「UNLOCK」のときにこのボタンをタップして、入力ソースを選択します。選択したボタンが水色でハイライト表示になります。使用できないボタンは、グレイアウト表示になります。使用できないボタンを選択すると暗い青色で表示されます。1行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。2行目には、USER PORT LABELを表示します。USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- ステレオモジュールの場合は、Lチャンネル用に選択したボタン左下に「L」、Rチャンネル用に選択したボタン右下に「R」と表示します。
- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 1行目：DAポート番号
 - 2行目：SB #[ID] ポート番号
 - 3行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」



また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、マークを表示します。




- バーチャルマウントされたSB-16DのDanteポートの場合は、アサインしたボタンが黄色でハイライト表示になります。



⑤ スクロールノブ／スクロールバー表示

選択可能な選択肢が画面内に表示しきれない場合に表示します。表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、入力ソース選択ボタン (④) エリアを上下にスワイプする、またはLCDノブ8を回して画面をスクロールすることもできます。

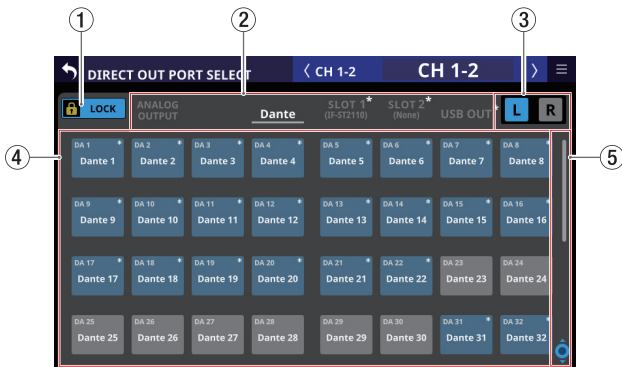
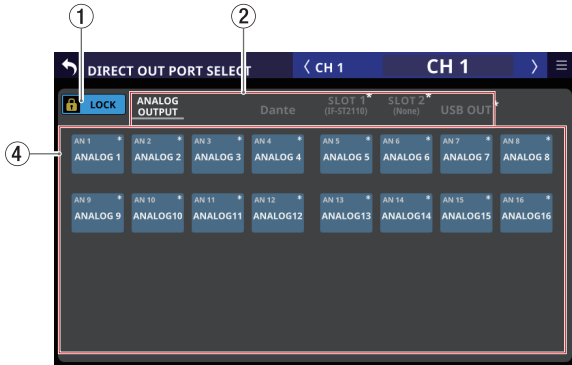
⑥ ボタン

このボタンをタップして、INPUT SOURCEのINPUT A / INPUT Bを切り換えます。(初期値：)

DIRECT OUT PORT SELECT画面

この画面では、CH1-40 モジュールのDIRECT OUT信号の出力ポート設定を行います。

この画面は、CH1-40 モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面のDIRECT OUT TRIM ノブの上にあるOUTPUTボタンをタップして表示します。(→ 143 ページ「ダイレクトアウト信号の出力ルーティング」)



① LOCK / UNLOCK切り換えボタン

- 本機のルーティング設定変更操作のロック／アンロックを切り換えるボタンです。起動時は、必ずロック状態になっています。
- 「LOCK」時は、出力ポート選択ボタン（④）をタップしても設定を変更しません。
- 「LOCK」時にこのボタンをタップすると、確認メッセージが表示されます。確認メッセージでUNLOCKボタンをタップすると、メッセージを閉じて「UNLOCK」に切り換わります。確認メッセージでCANCELボタンをタップすると、メッセージを閉じてLOCK状態を維持します。



- 「UNLOCK」時にこのボタンをタップすると、「LOCK」に切り換わります。

メモ

LOCK / UNLOCK切り換えボタン（①）の設定は、下記ルーティング設定画面で共通の設定です。

- MODULE (INPUT) 画面
- MODULE (OUTPUT) 画面
- INPUT SOURCE SELECT画面
- OUTPUT PORT SELECT画面
- DIRECT OUT PORT SELECT画面
- INSERT SEND PORT SELECT画面
- INSERT RETURN PORT SELECT画面
- TALKBACK INPUT SELECT画面
- TALKBACK EXT1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- TALKBACK EXT2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- Return TALKBACK EXT DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 OUTPUT PORT SELECT画面
- Solo DIRECT OUT PORT SELECT画面
- ルーティング画面

② 出力ポート群ページ切り換え表示

- 出力ポート群のページ名を表示します。
- ページ名をタップすると、ページ名に該当する出力ポート群のページに切り換えます。選択したページ名がハイライト表示になります。選択中の出力ポートがあるページ名に「*」が付きます。

ページ名	内容
ANALOG OUTPUT	アナログ出力ポートを選択します。
Dante	内蔵Danteの出力ポートを選択します。
SLOT 1	SLOT 1 に装着中の拡張カードの出力ポートを選択します。
SLOT 2	SLOT 2 に装着中の拡張カードの出力ポートを選択します。
USB OUT	USB Audio I/Fの出力ポートを選択します。

③ L / R選択ボタン

ステレオモジュールのL/Rチャンネルのどちらの出力ポートを設定するかを選択します。


このボタンをタップすると、L / Rを切り換えます。選択したボタンがハイライト表示になります。

第5章 ルーティング

④ 出力ポート選択ボタン

- LOCK / UNLOCK切り換えボタン (①) が「UNLOCK」のときにこのボタンをタップして、出力ポートを選択します。選択したボタンが水色でハイライト表示になります。使用できないボタンはグレイアウト表示になります。使用できないボタンを選択すると暗い青色で表示されます。1行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。2行目には、USER PORT LABELを表示します。USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- ステレオモジュールの場合は、Lチャンネル用に選択したボタン左下に「L」、Rチャンネル用に選択したボタン右下に「R」と表示します。
- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 1行目：DAポート番号
 - 2行目：SB #[ID] ポート番号
 - 3行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」



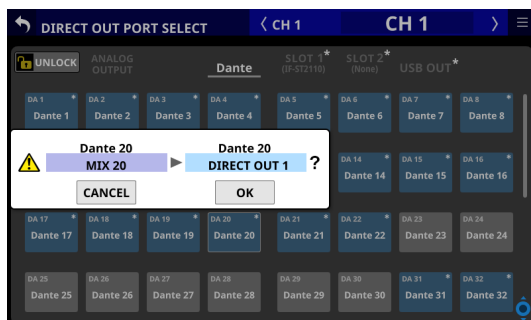
また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、マークを表示します。



- バーチャルマウントされたSB-16DのDanteポートの場合は、アサインしたボタンが黄色でハイライト表示になります。



- すでに他のモジュールがアサインされているボタンには「*」が付き、くすんだ青で表示されます。このボタンをタップすると、設定確認のウィンドウが表示されます。OKボタンをタップすると、設定を変更してウィンドウを閉じます。CANCELボタンをタップすると、設定を変更しないでウィンドウを閉じます。



メモ

1つのモジュールの信号を複数の出力ポートにアサインすることもできます。

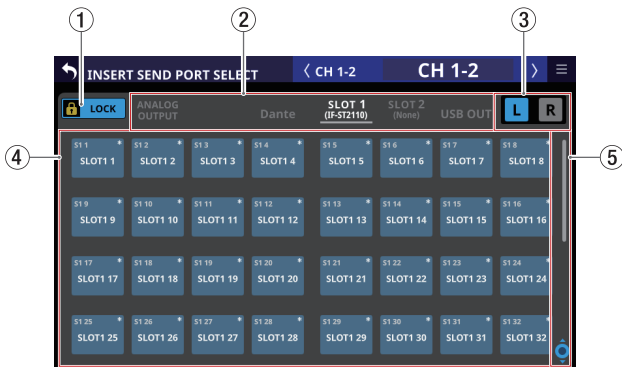
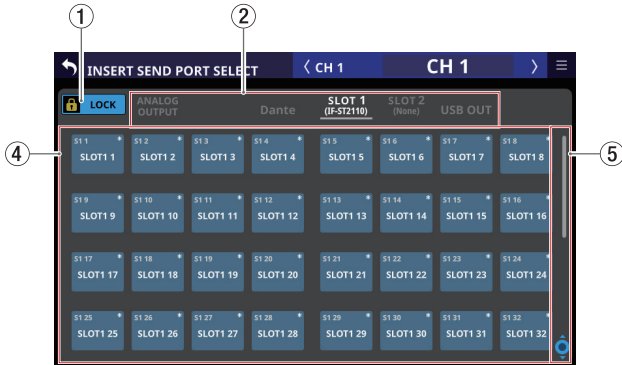
⑤ スクロールノブ / スクロールバー表示

選択可能な選択肢が画面内に表示しきれない場合に表示します。表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、出力ポート選択ボタン (④) エリアを上下にスワイプする、またはLCDノブ8を回して画面をスクロールすることもできます。

INSERT SEND PORT SELECT画面

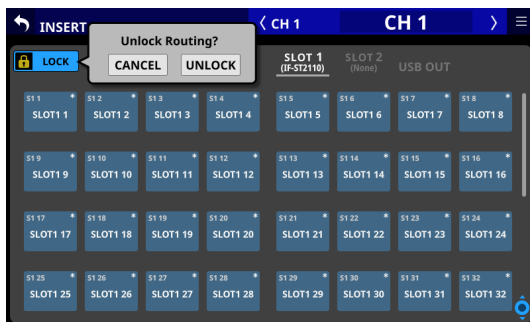
この画面では、CH1-40 モジュール、MIX1-22 モジュールおよび MAIN L/R マスターモジュールの INSERT SEND信号の出力ポート設定を行います。

この画面は、これらのモジュールの MODULE (OVERVIEW) 画面の SEND ボタンをタップして表示します。(→ 144 ページ「インサート入出力ルーティング」)



① LOCK / UNLOCK切り換えボタン

- 本機のルーティング設定変更操作のロック／アンロックを切り換えるボタンです。起動時は、必ずロック状態になっています。
- 「LOCK」時は、出力ポート選択ボタン（④）をタップしても設定を変更しません。
- 「LOCK」時にこのボタンをタップすると、確認メッセージが表示されます。確認メッセージで UNLOCK ボタンをタップすると、メッセージを閉じて「UNLOCK」に切り換わります。確認メッセージで CANCEL ボタンをタップすると、メッセージを閉じて LOCK 状態を維持します。



- 「UNLOCK」時にこのボタンをタップすると、「LOCK」に切り換わります。

メモ

LOCK / UNLOCK切り換えボタン（①）の設定は、下記ルーティング設定画面で共通の設定です。

- MODULE (INPUT) 画面
- MODULE (OUTPUT) 画面
- INPUT SOURCE SELECT画面
- OUTPUT PORT SELECT画面
- DIRECT OUT PORT SELECT画面
- INSERT SEND PORT SELECT画面
- INSERT RETURN PORT SELECT画面
- TALKBACK INPUT SELECT画面
- TALKBACK EXT1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- TALKBACK EXT2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- Return TALKBACK EXT DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 OUTPUT PORT SELECT画面
- Solo DIRECT OUT PORT SELECT画面
- ルーティング画面

② 出力ポート群ページ切り換え表示

- 出力ポート群のページ名を表示します。
- ページ名をタップすると、ページ名に該当する出力ポート群のページに切り換えます。選択したページ名がハイライト表示になります。選択中の出力ポートがあるページ名に「*」が付きます。

ページ名	内容
ANALOG OUTPUT	アナログ出力ポートを選択します。
Dante	内蔵 Dante の出力ポートを選択します。
SLOT 1	SLOT 1 に装着中の拡張カードの出力ポートを選択します。
SLOT 2	SLOT 2 に装着中の拡張カードの出力ポートを選択します。
USB OUT	USB Audio I/F の出力ポートを選択します。

③ L / R選択ボタン

ステレオモジュールの L/R チャンネルのどちらの出力ポートを設定するかを選択します。


このボタンをタップすると、L / R を切り換えます。選択したボタンがハイライト表示になります。

第5章 ルーティング

④ 出力ポート選択ボタン

- LOCK / UNLOCK切り換えボタン (①) が「UNLOCK」のときにこのボタンをタップして、出力ポートを選択します。選択したボタンが水色でハイライト表示になります。使用できないボタンはグレイアウト表示になります。使用できないボタンを選択すると暗い青色で表示されます。1行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。2行目には、USER PORT LABELを表示します。USER PORT LABELが未定義の場合はFIXED PORT LABELを表示します。
- ステレオモジュールの場合は、Lチャンネル用に選択したボタン左下に「L」、Rチャンネル用に選択したボタン右下に「R」と表示します。
- マウント済みSB-16Dがアサインされた Dante ポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 1行目：DAポート番号
 - 2行目：SB #[ID] ポート番号
 - 3行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」



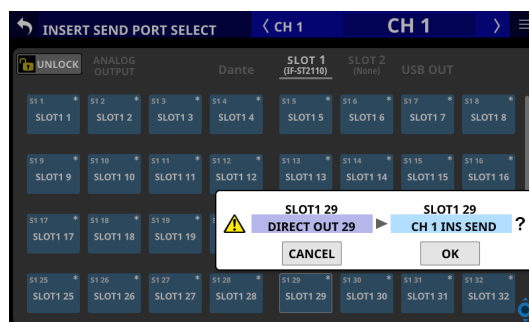
また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、マークを表示します。



- バーチャルマウントされたSB-16Dの Dante ポートの場合は、アサインしたボタンが黄色でハイライト表示になります。



- すでに他のモジュールがアサインされているボタンには「*」が付き、くすんだ青で表示されます。このボタンをタップすると、設定確認のウィンドウが表示されます。OKボタンをタップすると、設定を変更してウィンドウを閉じます。CANCELボタンをタップすると、設定を変更しないでウィンドウを閉じます。



メモ

1つのモジュールの信号を複数の出力ポートにアサインすることもできます。

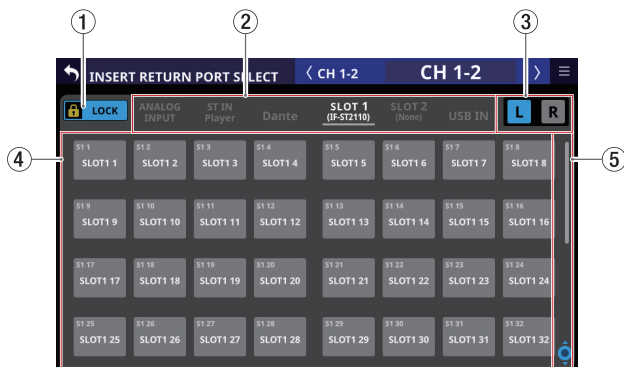
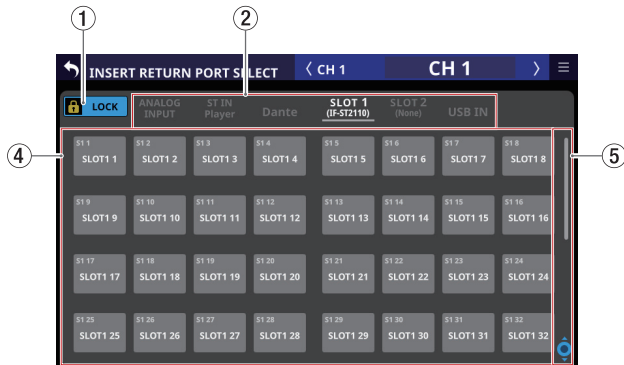
⑤ スクロールノブ / スクロールバー表示

選択可能な選択肢が画面内に表示しきれない場合に表示します。表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、出力ポート選択ボタン (④) エリアを上下にスワイプする、またはLCDノブ8を回して画面をスクロールすることもできます。

INSERT RETURN PORT SELECT画面

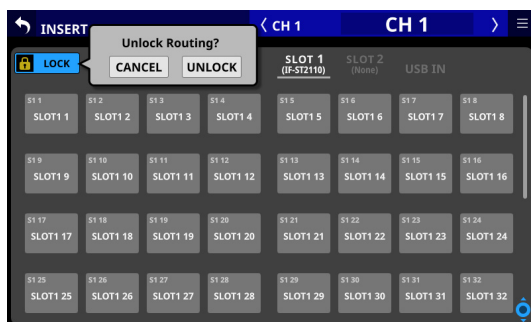
この画面では、CH1-40 モジュール、MIX1-22 モジュールおよび MAIN L/R マスターモジュールの INSERT RETURN信号の入力ポート設定を行います。

この画面は、これらのモジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面の RETURN ボタンをタップして表示します。(→ 144 ページ「インサート入出力ルーティング」)



① LOCK / UNLOCK切り換えボタン

- 本機のルーティング設定変更操作のロック／アンロックを切り換えるボタンです。起動時は、必ずロック状態になっています。
- 「LOCK」時は、入力ソース選択ボタン（④）をタップしても設定を変更しません。
- 「LOCK」時にこのボタンをタップすると、確認メッセージが表示されます。確認メッセージで UNLOCK ボタンをタップすると、メッセージを閉じて「UNLOCK」に切り換わります。確認メッセージで CANCEL ボタンをタップすると、メッセージを閉じて LOCK 状態を維持します。



- 「UNLOCK」時にこのボタンをタップすると、「LOCK」に切り換わります。

メモ

LOCK / UNLOCK切り換えボタン（①）の設定は、下記ルーティング設定画面で共通の設定です。

- MODULE (INPUT) 画面
- MODULE (OUTPUT) 画面
- INPUT SOURCE SELECT画面
- OUTPUT PORT SELECT画面
- DIRECT OUT PORT SELECT画面
- INSERT SEND PORT SELECT画面
- INSERT RETURN PORT SELECT画面
- TALKBACK INPUT SELECT画面
- TALKBACK EXT1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- TALKBACK EXT2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- Return TALKBACK EXT DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 OUTPUT PORT SELECT画面
- Solo DIRECT OUT PORT SELECT画面
- ルーティング画面

② 入力ソース群ページ切り換え表示

- 入力ソース群のページ名を表示します。
- ページ名をタップすると、ページ名に該当する入力ソース群のページに切り換えます。選択したページ名がハイライト表示になります。選択中の入力ソースがあるページ名に「*」が付きます。

ページ名	内容
ANALOG INPUT	アナログ MIC/LINE入力端子を選択します。
ST IN Player	2 組の ST IN 端子および内蔵メモリープレイヤーを選択します。
Dante	内蔵 Dante の入力を選択します。
SLOT 1	SLOT 1 に装着中の拡張カードの入力ポートを選択します。
SLOT 2	SLOT 2 に装着中の拡張カードの入力ポートを選択します。
USB IN	USB Audio I/F 入力を選択します。

③ L / R 選択ボタン

ステレオモジュールの L/R チャンネルのどちらの入力ポートを設定するかを選択します。


このボタンをタップすると、L / R を切り換えます。選択したボタンがハイライト表示になります。

第5章 ルーティング

④ 入力ソース選択ボタン

- LOCK / UNLOCK切り換えボタン (①) が「UNLOCK」のときにこのボタンをタップして、入力ソースを選択します。選択したボタンが水色でハイライト表示になります。使用できないボタンは、グレイアウト表示になります。使用できないボタンを選択すると暗い青色で表示されます。1行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。2行目には、USER PORT LABELを表示します。USER PORT LABELが未定義の場合はFIXED PORT LABELを表示します。
- ステレオモジュールの場合は、Lチャンネル用に選択したボタン左下に「L」、Rチャンネル用に選択したボタン右下に「R」と表示します。
- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 1行目：DAポート番号
 - 2行目：SB#[ID]ポート番号
 - 3行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB#[ID]ポート番号」



また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、マークを表示します。



- バーチャルマウントされたSB-16DのDanteポートの場合は、アサインしたボタンが黄色でハイライト表示になります。



- Analog GAINの設定を持つ下記の入力ポートを選択すると、選択した入力ポートの対応パラメーターが自動でラインレベルの基準設定値である下記設定になります。

入力ポート

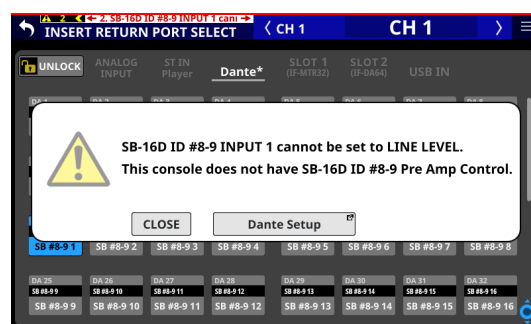
- ANALOG INPUT
- SB-16Dをルーティングした内蔵Danteポート
- SB-16DをルーティングしたIF-DA64装着SLOTのポート

自動で変更されるパラメーター

- PAD : ON
- Analog GAIN : 0
- Phantom : OFF

メモ

SB-16Dの入力ポートを選択した際に該当するSB-16Dの制御権を本機が取得していない場合、上記パラメーターが変更できず、下記メッセージが右端のタッチスクリーンに表示されます。



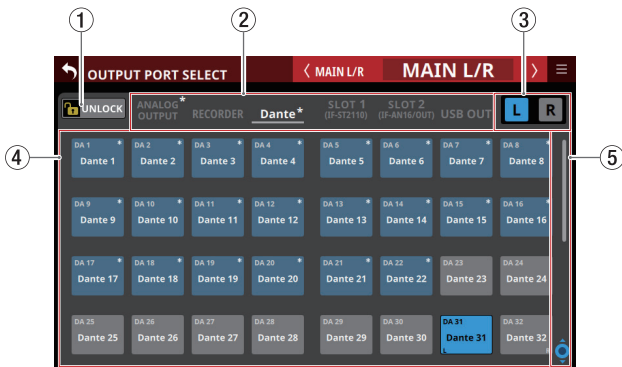
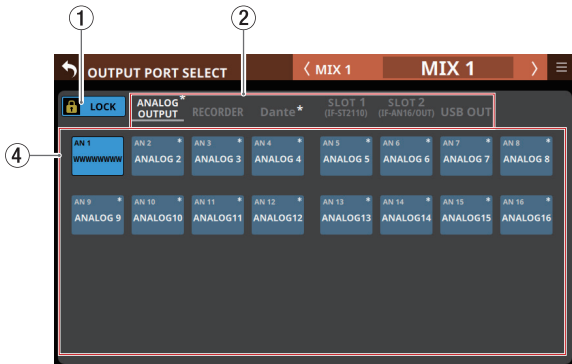
⑤ スクロールノブ／スクロールバー表示

選択可能な選択肢が画面内に表示しきれない場合に表示します。表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、入力ソース選択ボタン (④) エリアを上下にスワイプする、またはLCDノブ8を回して画面をスクロールすることもできます。

OUTPUT PORT SELECT画面

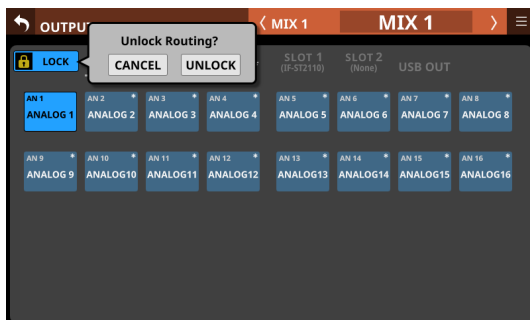
この画面では、MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/Rマスターモジュールの出力ポート設定を行います。

この画面は、これらのモジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面のOUTPUTボタン、またはMODULE (OUTPUT) 画面のOthersボタンをタップして表示します。(→ 146 ページ「出力ルーティング」)



① LOCK / UNLOCK切り換えボタン

- 本機のルーティング設定変更操作のロック／アンロックを切り換えるボタンです。起動時は、必ずロック状態になっています。
- 「LOCK」時は、出力ポート選択ボタン（④）をタップしても設定を変更しません。
- 「LOCK」時にこのボタンをタップすると、確認メッセージが表示されます。確認メッセージでUNLOCKボタンをタップすると、メッセージを閉じて「UNLOCK」に切り換わります。確認メッセージでCANCELボタンをタップすると、メッセージを閉じてLOCK状態を維持します。



- 「UNLOCK」時にこのボタンをタップすると、「LOCK」に切り換わります。

メモ

LOCK / UNLOCK切り換えボタン（①）の設定は、下記ルーティング設定画面で共通の設定です。

- MODULE (INPUT) 画面
- MODULE (OUTPUT) 画面
- INPUT SOURCE SELECT画面
- OUTPUT PORT SELECT画面
- DIRECT OUT PORT SELECT画面
- INSERT SEND PORT SELECT画面
- INSERT RETURN PORT SELECT画面
- TALKBACK INPUT SELECT画面
- TALKBACK EXT1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- TALKBACK EXT2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- Return TALKBACK EXT DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 OUTPUT PORT SELECT画面
- Solo DIRECT OUT PORT SELECT画面
- ルーティング画面

② 出力ポート群ページ切り換え表示

- 出力ポート群のページ名を表示します。
- ページ名をタップすると、ページ名に該当する出力ポート群のページに切り換えます。選択したページ名がハイライト表示になります。選択中の出力ポートがあるページ名に「*」が付きます。

ページ名	内容
ANALOG OUTPUT	アナログ出力ポートを選択します。
RECORDER	内蔵RECORDERへの出力を選択します。
Dante	内蔵Danteの出力ポートを選択します。
SLOT 1	SLOT 1に装着中の拡張カードの出力ポートを選択します。
SLOT 2	SLOT 2に装着中の拡張カードの出力ポートを選択します。
USB OUT	USB Audio I/Fの出力ポートを選択します。

③ L / R選択ボタン


ステレオモジュールのL/Rチャンネルのどちらの出力ポートを設定するかを選択します。このボタンをタップすると、L / Rを切り換えます。選択したボタンがハイライト表示になります。

第5章 ルーティング

④ 出力ポート選択ボタン

- LOCK / UNLOCK切り換えボタン (①) が「UNLOCK」のときにこのボタンをタップして、出力ポートを選択します。選択したボタンが水色でハイライト表示になります。使用できないボタンはグレイアウト表示になります。使用できないボタンを選択すると暗い青色で表示されます。1行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。2行目には、USER PORT LABELを表示します。USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- ステレオモジュールの場合は、Lチャンネル用に選択したボタン左下に「L」、Rチャンネル用に選択したボタン右下に「R」と表示します。
- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 1行目：DAポート番号
 - 2行目：SB#[ID]ポート番号
 - 3行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB#[ID]ポート番号」



また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、マークを表示します。



- バーチャルマウントされたSB-16DのDanteポートの場合は、アサインしたボタンが黄色でハイライト表示になります。



- すでに他のモジュールがアサインされているボタンには「*」が付き、くすんだ青で表示されます。このボタンをタップすると、設定確認のウィンドウが表示されます。OKボタンをタップすると、設定を変更してウィンドウを閉じます。CANCELボタンをタップすると、設定を変更しないでウィンドウを閉じます。



メモ

1つのモジュールの信号を複数の出力ポートにアサインすることもできます。

⑤ スクロールノブ／スクロールバー表示

選択可能な選択肢が画面内に表示しきれない場合に表示します。表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、出力ポート選択ボタン (④) エリアを上下にスワイプする、またはLCDノブ8を回して画面をスクロールすることもできます。

ルーティング画面

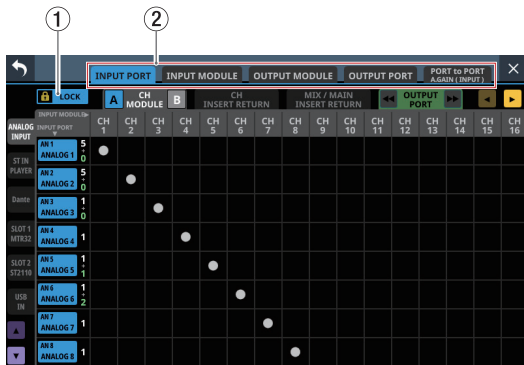
この画面では、入出力端子またはモジュールのルーティング設定を行うことができます。

この画面は、以下の手順で表示します。

- メニュー画面 > Mixer Setup メニュー > 「Routing」 のタブ
- MODULE (INPUT) 画面の ROUTING ボタンをタップ
- MODULE (OUTPUT) 画面の ROUTING ボタンをタップ

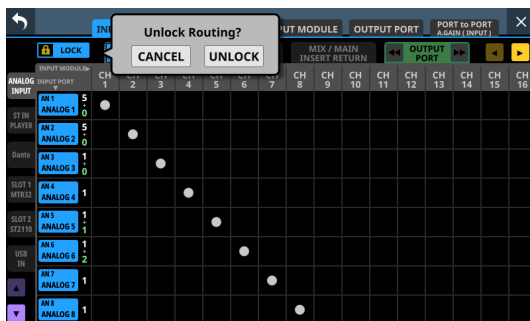
ルーティング画面の構成

ルーティング画面の上部に各タブ画面を選択するボタンがあります。



① LOCK / UNLOCK切り換えボタン

本機のルーティング設定変更操作のロック／アンロックを切り換えるボタンです。起動時は、必ずロック状態になっています。(→ 141 ページ「① LOCK / UNLOCK切り換えボタン」)



メモ

LOCK / UNLOCK切り換えボタン (①) の設定は、下記ルーティング設定画面で共通の設定です。

- MODULE (INPUT) 画面
- MODULE (OUTPUT) 画面
- INPUT SOURCE SELECT画面
- OUTPUT PORT SELECT画面
- DIRECT OUT PORT SELECT画面
- INSERT SEND PORT SELECT画面
- INSERT RETURN PORT SELECT画面
- TALKBACK INPUT SELECT画面
- TALKBACK EXT1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- TALKBACK EXT2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- Return TALKBACK EXT DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 DIRECT OUT PORT SELECT画面

- MONITOR 2 OUTPUT PORT SELECT画面
- Solo DIRECT OUT PORT SELECT画面
- ルーティング画面

② タブ画面選択ボタン

このボタンをタップして、ルーティング設定を行いたい入出力端子／モジュールを表示する画面を切り換えます。

選択したボタンがハイライト表示になります。

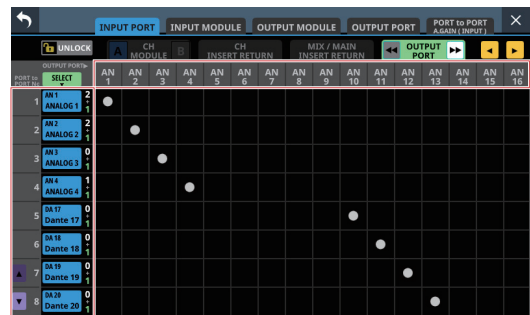
タブボタン	内容
INPUT PORT	入力端子のルーティング設定
INPUT MODULE	入力モジュール視点でのルーティング設定
OUTPUT MODULE	出力モジュールのルーティング設定
OUTPUT PORT	出力端子視点でのルーティング設定
PORT to PORT A.GAIN (INPUT)	PORT to PORT機能にアサインされた入力ポートのAnalog GAINの設定 (→ 166 ページ「PORT to PORT A.GAIN (INPUT) タブ画面」)

PORT to PORTについて

INPUT PORTとOUTPUT PORTをダイレクトに接続する設定のことをPORT to PORTと呼びます。

PORT to PORTは、24ch設定できます。

1. ルーティング画面のタブ画面選択ボタン (②) で「INPUT PORT」を選択します。
2. INPUT PORTタブ画面のINPUT MODULE選択ボタン (③) で「OUTPUT PORT」を選択して設定します。
3. SELECTボタン (⑤) がハイライト表示中に入力ポートを設定し、INPUT PORTルーティング設定エリア (④) 出力ポートを設定します。



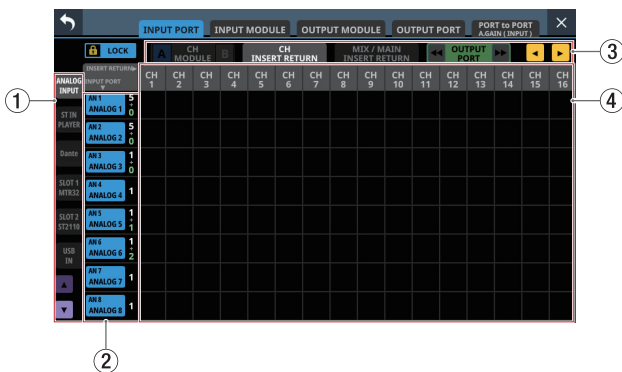
第5章 ルーティング

INPUT PORT タブ 画面

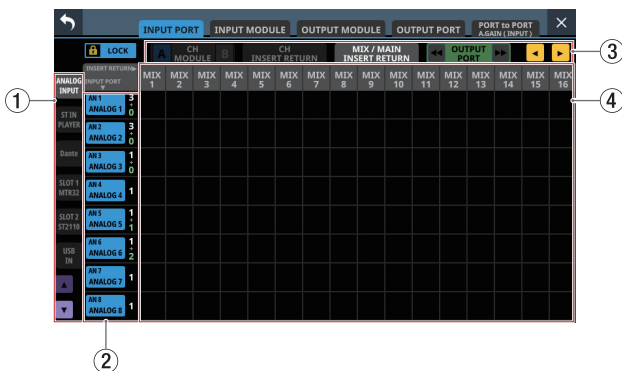
「INPUT PORTがどこにアサインされているか」というINPUT PORT視点でルーティング表示/設定を行う画面です。



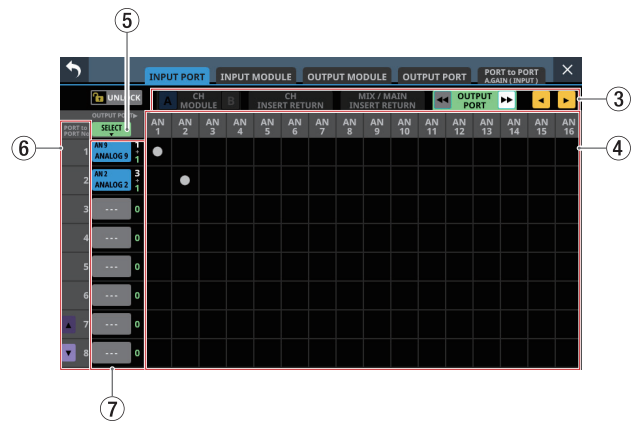
[CH MODULE ルーティング画面]



[CH INSERT RETURN ルーティング画面]



[MIX/MAIN INSERT RETURN ルーティング画面]



[PORT to PORT ルーティング画面]

① 入力ソース群ページ選択ボタン

- ルーティング対象の入力ソースの種類を選択するタブです。
- / ボタンをタップする、またはLCDノブ1を回して4行ずつスクロールすることもできます。

② INPUT PORT表示

- 入力ポートの情報を表示します。
1行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
2行目には、USER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- 右側の数字は、対象入力ポートがアサインされているモジュール数(白文字)とPORT to PORT機能にアサインされた出力ポート数(黄緑色文字)を表示しています。
- ここをタップすると、タップしたINPUT PORTをアサインしているモジュールが表示される位置にINPUT PORTルーティング設定エリア(④)をスクロールします。

③ INPUT MODULE選択ボタン

- ルーティング対象の入力ソースのアサイン先の種類を選択するタブです。
- CH MODULEタブの / ボタンをタップして、INPUT A / INPUT Bどちらの設定を表示するかを選択します。
- OUTPUT PORTタブの / ボタンをタップすると、出力ポートの種類を切り換えることができます。
このタブでは、PORT to PORT機能のルーティングを設定することができます。
- / ボタンをタップする、またはLCDノブ1を回して8列ずつスクロールすることもできます。

④ INPUT PORT ルーティング設定エリア



INPUT PORTから出力ポートへのルーティングを設定します。

- INPUT PORTと出力ポートの交点をタップすることで、入力ルーティングを変更することができます。
- INPUT PORTと出力ポートの交点に アイコンが表示されます。また、 アイコンをタップすることで入力ルーティングが解除されます。

⑤ SELECT ボタン

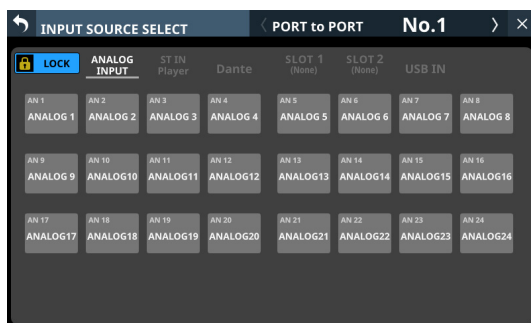
- PORT to PORTの入力ソースボタン (⑦) をタップした時の動作モードを切り換えます。
- このボタンがハイライト表示のときにPORT to PORTの入力ソースボタン (⑦) をタップすると、対象項目の入力ポートの設定ができます。


⑥ PORT to PORT No表示

- 24chあるPORT to PORT機能の番号を表示しています。
-  /  ボタンをタップする、またはLCDノブ1を回して4行ずつスクロールすることもできます。

⑦ PORT to PORTの入力ソースボタン

- PORT to PORT機能にアサインされた入力ソース名を表示します。
1行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
2行目には、USER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- 右側の数字は、対象入力ポートがアサインされている出力ポート数を表示しています。
- SELECTボタン (⑤) がグレースアウト表示中にこのボタンをタップすると、タップしたINPUT PORTをアサインしているモジュールが表示される位置にINPUT PORTルーティング設定エリア (④) をスクロールします。
- SELECTボタン (⑤) がハイライト表示中にこのボタンをタップすることで、タップした入力ポートがあるINPUT SOURCE SELECT画面に切り換えます。(→ 149 ページ「INPUT SOURCE SELECT画面」)

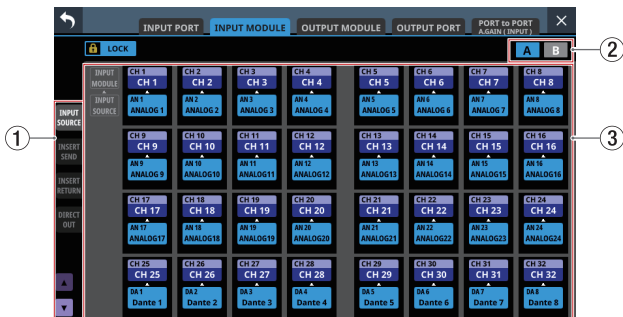


- 入力ソースがアサインされていない場合は、ブランク表示 () になります。

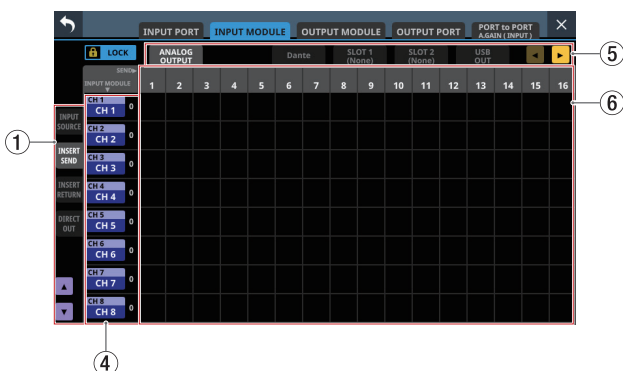
第5章 ルーティング

INPUT MODULE タブ 画面

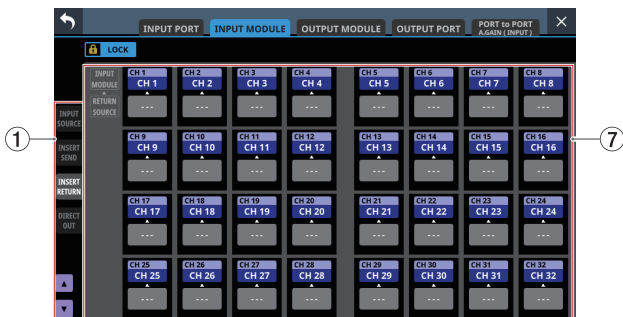
「INPUT MODULEにアサインされているポートは何か」というINPUT MODULE視点でルーティング表示／設定を行う画面です。



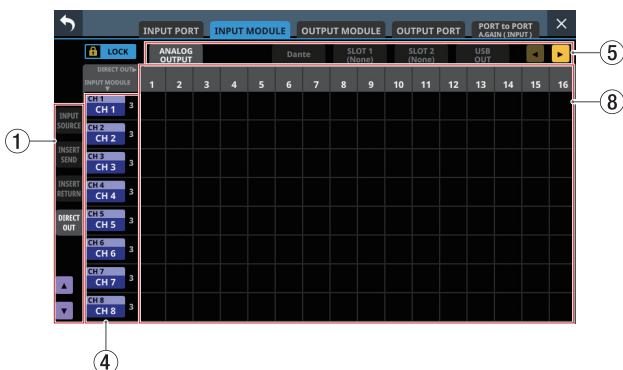
[INPUT SOURCE ルーティング画面]



[INSERT SEND ルーティング画面]



[INSERT RETURN ルーティング画面]



[DIRECT OUT ルーティング画面]

① ルーティング対象切り換えボタン

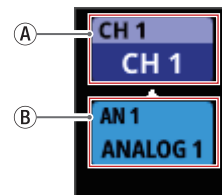
- INPUT MODULEのルーティング対象の種類を選択するタブです。
- ▲ / ▼ ボタンをタップする、またはLCDノブ1を回してスクロールすることもできます。

② A / B ボタン

このボタンをタップして、INPUT A / INPUT Bどちらの設定を表示するかを選択します。(初期値: A)

③ INPUT SOURCE表示エリア

INPUT SOURCEからINPUT MODULEにアサインされた入力ポートを表示します。



- ① このボタンをタップすると、タップしたモジュールのMODULE (INPUT) 画面に切り換わります。(→ 186 ページ「MODULE (INPUT) 画面」)
- ② このボタンをタップすると、対応するモジュールのINPUT SOURCE SELECT画面に切り換わります。(→ 149 ページ「INPUT SOURCE SELECT画面」)

④ INPUT MODULE表示

- ルーティング対象のINPUT MODULE名を表示します。
1行目には、MODULE SUB LABELを表示します。
2行目には、MODULE MAIN LABELを表示します。
- 右側の数字は、対象項目をアサインしている出力ポート数を表示しています。
- ここをタップすると、タップしたINPUT MODULEをアサインしている出力ポートが表示される位置にINSERT SENDルーティング設定エリア(⑥)やDIRECT OUTルーティング設定エリア(⑧)をスクロールします。

⑤ 出力ポート群ページ切り換えボタン

- 出力ポート群のページ名を表示します。
- ページ名のボタンをタップすると、ページ名に該当する出力ポート群のページに切り換えます。選択したページ名がハイライト表示になります。
- ▲ / ▼ ボタンをタップする、またはLCDノブ8を回してスクロールすることもできます。

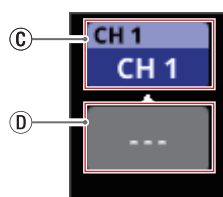
⑥ INSERT SENDルーティング設定エリア

INPUT MODULEのINSERT SENDから出力ポートへのルーティングを表示／設定します。

- INPUT MODULEと出力ポートの交点をタップすることで、INSERT SENDルーティングを変更することができます。
- INPUT MODULEと出力ポートの交点に ■ アイコンが表示されます。また、■ アイコンをタップすることで、INSERT SENDルーティングが解除されます。

⑦ INSERT RETURN表示エリア

入力ポートからINPUT MODULEのINSERT RETURNにアサインされた入力ポートを表示します。





⑥ このボタンをタップすると、タップしたモジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面に切り換わります。(→ 170 ページ「CH1-40 モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面」)

⑩ このボタンをタップすると、対応するモジュールのINSERT RETURN PORT SELECT画面に切り換わります。(→ 155 ページ「INSERT RETURN PORT SELECT画面」)

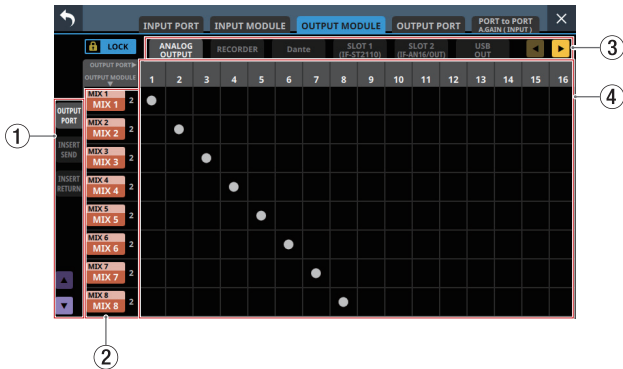
⑧ DIRECT OUTルーティング設定エリア

INPUT MODULEのDIRECT OUTから出力ポートへのルーティングを表示／設定します。

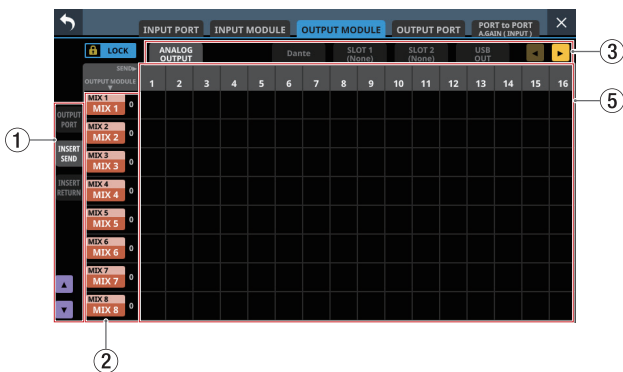
- INPUT MODULEと出力ポートの交点をタップすることで、DIRECT OUTルーティングを変更することができます。
- INPUT MODULEと出力ポートの交点に  アイコンが表示されます。また、 アイコンをタップすることで、DIRECT OUTルーティングが解除されます。

OUTPUT MODULE タブ画面

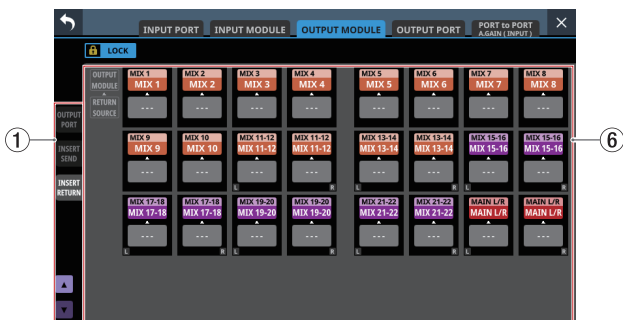
「OUTPUT MODULEがアサインされているポートは何か」という OUTPUT MODULE視点でルーティング表示/設定を行う画面です。



[OUTPUT PORT ルーティング画面]



[INSERT SEND ルーティング画面]



[INSERT RETURN ルーティング画面]

① ルーティング対象切り換えボタン

- OUTPUT MODULEのルーティング対象の種類を選択するタブです。
- / ボタンをタップする、またはLCD ノブ 1 を回してスクロールすることもできます。

② OUTPUT MODULE表示

- ルーティング対象の OUTPUT MODULE名を表示します。
1 行目には、MODULE SUB LABELを表示します。
2 行目には、MODULE MAIN LABELを表示します。
- 右側の数字は、対象モジュールをアサインしている出力ポート数を表示しています。
- ここをタップすると、タップした OUTPUT MODULEをアサインしている出力ポートが表示される位置に OUTPUT PORT や INSERT SENDのルーティング設定エリア (④) をスクロールします。

③ 出力ポート群ページ切り換えボタン

- 出力ポート群のページ名を表示します。
- ページ名のボタンをタップすると、ページ名に該当する出力ポート群のページに切り換わります。
- / ボタンをタップする、またはLCD ノブ 8 を回してスクロールすることもできます。

④ OUTPUT PORT ルーティング設定エリア

OUTPUT MODULEから OUTPUT PORTへのルーティングを設定します。

- OUTPUT MODULEと OUTPUT PORTの交点をタップすることで、入力ルーティングを変更することができます。
- OUTPUT MODULEと OUTPUT PORTの交点に アイコンが表示されます。また、 アイコンをタップすることで入力ルーティングが解除されます。

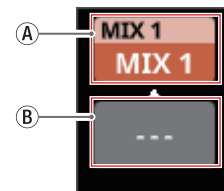
⑤ INSERT SEND ルーティング設定エリア

OUTPUT MODULEの INSERT SENDから出力ポートへのルーティングを表示/設定します。

- OUTPUT MODULEと出力ポートの交点をタップすることで、INSERT SEND ルーティングを変更することができます。
- OUTPUT MODULEと出力ポートの交点に アイコンが表示されます。また、 アイコンをタップすることで、INSERT SEND ルーティングが解除されます。

⑥ INSERT RETURN表示エリア

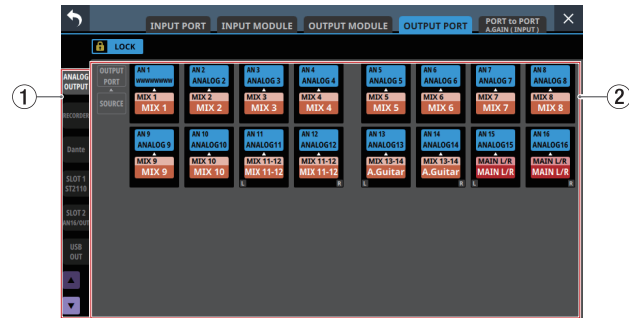
入力ポートから OUTPUT MODULEの INSERT RETURNにアサインされた入力ポートを表示します。



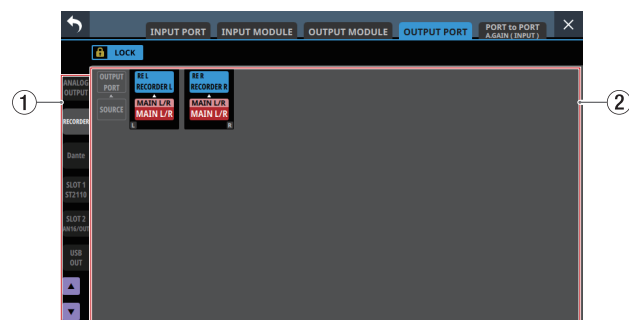
- ① このボタンをタップすると、タップしたモジュールの MODULE (OVERVIEW) 画面に切り換わります。(→ 182 ページ「MIX1-22 モジュール/MAIN L/R マスターモジュールの MODULE (OVERVIEW) 画面」)
- ② このボタンをタップすると、対応するモジュールの INSERT RETURN PORT SELECT画面に切り換わります。(→ 155 ページ「INSERT RETURN PORT SELECT画面」)

OUTPUT PORT タブ 画面

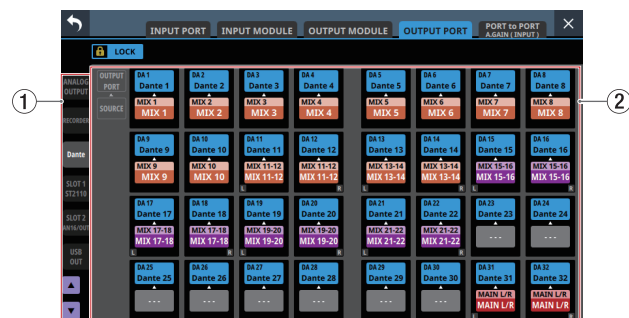
「OUTPUT PORTがどこにアサインされているか」というOUTPUT PORT視点でルーティング表示/設定を行う画面です。



[ANALOG OUTPUT ポートルーティング画面]



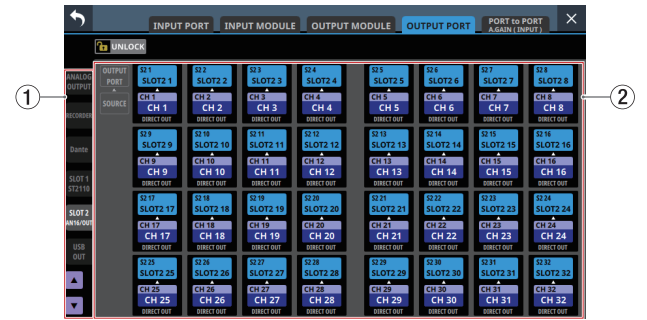
[RECORDER ポートルーティング画面]



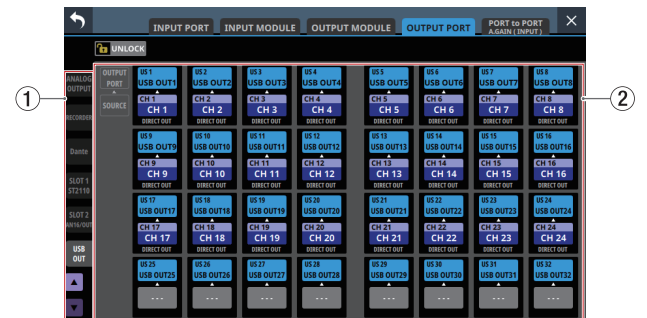
[Dante ポートルーティング画面]



[SLOT1 ポートルーティング画面]



[SLOT2 ポートルーティング画面]



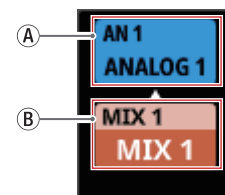
[USB OUT ポートルーティング画面]

① 出力ポート群ページ切り換えボタン

- 出力ポート群のページ名を表示します。
- ページ名のボタンをタップすると、ページ名に該当する出力ポート群のページに切り換わります。
- ▲ / ▼ ボタンをタップする、またはLCD ノブ 1 を回してスクロールすることもできます。

② 出力ポート表示エリア

出力ソースから OUTPUT PORT にアサインされた出力ソースを表示します。



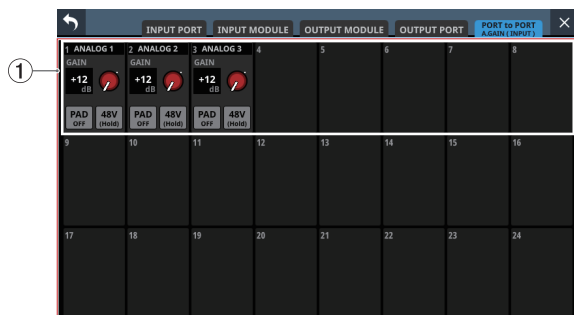
① このボタンをタップすると、対応するモジュールの OUTPUT PORT SELECT 画面に切り換わります。(→ 157 ページ「OUTPUT PORT SELECT 画面」)

② このボタンをタップすると、タップしたモジュールの MODULE (OUTPUT) 画面に切り換わります。(→ 207 ページ「MODULE (OUTPUT) 画面」)

PORT to PORT A.GAIN (INPUT) タブ画面

24chあるPORT to PORT機能（入力端子に入れた音声信号をモジュールなどを經由せずに出力端子から出力する機能）にアサインされた下記の入力ポートのAnalog GAINを表示／設定する画面です。

- 内蔵Analog入力端子
- 内蔵 Dante経由で接続されたSB-16Dのアナログ入力端子



① 入力設定表示部

- 入力ポートの名前／Analog GAINノブ／PADボタン／48Vボタンの操作を行います。
 - 選択枠で選択中のAnalog GAINを、赤く点灯したLCDノブ1～8を使って調節します。
 - PADボタンをタップすると、20dBのパッドのオン／オフが切り換わります。このボタンがオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
 - 48Vボタンを押し続けると、ファンタム電源のオン／オフが切り換わります。ファンタム電源がオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- Analog GAINノブ／PADボタン／48Vボタンは、バーチャルマウントされたSB-16Dの入力端子の場合も操作できます。
- 入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合、ノブやボタンが黒く表示されて操作できません。
- Analog GAINやPADの詳細については、171 ページ「⑫ PADボタン」または 172 ページ「⑬ Analog GAINノブ」をご参照ください。

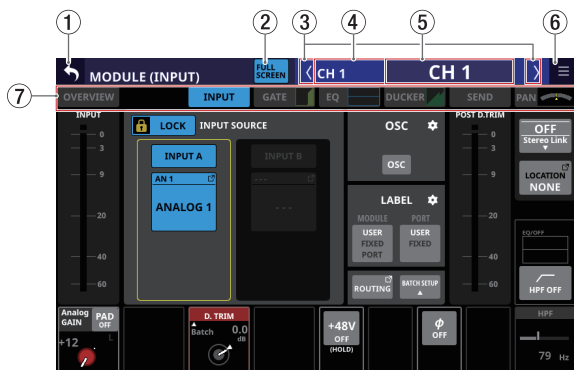
第6章 モジュール

MODULE画面

選択したモジュールの設定を行う画面です。
MODULE画面は、ホーム画面の各エリアのタップ、またはトップパネルのSELキーを押して表示します。

MODULE画面の構成

MODULE画面の上部に各画面を選択するボタンがあります。



[CH1-40 モジュール・MODULE (INPUT) 画面]



[MIX1-22 モジュール・MODULE (EQ) 画面]

メモ

- 選択したモジュールがステレオモジュールのとき、レベルメーターはステレオ表示になります。
- 各レベルメーターの最上部は、オーバーロードインジケータです。信号レベルが -0.00026dBFS (16bitフルスケール値) 以上のときに赤くハイライト表示します。
- レベルのオーバーロードが発生すると、バーメーター全体が赤くなります。
- レベルメーター下端の -60dBFS 以下のエリアは、 -70dBFS 以上で点灯します。

① 戻るボタン

このボタンをタップすると、ホーム画面に戻ります。

② FULL SCREEN ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールのMODULE画面をすべてのタッチスクリーンに表示する全画面モードのオン／オフを切り換えます。オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。



全画面モードにすることで、例えば「EQとCOMP」「GATEとEQとCOMP」などを同時にすべてのタッチスクリーンに表示して調節することが簡単にできるようになります。
このボタンをオフにすると、オフ操作をしたタッチスクリーン以外の画面がホーム画面に戻ります。

メモ

GEQのFADER Ctrl機能がオンのとき、全画面モードは「オン」に固定され、オフにできません。

③ 切り替えボタン

このボタンをタップすると、表示／操作対象のモジュールを、各レイヤーのモジュールの並び順にしたがって左右に移動します。

この際、FULL SCREENボタンがオフの場合は、表示中のタブ画面を持つモジュール内でのみ移動します。例えば、COMPタブ画面で左右に移動する際は、COMPタブ画面のあるCH1-40 / MIX1-22 / MAIN L/R マスターモジュールの間だけで移動します。

FULL SCREENボタンがオンの場合は、移動後のタブ画面は以下のようになります。

- 移動後のモジュールが同カテゴリーモジュールの場合は、選択タブ画面を維持します。
- 切り換え後のモジュールが別カテゴリーモジュールの場合は、そのカテゴリーで前回表示したタブ画面の組み合わせを表示します。

④ FIXED MODULE LABEL表示

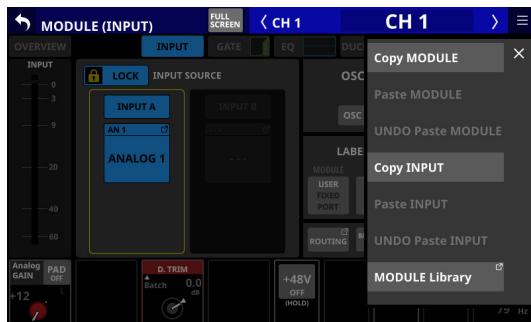
FIXED MODULE LABELを表示します。

⑤ USER MODULE LABEL表示

- MODULE LABEL Mainで設定されたMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- MODULE LABEL Mainの表示モードが「PORT LABEL」に設定されている場合、入出力ポートがアサインされないFX RTN 1-4 モジュールは、MODULE LABEL Mainの表示モードが「USER」に設定されているときのMODULE LABELを表示します。
- MODULE LABEL Mainの表示モードが「USER」に設定されている場合(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)にこの部分をタップすると、USER MODULE LABELおよびモジュール設定色を変更するMODULE LABEL画面に切り換わります。(→ 229 ページ「MODULE LABEL画面」)
- MODULE LABEL Mainの表示モードが「PORT LABEL」、かつPORT LABELの表示モードが「USER」に設定されている場合(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)にこの部分をタップすると、このモジュールにアサインされた入出力端子のUSER PORT LABELを編集するUSER LABEL (INPUT PORT) 画面、またはUSER LABEL (OUTPUT PORT) 画面に切り換わります。(→ 135 ページ「USER LABEL (INPUT PORT / OUTPUT PORT) 画面」)
ただし、このモジュールに入出力端子がアサインされていない場合には、切り換わりません。

⑥ メニューボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールのMODULEメニューを表示します。



メニュー項目をタップして、選択したモジュールの各パラメーターの設定変更などを行います。(→ 212 ページ「MODULEメニュー」)

⑦ 画面選択ボタン

画面選択ボタンをタップして、表示する画面を切り換えます。選択したボタンがハイライト表示になります。

ボタン	内容
OVERVIEW	選択したモジュール全体の設定を行います。
FX SEND MUTE	FX1-4 への入力をミュートします。
INPUT	選択したモジュールの入力の設定を行います。
FX	選択したモジュールの内蔵エフェクトの設定を行います。
GATE / EXPANDER / DE-ESSER	選択したモジュールのダイナミクスエフェクトの設定を行います。
EQ	選択したモジュールのEQの設定を行います。
GEQ	選択したモジュールのGEQの設定を行います。
COMP / DUCKER	選択したモジュールのダイナミクスエフェクトの設定を行います。
SEND	選択したモジュールから各バスへのSENDの設定を行います。
PAN	選択したモジュールのPANの設定を行います。
OUTPUT	選択したモジュールの出力の設定を行います。

メモ

- INPUTボタンは、CH1-40 モジュールおよびST IN1-2 モジュールにのみ表示されます。
- FX SEND MUTEボタンは、FX RTN1-4 モジュールにのみ表示されます。
- FXボタンは、FX RTN1-4 モジュールにのみ表示されます。
- GATEボタン / EXPANDERボタン / DE-ESSERボタンは、CH1-40 モジュールにのみ表示されます。
- GEQボタンは、MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/R マスターモジュールにのみ表示されます。
- COMPボタン / DUCKERボタンは、CH1-40 モジュール、MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/R マスターモジュールにのみ表示されます。
- OUTPUTボタンは、MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/R マスターモジュールにのみ表示されます。

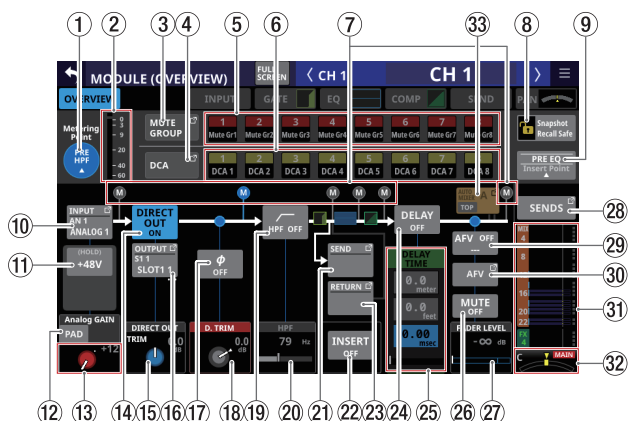
MODULE (OVERVIEW) 画面

すべてのモジュールにあるMODULE (OVERVIEW) 画面では、モジュール全体の設定を行います。

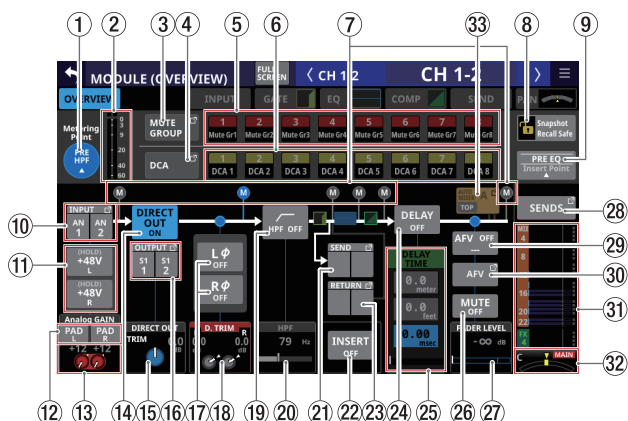
この画面では、左から右に向かう信号処理フローに沿って、各モジュールの各機能の設定を表示します。

この画面は、ホーム画面の各モジュールのMODULE LABELエリアをタップして表示します。

CH1-40 モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面



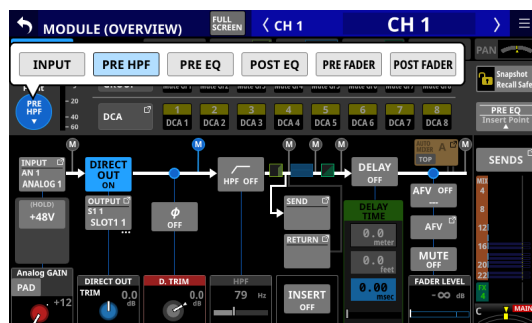
[Stereo Link設定がオフのCH1-40 モジュール表示]



[Stereo Link設定がオンのCH1-40 モジュール表示]

① Metering Point ボタン

- 設定されている Metering Point名を表示します。
- このボタンをタップすると、CH1-40 モジュール 群の Metering Pointを設定するウィンドウを表示します。



選択肢：INPUT、PRE HPF（初期値）、PRE EQ、POST EQ、PRE FADER、POST FADER

選択肢をタップして、レベルメーターの Metering Point を切り換えます。

メモ

METER SETUP画面のMETERING POINTタブ画面を使って、Metering Pointを切り換えることもできます。（→ 46 ページ「METERING POINT タブ画面」）

② レベルメーター

設定されている Metering Pointの信号レベルを表示します。

③ MUTE GROUP ボタン

このボタンをタップすると、DCA/Mute Group SETUP画面の Mute Group Assignタブ画面に切り換わります。（→ 227 ページ「Mute Group Assign タブ画面」）

④ DCA ボタン

このボタンをタップすると、DCA/Mute Group SETUP画面の DCA Assignタブ画面に切り換わります。（→ 226 ページ「DCA Assign タブ画面」）

⑤ MUTE GROUP 1-8 ボタン

このボタンをタップすると、Mute Groupへのアサイン状態を変更します。（初期値：オフ）
アサイン状態のボタンがハイライト表示になります。

⑥ DCA 1-8 ボタン

このボタンをタップすると、DCAへのアサイン状態を変更します。（初期値：オフ）
アサイン状態のボタンがハイライト表示になります。

⑦ Metering Point位置表示

設定されている Metering Pointの位置をハイライト表示します。

⑧ Snapshot Recall Safe ボタン

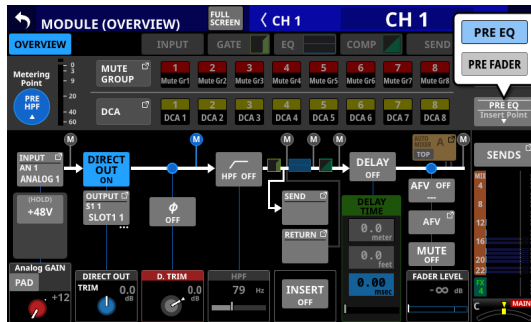
このボタンをタップすると、選択したモジュールのスナップショットリコールセーフ状態を変更します。（初期値：オフ）
オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

SNAPSHOT RECALL SAFE画面のMODULE SAFEタブ画面でも設定することができます。（→ 249 ページ「MODULE SAFE タブ画面」）

⑨ Insert Point表示

- 設定されているインサートポイント名を表示します。
- この部分をタップすると、選択したモジュールのインサートポイントを設定するウィンドウを表示します。



選択肢：PRE EQ（初期値）、PRE FADER

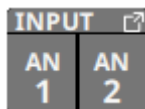
メモ

MIXER CONFIG画面のCH1-40 CONFIGタブ画面のINSERT POINT BATCH SETUP（→ 50 ページ「CH1-40 CONFIGタブ画面」）で、CH1-40 全てのインサートポイントの設定を一括で切り換えることもできます。

⑩ INPUT ボタン

- 入力ソース名を表示します。
2 行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
3 行目には、USER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- ステレオモジュールのとき、以下のような略称で左右に分割して入力ソースのFIXED PORT LABELを表示します。

モジュールの表示	ステレオモジュールの表示
ANALOG	AN
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB IN	USB
ST IN 1	ST1
ST IN 2	ST2
PLAYER	PL



- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 2 行目：DAポート番号
 - 3 行目：#[ID]ポート番号
 - 4 行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB #[ID]ポート番号」



また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、**Y**マークを表示します。



- このボタンをタップすると、INPUT SOURCE SELECT画面に切り換わります。（→ 149 ページ「INPUT SOURCE SELECT画面」）

⑪ +48Vボタン

- 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵 Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、+48Vボタンを表示します。
- +48Vボタンを押し続けると、ファンタム電源のオン／オフが切り換わります。（初期値：オフ）
ファンタム電源がオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- 入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合は、黒いボタンで表示されて操作できません。

⑫ PAD ボタン

- 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵 Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、PADボタンを表示します。
- このボタンをタップすると、-20dBのパッドのオン／オフが切り換わります。（初期値：オフ）
このボタンがオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- 入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合は、黒いボタンで表示されて操作できません。

メモ

パッドのオン／オフの切り換え時、できる限りAnalog GAIN値が変わらないよう、下記のように制御されます。

Analog Reference Level = +6dBu /
Digital Reference Level = -9dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後のAnalog GAIN値
Analog GAIN : +3 ~ +37 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -17 ~ +2 時	+3
PAD OFF/Analog GAIN : +38 ~ +57 時	+37

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -20dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後のAnalog GAIN値
Analog GAIN : +12 ~ +46 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -8 ~ +11 時	+12
PAD OFF/Analog GAIN : +47 ~ +66 時	+46

第6章 モジュール

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -18dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後の Analog GAIN値
Analog GAIN : +10 ~ +44 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -10 ~ +9 時	+10
PAD OFF/Analog GAIN : +45 ~ +64 時	+44

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -16dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後の Analog GAIN値
Analog GAIN : +8 ~ +42 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -12 ~ +7 時	+8
PAD OFF/Analog GAIN : +43 ~ +62 時	+42

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -14dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後の Analog GAIN値
Analog GAIN : +6 ~ +40 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -14 ~ +5 時	+6
PAD OFF/Analog GAIN : +41 ~ +60 時	+40

Analog Reference Level = 0dBu /
Digital Reference Level = -20dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後の Analog GAIN値
Analog GAIN : +8 ~ +42 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -12 ~ +7 時	+8
PAD OFF/Analog GAIN : +43 ~ +62 時	+42

Analog Reference Level = 0dBu時 /
Digital Reference Level = -18dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後の Analog GAIN値
Analog GAIN : +6 ~ +40 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -14 ~ +5 時	+6
PAD OFF/Analog GAIN : +41 ~ +60 時	+40

⑬ Analog GAIN ノブ

- 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、本機またはSB-16DのAnalog GAIN ノブが表示され、MIC/LINE入力端子からの入力レベルを調節します。
LCD ノブ 1（赤色で点灯）を使って調節します。

Analog Reference Level = +6dBu /
Digital Reference Level = -9dBFS時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+3（初期値）～+57
ON	-17～+37

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -20dBFS時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+12（初期値）～+66
ON	-8～+46

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -18dBFS時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+10（初期値）～+64
ON	-10～+44

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -16dBFS時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+8（初期値）～+62
ON	-12～+42

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -14dBFS時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+6（初期値）～+60
ON	-14～+40

Analog Reference Level = 0dBu /
Digital Reference Level = -20dBFS時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+8（初期値）～+62
ON	-12～+42

Analog Reference Level = 0dBu時 /
Digital Reference Level = -18dBFS時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+6（初期値）～+60
ON	-14～+40

- 入力レベルに応じて Analog GAIN ノブの左にあるインジケータが以下の色でハイライト表示になります。
赤：-3dBFS、緑：-40dBFS
- 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」でStereo Link設定がオンのとき、リンクしたチャンネルのAnalog GAIN ノブが2つ並んで表示されます。
LCD ノブ 1（赤色で点灯）を使って2つを連動操作します。
左右別々に操作したい場合は、MODULE (INPUT) 画面でGANG機能を「OFF」にして操作します。
- 入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合、黒いノブで表示されて操作できません。

×モ

Analog GAINの数値について

Analog Reference Level（+6dBu、+4dBu、0dBu）の信号を入力したときに、デジタル段でDigital Reference Level（-9dBFS、-14dBFS、-16dBFS、-18dBFS、-20dBFS）になるAnalog GAIN値を「0」と表示します。

⑭ DIRECT OUT ボタン

このボタンをタップすると、DIRECT OUTのオン／オフが切り換わります。(初期値：ON)
 オンのとき、このボタンとDIRECT OUT TRIM ノブがハイライト表示になり、このポイントの信号をDIRECT OUTに出力します。

メモ

CH1-40 モジュールのDIRECT OUT POINTは、50 ページ「CH1-40 CONFIG タブ 画面」で切り換えることができます。

⑮ DIRECT OUT TRIM ノブ

DIRECT OUT信号の出力レベルを調節します。

設定範囲：-20dB～+20dB（初期値：0dB）

LCD ノブ 2/4/5/7（青色で点灯）を使って調節します。

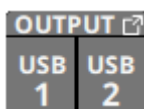
メモ

50 ページ「CH1-40 CONFIG タブ 画面」のDIRECT OUT POINT やDELAY POINTの設定によって、操作に用いるノブの番号が変わります。

⑯ OUTPUT ボタン

- DIRECT OUT信号がアサインされている出力ポート名を表示します。
 2 行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
 3 行目には、USER PORT LABELを表示します。
 USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- 複数の出力ポートがアサインされている場合、ボタン右下に「…」を表示します。
- ステレオモジュールのとき、以下のような略称で左右に分割して出力ポートのFIXED PORT LABELを表示します。

モジュールの表示	ステレオモジュールの表示
ANALOG	AN
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB OUT	USB

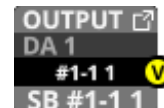


- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、以下のように表示します。

- 2 行目：DA ポート番号
- 3 行目：#[ID] ポート番号
- 4 行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」



また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、 マークを表示します。



- このボタンをタップすると、DIRECT OUT PORT SELECT画面に切り換わります。(→ 151 ページ「DIRECT OUT PORT SELECT画面」)

⑰ フェーズボタン

選択したモジュールの信号の位相（フェーズ）を変更します。
 このボタンをタップすると、選択したモジュールの信号の位相（フェーズ）を反転します。

- 選択したモジュールのStereo Link設定がオフのときのフェーズボタン表示

	正相（ノーマル）
	逆相（リバース）

- 選択したモジュールがステレオモジュールのときのフェーズボタン表示

		正相（ノーマル）
		逆相（リバース）

⑱ D.TRIM ノブ

- デジタルトリム値を調節します。

設定範囲：-50.0dB～+20.0dB（初期値：0.0dB）

LCD ノブ 2/3/4（赤色で点灯）を使って調節します。

- 選択したモジュールのStereo Link設定がオンのとき、リンクしたチャンネルのD.TRIM ノブが2つ並んで表示されます。
 LCD ノブ 2/3/4（赤色で点灯）を使って2つを連動操作します。
 左右別々に操作したい場合は、MODULE (INPUT) 画面でGANG機能を「OFF」にして操作します。

メモ

50 ページ「CH1-40 CONFIG タブ 画面」のDIRECT OUT POINT やDELAY POINTの設定によって、操作に用いるノブの番号が変わります。

第6章 モジュール

⑱ HPFボタン

このボタンをタップすると、HPFのオン／オフが切り換わります。(初期値：OFF)
オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

⑳ HPF周波数

HPFのカットオフ周波数を調節します。

設定範囲：20Hz～1.0kHz（初期値：79Hz）

LCD ノブ 3/4/5（青色で点灯）を使って調節します。
オンのとき、ハイライト表示になります。

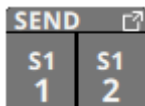
メモ

50 ページ「CH1-40 CONFIG タブ 画面」の DIRECT OUT POINT や DELAY POINT の設定によって、操作に用いるノブの番号が変わります。

㉑ SEND ボタン

- INSERT SEND 信号がアサインされている出力ポート名を表示します。
2 行目には、省略された FIXED PORT LABEL を表示します。
3 行目には、USER PORT LABEL を表示します。
USER PORT LABEL が未定義の場合は、FIXED PORT LABEL を表示します。
- 複数の出力ポートがアサインされている場合、ボタン右下に「…」を表示します。
- ステレオモジュールのとき、以下のような略称で左右に分割して出力ポートの FIXED PORT LABEL を表示します。

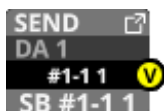
モジュールの表示	ステレオモジュールの表示
ANALOG	AN
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB OUT	USB



- マウント済み SB-16D がアサインされた Dante ポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 2 行目：DA ポート番号
 - 3 行目：#[ID] ポート番号
 - 4 行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABEL が未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」



また、バーチャルマウントされた SB-16D の場合は、 マークを表示します。



- このボタンをタップすると、INSERT SEND PORT SELECT 画面に切り換わります。(→ 153 ページ「INSERT SEND PORT SELECT 画面」)

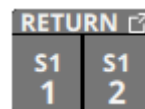
㉒ INSERT ボタン

このボタンをタップすると、INSERT のオン／オフが切り換わります。(初期値：OFF)
オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

㉓ RETURN ボタン

- INSERT RETURN 信号がアサインされている入力ポート名を表示します。
2 行目には、省略された FIXED PORT LABEL を表示します。
3 行目には、USER PORT LABEL を表示します。
USER PORT LABEL が未定義の場合は、FIXED PORT LABEL を表示します。
- ステレオモジュールのとき、以下のような略称で左右に分割して入力ポートの FIXED PORT LABEL を表示します。

モジュールの表示	ステレオモジュールの表示
ANALOG	AN
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB IN	USB
ST IN 1	ST1
ST IN 2	ST2
PLAYER	PL
SB-16D	SB



- マウント済み SB-16D がアサインされた Dante ポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 2 行目：DA ポート番号
 - 3 行目：#[ID] ポート番号
 - 4 行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABEL が未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」

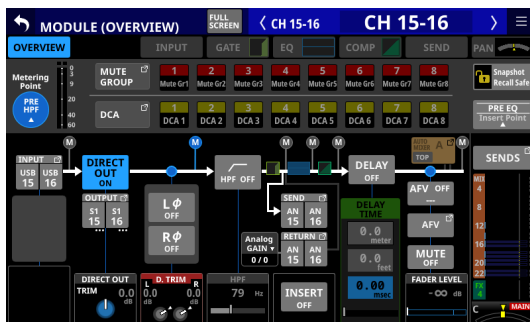
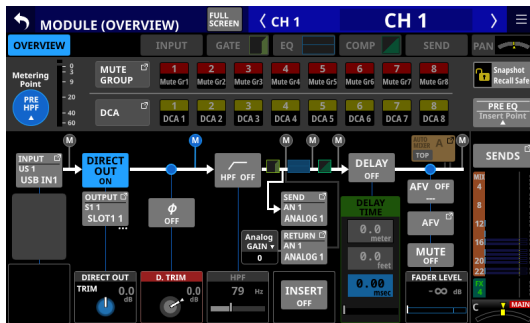


また、バーチャルマウントされた SB-16D の場合は、 マークを表示します。

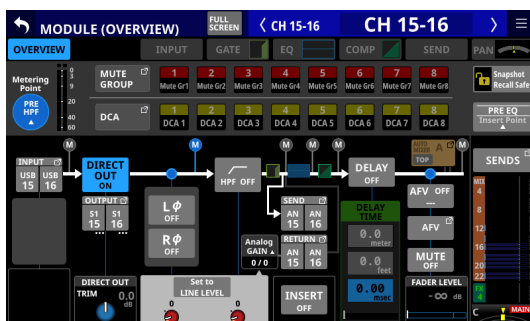
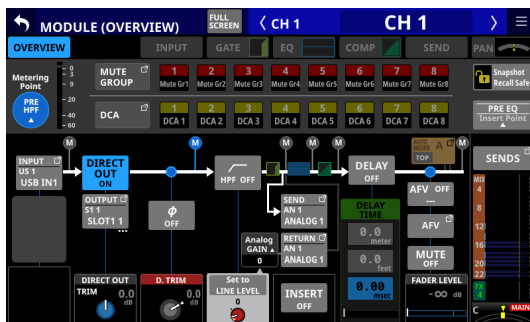


- このボタンをタップすると、INSERT RETURN PORT SELECT 画面に切り換わります。(→ 155 ページ「INSERT RETURN PORT SELECT 画面」)

- 選択したモジュールのINSERT RETURN PORTが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、RETURN ボタン左側に Analog GAIN値が表示されます。



RETURN ボタン 左側の Analog GAIN 値をタップすると、INSERT ボタンの左側に INSERT RETURN PORT に対応した Analog GAIN 値が表示されます。表示された Analog GAIN 値の下に LCD ノブ（赤色で点灯）を使って、対応する Analog GAIN を調節します。



Set to LINE LEVEL ボタンをタップすると、対応する Pre Amp 設定を以下のように設定します。

- PAD : ON
- Analog GAIN : 0
- Phantom : OFF

②4 DELAY ボタン

このボタンをタップすると、入力信号の遅延を補正する DELAY 機能のオン／オフが切り換わります。（初期値：OFF）オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

②5 DELAY TIME

DELAY TIME を調節します。

ハイライトされた単位を基準にして操作しますので、操作したい単位のボタンをタップします。

単位の選択肢	設定範囲（単位）
meter	0 ～ 117.3 (meter)
feet	0 ～ 384.8 (feet)
msec (初期値)	0 ～ 341.32 (msec)

LCD ノブ 2/3/5/6（緑色で点灯）を使って調節します。

メモ

- CH1-40 モジュールの DELAY POINT は、50 ページ「CH1-40 CONFIG タブ 画面」で切り換えることができます。
- 50 ページ「CH1-40 CONFIG タブ 画面」の DIRECT OUT POINT や DELAY POINT の設定によって、操作に用いるノブの番号が変わります。

②6 MUTE ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュール信号の MUTE のオン／オフが切り換わります。

MUTE がオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

トップパネルの MUTE キーを使って設定することもできます。

②7 FADER LEVEL

選択したモジュールの信号の FADER レベルを調節します。

設定範囲：-∞dB～+10.0dB（初期値：-∞dB）

LCD ノブ 6/7（青色で点灯）を使って調節します。

メモ

- トップパネルのチャンネルフェーダーを使って調節することもできます。
- 50 ページ「CH1-40 CONFIG タブ 画面」の DIRECT OUT POINT の設定によって、操作に用いるノブの番号が変わります。
- トップパネルの HOME キーを押しながらこの部分をタップすると、FADER レベルを「0dB」に設定します。

②8 SENDS ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールの MODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。（→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」）

第6章 モジュール

②9 Audio Follow Video機能のON / OFF ボタン

- このボタンをタップすると、選択したモジュールのAudio Follow Video機能のオン／オフが切り換わります。オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- AFV TRIGGER SOURCE SELECT画面で選択したAFV TRIGGER SOURCE名を表示します。

③0 AFVボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールのMODULE (Audio Follow Video) 画面に切り換わります。(→ 210 ページ「MODULE (Audio Follow Video) 画面」)

③1 MIX / FX SEND レベル表示

- MIX1-22 バスおよびFX1-4 バスへのSENDレベル、オン／オフ、PRE / POSTを一覧表示します。
- この部分をタップすると、タップしたエリアのバスが選択された状態の選択したモジュールのMODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。

③2 PAN / BAL

- MAIN L/Rバスに送り出す信号のパン／バランスを調節します。LCDノブ8（黄色で点灯）を使って調節します。
設定範囲：L100 ~ C ~ R100（初期値：C）
- **MAIN** アイコンがハイライト表示（**MAIN**）しているとき、信号がMAIN L/Rバスに送られます。
- この部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。(→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」)

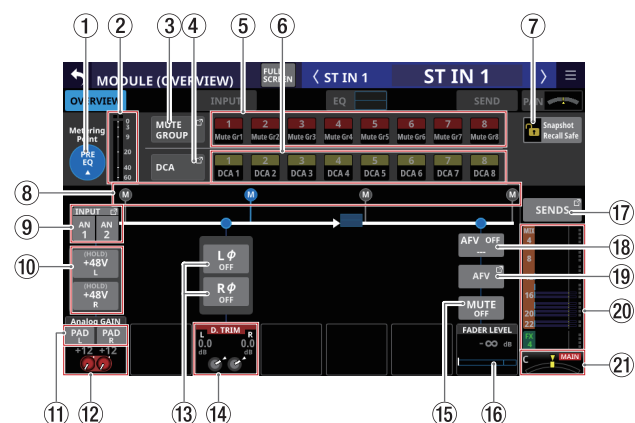
メモ

トップパネルのHOMEキーを押しながらこの部分をタップすると、パン／バランスの設定を中央（C）に設定します。

③3 AUTO MIXERボタン（CH1-16 モジュールのみ）

- 対応するチャンネルモジュールが属するAUTO MIXERグループ（A/B/C/D）の名前を表示します。
- TOP PRIORITY対象として選択されたグループの場合、ボタン左下に「TOP」のアイコンが表示されます。ONのとき、アイコンがハイライトになります。
- AUTO MIXER機能がOFFのときには、グレースアウト表示になります。
- このボタンをタップすると、AUTOMATIC MIXER画面に切り換わります。(→ 233 ページ「AUTO MIXER機能」)

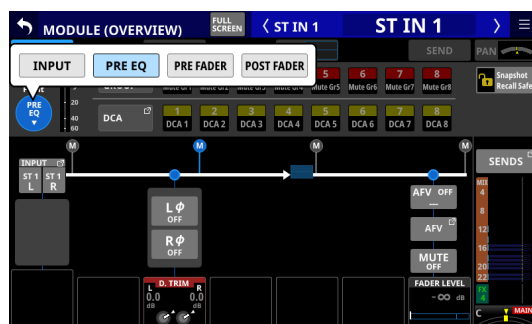
ST IN1-2 モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面



[入カソースが「ANALOG」のときのST IN1-2 モジュール表示]

① Metering Pointボタン

- 設定されているMetering Point名を表示します。
- このボタンをタップすると、ST IN1-2 モジュール群のMetering Pointを設定するウィンドウを表示します。



選択肢：INPUT、PRE EQ（初期値）、PRE FADER、POST FADER

選択肢をタップして、レベルメーターのMetering Pointを切り換えます。

メモ

METER SETUP画面のMETERING POINTタブ画面を使って、Metering Pointを切り換えることもできます。(→ 46 ページ「METERING POINTタブ画面」)

② レベルメーター

設定されているMetering Pointの信号レベルを表示します。

③ MUTE GROUPボタン

このボタンをタップすると、DCA/Mute Group SETUP画面のMute Group Assignタブ画面に切り換わります。(→ 227 ページ「Mute Group Assignタブ画面」)

④ DCAボタン

このボタンをタップすると、DCA/Mute Group SETUP画面のDCA Assignタブ画面に切り換わります。(→ 226 ページ「DCA Assignタブ画面」)

⑤ MUTE GROUP 1-8 ボタン

このボタンをタップすると、Mute Groupへのアサイン状態を変更します。（初期値：オフ）
アサイン状態のボタンがハイライト表示になります。

⑥ DCA 1-8 ボタン

このボタンをタップすると、DCAへのアサイン状態を変更します。(初期値：オフ)
アサイン状態のボタンがハイライト表示になります。

⑦ Snapshot Recall Safe ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールのスナップショットリコールセーフ状態を変更します。(初期値：オフ)
オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

SNAPSHOT RECALL SAFE画面のMODULE SAFEタブ画面でも設定することができます。(→ 249 ページ「MODULE SAFEタブ画面」)

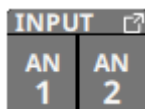
⑧ Metering Point位置表示

設定されているMetering Pointの位置をハイライト表示します。

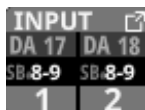
⑨ INPUT ボタン

- 入力ソース名を表示します。その際、以下のような略称で左右に分割して入力ソースのFIXED PORT LABELを表示します。

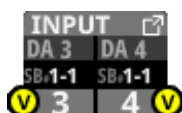
モジュールの表示	ステレオモジュールの表示
ANALOG	AN
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB IN	USB
ST IN 1	ST1
ST IN 2	ST2
PLAYER	PL



- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 2行目：DAポート番号
 - 3行目：SB#[ID]ポート番号
 - 4行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB#[ID]ポート番号」



また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、マークを表示します。



- このボタンをタップすると、INPUT SOURCE SELECT画面に切り換わります。(→ 149 ページ「INPUT SOURCE SELECT画面」)

⑩ +48V ボタン

- 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、+48Vボタンを表示します。
- +48Vボタンを押し続けると、ファンタム電源のオン／オフが切り換わります。(初期値：オフ)
ファンタム電源がオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- 入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合は、黒いボタンで表示されて操作できません。

⑪ PAD ボタン

- 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、PADボタンを表示します。
- このボタンをタップすると、-20dBのパッドのオン／オフが切り換わります。(初期値：オフ)
このボタンがオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- 入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合は、黒いボタンで表示されて操作できません。

メモ

パッドのオン／オフの切り換え時、できる限りAnalog GAIN値が変わらないよう、下記のように制御されます。

Analog Reference Level = +6dBu /
Digital Reference Level = -9dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後のAnalog GAIN値
Analog GAIN : +3 ~ +37 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -17 ~ +2 時	+3
PAD OFF/Analog GAIN : +38 ~ +57 時	+37

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -20dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後のAnalog GAIN値
Analog GAIN : +12 ~ +46 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -8 ~ +11 時	+12
PAD OFF/Analog GAIN : +47 ~ +66 時	+46

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -18dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後のAnalog GAIN値
Analog GAIN : +10 ~ +44 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -10 ~ +9 時	+10
PAD OFF/Analog GAIN : +45 ~ +64 時	+44

第6章 モジュール

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -16dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後の Analog GAIN値
Analog GAIN : +8 ~ +42 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -12 ~ +7 時	+8
PAD OFF/Analog GAIN : +43 ~ +62 時	+42

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -14dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後の Analog GAIN値
Analog GAIN : +6 ~ +40 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -14 ~ +5 時	+6
PAD OFF/Analog GAIN : +41 ~ +60 時	+40

Analog Reference Level = 0dBu /
Digital Reference Level = -20dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後の Analog GAIN値
Analog GAIN : +8 ~ +42 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -12 ~ +7 時	+8
PAD OFF/Analog GAIN : +43 ~ +62 時	+42

Analog Reference Level = 0dBu時 /
Digital Reference Level = -18dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後の Analog GAIN値
Analog GAIN : +6 ~ +40 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -14 ~ +5 時	+6
PAD OFF/Analog GAIN : +41 ~ +60 時	+40

⑫ Analog GAIN ノブ

- 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、本機またはSB-16Dの各チャンネルのAnalog GAINノブが表示され、MIC/LINE入力端子からの入力レベルを調節します。
LCDノブ1（赤色で点灯）を使って調節します。

Analog Reference Level = +6dBu /
Digital Reference Level = -9dBFS時

PADボタン設定状態	設定範囲
OFF	+3（初期値）～+57
ON	-17～+37

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -20dBFS時

PADボタン設定状態	設定範囲
OFF	+12（初期値）～+66
ON	-8～+46

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -18dBFS時

PADボタン設定状態	設定範囲
OFF	+10（初期値）～+64
ON	-10～+44

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -16dBFS時

PADボタン設定状態	設定範囲
OFF	+8（初期値）～+62
ON	-12～+42

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -14dBFS時

PADボタン設定状態	設定範囲
OFF	+6（初期値）～+60
ON	-14～+40

Analog Reference Level = 0dBu /
Digital Reference Level = -20dBFS時

PADボタン設定状態	設定範囲
OFF	+8（初期値）～+62
ON	-12～+42

Analog Reference Level = 0dBu時 /
Digital Reference Level = -18dBFS時

PADボタン設定状態	設定範囲
OFF	+6（初期値）～+60
ON	-14～+40

- 入力レベルに応じてAnalog GAINノブの左にあるインジケータが以下の色でハイライト表示になります。
赤：-3dBFS、緑：-40dBFS
- 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、Analog GAINノブが2つ並んで表示されます。
LCDノブ1（赤色で点灯）を使って2つを連動操作します。
左右別々に操作したい場合は、MODULE (INPUT) 画面でGANG機能を「OFF」にして操作します。
- 入力ソースが制御権のないSB-16Dの場合、黒いノブで表示されて操作できません。

メモ

Analog GAINの数値について

Analog Reference Level（+6dBu、+4dBu、0dBu）の信号を入力したときに、デジタル段でDigital Reference Level（-9dBFS、-14dBFS、-16dBFS、-18dBFS、-20dBFS）になるAnalog GAIN値を「0」と表示します。

⑬ フェーズボタン

選択したモジュールの信号の位相（フェーズ）を変更します。
このボタンをタップすると、選択したモジュールの信号の位相（フェーズ）を反転します。

L ϕ OFF	R ϕ OFF	正相（ノーマル）
L ϕ ON	R ϕ ON	逆相（リバース）

⑭ D.TRIM ノブ

- デジタルトリム値を調節します。

設定範囲：-50.0dB～+20.0dB（初期値：0.0dB）

LCD ノブ 3（赤色で点灯）を使って調節します。

- L/R 2 チャンネルの D.TRIM ノブが 2 つ並んで表示されます。
LCD ノブ 3（赤色で点灯）を使って 2 つを連動操作します。
左右別々に操作したい場合は、MODULE (INPUT) 画面で GANG 機能を「OFF」にして操作します。

⑮ MUTE ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュール信号の MUTE のオン／オフが切り換わります。
MUTE がオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

トップパネルの MUTE キーを使って設定することもできます。

⑯ FADER LEVEL

選択したモジュールの信号の FADER レベルを調節します。

設定範囲：-∞dB～+10.0dB（初期値：-∞dB）

LCD ノブ 7（青色で点灯）を使って調節します。

メモ

- トップパネルのチャンネルフェーダーを使って調節することもできます。
- トップパネルの HOME キーを押しながらこの部分をタップすると、FADER レベルを「0dB」に設定します。

⑰ SENDS ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールの MODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。（→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」）

⑱ Audio Follow Video 機能の ON / OFF ボタン

- このボタンをタップすると、選択したモジュールの Audio Follow Video 機能のオン／オフが切り換わります。オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- AFV TRIGGER SOURCE SELECT 画面で選択した AFV TRIGGER SOURCE 名を表示します。

⑲ AFV ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールの MODULE (Audio Follow Video) 画面に切り換わります。（→ 210 ページ「MODULE (Audio Follow Video) 画面」）

⑳ MIX / FX SEND レベル表示

- MIX1-22 バスおよび FX1-4 バスへの SEND レベル、オン／オフ、PRE / POST を一覧表示します。
- この部分をタップすると、タップしたエリアのバスが選択された状態で選択したモジュールの MODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。

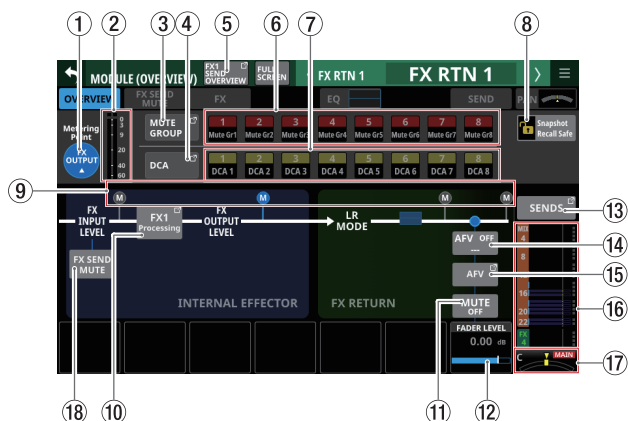
㉑ BAL

- MAIN L/R バスに送り出す信号のバランスを調節します。
LCD ノブ 8（黄色で点灯）を使って調節します。
設定範囲：L100～C～R100（初期値：C）
- MAIN** アイコンがハイライト表示（**MAIN**）しているとき、信号が MAIN L/R バスに送られます。
- この部分をタップすると、選択したモジュールの MODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。（→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」）

メモ

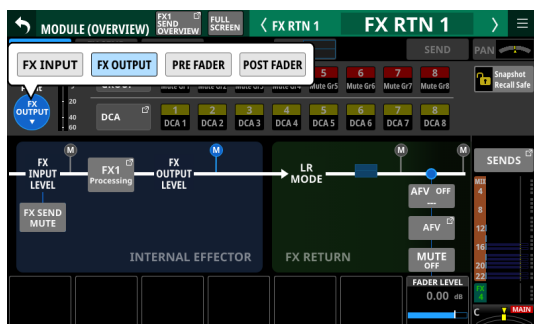
トップパネルの HOME キーを押しながらこの部分をタップすると、バランスの設定を中央（C）に設定します。

FX RTN1-4 モジュールの MODULE (OVERVIEW) 画面



① Metering Point ボタン

- 設定されている Metering Point 名を表示します。
- このボタンをタップすると、FX RTN 1-4 モジュール 群の Metering Point を設定するウィンドウを表示します。



選択肢：FX INPUT、FX OUTPUT（初期値）、PRE FADER、POST FADER

選択肢をタップして、レベルメーターの Metering Point を切り換えます。

メモ

METER SETUP画面の METERING POINT タブ画面を使って、Metering Point を切り換えることもできます。（→ 46 ページ「METERING POINT タブ画面」）

② レベルメーター

設定されている Metering Point の信号レベルを表示します。

③ MUTE GROUP ボタン

このボタンをタップすると、DCA/Mute Group SETUP画面の Mute Group Assign タブ画面に切り換わります。（→ 227 ページ「Mute Group Assign タブ画面」）

④ DCA ボタン

このボタンをタップすると、DCA/Mute Group SETUP画面の DCA Assign タブ画面に切り換わります。（→ 226 ページ「DCA Assign タブ画面」）

⑤ SEND OVERVIEW ボタン

このボタンをタップすると、選択した FX RTN モジュールに対応した SEND OVERVIEW画面に切り換わります。（→ 218 ページ「FX1-4 バスの SEND OVERVIEW画面」）

⑥ MUTE GROUP 1-8 ボタン

このボタンをタップすると、Mute Groupへのアサイン状態を変更します。（初期値：オフ）
アサイン状態のボタンがハイライト表示になります。

⑦ DCA 1-8 ボタン

このボタンをタップすると、DCAへのアサイン状態を変更します。（初期値：オフ）
アサイン状態のボタンがハイライト表示になります。

⑧ Snapshot Recall Safe ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールのスナップショットリコールセーフ状態を変更します。（初期値：オフ）
オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

SNAPSHOT RECALL SAFE画面の MODULE SAFE タブ画面でも設定することができます。（→ 249 ページ「MODULE SAFE タブ画面」）

⑨ Metering Point位置表示

設定されている Metering Point の位置をハイライト表示します。

⑩ FX Processing ボタン

このボタンをタップすると、MODULE (FX) 画面に切り換わります。（→ 191 ページ「MODULE (FX) 画面」）

⑪ MUTE ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュール信号の MUTE のオン／オフが切り換わります。
MUTE がオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

トップパネルの MUTE キーを使って設定することもできます。

⑫ FADER LEVEL

選択したモジュールの信号の FADER レベルを調節します。

設定範囲：-∞dB～+10.0dB（初期値：0.0dB）

LCD ノブ 7（青色で点灯）を使って調節します。

メモ

- トップパネルのチャンネルフェーダーを使って調節することもできます。
- トップパネルの HOME キーを押しながらこの部分をタップすると、FADER レベルを「0dB」に設定します。

⑬ SENDS ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールの MODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。（→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」）

⑭ Audio Follow Video機能の ON / OFF ボタン

- このボタンをタップすると、選択したモジュールの Audio Follow Video機能のオン／オフが切り換わります。オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- AFV TRIGGER SOURCE SELECT画面で選択した AFV TRIGGER SOURCE名を表示します。

⑮ AFV ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールの MODULE (Audio Follow Video) 画面に切り換わります。（→ 210 ページ「MODULE (Audio Follow Video) 画面」）

⑩ MIX / FX SEND レベル表示

- MIX1-22 バスおよびFX1-4 バスへの SEND レベル、オン／オフ、PRE / POSTを一覧表示します。
- この部分をタップすると、タップしたエリアのバスが選択された状態で選択したモジュールのMODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。

⑪ BAL

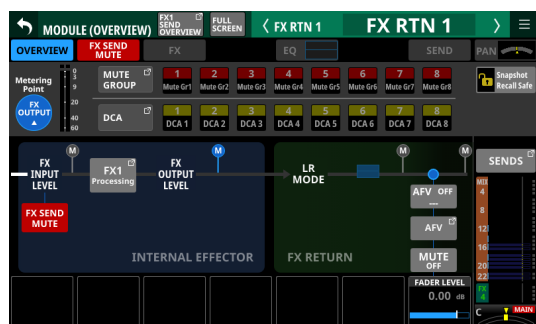
- MAIN L/Rバスに送り出す信号のバランスを調節します。
LCDノブ8（黄色で点灯）を使って調節します。
設定範囲：L100～C～R100（初期値：C）
- **MAIN** アイコンがハイライト表示（**MAIN**）しているとき、信号がMAIN L/Rバスに送られます。
- この部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。（→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」）

メモ

トップパネルのHOMEキーを押しながらこの部分をタップすると、バランスの設定を中央（C）に設定します。

⑫ FX SEND MUTE ボタン

このボタンをタップすると、FX SEND MUTEのオン／オフが切り換わります。（初期値：オフ）

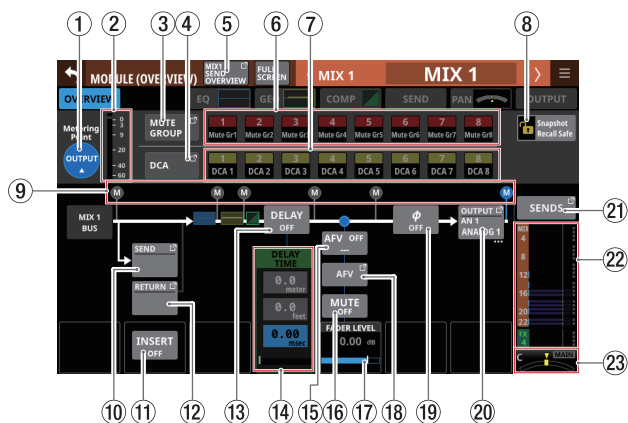


オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。また、オンのときはFX RTN1-4 モジュールのホーム画面でも赤くハイライト表示されます。

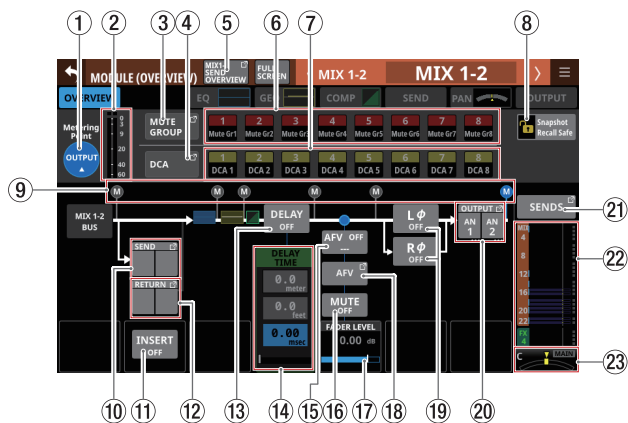


第6章 モジュール

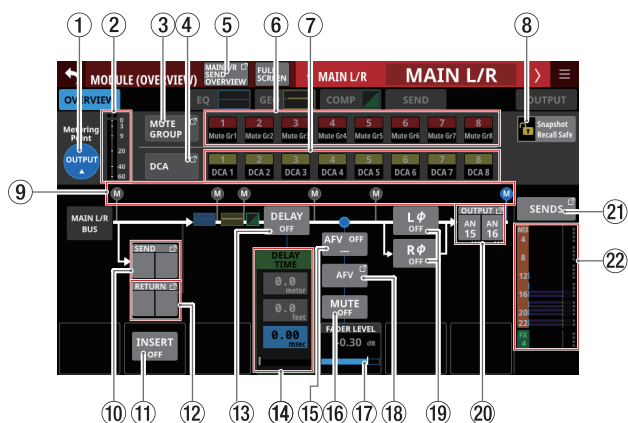
MIX1-22 モジュール／ MAIN L/R マスターモジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面



[MIX1-22 モジュール]



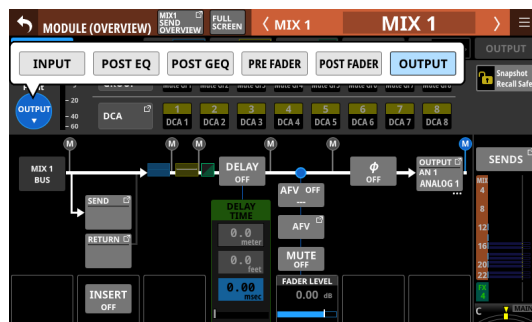
[MIX1-22 モジュール・Stereo Link設定オン]



[MAIN L/R マスターモジュール]

① Metering Point ボタン

- 設定されている Metering Point名を表示します。
- このボタンをタップすると、Metering Pointを設定するウィンドウを表示します。
なお、MIX1-22 モジュール群／ MAIN L/R マスターモジュールの Metering Point設定は、「AUXモードバス群・MAIN L/R モジュール」と「GROUPモードバス群」で別々の設定となります。



選択肢：INPUT、POST EQ、POST GEQ、PRE FADER、POST FADER、OUTPUT

AUXモードバス群・MAIN L/R モジュールの初期値	OUTPUT
GROUPモードバス群の初期値	POST FADER

選択肢をタップして、レベルメーターの Metering Point を切り換えます。

メモ

- METER SETUP画面の METERING POINT タブ画面を使って、Metering Point を切り換えることもできます。(→ 46 ページ「METERING POINT タブ画面」)
- Metering Point：OUTPUTの際、該当するバスを出力ポートにアサインしていない（本機から外部に出力していない）状態ではメーターは表示されません。

② レベルメーター

設定されている Metering Point の信号レベルを表示します。

③ MUTE GROUP ボタン

このボタンをタップすると、DCA/Mute Group SETUP画面の Mute Group Assign タブ画面に切り換わります。(→ 227 ページ「Mute Group Assign タブ画面」)

④ DCA ボタン

このボタンをタップすると、DCA/Mute Group SETUP画面の DCA Assign タブ画面に切り換わります。(→ 226 ページ「DCA Assign タブ画面」)

⑤ SEND OVERVIEW ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールに対応した SEND OVERVIEW画面に切り換わります。(→ 215 ページ「MIX1-22 バスの SEND OVERVIEW画面」、→ 220 ページ「MAIN L/R バスの SEND OVERVIEW画面」)

⑥ MUTE GROUP 1-8 ボタン

このボタンをタップすると、Mute Groupへのアサイン状態を変更します。(初期値：オフ)
アサイン状態のボタンがハイライト表示になります。

⑦ DCA 1-8 ボタン

このボタンをタップすると、DCAへのアサイン状態を変更します。(初期値：オフ)
アサイン状態のボタンがハイライト表示になります。

⑧ Snapshot Recall Safe ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールのスナップショットリコールセーフ状態を変更します。(初期値：オフ)
オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

SNAPSHOT RECALL SAFE画面のMODULE SAFEタブ画面でも設定することができます。(→ 249 ページ「MODULE SAFEタブ画面」)

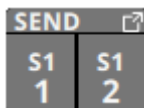
⑨ Metering Point位置表示

設定されているMetering Pointの位置をハイライト表示します。

⑩ SEND ボタン

- INSERT SEND信号がアサインされている出力ポート名を表示します。
2行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
3行目には、USER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- 複数の出力ポートがアサインされている場合、ボタン右下に「…」を表示します。
- ステレオモジュールのとき、以下のような略称で左右に分割して出力ポートのFIXED PORT LABELを表示します。

モジュールの表示	ステレオモジュールの表示
ANALOG	AN
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB OUT	USB



- このボタンをタップすると、INSERT SEND PORT SELECT画面に切り換わります。(→ 153 ページ「INSERT SEND PORT SELECT画面」)

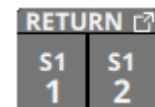
⑪ INSERT ボタン

このボタンをタップすると、INSERTのオン/オフが切り換わります。(初期値：OFF)
オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

⑫ RETURN ボタン

- INSERT RETURN信号がアサインされている入力ポート名を表示します。
2行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
3行目には、USER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- ステレオモジュール時、以下のような略称で左右に分割して入力ポートのFIXED PORT LABELを表示します。

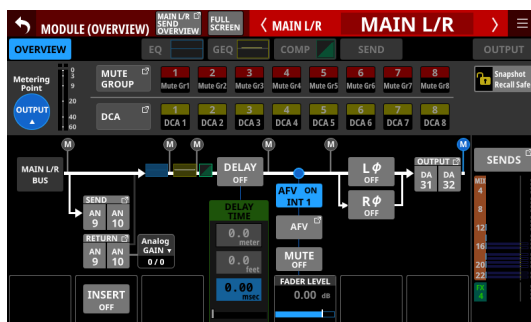
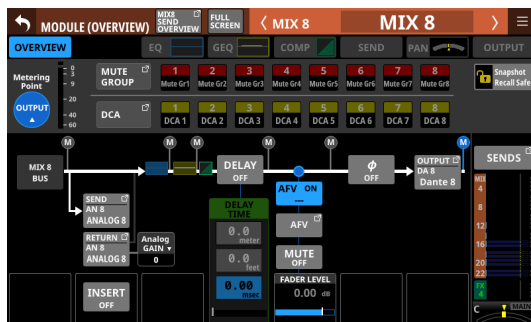
モジュールの表示	ステレオモジュールの表示
ANALOG	AN
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB IN	USB
ST IN 1	ST1
ST IN 2	ST2
PLAYER	PL
SB-16D	SB



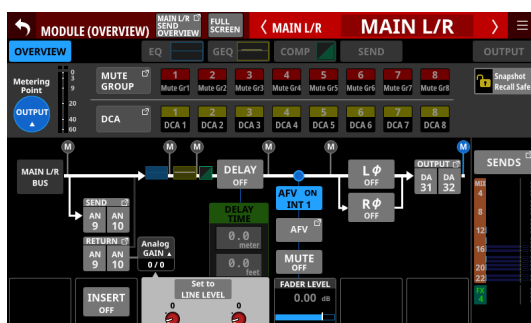
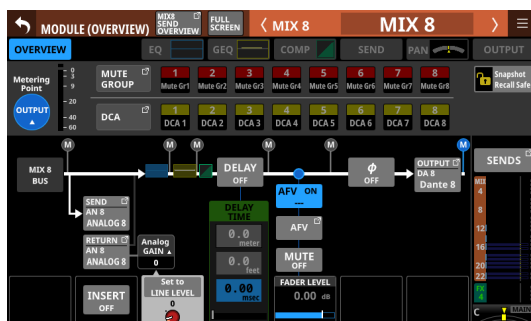
- このボタンをタップすると、INSERT RETURN PORT SELECT画面に切り換わります。(→ 155 ページ「INSERT RETURN PORT SELECT画面」)

第6章 モジュール

- 選択したモジュールのINSERT RETURN PORTが「ANALOG」または「内蔵Dante経由で接続されたSB-16D」のとき、RETURNボタン右側にAnalog GAIN値が表示されます。



RETURNボタン右側のAnalog GAIN値をタップすると、INSERTボタンの右側にINSERT RETURN PORTに対応したAnalog GAIN値が表示されます。表示されたAnalog GAIN値の下のLCDノブ（赤色で点灯）を使って、対応するAnalog GAINを調節します。



Set to LINE LEVEL ボタンをタップすると、対応するPre Amp設定を以下のように設定します。

- PAD : ON
- Analog GAIN : 0
- Phantom : OFF

⑬ DELAY ボタン

このボタンをタップすると、出力信号のタイミング補正などに使うDELAY機能のオン／オフが切り換わります。（初期値：OFF）

オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

⑭ DELAY TIME

DELAY TIMEを調節します。

ハイライトされた単位を基準にして操作しますので、操作したい単位のボタンをタップします。

単位の選択肢	設定範囲（単位）
meter	0～117.3（meter）
feet	0～384.8（feet）
msec（初期値）	0～341.32（msec）

LCDノブ4（緑色で点灯）を使って調節します。

⑮ Audio Follow Video機能のON / OFF ボタン

- このボタンをタップすると、選択したモジュールのAudio Follow Video機能のオン／オフが切り換わります。オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

- AFV TRIGGER SOURCE SELECT画面で選択したAFV TRIGGER SOURCE名を表示します。

⑯ MUTE ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュール信号のMUTEのオン／オフが切り換わります。

MUTEがオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

トップパネルのMUTEキーを使って設定することもできます。

⑰ FADER LEVEL

選択したモジュールの信号のFADERレベルを調節します。

設定範囲：-∞dB～+10.0dB（初期値：0.0dB）

LCDノブ5（青色で点灯）を使って調節します。

メモ

- トップパネルのチャンネルフェーダーを使って調節することもできます。
- トップパネルのHOMEキーを押しながらこの部分をタップすると、FADERレベルを「0dB」に設定します。



⑱ AFV ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールのMODULE (Audio Follow Video) 画面に切り換わります。（→ 210 ページ「MODULE (Audio Follow Video) 画面」）





⑱ フェーズボタン

選択したモジュールの信号の位相（フェーズ）を変更します。
このボタンをタップすると、選択したモジュールの信号の位相（フェーズ）を反転します。

- 選択したモジュールのStereo Link設定がオフのときのフェーズボタン表示

	正相（ノーマル）
	逆相（リバース）

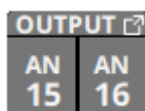
- 選択したモジュールがステレオモジュールのときのフェーズボタン表示

		正相（ノーマル）
		逆相（リバース）

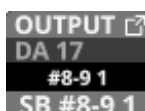
㉔ OUTPUT ボタン


- 選択したモジュールの出力信号がアサインされている出力ポート名を表示します。
2行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
3行目には、USER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- 複数の出力ポートがアサインされている場合、ボタン右下に「…」を表示します。
- ステレオモジュールのとき、以下のような略称で左右に分割して出力ポートのFIXED PORT LABELを表示します。

モジュールの表示	ステレオモジュールの表示
ANALOG	AN
RECORDER	RE
Dante	DA
SLOT 1	S1
SLOT 2	S2
USB OUT	USB



- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 2行目：DAポート番号
 - 3行目：#[ID]ポート番号
 - 4行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB#[ID]ポート番号」



また、バーチャルマウントされたSB-16Dの場合は、マークを表示します。



- このボタンをタップすると、OUTPUT PORT SELECT画面に

切り換わります。（→ 157 ページ「OUTPUT PORT SELECT 画面」）



㉕ SENDS ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールのMODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。（→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」）

㉖ MIX / FX SEND レベル表示

- MIX1-22 バスおよびFX1-4 バスへのSENDレベル、オン／オフを一覧表示します。
- この部分をタップすると、タップしたエリアのバスが選択された状態で選択したモジュールのMODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。

㉗ PAN / BAL (MIX1-22 モジュールのみ)

- MAIN L/Rバスに送り出す信号のパン／バランスを調節します。LCDノブ8（黄色で点灯）を使って調節します。
設定範囲：L100～C～R100（初期値：C）
-  アイコンがハイライト表示（）しているとき、信号がMAIN L/Rバスに送られます。
- この部分をタップすると、選択したモジュールのMODULE (SEND/PAN) 画面に切り換わります。（→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」）

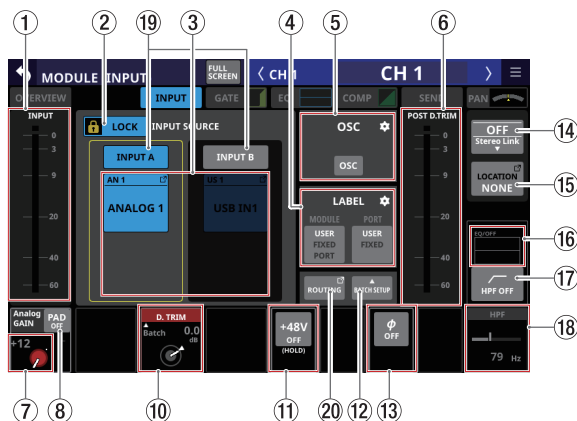
メモ

トップパネルのHOMEキーを押しながらこの部分をタップすると、パン／バランスの設定を中央（C）に設定します。

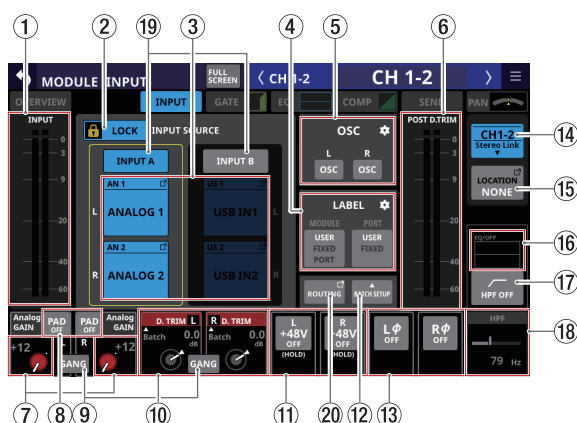
MODULE (INPUT) 画面

CH1-40 モジュールおよびST IN1-2 モジュールのMODULE (INPUT) 画面では、モジュールの入力の設定を行います。

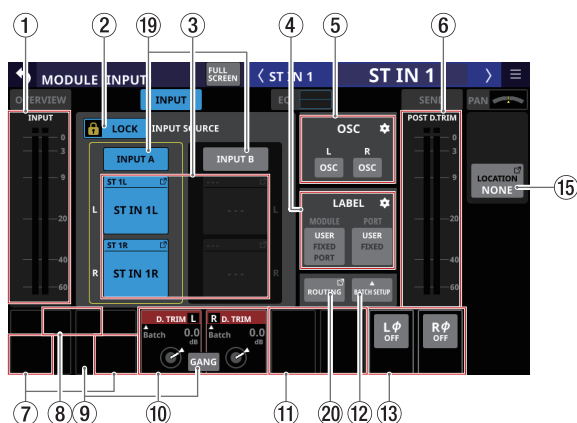
この画面は、選択枠が表示されたホーム画面のINPUTエリアをタップして表示します。



[CH1-40 モジュール]



[CH1-40 モジュール・Stereo Link設定オン]



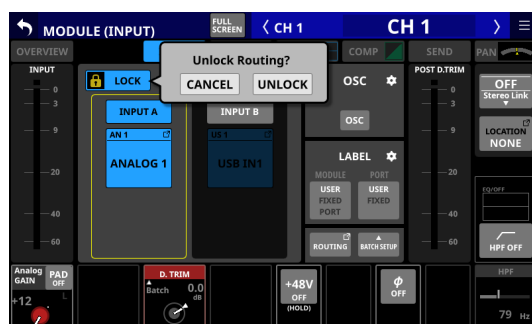
[ST IN1-2 モジュール・入力ソース「ANALOG」時]

① INPUT レベルメーター表示

選択したモジュールへの入力信号レベルを表示します。

② LOCK / UNLOCK切り換えボタン

- 本機のルーティング設定変更操作のロック／アンロックを切り換えるボタンです。起動時は、必ずロック状態になっています。
- 「LOCK」時は、OSCボタン（④）をタップしても設定を変更しません。また、BATCH SETUPボタンの操作もできません。ただし、INPUT SOURCEボタンをタップしてINPUT SOURCE SELECT画面に切り換えることは可能です。
- 「LOCK」時にこのボタンをタップすると、確認メッセージが表示されます。確認メッセージでUNLOCKボタンをタップすると、メッセージを閉じて「UNLOCK」に切り換わります。確認メッセージでCANCELボタンをタップすると、メッセージを閉じてLOCK状態を維持します。



- 「UNLOCK」時にこのボタンをタップすると、「LOCK」に切り換わります。

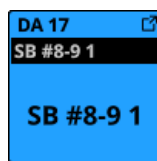
メモ

LOCK / UNLOCK切り換えボタン（②）の設定は、下記ルーティング設定画面で共通の設定です。

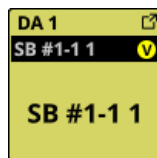
- MODULE (INPUT) 画面
- MODULE (OUTPUT) 画面
- INPUT SOURCE SELECT画面
- OUTPUT PORT SELECT画面
- DIRECT OUT PORT SELECT画面
- INSERT SEND PORT SELECT画面
- INSERT RETURN PORT SELECT画面
- TALKBACK INPUT SELECT画面
- TALKBACK EXT1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- TALKBACK EXT2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- Return TALKBACK EXT DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 OUTPUT PORT SELECT画面
- Solo DIRECT OUT PORT SELECT画面
- ルーティング画面

③ INPUT SOURCE ボタン

- このボタンには、現在選択されている入力ソースが表示されます。
1 行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
2 行目には、USER PORT LABELを表示します。
USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- このボタンをタップすると、INPUT SOURCE SELECT画面に切り換わります。(→ 149 ページ「INPUT SOURCE SELECT画面」)
- マウント済みSB-16DがアサインされたDanteポートのボタンは、以下のように表示します。
 - 1 行目：DAポート番号
 - 2 行目：SB #[ID] ポート番号
 - 3 行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」



- バーチャルマウントされたSB-16DのDanteポートの場合は、アサインしたボタンが黄色でハイライト表示になります。



④ LABEL設定エリア



① LABEL設定エリアの★アイコン

このアイコンをタップすると、LABEL SETUP画面のDISPLAY MODEタブ画面に切り換わります。(→ 134 ページ「MODULE LABELタブ画面」)

② MODULE LABELの表示モード設定ボタン

- MODULE LABEL Mainの表示モードを切り換えるボタンです。現在設定されている表示モードがハイライト表示になります。
- このボタンをタップすると、MODULE LABEL Mainの表示モードをUSER → FIXED → PORT LABELと順番に切り換えます。
- MODULE LABEL Mainの表示モード設定の詳細は、132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」をご参照ください。

③ PORT LABELの表示モード設定ボタン

- PORT LABEL（入出力端子名）の表示モードを切り換えるボタンです。現在設定されている表示モードがハイライト表示になります。
- このボタンをタップすると、PORT LABELの表示モードを「USER」と「FIXED」で交互に切り換えます。
- PORT LABELの表示モード設定の詳細は、132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」をご参照ください。

⑤ OSC設定エリア



① OSC設定エリアの★アイコン

このアイコンをタップすると、TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面のSOLO / OSCILLATORタブ画面に切り換わります。(→ 96 ページ「SOLOと内蔵オシレータの設定」)

② OSCボタン

LOCK / UNLOCK切り換えボタン (②) が「UNLOCK」のときにこのボタンをタップすると、内蔵オシレーター入力のオン／オフを切り換えます。

オンのとき、選択したモジュールの入力ソース設定を維持したまま、内蔵オシレーターからの信号を選択したモジュールに入力します。(初期値：OFF)

また、オンのときはボタンがハイライト表示になり、INPUT SOURCEボタン (③) がグレースアウト表示になります。

⑥ POST D.TRIM レベルメーター表示

D.TRIMの後ろの信号レベルを表示します。

第6章 モジュール

⑦ Analog GAIN ノブ／インジケータ

- 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵 Dante 経由で接続された SB-16D」のとき、Analog GAIN ノブが表示され、本機または SB-16D の MIC/LINE 入力端子からの入力レベルを調節します。
LCD ノブ 1 (赤色で点灯) を使って調節します。

Analog Reference Level = +6dBu /
Digital Reference Level = -9dBFS 時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+3 (初期値) ~ +57
ON	-17 ~ +37

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -20dBFS 時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+12 (初期値) ~ +66
ON	-8 ~ +46

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -18dBFS 時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+10 (初期値) ~ +64
ON	-10 ~ +44

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -16dBFS 時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+8 (初期値) ~ +62
ON	-12 ~ +42

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -14dBFS 時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+6 (初期値) ~ +60
ON	-14 ~ +40

Analog Reference Level = 0dBu /
Digital Reference Level = -20dBFS 時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+8 (初期値) ~ +62
ON	-12 ~ +42

Analog Reference Level = 0dBu 時 /
Digital Reference Level = -18dBFS 時

PAD ボタン 設定状態	設定範囲
OFF	+6 (初期値) ~ +60
ON	-14 ~ +40

- 入力レベルに応じて Analog GAIN ノブの左にあるインジケータが以下の色でハイライト表示になります。
赤：-3dBFS、緑：-40dBFS
- 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」のステレオモジュールのとき、2つの Analog GAIN ノブが表示されます。
LCD ノブ 1-2 (赤色で点灯) を使って調節します。
- 入力ソースが制御権のない SB-16D の場合は、黒いノブで表示されて操作できません。

メモ

Analog GAINの数値について

Analog Reference Level (+6dBu、+4dBu、0dBu) の信号を入力したときに、デジタル段で Digital Reference Level (-9dBFS、-14dBFS、-16dBFS、-18dBFS、-20dBFS) になる Analog GAIN 値を「0」と表示します。

⑧ PAD ボタン

- 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵 Dante 経由で接続された SB-16D」のとき、PAD ボタンを表示します。
- このボタンをタップすると、-20dB のパッドのオン／オフが切り換わります。(初期値：オフ)
このボタンがオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- 入力ソースが制御権のない SB-16D の場合は、黒いボタンで表示されて操作できません。

メモ

パッドのオン／オフの切り換え時、できる限り Analog GAIN 値が変わらないよう、下記のように制御されます。

Analog Reference Level = +6dBu /
Digital Reference Level = -9dBFS 時

PAD 切り換え前の状態	PAD 切り換え後の Analog GAIN 値
Analog GAIN : +3 ~ +37 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -17 ~ +2 時	+3
PAD OFF/Analog GAIN : +38 ~ +57 時	+37

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -20dBFS 時

PAD 切り換え前の状態	PAD 切り換え後の Analog GAIN 値
Analog GAIN : +12 ~ +46 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -8 ~ +11 時	+12
PAD OFF/Analog GAIN : +47 ~ +66 時	+46

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -18dBFS 時

PAD 切り換え前の状態	PAD 切り換え後の Analog GAIN 値
Analog GAIN : +10 ~ +44 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -10 ~ +9 時	+10
PAD OFF/Analog GAIN : +45 ~ +64 時	+44

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -16dBFS 時

PAD 切り換え前の状態	PAD 切り換え後の Analog GAIN 値
Analog GAIN : +8 ~ +42 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -12 ~ +7 時	+8
PAD OFF/Analog GAIN : +43 ~ +62 時	+42

Analog Reference Level = +4dBu /
Digital Reference Level = -14dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後の Analog GAIN値
Analog GAIN : +6 ~ +40 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -14 ~ +5 時	+6
PAD OFF/Analog GAIN : +41 ~ +60 時	+40

Analog Reference Level = 0dBu /
Digital Reference Level = -20dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後の Analog GAIN値
Analog GAIN : +8 ~ +42 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -12 ~ +7 時	+8
PAD OFF/Analog GAIN : +43 ~ +62 時	+42

Analog Reference Level = 0dBu時 /
Digital Reference Level = -18dBFS時

PAD切り換え前の状態	PAD切り換え後の Analog GAIN値
Analog GAIN : +6 ~ +40 時	同じ値
PAD ON/Analog GAIN : -14 ~ +5 時	+6
PAD OFF/Analog GAIN : +41 ~ +60 時	+40

⑨ GANG ボタン

- 選択したモジュールがステレオモジュールのとき、GANG ボタンを表示します。
- このボタンをタップすると、GANG機能のオン/オフを切り換えます。GANG機能がオンのとき、ボタンがハイライト表示になり、2つのAnalog GAINノブ、または2つのD.TRIMノブを連動して同時に操作することが可能になります。(初期値: OFF)

⑩ D.TRIM ノブ

- デジタルトリム値を調節します。
設定範囲: -50.0dB ~ +20.0dB (初期値: 0.0dB)
LCDノブ7 (赤色で点灯) を使って調節します。
- この部分をタップすると、任意のチャンネル間のデジタルトリム値を一括で設定するBATCH SETUPウィンドウを表示します。(→ 190 ページ「デジタルトリム値を一括で設定する」)

⑪ +48V ボタン

- 選択したモジュールの入力ソースが「ANALOG」または「内蔵 Dante 経由で接続された SB-16D」のとき、ファンタム電源の設定状態を表示します。
- +48V ボタンを押し続けると、ファンタム電源のオン/オフが切り換わります。(初期値: オフ)
ファンタム電源がオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- 入力ソースが制御権のない SB-16D の場合は、黒いボタンで表示されて操作できません。

⑫ BATCH SETUP ボタン

LOCK / UNLOCK 切り換えボタン (②) が「UNLOCK」のときにこのボタンをタップすると、任意のチャンネル間の入力ソースを一括で設定する BATCH SETUP ウィンドウを表示します。(→ 142 ページ「複数のチャンネル間の入力ソースを一括で設定する」)
指定した複数チャンネルの設定を一括で変更します。



メモ

- LOCK / UNLOCK 切り換えボタン (②) が「LOCK」に設定されているときは操作はできません。
- 一括設定ウィンドウが表示されている状態で、他のタッチスクリーンでルーティング操作を「LOCK」に設定された場合は、一括設定ウィンドウが自動的に閉じます。



⑬ フェーズボタン

選択したモジュールの信号の位相 (フェーズ) を変更します。このボタンをタップすると、選択したモジュールの信号の位相 (フェーズ) を反転します。

- 選択した CH1-40 モジュールの Stereo Link 設定がオフのときのフェーズボタン表示

	正相 (ノーマル)
	逆相 (リバース)

- ステレオモジュールのときのフェーズボタン表示

	正相 (ノーマル)
	逆相 (リバース)

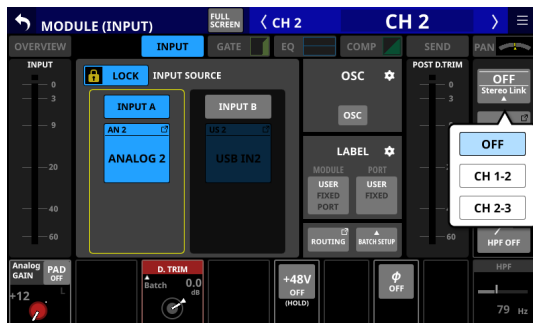
第6章 モジュール

⑭ Stereo Link ボタン (CH1-40 モジュールのみ)

- 入力チャンネルの Stereo Link 設定の状態を表示します。

	Stereo Link 設定：オフ
	Stereo Link 設定：オン

- このボタンをタップすると、Stereo Link 設定のウィンドウを表示します。



CH1/CH40 以外、左右どちらのモジュールともリンクすることができます。

⑮ LOCATION ボタン

- MIXER CONFIG 画面の LOCATION CONFIG タブ 画面で設定した選択モジュールの LOCATION 設定を表示します。
- このボタンをタップすると、MIXER CONFIG 画面の LOCATION CONFIG タブ 画面に切り換わります。(→ 51 ページ「LOCATION CONFIG タブ 画面」)

⑯ HPF / EQ 周波数特性グラフ表示 (CH1-40 モジュールのみ)

- HPF と EQ の周波数特性グラフ表示です。
- HPF と EQ がオンのとき、ハイライト表示になります。
- HPF と EQ がオフのとき、グレーアウト表示になります。
- HPF または EQ のいずれかが片方だけがオンのとき、オンの機能の周波数特性だけがハイライト表示になります。

⑰ HPF ボタン (CH1-40 モジュールのみ)

このボタンをタップすると、HPF のオン／オフが切り換わります。(初期値：OFF)

オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

⑱ HPF 周波数 (CH1-40 モジュールのみ)

HPF のカットオフ周波数を調節します。

設定範囲：20Hz～1.0kHz (初期値：79Hz)

LCD ノブ 8 (水色で点灯) を使って調節します。

オンのとき、ハイライト表示になります。

⑲ INPUT A / INPUT B ボタン

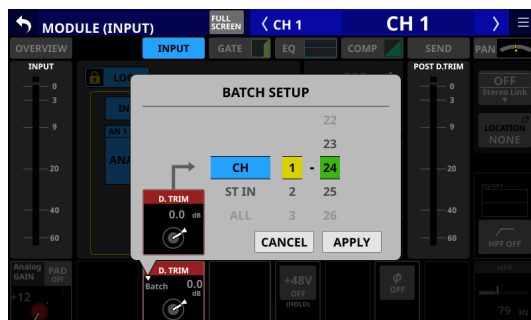
このボタンをタップすると、INPUT SOURCE の INPUT A / INPUT B を切り換えます。

⑳ ROUTING ボタン

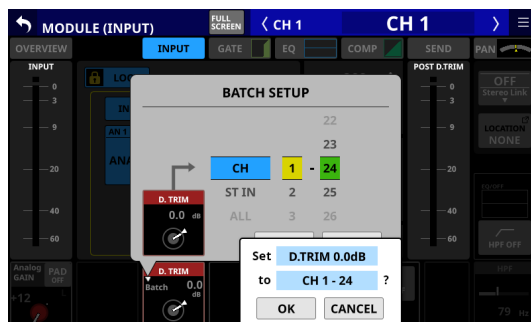
このボタンをタップすると、ルーティング画面の INPUT MODULE タブ 画面に切り換わります。(→ 162 ページ「INPUT MODULE タブ 画面」)

デジタルトリム値を一括で設定する

- D.TRIM ノブ表示をタップして、デジタルトリム値を一括で設定する BATCH SETUP ウィンドウを表示します。



- 選択肢を上下にスワイプして、デジタルトリム値を一括で設定するモジュールを選択します。
各選択肢と同じ色で点灯した LCD ノブ 4～6 を回して選択肢を変更することもできます。
- 赤く点灯している LCD ノブ 3 を使って、トリムレベル値を調節します。
- APPLY ボタンをタップすると、設定確認のウィンドウを表示します。

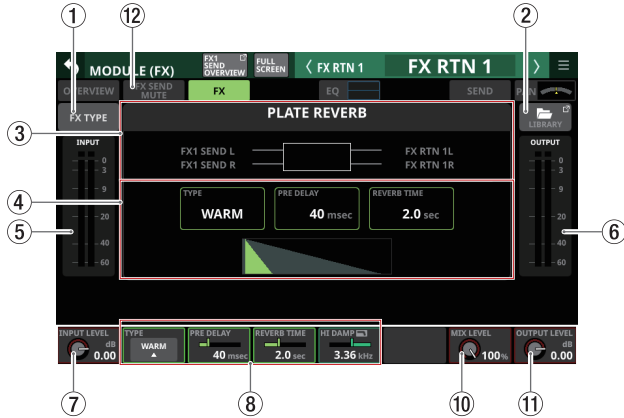


- OK ボタンをタップして、デジタルトリム値を一括設定します。
BATCH SETUP ウィンドウを閉じます。

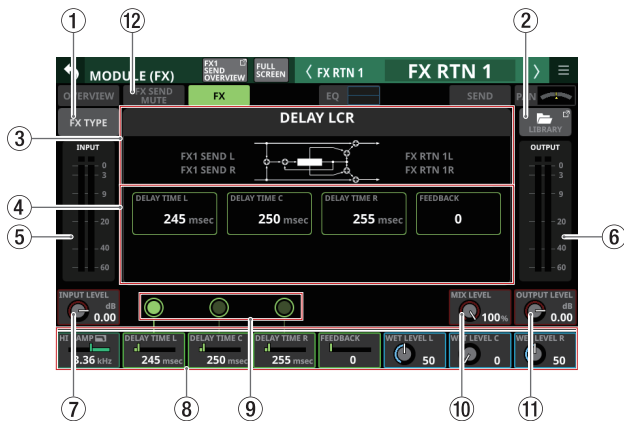
MODULE (FX) 画面

FX RTN1-4 モジュールのMODULE (FX) 画面では、エフェクターの設定を行います。

この画面は、選択枠が表示されたホーム画面のFXエリアをタップして表示します。



[FX RTN1-4 モジュール・PLATE REVERB時]



[FX RTN1-4 モジュール・DELAY LCR時]

① FX TYPE ボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールのエフェクトタイプの選択ウィンドウを表示します。



ボタンをタップしてエフェクトタイプを選択します。
選択すると選択ウィンドウを閉じます。

② LIBRARY ボタン

このボタンをタップすると、エフェクターのLIBRARY画面に切り換わります。(→ 254 ページ「各種 LIBRARY画面」)

③ エフェクトタイプの情報表示

選択しているエフェクトタイプの下記の情報を表示します。

- FX TYPE名
- FX LIBRARY名 (FX LIBRARY RECALL / STOREした場合)
- FX入出力アルゴリズムを示すブロック図

④ メインパラメーターの設定状態表示

選択したエフェクターのメインパラメーターの設定状態を表示します。

⑤ INPUT レベルメーター

エフェクターへの入力信号レベルを表示します。

⑥ OUTPUT レベルメーター

エフェクターからの出力信号レベルを表示します。

⑦ INPUT LEVEL ノブ

エフェクターへの入力レベルを調節します。

設定範囲：-∞dB～+10dB (初期値：0.0dB)

選択枠を表示中に、対応するLCDノブ1を使って調節します。

⑧ エフェクトパラメーター

エフェクターの各パラメーターを表示／操作します。

選択枠を表示中の対応LCDノブやボタンのタップで設定を変更します。

⑨ タップテンポ入力ボタン／テンポインジケータ (FX TYPEのDELAY系のみ)

- このボタンをタップすることで、タップの時間間隔をDELAY TIMEとして設定します。
- タップテンポ入力ボタンの中央部は、テンポインジケータとしてDELAY TIMEの間隔で点滅表示します。DELAY TIMEの設定が「200msec未満」のときは、ハイライト表示のままです。

メモ

タップテンポ入力は、User Defined Control機能によりUSER KEYSやFOOTSWITCH、GPIO-INで操作できます。(→ 54 ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」)

タップテンポ入力は、Foot Switchタブ画面の工場出荷時の設定であらかじめ以下のようにアサインされています。

- Foot Switch (Tap Tempo | FX3 | Delay1)

⑩ MIX LEVEL ノブ

ドライ音とウェット音のMIXレベルを調節します。

設定範囲：0%～100% (初期値：100%、0%：ドライ音のみ / 100%：ウェット音のみ)

選択枠を表示中に、対応するLCDノブ7を使って調節します。

⑪ OUTPUT LEVEL ノブ

エフェクターからの出力レベルを調節します。

設定範囲：-∞dB～+10dB (初期値：0.0dB)

選択枠を表示中に、対応するLCDノブ8を使って調節します。

⑫ FX SEND MUTE ボタン

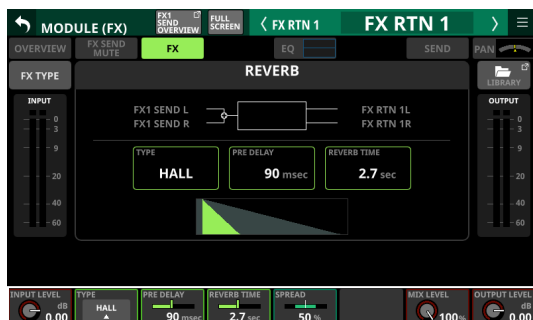
このボタンをタップすると、FX SEND MUTEのオン／オフが切り換わります。(初期値：オフ)

オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

第6章 モジュール

エフェクトパラメーター

REVERB



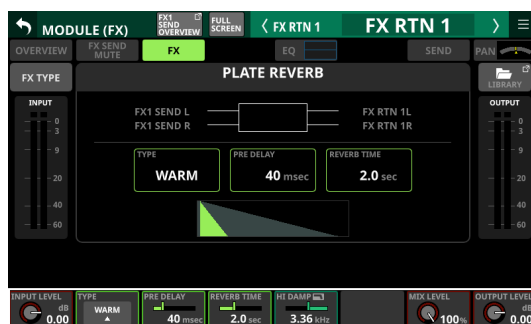
パラメーター名	設定範囲	初期値
TYPE	HALL、ROOM、STUDIO、LIVE	HALL
PRE DELAY	0msec～200msec	90msec
REVERB TIME	0.1sec～10sec	2.7sec
SPREAD	0%～100%	50%

STEREO REVERB



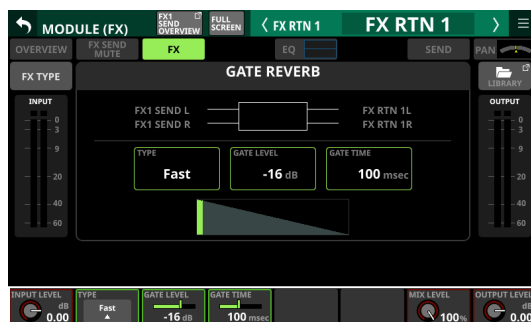
パラメーター名	設定範囲	初期値
TYPE	HALL、ROOM	HALL
PRE DELAY	0msec～200msec	90msec
REVERB TIME	0.1sec～20.0sec	2.7sec
SPREAD	0%～100%	50%
LO GAIN	-12dB～+12dB	0dB
LO FREQ	125Hz～2.00kHz	445Hz
HIGH GAIN	-12dB～+12dB	0dB
HIGH FREQ	1.00kHz～16.00kHz	3.36 kHz

PLATE REVERB



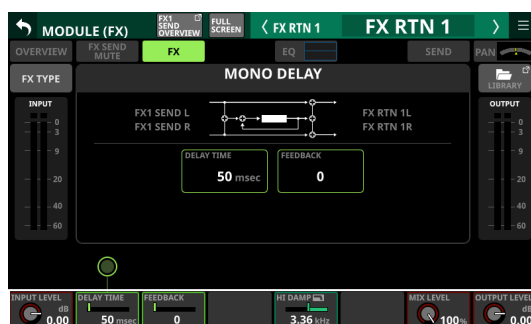
パラメーター名	設定範囲	初期値
TYPE	WARM、HARD、BRIGHT、DARK	WARM
PRE DELAY	0msec～200msec	40msec
REVERB TIME	0.1sec～10sec	2.0sec
HI DAMP	500Hz～16.0kHz	3.36kHz

GATE REVERB



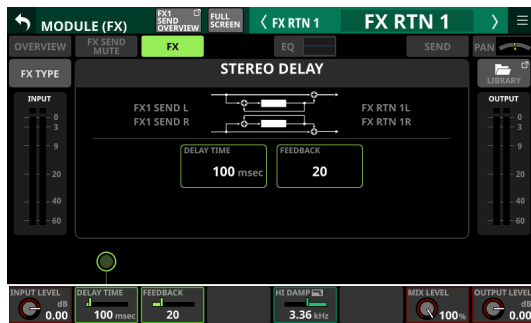
パラメーター名	設定範囲	初期値
TYPE	Fast、Slow	Fast
GATE LEVEL	-48dB～0dB	-16dB
GATE TIME	10msec～3000msec	100msec

MONO DELAY



パラメーター名	設定範囲	初期値
DELAY TIME	1msec～3000msec	50msec
FEEDBACK	0～100	0
HI DAMP	500Hz～16.0kHz	3.36kHz

STEREO DELAY



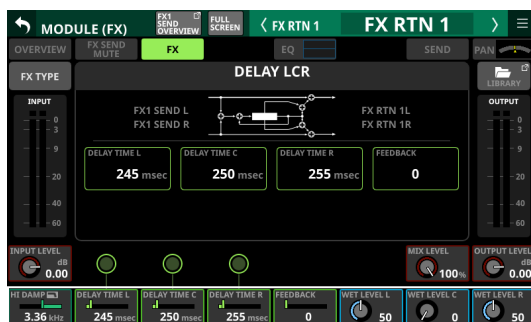
パラメーター名	設定範囲	初期値
DELAY TIME	1msec～1500msec	100msec
FEEDBACK	0～100	20
HI DAMP	500Hz～16.0kHz	3.36kHz

PING-PONG DELAY



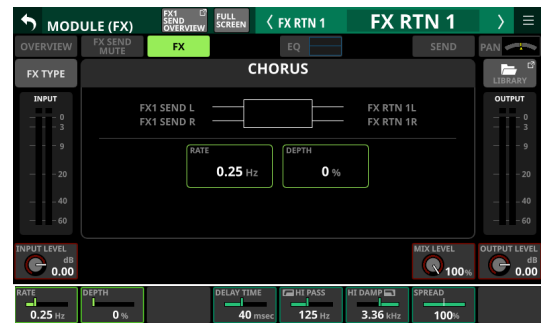
パラメーター名	設定範囲	初期値
DELAY TIME	1msec～1500msec	500msec
FEEDBACK	0～100	20
HI DAMP	500Hz～16.0kHz	3.36kHz

DELAY LCR



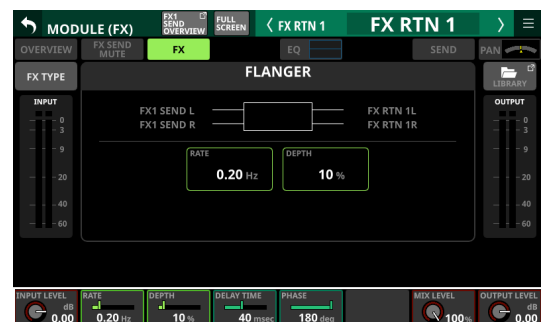
パラメーター名	設定範囲	初期値
HI DAMP	500Hz～16.0kHz	3.36kHz
DELAY TIME L	1msec～3000msec	245msec
DELAY TIME C	1msec～3000msec	250msec
DELAY TIME R	1msec～3000msec	255msec
FEEDBACK	0～100	0
WET LEVEL L	0～100	50
WET LEVEL C	0～100	0
WET LEVEL R	0～100	50

CHORUS



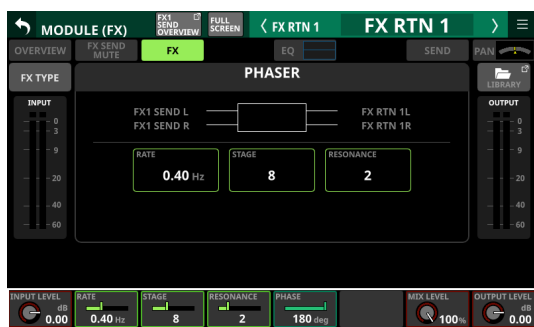
パラメーター名	設定範囲	初期値
RATE	0.05Hz～10.00Hz	0.25Hz
DEPTH	0%～100%	0%
DELAY TIME	0msec～100msec	40msec
HI PASS	22Hz～2.00kHz	125Hz
HI DAMP	500Hz～16.0kHz	3.36kHz
SPREAD	0%～100%	100%

FLANGER



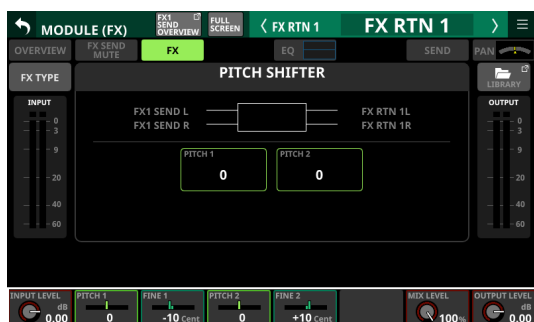
パラメーター名	設定範囲	初期値
RATE	0.05Hz～10.00Hz	0.20Hz
DEPTH	0%～100%	10%
DELAY TIME	0msec～100msec	40msec
PHASE	0deg～180deg	180deg

PHASER



パラメーター名	設定範囲	初期値
RATE	0.05Hz～10.0Hz	0.40Hz
STAGE	4～16	8
RESONANCE	0～10	2
PHASE	0deg～180deg	180deg

PITCH SHIFTER

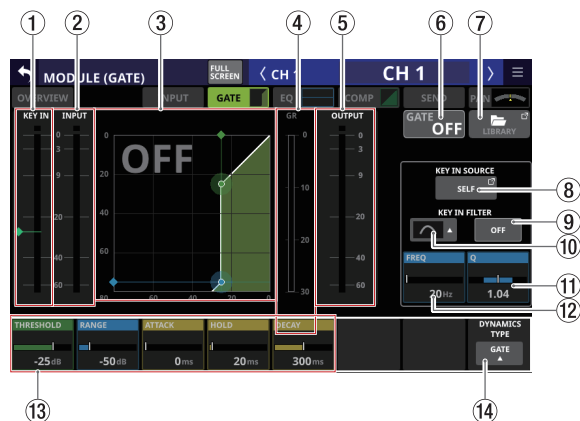


パラメーター名	設定範囲	初期値
PITCH 1	-24～+24	0
FINE 1	-50Cent～+50Cent	-10Cent
PITCH 2	-24～+24	0
FINE 2	-50Cent～+50Cent	+10Cent

MODULE (GATE / EXPANDER / DE-ESSER) 画面

CH1-40モジュールのMODULE (GATE) 画面 / MODULE (EXPANDER) 画面 / MODULE (DE-ESSER) 画面では、GATE / EXPANDER / DE-ESSERの設定を行います。

この画面は、ホーム画面の各モジュールのGATE / EXPANDER / DE-ESSERエリアをタップして表示します。



① KEY IN レベルメーター

GATE / EXPANDER / DE-ESSERへのKEY IN SOURCEの入力レベルを表示します。

メモ

- ステレオモジュールに対するKEY IN SOURCEがステレオモジュールのとき、レベルメーターはステレオ表示になります。
- モノラルモジュールに対するKEY IN SOURCEがステレオモジュールのときは、レベルメーターはモノラル表示になり、L+Rモノのレベルをトリガーとして使用します。

② INPUT レベルメーター

GATE / EXPANDER / DE-ESSERへの入力信号レベルを表示します。

③ ダイナミクス入出力特性グラフ表示

GATE / EXPANDERの入出力特性グラフ、またはDE-ESSER EQの周波数特性グラフを表示します。

④ ゲインリダクションメーター

GATE / EXPANDER / DE-ESSERによるゲインリダクション量をメーター表示します。

⑤ OUTPUT レベルメーター

GATE / EXPANDER / DE-ESSERからの出力信号レベルを表示します。

⑥ GATE / EXPANDER / DE-ESSERのON / OFFボタン

- このボタンをタップすると、ダイナミクスエフェクトのオン / オフが切り換わります。(初期値: OFF)
- オンのとき、このボタン / ダイナミクス入出力特性グラフ表示 / ダイナミクスパラメーターがハイライト表示になります。
- オフのとき、ダイナミクス入出力特性グラフ表示 (②) のグラフエリア左上に大きく「OFF」と表示されます。

⑦ LIBRARY ボタン

このボタンをタップすると、GATE / EXPANDER / DE-ESSERのLIBRARY画面に切り換わります。(→ 254 ページ「各種 LIBRARY画面」)

⑧ KEY IN SOURCE ボタン

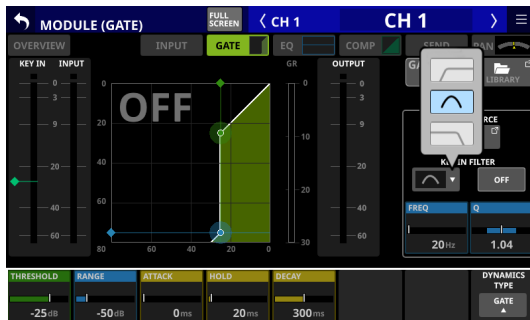
- 選択中のKEY IN ソース名を表示します。(初期値：SELF)
- このボタンをタップすると、KEY IN SOURCE SELECT画面に切り換わります。(→ 202 ページ「KEY IN SOURCE SELECT 画面」)

⑨ KEY IN FILTER ボタン

このボタンをタップすると、KEY IN FILTERのオン／オフが切り換わります。(初期値：OFF)

⑩ KEY IN FILTER TYPE ボタン

- KEY IN FILTERのTYPEを表示します。
- このボタンをタップすると、TYPE選択メニューを表示します。



選択肢：HPF、BPF (初期値)、LPF

⑪ Q

KEY IN FILTER TYPEがバンドパスのときのQ値を調節します。

設定範囲：0.1 ~ 17.31 (初期値：1.04)

選択枠を表示中にLCD ノブ 8 (水色で点灯) を使って調節します。

⑫ FREQ

KEY IN FILTERの周波数を調節します。

設定範囲：20Hz ~ 20kHz (初期値：20Hz)

選択枠を表示中にLCD ノブ 7 (水色で点灯) を使って調節します。

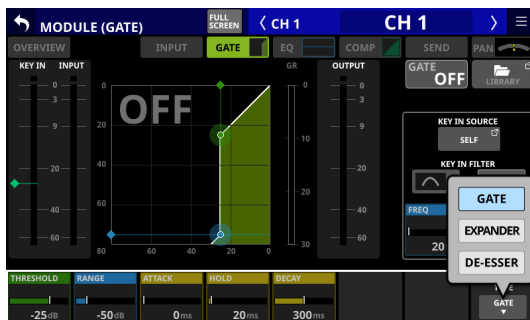
⑬ ダイナミクスパラメーター

GATE / EXPANDER / DE-ESSERの各パラメーターを表示／操作します。

各パラメーターに対応するLCD ノブを使って調節します。

⑭ DYNAMICS TYPE ボタン

- 選択中のダイナミクスタイプ名を表示します。
- このボタンをタップすると、TYPE選択メニューを表示します。



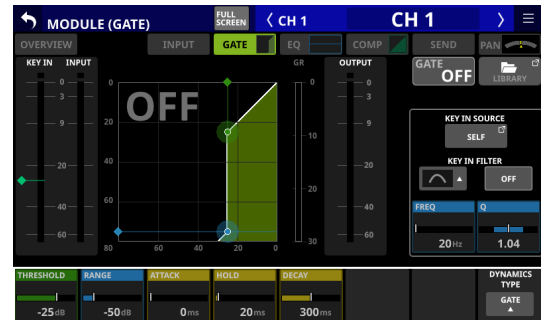
選択肢：GATE (初期値)、EXPANDER、DE-ESSER

ダイナミクスパラメーター

メモ

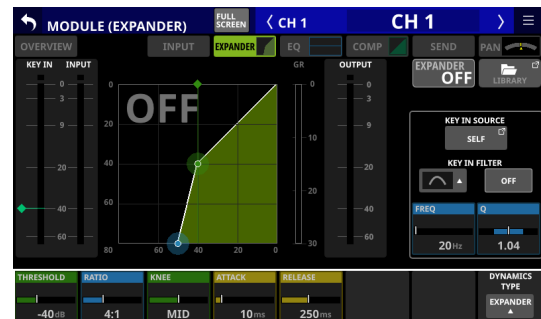
LCD ノブを使って調節します。また、グラフ上の緑や青の◆アイコンや●アイコンをドラッグすることでも調節することができます。

GATE



パラメーター名	設定範囲	初期値
THRESHOLD	-80dB ~ 0dB	-25dB
RANGE	-60dB ~ 0dB	-50dB
ATTACK	0ms ~ 125ms	0ms
HOLD	0ms ~ 990ms	20ms
DECAY	5ms ~ 5.00s	300ms

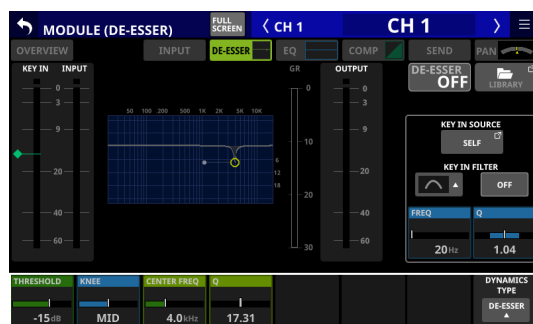
EXPANDER



パラメーター名	設定範囲	初期値
THRESHOLD	-60dB ~ 0dB	-40dB
RATIO	1:1, 2:1, 4:1, 8:1, 16:1, 32:1, 64:1	4:1
KNEE	HARD, MID, SOFT	MID
ATTACK	0ms ~ 125ms	10ms
RELEASE	5ms ~ 5.00s	250ms

第6章 モジュール

DE-ESSER



パラメーター名	設定範囲	初期値
THRESHOLD	-40dB ~ 0dB	-15dB
KNEE	HARD、MID、SOFT	MID
CENTER FREQ	1.0kHz ~ 10kHz	4.0kHz
Q	1.04 ~ 17.31	17.31

メモ

このDE-ESSERのEQグラフのピーク位置は、最大Gain Reduction量を示しています。また、このDE-ESSERはRatio 2 : 1 で動作しています。

そのため、EQグラフのピーク位置の範囲は、Threshold 「-40dB ~ 0dB」 の半分の 「-20dB ~ 0dB」 となります。

MODULE (EQ) 画面

すべてのモジュールのMODULE (EQ) 画面では、HPF (CH 1-40 のみ) とEQの設定を行います。

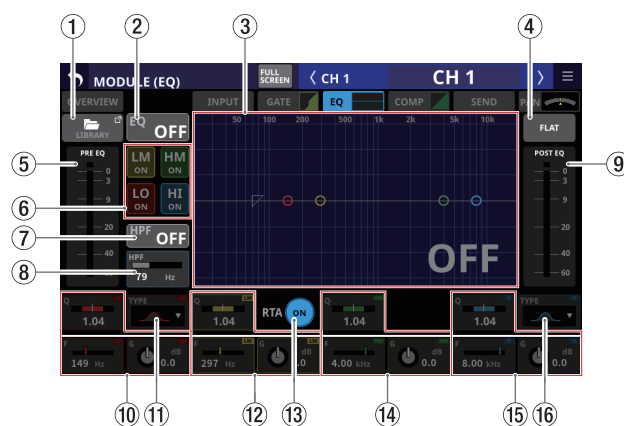
この画面は、ホーム画面の各モジュールのEQエリアをタップして表示します。

各パラメーターやEQグラフ上のポイントは、それぞれ以下のように色分けされています。

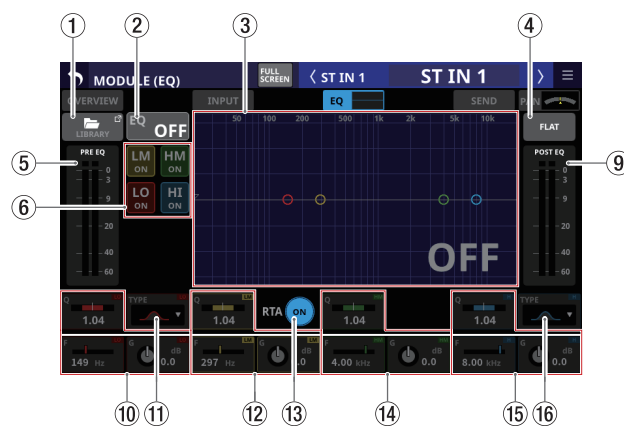
LOバンド：赤色／LMバンド：黄色／HMバンド：緑色／HIバンド：水色

EQパラメーターの並び順は、PREFERENCES画面のEQ parameters order (㉗) で設定した表示モードによって変わります。

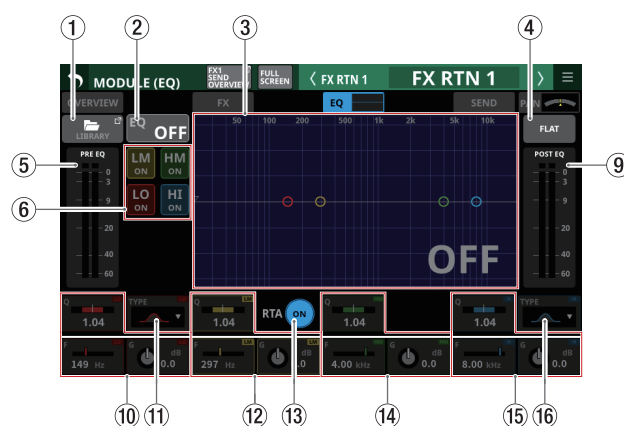
以降は、Type A (初期値) 選択時での説明となっています。(→ 39 ページ「PREFERENCES画面」)



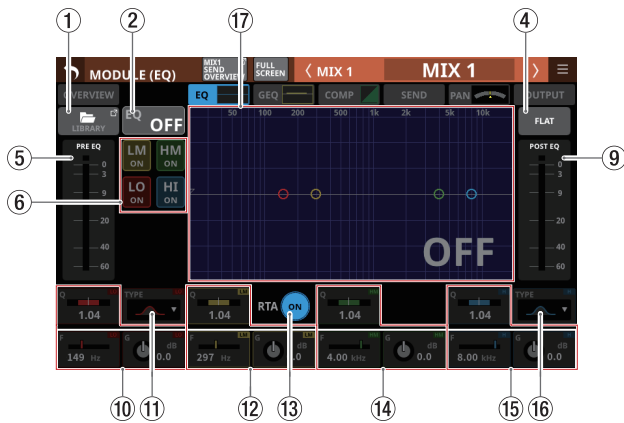
[CH1-40 モジュール]



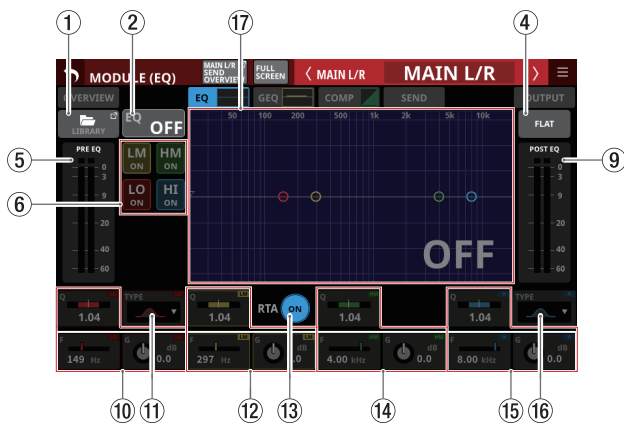
[ST IN1-2 モジュール]



[FX RTN1-4 モジュール]



[MIX1-22 モジュール]



[MAIN L/R マスターモジュール]

① LIBRARY ボタン

このボタンをタップすると、EQのLIBRARY画面に切り換わりします。(→ 254 ページ「各種LIBRARY画面」)

② EQのON / OFF ボタン

このボタンをタップすると、EQのオン／オフが切り換わりします。(初期値：OFF)
 オンのとき、このボタン、HPF / EQ周波数特性グラフ表示のEQ部分およびEQパラメーターがハイライト表示になります。

メモ

HPFは、CH1-40 モジュールにのみ表示します。

③ HPF / EQ周波数特性グラフ表示

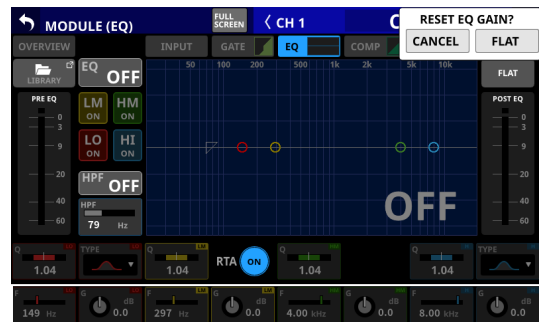
- HPFとEQの周波数特性グラフ表示です。総合的な周波数特性を表示します。また、RTAのパラメーターも表示します。
- HPFとEQがオンのとき、ハイライト表示になります。
- HPFとEQがオフのとき、グレースアウト表示になります。
- HPFまたはEQのいずれかが片方だけがオンのとき、オンの機能の周波数特性だけがハイライト表示になります。
- 周波数特性グラフ表示内の□ / ○ / ● / ● / ● / ● 表示をドラッグすることで、選択されたバンドのGAINやFREQを調節することができます。また、選択されたバンドの○マークから左または右に伸びたバーの先端を左右にドラッグすることで、選択されたバンドのQを調節することができます。
- EQがオフのとき、グラフエリア右下に大きく「OFF」と表示されます。

メモ

HPFは、CH1-40 モジュールにのみ表示します。

④ FLAT ボタン

このボタンをタップすると、すべてのバンドのゲイン設定を「0dB」にリセットするか確認するメッセージを表示します。



FLATボタンをタップすると、EQのゲイン設定を「0dB」に設定します。また、HIバンドのTYPEが「LPF」だった場合は、TYPEを「PEAK」に切り換えます。

⑤ PRE EQ レベルメーター

EQへの入力信号レベルを表示します。

⑥ EQの各バンドのON / OFF ボタン

このボタンをタップすると、EQの各バンドのオン／オフが切り換わります。(初期値：ON)
 オンのとき、対応バンドの設定がグラフ表示部の総合的な周波数特性に反映されます。
 オフのとき、対応するパラメーターがグレースアウト表示になります。また、対応バンドの設定がグラフ表示部の総合的な周波数特性に反映されず、バンド単独での周波数特性がグレーの線で表示されます。

⑦ HPF ボタン (CH1-40 モジュールのみ)

このボタンをタップすると、HPFのオン／オフが切り換わります。(初期値：OFF)
 オンのとき、このボタンとHPF / EQ周波数特性グラフ表示のHPF部分がハイライト表示になります。

⑧ HPF周波数 (CH1-40 モジュールのみ)

HPFのカットオフ周波数を調節します。

設定範囲：20Hz～1.0kHz (初期値：79Hz)

選択枠を表示中にLCDノブ2(青色で点灯)を使って調節します。

⑨ POST EQ レベルメーター

EQからの出力信号レベルを表示します。

⑩ EQパラメーター (LOバンド)

EQのLOバンドの各パラメーターを表示／操作します。
 選択枠を表示中に、対応するLCDノブを使って調節します。

パラメーター名	設定範囲	初期値
G	-18.0dB～+18.0dB	0dB
F	20Hz～20.0kHz	149Hz
Q	0.10～17.31	1.04

メモ

トップパネルのHOMEキーを押しながらEQのゲイン部をタップすると、EQのゲイン設定を「0dB」に設定します。

第6章 モジュール

⑪ TYPE ボタン (LO バンド)

- LO バンドの EQ TYPE を表示します。
- このボタンをタップすると、TYPE 選択メニューを表示します。
選択肢：Bell (初期値)、L.Shelf

⑫ EQ パラメーター (LM バンド)

EQ の LM バンドの各パラメーターを表示／操作します。
選択枠を表示中に、対応する LCD ノブを使って調節します。

パラメーター名	設定範囲	初期値
G	- 18.0dB ~ +18.0dB	0dB
F	20Hz ~ 20.0kHz	297Hz
Q	0.10 ~ 17.31	1.04

メモ

トップパネルの HOME キーを押しながら EQ のゲイン部をタップすると、EQ のゲイン設定を「0dB」に設定します。

⑬ RTA ボタン

このボタンをタップして、タッチスクリーンごとの RTA (リアルタイムアナライザー) 機能のオン／オフを切り換えます。(初期値：ON)

オンのとき、ボタンがハイライト表示になり、入力モジュールでは PRE FADER 位置、出力モジュールでは POST FADER 位置の音声信号の周波数特性メーターを EQ 特性グラフの裏に表示します。

メモ

- RTA メーターは、同時に 3 画面まで表示できます。そのため、タッチスクリーンが 3 つ搭載された Sonicview 24 / 24dp と専用アプリケーション「TASCAM Sonicview Control」の間で、RTA の ON / OFF を以下のルールで排他制御します。
 - Sonicview 24 / 24dp でタッチスクリーンが 3 つとも RTA を「ON」の EQ 画面または GEQ 画面を表示しているときに、専用アプリケーション「TASCAM Sonicview Control」の EQ 画面または GEQ 画面で RTA を「OFF」から「ON」に切り換えた場合は、最初に RTA を「ON」にした Sonicview 24 / 24dp の EQ 画面または GEQ 画面の RTA が自動的に「OFF」に切り換わります。
 - 上記の状態では Sonicview 24 / 24dp の EQ 画面または GEQ 画面の RTA を「OFF」から「ON」に切り換えると、専用アプリケーション「TASCAM Sonicview Control」の EQ 画面または GEQ 画面の RTA が自動的に「OFF」に切り換わります。
- タッチスクリーンが 2 つ搭載された Sonicview 16 / 16dp の場合、専用アプリケーション「TASCAM Sonicview Control」の EQ 画面や GEQ 画面を加えても最大で同時に 3 画面ですので、このような排他制御は行いません。

⑭ EQ パラメーター (HM バンド)

EQ の HM バンドの各パラメーターを表示／操作します。
選択枠を表示中に、対応する LCD ノブを使って調節します。

パラメーター名	設定範囲	初期値
G	- 18.0dB ~ +18.0dB	0dB
F	20Hz ~ 20.0kHz	4.0kHz
Q	0.10 ~ 17.31	1.04

メモ

トップパネルの HOME キーを押しながら EQ のゲイン部をタップすると、EQ のゲイン設定を「0dB」に設定します。

⑮ EQ パラメーター (HI バンド)

EQ の HI バンドの各パラメーターを表示／操作します。
選択枠を表示中に、対応する LCD ノブを使って調節します。

パラメーター名	設定範囲	初期値
G	- 18.0dB ~ +18.0dB	0dB
F	20Hz ~ 20.0kHz	8.0kHz
Q	0.10 ~ 17.31	1.04

メモ

トップパネルの HOME キーを押しながら EQ のゲイン部をタップすると、EQ のゲイン設定を「0dB」に設定します。

⑯ TYPE ボタン (HI バンド)

- HI バンドの EQ TYPE を表示します。
- このボタンをタップすると、TYPE 選択メニューを表示します。
選択肢：Bell (初期値)、H.Shelf、LPF

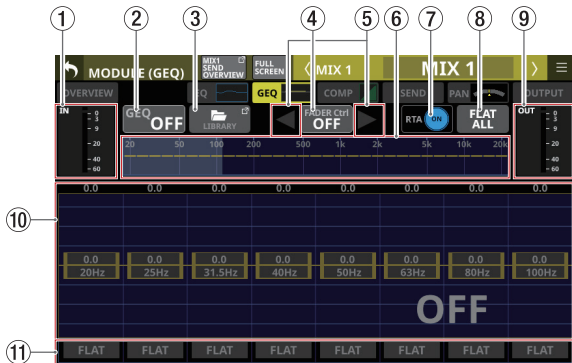
⑰ EQ / GEQ 周波数特性グラフ表示

- EQ と GEQ の周波数特性グラフ表示です。総合的な周波数特性を表示します。また、RTA のバーメーターも表示します。
- EQ と GEQ がオンのとき、EQ と GEQ の特性を合算したグラフをハイライト表示します。
- EQ と GEQ がオフのとき、GEQ なし / EQ グラフのみの特性グラフをグレースアウト表示します。
- EQ オン / GEQ オフのとき、EQ のみの特性グラフをハイライト表示します。
- EQ オフ / GEQ オンのとき、EQ のみの特性グラフをグレースアウト表示し、GEQ のみの特性グラフをハイライト表示します。

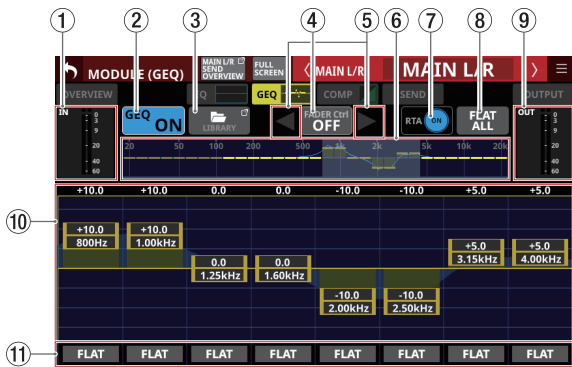
MODULE (GEQ) 画面

MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/RマスターモジュールのMODULE (GEQ) 画面では、GEQの設定を行います。

この画面は、ホーム画面の各モジュールのGEQエリアをタップして表示します。



「GEQ OFF状態のMIX1-22 モジュールのMODULE (GEQ) 画面」



「GEQ ON状態のMAIN L/RマスターモジュールのMODULE (GEQ) 画面」

① IN レベルメーター

GEQへの入力信号レベルを表示します。

② GEQのON / OFF ボタン

このボタンをタップすると、GEQのオン／オフが切り換わります。オンのとき、このボタンとGEQ全体設定グラフ表示（⑥）およびLCDノブ操作対象バンド帯域のGEQ設定表示（⑩）がハイライト表示になります。

③ LIBRARY ボタン

このボタンをタップすると、GEQのLIBRARY画面に切り換わります。（→ 254 ページ「各種LIBRARY画面」）

④ GEQのFADER CtrlのON / OFF ボタン

- このボタンをタップして、GEQのFADER Ctrl機能（GEQのGAIN設定をチャンネルフェーダーで操作する機能）のオン／オフを切り換えます。
- GEQのFADER Ctrl機能をオンに切り換えると、ボタンがハイライト表示になり、FADERがGEQのGAIN値に対応した位置に移動します。また、全画面モードが自動的にオンに切り換わり、全画面がMODULE (GEQ) 画面になります。



- GEQのFADER Ctrl機能がオンのとき、FADERを操作して対応する周波数のGEQ GAIN値を調節します。
- GEQのFADER Ctrl機能がオンのときにGEQ以外のタブ画面を選択すると、全画面モードとFADER Ctrl機能が自動的にオフに切り換わります。
- GEQのFADER Ctrl機能がオンのとき、各チャンネルのSELキーが点灯します。ゲイン調節を行った周波数のSELキーを押すと、対応する周波数のゲイン設定を「0dB」にリセットします。
- GEQのFADER Ctrl機能をオフに切り換えると、ボタンがグレイアウト表示になり、FADERが通常の位置に戻ります。また、全画面モードが自動的にオフになります。
- GEQのFADER Ctrl機能がオンのとき、チャンネル画面の表示がGEQ FADER CTRLモードに切り換わります。

メモ

- GEQのFADER Ctrl機能がオンのとき、全画面モードは「オン」に固定され、オフにできません。
- GEQのFADER Ctrl機能がオンのとき、LAYERキー操作は無効になります。

⑤ GEQのFADER Ctrlの操作帯域選択ボタン

GEQのFADER Ctrl機能がオンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

このボタンをタップして、GEQの操作帯域を切り換えます。

◀ ボタンをタップすると、操作帯域を低域に切り換えます。

▶ ボタンをタップすると、操作帯域を高域に切り換えます。

⑥ GEQ全体設定グラフ表示

- 31 バンド全体のGEQゲイン設定を表示します。
- RTAのバーメーターを表示します。
- LCDノブでの操作対象バンド帯域を白い四角形で表示します。
- EQとGEQの総合的な周波数特性を表示します。

- EQとGEQがオンのとき、EQとGEQの特性を合算したグラフをハイライト表示します。
- EQとGEQがオフのとき、特性グラフは表示しません。
- EQオン／GEQオフのとき、EQのみの特性グラフをハイライト表示します。
- EQオフ／GEQオンのとき、GEQのみの特性グラフをハイライト表示します。

⑦ RTAボタン

このボタンをタップして、タッチスクリーンごとのRTA（リアルタイムアナライザー）機能のオン／オフを切り換えます。（初期値：ON）

オンのとき、ボタンがハイライト表示になり、POST FADER位置の音声信号の周波数特性メーターをGEQ全体設定グラフ表示（⑥）とLCDノブ操作対象バンド帯域のGEQ設定表示（⑩）の裏に表示します。

メモ

- RTAメーターは、同時に3画面まで表示できます。そのため、タッチスクリーンが3つ搭載されたSonicview 24 / 24dpと専用アプリケーション「TASCAM Sonicview Control」の間で、RTAのON / OFFを以下のルールで排他制御します。
 - Sonicview 24 / 24dpでタッチスクリーンが3つともRTAを「ON」のEQ画面またはGEQ画面を表示しているときに、専用アプリケーション「TASCAM Sonicview Control」のEQ画面またはGEQ画面でRTAを「OFF」から「ON」に切り換えた場合は、最初にRTAを「ON」にしたSonicview 24 / 24dpのEQ画面またはGEQ画面のRTAが自動的に「OFF」に切り換わります。
 - 上記の状態でSonicview 24 / 24dpのEQ画面またはGEQ画面のRTAを「OFF」から「ON」に切り換えると、専用

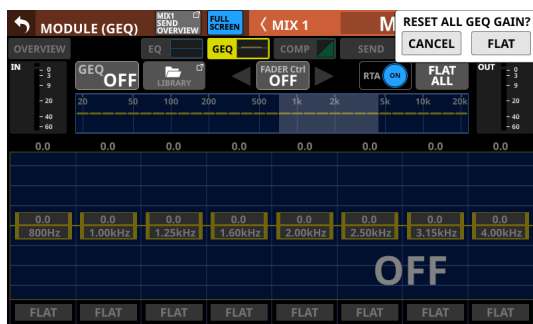
第6章 モジュール

アプリケーション「TASCAM Sonicview Control」のEQ画面またはGEQ画面のRTAが自動的に「OFF」に切り換わります。

- タッチスクリーンが2つ搭載されたSonicview 16 / 16dpの場合、専用アプリケーション「TASCAM Sonicview Control」のEQ画面やGEQ画面を加えても最大で同時に3画面ですので、このような排他制御は行いません。

⑧ FLAT ALL ボタン

このボタンをタップすると、GEQの全周波数のゲイン設定を「0dB」にリセットするか確認するメッセージを表示します。



FLAT ボタンをタップすると、全バンドのゲイン設定を「0dB」に設定します。

⑨ OUT レベルメーター

GEQからの出力信号レベルを表示します。

⑩ LCD ノブ 操作対象バンド 帯域のGEQ設定表示

- LCD ノブでの操作対象に選択されたバンド 帯域のゲイン設定を表示します。LCD ノブでの操作対象バンド 帯域は、GEQ 全体設定グラフ表示 (⑥) をタッチすることで選択します。表示部の黄色いノブを上下にドラッグして、またはLCD ノブを使ってゲインを調節します。
- RTAのバーメーターを表示します。
- EQとGEQの総合的な周波数特性を表示します。
 - EQとGEQがオンのとき、EQとGEQの特性を合算したグラフをハイライト表示します。
 - EQとGEQがオフのとき、特性グラフは表示しません。
 - EQオン / GEQオフのとき、EQのみの特性グラフをハイライト表示します。
 - EQオフ / GEQオンのとき、GEQのみの特性グラフをハイライト表示します。
 - GEQがオフのとき、エリア右下に大きく「OFF」と表示されます。

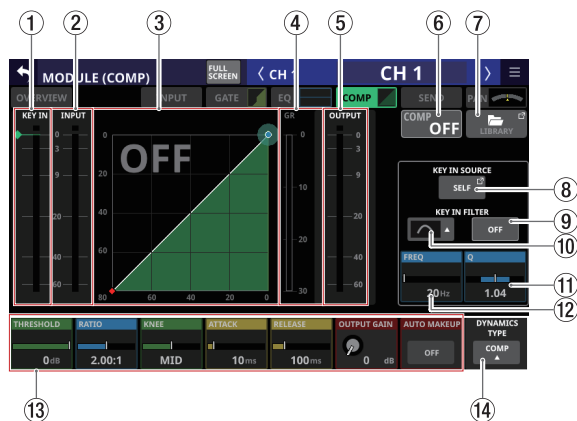
⑪ FLAT ボタン

このボタンをタップすると、対応するバンドのゲイン設定を「0dB」に設定します。

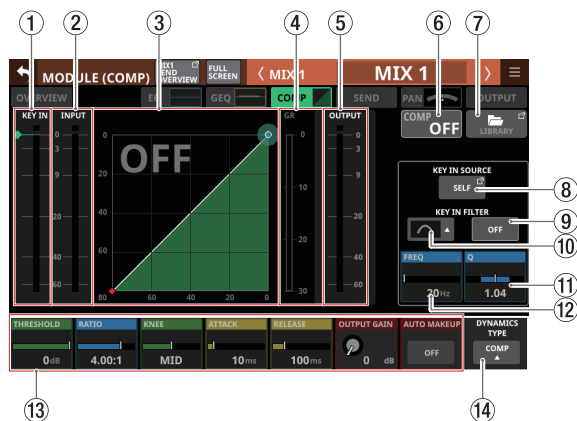
MODULE (COMP / DUCKER) 画面

CH1-40 モジュール、MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/R マスターモジュールのMODULE (COMP) 画面 / MODULE (DUCKER) 画面では、COMP / DUCKERの設定を行います。

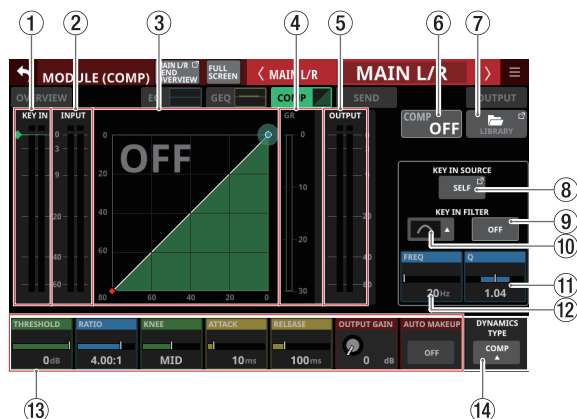
この画面は、ホーム画面の各モジュールのCOMP / DUCKERエリアをタップして表示します。



[CH1-40 モジュール]



[MIX1-22 モジュール]



[MAIN L/R マスターモジュール]

① KEY IN レベルメーター

COMP / DUCKERへのKEY IN SOURCEの入力レベルを表示します。

メモ

- ステレオモジュールに対するKEY IN SOURCEがステレオモジュールのとき、レベルメーターはステレオ表示になります。
- モノラルモジュールに対するKEY IN SOURCEがステレオモジュールのときは、レベルメーターはモノラル表示になり、L+Rモノのレベルをトリガーとして使用します。

② INPUT レベルメーター

COMP / DUCKERへの選択したモジュールの入力信号レベルを表示します。

③ ダイナミクス入出力特性グラフ表示

COMP / DUCKERの入出力特性グラフを表示します。

④ ゲインリダクションメーター

COMP / DUCKERによるゲインリダクション量をメーター表示します。

⑤ OUTPUT レベルメーター

COMP / DUCKERからの出力信号レベルを表示します。

⑥ COMP / DUCKERの ON / OFF ボタン

このボタンをタップすると、ダイナミクスエフェクトのオン／オフが切り換わります。(初期値：OFF)
 オンのとき、このボタン、ダイナミクス入出力特性グラフ表示およびダイナミクスパラメーターがハイライト表示になります。
 オフのとき、ダイナミクス入出力特性グラフ表示(③)のグラフエリア左上に大きく「OFF」と表示されます。

⑦ LIBRARY ボタン

このボタンをタップすると、COMP / DUCKERのLIBRARY画面に切り換わります。(→ 254 ページ「各種LIBRARY画面」)

⑧ KEY IN SOURCE ボタン

- 選択中のKEY IN ソース名を表示します。(初期値：SELF)
- このボタンをタップすると、KEY IN SOURCE SELECT画面に切り換わります。(→ 202 ページ「KEY IN SOURCE SELECT 画面」)

⑨ KEY IN FILTER ボタン

このボタンをタップすると、KEY IN FILTERのオン／オフが切り換わります。(初期値：OFF)

⑩ KEY IN FILTER TYPE ボタン

- KEY IN FILTERのTYPEを表示します。
- このボタンをタップすると、TYPE選択メニューを表示します。

⑪ Q

KEY IN FILTER TYPEがバンドパスのときのQ値を調節します。

設定範囲：0.1 ~ 17.31 (初期値：1.04)

選択枠を表示中にLCD ノブ 8 (水色で点灯) を使って調節します。

⑫ FREQ

KEY IN FILTERの周波数を調節します。

設定範囲：20Hz ~ 20kHz (初期値：20Hz)

選択枠を表示中にLCD ノブ 7 (水色で点灯) を使って調節します。

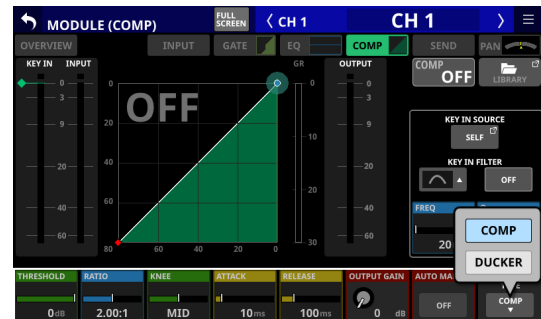
⑬ ダイナミクスパラメーター

COMP / DUCKERの各パラメーターを表示／操作します。

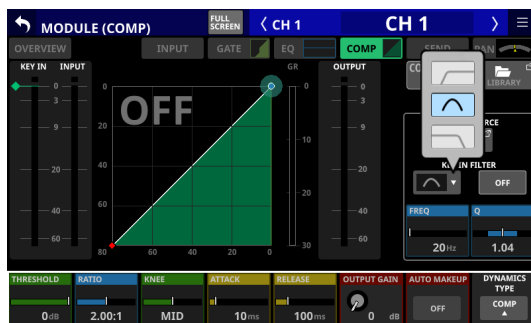
選択枠を表示中の対応LCD ノブやボタンのタップで設定を変更します。

⑭ DYNAMICS TYPE ボタン

- 選択中のダイナミクスタイプ名を表示します。(初期値：COMP)
- この部分をタップすると、TYPE選択メニューを表示します。



選択肢：COMP (初期値)、DUCKER



選択肢：HPF、BPF (初期値)、LPF

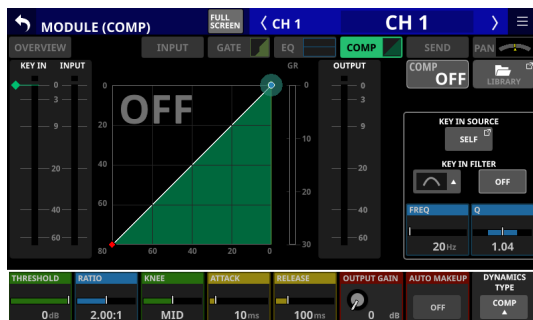
第6章 モジュール

ダイナミクスパラメーター

メモ

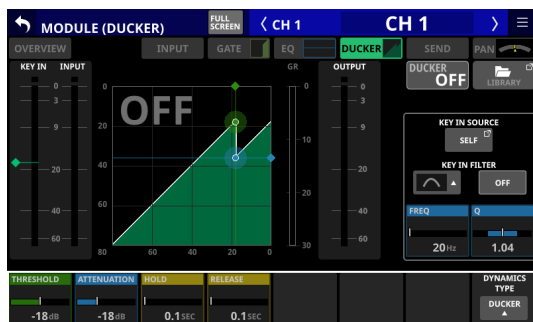
LCD ノブやボタンのタップで設定を変更します。また、グラフ上の緑や青の◆アイコンや●アイコンをドラッグすることでも調節することができます。

COMP



パラメーター名	設定範囲	初期値
THRESHOLD	-49dB ~ 0dB	-10dB
RATIO	1.00 : 1 ~ ∞ : 1	2.50 : 1
KNEE	HARD、HARD MID、MID、SOFT MID、SOFT、SMOOTH	CH1-40 : MID MIX1-22、MAIN L/R : SMOOTH
ATTACK	0.1ms ~ 125ms	30ms
RELEASE	5ms ~ 5.00s	230ms
OUTPUT GAIN	0dB ~ +20dB	0dB
AUTO MAKEUP	OFF、ON	OFF

DUCKER



パラメーター名	設定範囲	初期値
THRESHOLD	-60dB、-54dB、-48dB、-42dB、-36dB、-30dB、-24dB、-18dB、-12dB、-6dB	-18dB
ATTENUATE	-∞、-24dB、-18dB、-12dB、-9dB、-6dB、-3dB	-18dB
HOLD	0.1sec ~ 5.0sec	1.0sec
RELEASE	0.1sec ~ 5.0sec	3.0sec

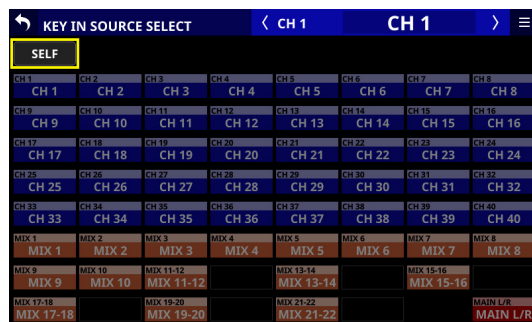
KEY IN SOURCE SELECT画面

この画面は、MODULE (COMP) 画面またはMODULE (DUCKER) 画面のKEY IN SOURCE ボタンをタップして表示します。

COMP / DUCKERのKEY IN ソースを以下のボタンから選択します。

- SELF (初期値)
- CH1-40
- MIX1-22
- MAIN L/R

選択したボタンがハイライト表示になります。



メモ

- DYNAMICS TYPE = CompのときのKEY IN SOURCEは、Pre Compの信号です。
- DYNAMICS TYPE = DUCKERのときのKEY IN SOURCEは、POST Fader/MUTEの信号です。

MODULE (SEND/PAN) 画面

MODULE (SEND/PAN) 画面では、以下の設定を行います。

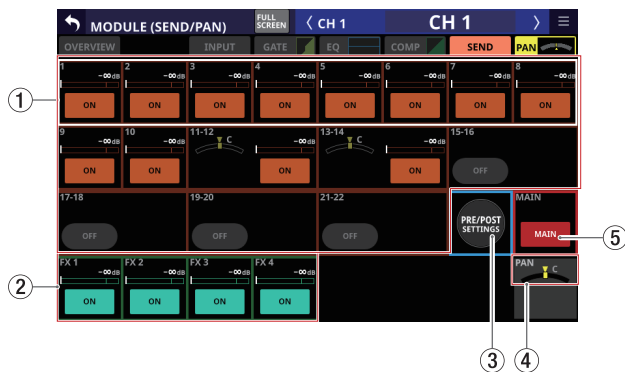
- MIX1-22 バスへの SEND レベル、SEND PAN、ON / OFF、PRE / POST
- FX1-4 バスへの SEND レベル、ON / OFF、PRE / POST
- PAN / BAL
- MAIN L/Rバスへのアサイン

Stereo Link設定がオンのCH1-40 モジュール、ST IN 1-2 モジュールおよびFX RTN 1-4 モジュールでは、以下の設定も行います。

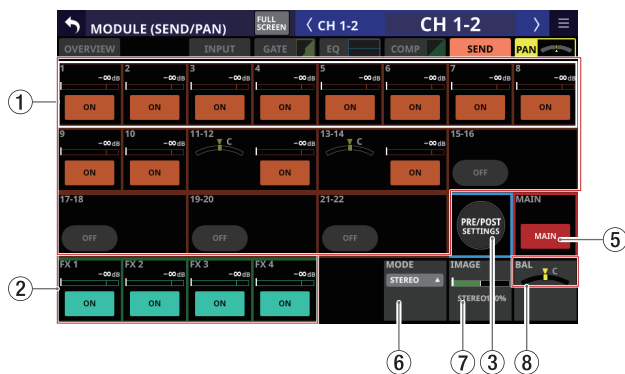
- MODE
- IMAGE

この画面は、ホーム画面の各モジュールの下記エリアをタップして表示します。

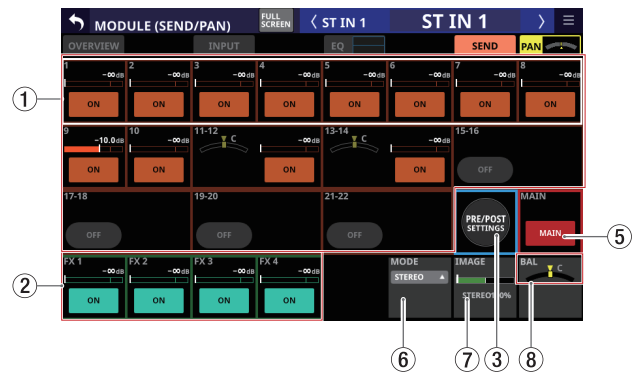
- SEND/PAN ボタン
- 選択枠が表示された SEND エリア
- 選択枠が表示された PAN / BAL エリア



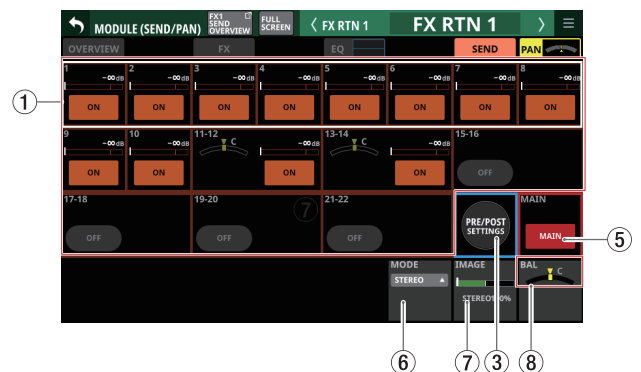
[CH1-40 モジュール]



[CH1-40 モジュール・Stereo Link設定オン]



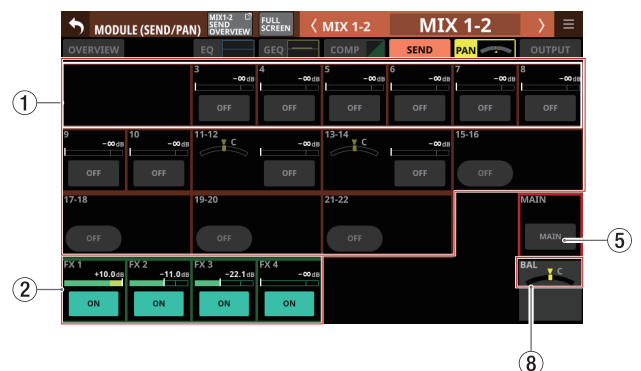
[ST IN1-2 モジュール]



[FX RTN1-4 モジュール]

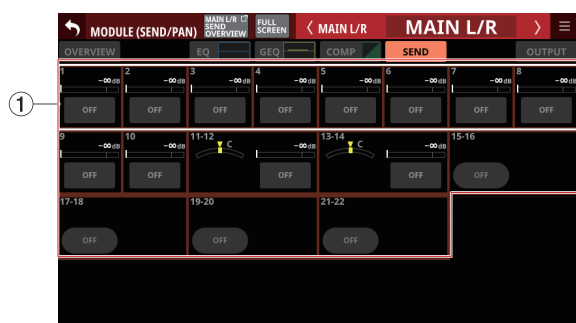


[MIX1-22 モジュール]



[MIX1-22 モジュール・Stereo Link設定オン]

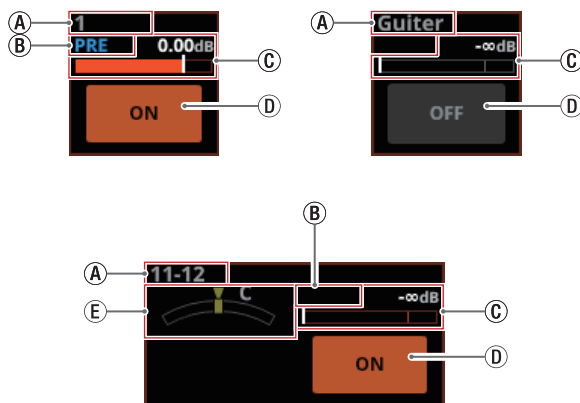
第6章 モジュール



[MAIN L/R マスターモジュール]

① MIX1-22 バスへのSENDレベル、SEND PANおよびON / OFFボタン

MIX1-22 バスへのSENDの設定状態を表示します。ボタン以外のエリアをタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中に、対応するLCDノブを使って、表示中のSENDレベルやSEND PANを調節します。



① MIX1-22 モジュールのMODULE LABEL Mainで設定された表示モードのMODULE LABELを表示します。ただし、以下の場合には「MIX 1」のようなFIXED MODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」)

- MODULE LABEL Mainの表示モードが「FIXED」の場合
- MODULE LABEL Mainの表示モードが「USER」で、該当MIXモジュールのUSER MODULE LABELが未定義の場合

② MIX1-22 バスに送り出す位置の設定状態を表示します。

表示なし	POST FADERに設定
PRE	PRE FADERに設定

③ MIX1-22 バスへのSENDレベルを調節します。選択枠を表示中に、対応するLCDノブ（オレンジ色で点灯）を使って調節します。

アサインON	オレンジ色にハイライト表示
アサインOFF	グレイアウト表示

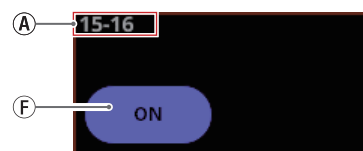
設定範囲：-∞dB ～ +10dB（初期値：-∞dB）

④ このボタンをタップすると、MIX1-22 バスへの送り出し信号のオン／オフが切り換わります。

モジュール	初期値
CH1-40 / ST IN1-2 / FX RTN1-4	ON
MIX1-22 / MAIN L/R マスター	OFF

⑤ MIX1-22 バスへ送り出す信号のSEND PANを調節します。選択枠を表示中に対応するLCDノブ（黄色で点灯）を使って調節します。

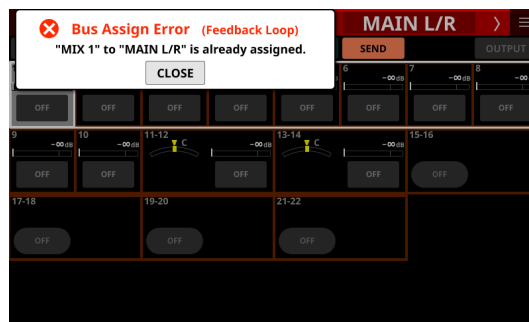
設定範囲：L100 ～ C～ R100（初期値：C）



⑥ GROUPバスに設定しているMIX1-22 モジュールは、角丸ボタンを表示します。ボタンをタップして、オン／オフを切り換えます。

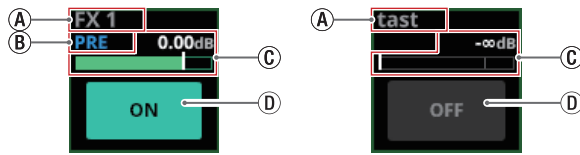
メモ

- 215 ページ「MIX1-22 バスのSEND OVERVIEW画面」で、各バスに対するSEND設定の一覧表示／操作ができます。
- トップパネルのHOMEキーを押しながらSENDレベル部分をタップすると、タップしたバスのSENDレベルを「0dB」に設定します。
- トップパネルのHOMEキーを押しながらSEND PAN部分をタップすると、タップしたバスのSEND PANを中央（C）に設定します。
- Stereo Link設定がオンのMIX1-22 バスは、番号の小さいバスのエリアにPAN状態を表示し、番号の大きいバスのエリアにレベルとボタンを表示します。
- PAN LINK設定が「オン」に設定されているバスのSEND PANパラメーターは、暗い色で表示されてタップしても選択状態にならず、操作できません。PAN / BALの設定に連動します。
- MIX1-22 モジュールを選択時は、選択したモジュールと同じバスへのSENDレベルやボタンは表示しません。
- MIX1-22 バスからMAIN L/RバスへのアサインがすでにONの状態、MAIN L/RマスターモジュールのこのMIXのボタンをONにしようとすると、Feedback Loopを防止するため、下記エラーメッセージが表示され、ONにできません。



② FX1-4 バスへの SEND レベルおよび ON / OFF ボタン

FX1-4 バスへの SEND の設定状態を表示します。
ボタン以外のエリアをタップすると、選択枠を表示します。選択枠を表示中に、対応する LCD ノブを使って、表示中の SEND レベルを調節します。



① FX RTN1-4 モジュールの MODULE LABEL Main で設定された表示モードの MODULE LABEL を表示します。ただし、以下の場合には、「FX1」のような FIXED MODULE LABEL を表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODE タブ画面」)

- MODULE LABEL Main の表示モードが「FIXED」の場合
- MODULE LABEL Main の表示モードが「USER」で、該当 FX RTN モジュールの USER MODULE LABEL が未定義の場合

③ FX1-4 バスに送り出す位置の設定状態を表示します。

表示なし	POST FADER に設定
PRE	PRE FADER に設定

④ FX1-4 バスへの SEND レベルを調節します。選択枠を表示中に、対応する LCD ノブ (緑色で点灯) を使って調節します。

アサイン ON	緑色にハイライト表示
アサイン OFF	グレイアウト表示

設定範囲: $-\infty$ dB ~ +10 dB (初期値: $-\infty$ dB)

① このボタンをタップすると、FX1-4 バスへの送り出し信号のオン/オフが切り換わります。

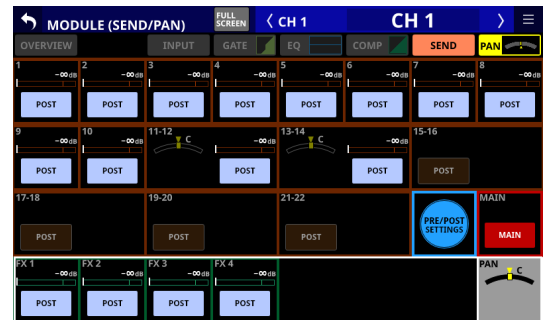
選択肢: ON (初期値)、OFF

メモ

- 選択したモジュールが FX RTN1-4 モジュールおよび MAIN L/R マスターモジュールのときには表示しません。
- 218 ページ「FX1-4 バスの SEND OVERVIEW 画面」で、各バスに対する SEND 設定の一覧表示/操作ができます。
- トップパネルの HOME キーを押しながら SEND レベル部分をタップすると、タップしたバスの SEND レベルを「0dB」に設定します。

③ PRE/POST SETTINGS ボタン

このボタンをタップしてボタンがハイライト表示になると、各バスの ON / OFF ボタンが PRE / POST 設定のボタン表示に切り換わります。



各ボタンをタップすると、MIX1-22 バスおよび FX1-4 バスに送り出す位置が切り換わります。

選択肢: PRE、POST (初期値)

メモ

- 選択したモジュールが CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールのときにのみ表示します。
- 215 ページ「MIX1-22 バスの SEND OVERVIEW 画面」と 218 ページ「FX1-4 バスの SEND OVERVIEW 画面」の PRE / POST (INPUT) タブ画面で、各バスに対する PRE / POST 設定の一覧表示/操作ができます。

④ PAN 表示 (モノラルモジュール時のみ表示)

MAIN L / R バスに送り出す信号のパンを調節します。

設定範囲: L100 ~ C ~ R100 (初期値: C)

選択枠を表示中に LCD ノブ 8 (黄色で点灯) を使って調節します。

メモ

- 220 ページ「MAIN L/R バスの SEND OVERVIEW 画面」の SEND PAN (INPUT) タブ画面と SEND PAN (BUS) タブ画面で、MAIN L/R バスに対する PAN / BAL 設定の一覧表示/操作ができます。
- PAN の設定が中央 (C) のとき、3dB 下げられた信号が MAIN L/R バスの L バスと R バスの両方に送られます。
- トップパネルの HOME キーを押しながらこの部分をタップすると、PAN の設定を中央 (C) に設定します。

第6章 モジュール

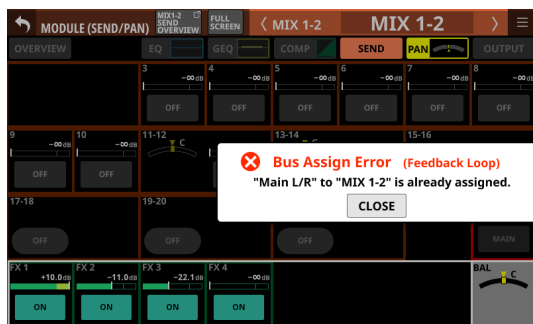
⑤ MAIN ボタン

このボタンをタップすると、MAIN L/Rバスへのアサインのオン／オフが切り換わります。
 オンのとき、ボタンがハイライト表示になり、信号がMAIN L/Rバスに送られます。

モジュール名	初期値
CH1-40	オン
ST IN1-2	オン
FX RTN1-4	オン
MIX1-22	オフ

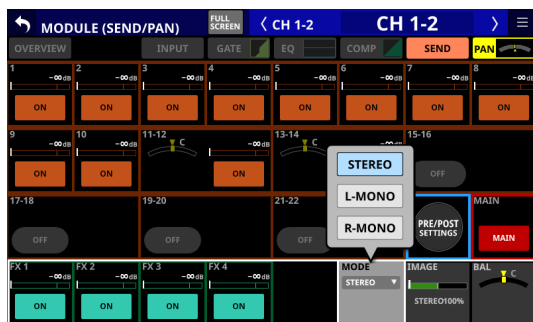
メモ

- 220 ページ「MAIN L/Rバスの SEND OVERVIEW画面」の ON/OFF (INPUT) タブ画面と ON/OFF (BUS) タブ画面で、MAIN L/Rバスへのアサイン設定の一覧表示／操作ができます。
- 選択したモジュールが MAIN L/R マスターモジュールのときには、表示しません。
- MAIN L/R マスターモジュールから選択された MIX1-22 バスへのアサインがすでに ON の状態で、MIX1-22 モジュールのこのボタンを ON にしようとすると、Feedback Loop を防止するため、下記エラーメッセージが表示され、ON にできません。



⑥ MODE

- 選択中の設定値を表示します。
- この部分をタップすると、ステレオモジュールの入力信号をステレオ信号として扱うか、LチャンネルまたはRチャンネルのいずれか一方のモノラル信号として扱うかを選択する設定のウィンドウを表示します。



選択肢	内容
STEREO (初期値)	2つの入力信号をステレオ信号としてモジュールに入力します。
L-Mono	2つの入力信号のL側だけをモノ信号としてモジュールに入力します。
R-Mono	2つの入力信号のR側だけをモノ信号としてモジュールに入力します。

メモ

- 選択した CH1-40 モジュールの Stereo Link 設定がオンのとき、または ST IN1-2 モジュール／FX RTN1-4 モジュールのときのみ表示します。
- 「L-Mono」または「R-Mono」を選択したときは、BAL 設定が PAN 設定として機能します。

⑦ IMAGE

ステレオ信号のイメージ幅を調節します。
 左一杯が通常のステレオで、右に回していくと次第にステレオ幅が狭まり、センターでモノラルになります。さらに右に回していくと、定位が逆になり、右一杯まで回すと、左右が完全に逆転します。

設定範囲：STEREO100%～MONO～REVERSE100%
 (初期値：STEREO100%)

選択枠を表示中に LCD ノブ 7 (緑色で点灯) を使って調節します。

メモ

選択した CH1-40 モジュールの Stereo Link 設定がオンのとき、または ST IN 1-2/FX RTN 1-4 のときのみ表示します。

⑧ BAL表示 (ステレオモジュールのときのみ表示)

MAIN L/Rバスに送り出す信号のバランスを調節します。

設定範囲：L100～C～R100 (初期値：C)

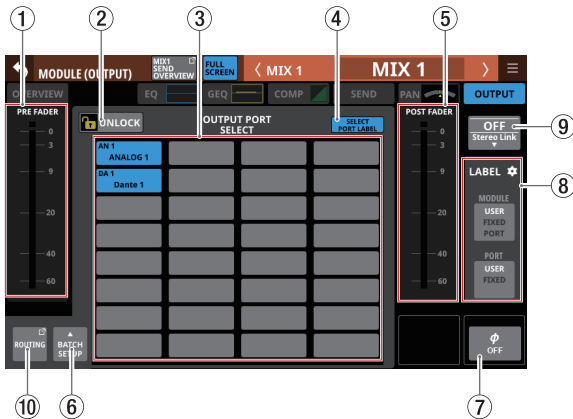
選択枠を表示中に LCD ノブ 8 (黄色で点灯) を使って調節します。

メモ

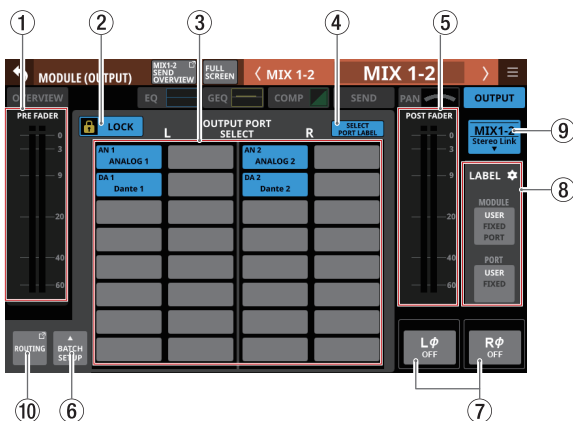
- 220 ページ「MAIN L/Rバスの SEND OVERVIEW画面」の SEND PAN (INPUT) タブ画面と SEND PAN (BUS) タブ画面で、MAIN L/Rバスに対する PAN / BAL 設定の一覧表示／操作ができます。
- 選択したモジュールが MAIN L/R マスターモジュールのときには表示しません。
- BAL の設定が中央 (C) のとき、Lチャンネルの信号が MAIN Lバス、Rチャンネルの信号が MAIN Rバスに、0dBで送られます。
- トップパネルの HOME キーを押しながらこの部分をタップすると、バランスの設定を中央 (C) に設定します。

MODULE (OUTPUT) 画面

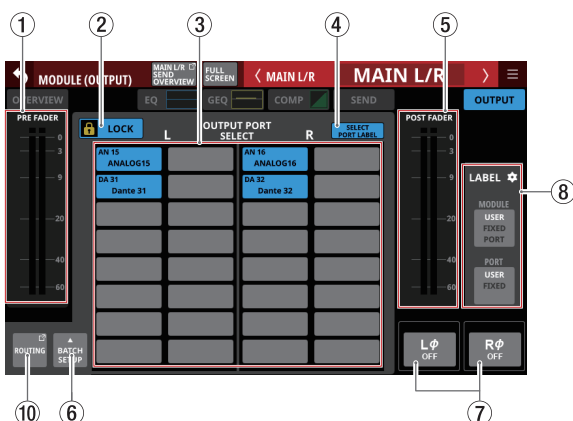
MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/RマスターモジュールのMODULE (OUTPUT) 画面では、モジュールの出力の設定を行います。この画面は、MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/Rマスターモジュールのホーム画面上部のOUTPUTエリアをタップして表示します。



[MIX1-22 モジュール]



[MIX1-22 モジュール・Stereo Link設定オン]



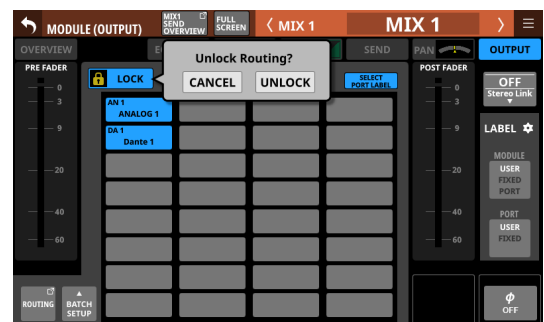
[MAIN L/R マスターモジュール]

① PRE FADER レベルメーター

PRE FADERの信号レベルを表示します。

② LOCK / UNLOCK切り換えボタン

- 本機のルーティング設定変更操作のロック／アンロックを切り換えるボタンです。起動時は、必ずロック状態になっています。
- 「LOCK」時は、BATCH SETUPボタンの操作はできません。ただし、OUTPUT PORT SELECT表示エリア（③）をタップしてOUTPUT PORT SELECT画面に切り換えることは可能です。
- 「LOCK」時にこのボタンをタップすると、確認メッセージが表示されます。確認メッセージでUNLOCKボタンをタップすると、メッセージを閉じて「UNLOCK」に切り換わります。確認メッセージでCANCELボタンをタップすると、メッセージを閉じてロック状態を維持します。



- 「UNLOCK」時にこのボタンをタップすると、「LOCK」に切り換わります。

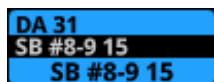
メモ

LOCK / UNLOCK切り換えボタン（②）の設定は、下記ルーティング設定画面で共通の設定です。

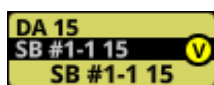
- MODULE (INPUT) 画面
- MODULE (OUTPUT) 画面
- INPUT SOURCE SELECT画面
- OUTPUT PORT SELECT画面
- DIRECT OUT PORT SELECT画面
- INSERT SEND PORT SELECT画面
- INSERT RETURN PORT SELECT画面
- TALKBACK INPUT SELECT画面
- TALKBACK EXT1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- TALKBACK EXT2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- Return TALKBACK EXT DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 1 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 DIRECT OUT PORT SELECT画面
- MONITOR 2 OUTPUT PORT SELECT画面
- Solo DIRECT OUT PORT SELECT画面
- ルーティング画面

③ OUTPUT PORT SELECT表示エリア

- このエリアには、選択したモジュールの信号がアサインされた出力ポートを表示します。
1行目には、省略されたFIXED PORT LABELを表示します。
2行目には、USER PORT LABELを表示します。USER PORT LABELが未定義の場合は、FIXED PORT LABELを表示します。
- モノラルモジュールの場合、最大 32 ポートまで表示できます。
- ステレオモジュールの場合、1 モジュールにつき最大 16 ポートまで表示できます。
- アサインされた出力ポート数が上記を超えている場合、該当エリア右下に「...」と表示します。
- このエリアをタップすると、タップした出力ポートがある OUTPUT PORT SELECT画面に切り換わります。(→ 157 ページ「OUTPUT PORT SELECT画面」)
- マウント済みSB-16Dがアサインされた Dante ポートを選択した場合は、以下のように表示します。
 - 1 行目：DA ポート番号
 - 2 行目：SB #[ID] ポート番号
 - 3 行目：USER PORT LABEL、USER PORT LABELが未定義の場合は「SB #[ID] ポート番号」



- パーチャルマウントされたSB-16Dの Dante ポートの場合は、アサインしたボタンが黄色でハイライト表示になります。



④ SELECT PORT LABEL ボタン

- 該当モジュールにアサインされた複数の出力ポートのなかから、PORT LABELとして表示したいものを 1 つだけ選択するモードに切り換えるボタンです。
- このボタンをタップすると、SELECT PORT LABEL モードに切り換わります。



PORT LABELとして表示したい出力ポートボタンをタップして選択します。

選択された出力ポートボタンが白い枠で囲われます。

- 初期状態は、どのポートもSELECT PORT LABELモードで選択されていない状態です。この場合、OUTPUT PORT SELECT表示エリア (③) の左上に表示された出力ポートをPORT LABELとして表示します。
- 該当モジュールに出力ポートが複数アサインされていない場合、このボタンはグレイアウト表示になります。

⑤ POST FADER レベルメーター

POST FADERの信号レベルを表示します。

⑥ BATCH SETUP ボタン

LOCK / UNLOCK切り換えボタン (②) が「UNLOCK」のときにこのボタンをタップすると、任意のチャンネル間の出力ポートを一括で設定する BATCH SETUPウィンドウを表示します。(→ 148 ページ「複数のチャンネル間の出力ポートを一括で設定する」)

指定した複数チャンネルの設定を一括で変更します。

⑦ フェーズボタン

選択したモジュールの信号の位相 (フェーズ) を変更します。このボタンをタップすると、選択したモジュールの信号の位相 (フェーズ) を反転します。

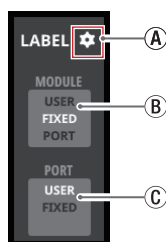
- 選択したモジュールの Stereo Link設定がオフのときのフェーズボタン表示

	正相 (ノーマル)
	逆相 (リバース)

- 選択したモジュールがステレオモジュールのときのフェーズボタン表示

		正相 (ノーマル)
		逆相 (リバース)

⑧ LABEL設定エリア



① LABEL設定エリアの🔍アイコン

このアイコンをタップすると、LABEL SETUP画面のDISPLAY MODEタブ画面に切り換わります。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)

② MODULE LABELの表示モード 設定ボタン

- MODULE LABEL Mainの表示モードを切り換えるボタンです。現在設定されている表示モードがハイライト表示になります。
- このボタンをタップすると、MODULE LABEL Mainの表示モードをUSER → FIXED → PORT LABELと順番に切り換えます。
- MODULE LABEL Mainの表示モード設定の詳細は、132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」をご参照ください。

③ PORT LABELの表示モード 設定ボタン

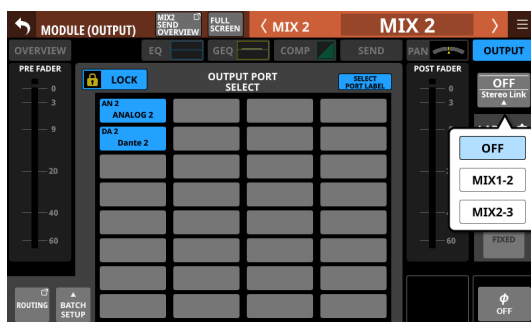
- PORT LABEL（入出力端子名）の表示モードを切り換えるボタンです。現在設定されている表示モードがハイライト表示になります。
- このボタンをタップすると、PORT LABELの表示モードを「USER」と「FIXED」で交互に切り換えます。
- PORT LABELの表示モード設定の詳細は、132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」をご参照ください。

⑨ Stereo Link ボタン (MIX1-22 モジュールのみ)

- MIX1-22 モジュールのStereo Link設定の状態を表示します。

	Stereo Link設定：オフ
	Stereo Link設定：オン

- このボタンをタップすると、Stereo Link設定のウィンドウを表示します。



MIX1/MIX22 以外、左右どちらのモジュールともリンクすることができます。

⑩ ROUTING ボタン

このボタンをタップすると、ルーティング画面のOUTPUT MODULEタブ画面に切り換わります。(→ 164 ページ「OUTPUT MODULEタブ画面」)

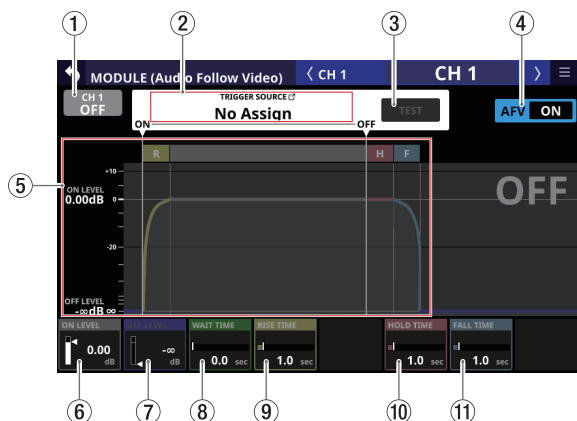
MODULE (Audio Follow Video) 画面

Audio Follow Video (AFV) 機能とは、外部からのタリ入カイベントによりフェーダーレベルを自動制御するいわゆる「タリ連動機能」のことです。

この画面では、選択したモジュールのAFVパラメーターの設定を行います。

この画面は、下記いずれかをタップして表示します。

- MODULE (OVERVIEW) 画面のAFVボタン
- ホーム画面でAFVパラメーターに選択枠がある状態の選択枠



[Audio Follow Video機能全体のON / OFFボタンが「ON」のときの表示]

① 選択モジュールのAudio Follow Video機能のON / OFFボタン

このボタンをタップすると、選択したモジュールのAudio Follow Video機能のON / OFFが切り換わります。

ONのとき、ボタンがハイライト表示になります。

② Audio Follow Video機能のTRIGGER SOURCE表示部

- 選択したモジュールのAFV TRIGGER SOURCEを表示します。AFV TRIGGERがアクティブ状態のときは、このエリアが赤くハイライトされます。
- このエリアをタップすると、AFV TRIGGER SOURCE SELECT画面に切り換わります。(→ 211 ページ「AFV TRIGGER SOURCE SELECT画面」)
- AFV TRIGGER SOURCE SELECT画面で選択したAFV TRIGGER SOURCE名を表示します。

③ TESTボタン

選択したモジュール単独でのAudio Follow Video機能の動作を確認するためのボタンです。

このボタンを押すとAFV ONイベント、このボタンを離すとAFV OFFイベントを受けたときの動作をします。

④ Audio Follow Video機能全体のON / OFFボタン

このボタンをタップすると、Audio Follow Video機能全体のON / OFFが切り換わります。

- ONのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- OFFのとき、全モジュールのすべてのAFVパラメーターがグレーアウト表示になります。

⑤ Audio Follow Video設定状況グラフ表示

現在のAFVパラメーター設定でのフェーダーレベルの自動制御動作のイメージを縦軸がFADERレベル、横軸が時間のグラフで表示します。

⑥ ON LEVEL

AFV ONイベントを受けたあとのフェーダーレベルのフェードの目的値を調節します。

設定範囲： $-\infty$ dB ~ +10.0 dB (初期値：0.00 dB)

LCDノブ1 (白色で点灯) を使って調節します。

⑦ OFF LEVEL

AFV OFFイベントを受けたあとのフェーダーレベルのフェードの目的値を調節します。

設定範囲： $-\infty$ dB ~ +10.0 dB (初期値： $-\infty$ dB)

LCDノブ2 (青色で点灯) を使って調節します。

⑧ WAIT TIME

AFV ONイベントを受けてから、フェードを開始するまでの時間を調節します。

設定範囲：0.0 sec ~ 10.0 sec (初期値：0.0 sec)

LCDノブ3 (緑色で点灯) を使って調節します。

⑨ RISE TIME

AFV ONイベントを受けたときのフェード開始からON LEVELに到達するまでのフェード時間を調節します。

設定範囲：0.0 sec ~ 10.0 sec (初期値：1.0 sec)

LCDノブ4 (黄色で点灯) を使って調節します。

⑩ HOLD TIME

AFV OFFイベントを受けてから、フェードを開始するまでの時間を調節します。

設定範囲：0.0 sec ~ 10.0 sec (初期値：1.0 sec)

LCDノブ6 (赤色で点灯) を使って調節します。

⑪ FALL TIME

AFV OFFイベントを受けたときのフェード開始からOFF LEVELに到達するまでのフェード時間を調節します。

設定範囲：0.0 sec ~ 10.0 sec (初期値：1.0 sec)

LCDノブ7 (水色で点灯) を使って調節します。

メモ

Audio Follow Video機能によるフェード動作中に下記操作を行った場合、フェード動作をキャンセルします。

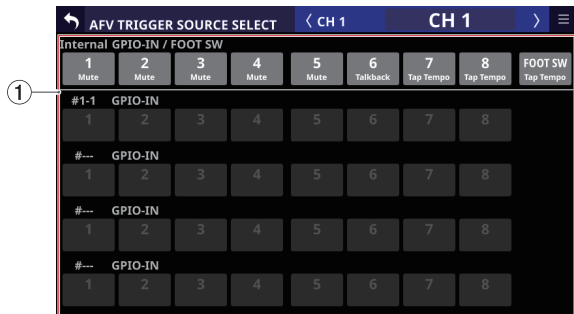
- All System DataのLoad
- SnapshotのRecall
- Module LibraryのRecall
- MODULE (OVERVIEW) 画面での該当モジュールのFADER LEVEL操作
- SEND OVERVIEW (MAIN L/R) 画面のFADER LEVELタブ画面での該当モジュールのFADER LEVEL操作

AFV TRIGGER SOURCE SELECT画面

この画面では、選択したモジュールのAFV TRIGGER SOURCEを以下から選択します。

- 本機のGPIO入力端子
- 内蔵 Dante経由で接続されたマウント 済み SB-16DのGPIO入力端子
- リアパネルのFOOTSWITCH端子

この画面は、MODULE (Audio Follow Video) 画面のAudio Follow Video機能のTRIGGER SOURCE表示部 (②) をタップして表示します。



① Audio Follow Video機能のTRIGGER SOURCE選択ボタン

- このボタンをタップして、選択したモジュールのAFV TRIGGER SOURCEを選択します。
選択したボタンは、ハイライト表示になります。
- ボタンの下段には、対応するGPIO-IN / フットスイッチにアサインされているUser Defined Control機能を表示します。
1つのポートに複数の機能を重複してアサインしているかどうかを確認できます。
- バーチャルマウントされたSB-16DのGPIO-INポートの場合は、Vマークを表示します。




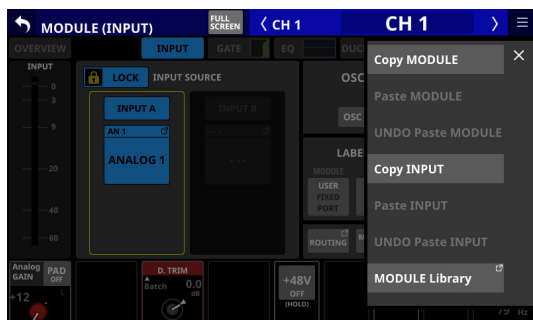
- バーチャルマウントされたSB-16DのGPIO-INポートの場合は、アサインしたボタンが黄色でハイライト表示になります。





MODULE メニュー

MODULE メニューの操作

- MODULE画面右上の  ボタンをタップすると、選択したモジュールのMODULEメニューを表示します。
- 選択可能なメニュー項目がMODULEメニュー内に表示しきれない場合は、スクロールバーを表示します。この場合、表示を上下にドラッグすることでメニュー項目がスクロールします。



- MODULEメニューの  ボタンまたは  ボタンをタップすると、メニューを閉じます。

MODULE メニューのメニュー項目

メニュー項目	内容
Copy MODULE	選択したモジュールの各パラメーターの設定値をバッファにコピーします。
Paste MODULE	バッファにコピーした各パラメーターの設定値を選択したモジュールに貼り付けます。
UNDO Paste MODULE	選択したモジュールへの貼り付け処理を取り消します。
REDO Paste MODULE	選択したモジュールへの貼り付け処理を再実行します。
Copy INPUT	選択したモジュールの <u>MODULE (INPUT)</u> 画面の各パラメーターの設定値をバッファにコピーします。
Paste INPUT	バッファにコピーした <u>MODULE (INPUT)</u> 画面の各パラメーターの設定値を選択したモジュールに貼り付けます。
UNDO Paste INPUT	選択したモジュールの <u>MODULE (INPUT)</u> 画面への貼り付け処理を取り消します。
REDO Paste INPUT	選択したモジュールの <u>MODULE (INPUT)</u> 画面への貼り付け処理を再実行します。
MODULE Library	選択したモジュールの <u>LIBRARY</u> 画面に切り換わります。(→ 254 ページ「各種 LIBRARY画面」)

メモ

- 下線のあるメニュー項目を、選択したモジュールのMODULE画面名に置き換えてください。
- 下線のあるメニュー項目は、MODULE (OVERVIEW) 画面とMODULE (OUTPUT) 画面には表示されません。
- 下記のパラメーターは、コピーペースト対象外です。

- Input Routing
- OSC Input
- Output Port Assign*
- Insert Send Port Assign*
- Insert Return Port Assign*
- Insert ON/OFF*
- Direct Out Port Assign*

* 出力ポートは複数モジュールで同時使用はできません。そのため、パラメーターのコピーペースト対象にしまうと、ペースト先とは別モジュールの出力設定が切り換わってしまうことがあるので、コピーペースト対象外となっています。

ステレオモジュールで左右独立操作できるパラメーターのペースト

以下のパラメーターは、ステレオモジュールであっても左右独立して設定できます。

- Pre Amp
- 位相 (フェーズ)
- D.TRIM

コピー元／ペースト先がモノラル⇄ステレオと異なる場合、以下のようにコピー／ペーストします。

- コピー元がモノラルモジュールで、ペースト先がステレオモジュールの場合は、コピー元の設定データをペースト先のL／R両方にペーストします。
- コピー元がステレオモジュールで、ペースト先がモノラルモジュールの場合は、コピー元のLチャンネルの設定データをペースト先にペーストします。

MODE / IMAGEパラメーターのペースト

MODULE (SEND/PAN) 画面に表示されるMODE / IMAGEパラメーターは、ステレオ入力モジュールにのみ存在するパラメーターです。(→ 203 ページ「MODULE (SEND/PAN) 画面」)
そのため、コピー元／ペースト先の両方がステレオ入力モジュールの場合だけ、MODE / IMAGEパラメーターをコピー／ペーストします。

第7章 その他モジュールパラメーター設定画面

SENDS ON FADER機能

- SENDS ON FADER機能は、SENDレベルをフェーダーで操作する機能です。

- Sends On Fader モード中は、トップパネルのSENDS ON FADERキーが点灯し、以下の操作をすることができます。

- チャンネルフェーダーを使った各モジュールからSENDS ON FADER操作対象バスへのSENDレベルの操作
- MASTERフェーダーを使ったSENDS ON FADER操作対象バスへのFADERレベル（バスマスターレベル）の操作
- チャンネルMUTEキーを使った各モジュールからSENDS ON FADER操作対象バスへのSEND ON/OFFの切り換え操作（MUTEキー点灯時：SEND OFF、MUTEキー消灯時：SEND ON）

また、トップパネルのマスターセクションのMUTE / SOLO / SEL / カラーバーがSENDS ON FADER操作対象バスの操作子／表示器になり、SENDインジケーターが点灯、L/Rインジケーターが消灯します。

- Sends On Faderモードは、以下を操作することで切り換わります。
 - トップパネルのSENDS ON FADERキー
 - Sends On Fader機能がアサインされたUSER KEYS / FOOTSWITCH / GPIO-IN（→54ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」）

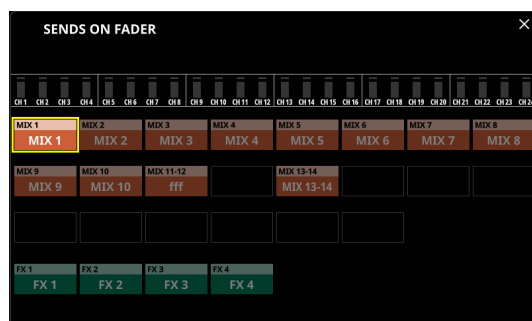
メモ

Sends On Faderモードの設定は、User Keyタブ画面の工場出荷時の設定であらかじめ以下のUSER KEYSにアサインされています。

- USER KEYS 5-12（Sends On Fader | MIX1-8）

SENDS ON FADER画面

この画面では、SENDS ON FADER操作対象バスの選択を行います。この画面は、トップパネルのSENDS ON FADERキーを押して表示します。



メモ

SENDS ON FADER画面上部のメーター表示で、選択したレイヤーにアサインされているモジュールのモジュールメーター（設定されているMetering Pointの信号レベルを表示）を確認することができます。（→9ページ「⑥ チャンネル画面」）

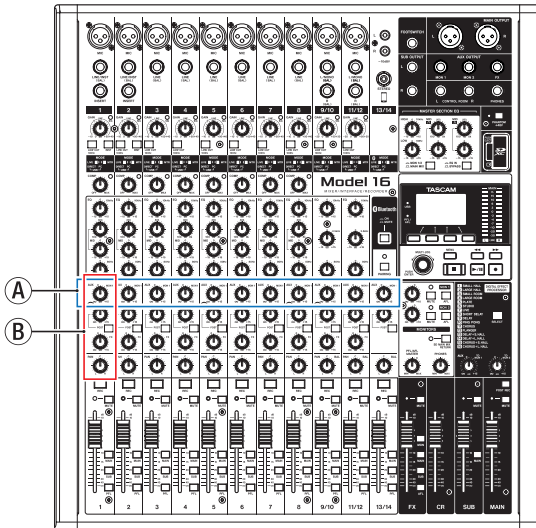
- バス選択ボタンをタップすると、タップしたバスが選択状態になり、ハイライト表示になります。チャンネルフェーダーが各モジュールから選択バスへのSENDレベルの位置に、MASTERフェーダーが選択バスのFADERレベルの位置に移動し、チャンネルMUTEキーが各モジュールから選択バスへのSEND ON/OFF状態に合わせて点灯／消灯します。（MUTEキー点灯時：SEND OFF、MUTEキー消灯時：SEND ON）
- 右端のタッチスクリーンにホーム画面などを表示しながらSENDS ON FADER操作をしたい場合は、画面右上の✕アイコンをタップしてこの画面を閉じます。
- ✕アイコンをタップしてこの画面を閉じても、Sends On Faderモードは維持します。再度SENDS ON FADER画面を表示するには、SENDS ON FADERキーを押します。
- SENDS ON FADER画面を表示中にSENDS ON FADERキーを押すと、Sends On Faderモードが解除されます。SENDS ON FADER画面が閉じて、チャンネルフェーダー／チャンネルMUTEキー／MASTERフェーダー、マスターセクションのMUTE/SOLO/SEL/カラーバー、L/R・SENDインジケーター、およびチャンネル画面が通常表示に戻ります。
- Sends On Faderモード中は、CH Displayにも同様のメーターが表示されます。

メモ

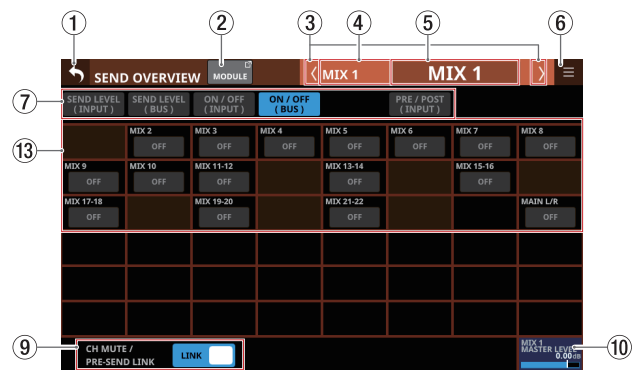
BUSモードを「GROUP」に設定したMIXバスは、この画面に表示されません。

SEND OVERVIEW画面

選択したバス（MIX1-22バス／FX1-4バス／MAIN L/Rバス）に対するSENDパラメーターを一覧表示／操作する画面です。
MODULE（SEND/PAN）画面は、アナログミキサーで「縦」に並んでいるSENDパラメーター（B）を一覧表示／操作する画面です。これに対して、このSEND OVERVIEW画面は、アナログミキサーで「横」に並んでいるSENDパラメーター（A）を一覧表示／操作する画面になります。



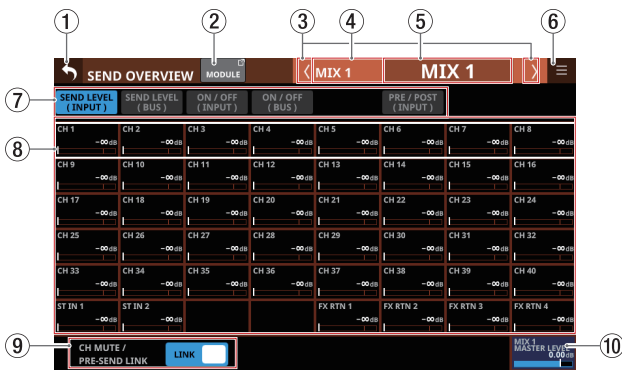
[ON / OFF (INPUT) タブ画面]



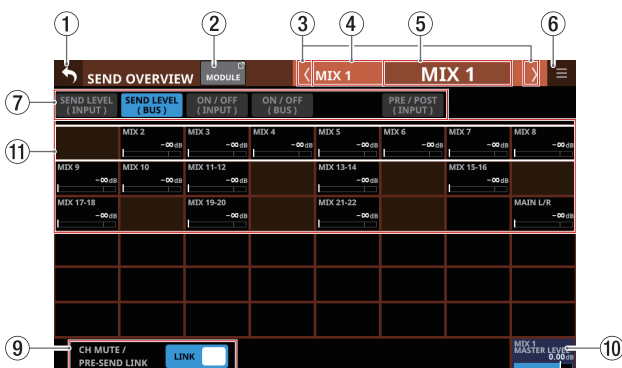
[ON / OFF (BUS) タブ画面]

MIX1-22 バスのSEND OVERVIEW画面

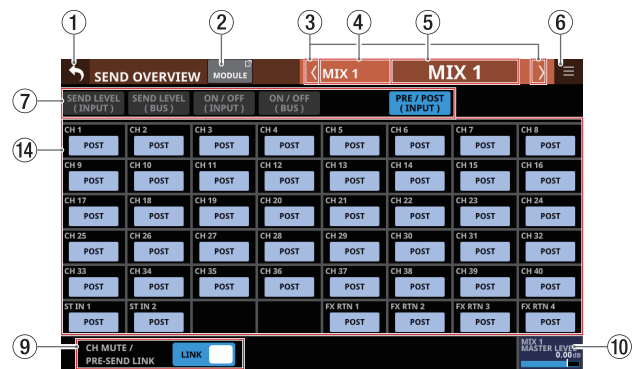
この画面は、メニュー画面＞Mixer Setupメニュー＞「MIX Send Overview」をタップして表示します。また、MIX 1-22 モジュールのMODULE画面上部にある「SEND OVERVIEW」ボタンをタップして表示することもできます。



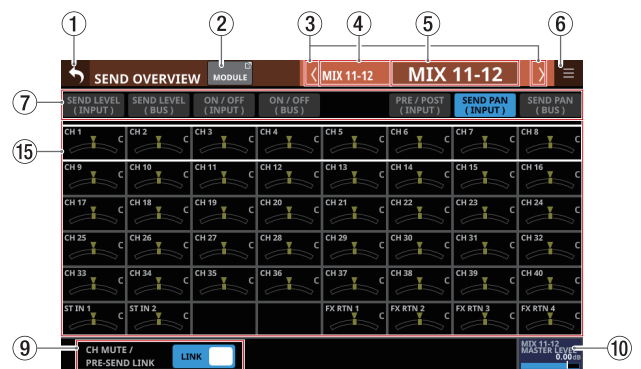
[SEND LEVEL (INPUT) タブ画面]



[SEND LEVEL (BUS) タブ画面]

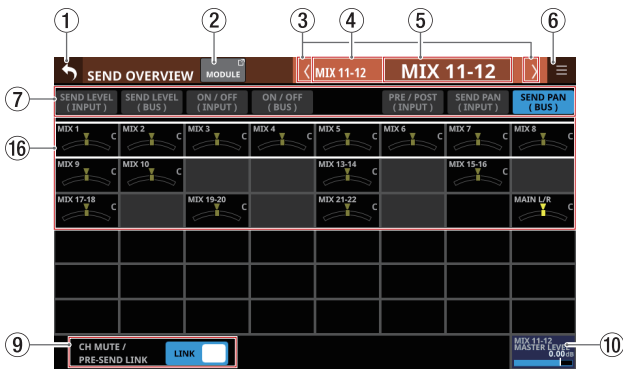


[PRE / POST (INPUT) タブ画面]



[SEND PAN (INPUT) タブ画面]

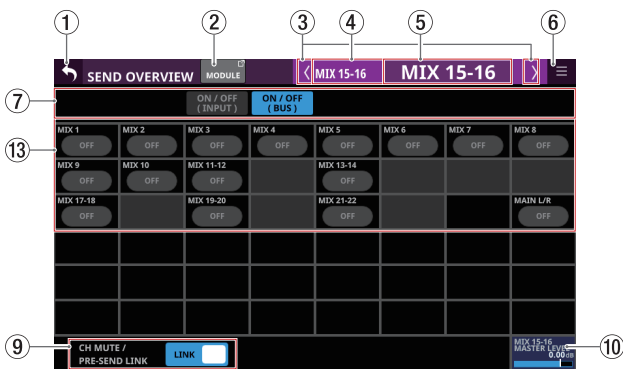
第7章 その他モジュールパラメーター設定画面



[SEND PAN (BUS) タブ画面]



[ON / OFF (INPUT) タブ画面 (GROUPモードバス)]



[ON / OFF (BUS) タブ画面 (GROUPモードバス)]

メモ

- トップパネルのHOMEキーを押しながらレベル表示をタップすると、タップしたレベルを「0dB」に設定します。
- トップパネルのHOMEキーを押しながらPAN / BAL表示をタップすると、タップしたパン／バランスの設定を中央 (C) に設定します。

① ボタン

このボタンをタップすると、SEND OVERVIEW画面を表示する前の画面に戻ります。

② MODULE ボタン

このボタンをタップすると、選択したMIX1-22 モジュールのMODULE画面を表示します。

③ 〻/〼 ボタン

このボタンをタップすると、表示／操作対象のバスをMIX1-22 / FX1-4 / MAIN L/Rの順で左右に移動します。

④ FIXED MODULE LABEL表示

選択したバスのFIXED MODULE LABELを表示します。

⑤ USER MODULE LABEL表示

- 選択したバスのMODULE LABEL Mainで設定された表示モードのMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
 - MODULE LABEL Mainの表示モードが「USER」に設定されている場合にこの部分をタップすると、USER MODULE LABELおよびモジュール設定色を変更するMODULE LABEL画面に切り換わります。(→ 229 ページ「MODULE LABEL画面」)
 - MODULE LABEL Mainの表示モードが「PORT LABEL」、かつPORT LABELの表示モードが「USER」に設定されている場合(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)にこの部分をタップすると、このモジュールにアサインされた出力端子のUSER PORT LABELを編集するUSER LABEL (OUTPUT PORT) 画面に切り換わります。(→ 135 ページ「USER LABEL (INPUT PORT / OUTPUT PORT) 画面」)
- ただし、このモジュールに出力端子がアサインされていない場合には、切り換わりません。

⑥ 〻 ボタン

このボタンをタップすると、選択したMIX1-22 バスのSEND OVERVIEWメニューを表示します。



メニュー項目をタップして、選択したMIX1-22 バスに対する各パラメーターの設定を変更します。(→ 223 ページ「SEND OVERVIEWメニュー」)

⑦ 画面選択ボタン

画面選択ボタンをタップして、表示する画面を切り換えます。選択したボタンがハイライト表示になります。

ボタン	内容
SEND LEVEL (INPUT)	CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよびFX RTN1-4 モジュールからMIX1-22 バスへのSENDレベルを一覧表示します。
SEND LEVEL (BUS)	MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/R マスターモジュールからMIX1-22 バスへのSENDレベルを一覧表示します。
ON / OFF (INPUT)	CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよびFX RTN1-4 モジュールからMIX1-22 バスへのアサイン設定のオン／オフ状態を一覧表示します。
ON / OFF (BUS)	MIX1-22 モジュールおよびMAIN L/R マスターモジュールからMIX1-22 バスへのアサイン設定のオン／オフ状態を一覧表示します。

ボタン	内容
PRE / POST (INPUT)	CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールの信号を MIX1-22 バスに送り出す位置を一覧表示します。
SEND PAN (INPUT)	CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールから MIX1-22 バスへのパン／バランス設定を一覧表示します。
SEND PAN (BUS)	MIX1-22 モジュールから MIX1-22 バスへのパン／バランス設定を一覧表示します。

⑧ SEND レベル表示

- CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールから MIX1-22 バスへの SEND レベルの設定状態を一覧表示します。
- 選択枠を表示中に、対応する LCD ノブ（オレンジ色で点灯）を使って、SEND レベルを調節します。
設定範囲：-∞dB ～ +10dB（初期値：-∞dB）

⑨ CH MUTE / PRE-SEND LINK

入力モジュールの MUTE と AUX バスへの Pre Fader Send が連動するかしないかの、バスごとの設定です。
このボタンをタップすると、LINK/UNLINK を切り換えます。

表記	内容
LINK（初期値）	入力モジュールの MUTE と AUX バスへの Pre Fader Send が連動する
UNLINK	入力モジュールの MUTE と AUX バスへの Pre Fader Send が連動しない

⑩ MIX MASTER LEVEL 表示

選択した MIX1-22 バスの FADER レベル（バスマスターレベル）を調節します。

設定範囲：-∞dB ～ +10dB（初期値：0.0dB）

選択枠を表示中に LCD ノブ 8（青色で点灯）を使って調節します。

⑪ SEND レベル表示

- MIX1-22 モジュールおよび MAIN L/R マスターモジュールから MIX1-22 バスへの SEND レベルの設定状態を一覧表示します。
- 選択枠を表示中に、対応する LCD ノブ（オレンジ色で点灯）を使って、SEND レベルを調節します。
設定範囲：-∞dB ～ +10dB（初期値：-∞dB）

メモ

USER MODULE LABEL 表示（⑤）に表示された選択バスと同じバスへの SEND レベルは表示しません。

⑫ 入力モジュール用 ON / OFF ボタン

- CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールから MIX1-22 バスへのアサイン設定の ON / OFF 状態を一覧表示します。
- このボタンをタップすると、MIX1-22 バスへのアサインの ON / OFF を切り換えます。（初期値：ON）
ON のとき、ボタンがハイライト表示になります。

⑬ BUS モジュール用 ON / OFF ボタン

- MIX1-22 モジュールおよび MAIN L/R マスターモジュールから MIX1-22 バスへのアサイン設定の ON / OFF 状態を一覧表示します。
- このボタンをタップすると、MIX1-22 バスへのアサインの ON / OFF を切り換えます。（初期値：OFF）
ON のとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

USER MODULE LABEL 表示（⑤）に表示された選択バスと同じバスへのアサインボタンは表示しません。

⑭ PRE / POST ボタン

- CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールの信号を MIX1-22 バスに送り出す位置の設定を一覧表示します。
- このボタンをタップすると、MIX1-22 バスに送り出す位置の設定を切り換えます。（→ 343 ページ「第19章 ブロックダイアグラム」）

表記	内容
PRE	プリフェーダー
POST（初期値）	ポストフェーダー

各ボタンをタップすると、送り出す位置が切り換わります。

⑮ CH1-40 モジュール / ST IN1-2 モジュール / FX RTN1-4 モジュールの PAN / BAL 表示

- CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールから選択した MIX1-22 バスへのパン／バランスの設定状態を一覧表示します。
- 選択枠を表示中に、対応する LCD ノブ（黄色で点灯）を使って、パン／バランスを調節します。
設定範囲：L100 ～ C ～ R100（初期値：C）

メモ

PAN LINK 設定が「オン」に設定されているバスの SEND PAN パラメーターは、暗い色で表示され、操作できません。対応モジュールの PAN / BAL の設定に連動します。

⑯ MIX1-22 モジュールの PAN / BAL 表示

- MIX1-22 モジュールから選択した MIX1-22 バスへのパン／バランスの設定状態を一覧表示します。
- 選択枠を表示中に、対応する LCD ノブ（黄色で点灯）を使って、パン／バランスを調節します。
設定範囲：L100 ～ C ～ R100（初期値：C）

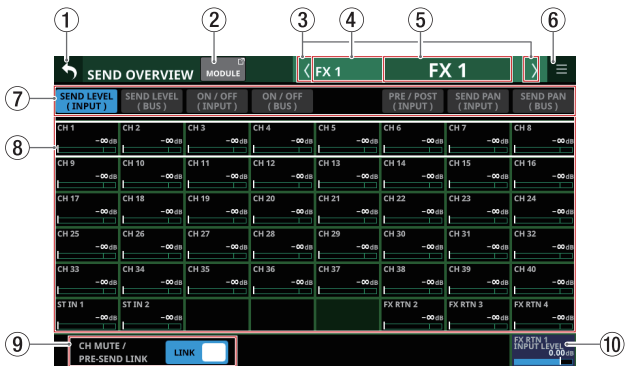
メモ

PAN LINK 設定が「オン」に設定されているバスの SEND PAN パラメーターは、暗い色で表示され、操作できません。対応モジュールの PAN / BAL の設定に連動します。

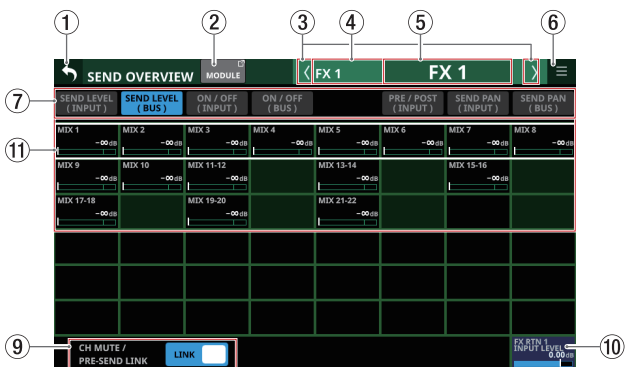
第7章 その他モジュールパラメーター設定画面

FX1-4 バスの SEND OVERVIEW画面

この画面は、メニュー画面>Mixer Setupメニュー>「MIX Send Overview」をタップして表示します。また、FX RTN 1-4 モジュールのMODULE画面上部にある「SEND OVERVIEW」ボタンをタップして表示することもできます。



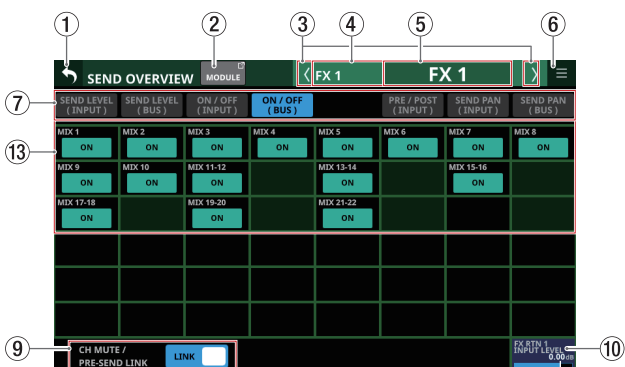
[SEND LEVEL (INPUT) タブ画面]



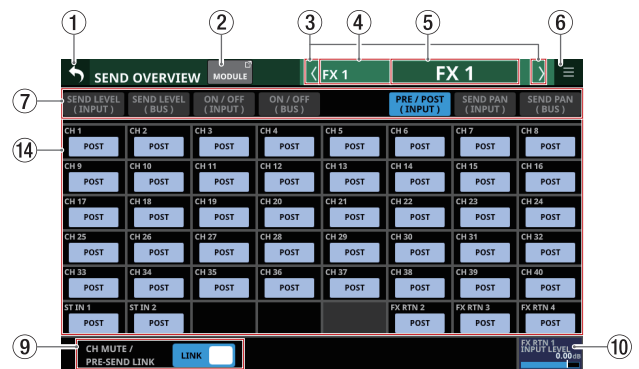
[SEND LEVEL (BUS) タブ画面]



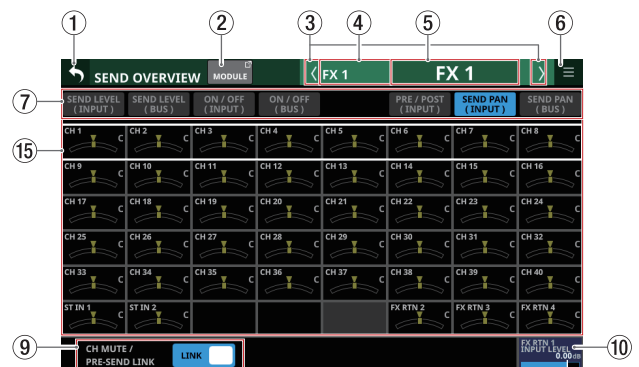
[ON / OFF (INPUT) タブ画面]



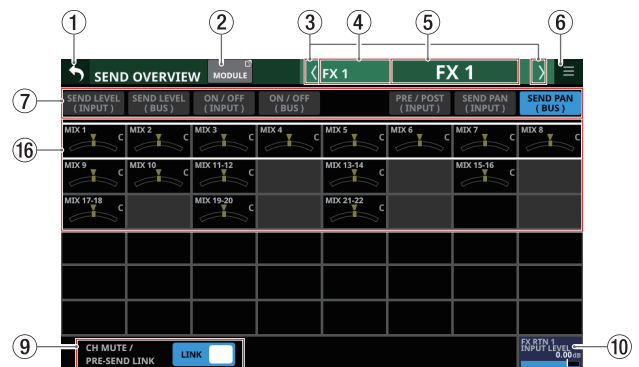
[ON / OFF (BUS) タブ画面]



[PRE / POST (INPUT) タブ画面]



[SEND PAN (INPUT) タブ画面]



[SEND PAN (BUS) タブ画面]

メモ

トップパネルのHOMEキーを押しながらレベル表示をタップすると、タップしたレベルを「0dB」に設定します。

① 戻るボタン

このボタンをタップすると、SEND OVERVIEW画面を表示する前の画面に戻ります。

② MODULEボタン

このボタンをタップすると、表示しているFX1-4バスに対応したFX RTN1-4モジュールのMODULE画面を表示します。

③ 移動ボタン

このボタンをタップすると、表示/操作対象のバスをMIX1-22 / FX1-4 / MAIN L/Rの順で左右に移動します。

④ FIXED MODULE LABEL表示

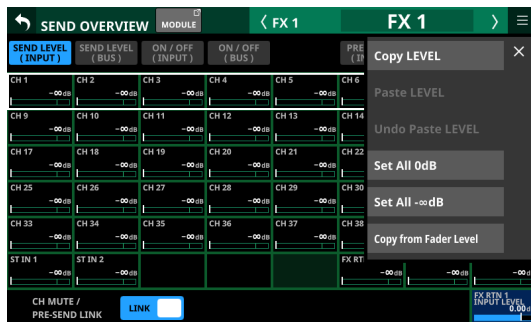
選択したバスのFIXED MODULE LABELを表示します。

⑤ USER MODULE LABEL表示

- 選択したバスのMODULE LABEL Mainで設定された表示モードのMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- MODULE LABEL Mainの表示モードが「USER」に設定されている場合にこの部分をタップすると、USER MODULE LABELおよびモジュール設定色を変更するMODULE LABEL画面に切り換わります。(→ 229 ページ「MODULE LABEL画面」)

⑥ ボタン

このボタンをタップすると、選択したFX1-4バスのSEND OVERVIEWメニューを表示します。



メニュー項目をタップして、選択したFX1-4バスに対する各パラメーターの設定を変更します。(→ 223 ページ「SEND OVERVIEWメニュー」)

⑦ 画面選択ボタン

画面選択ボタンをタップして、表示する画面を切り換えます。選択したボタンがハイライト表示になります。

ボタン	内容
SEND LEVEL (INPUT)	CH1-40 モジュールおよびST IN1-2 モジュールからFX1-4 バスへのSENDレベルを一覧表示します。
SEND LEVEL (BUS)	MIX1-22 モジュールからFX1-4 バスへのSENDレベルを一覧表示します。
ON / OFF (INPUT)	CH1-40 モジュールおよびST IN1-2 モジュールからFX1-4 バスへのアサイン設定のオン／オフ状態を一覧表示します。
ON / OFF (BUS)	MIX1-22 モジュールからFX1-4 バスへのアサイン設定のオン／オフ状態を一覧表示します。
PRE / POST (INPUT)	CH1-40 モジュールおよびST IN1-2 モジュールの信号をFX1-4 バスに送り出す位置を一覧表示します。
SEND PAN (INPUT)	CH1-40 モジュールおよびST IN1-2 モジュールからFX1-4 バスへのパン／バランス設定を一覧表示します。
SEND PAN (BUS)	MIX1-22 モジュールからFX1-4 バスへのパン／バランス設定を一覧表示します。

⑧ SEND レベル表示

- CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよびFX RTN1-4 モジュールからFX1-4 バスへのSENDレベルの設定状態を一覧表示します。
- 選択枠を表示中に、対応するLCDノブ（緑色で点灯）を使って、SENDレベルを調節します。

設定範囲：-∞dB ~ +10dB（初期値：-∞dB）

⑨ CH MUTE / PRE-SEND LINK

入力モジュールのMUTEとAUXバスへのPre Fader Sendが連動するかどうかの、バスごとの設定です。

このボタンをタップすると、LINK/UNLINKを切り換えます。

表記	内容
LINK（初期値）	入力モジュールのMUTEとAUXバスへのPre Fader Sendが連動する
UNLINK	入力モジュールのMUTEとAUXバスへのPre Fader Sendが連動しない

⑩ FX INPUT LEVEL表示

表示しているFX1-4バスに対応したFX1-4 モジュールの入力レベルを調節します。

設定範囲：-∞dB ~ +10dB（初期値：0.0dB）

選択枠を表示中にLCDノブ8（青色で点灯）を使って調節します。

メモ

191 ページ「MODULE (FX) 画面」のFX RTN1-4 モジュールのINPUT LEVELノブ（⑦）と同じパラメーターです。

⑪ SEND レベル表示

- MIX1-22 モジュールからFX1-4 バスへのSENDレベルの設定状態を一覧表示します。
- 選択枠を表示中に、対応するLCDノブ（緑色で点灯）を使って、SENDレベルを調節します。

設定範囲：-∞dB ~ +10dB（初期値：-∞dB）

⑫ 入力モジュール用 ON / OFF ボタン

- CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよびFX RTN1-4 モジュールからFX1-4 バスへのアサイン設定のON / OFF状態を一覧表示します。
- このボタンをタップすると、FX1-4 バスへのアサインのON / OFFを切り換えます。（初期値：ON）ONのとき、ボタンがハイライト表示になります。

⑬ BUS モジュール用 ON / OFF ボタン

- MIX1-22 モジュールからFX1-4 バスへのアサイン設定のON / OFF状態を一覧表示します。
- このボタンをタップすると、FX1-4 バスへのアサインのON / OFFを切り換えます。（初期値：ON）ONのとき、ボタンがハイライト表示になります。

第7章 その他モジュールパラメーター設定画面

⑭ PRE / POST ボタン

- CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールの信号を FX1-4 バスに送り出す位置の設定を一覧表示します。
- このボタンをタップすると、FX1-4 バスに送り出す位置の設定を切り換えます。(→ 343 ページ「第19章 ブロックダイアグラム」)

表記	内容
PRE	プリフェーダー
POST (初期値)	ポストフェーダー

各ボタンをタップすると、送り出す位置が切り換わります。

⑮ CH1-40 モジュール / ST IN1-2 モジュールの PAN / BAL 表示

CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールから選択した FX1-4 バスへのパン／バランスの設定状態を一覧表示します。

表示内容：L100 ～ C ～ R100 (初期値：C)

メモ

FX1-4 バスの SEND PAN パラメーターは、常に対応モジュールの PAN / BAL の設定に連動します (常に PAN LINK 設定がオン状態)。暗い色で表示され、この画面では操作できません。

⑯ MIX1-22 モジュールの PAN / BAL 表示

MIX1-22 モジュールから選択した FX1-4 バスへのパン／バランスの設定状態を一覧表示します。

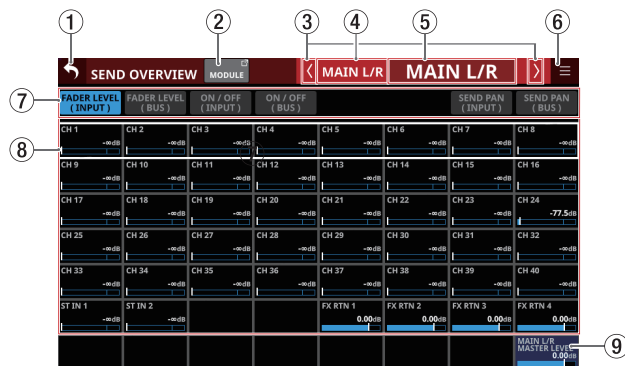
表示内容：L100 ～ C ～ R100 (初期値：C)

メモ

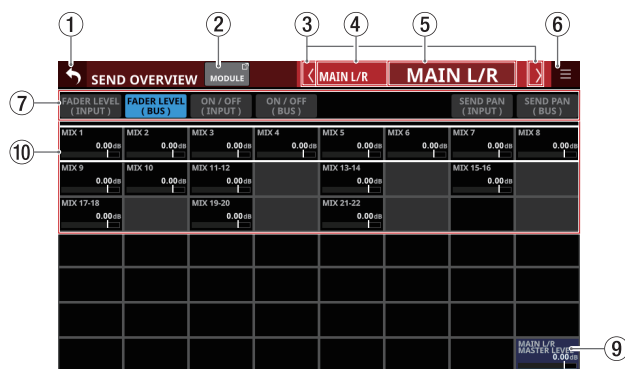
FX1-4 バスの SEND PAN パラメーターは、常に対応モジュールの PAN / BAL の設定に連動します (常に PAN LINK 設定がオン状態)。暗い色で表示され、この画面では操作できません。

MAIN L/R バスの SEND OVERVIEW 画面

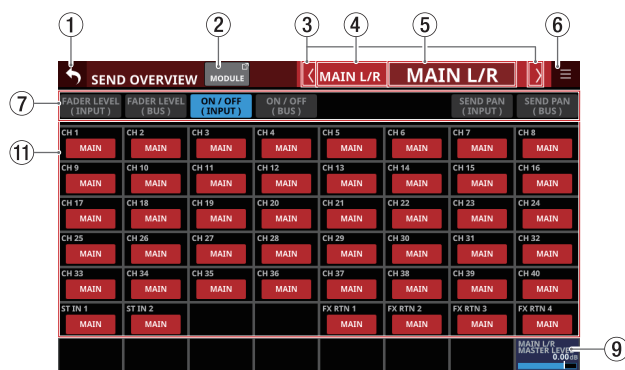
この画面は、メニュー画面 > Mixer Setup メニュー > 「MIX Send Overview」をタップして表示します。また、MAIN L/R マスターモジュールの MODULE 画面上部にある「SEND OVERVIEW」ボタンをタップして表示することもできます。



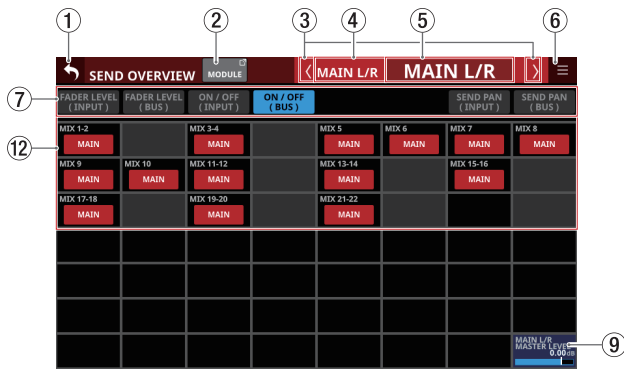
[FADER LEVEL (INPUT) タブ画面]



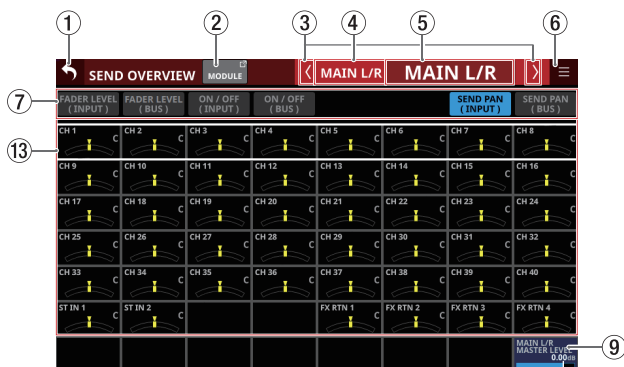
[FADER LEVEL (BUS) タブ画面]



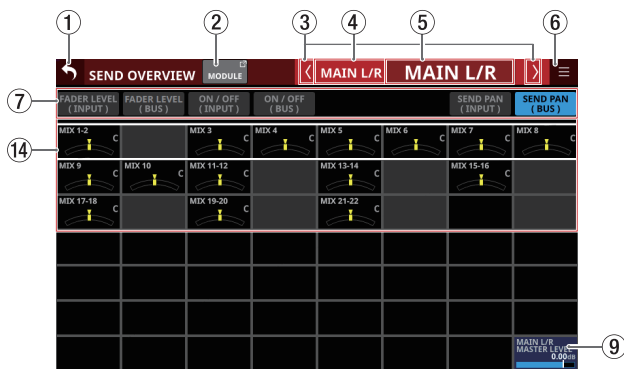
[ON / OFF (INPUT) タブ画面]



[ON / OFF (BUS) タブ画面]



[SEND / PAN (INPUT) タブ画面]



[SEND / PAN (BUS) タブ画面]

メモ

- トップパネルのHOMEキーを押しながらレベル表示をタップすると、タップしたレベルを「0dB」に設定します。
- トップパネルのHOMEキーを押しながらPAN / BAL表示をタップすると、タップしたパン／バランスの設定を中央 (C) に設定します。

① ボタン

このボタンをタップすると、SEND OVERVIEW画面を表示する前の画面に戻ります。

② MODULE ボタン

このボタンをタップすると、選択したMAIN L/RマスターモジュールのMODULE画面に切り換わります。

③ 〻／〻 ボタン

このボタンをタップすると、表示／操作対象のバスをMIX1-2／FX1-4／MAIN L/Rの順で左右に移動します。

④ FIXED MODULE LABEL表示

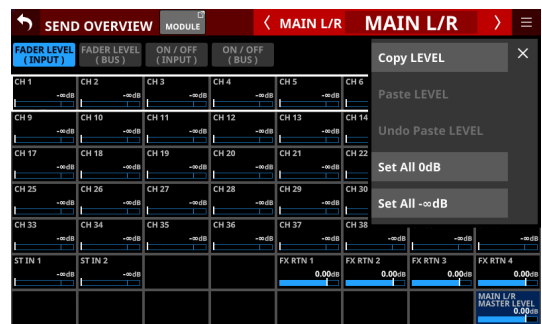
選択したバスのFIXED MODULE LABELを表示します。

⑤ USER MODULE LABEL表示

- MAIN L/RバスのMODULE LABEL Mainで設定された表示モードのMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- MODULE LABEL Mainの表示モードが「USER」に設定されている場合にこの部分をタップすると、USER MODULE LABELおよびモジュール設定色を変更するMODULE LABEL画面に切り換わります。(→ 229 ページ「MODULE LABEL画面」)
- MODULE LABEL Mainの表示モードが「PORT LABEL」、かつPORT LABELの表示モードが「USER」に設定されている場合(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)にこの部分をタップすると、このモジュールにアサインされた出力端子のUSER PORT LABELを編集するUSER LABEL (OUTPUT PORT) 画面に切り換わります。(→ 135 ページ「USER LABEL (INPUT PORT / OUTPUT PORT) 画面」)
ただし、このモジュールに出力端子がアサインされていない場合には、切り換わりません。

⑥ 〻 ボタン

このボタンをタップすると、MAIN L/RバスのSEND OVERVIEWメニューを表示します。



メニュー項目をタップして、MAIN L/Rバスに対する各パラメーターの設定を変更します。(→ 223 ページ「SEND OVERVIEWメニュー」)

第7章 その他モジュールパラメーター設定画面

⑦ 画面選択ボタン

画面選択ボタンをタップして、表示する画面を切り換えます。
選択したボタンがハイライト表示になります。

ボタン	内容
FADER LEVEL (INPUT)	CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールの FADER レベルを一覧表示します。
FADER LEVEL (BUS)	MIX1-22 モジュールの FADER レベルを一覧表示します。
ON / OFF (INPUT)	CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールから MAIN L/R バスへのアサイン設定のオン/オフ状態を一覧表示します。
ON / OFF (BUS)	MIX1-22 モジュールから MAIN L/R バスへのアサイン設定のオン/オフ状態を一覧表示します。
SEND PAN (INPUT)	CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールから MAIN L/R バスへのパン/バランス設定を一覧表示します。
SEND PAN (BUS)	MIX1-22 モジュールから MAIN L/R バスへのパン/バランス設定を一覧表示します。

⑧ FADER レベル表示

- CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールの FADER レベルの設定状態を一覧表示します。
- 選択枠を表示中に、対応する LCD ノブ（青色で点灯）を使って、FADER レベルを調節します。

モジュール名	設定範囲	初期値
CH1-40	-∞dB ~ +10dB	-∞dB
ST IN1-2		
FX RTN1-4		0.0dB

⑨ MAIN L/R MASTER LEVEL

MAIN L/R マスターモジュールの FADER レベルを調節します。

設定範囲：-∞dB ~ +10dB（初期値：0.0dB）

選択枠を表示中に LCD ノブ 8（青色で点灯）を使って調節します。

⑩ FADER レベル表示

- MIX1-22 モジュールの FADER レベルの設定状態を一覧表示します。
- 選択枠を表示中に、対応する LCD ノブ（青色で点灯）を使って、FADER レベルを調節します。

設定範囲：-∞dB ~ +10dB（初期値：0.0dB）

⑪ 入力モジュール用 MAIN L/R アサイン状態表示／ボタン

- CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールから MAIN L/R バスへのアサイン設定のオン/オフ状態を一覧表示します。
- このボタンをタップすると、MAIN L/R バスへのアサインのオン/オフを切り換えます。

選択肢：オン（初期値）、オフ

オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

⑫ BUS モジュール用 MAIN L/R アサイン状態表示／ボタン

- MIX1-22 モジュールから MAIN L/R バスへのアサイン設定のオン/オフ状態を一覧表示します。
- このボタンをタップすると、MAIN L/R バスへのアサインのオン/オフを切り換えます。

選択肢：オン、オフ（初期値）

オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

⑬ CH1-40 モジュール／ST IN1-2 モジュール／FX RTN1-4 モジュールの PAN／BAL 表示

- CH1-40 モジュール、ST IN1-2 モジュールおよび FX RTN1-4 モジュールから MAIN L/R バスへのパン/バランスの設定状態を一覧表示します。
- 選択枠を表示中に、対応する LCD ノブ（黄色で点灯）を使って、パン/バランスを調節します。

設定範囲：L100 ~ C ~ R100（初期値：C）




⑭ MIX1-22 モジュールの PAN／BAL 表示

- MIX1-22 モジュールから MAIN L/R バスへのパン/バランスの設定状態を一覧表示します。
- 選択枠を表示中に、対応する LCD ノブ（黄色で点灯）を使って、パン/バランスを調節します。

設定範囲：L100 ~ C ~ R100（初期値：C）

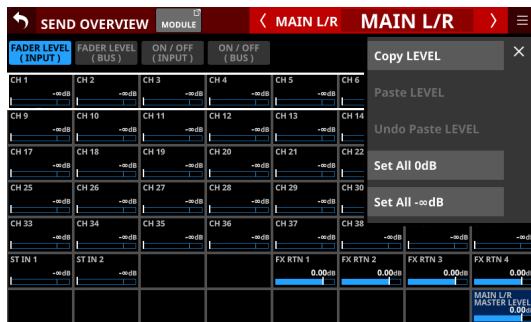
SEND OVERVIEW メニュー

SEND OVERVIEW メニューの操作

- SEND OVERVIEW画面右上の  ボタンをタップすると、選択したバスのSEND OVERVIEWメニューを表示します。
- メニュー項目をタップして、選択したバスに対する各パラメーターの設定を一括して変更します。
- SEND OVERVIEWメニューの  ボタンまたは  ボタンをタップすると、メニューを閉じます。

SEND OVERVIEW メニューのメニュー項目

SEND LEVEL (INPUT) / SEND LEVEL (BUS) / FADER LEVEL (INPUT)

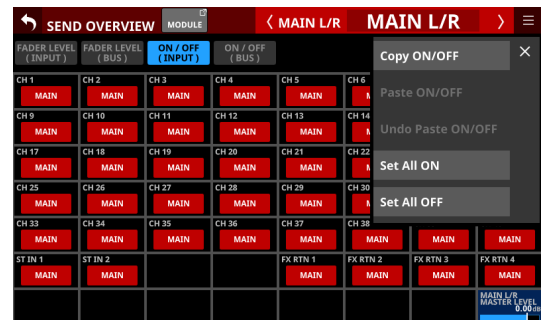
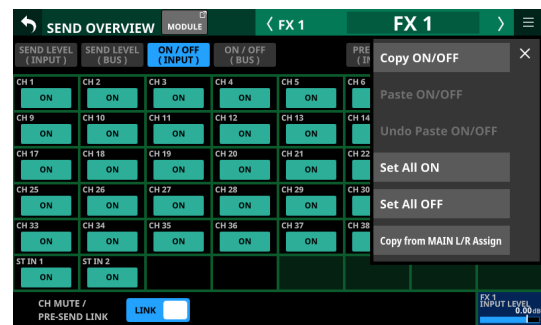


メニュー項目	内容
Copy LEVEL	選択したバスへのSENDレベルをバッファーにコピーします。
Paste LEVEL	バッファーにコピーしたSENDレベルを選択したバスに貼り付けます。
Undo Paste LEVEL	SENDレベルの貼り付け処理を取り消します。
Redo Paste LEVEL	SENDレベルの貼り付け処理を再実行します。
Set All 0dB	選択したバスへのSENDレベルをすべて「0dB」に設定します。
Set All -∞dB	選択したバスへのSENDレベルをすべて「-∞dB」に設定します。
Copy from Fader Level	選択したバスへのSENDレベルにFADERレベルをコピーします。

メモ

- 選択したバスがMAIN L/Rバスするとき、FADERレベルの設定を変更します。
- 選択したバスがMAIN L/Rバスするとき、メニュー項目「Copy from Fader Level」を表示しません。

ON / OFF (INPUT) / ON / OFF (BUS)



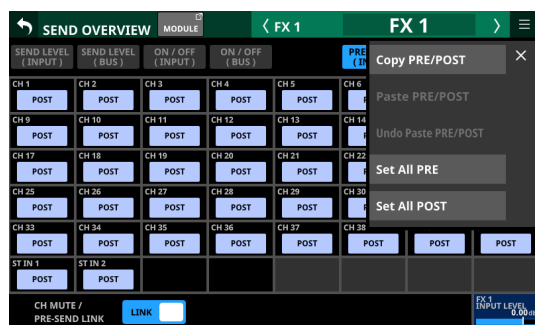
メニュー項目	内容
Copy ON/OFF	選択したバスへのアサイン設定をバッファーにコピーします。
Paste ON/OFF	バッファーにコピーしたバスへのアサイン設定を選択したバスに貼り付けます。
Undo Paste ON/OFF	バスへのアサイン設定の貼り付け処理を取り消します。
Redo Paste ON/OFF	バスへのアサイン設定の貼り付け処理を再実行します。
Set All ON	選択したバスへのアサイン設定をすべて「ON」に設定します。
Set All OFF	選択したバスへのアサイン設定をすべて「OFF」に設定します。
Copy from MAIN L/R Assign	選択したバスへのアサイン設定に、MAIN L/Rバスのアサイン設定をコピーします。

メモ

- 選択したバスがMAIN L/Rバスするとき、MAIN L/Rバスへのアサイン状態を変更します。
- 選択したバスがMAIN L/Rバスするとき、メニュー項目「Copy from MAIN L/R Assign」を表示しません。

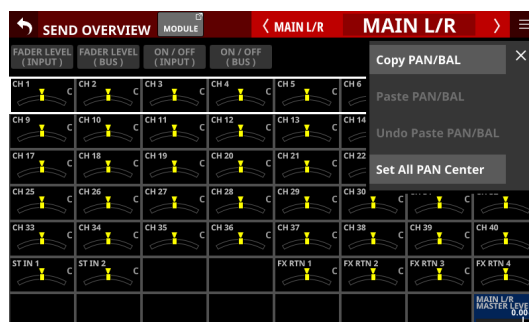
第7章 その他モジュールパラメーター設定画面

PRE / POST (INPUT)



メニュー項目	内容
Copy PRE/POST	選択したバスへのPRE / POST設定をバッファにコピーします。
Paste PRE/POST	バッファにコピーしたバスへのPRE / POST設定を選択したバスに貼り付けます。
Undo Paste PRE/POST	バスへのPRE / POST設定の貼り付け処理を取り消します。
Redo Paste PRE/POST	バスへのPRE / POST設定の貼り付け処理を再実行します。
Set All PRE	選択したバスへのPRE / POST設定をすべて「PRE」に設定します。
Set All POST	選択したバスへのPRE / POST設定をすべて「POST」に設定します。

SEND PAN (INPUT) / SEND PAN (BUS)



メニュー項目	内容
Copy PAN/BAL	選択したバスへのパン／バランスの設定をバッファにコピーします。
Paste PAN/BAL	バッファにコピーしたパン／バランスの設定を選択したバスに貼り付けます。
Undo Paste PAN/BAL	バスへのパン／バランスの設定の貼り付け処理を取り消します。
Redo Paste PAN/BAL	バスへのパン／バランスの設定の貼り付け処理を再実行します。
Set All PAN Center	選択したバスへのパン／バランスの設定をすべて中央 (C) に設定します。
Copy from MAIN L/R PAN	選択したバスへのパン／バランスの設定に、MAIN L/Rバスのパン／バランスの設定をコピーします。

メモ

選択したバスがMAIN L/Rバスするとき、メニュー項目「Copy from MAIN L/R PAN」を表示しません。

Mute Group機能とDCA機能

Mute Group機能

- 本機は、8つのMute Groupを装備しています。
- Mute Groupでは、アサインされたモジュール群のMUTE状態を一括してオン／オフすることができます。
- PREFERENCES画面（→ 39 ページ「PREFERENCES画面」）のMute Group Priority ボタンの設定により、Mute GroupのMUTEが「オン」になる前からMUTEが「オン」だったモジュールでの、Mute GroupのMUTEを「オフ」にした際の振る舞いを選択できます。
- PREFERENCES画面（→ 39 ページ「PREFERENCES画面」）のMute Group LED Flash スイッチの設定がONのとき、Mute GroupによりMUTEされたモジュールでは、MUTEインジケーターが点滅します。
- Mute Groupは、以下で操作することができます。
 - Mute Group Master タブ 画面
 - Mute Group機能がアサインされたUSER KEYS / FOOTSWITCH / GPIO-IN（→ 54 ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」）

メモ

Mute Group機能は、User Key タブ 画面の工場出荷時の設定であらかじめ以下のようにアサインされています。

- USER KEYS 1-4 (Mute | Mute Group1-4 | Mute - LIT)

DCA (Digital Control Amplifier) 機能

- 本機は、8つのDCAを装備しています。
- DCAは、アサインされたモジュール群のFADERレベルのバランスを維持したまま、レベルを一度に調節することができる機能です。例えば、DCAにアサインされた2つのモジュールのFADERレベルが「-10dB」と「-15dB」のときにDCAモジュールのFADERレベルを5dB上げると、それぞれのFADERレベルが「-10dB → -5dB」、「-15dB → -10dB」になります。この際、アサインされている各フェーダーの物理的なフェーダー位置は変わりません。
- DCAモジュールのMUTEキーは、Mute Groupと同じように動作します。
- PREFERENCES画面（→ 39 ページ「PREFERENCES画面」）のDCA Mute Priority ボタンの設定により、DCAのMUTEが「オン」になる前からMUTEが「オン」だったモジュールでの、DCAのMUTEを「オフ」にした際の振る舞いを選択できます。
- PREFERENCES画面（→ 39 ページ「PREFERENCES画面」）のMute Group LED Flash スイッチの設定がONのとき、DCAモジュールによりMUTEされたモジュールでは、MUTEキーインジケーターが点滅します。
- DCAモジュールのSOLOキーは、Mute Groupと同じように、アサインされたモジュール群のSOLO状態を一括してオン／オフすることができます。
- PREFERENCES画面（→ 39 ページ「PREFERENCES画面」）のDCA Solo Priority ボタンの設定により、DCAのSOLOが「オン」になる前からSOLOが「オン」だったモジュールでの、DCAのSOLOを「オフ」にした際の振る舞いを選択できます。
- DCAモジュールによりSOLOが「オン」になったモジュールでは、SOLOインジケーターが点滅します。
- DCAは、DCAレイヤーまたはDCAモジュールをアサインしたフェーダー / MUTEキー / SOLOキーで操作します。

- DCAに他のDCAをアサインすること（DCAアサインの階層化）もできます。ただし、以下のDCAアサインはできません。
 - 自分自身のアサイン（例：DCA1 へのDCA1 のアサインは不可）
 - 上位階層に位置するDCAのアサイン（例：DCA1 → DCA2 → DCA3 というDCA階層の場合、DCA2 ではDCA1 をアサイン不可。DCA3 では、DCA1 とDCA2 をアサイン不可）
- アサインできないDCAモジュールは、モジュールボタン（④）エリアに枠だけで表示されます。

DCAスピルモード

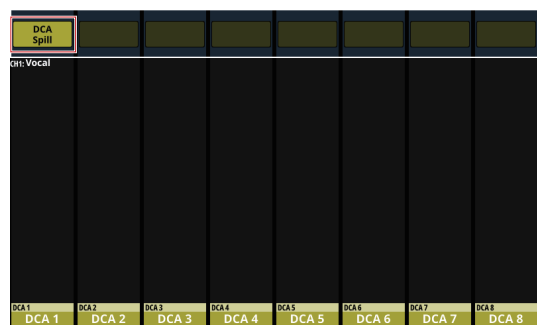
DCAにアサインされたモジュール群を本機のチャンネルフェーダーやホーム画面などに並べ、FADERレベルなどを調整できるモードです。

メモ

- モジュール群がアサインされたDCAに対してのみ有効なモードです。
- TASCAM Sonicview Controlでは、DCAスピルモードは使用できません。本機のみ使用できるモードです。

DCAスピルモードをオンにする

- ホーム画面のDCAモジュールのDCA Spillボタンをタップする。
- 該当するDCAモジュールのSELキーを押し続ける。



DCAスピルモードがオンのときの操作

- 対象DCAのFADERレベルなどの調整は、トップパネルのマスターセクションで行います。
- 対象DCAにアサインされたモジュール群のFADERレベルなどの調整は、チャンネルフェーダーやホーム画面などで行います。

DCAスピルモードをオフにする

- トップパネルのマスターセクションの点滅しているSELキーを押し続ける。
- DCA/Mute Group SETUP画面のDCA Assign タブ 画面上部の「DCA Spill OFF」ボタンを押す。（→ 226 ページ「DCA Assign タブ画面」）

メモ

- モジュール群の操作は、Sonicview 16 / 16dpでは最大16ch、Sonicview 24 / 24dpでは最大24chまでになります。
- DCAスピルモードがオンのとき、LAYERキー操作は無効になります。
- DCAスピルモードがオンのとき、該当DCAにアサインされたモジュール以外のMODULE画面には切り換えできません。
- DCAスピルモードがオンのとき、トップパネルのマスターセクションのSELキーとチャンネルカラーバーが点滅します。

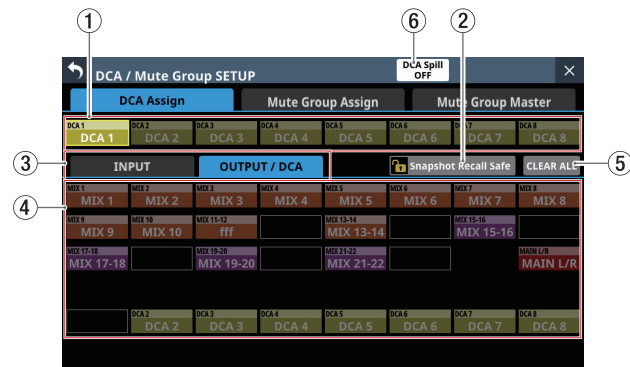
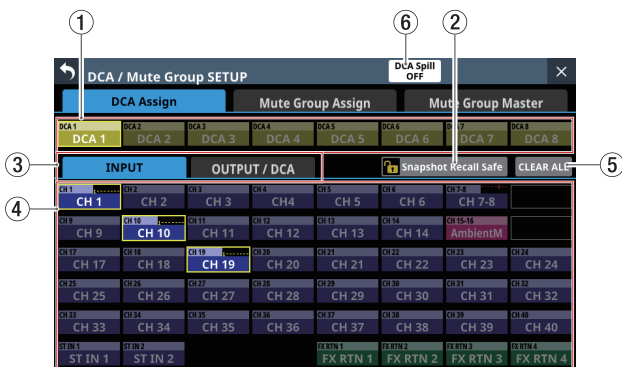
第7章 その他モジュールパラメーター設定画面

DCA/Mute Group SETUP画面

この画面では、DCAとMute Groupの設定を行います。
この画面は、以下の手順で表示します。

- メニュー画面 > Mixer Setupメニュー > 「DCA / Mute Group」のタップ
- MODULE (OVERVIEW) 画面のDCAボタンおよびMUTE GROUPボタンのタップ
- DCAモジュールのホーム画面DCAアサイン表示エリアのタップ
- トップパネルのMENUキーを押しながら、MUTE GroupがアサインされたUSERキーを押す

DCA Assign タブ画面



① DCAボタン

- DCAのMODULE LABELを表示します。
上段左側には、MODULE LABEL Subで設定したMODULE LABELを表示します。
下段には、MODULE LABEL Mainで設定したMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- このボタンをタップして、アサインを変更するDCAを選択します。選択中のDCAのボタンがハイライト表示になります。

② Snapshot Recall Safeボタン

このボタンをタップすると、選択したDCAのスナップショットリコールセーフ状態を変更します。(初期値：オフ)
オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

SNAPSHOT RECALL SAFE画面のMODULE SAFEタブ画面でも設定することができます。(→ 249 ページ「MODULE SAFEタブ画面」)

③ モジュールタイプ選択タブ

DCAにアサインするモジュールタイプを選択するタブボタンです。
タップして選択したタブボタンがハイライト表示になります。

④ モジュールボタン

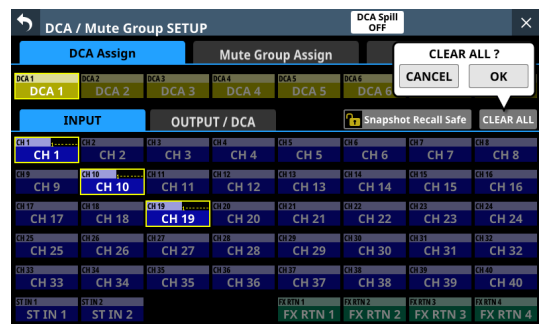
- 選択したDCAにアサインするモジュールを選択するボタンです。
上段左側には、MODULE LABEL Subで設定したMODULE LABELを表示します。
下段には、MODULE LABEL Mainで設定したMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- このボタンをタップしてDCAにアサインすると、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

ホーム画面のMODULE LABELエリアと同様に、各ボタン上段右側の上部にMute Groupへのアサイン状態を、下部にDCAへのアサイン状態を表示します。(→ 21 ページ「⑫ MODULE LABELエリア」)

⑤ CLEAR ALLボタン

このボタンをタップすると、選択したDCAの「INPUT」および「OUTPUT/DCA」のアサイン状態をすべてクリアするか確認するメッセージを表示します。

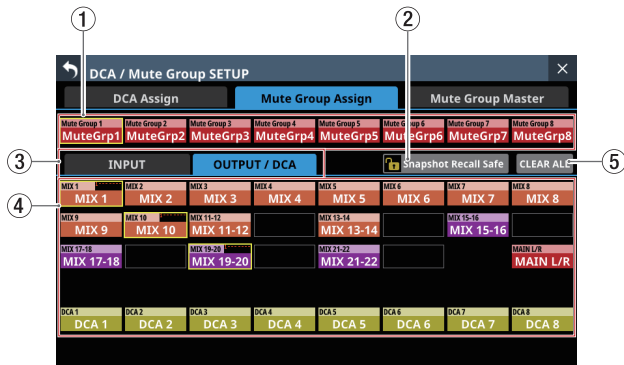
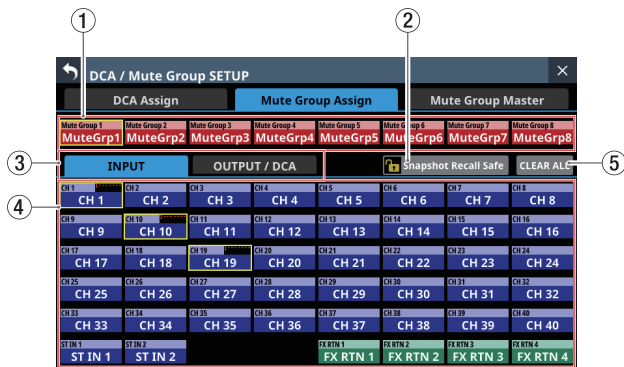


OKボタンをタップすると、アサイン状態をすべてクリアにします。

⑥ DCA Spill OFFボタン

このボタンは、DCAスピルモードがオンのときにのみ表示されます。
このボタンをタップして、DCAスピルモードをオフにします。

Mute Group Assignタブ画面



① MuteGrp ボタン

- Mute GroupのMODULE LABELを表示します。
上段左側には、MODULE LABEL Subで設定したMODULE LABELを表示します。
下段には、MODULE LABEL Mainで設定したMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- このボタンをタップして、アサインを変更するMute Groupを選択します。
選択中のMute Groupのボタンがハイライト表示になります。

② Snapshot Recall Safe ボタン

このボタンをタップすると、選択したMute Groupのスナップショットリコールセーフ状態を変更します。(初期値：オフ)
オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

③ モジュールタイプ選択タブ

Mute Groupにアサインするモジュールタイプを選択するタブボタンです。
タップして選択したタブボタンがハイライト表示になります。

④ モジュールボタン

- 選択したMute Groupにアサインするモジュールを選択するボタンです。
上段左側には、MODULE LABEL Subで設定したMODULE LABELを表示します。
下段には、MODULE LABEL Mainで設定したMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- このボタンをタップしてMute Groupにアサインすると、ボタンがハイライト表示になります。

メモ

ホーム画面のMODULE LABELエリアと同様に、各ボタン上段右側の上部にMute Groupへのアサイン状態を、下部にDCAへのアサイン状態を表示します。(→ 21 ページ「⑫ MODULE LABELエリア」)

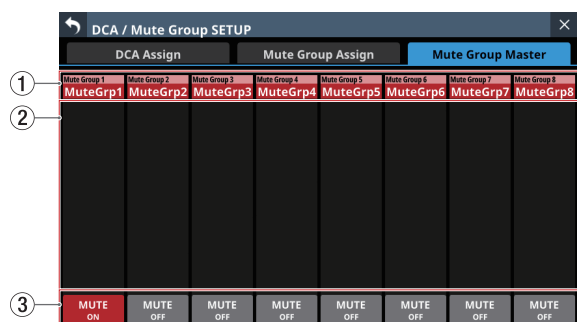
⑤ CLEAR ALL ボタン

このボタンをタップすると、選択したDCAの「INPUT」および「OUTPUT/DCA」のアサイン状態をすべてクリアするか確認するメッセージを表示します。



OKボタンをタップすると、アサイン状態をすべてクリアにします。

Mute Group Masterタブ画面



① Mute Group名表示

- Mute GroupのMODULE LABELを表示します。
上段左側には、MODULE LABEL Subで設定したMODULE LABELを表示します。
下段には、MODULE LABEL Mainで設定したMODULE LABELを表示します。(→ 132 ページ「DISPLAY MODEタブ画面」)
- この部分をタップすると、選択したMute GroupのUSER MODULE LABELとモジュール設定色を変更するMODULE LABEL画面に切り換わります。(→ 229 ページ「MODULE LABEL画面」)

② Mute Groupアサイン一覧

Mute GroupにアサインされているモジュールのFIXED MODULE LABELとUSER MODULE LABELを一覧表示します。

③ MUTEボタン

Mute GroupのMaster MUTE ボタンです。(初期値：OFF)
このボタンをタップして、オン／オフを切り換えます。
オンのとき、ボタンがハイライト表示になり、このMute GroupにアサインされたモジュールがMUTEされます。
この際、Mute GroupによりMUTEされたモジュールのMUTEキーは、点滅表示します。

メモ

Mute Group機能は、User Defined Control機能によりUSER KEYSやFOOTSWITCH、GPIO-INで操作できます。(→ 54 ページ「USER DEFINED CONTROLS画面」)

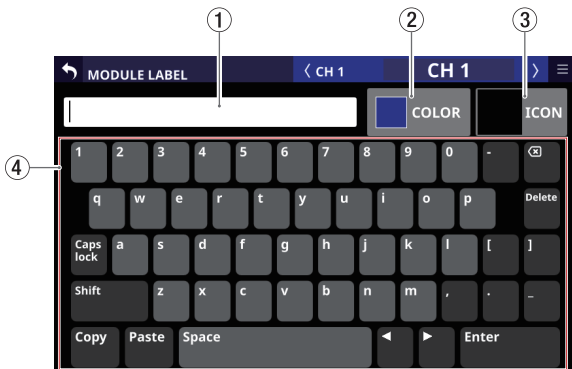
Mute GroupのMUTEは、User Keyタブ画面の工場出荷時の設定であらかじめ以下のようにアサインされています。

- USER KEYS 1-4 (Mute | Mute Group1-4 | Mute - LIT)

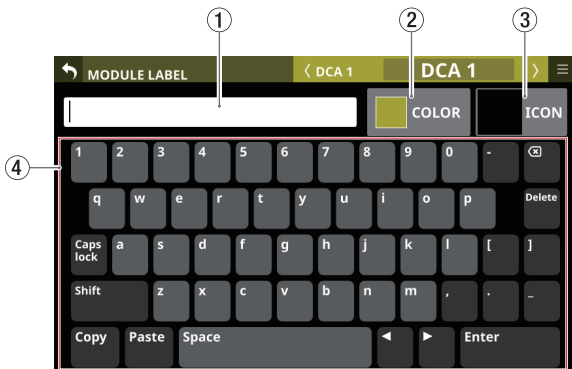
MODULE LABEL画面

この画面では、以下の設定を行います。

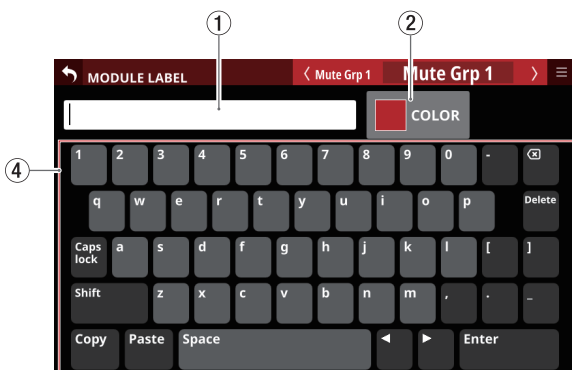
- 各画面に表示するUSER MODULE LABELの登録／編集。
- 各画面のMODULE LABELの背景に表示するモジュール設定色、およびチャンネルカラーバーの点灯色の変更。
- チャンネル画面に表示するモジュールアイコンの設定。
- Mute GroupのUSER MODULE LABELの登録／編集、Mute Groupのモジュール設定色の変更。



[CH1 モジュールのMODULE LABEL画面]



[DCA1 モジュールのMODULE LABEL画面]



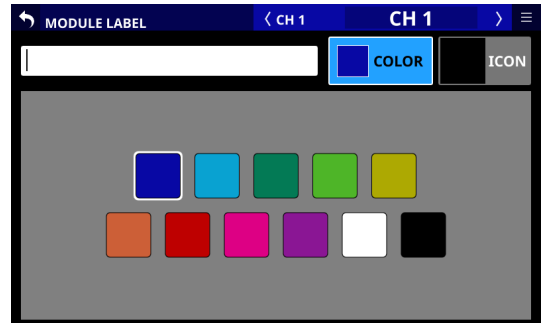
[Mute Group モジュールのMODULE LABEL画面]

① キーボード入力表示エリア

- 編集するUSER MODULE LABELを表示します。この画面のキーボードボタンやトップパネルのUSB端子に接続したUSBキーボードで表示された文字列を編集します。
- カラーパレット表示・アイコン選択表示のときにこのエリアをタップすると、キーボード表示エリア (④) がキーボード表示に切り換わります。

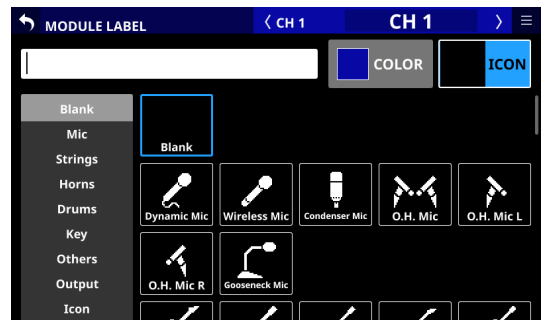
② COLORボタン

このボタンをタップすると、モジュール設定色を変更するカラーパレット表示に切り換わります。(→ 231 ページ「モジュール設定色の変更方法」)



③ ICONボタン

このボタンをタップすると、各モジュールのチャンネル画面に表示するアイコンを設定するアイコン選択表示に切り換わります。(→ 232 ページ「モジュールアイコンの設定方法」)



④ キーボード表示エリア

- このエリアのキーボードボタンをタップして、キーボード入力表示エリアに表示されたUSER MODULE LABELを編集します。
- Copy ボタンをタップすると、キーボード入力表示エリアに表示された文字列をコピーバッファーにコピーします。
- Paste ボタンをタップすると、コピーバッファーにある文字列を、キーボード入力表示エリアに貼り付けます。

第7章 その他モジュールパラメーター設定画面

USER MODULE LABELの登録／編集方法

USER MODULE LABELの登録／編集を行います。

メモ

USER MODULE LABELは、初期状態では設定されていません。

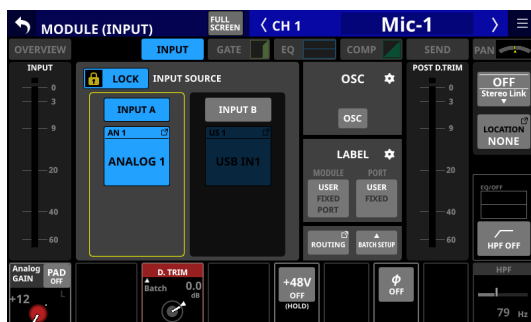
1. LABEL SETUP画面のMODULE LABELタブ画面／MODULE画面／SEND OVERVIEW画面／MIXER CONFIG画面／各LIBRARY画面のUSER MODULE LABEL表示（DCAモジュールの場合はホーム画面のMODULE LABELエリア、MUTE GROUPの場合はMute Group Masterタブ画面のMute Group名表示エリア）をタップして、MODULE LABEL画面に切り換えます。
2. MODULE LABEL画面のキーボードのボタンをタップして、USER MODULE LABELを入力します。
USER MODULE LABELは、最大8文字です。

メモ

MODULE LABEL画面のキーボードのCaps lockボタンとShiftボタンの設定状態によって、入力できる文字の組み合わせを変更することができます。キーボードの変更方法については、230ページ「キーボードの変更方法」をご参照ください。



3. 入力した文字が即座に各画面のUSER MODULE LABEL／チャンネル画面のUSER MODULE LABELの表示に反映されます。



4. MODULE LABEL画面のキーボードのEnterボタンをタップすると、右隣のモジュールのMODULE LABEL画面に移動します。

注意

以下の記号や句読点は、入力できません。

¥ / : * ? “ < > |

メモ

- トップパネルのUSB端子に接続したUSBキーボードを使って文字を入力／編集することもできます。
- USER MODULE LABELが表示エリアに表示しきれない場合は、末尾を省略して表示します。末尾が数字の場合は、数字を最大2文字残して省略表示します。

キーボードの変更方法

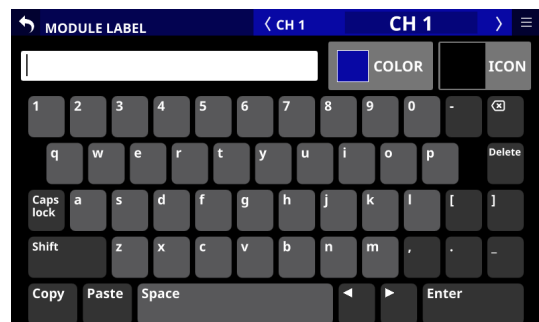
Caps lockボタンとShiftボタンの設定状態によって、入力できる文字の組み合わせが下記のようになります。

メモ

Shiftボタンは、1文字入力すると自動的にオフになります。

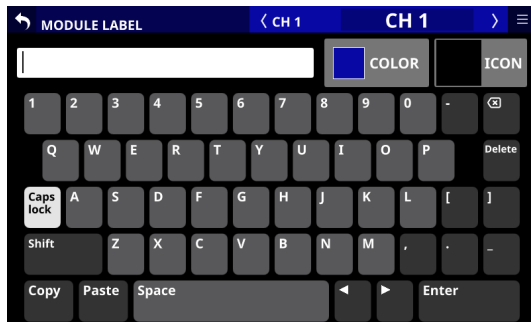
- 数字と小文字を入力したい場合の設定

Caps lockボタン	オフ
Shiftボタン	オフ



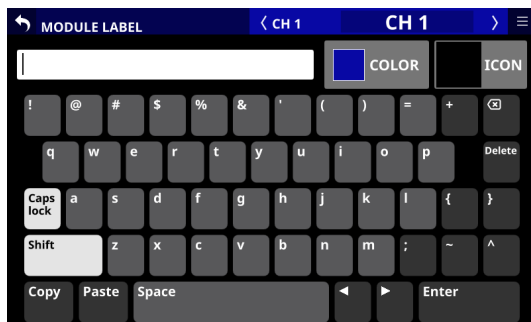
● 数字と大文字を入力したい場合の設定

Caps lockボタン	オン（ハイライト表示）
Shiftボタン	オフ



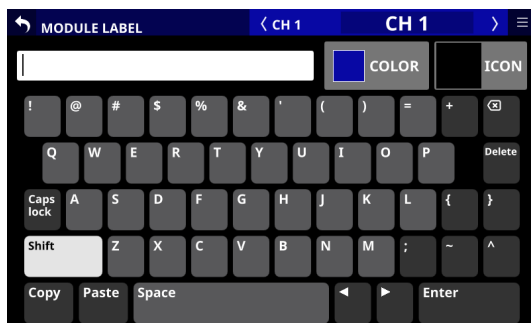
● 記号と小文字を入力したい場合の設定

Caps lockボタン	オン（ハイライト表示）
Shiftボタン	オン（ハイライト表示）



● 記号と大文字を入力したい場合の設定

Caps lockボタン	オフ
Shiftボタン	オン（ハイライト表示）

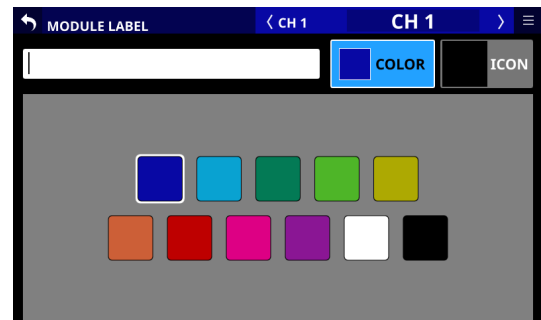


モジュール設定色の変更方法

各画面のMODULE LABELの背景に表示するモジュール設定色、およびチャンネルカラーバーの点灯色を変更します。
工場出荷時のモジュール設定色は、以下の通りです。

CH1-40	青
STIN1-2	青
FXRTN1-4	緑
BUSモードが「AUX」のMIX	オレンジ
BUSモードが「GROUP」のMIX	紫
MAIN L/R	赤
DCA	黄色
Mute Group	赤

1. LABEL SETUP画面のMODULE LABELタブ画面／MODULE画面／SEND OVERVIEW画面／MIXER CONFIG画面／各LIBRARY画面のUSER MODULE LABEL表示（DCAモジュールの場合はホーム画面のMODULE LABELエリア、MUTE GROUPの場合はDCA/Mute Group SETUP画面のMute Group Masterタブ画面のMute Group名表示エリア）をタップして、MODULE LABEL画面に切り換えます。
2. MODULE LABEL画面のCOLORボタンをタップして、カラーパレット表示に切り換えます。



第7章 その他モジュールパラメーター設定画面

3. カラーパレット表示の色をタップして、モジュール設定色を変更します。

各画面のMODULE LABELの背景色およびチャンネルカラーバーの点灯色が変更されます。



メモ

MODULE LABEL画面のキーボード入力表示エリアをタップすると、キーボード表示に戻ります。

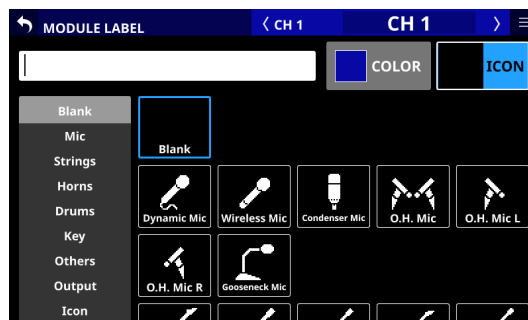
モジュールアイコンの設定方法

各モジュールのチャンネル画面に表示するアイコンを設定します。

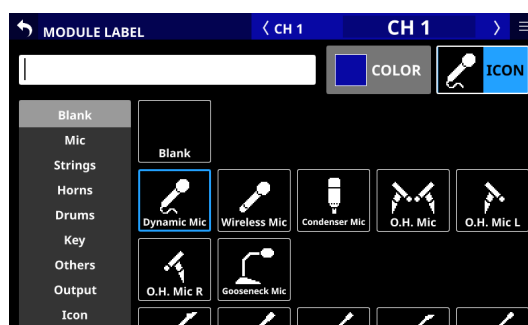
メモ

モジュールアイコンは、初期状態では設定されていません。

1. MODULE画面／SEND OVERVIEW画面／MIXER CONFIG画面／各LIBRARY画面のUSER MODULE LABEL表示（DCAモジュールの場合はホーム画面のMODULE LABELエリア）をタップして、MODULE LABEL画面に切り換えます。
2. MODULE LABEL画面のICONボタンをタップして、アイコン選択表示に切り換えます。



3. アイコン選択エリアのアイコンをタップして、表示するアイコンを設定します。
MODULE LABEL画面およびチャンネル画面に設定したアイコンが表示されます。



メモ

- 画面に表示されていないアイコンを選択するには、アイコン選択エリアを上下にスワイプして画面をスクロールします。また、画面左端にあるアイコンのカテゴリー名をタップすることで、画面をスクロールすることもできます。
- MODULE LABEL画面のキーボード入力表示エリアをタップすると、キーボード表示に戻ります。

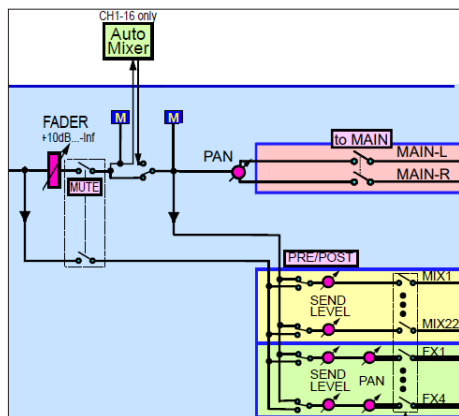
AUTO MIXER機能

AUTO MIXERについて

- 本機には、ゲインシェアリング方式（ゲインを分け合って音量を一定にする方式）のスピーチ向けAUTO MIXERを搭載しています。
- 本機のAUTO MIXERでは、各マイク入力とすべてのマイク入力の和を比較し、「マイク入力1つのとき」と「マイク入力複数のとき」でAUTO MIXERからの出力レベルの総和が等しくなるように、各マイク入力のAUTO MIXERのGAINレベルを自動調整します。
- WEIGHT値の設定により、特定のチャンネルのレベルを大きめにミックスする／小さめにミックスするなど、各チャンネルのバランスを整えることができます。これによりゲインの配分が変わりますが、AUTO MIXERからの出力レベルの総和は変わりません。
- 4つのAUTO MIXERグループ（A/B/C/D）により、グループごとに最大4種類のミックスを独立して作ることができます。

メモ

- AUTO MIXERは、CH1-16 モジュールのFADER / MUTEの直後（=POST FADER）に搭載されています。そのため、モニター送りのようなPRE SEND信号には影響しません。
- MIXバス / FXバスへのPOST SEND信号は、AUTO MIXER後の信号となります。



[AUTO MIXER付近のブロック図抜粋]

- 本機のAUTO MIXERは、会議などのスピーチ向けの機能です。楽器や音楽向けではありませんのでご注意ください。
- AUTO MIXERの設定は、Snapshot対象です。

AUTO MIXER機能を使うための準備／手順

1. AUTO MIXER機能全体をOFFにした状態で以下のように設定します。
 - AUTO MIXER対象のマイクのPre Amp GAINを整え、マイクの音量をそろえます。
 - AUTO MIXER対象チャンネルのFADERを0dB/MUTEをOFFに設定します。

2. AUTO MIXER対象のマイクがアサインされたチャンネルのグループ設定をAUTO MIXERグループ（A/B/C/D）のいずれかに設定します。（→ 238 ページ「④ チャンネルのグループアサインボタン」）
AUTO MIXER対象外のマイクがアサインされたチャンネルのグループ設定を「---」に設定します。
3. 手順2で選択したグループのAUTO MIXER機能をONに設定します。（→ 236 ページ「⑪ グループのAUTO MIXER機能のON / OFFボタン」）
4. AUTO MIXER機能全体を「ON」に切り換えます。（→ 235 ページ「⑤ AUTO MIXER機能全体のON / OFFボタン」）

AUTOMATIC MIXER画面

この画面では、CH1-16 モジュールに搭載されたAUTO MIXER機能の設定を行います。



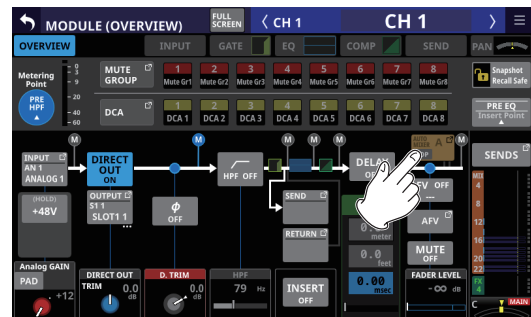
AUTOMATIC MIXER画面の表示手順

この画面は、以下の手順で表示します。

- メニュー画面 > Mixer Setupメニュー > 「Automatic Mixer」のタップ
- ホーム画面のSENDエリアにAUTO MIXERパラメーターを表示しているときのAUTO MIXER GROUPボタンをタップ

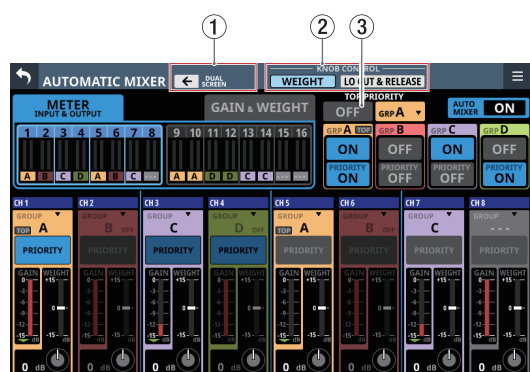


- CH1-16 モジュールのMODULE (OVERVIEW) 画面にあるAUTO MIXERボタンのタップ

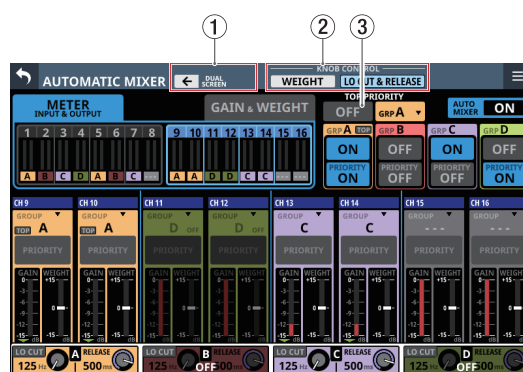


第7章 その他モジュールパラメーター設定画面

AUTOMATIC MIXER画面の内容説明



[AUTOMATIC MIXER画面LCD ノブ操作対象：WEIGHT時]



[AUTOMATIC MIXER画面LCD ノブ操作対象：LO CUT&RELEASE時]

① DUAL SCREEN ボタン

- ◀ ボタンまたは ▶ ボタンをタップすると、矢印の方向のタッチスクリーンにAUTOMATIC MIXER画面が追加で表示されます。これにより、AUTO MIXER対象のCH1-16全体のAUTO MIXERの設定や動作状況を2つのタッチスクリーンで同時に操作／確認できるようになります。
- すでに矢印の方向のタッチスクリーンにAUTOMATIC MIXER画面が表示されているときに ▶ ボタンまたは ▶ ボタンをタップすると、タップしたタッチスクリーンのAUTOMATIC MIXER画面を閉じます。

② ノブ操作対象の選択ボタン

このボタンをタップして、AUTOMATIC MIXER画面の下部に表示されるLCDノブの操作対象を切り換え、対応するLCDノブを使って表示中のパラメーターを調整します。
選択されたボタンがハイライト表示になります。

ボタン名	機能
WEIGHT (初期値)	各チャンネルのWEIGHT値を調整します。
LO CUT & RELEASE	各グループのLO CUTとRELEASE TIMEを調整します。

メモ

チャンネル設定表示部 (13) のGAINレベルメーター (16) およびWEIGHT設定値インジケーター (15) のエリアをタップすることでも、ノブ操作対象を切り換えることができます。

③ TOP PRIORITYのON / OFFボタン

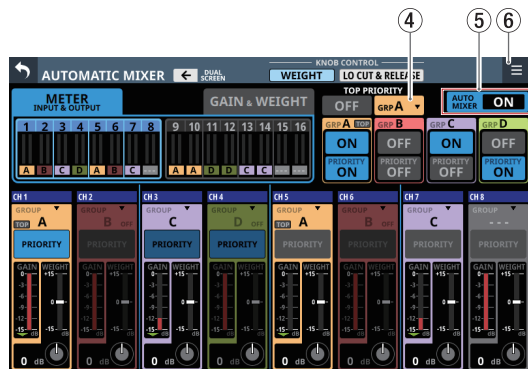
- TOP PRIORITY対象に選択されたグループの優先度を操作するボタンです。
- このボタンをタップして、TOP PRIORITY設定のON / OFFを切り換えます。(初期値：OFF)

注意

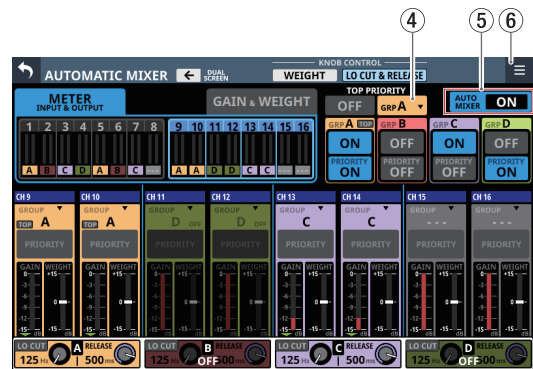
PREFERENCES画面のAuto Mixer Priority Inhibit設定 (初期値：ON、42 ページ「27 Auto Mixer Priority Inhibitスイッチ」) が「ON」のとき、このボタンは操作できません。

- ONのとき、TOP PRIORITY対象に選択されたグループの優先度が上がり、それ以外のグループにアサインされたチャンネルはMUTEされます。この際、このボタンと以下の「TOP」のアイコンがハイライト表示になります。
- TOP PRIORITY対象表示の「TOP」のアイコン (→ 236 ページ「10 TOP PRIORITY対象表示」)
- このグループにアサインされたチャンネルのグループアサインボタンの「TOP」のアイコン (→ 238 ページ「A チャンネルのグループアサインボタン」)





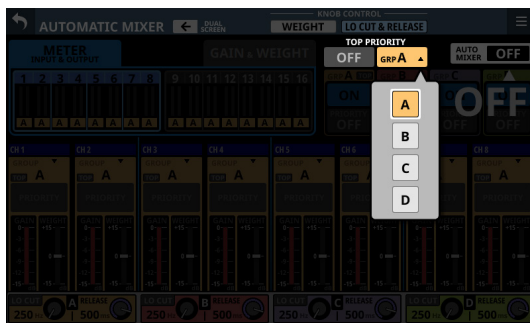
[AUTOMATIC MIXER画面LCD ノブ 操作対象：WEIGHT時]



[AUTOMATIC MIXER画面LCD ノブ 操作対象：LO CUT&RELEASE時]

④ TOP PRIORITYのグループ選択ボタン

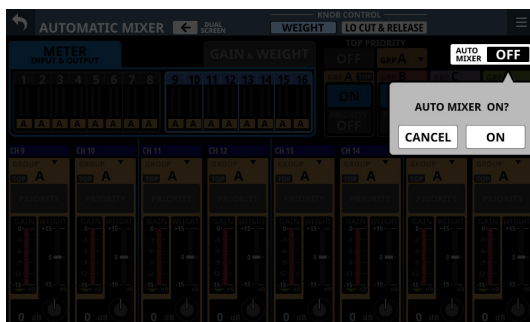
- TOP PRIORITYのON/OFFボタンにより優先度を上げるグループを選択します。
- 選択中のTOP PRIORITY対象のグループ名を表示します。
- このボタンをタップすると、TOP PRIORITY対象のグループを選択するウィンドウを表示します。



選択肢をタップして、TOP PRIORITY対象のグループを選択します。(初期値：A)

⑤ AUTO MIXER機能全体のON / OFF ボタン

- AUTO MIXER機能全体のON / OFFを切り換えます。(初期値：OFF)
- このボタンをタップすると確認メッセージを表示します。



ONまたはOFFボタンをタップすると、ON / OFFを切り換えます。
CANCELボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。

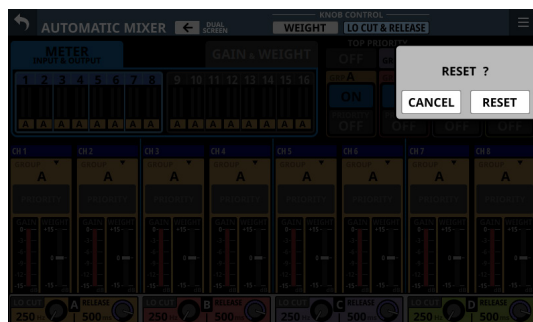
- ONのとき、ボタンがハイライト表示になります。
- OFFのとき、全モジュールのすべてのAUTO MIXERパラメーターが暗い色で表示されます。

⑥ ㉑ ボタン

このボタンをタップすると、選択したAUTOMATIC MIXER画面のメニューを表示します。
メニューの ㊫ ボタンまたは ㉑ ボタンをタップすると、メニューを閉じます。

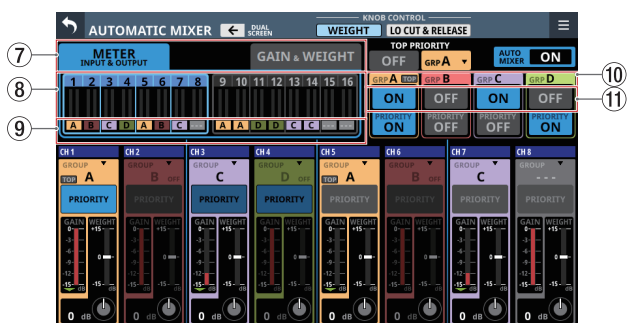


メニュー項目のResetボタンをタップすると、AUTO MIXER機能の設定をリセットする(工場出荷時の設定に戻す)かどうかの確認メッセージを表示します。



RESETボタンをタップすると、AUTO MIXER機能を工場出荷時の設定に戻します。
CANCELボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。

第7章 その他モジュールパラメーター設定画面



[AUTOMATIC MIXER画面LCD ノブ 操作対象：WEIGHT時]



[AUTOMATIC MIXER画面LCD ノブ 操作対象：LO CUT&RELEASE時]

⑦ メーター／インジケーター表示選択タブ

メーター／インジケーター表示部（⑧）の表示モードを選択するタブボタンです。
タップして選択したタブボタンがハイライト表示になります。

メーター／インジケーター表示モード	表示内容
METER INPUT & OUTPUT (初期値)	AUTO MIXERの入出力レベルメーターを表示します。 各チャンネルの左側は、各チャンネルからAUTO MIXERへの入力レベルを黄色のメーターで表示します。 各チャンネルの右側は、各チャンネルのAUTO MIXERからの出力レベルを黄緑色のメーターで表示します。
GAIN & WEIGHT	AUTO MIXERのGAINレベルメーターとWEIGHT設定値インジケーターを表示します。 各チャンネルの左側は、AUTO MIXERにより自動的に制御された各チャンネルのGAINレベルメーターを赤色で表示します。 各チャンネルの右側は、各チャンネルのWEIGHT設定値インジケーターを水色で表示します。

⑧ メーター／インジケーター表示部

AUTO MIXERの入出力レベルや設定状態を示す16チャンネル分のメーター／インジケーターを一覧表示します。
表示内容の切り換えは、メーター／インジケーター表示選択タブ（⑦）をタップして切り換えます。また、この部分をタップして、チャンネル設定表示部（⑬）の操作対象のチャンネルを切り換えます。
選択したチャンネル操作対象表示がハイライト表示になり、チャンネル設定表示部（⑬）に表示されます。（初期値：CH1-8）

⑨ グループアサイン状態表示部

- 各チャンネルのグループアサイン状態を表示します。
- 選択したグループに応じた背景色で表示されます。
- グループのAUTO MIXER機能がOFFのときには、暗い色で表示されます。

⑩ TOP PRIORITY対象表示

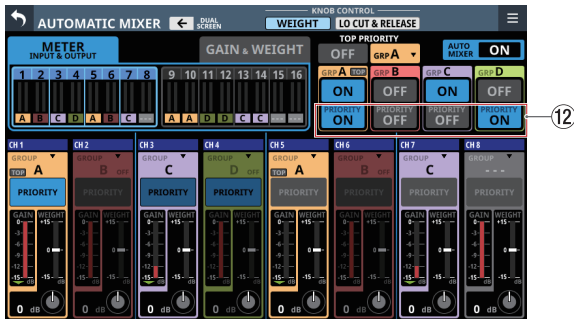
TOP PRIORITY対象として選択されたグループの場合、グループ名の右側に「TOP」のアイコンが表示されます。
TOP PRIORITY設定がONのとき、「TOP」のアイコンがハイライト表示になります。

⑪ グループのAUTO MIXER機能のON / OFF ボタン

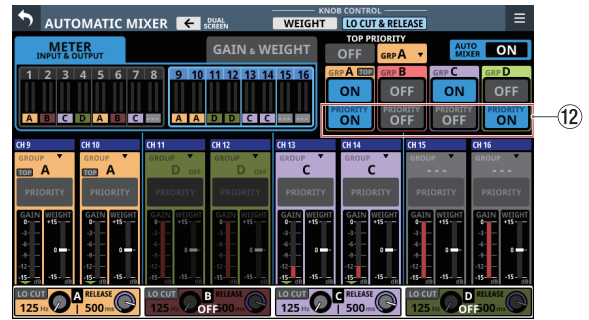
- 各グループのAUTO MIXER機能のON / OFFを切り換えます。（初期値：ON）
- このボタンをタップすると、確認メッセージを表示します。



- ONまたはOFFボタンをタップすると、ON / OFFを切り換えます。
CANCELボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。
- ONのとき、ボタンがハイライト表示になります。
 - OFFのとき、このグループにアサインされたチャンネルのAUTO MIXERパラメーターが暗い色で表示されます。



[AUTOMATIC MIXER画面LCD ノブ 操作対象：WEIGHT時]



[AUTOMATIC MIXER画面LCD ノブ 操作対象：LO CUT&RELEASE時]

⑫ グループ PRIORITY設定の ON / OFF ボタン

各グループの PRIORITY設定の ON / OFFを切り換えます。(初期値：OFF)

注意

PREFERENCES画面の Auto Mixer Priority Inhibit設定 (初期値：ON、42 ページ「⑳ Auto Mixer Priority Inhibit スイッチ」) が「ON」のとき、このボタンは操作できません。

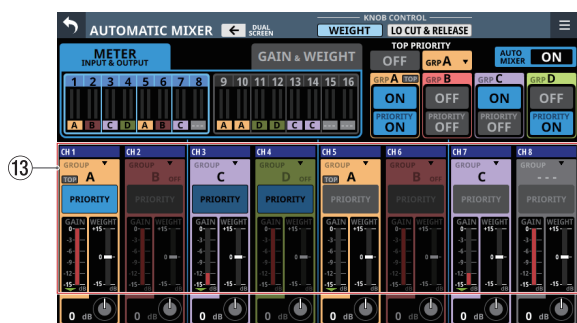
ONのとき、ボタンがハイライト表示になって、グループ内でチャンネル PRIORITY設定が「ON」のチャンネルの優先度が上がり、グループ内でチャンネル PRIORITY設定が「OFF」のチャンネルはMUTEされます。

また、チャンネル PRIORITY設定の ON / OFF ボタン (㊸) のうち、以下の状態のボタンがハイライト表示になります。

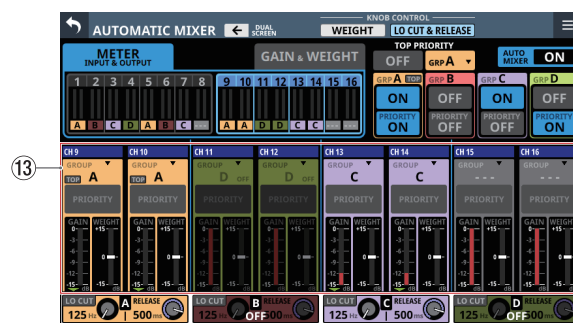
- グループ PRIORITY設定の ON / OFF ボタン (⑫) と同一グループ
- 「ON」に設定されている



第7章 その他モジュールパラメーター設定画面



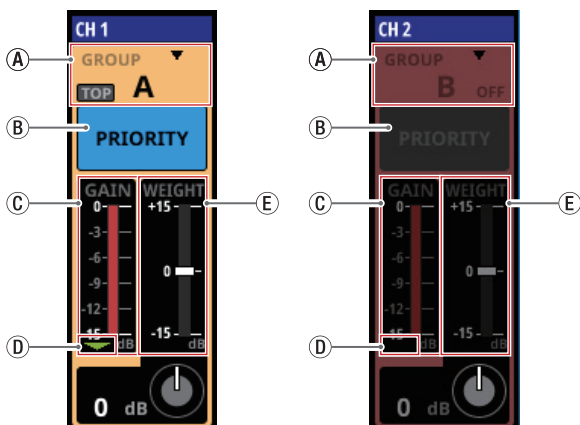
[AUTOMATIC MIXER画面LCD ノブ 操作対象：WEIGHT時]



[AUTOMATIC MIXER画面LCD ノブ 操作対象：LO CUT&RELEASE時]

⑬ チャンネル 設定表示部

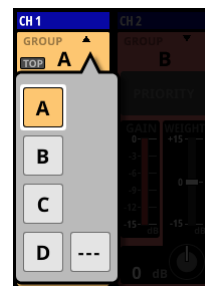
- 各チャンネルのAUTO MIXER設定を表示します。
- 選択したグループに応じた背景色で表示されます。
- グループのAUTO MIXER機能がOFFのときには、暗い色で表示されます。



[AUTOMATIC MIXER画面LCD ノブ 操作対象：WEIGHT時]

① チャンネルのグループアサインボタン

- 各チャンネルは4つのAUTO MIXERグループ (A/B/C/D) にアサインできます。グループごとに最大4種類のミックスを独立して作ることができます。
- 選択したグループ名を表示します。
- 選択したグループに応じてチャンネル設定表示部の色が変わります。
- [---] ボタンを選択した場合は、AUTO MIXER対象外となり、「---」を表示します。
- TOP PRIORITY対象として選択されたグループの場合、グループ名の左側に「TOP」のアイコンが表示されます。TOP PRIORITY設定がONのとき、この「TOP」アイコンがハイライトになります。
- この部分をタップすると、チャンネルのグループをアサインするウィンドウを表示します。



選択肢をタップして、チャンネルの対象グループを選択します。(初期値：A)

② チャンネルPRIORITY設定のON / OFFボタン

グループPRIORITY設定のON / OFFボタンをONにすることにより優先度を上げるチャンネルを選択します。このボタンをタップして、各チャンネルのPRIORITYのON / OFFを切り換えます。(初期値：OFF)
ONのとき、このボタンの色が以下ようになります。

該当するチャンネルがアサインされたグループPRIORITYボタンの設定	ボタン色
ON	ハイライト表示
OFF	くすんだ水色表示

メモ

PREFERENCES画面のAuto Mixer Priority Inhibit設定（初期値：ON、42ページ「⑦ Auto Mixer Priority Inhibitスイッチ」）が「ON」のとき、このボタンは操作できません。

③ GAINレベルメーター

AUTO MIXER機能により自動調整されたGAINレベルを表示します。

④ GATEインジケーター

AUTO MIXER内の該当チャンネルのGATEが閉じているかどうかを示すインジケーターです。

AUTO MIXERへの入力レベルが-90dB以下でGATEが閉じているときに点灯、AUTO MIXERへの入力レベルが-84dB以上でGATEが開いているときに消灯します。

⑤ WEIGHT設定値インジケーター

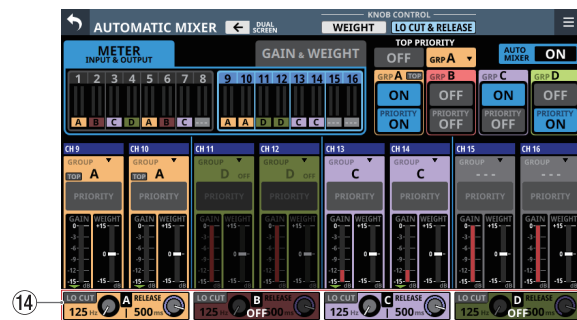
WEIGHTノブ（①）で設定したWEIGHT値を中央から上下に延びるインジケーターで表示します。

メモ

GAINレベルメーター（③）およびWEIGHT設定値インジケーター（⑤）のエリアをタップすることで、ノブ操作対象を切り換えることができます。



[AUTOMATIC MIXER画面LCD ノブ 操作対象：WEIGHT時]



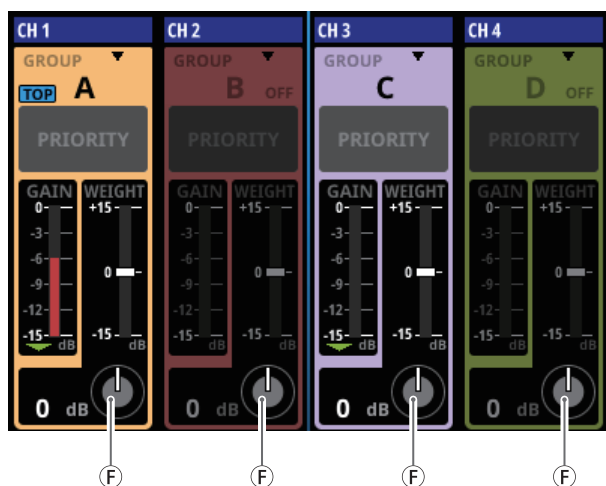
[AUTOMATIC MIXER画面LCD ノブ 操作対象：LO CUT&RELEASE時]

⑭ ノブ 操作エリア

AUTO MIXERの各種パラメーターを、対応するLCD ノブで操作します。

LCD ノブ 操作対象：WEIGHT時

各チャンネルのWEIGHT値を設定します。



① WEIGHT ノブ

同時に複数の人が話している場合の、同一AUTO MIXERグループ内でのゲイン配分量の設定です。

WEIGHT値の設定によりゲインの配分が変わりますが、AUTO MIXERからの出力レベルの総和は変わりません。ノブ操作対象選択ボタン(②)で「WEIGHT」が選択されているときに、対応するLCD ノブ(水色で点灯)を使って各チャンネルのWEIGHT値を調整します。

設定範囲：-15dB～+15dB (初期値：0dB)

メモ

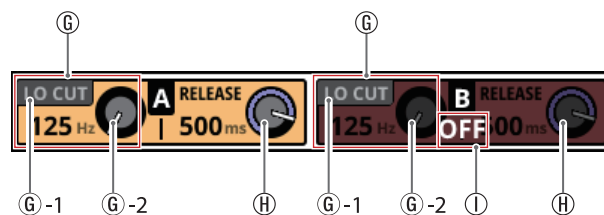
単独で話している際の音量には影響しません。

設定例

- 重要な話者のチャンネルは、WEIGHT値を上げる。
- 聴こえにくいチャンネルは、WEIGHT値を上げる。
- 他より大きく聴こえるチャンネルは、WEIGHT値を下げる。

LCD ノブ 操作対象：LO CUT & RELEASE時

各グループのLO CUTとRELEASE TIMEを設定します。



⑥ LO CUT

AUTO MIXERの音量判定に使う信号に対するグループごとのローカットフィルターです。声とは関係ない周囲ノイズによる影響でAUTO MIXERのゲインが変動してしまうことを抑える目的で使用します。

⑥ - 1：LO CUT オン／オフボタン

各グループのLO CUTのオン／オフを切り換えるボタンです。(初期値：オフ)

ノブ操作対象選択ボタン(②)で「LO CUT & RELEASE」が選択されているときに、このボタンをタップして切り換えます。

オンのとき、ボタンがハイライト表示になります。

⑥ - 2：LO CUT ノブ

各グループのLO CUTのカットオフ周波数を調整します。

ノブ操作対象選択ボタン(②)で「LO CUT & RELEASE」が選択されているときに、LCD ノブ 1/3/5/7 (オレンジ/ピンク/紫/黄緑で点灯)を使ってグループごとに調整します。

設定範囲：125Hz～4.0kHz (初期値：125Hz)

⑧ RELEASE ノブ

話者が複数人から一人になった際などのタイミングで、抑えられていたGAINレベルを元に戻すまでの時間をグループごとに調整します。

ノブ操作対象選択ボタン(②)で「LO CUT & RELEASE」が選択されているときに、LCD ノブ 2/4/6/8 (オレンジ/ピンク/紫/黄緑で点灯)を使って各グループのRELEASE TIMEを調整します。

設定範囲：5ms～1.00s (初期値：500ms)

① グループのAUTO MIXER機能のOFF表示

グループのAUTO MIXER機能のON / OFF ボタンがOFFのとき、「OFF」と表示されます。

第 8 章 設定データの保存／呼び出し

Snapshot機能

本機のみキサー設定をSnapshotとして名前を付けて保存し、いつでも呼び出すことができます。

Snapshotリスト画面から呼び出すほかに、USER KEYSやFOOTSWITCH、GPIO-INを使って呼び出すこともできます。

Snapshotには、以下の情報が含まれます。

メモ

INPUT SOURCEのINPUT A／INPUT Bの設定は、Ver 2.2.0にて追加された機能です。そのため、これより前のバージョンでSTOREしたSnapshotをRECALLした場合は、以下のようになります。

- 旧バージョンの入力ルーティング設定は、INPUT Aのルーティング設定としてRECALLされます。
- INPUT Bのルーティング、INPUT A／INPUT Bボタンの切り換えの設定は、RECALL前の状態を維持します。

入出力設定

- ルーティング設定 (INPUT、OUTPUT)
- 内蔵オシレーター入力のオン／オフ
- アナログゲイン
- パッドのオン／オフ
- ファンタム電源のオン／オフ
- フェーズボタン設定
- デジタルトリム値の設定
- ダイレクトアウト信号の設定 (オン／オフ、TRIM、ルーティング)
- インサート入出力の設定 (オン／オフ、ポイント、ルーティング)
- バスアサイン設定 (MIXバス、MAINバス)
- マウントされたSB-16Dのアナログゲイン、パッドのオン／オフ、ファンタム電源のオン／オフ

信号処理設定

- HPFパラメーター
- EQパラメーター
- GEQパラメーター
- ダイナミクスパラメーター
- デジタルディレイ (ディレイタイム、オン／オフ、ポイント)
- エフェクトパラメーター
- バスセンド設定 (レベル、プリ／ポスト、パン／バランス)
- パン／バランス設定、イメージ、MODE
- フェーダー／MUTE設定

その他モジュール設定

- DCA／MUTEグループ設定
- ステレオリンク設定
- バスモード設定 (AUX／GROUP)
- メーターリングポイント設定
- USER MODULE LABEL・モジュール設定色・アイコン設定
- LABEL SETUP画面設定
- MODULE (OUTPUT) 画面のSELECT PORT LABELモードの設定
- AFV設定
- AUTO MIXER設定

その他設定

- 内蔵オシレーター設定 (オン／オフ、アサイン、レベル、タイプ、周波数)
- トークバック設定 (ファンタム電源のオン／オフ、デジタルトリム値)
- レイヤー設定 (レイヤーキーアサイン、カスタムレイヤーアサイン、アプリケーション用カスタムレイヤー名)
- USER DEFINED CONTROLS設定
- 各種表示器の輝度設定

これらの設定情報が保存されます。

さらにSnapshotをRECALLしたときに、特定のパラメーターが変化しないように保護することができます (例えば、SnapshotをRECALLしたときにルーティングは変更したくない場合など)。

メモ

- 下記信号をアサインした出力端子は、Snapshot Recallで設定が変更されません。

- SOLO DIRECT OUT L/R (→ 96 ページ「③ OUTPUT ボタン」)
- TB to EXT 1/2 (→ 86 ページ「⑮ EXT 1 OUT ボタン／EXT 2 OUT ボタン」)
- MONITOR 1 DIRECT OUT L/R (→ 94 ページ「⑥ Direct OUT PORT ボタン (MONITOR 1)」)
- MONITOR 2 DIRECT OUT L/R (→ 95 ページ「⑦ Direct OUT PORT ボタン (MONITOR 2)」)
- MONITOR 2 OUT L/R (→ 95 ページ「⑩ OUTPUT PORT ボタン (MONITOR 2)」)

そのため、Snapshot Recall後に下記の出力ルーティングが変更されない場合があります。

- MIX 1-22
- MAIN L/R
- CH1-40 Direct OUT
- Insert Send

MAIN L/Rのルーティングが影響を受ける例)

「MON 2 OUT L/R ➡ ANALOG OUT 15/16」

というルーティング設定の状態で

「MAIN L/R OUT ➡ ANALOG OUT 15/16」

というルーティング設定のSnapshotをRecallした場合



「MAIN L/R OUT ➡ ANALOG OUT 15/16」

という設定はRecallされず

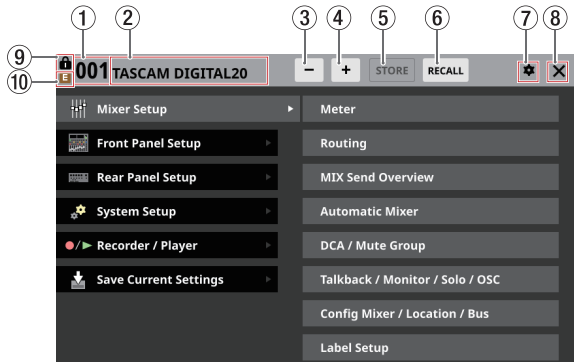
「MON 2 OUT L/R ➡ ANALOG OUT 15/16」

という設定が維持される。

- DCAスピルモード中にSnapshot Recallを実施した場合、DCAスピルモードは解除されます。

メニュー画面上部での Snapshot機能の操作

Snapshot機能の操作は、メニュー画面の Snapshot機能項目表示エリアまたは Snapshot リスト画面にて行います。ここでは、Snapshotのデータを保存する各エリアを「スロット」「データスロット」と呼びます。



① Snapshot番号

- STORE / RECALL対象の Snapshot番号を表示します。カレント Snapshot（最後にSTORE / RECALLした Snapshot）と一致していないときは、点滅表示します。
- この部分をタップすると、Snapshot リスト画面を表示します。（→ 245 ページ「Snapshot リスト画面」）

② Snapshot名表示部

- STORE / RECALL対象の Snapshot名を表示します。カレント Snapshot（最後にSTORE / RECALLした Snapshot）と一致していないときは、点滅表示します。
- この部分をタップすると、Snapshot リスト画面を表示します。（→ 245 ページ「Snapshot リスト画面」）

③ Snapshot選択ボタン（-）

- このボタンをタップすると、表示している Snapshot番号と Snapshot名を 1 つ小さい番号のものに変更します。
- このボタンを押し続けると、連続して小さい番号の Snapshotに表示を変更します。
- Snapshot番号が「001」のときにタップすると、「P0xx (Preset データの最大番号)」を表示します。
- Snapshot番号が「P001」のときにタップすると「128」を表示します。

④ Snapshot選択ボタン（+）

- このボタンをタップすると、表示している Snapshot番号と Snapshot名を 1 つ大きい番号のものに変更します。
- このボタンを押し続けると、連続して大きい番号の Snapshotに表示を変更します。
- Snapshot番号が「128」のときにタップすると、「P001」を表示します。
- Snapshot番号が「P0xx (Preset データの最大値)」のときにタップすると「001」を表示します。

⑤ STORE ボタン

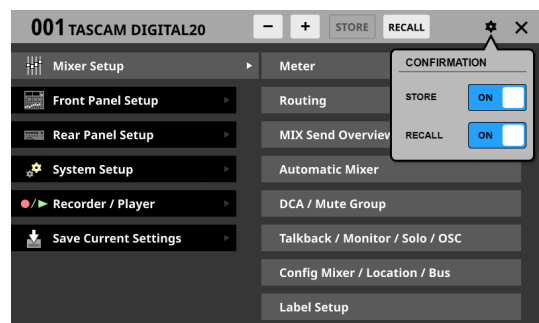
- このボタンをタップすると、表示されているデータスロットに現在の設定を STORE（保存）します。（→ 242 ページ「Snapshotを STOREする」）
- LOCKされたデータスロットが表示されている場合は、ボタンがグレイアウト表示となります。

⑥ RECALL ボタン

- このボタンをタップすると、Snapshot番号 / Snapshot名表示部に表示されているデータスロットの設定を RECALLします。（→ 243 ページ「Snapshotを RECALLする」）
- 空のデータスロットが表示されている場合は、ボタンがグレイアウト表示となります。

⑦ アイコン

このアイコンをタップすると、CONFIRMATION設定ウィンドウを表示します。



各スライドスイッチをタップして、SnapshotのSTORE確認メッセージおよびRECALL確認メッセージを表示するかを設定します。再度このボタンをタップすると、CONFIRMATION設定ウィンドウを閉じます。

メモ

これらの設定は、PREFERENCES画面でも設定することができます。（→ 39 ページ「PREFERENCES画面」）

⑧ アイコン

このアイコンをタップすると、メニュー画面を閉じます。

⑨ アイコン

LOCKされた Snapshotを表示しているときに、このアイコンを表示します。

⑩ E (EDIT) アイコン

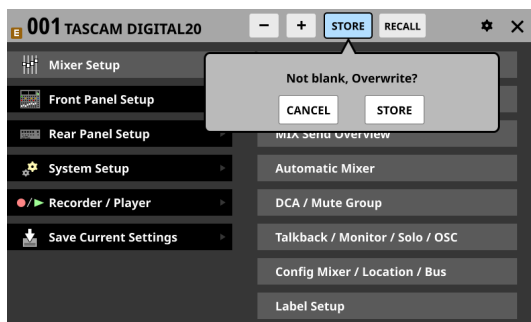
最後にSTORE / RECALLした Snapshot（カレント Snapshot）から Snapshot対象の設定が変更された場合にアイコンを表示します。

Snapshotを STOREする

SnapshotデータをSTOREする（保存する）には、以下のいずれかの手順で操作します。

MENU画面上部でSTOREする場合

1. / ボタンをタップして、保存先のデータスロットをSnapshot番号（①）／ Snapshot名表示部（②）に表示します。
2. STORE ボタン（⑤）をタップします。
 - 保存先データスロットが空の場合は、現在のSnapshot対象の設定をデータスロットにSTOREします。
 - 保存先データスロットが空でない状態でCONFIRMATION設定ウィンドウのSTOREの設定が「ON」の場合、保存確認メッセージが表示されます。



- 確認メッセージのSTOREボタンをタップすると、現在のSnapshot対象の設定をデータスロットにSTOREし、確認メッセージを閉じます。
 - 確認メッセージのCANCELボタンをタップすると、STORE処理を実施せずに確認メッセージを閉じます。
3. STORE完了後、STORE完了メッセージを約 2 秒間表示します。

Snapshot リスト画面でSTOREする場合

1. 以下のいずれかの方法でSnapshotリスト表示部に保存先のデータスロットを表示します。
 - / ボタンをタップする
 - LCDノブ 8 を回す
 - リストを上下スワイプする
 - スクロールバーを上下ドラッグする
2. 保存先のデータスロットをタップして選択します。データスロットがハイライト表示されます。
3. STORE ボタン（⑤）をタップします。
 - 保存先データスロットが空の場合は、現在のSnapshot対象の設定をデータスロットにSTOREします。
 - 保存先データスロットが空でない状態でCONFIRMATION設定ウィンドウのSTOREの設定が「ON」の場合、保存確認メッセージが表示されます。
 - 確認メッセージのSTOREボタンをタップすると、現在のSnapshot対象の設定をデータスロットにSTOREし、確認メッセージを閉じます。
 - 確認メッセージのCANCELボタンをタップすると、STORE処理を実施せずに確認メッセージを閉じます。
4. STORE完了後、STORE完了メッセージを約 2 秒間表示します。

USER DEFINED CONTROL画面で設定した操作子でSTOREする場合

USER DEFINED CONTROL画面のFunctionとParameter1 の設定が以下の場合、Parameter2 の設定によりSTORE対象が異なります。

Function	Parameter1
Snapshot	Store

Parameter2 を「Selected」に設定した操作子を押した場合

メニュー画面上部のSnapshot番号（①）／ Snapshot名表示部（②）に表示されたデータスロットに、現在のSnapshot対象の設定をSTOREします。

Parameter2 を「No.」に設定した操作子を押した場合

Parameter3 で指定された番号のデータスロットに、現在のSnapshot対象の設定をSTOREします。

Parameter2 を「+Target Key」に設定した操作子を押した場合

Function：Snapshot／Parameter1：Targetの操作子を同時に押すと、Function：Snapshot／Parameter1：Targetの操作子のParameter2 およびParameter3 で指定された番号のデータスロットに、現在のSnapshot対象の設定をSTOREします。ただし、Function：Snapshot／Parameter1：TargetのParameter2 が「Next」または「Prev」に設定されたキーと同時に押した場合は動作しません。

メモ

Store時のSnapshot名

- STOREすると、自動的にカレントSnapshot名をベースに、以下のように世代がわかる情報を付加した名前が自動的に付けられます。
 - 第一世代：ベース名
 - 第二世代：ベース名+_XX（番号 2 桁）
 - 第三世代：ベース名+_XX+a-z（アルファベット小文字 1 文字）

自動的に名前が付けられない状況*では、

Cannot generate default name automatically.
Change name
[CANCEL] [RENAME]

とメッセージが表示されます。
名前を変更してSTOREする場合は、RENAMEボタンを押してRENAME画面に切り換えます。
既存データと重複しない名前を入力してEnterをタップするとSTOREされます。



* 自動的に名前が付けられない状況

- カレントSnapshotが第一世代の名前で、すでに「カレント名_99」という名前のデータが存在する。
- カレントSnapshotがXXを含んだ第二世代の名前で、すでに「カレント名_XXz」という名前のデータが存在する。
- カレントSnapshotが第三世代の名前。
- カレントSnapshot以外にUSER DEFINED CONTROL操作子でSTOREした場合は、Snapshot名は「USER KEY + データスロット番号」となります。



SnapshotをRECALLする

SnapshotデータをRECALLする（呼び出す）には、以下のいずれかの手順で操作します。

MENU画面上部でRECALLする場合

1.  /  ボタンをタップして、RECALLしたいデータスロットを Snapshot 番号 (①) / Snapshot 名表示部 (②) に表示します。
2. RECALL ボタン (⑥) をタップします。
CONFIRMATION 設定ウィンドウの RECALL の設定が「ON」の場合、確認メッセージが表示されます。
 - 確認メッセージの RECALL ボタンをタップすると、Recall 処理を実施し、確認メッセージを閉じます。
 - 確認メッセージの CANCEL ボタンをタップすると、Recall 処理を実施せずに確認メッセージを閉じます。
3. RECALL 完了後、RECALL 完了メッセージを約 2 秒間表示します。

Snapshot リスト画面でRECALLする場合

1. 以下のいずれかの方法で Snapshot リスト表示部に RECALL したいデータスロットを表示します。
 -  /  ボタンをタップする
 - LCD ノブ 8 を回す
 - リストを上下スワイプする
 - スクロールバーを上下ドラッグする
2. RECALL したいデータスロットをタップして選択します。
データスロットがハイライト表示されます。
3. RECALL ボタン (⑥) をタップします。
CONFIRMATION 設定ウィンドウの RECALL の設定が「ON」の場合、確認メッセージが表示されます。
 - 確認メッセージの RECALL ボタンをタップすると、RECALL 処理を実施し、確認メッセージを閉じます。
 - 確認メッセージの CANCEL ボタンをタップすると、RECALL 処理を実施せずに確認メッセージを閉じます。
4. RECALL 完了後、RECALL 完了メッセージを約 2 秒間表示します。

USER DEFINED CONTROL画面で設定した操作子でRECALLする場合

USER DEFINED CONTROL画面の Function と Parameter1 の設定が以下の場合、Parameter2 の設定により RECALL 対象が異なります。

Function	Parameter1
Snapshot	Recall

Parameter2 を「Selected」に設定した操作子を押した場合

メニュー画面上部の Snapshot 番号 (①) / Snapshot 名表示部 (②) に表示されたデータスロットの設定を RECALL します。

Parameter2 を「Next」または「Prev」に設定した操作子を押した場合

メニュー画面上部の Snapshot 番号 (①) / Snapshot 名表示部 (②) に表示されたデータスロットの 1 つ後 / 1 つ前に存在する Preset 以外の設定を RECALL します。

Parameter2 を「No.」に設定した操作子を押した場合

Parameter3 で指定された番号のデータスロットの設定を RECALL します。

Parameter2 を「+Target Key」に設定した操作子を押した場合

Function : Snapshot / Parameter1 : Target の操作子を同時に押すと、Function : Snapshot / Parameter1 : Target の操作子の Parameter2 および Parameter3 で指定された番号のデータスロットの設定を RECALL します。

第8章 設定データの保存／呼び出し

メモ

別機種（Sonicview 16 / Sonicview 24 / Sonicview 16dp / Sonicview 24dp）の Snapshot データの RECALL 対応について

別機種の Snapshot データを RECALL した場合は、以下のような確認メッセージが表示されます。

Sonicview 24 / 24dp で Sonicview 16 / 16dp の Snapshot データを RECALL した際のメッセージ

This is Sonicview 16 data.
Some parameters cannot be recalled.
Recall this data? [CANCEL] [RECALL]

「RECALL」ボタンをタップすると RECALL します。RECALL する際、互換性のある設定は、そのまま RECALL します。互換性のない下記設定は、下記のように取り扱います。

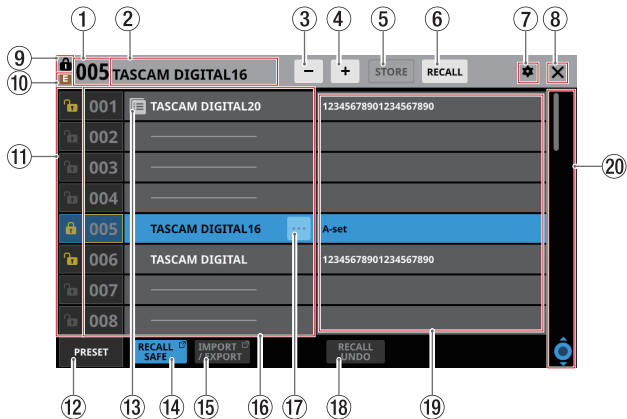
	Sonicview 16 / 16dp と Sonicview 24 / 24dp で互換性のない Snapshot 設定	Sonicview 24 / 24dp のデータを Sonicview 16 / 16dp で RECALL した場合	Sonicview 16 / 16dp のデータを Sonicview 24 / 24dp で RECALL した場合
1	アナログ入力 17-24 に関する設定		
	M/L 17-24 Input Assign	取り込まない	No Assign にする
	M/L 17-24 Phantom ON / OFF	取り込まない	OFF にする
	M/L 17-24 PAD ON / OFF	取り込まない	OFF にする
	M/L 17-24 Analog GAIN	取り込まない	最小値にする
2	Fader 17-24 に関する設定 Fader 17-24 Custom Layer Mapping	取り込まない	No Assign にする
3	Layer Key Assign		下記のように変換して取り込む (できる範囲で元データを再現する)
	Sonicview 16 / 16dp での Preset Layer	Sonicview 24 / 24dp での Preset Layer	RECALL する Sonicview 24 / 24dp データ
	CH1-16	CH1-24	CH1-24 → CH1-16
	CH17-32	CH25-40 / ST IN / FX RTN	CH25-40 / ST IN / FX RTN → CH17-32
	CH33-40 / ST IN / FX RTN	MIX1-22	MIX1-22 / MAIN L/R → MIX1-16
	MIX1-16		DCA1-8 → DCA1-8
	MIX17-22		CUSTOM 1 ~ CUSTOM 7 → CUSTOM 1 ~ CUSTOM 7
			--- → ---
			注意 この場合、以下が欠落してしまうので、注意が必要です。 • CH33-40 / ST IN / FX RTN • MIX17-22 / MAIN L/R
			RECALL 後の Sonicview 16 / 16dp の設定
			RECALL する Sonicview 16 / 16dp データ
			RECALL 後の Sonicview 24 / 24dp の設定
			CH1-16 → CH1-24
			CH17-32 → CH1-24
			CH33-40 / ST IN / FX RTN → CH25-40 / ST IN / FX RTN
			MIX1-16 → MIX1-22 / MAIN L/R
			MIX17-22 / MAIN L/R → MIX1-22 / MAIN L/R
			DCA1-8 → DCA1-8
			CUSTOM 1 ~ CUSTOM 7 → CUSTOM 1 ~ CUSTOM 7
			--- → ---

Snapshot リスト 画面

この画面では、Snapshot機能の操作およびSnapshotの設定データの管理／編集を行います。

ここでは、SnapshotやLIBRARYのデータを保存する各エリアを「スロット」「データスロット」と呼びます。

この画面は、メニュー画面左上のSnapshot番号とSnapshot名の部分をタップして表示します。



① Snapshot番号

STORE / RECALL対象のSnapshot番号を表示します。
カレントSnapshot（最後にSTORE / RECALLしたSnapshot）と一致していないときは、点滅表示します。

② Snapshot名表示部

STORE / RECALL対象のSnapshot名を表示します。
カレントSnapshot（最後にSTORE / RECALLしたSnapshot）と一致していないときは、点滅表示します。

③ Snapshot選択ボタン（-）

メニュー画面のSnapshot選択ボタン（-）と同じ働きをします。

④ Snapshot選択ボタン（+）

メニュー画面のSnapshot選択ボタン（+）と同じ働きをします。

⑤ STORE ボタン

メニュー画面のSTOREボタンと同じ働きをします。

⑥ RECALL ボタン

メニュー画面のRECALLボタンと同じ働きをします。

⑦ アイコン

メニュー画面のアイコンと同じ働きをします。

⑧ アイコン

このアイコンをタップすると、Snapshotリスト画面を閉じてメニュー画面に戻ります。

⑨ アイコン

メニュー画面のアイコンと同じ働きをします。

⑩ (EDIT) アイコン

メニュー画面のアイコンと同じ働きをします。

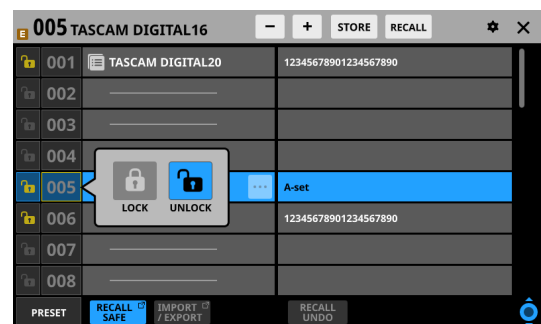
⑪ LOCK / UNLOCK ボタン

- 各データスロットのLOCK / UNLOCK状態を表示します。

ボタン	内容
	UNLOCK状態
	LOCK状態

データスロットに設定データが保存されていないときは、グレイアウト表示になります。

- アイコンまたはアイコンをタップすると、データスロットのLOCK / UNLOCKを切り換えるウィンドウを表示します。

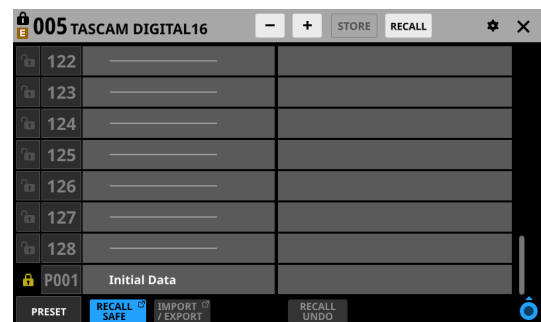


選択肢をタップして、LOCK / UNLOCKを切り換えます。

- LOCKされたデータスロットは、削除やRename、上書きストア、Pasteができなくなります。

⑫ PRESET ボタン

このボタンをタップすると、Snapshotリストの表示がプリセットデータ（P001～）の位置に移動します。



第8章 設定データの保存／呼び出し

⑬ アイコン

Snapshotの設定データを内蔵メモリーにコピー済みのデータスロットにアイコンが表示されます。

メモ

アイコンは、新しく Snapshot の設定データをコピーする、もしくは本機の電源を切るまでアイコンが表示されます。ただし、コピー元を削除／上書き STORE／Renameするとアイコンが消えます。

⑭ RECALL SAFE ボタン

- Recall Safe の設定状態を表示します。いずれかの Recall Safe が設定されている場合に、ボタンがハイライト表示になります。
- このボタンをタップすると、Snapshot 呼び出し時に設定を保護する（設定を維持する）対象を選択する SNAPSHOT RECALL SAFE 画面に切り換わります。（→ 249 ページ「SNAPSHOT RECALL SAFE 画面」）

⑮ IMPORT / EXPORT ボタン

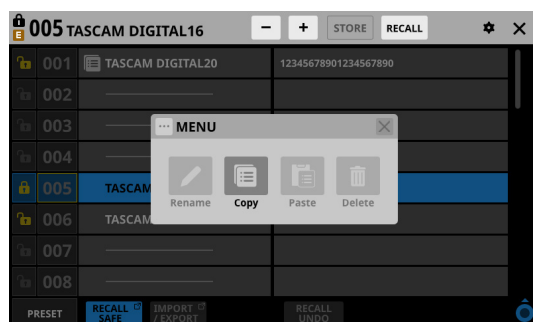
このボタンをタップすると、SNAPSHOT IMPORT / EXPORT 画面に切り換わります。（→ 250 ページ「SNAPSHOT IMPORT / EXPORT 画面」）

⑯ Snapshot リスト表示部

- Snapshot 番号と Snapshot 名を表示します。
- データが保存されていないデータスロットには、横バーが表示されます。
- 選択中のデータスロットは、ハイライト表示になります。
- あらかじめプリセットされている Snapshot の Snapshot 番号には「P」が付いています。
- カレント Snapshot（最後に STORE／RECALL した Snapshot）の Snapshot 番号は、黄色い枠が表示されます。

⑰ Snapshot 編集メニューボタン (⋮)

- 選択中のデータスロットにのみ、このボタンが表示されます。
- このボタンをタップすると、選択中のデータスロットを編集するメニューのウィンドウを表示します。



詳細については、247 ページ「ライブラリーメニュー」をご参照ください。

⑱ RECALL UNDO／REDO ボタン

このボタンをタップすると、Snapshot Recall の UNDO／REDO を実施します。

RECALL UNDO は、最後の Snapshot Recall を取り消して Recall 実施前の状態に設定値を戻します。

RECALL REDO は、UNDO を取り消して UNDO 実施前の状態に戻します。

⑲ コメント表示部

Snapshot を編集するメニューの Rename ボタンをタップして表示する RENAME 画面の「COMMENT」に登録した内容を表示します。

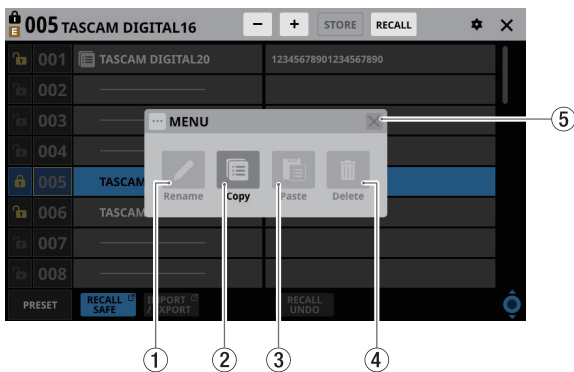
登録したコメントの先頭から表示できるだけ表示します。一行で収まらない場合は、二行で表示します。それでも収まらない場合は二行目の末尾に「…」が表示されます。

⑳ スクロールノブ／スクロールバー表示

スクロールバー表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、Snapshot リスト表示部 (⑯) およびコメント表示部 (⑲) を上下にスワイプする、または LCD ノブ 8 を回してスクロールすることもできます。

ライブラリーメニュー

ライブラリーデータの編集を行います。



ボタンが有効でないときは、グレースアウト表示になります。

① Rename ボタン

このボタンをタップすると、RENAME画面に切り換わります。選択中のデータスロットがLOCKされている場合または選択中のデータスロットにデータが保存されていない場合は、グレースアウト表示になります。



- Snapshot名は、最大 16 文字です。
- その他のライブラリー名は、最大 17 文字です。
- Snapshot コメントは、最大 32 文字です。
- Snapshotの場合は、右側にコメント欄が表示され、編集することが可能です。
- RENAME画面のキーボードのCaps lockボタンとShiftボタンの設定状態によって、入力できる文字の組み合わせを変更することができます。キーボードの変更方法については、230 ページ「キーボードの変更方法」をご参照ください。

注意

以下の記号や句読点は、入力できません。

¥ / : * ? “ < > |

メモ

トップパネルのUSB端子に接続したUSBキーボードを使って文字を入力／編集することもできます。

② Copy ボタン

このボタンをタップすると、選択したSnapshotの設定データをコピーします。

メモ

Snapshot以外のLIBRARY画面にCopy／Paste機能はありません。

③ Paste ボタン

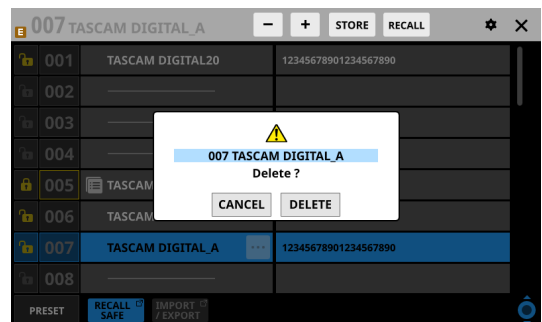
このボタンをタップすると、コピーしたSnapshotの設定データを選択したデータスロットに貼り付けます。LOCKされたSnapshotでは、グレースアウト表示になります。

メモ

Snapshot以外のLIBRARY画面にCopy／Paste機能はありません。

④ Delete ボタン

このボタンをタップすると、選択したデータを消去する確認メッセージが表示されます。選択中のデータスロットがLOCKされている場合または選択中のデータスロットにデータが保存されていない場合は、グレースアウト表示になります。




- CANCELボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。
- DELETEボタンをタップすると、選択したデータを消去して確認メッセージを閉じます。

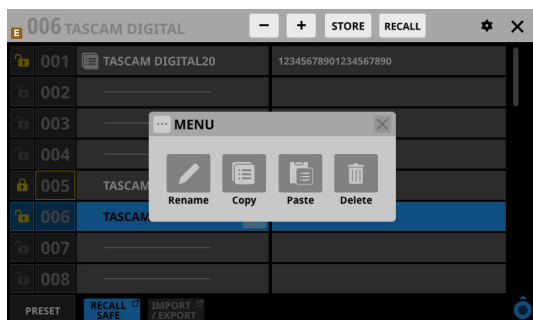
⑤ X ボタン


このボタンをタップすると、ライブラリーメニューを閉じます。

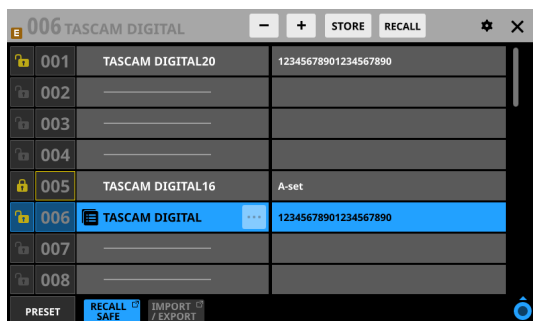
第8章 設定データの保存／呼び出し


Snapshotをコピーする

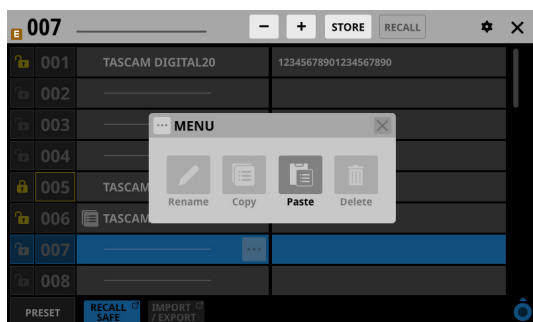
1. コピーしたいSnapshotを選択し、Snapshot編集メニューボタン () をタップします。



2. Copyボタンをタップします。
コピーしたSnapshotに  アイコンが表示されます。



3. ペースト先のデータスロットを選択し、Snapshot編集メニューボタン () をタップします。

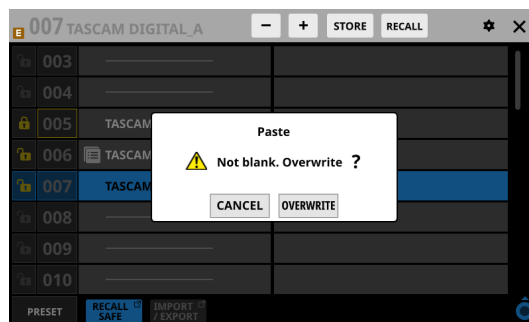


4. Pasteボタンをタップすると、Snapshot Store時のルールにしたがった名前でペーストされます。(→ 241 ページ「⑤ STORE ボタン」)
自動的に名前が付けられない状況では、RENAME画面に切り換わります。この場合は、既存データと重複しない名前を入力してEnterボタンをタップすると、ペーストされてSnapshotリスト画面に戻ります。




メモ

- ペースト先にSnapshotの設定データが保存されている場合は、確認メッセージが表示されます。



- CANCEL ボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。
- OVERWRITE ボタンをタップすると、Snapshot Store時のルールにしたがった名前でペーストされます。(→ 241 ページ「⑤ STORE ボタン」)

自動的に名前が付けられない状況では、RENAME画面に切り換わります。この場合は、既存データと重複しない名前を入力してEnterボタンをタップすると、ペーストされてSnapshotリスト画面に戻ります。

-  アイコンは、新しくSnapshotの設定データをコピーする、もしくは本機の電源を切るまで表示されます。ただし、コピー元を削除／上書きSTORE／RENAMEするとアイコンが消えます。

SNAPSHOT RECALL SAFE画面

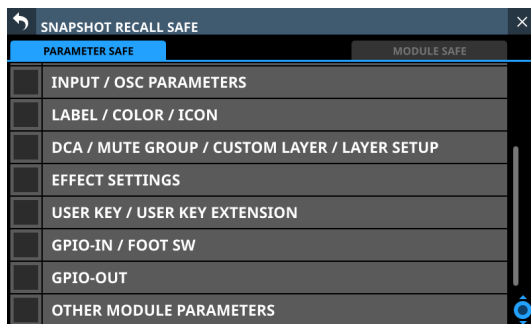
この画面では、以下の設定を行います。

- PARAMETER SAFE タブ画面
Snapshot呼び出し時に設定を保護する（設定を維持する）パラメーターを選択します。
- MODULE SAFE タブ画面
Snapshot呼び出し時に設定を保護する（設定を維持する）モジュールを選択します。

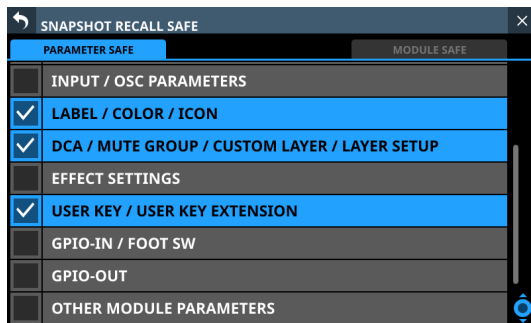
この画面は、Snapshot リスト画面の RECALL SAFE ボタンをタップして表示します。

PARAMETER SAFE タブ画面

このタブ画面では、特定の設定群ごとに Recall Safeの対象を選択します。



各行のチェックボックスをタップして、Recall Safeの対象を設定します。
選択した行にチェックマーク（✓）が表示され、水色のハイライト表示になります。



メモ

- INPUT/OSC PARAMETERSに含まれる設定
Analog Gain
Analog Gain GANG On/Off
PAD On/Off
Phantom On/Off
Phase
D.Trim
HPF Freq
HPF On/Off
CH OSC INPUT
OSC On/Off
OSC Assign
OSC Level

OSC Type

OSC Freq

- OTHER MODULE PARAMETERSに含まれる設定

Gate/Expander/De-Esser Parameters

EQ Parameters

GEQ Parameters

Comp/Ducker Parameters

Module Delay Parameters

Fader

Mute

MAIN L/R Assign

PAN/BAL

PAN LINK

Image

Mode

Direct Out Parameters

AFV Parameters

Auto Mixer Parameters

Talkback Phantom On/Off

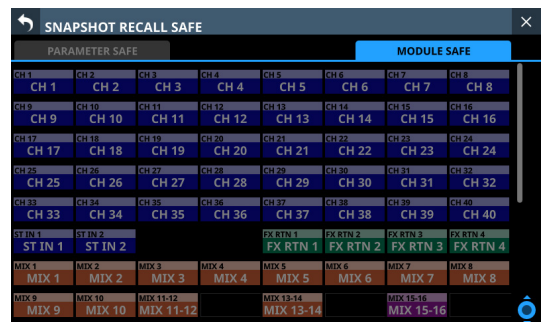
Talkback D.Trim

Metering Point

LCD Brightness

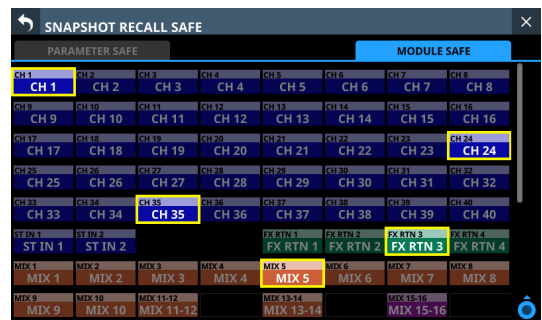
MODULE SAFE タブ画面

このタブ画面では、モジュールごとに Recall Safeの対象を選択します。



Recall Safeの対象を選択するには、選択したいモジュールボタンをタップします。

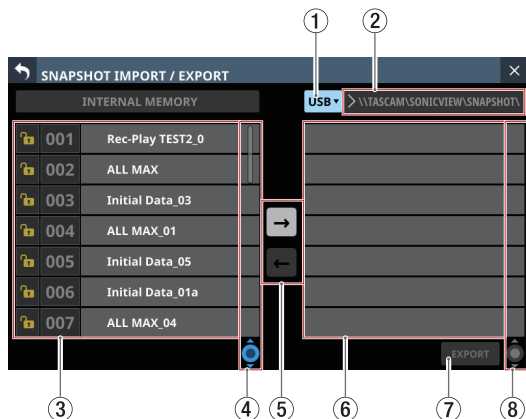
選択したモジュールボタンが黄色い枠でハイライト表示されます。



SNAPSHOT IMPORT / EXPORT画面

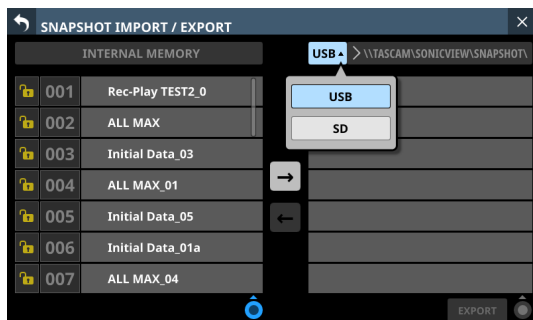
この画面では、本機の内蔵メモリー内にあるSnapshotの設定データを、装着したSDカード／USBメモリーにエクスポートする、またはインポートすることができます。

この画面は、Snapshotリスト画面のIMPORT / EXPORTボタンをタップして表示します。



① メディア選択ボタン

- 選択中のメディア名を表示します。
- このボタンをタップすると、インポート元／エクスポート先を設定するウィンドウを表示します。



選択肢：USB、SD

選択肢をタップして、インポート元／エクスポート先のメディアを切り換えます。

② フォルダー表示

インポート元／エクスポート先のフォルダ名を表示します。インポート元／エクスポート先フォルダは、外部メディアの下記フォルダです。

\\TASCAM\\SONICVIEW\\SNAPSHOT

③ Snapshot リスト表示部

本機の内蔵メモリー上のSnapshotリストを表示します。

④ Snapshot リスト用スクロールノブ／スクロールバー表示

スクロールバー表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、Snapshotリスト表示部(③)を上下にスワイプする、またはLCDノブ4を回してスクロールすることもできます。

⑤ IMPORT / EXPORTモード切り換えボタン

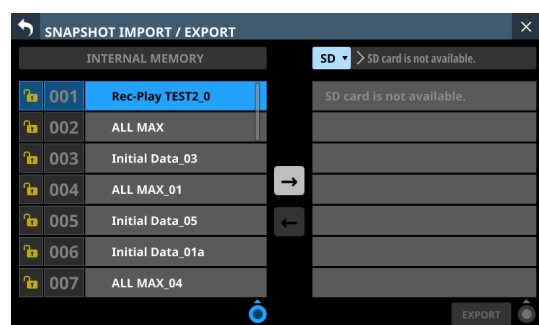
- ■ (右向き矢印) ボタンをタップすると、画面がエクスポートモードに切り換わります。エクスポートモードに切り換わるとボタンがハイライト表示(■)になります。
- ■ (左向き矢印) ボタンをタップすると、画面がインポートモードに切り換わります。インポートモードに切り換わるとボタンがハイライト表示(■)になります。

メモ

本機の起動時はエクスポートモードに設定されています。切り換え後の設定は、本機の電源をオフにするまで最後に選択した状態を保持します。

⑥ 選択メディア上のデータリスト表示部

選択したメディア上のSnapshotデータのリストを表示します。選択したメディアが装着されていない場合は、データリスト表示部に以下のメッセージが表示されます。



⑦ IMPORT / EXPORT実行ボタン

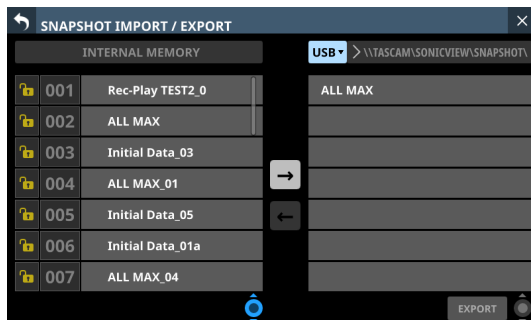
- IMPORT / EXPORTモード切り換えボタン(⑤)の設定によって、表示されるボタンが異なります。
- インポートモードの場合は、インポート元とインポート先が両方選択されていると、ボタンがハイライト表示になります。
- エクスポートモードの場合、エクスポートするSnapshotが選択されていると、ボタンがハイライト表示になります。
- このボタンがハイライト表示のときにタップすると、インポート／エクスポートを実行します。

⑧ エクスポートデータリスト用スクロールノブ／スクロールバー表示

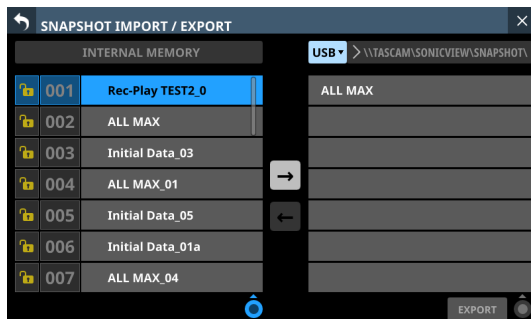
- 選択したメディア上のSnapshotデータの数が画面内に表示しきれない場合にスクロールバーを表示し、スクロールノブをハイライト表示します。
- スクロールバー表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、選択メディア上のデータリスト表示部(⑥)を上下にスワイプする、またはLCDノブ8を回してスクロールすることもできます。

Snapshotをエクスポートする

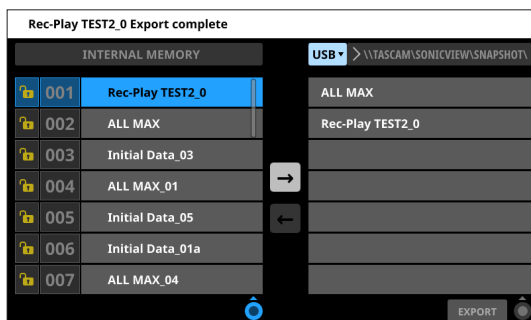
1. メニュー画面のSnapshot名表示部(②)をタップして、Snapshotリスト画面を表示します。(→ 245 ページ「Snapshot リスト画面」)
2. Snapshot リスト画面のIMPORT / EXPORTボタンをタップして、SNAPSHOT IMPORT / EXPORT画面を表示します。(→ 250 ページ「SNAPSHOT IMPORT / EXPORT画面」)
3. エクスポートするメディア (SD カード／USB メモリー) を装着します。
4. メディア選択ボタン(①)を使ってエクスポートしたいメディアを選択します。(→ 250 ページ「① メディア選択ボタン」)
5. EXPORT / IMPORTモード切り換えボタン(⑤)のEXPORTボタンをタップして、エクスポートモードに切り換えます。



6. 本機の内蔵メモリー上のSnapshotリスト表示部(③)からエクスポートしたいSnapshotデータをタップします。エクスポートするSnapshotデータとEXPORTボタンがハイライト表示になります。

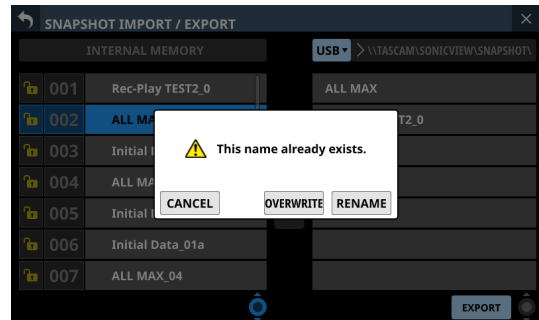


7. EXPORTボタンをタップします。エクスポートデータリスト表示部(⑥)にエクスポートしたSnapshotデータが追加され、画面上部にエクスポート完了メッセージが表示されます。



メモ

- エクスポート先のメディアに同じ名前のSnapshotデータがある場合は、確認メッセージが表示されます。



- CANCELボタンをタップすると、エクスポートを中止して確認メッセージを閉じます。
- OVERWRITEボタンをタップすると、同じ名前のSnapshotデータに上書きして確認メッセージを閉じます。
- RENAMEボタンをタップすると、RENAME画面に切り換わります。既存のSnapshot名と重複しない名前を入力してEnterボタンをタップすると、エクスポートが実行されSNAPSHOT IMPORT / EXPORT画面に戻ります。
- エクスポート先のメディアが「Lock」されたSDカードの場合は、下記のメッセージが表示されます。

Cannot Export. SD card Locked.

- エクスポート先のメディアの空き容量が不足している場合は、下記のメッセージが表示されます。

Cannot Export. SD card is full.

Cannot Export. USB flash drive is full.

第8章 設定データの保存／呼び出し

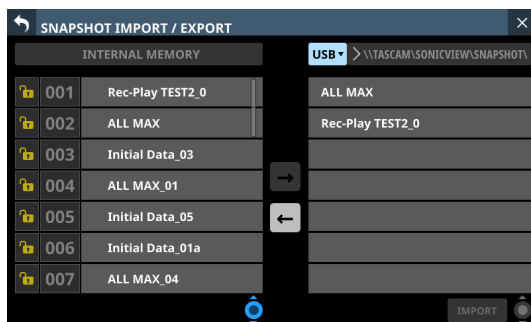
Snapshotをインポートする

注意

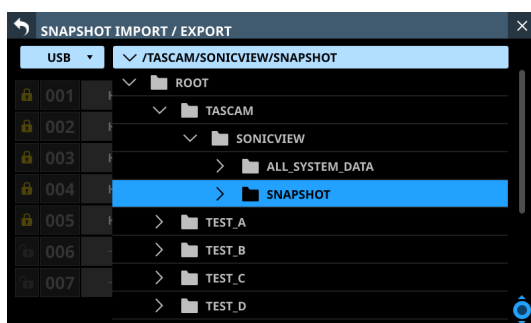
Ver 1.1.0 以上の本機で作ったSnapshotをVer 1.0.x の本機でRECALLすると正常動作できないため、以下の制限があります。

- Ver 1.1.0 以上の本機で作ったSnapshotは、Ver 1.0.x の本機ではインポートできません (Ver 1.0.x の本機で作ったSnapshotは、Ver 1.1.0 以上の本機でインポートできます)。

1. メニュー画面のSnapshot名表示部(②)をタップして、Snapshotリスト画面を表示します。(→245ページ「Snapshotリスト画面」)
2. Snapshotリスト画面のIMPORT / EXPORTボタンをタップして、SNAPSHOT IMPORT / EXPORT画面を表示します。(→250ページ「SNAPSHOT IMPORT / EXPORT画面」)
3. インポートするメディア (SDカード／USBメモリー) を装着します。
4. メディア選択ボタン(①)を使ってインポートしたいメディアを選択します。(→250ページ「① メディア選択ボタン」)
5. EXPORT / IMPORTモード切り換えボタン(⑤)の  ボタンをタップして、インポートモードに切り換えます。

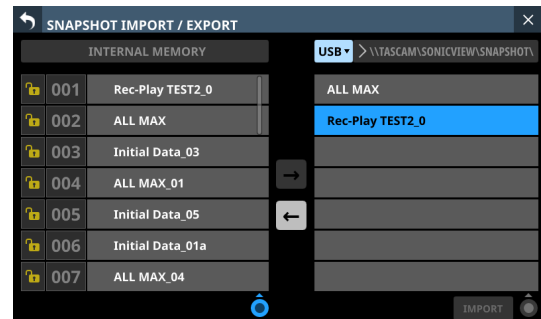


6. 選択メディア上のデータリスト表示部(⑥)にインポートしたいSnapshotデータがない場合、メディア選択ボタンの右にあるフォルダー選択ボタンをタップし、フォルダー選択メニューを表示します。
 - ブルダウンメニューが画面に収まらない場合は、LCDノブ8操作、スクロールバー操作、またはスワイプ操作でスクロールできます。
 - フォルダー名の左にある「>」をタップすると、そのフォルダーが開いて中のフォルダーが表示されます。
 - 開いたフォルダー名の左にある「<」をタップすると、フォルダーが閉じます。
 - フォルダー名をタップすると、そのフォルダーが選択されます。
 - 選択されたフォルダー名は、フォルダー選択ボタンのパス表示欄に反映されます。

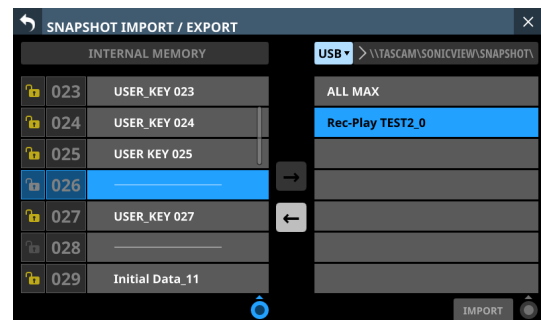


[フォルダー選択プルダウンメニュー表示例]

7. 希望するフォルダーを選択したら、フォルダー選択ボタン左端にある「<」をタップし、フォルダー選択プルダウンメニューを閉じます。
8. 選択メディア上のデータリスト表示部(⑥)からインポートしたいSnapshotデータをタップします。
インポートするSnapshotがデータハイライト表示になります。



9. 内蔵メモリー上のSnapshot表示部(③)でインポート先のデータスロットをタップします。
インポート先のデータスロットとIMPORTボタンがハイライト表示になります。



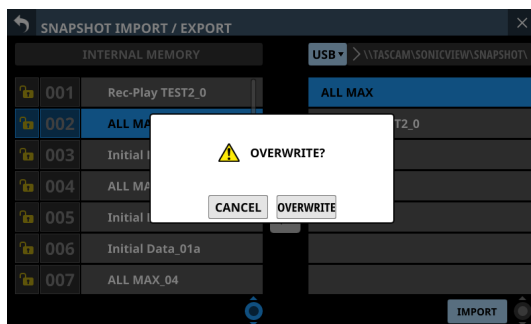
10. IMPORT ボタンをタップします。

Snapshot リスト表示部 (③) にインポートした Snapshot データが追加されます。

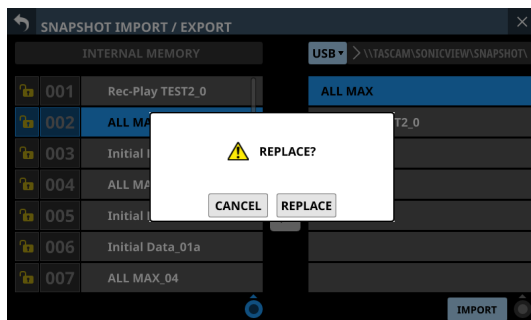


メモ

- インポート先データスロットにインポート元と同じ名前の Snapshot データがある場合は、OVERWRITE の確認メッセージが表示されます。



インポート先データスロットにインポート元と違う名前の Snapshot データがある場合は、REPLACE の確認メッセージが表示されます。



- CANCEL ボタンをタップすると、インポートを中止して確認メッセージを閉じます。
- OVERWRITE ボタンをタップすると、同じ名前の Snapshot データを上書きインポートして確認メッセージを閉じます。
- REPLACE ボタンをタップすると、違う名前の Snapshot データを置き換えインポートして確認メッセージを閉じます。
- インポート先のスロットが「LOCK」されている場合は、下記のメッセージが表示されます。

Cannot Import. Target Locked.

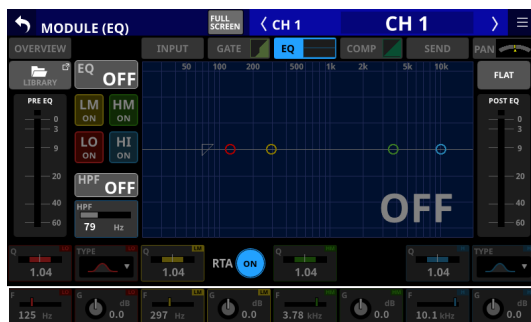
第8章 設定データの保存／呼び出し

各種LIBRARY画面


本機では、以下の各種設定群をLIBRARYとしてSTORE（保存）／RECALL（呼び出し）することができます。

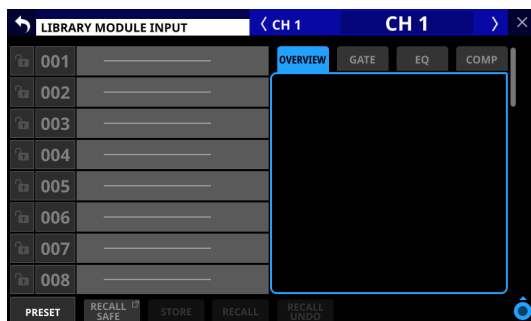
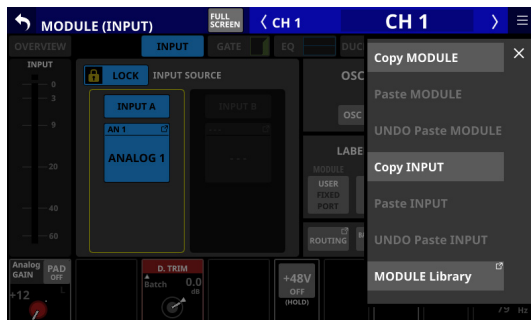
- GATE／EXPANDER／DE-ESSERの選択されたTYPEおよびその各パラメーター設定
- EQの各パラメーター設定
- COMP／DUCKERの選択されたTYPEおよびその各パラメーター設定
- FXの選択されたTYPEおよびその各パラメーター設定
- GEQの各パラメーター設定
- CH1-40／STIN1-2 モジュールのパラメーター設定
- FX RTN 1-4 モジュールのパラメーター設定
- MIX1-22／MAIN L/R マスターモジュールのパラメーター設定

GATE／EXP／DE-ESSER、EQ、COMP／DUCKER、FX、GEQの各LIBRARY画面は、各機能を実行するMODULE画面のLIBRARYボタンをタップして表示します。



[CH1-40 モジュールのMODULE (EQ) 画面]

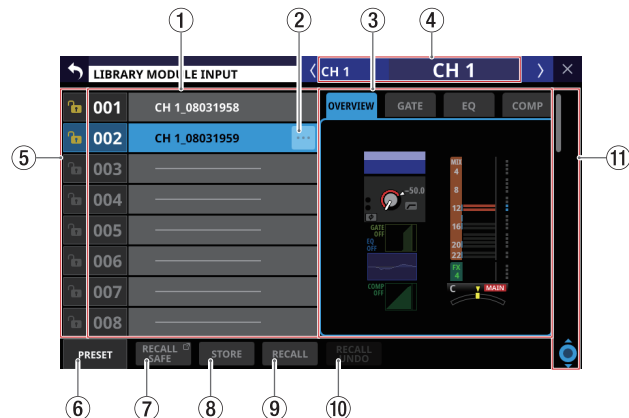
各モジュールのLIBRARY画面（LIBRARY MODULE INPUT画面、LIBRARY MODULE FX RTN画面、LIBRARY MODULE OUTPUT画面）は、各MODULE画面右上の  ボタンをタップして表示するメニューリストの「MODULE Library」をタップして表示します。



モジュールLIBRARYの対象パラメーターは、Copy MODULE対象パラメーター（→ 212 ページ「MODULEメニュー」）と同じになります。

LIBRARY画面の構成

これらの画面では、各種LIBRARY機能の操作、LIBRARYデータの管理／編集を行います。

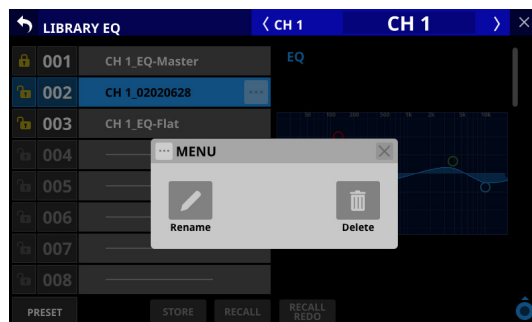


① LIBRARY リスト表示部

- LIBRARY番号およびLIBRARY名を表示します。
- データが保存されていないデータスロットには、横バーが表示されます。
- 選択中のデータスロットは、ハイライト表示になります。
- あらかじめプリセットされているLIBRARYのLIBRARY番号には「P」が付いています。

② LIBRARY メニューボタン ()

- 選択中のデータスロットにのみ、このボタンが表示されます。
- このボタンをタップすると、選択中のデータスロットを編集するLIBRARYメニューのウィンドウを表示します。



詳細については、247 ページ「ライブラリーメニュー」をご参照ください。

③ プレビュー表示部

選択したLIBRARYデータの内容をプレビュー表示します。モジュールLIBRARYの場合は、タブをタップしてプレビューの表示対象を切り換えます。

④ 対象モジュール名表示部



LIBRARYのSTORE／RECALL対象のモジュールのUSER MODULE LABELを表示します。

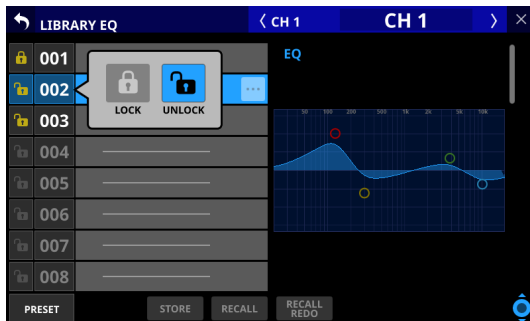
⑤ LOCK / UNLOCK ボタン

- 各データスロットの LOCK / UNLOCK 状態を表示します。

ボタン	内容
	UNLOCK 状態
	LOCK 状態

データスロットに設定データが保存されていないときは、グレイアウト表示になります。

-  アイコンまたは  アイコンをタップすると、データスロットの LOCK / UNLOCK を切り換えるウィンドウを表示します。

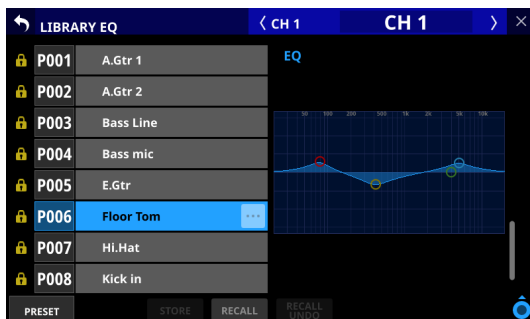


選択肢をタップして、LOCK / UNLOCK を切り換えます。

- LOCK されたデータスロットは、削除や Rename、上書きストアができなくなります。

⑥ PRESET ボタン

このボタンをタップすると、LIBRARY リストの表示がプリセットデータ (P001 ~) の位置に移動します。



⑦ RECALL SAFE ボタン

- モジュール LIBRARY の場合に表示されます。
- Recall Safe の設定状態を表示します。いずれかの Recall Safe が設定されている場合に、ボタンがハイライト表示になります。
- このボタンをタップすると、モジュール LIBRARY 呼び出し時に設定を保護する (設定を維持する) 対象を選択する MODULE RECALL SAFE 画面に切り換わります。(→ 257 ページ「MODULE RECALL SAFE 画面」)

⑧ STORE ボタン

- データスロットを選択してからこのボタンをタップすると、選択中のデータスロットに現在選択しているモジュールの設定を STORE します。
- データスロットを未選択、または LOCK された LIBRARY データを選択中は、ボタンがグレイアウト表示になります。
- STORE 時の LIBRARY データ名は、以下の通りです。

EQ / GEQ Library

USER MODULE LABEL_月日時分

例：CH1_06091557、Vocal_06091558

Dynamics 系 Library

USER MODULE LABEL が定義済みの場合	USER MODULE LABEL_月日時分 (例：Vocal_06091558)
USER MODULE LABEL が未定義の場合	ダイナミクスタイプ_月日時分 (例：GATE_06091557)

FX Library

FX TYPE 名_月日時分

例：REVERB_06091557、ST REV_06091558

Module Library

モジュール名_月日時分

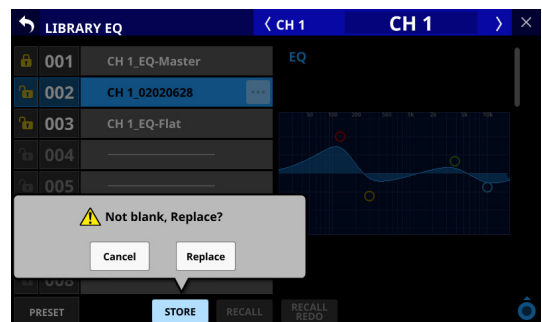
例：CH1_06091557、Vocal_06091558

メモ

- STORE 時のデータ名が既存データと同じ場合は、以下のメッセージが表示されます。

Default name already exists.
change name.
[CANCEL] [RENAME]

- 選択中のデータスロットに設定データがある場合は、確認メッセージが表示されます。

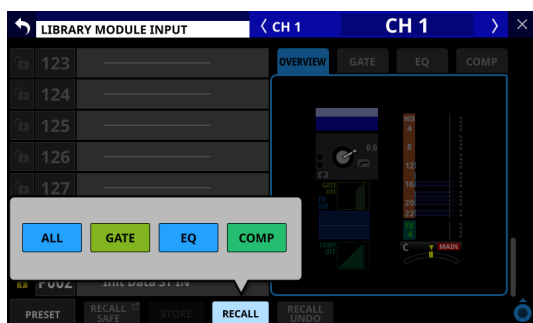


- Cancel ボタンをタップすると、LIBRARY の STORE を中止して確認メッセージを閉じます。
- Replace ボタンをタップすると、選択中のデータスロットに現在の設定を上書きして確認メッセージを閉じます。

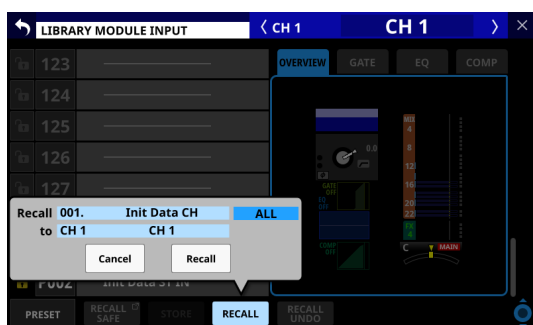
第8章 設定データの保存／呼び出し

⑨ RECALLボタン

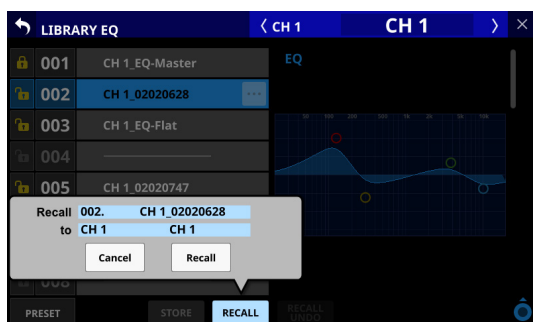
- 各LIBRARY MODULE画面の場合は、データスロットを選択してからこのボタンをタップすると、RECALL対象データの確認ウィンドウを表示します。



RECALLしたいデータのボタンをタップすると、RECALL確認のウィンドウを表示します。



- RECALL確認ウィンドウのCancelボタンをタップすると、LIBRARYのRECALLを中止して確認メッセージを閉じます。
- RECALL確認ウィンドウのRecallボタンをタップすると、RECALL対象として選択したLIBRARYの設定データを現在選択しているモジュールにRECALLしてMODULE画面に戻ります。
- GATE / EXP / DE-ESSER、EQ、COMP / DUCKER、FX、GEQの各LIBRARY画面の場合は、データスロットを選択してからこのボタンをタップすると、RECALL確認のウィンドウを表示します。



- Cancelボタンをタップすると、LIBRARYのRECALLを中止して確認メッセージを閉じます。
- Recallボタンをタップすると、LIBRARYの設定データを現在選択しているモジュールにRECALLしてMODULE画面に戻ります。
- データスロットを未選択、またはデータが保存されていないデータスロットを選択中は、ボタンがグレースアウト表示になります。

⑩ RECALL UNDO / REDOボタン

このボタンをタップすると、該当のライブラリーで最後に実施したRECALL処理の取り消し（Undo）、再実行（Redo）を実行します。

該当のライブラリーで最後にRECALLを実施したモジュールでのみUndo / Redoできます。それ以外のモジュールを選択している場合や、起動後一度もRECALLを実施していない場合は、Undoボタンがグレースアウト表示となります。

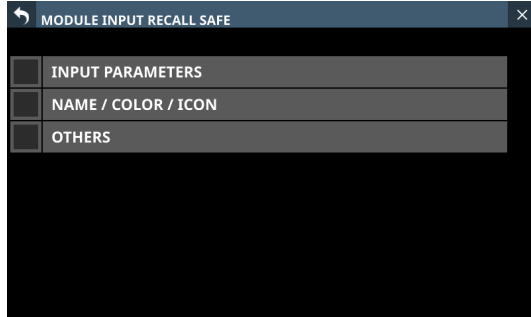
⑪ スクロールノブ／スクロールバー表示

スクロールバー表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、LIBRARYリストを上下にスワイプする、またはLCDノブ8を回してスクロールすることもできます。

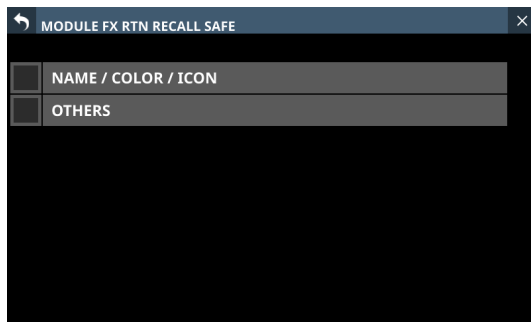
MODULE RECALL SAFE画面

下記のMODULE RECALL SAFE画面では、モジュールLIBRARY呼び出し時に設定を保護する（設定を維持する）パラメーターを選択します。

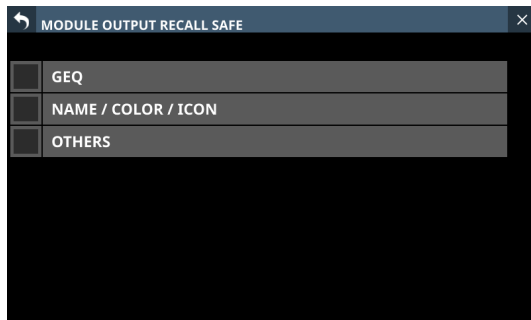
● MODULE INPUT RECALL SAFE画面



● MODULE FX RTN RECALL SAFE画面



● MODULE OUTPUT RECALL SAFE画面



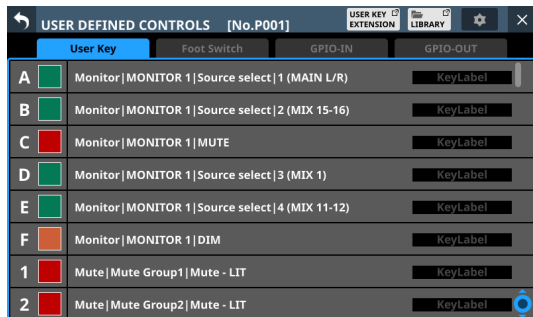
この画面は、対応するモジュールのLIBRARY画面のRECALL SAFEボタンをタップして表示します。

メモ

- MODULE INPUT RECALL SAFE画面のINPUT PARAMETERS項目に含まれる設定
 - Analog Gain
 - Analog Gain GANG On/Off
 - Phantom On/Off
 - PAD On/Off
 - Phase
 - D.Trim
 - HPF Freq
 - HPF On/Off
- 以下のパラメーターは、モジュールLIBRARY対象外です。
 - Routing

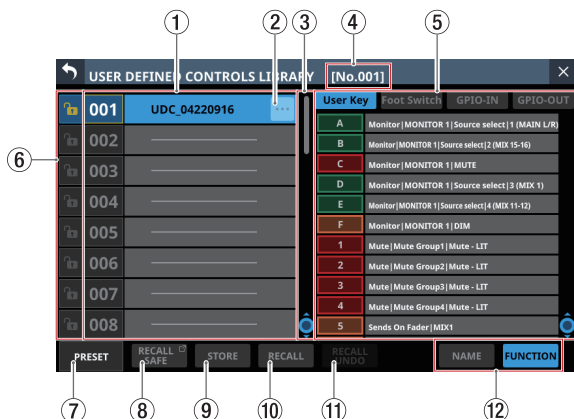
USER DEFINED CONTROLS LIBRARY画面

本機では、USER DEFINED CONTROLS画面の設定をLIBRARYとしてSTORE（保存）／RECALL（呼び出し）することができます。USER DEFINED CONTROLS LIBRARY画面のLIBRARYボタンをタップして表示します。



USER DEFINED CONTROLS LIBRARY画面の構成

これらの画面では、各種LIBRARY機能の操作、LIBRARYデータの管理／編集を行います。

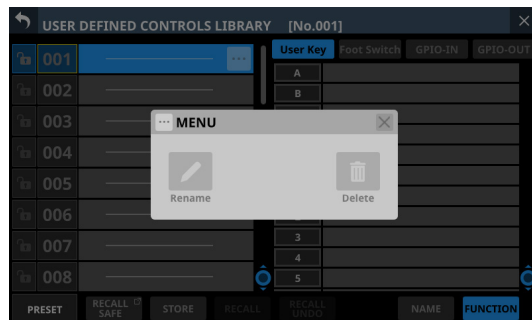


① LIBRARY リスト表示部

- LIBRARY番号およびLIBRARY名を表示します。
- データが保存されていないデータスロットには、横バーが表示されます。
- 選択中のデータスロットは、ハイライト表示になります。
- あらかじめプリセットされているLIBRARYのLIBRARY番号には「P」が付いています。
- カレントライブラリー（最後にSTORE／RECALLしたライブラリー）のライブラリー番号は、黄色い枠が表示されます。

② LIBRARY メニューボタン ()

- 選択中のデータスロットにのみ、このボタンが表示されます。
- このボタンをタップすると、選択中のデータスロットを編集するLIBRARYメニューのウィンドウを表示します。



詳細については、247 ページ「ライブラリーメニュー」をご参照ください。

③ スクロールノブ／スクロールバー表示

スクロールバー表示をドラッグすることでLIBRARYリスト表示がスクロールします。また、LIBRARYリスト表示を上下にスワイプする、またはLCD ノブ 4 を回してスクロールすることもできます。

④ カレントライブラリー番号

最後にSTORE／RECALLしたライブラリーのライブラリー番号を表示します。

⑤ プレビュー表示部

- 選択したLIBRARYデータの内容をプレビュー表示します。タブをタップしてプレビューの表示対象を切り換えます。
- プレビュー表示を上下にスワイプすることでLIBRARYリスト表示がスクロールします。また、LCD ノブ 8 を回してスクロールすることもできます。

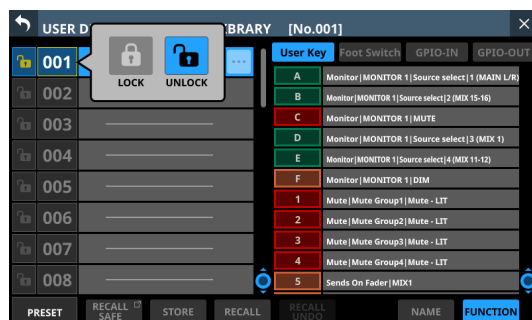
⑥ LOCK／UNLOCK ボタン

- 各データスロットのLOCK／UNLOCK状態を表示します。

ボタン	内容
	UNLOCK状態
	LOCK状態

データスロットに設定データが保存されていないときは、グレーアウト表示になります。

- アイコンまたは アイコンをタップすると、データスロットのLOCK／UNLOCKを切り換えるウィンドウを表示します。



選択肢をタップして、LOCK／UNLOCKを切り換えます。

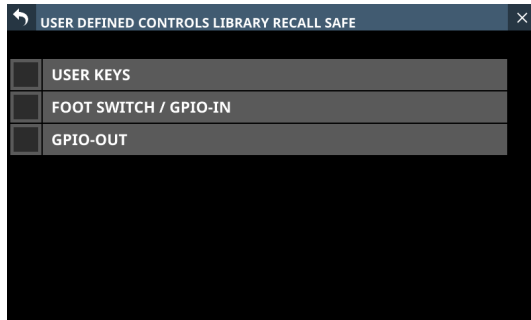
- LOCKされたデータスロットは、削除やRename、上書きストアができなくなります。

⑦ PRESET ボタン

このボタンをタップすると、LIBRARYリストの表示がプリセットデータの位置に移動します。

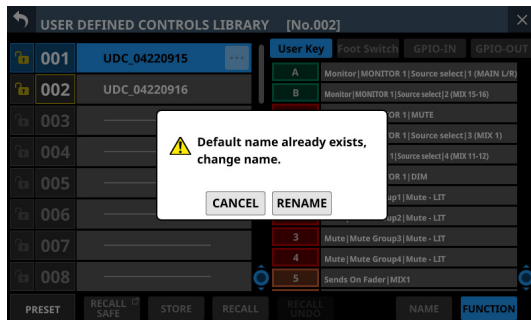
⑧ RECALL SAFE ボタン

- Recall Safeの設定状態を表示します。いずれかのRecall Safeが設定されている場合に、ボタンがハイライト表示になります。
- このボタンをタップすると、LIBRARY呼び出し時に設定を保護する（設定を維持する）対象を選択する下記のRECALL SAFE画面に切り換わります。

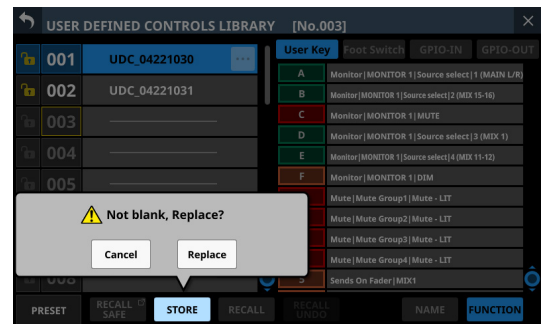


⑨ STORE ボタン

- データスロットを選択してからこのボタンをタップすると、選択中のデータスロットに現在の設定をSTOREします。
- データスロットを未選択、またはLOCKされたLIBRARYデータを選択中は、ボタンがグレイアウト表示になります。
- STORE時のLIBRARYデータ名は、以下の通りです。
UDC_月日時分
- STORE時のデータ名が既存データと同じ場合は、以下のメッセージが表示されます。



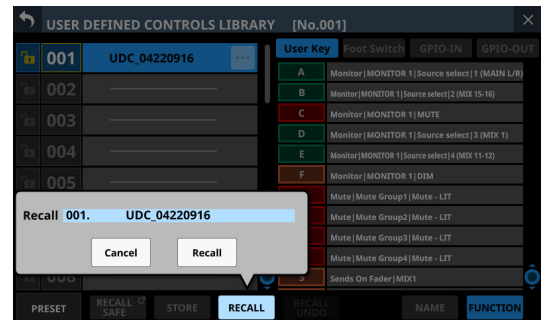
- 選択中のデータスロットに設定データがある場合は、確認メッセージが表示されます。



- Cancelボタンをタップすると、LIBRARYのSTOREを中止して確認メッセージを閉じます。
- Replaceボタンをタップすると、選択中のデータスロットに現在の設定を上書きして確認メッセージを閉じます。

⑩ RECALL ボタン

RECALLしたいデータを選択し、RECALLボタンをタップすると、RECALL確認のウィンドウを表示します。



- Cancelボタンをタップすると、LIBRARYのRECALLを中止して確認メッセージを閉じます。
- Recallボタンをタップすると、選択しているデータをRECALLします。

⑪ RECALL UNDO / REDO ボタン

このボタンをタップすると、該当のLIBRARYで最後に実施したRECALL処理の取り消し（Undo）、再実行（Redo）を実行します。

⑫ プレビュー表示切り換えボタン

プレビュー表示部で表示されるUSER KEY表示を切り換えます。

ボタン	内容
NAME	Key Labelの名前を表示します。（→ 73 ページ「⑧ Key Label表示エリア（User Keyタブ画面のみ）」）
FUNCTION	USER KEYの機能名を表示します。

ALL SYSTEM DATA画面

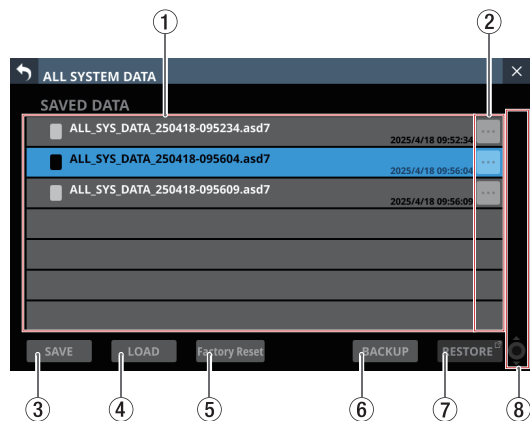
この画面では、すべてのSnapshotおよびLIBRARYを含むミキサー全体の設定（以下、All System Data）の以下の操作を行います。

- All System Dataの内蔵メモリーへのファイル保存
- All System Dataの内蔵メモリーからの呼び出し（ミキサーへの反映）
- All System DataのSDカードもしくはUSBメモリーへのバックアップ（ファイルの書き出し）
- All System DataのSDカードもしくはUSBメモリーから内蔵メモリーへのリストア（ファイルの取り込み）

メモ

Network Setup画面のPassword設定は、All System Dataのバックアップ／リストアの対象外です。

この画面は、メニュー画面 > System Setup メニュー > 「All System Data」をタップして表示します。

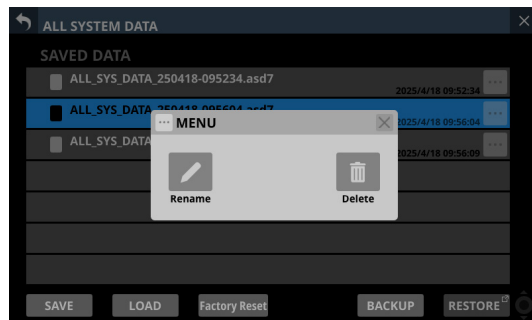


① 保存済みファイル一覧表示部

- 内蔵メモリーに保存されているAll System Dataを一覧表示します。
- ファイル名の右側にAll System Dataが保存された日時を表示します。
- 選択中のファイルをハイライト表示します。

② ・・・ボタン

このボタンをタップすると、選択したAll System Dataの下記操作を行うメニューウィンドウを表示します。



操作メニュー	内容
Rename	選択したAll System Dataの名前を変更するRename画面に切り換わります。
Delete	<p>選択したAll System Dataを削除するかどうかの確認メッセージを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CANCEL ボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。 ● DELETE ボタンをタップすると、選択したAll System Dataを内蔵メモリーから消去して確認メッセージを閉じます。保存済みファイル一覧表示（①）から選択したAll System Dataが消去されます。

③ SAVE ボタン

このボタンは、All System Dataを内蔵メモリーにSAVEする際にタップします。（→ 261 ページ「ミキサー全体の設定をSAVEする」）

④ LOAD ボタン

- このボタンは、All System Dataを内蔵メモリーからLOADする際にタップします。（→ 261 ページ「ミキサー全体の設定をLOADする」）
- All System Dataを未選択時は、ボタンがグレースアウト表示になります。

メモ

下記 2 つの条件がそろっているときは、ボタンがグレースアウト表示になり、LOADできません。

- OA Tally Inhibit スイッチが「ON」（→ 41 ページ「⑩ OA Tally Inhibit スイッチ」）
- ON AIR TallyがGPIO-INに入力されている

⑤ Factory Reset ボタン

このボタンは、本機のすべての設定を初期値にクリアした上で、内蔵メモリーに保存されている各種ユーザーデータ*を削除し、設定値を工場出荷時の状態に戻します。(→ 265 ページ「出荷時の設定に戻す」)

* 内蔵メモリーに保存されている各種ユーザーデータ

- Saveされた All System Data
- Snapshotに STOREされたデータ
- 各種 LIBRARY画面に STOREされたデータ

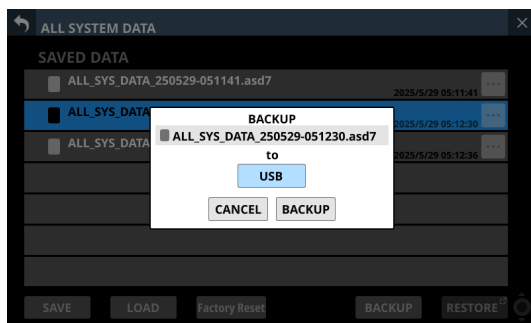
メモ

下記 2 つの条件がそろっているときは、ボタンがグレースアウト表示になり、リセットを実行できません。

- OA Tally Inhibit スイッチ が「ON」(→ 41 ページ「⑩ OA Tally Inhibit スイッチ」)
- ON AIR Tally が GPIO-IN に入力されている

⑥ BACKUP ボタン

- All System Data を未選択時は、ボタンがグレースアウト表示になります。
- All System Data を選択中このボタンをタップすると、選択した All System Data の外部メモリーへの BACKUP を行うか確認するメッセージが表示されます。(→ 262 ページ「ミキサー全体の設定をバックアップする」)



⑦ RESTORE ボタン

このボタンをタップすると、ALL SYSTEM DATA RESTORE画面に切り換わります。(→ 263 ページ「ミキサー全体の設定をリストアする」)

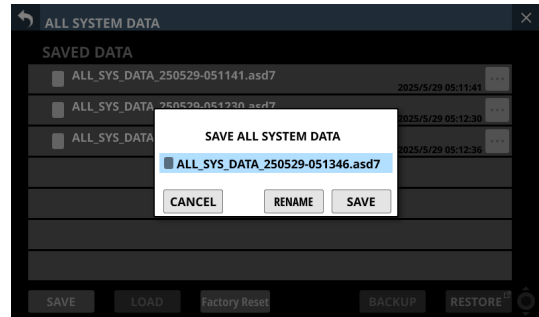
⑧ スクロールノブ／スクロールバー表示

- 保存済みファイルの数が画面内に表示しきれない場合にスクロールバーを表示し、スクロールノブをハイライト表示します。
- スクロールバー表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、保存済みファイル一覧表示部 (①) を上下にスワイプする、または LCD ノブ 8 を回してスクロールすることもできます。

ミキサー全体の設定を SAVE する

ミキサー全体の設定 (All System Data) を内蔵メモリーに SAVE (保存) するには、以下の手順で操作します。

1. SAVE ボタン (③) をタップすると、All System Data を保存する確認メッセージが表示されます。

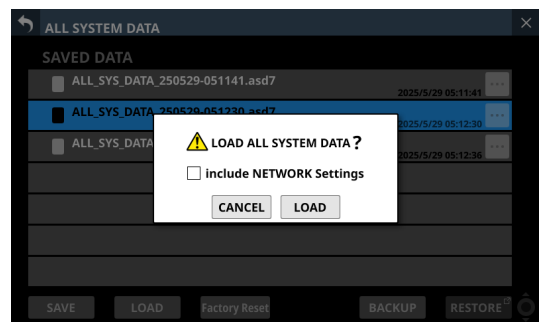


2. 確認メッセージの SAVE ボタンをタップすると、All System Data を内蔵メモリーに保存して確認メッセージを閉じます。保存済みファイル一覧表示 (①) に確認メッセージに表示された名前が追加されます。

ミキサー全体の設定を LOAD する

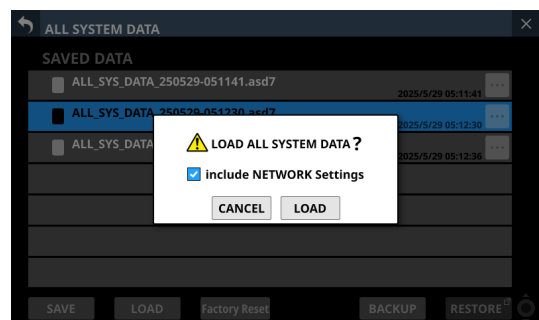
ミキサー全体の設定 (All System Data) を内蔵メモリーから LOAD (ミキサーに反映) するには、以下の手順で操作します。

1. All System Data を選択中に LOAD ボタン (④) をタップすると、選択した All System Data の LOAD を行うか確認するメッセージが表示されます。



メモ

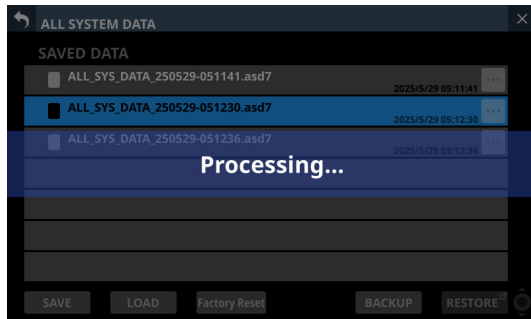
ネットワーク設定を LOAD する場合は、確認メッセージの「include NETWORK Settings」のチェックボックスをタップしてチェックマーク (✓) を付けます。



第8章 設定データの保存／呼び出し

2. 確認メッセージのCANCELボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。

確認メッセージのLOADボタンをタップすると、選択したAll System Dataの内蔵メモリーからのLOADを開始し、確認メッセージを閉じます。LOAD中は、以下のメッセージが表示されます。LOADが完了するとファイルの選択状態が解除されます。



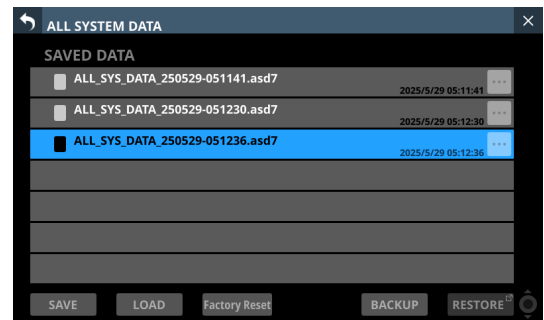
注意

- All System DataをLOADすると、すべてのSnapshotと各種LIBRARYの設定データが、LOADするAll System Dataのものに差し替えられますのでご注意ください。
現在のデータを残しておきたい場合には、LOAD前にSAVEをしてください。
- IF-MTR32での録音／再生中は、All System DataをLOADすることができません。IF-MTR32の録音／再生を停止させてからLOADしてください。
- DCAスピルモード中にSnapshot Recallを実施した場合、DCAスピルモードは解除されます。

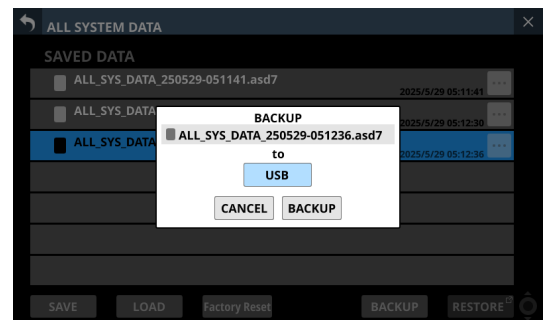
ミキサー全体の設定をバックアップする

内蔵メモリーにあるミキサー全体の設定（All System Data）をSDカード／USBメモリーにバックアップします（ファイルを書き出します）。

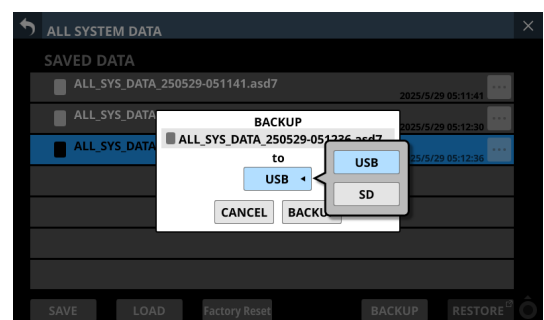
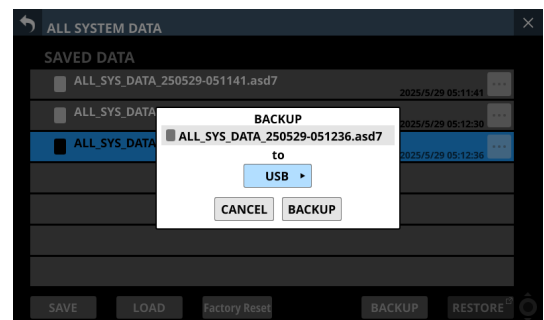
1. バックアップするメディアを装着します。
2. バックアップしたいファイルをタップして、選択状態表示にします。



3. BACKUPボタンをタップします。
確認メッセージが表示されます。



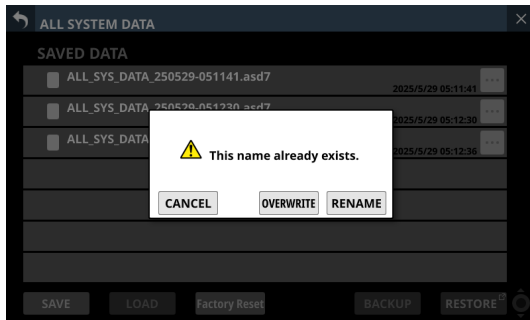
- SDカードとUSBメモリーを両方装着している場合、▶マークが表示されたメディア選択ボタンをタップして、バックアップ先メディアを選択します。



4. 確認メッセージ内のBACKUPボタンをタップして、All System Dataのバックアップを実行します。
バックアップデータは、バックアップ先メディアの下記の固定フォルダーに保存されます。

\\TASCAM\SONICVIEW\ALL_SYSTEM_DATA

- バックアップ先メディアに該当するフォルダーがなかった場合は、該当するフォルダーを作成します。
- バックアップ先に同名ファイルがある場合は、確認メッセージが表示されます。



- CANCELボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。
- OVERWRITEボタンをタップすると、同じ名前のAll System Dataに上書きして確認メッセージを閉じます。
- RENAMEボタンをタップすると、RENAME画面に切り換わります。既存のAll System Data名と重複しない名前を入力してEnterボタンをタップすると、バックアップが実行されALL SYSTEM DATA画面に戻ります。
- バックアップ先のメディアが「Lock」されたSDカードの場合は、下記のメッセージが表示されます。

Cannot Backup. SD card Locked.

- バックアップ先のメディアの空き容量が不足している場合は、下記のメッセージが表示されます。

Cannot Backup. SD card is full.

Cannot Backup. USB flash drive is full.

- CANCELボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。
- BACKUPボタンをタップすると、選択したAll System Dataを内蔵メモリーから選択した外部メモリーにBACKUP（ファイルの書き出し）を実行し、確認メッセージを閉じます。

ミキサー全体の設定をリストアする

SDカード／USBメモリーにバックアップしたミキサー全体の設定（All System Data）を内蔵メモリーに取り込みます。

注意

Ver 1.1.0 以上の本機で作ったSnapshotをVer 1.0.x の本機でRECALLすると正常動作できないため、以下の制限があります。

- Ver 1.1.0 以上の本機で作ったAll System Dataは、Ver 1.0.x の本機ではリストアできません（Ver 1.0.x の本機で作ったAll System Dataは、Ver 1.1.0 以上の本機でリストアできます）。

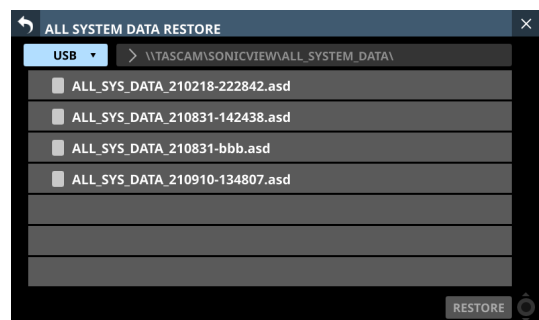
メモ

リストアは、外部メモリーのAll System Dataを内蔵メモリーにファイルとして取り込む操作になります。

ミキサーの設定には、反映されません。

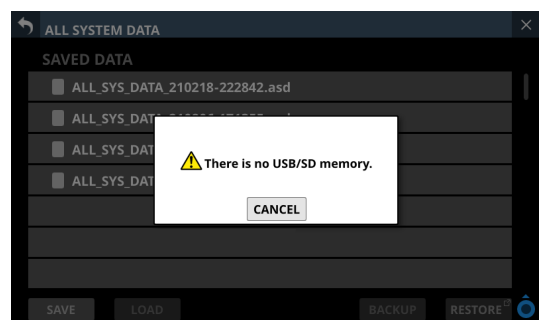
取り込んだAll System Dataの設定をミキサーの設定に反映させるには、All System Dataのロードを実施してください。（→ 261 ページ「ミキサー全体の設定をLOADする」）

1. リストアしたいAll System Dataが書き込まれているメディアを装着します。
2. RESTOREボタンをタップします。
ALL SYSTEM DATA RESTORE画面に切り換わります。



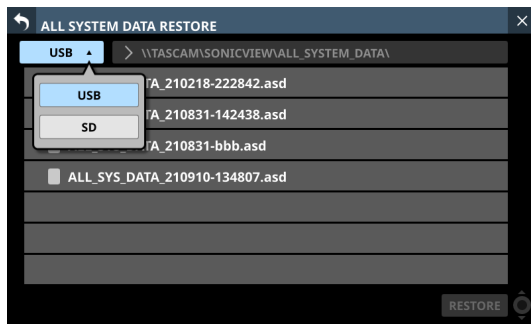
メモ

SDカード／USBメモリーが装着されていない場合は、以下のメッセージが表示されます。



第8章 設定データの保存／呼び出し

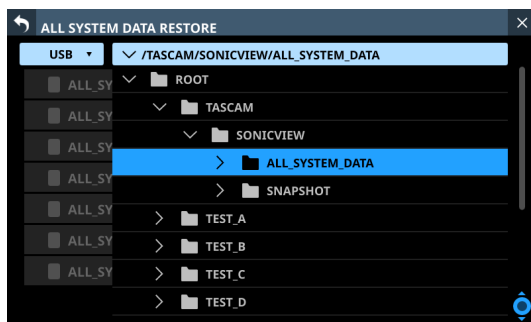
3. メディア選択ボタンをタップして、リストアするAll System Dataのあるメディアを選択します。



メモ

SDカードかUSBメモリーのどちらか1つが装着されている場合は、メディア選択メニューは表示されません。

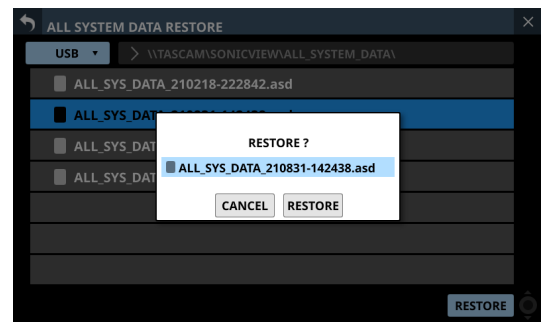
4. 表示されたフォルダーにリストアしたいファイルがない場合、メディア選択ボタンの右にあるフォルダー選択ボタンをタップし、フォルダー選択プルダウンメニューを表示します。
- プルダウンメニューが画面に収まらない場合は、LCDノブ8操作、スクロールバー操作、またはスワイプ操作でスクロールできます。
 - フォルダー名の左にある「>」をタップすると、そのフォルダーが開いて中のフォルダーが表示されます。
 - 開いたフォルダ名の左にある「v」をタップすると、フォルダーが閉じます。
 - フォルダー名をタップすると、そのフォルダーが選択されます。
 - 選択されたフォルダー名は、フォルダー選択ボタンのパス表示欄に反映されます。



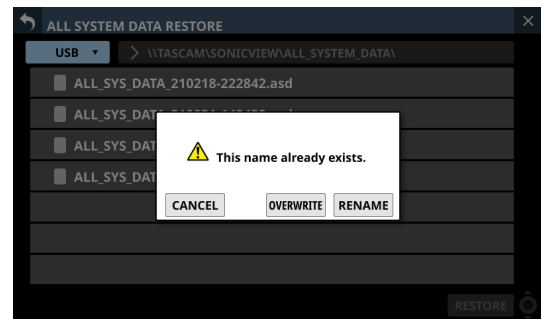
[フォルダー選択プルダウンメニュー表示例]

5. 希望するフォルダーを選択したら、フォルダー選択ボタン左端にある「v」をタップし、フォルダー選択プルダウンメニューを閉じます。

6. リストアするファイルを選択して、RESTOREボタンをタップします。
確認メッセージが表示されます。



7. 確認メッセージ内のRESTOREボタンをタップして、リストアを実行します。
- リストア先（内蔵メモリー）に同名ファイルがある場合は、確認メッセージが表示されます。



- CANCELボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。
 - OVERWRITEボタンをタップすると、同じ名前のAll System Dataに上書きして確認メッセージを閉じます。
 - RENAMEボタンをタップすると、RENAME画面に切り換わります。既存のAll System Data名と重複しない名前を入力してEnterボタンをタップすると、リストアが実行されALL SYSTEM DATA画面に戻ります。
- 内蔵メモリーの空き容量が不足している場合は、下記のメッセージが表示されます。

Cannot Restore. Internal memory is full.

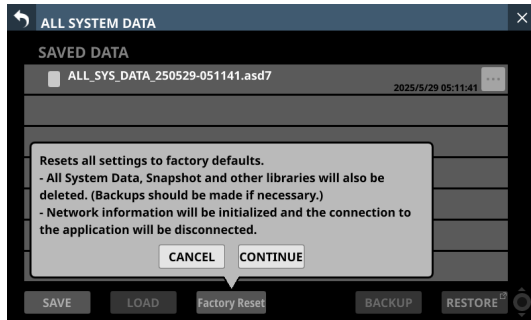
出荷時の設定に戻す

本機のすべての設定を初期値にクリアした上で、内蔵メモリーに保存されている各種ユーザーデータ*を削除し、設定値を工場出荷時の状態に戻します。

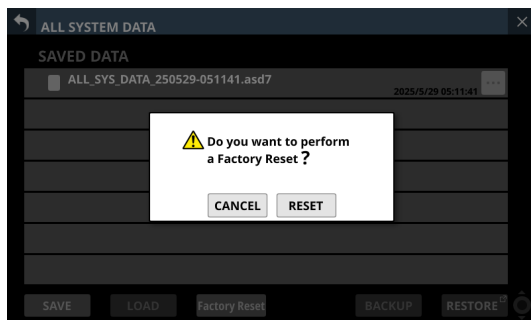
* 内蔵メモリーに保存されている各種ユーザーデータ

- SaveされたAll System Data
- SnapshotにSTOREされたデータ
- 各種LIBRARY画面にSTOREされたデータ

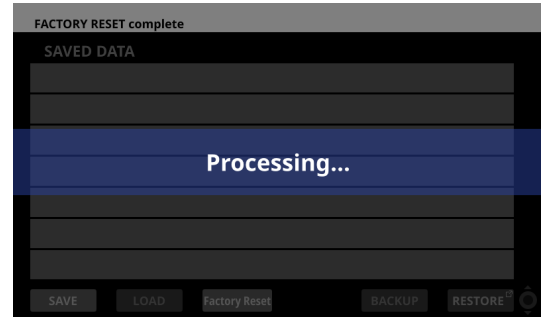
1. Factory Resetボタン（⑤）をタップすると、Factory Resetの実行を確認するメッセージが表示されます。



2. 確認メッセージのCANCELボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。
確認メッセージのCONTINUEボタンをタップすると、再確認メッセージが表示されます。



3. 再確認メッセージのCANCELボタンをタップすると、再確認メッセージを閉じます。
再確認メッセージのRESETボタンをタップすると、Factory Resetを実行します。
Factory Reset実行中は、すべてのタッチスクリーンに以下のメッセージが表示されます。



Factory Resetが完了すると、通常の表示に戻ります。

メモ

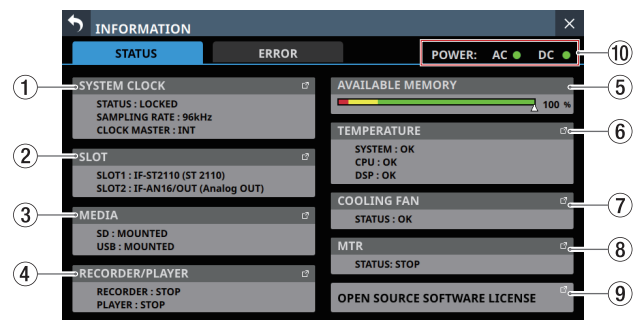
- Factory Resetを実行すると、内蔵メモリーに保存されていた各種ユーザーデータが削除されます。必要に応じて各データを外部メモリーにバックアップしてください。
- Network設定も初期化するため、本機とのネットワーク接続も切断されます。

第9章 各種情報表示

INFORMATION画面

この画面では、システム全体の情報とエラー情報を表示します。
この画面は、メニュー画面>System Setupメニュー>「Information」をタップして表示します。
この画面に切り換えたとき、本機が正常に動作しているときは、最後に表示したタブ画面を表示します。
本機にエラーまたは注意事項が発生しているときは、ERRORタブ画面を表示します。

STATUSタブ画面



① SYSTEM CLOCK

- システムクロックの状態、動作しているサンプリング周波数およびマスタークロック名を表示します。
- この部分をタップすると、SYNC CLOCK画面に切り換わります。(→ 36 ページ「SYNC CLOCK画面」)

② SLOT

- SLOT 1 または SLOT 2 に装着中の拡張カード名を表示します。
- この部分をタップすると、SLOT SETUP画面に切り換わります。(→ 129 ページ「SLOT SETUP画面」)
- 未装着時は空欄です。

③ MEDIA

- USB メモリーやSDカードの状態を表示します。
- この部分をタップすると、Media Manage画面に切り換わります。(→ 276 ページ「Media Manage画面」)

④ RECORDER/PLAYER

- 内蔵レコーダー／プレイヤーの動作状態を表示します。
- この部分をタップすると、RECORDER / PLAYER画面に切り換わります。(→ 280 ページ「RECORDER / PLAYER画面」)

⑤ AVAILABLE MEMORY

システムで使えるメモリ残量を表示します。
起動直後は「Checking memory...」と表示されますが、しばらくするとメモリ残量が表示されます。
本機を長時間にわたって電源を切らずに稼働し続けた場合、このメモリ残量が減ってくる場合があります。
メモリ残量が赤いバーまで減った場合、下記エラーメッセージが画面上部に表示されます。また、同じ内容のメッセージウィンドウも表示されます。

Insufficient memory. A system reboot is recommended to ensure stable operation.

- The reboot should take less than a minute.
- During system reboot audio and operation will be interrupted.

この場合、システムを安定動作させるため、支障のないタイミングで本機リアパネルのPOWERスイッチを使って、本機を再起動してください。

⑥ TEMPERATURE

- 本機内部、CPUおよびDSPの温度の状態を表示します。
- この部分をタップすると、PREFERENCES画面に切り換わります。(→ 39 ページ「PREFERENCES画面」)

⑦ COOLING FAN

- 本機内部の冷却ファンの動作状態を表示します。
- この部分をタップすると、PREFERENCES画面に切り換わります。(→ 39 ページ「PREFERENCES画面」)

⑧ MTR

- リアパネルのSLOT 1 または SLOT 2 に装着したIF-MTR32(マルチトラックレコーダー)の動作状態を表示します。
- IF-MTR32(マルチトラックレコーダー)が装着されているときにこの部分をタップすると、MULTI TRACK RECORDER画面に切り換わります。(→ 297 ページ「MULTI TRACK RECORDER画面」)

⑨ OPEN SOURCE SOFTWARE LICENSE

- オープンソースソフトウェアのライセンスを表示します。
- この部分をタップすると、OPEN SOURCE SOFTWARE LICENSE画面に切り換わります。(→ 269 ページ「OPEN SOURCE SOFTWARE LICENSE画面」)

⑩ POWER REDUNDANCY CHECK (Sonicview 16dp / 24dpのみ)

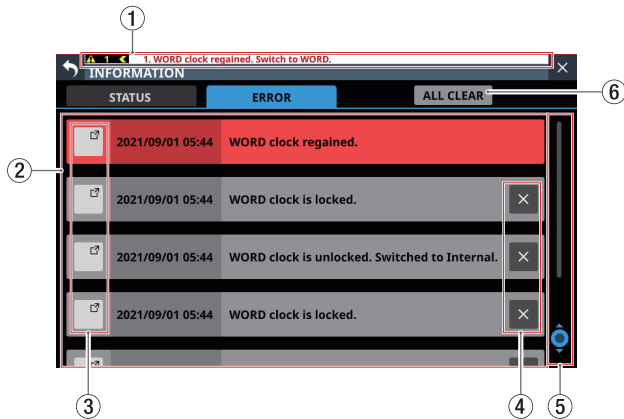
POWER表示は、AC電源およびDC電源の電圧状態を表示します。

インジケータ表示	内容
緑色	電源電圧が正常動作範囲内です。
赤色	電源電圧が正常動作範囲外です。

ERROR タブ 画面

270 ページ「Sonicview 16 / 24 / 16dp / 24dp エラー画面 SYSTEMエラー／アラートメッセージ一覧」で示すエラー／アラートが発生した場合、発生したエラー／アラートの内容をこのタブ画面にリスト表示します。

表示内容は、本機の電源をオフにすると消去されます。



① エラー／アラート 情報表示部

エラーまたはアラートが発生すると、すべてのタッチスクリーンの画面上部にメッセージが表示されます。(→ 268 ページ「エラー／アラートメッセージ表示」)

② エラー／アラートリスト表示部

- エラー／アラートが発生した日時、エラー／アラート内容を表示します。
日時書式：YYYY/MM/DD HH:MM
- 発生時刻の新しいエラー／アラートを上から順番に表示します。
- エラー／アラートの状況によって背景色が変わります。


エラー状況	背景色
発生中のエラー	赤色
報告されたアラート	黄色
エラー履歴（エラー復帰後）	灰色

- 「デバイス温度エラー」のように自動的に復帰するエラーや、「システムクロックエラー」のように手動で復帰できるエラーは、エラー復帰後に背景色が灰色に変更されます。

③ ボタン

このボタンをタップすると、エラー／アラートごとに関連する設定画面に切り換わります。

④ ボタン

消去したいエラー／アラート表示の  ボタンをタップすると、タップしたエラー／アラート表示を消去します。

メモ

発生中のエラー表示にはこのボタンは表示されず、消去できません。

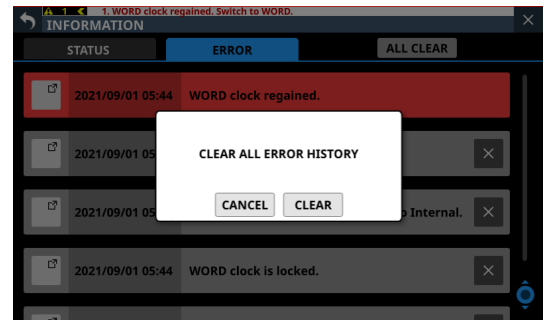
⑤ スクロールノブ／スクロールバー表示

エラー／アラート表示の数が画面内に表示しきれない場合に表示します。

スクロールバー表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、エラー／アラート表示を上下にスワイプする、またはLCDノブ8を回してスクロールします。

⑥ ALL CLEARボタン

このボタンをタップすると、すべてのエラー／アラート履歴を消去する確認メッセージを表示します。



CLEARボタンをタップすると、すべてのエラー／アラート履歴を消去します。

メモ

発生中のエラー表示は、エラーリストから消去されません。

エラー／アラートメッセージ表示

- 270 ページ「Sonicview 16 / 24 / 16dp / 24dp エラー画面 SYSTEM エラー／アラートメッセージ一覧」で示すエラー／アラートが発生すると、すべてのタッチスクリーンの画面上部にメッセージが表示されます。



[ホーム画面・エラー／アラートメッセージオープン状態表示]



[ホーム画面・エラー／アラートメッセージクローズ状態表示]

① エラー／アラート数

現在発生しているエラーまたはアラートの数を表示します。

② エラー／アラートメッセージ内容変更ボタン

- 複数のエラー／アラートが発生している場合に表示されます。
- このボタンをタップすると、エラー／アラートメッセージ表示部（③）の表示内容が別のメッセージに変更されます。

③ エラー／アラートメッセージ表示部

- 発生したエラー／アラートの内容を表示します。メッセージ先頭の番号は、発生した順番です。
- このエリアをタップすると、エラーまたはアラート内容に対応した画面に切り換わります。

④ エラー点減バー

エラーまたはアラートが解消するまで、すべてのタッチスクリーンの画面上部で赤線が点滅します。

⑤ 閉じるボタン

エラー／アラートメッセージ表示部（③）により、表示が見えなかったり操作できなかったりする場合は、このボタンをタップすると、エラー／アラートメッセージ表示部（③）を閉じることができます。

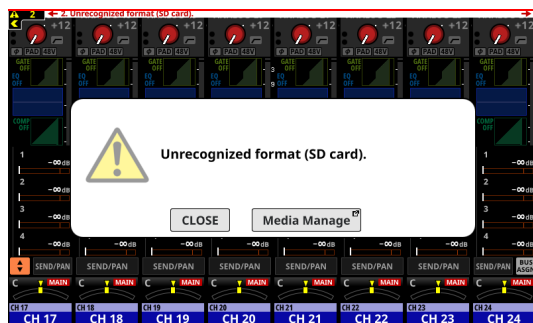
メモ

エラー／アラートメッセージ表示部（③）が閉じた状態のときに新たにエラー／アラートが発生した場合、エラー／アラートメッセージ表示部は自動的に開いた状態になります。

⑥ 開くボタン

このボタンをタップすると、閉じられたエラー／アラートメッセージ表示部（③）を再度開くことができます。

- 270 ページ「Sonicview 16 / 24 / 16dp / 24dp エラー画面 SYSTEM エラー／アラートメッセージ一覧」で示すアラートが発生すると、右端のタッチスクリーンに以下のようなメッセージウィンドウを表示します。

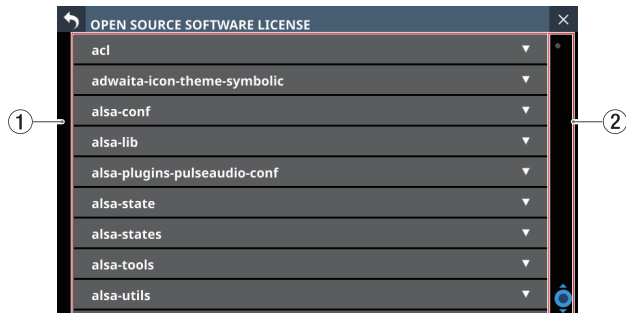


- CLOSEボタンをタップすると、メッセージを閉じます。
- 画面名ボタンをタップすると、右端のタッチスクリーンがアラート内容に対応した画面に切り換わります。

OPEN SOURCE SOFTWARE LICENSE画面

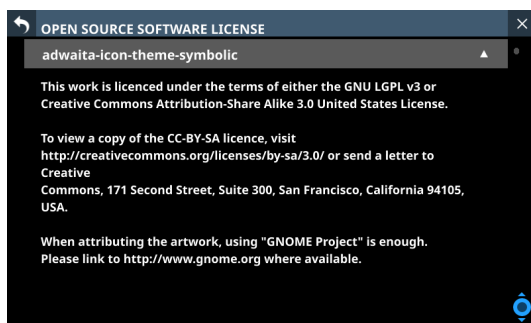
この画面では、本機で使用しているオープンソースソフトウェアのライセンス情報を表示します。

この画面は、INFORMATION画面 > 「OPEN SOURCE SOFTWARE LICENSE」をタップして表示します。



① ライセンス情報リスト

- 使用しているオープンソースソフトウェアのライセンス情報をリスト表示します。
- ▼アイコンをタップすると、タップしたオープンソースソフトウェアのライセンスドキュメントを表示します。



- ライセンスドキュメントを表示中に ▲アイコンをタップすると、ライセンスドキュメントを閉じます。

② スクロールバー表示

ライセンス情報またはライセンスドキュメントが画面内に表示しきれない場合に表示します。

スクロールバー表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、リストを上下にスワイプする、またはLCDノブ8を回してスクロールすることもできます。

Sonicview 16 / 24 / 16dp / 24dp エラー画面 SYSTEM エラー / アラートメッセージ一覧

エラー／アラート分類	メッセージ	内容	備考
システムクロックエラー	「マスタークロック名」clock has no signal. Switched to Internal.	マスタークロックがNo Signal状態です。	マスタークロック名： WORD Dante SLOT1（スロット信号種別） SLOT2（スロット信号種別） スロット信号種別： AES、Dante、MADI
	「マスタークロック名」clock is unlocked. Switched to Internal.	マスタークロックがUNLOCK状態です。	
	「マスタークロック名」clock regained.	マスタークロックがREGAIN状態です（Unlock後、Lockできる状態に復帰した）。	
	「マスタークロック名」clock regained. Can be re-synced to「マスタークロック名」.	マスタークロックがREGAIN状態です（Unlock後、Lockできる状態に復帰した）。 （画面上端に表示する際のメッセージ）	
	「マスタークロック名」clock is locked.	マスタークロックがLOCK状態です。（No Signal状態もしくはUnlock状態を解消してLock状態になった際のエラー履歴として、INFORMATION画面のERRORタブ画面にグレーで表示されます。画面上部には、表示されません。）	
スロットカードエラー	SLOT[スロット番号][カード名] was removed.	拡張カードが抜かれました。	スロット番号：1 / 2 カード名： • IF-AE16 (AES) • IF-AN16/OUT (Analog Out) • IF-DA64 (Dante) • IF-MA64/BN (MADI) • IF-MA64/EX (MADI) • IF-MTR32 (Recorder) • IF-ST2110 (ST 2110)
	SLOT[スロット番号][カード名] failure.	拡張カードの故障を検知しました。	
IF-ST2110 カードエラー	IF-ST2110 Card failure.	拡張カード IF-ST2110 のアップデートに失敗して、カードが使用できない状態です。	
	IF-ST2110 Card recovered.	拡張カード IF-ST2110 が使用できない状態から復帰しました。	
	PTP Clock (PORT1&2) Lost. Switched to IF-ST2110 internal.	ネットワーク内のグランドマスタークロック信号とPTP同期ができなくなったため、PTP同期を拡張カード IF-ST2110 の内蔵オシレーターのクロックに切り換えました。	IF-ST2110 の設定 • PTP フォロワー設定：有効（Follower Only設定が「Enable」の時） • SMPTE ST 2022-7 機能（冗長化システム）：有効（Seamless Protection Switchingの設定が「Enable」の時）
	PTP Clock Lost. Switched to IF-ST2110 internal.		IF-ST2110 の設定 • PTP フォロワー設定：有効（Follower Only設定が「Enable」の時） • SMPTE ST 2022-7 機能（冗長化システム）：無効（Seamless Protection Switchingの設定が「Disable」の時）

エラー／アラート分類	メッセージ	内容	備考
IF-ST2110 カードアラート	PTP Clock (Port1) is locked. Port2 is no signal.	PORT 1 でネットワーク内のグラントマスタークロック信号とPTP同期をしました。 PORT 2 は、No Signal状態です。	IF-ST2110 の設定 <ul style="list-style-type: none"> PTP フォロワー設定：有効 (Follower Only設定が「Enable」の時) SMPTE ST 2022-7 機能 (冗長化システム)：有効 (Seamless Protection Switchingの設定が「Enable」の時)
	PTP Clock (Port2) is locked. Port1 is no signal.	PORT 2 でネットワーク内のグラントマスタークロック信号とPTP同期をしました。 PORT 1 は、No Signal状態です。	
	PTP Clock (Port1) is locked. Port2 is regained.	PORT 1 でネットワーク内のグラントマスタークロック信号とPTP同期をしました。 PORT 2 は、No Signal状態からPTP同期できる状態に復帰しました。	
	PTP Clock (Port2) is locked. Port1 is regained.	PORT 2 でネットワーク内のグラントマスタークロック信号とPTP同期をしました。 PORT 1 は、No Signal状態からPTP同期できる状態に復帰しました。	
	PTP Clock is locked.	ネットワーク内のグラントマスタークロック信号とPTP同期をしました。	IF-ST2110 の設定 <ul style="list-style-type: none"> PTP フォロワー設定：有効 (Follower Only設定が「Enable」の時) SMPTE ST 2022-7 機能 (冗長化システム)：無効 (Seamless Protection Switchingの設定が「Disable」の時)
内蔵 Dante エラー	Dante Module Unavailable.	内蔵 Dante モジュールが使用できない状態です (Safe Mode/Update中)。	
	Dante Module Available.	内蔵 Dante モジュールが使用できる状態になりました。	エラー履歴として INFORMATION 画面の ERROR タブ 画面にグレーで表示されます。 画面上部には、表示されません。
メモリ 残量不足エラー	Insufficient memory. A system reboot is recommended to ensure stable operation. - The reboot should take less than a minute. - During system reboot audio and operation will be interrupted.	システムで利用できるメモリ残量が少なくなっています。 システムを安定動作させるため、支障のないタイミングで本機リアパネルの POWER スイッチを使って、本機を再起動してください。 再起動にかかる時間は 1 分未満です。 再起動中は音声出力が止まり、操作もできなくなりますのでご注意ください。	INFORMATION 画面の STATUS タブ 画面の AVAILABLE MEMORY が赤いバーまで減った場合に表示されます。 その際、画面上部のエラーメッセージとともに、メッセージウィンドウも表示されます。

第9章 各種情報表示

エラー／アラート分類	メッセージ	内容	備考
デバイス温度エラー	SYSTEM is too HOT. Increase FAN speed.	本機内部の温度が上昇しました。 冷却ファンの速度を上げてください。	
	CPU is too HOT. Increase FAN speed.	CPU温度が上昇しました。 冷却ファンの速度を上げてください。	
	DSP is too HOT. Increase FAN speed.	DSP温度が上昇しました。 冷却ファンの速度を上げてください。	
	IF-ST2110 Card is too HOT.	拡張カード IF-ST2110 の温度が正常範囲外の状態です。	IF-ST2110 の冷却ファン回転速度を工場出荷時設定の「L」から「H」に変更することで改善できる場合があります（基板上のジャンパーソケット変更）。詳細は、IF-ST2110 の取扱説明書の「冷却ファン回転速度の設定方法」をご参照ください。
	SYSTEM is too COLD.	本機内部の温度が低すぎます。	
	CPU is too COLD.	CPU温度が低すぎます。	
	DSP is too COLD.	DSP温度が低すぎます。	
	SYSTEM temperature normal.	本機内部の温度が正常範囲に戻りました。	エラー履歴として INFORMATION 画面の ERROR タブ画面にグレーで表示されます。 画面上部には、表示されません。
	CPU temperature normal.	CPU温度が正常範囲に戻りました。	
	DSP temperature normal.	DSP温度が正常範囲に戻りました。	
	IF-ST2110 Card temperature normal.	拡張カード IF-ST2110 の温度が正常範囲に戻りました。	
冷却ファンエラー	Cooling FAN failure.	本機の冷却ファンが停止しました。	
	IF-ST2110 Card FAN failure.	拡張カード IF-ST2110 の冷却ファンが停止しました。	
	Cooling FAN in motion.	本機の冷却ファンが動き出しました。	エラー履歴として INFORMATION 画面の ERROR タブ画面にグレーで表示されます。 画面上部には、表示されません。
	IF-ST2110 Card FAN in motion.	拡張カード IF-ST2110 の冷却ファンが動き出しました。	
禁止設定アラート	Clock master changed to Internal. [カード名] cannot be clock master.	マスタークロックに選択できない IF-AN16/OUT、または IF-MTR32 がマスタークロックになっていたため、マスタークロックを「INT」に変更しました。	電源オフ時に、マスタークロックに設定されている SLOT のカードを、IF-AN16/OUT、または IF-MTR32 に差し替えてから起動した際に発生。 カード名： • IF-AN16/OUT • IF-MTR32
スロットカードアラート	SLOT[スロット番号][カード名] installed.	電源がオフの間に拡張カードが装着されました。	スロット番号：1 / 2 カード名： • IF-AE16 (AES) • IF-AN16/OUT (Analog Out) • IF-DA64 (Dante) • IF-MA64/BN (MADI) • IF-MA64/EX (MADI) • IF-MTR32 (Recorder) • IF-ST2110 (ST 2110)
	SLOT[スロット番号] was changed from [旧カード名] to [現カード名].	電源がオフの間に拡張カードが変更されました。	
デバイス温度アラート	IF-ST2110 Card is HOT.	拡張カード IF-ST2110 の温度が正常範囲外に近い状態です。	IF-ST2110 の冷却ファン回転速度を工場出荷時設定の「L」から「H」に変更することで改善できる場合があります（基板上のジャンパーソケット変更）。詳細は、IF-ST2110 の取扱説明書の「冷却ファン回転速度の設定方法」をご参照ください。
内蔵 Dante アラート	Dante I/O Sample rate changed by Dante Controller.	内蔵 Dante 入出力のサンプリング周波数が Dante Controller から変更されました。	

エラー／アラート分類	メッセージ	内容	備考
記録メディアアラート	Unrecognized format (SD card).	認識できないフォーマットのSDカードが装着されました。	
	Unrecognized format (USB flash drive).	認識できないフォーマットのUSBメモリーが装着されました。	
録音アラート	Recording stopped. Media Full.	メディアの容量が不足したため、録音を停止しました。	
	Recording error. Buffer overflow.	録音中にバッファオーバーフローが発生したため、録音を停止しました。	
	Recording stopped. File limit reached. Please change to another folder.	フォルダー内のファイルの総数がシステム制限数を越えたため、録音を停止しました。別のフォルダーに変更してください。	
	Recording error. SD card was removed.	録音中にSDカードが抜かれたため、録音を停止しました。	
再生アラート	Play error. Buffer underrun.	再生中にバッファアンダーランが発生したため、再生を停止しました。	
	Play error. [メディア名] was removed.	再生中にメディアが抜かれたため、再生を停止しました。	メディア名： SD card USB
SB-16D マウント状態エラー	SB-16D ID #xx-xx has been disconnected.	マウントされていたSB-16DがDanteネットワークから切断され、バーチャルマウント状態になりました。	xx = 1 ~ 16
SB-16D マウント状態アラート	SB-16D ID#xx-xx connected.	バーチャルマウント状態だったSB-16DがDanteネットワークに接続され、マウント状態になりました。	xx = 1 ~ 16 起動後約3分以内にこのアラートが発生した場合は、メッセージを表示しません。
SB-16D ID重複エラー	SB-16D ID #xx-xx has a ID conflict.	マウントされているSB-16Dと同じIDのSB-16DがDanteネットワークに接続されました。	xx = 1 ~ 16
	SB-16D ID #xx-xx conflict has been resolved.	マウントされているSB-16DのIDの重複が解消されました。	xx = 1 ~ 16 エラー履歴としてINFORMATION画面のERRORタブ画面にグレーで表示されます。 画面上部には、表示されません。
SB-16D パラメーター設定アラート	SB-16D ID #xx-xx INPUT xx cannot be set to LINE LEVEL. This console does not have SB-16D ID #xx-xx Pre Amp Control.	制御権がないSB-16Dの入力ポートがInsert Returnポートにアサインされた、またはアサインされているため、該当する入力ポートのPre Amp設定をラインレベルの基準設定値に変更できませんでした。 表示されるタイミングは、以下をご参照ください。 <ul style="list-style-type: none"> 100 ページ「⑤ AUTO ROUTING ボタン」 101 ページ「SB-16Dを使用する」 156 ページ「④ 入力ソース選択ボタン」 	xx = 1 ~ 16

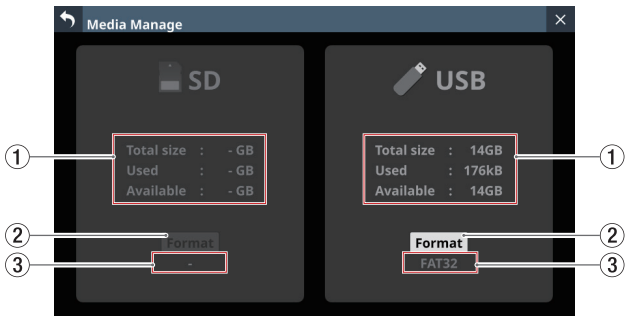
第9章 各種情報表示

エラー／アラート分類	メッセージ	内容	備考
IF-MTR32（マルチトラックレコーダー）アラート	MTR File Error.	MTRでファイルの読み込みに失敗しました。	
	MTR Non-Supported WAV format.	MTRでサポートしていないWAVファイルです。 MTRで取り扱い可能なファイル形式については、311 ページ「ファイルフォーマットについて」を確認してください。	
	MTR Cannot MARK. (Limit Reached)	マークは、99 個までしか作成できません。	
	MTR No Playback File.	MTRで再生するファイルが存在しません。	
	MTR Playing Error.	MTRの再生に失敗しました。 ファイルを確認してください。	
	MTR cannot record. Please enable at least one REC READY track	MTRの録音トラックが選択されていないため、録音を開始できません。 少なくとも1つはREC READYを有効にしてください。	
	MTR buffer overflow occurred. Recording will continue.	MTRのSDカードへの書き込みが間に合いませんでした。 これにより音声の不連続になり、ノイズが発生します。 この不連続点にはマークが付けられます。 イレースフォーマットを実行するか、SDカードを交換してください。	MULTI TRACK RECORDER - MENU 画面でSDカードのERASEフォーマットを実行すると、SDカードの性能が回復します。ただし、SDカードの状態(故障・寿命など)により、書き込み速度が回復しない場合もあります。
	MTR Recording stopped. Buffer overflow.	MTRのSDカードの書き込み性能が低下したため、録音を停止しました。 SDカードへの書き込みが間に合わず、発生した不連続点にはマークが付いています。マーク付近の音声を確認してください。 イレースフォーマットを実行するか、SDカードを交換してください。	
	MTR Recording stopped. SD Card Full.	MTRのSDカードの残容量がないため、録音を停止しました。	
	MTR Recording stopped. Take limit reached. Please change to another project.	フォルダー内のファイル、フォルダーなどの総数が多いため、MTRの録音を停止しました。	
	MTR Failed to write.	MTRで書き込みに失敗しました。 SDカードを交換してください。	
	MTR File Protected.	MTRのファイルが書き込み禁止であるため編集することができません。 ファイルのプロテクトを解除してください。	

エラー／アラート分類	メッセージ	内容	備考
IF-MTR32（マルチトラックレコーダー）アラート	MTR Protected SD Card. Please unprotect the SD card.	MTRのSDカードが保護されています。 保護を解除してください。	
	MTR SD Card Error. Please format the SD card.	MTRのSDカードが正常にフォーマットされていないか、壊れている可能性があります。 SD cardをフォーマットしてください。 フォーマットを実行するカード内のデータは、すべて消去されます。	
	MTR Format Error. Please format the SD card.	MTRのSDカードが正常にフォーマットされていないか、壊れている可能性があります。 SD cardをフォーマットしてください。 フォーマットを実行するカード内のデータは、すべて消去されます。	
	MTR Operation cannot be continued. Please reinsert the SD CARD.	MTRのSDカードに問題が発生しました。 カードを挿し直してください。	
	MTR Invalid SD Card. Please change the SD card.	MTRのSDカードが正常でない可能性があります。 SDカードを交換してください。	
	MTR System ROM Error.	このエラーが頻繁に発生する場合は、TASCAMカスタマーサポートにご相談ください。	
	MTR Unknown Error. XX An unexpected error occurred inside the system. Please contact our customer support with the error code.	このエラーが頻繁に発生する場合は、TASCAMカスタマーサポートにご相談ください。	XX = エラー番号
電源エラー	AC and DC Power Error.	AC電源とDC電源が正常動作範囲外です。	
	AC and DC Power Restored.	AC電源とDC電源が正常動作範囲内です。	エラー履歴としてINFORMATION画面のERRORタブ画面にグレーで表示されます。画面上部には、表示されません。
電源アラート	AC Power Error.	AC電源が正常動作範囲外です。	
	DC Power Error.	DC電源が正常動作範囲外です。	
	AC Power Restored.	AC電源が正常動作範囲内です。	エラー履歴としてINFORMATION画面のERRORタブ画面にグレーで表示されます。画面上部には、表示されません。
	DC Power Restored.	DC電源が正常動作範囲内です。	エラー履歴としてINFORMATION画面のERRORタブ画面にグレーで表示されます。画面上部には、表示されません。
	Power Redundancy Check: OFF	Power Redundancy Check機能がOFFになりました。	エラー履歴としてINFORMATION画面のERRORタブ画面にグレーで表示されます。画面上部には、表示されません。

Media Manage画面

この画面では、メディア情報の表示とフォーマットを行います。
この画面は、メニュー画面>System Setupメニュー>「Media Manage」をタップして表示します。



① メディアの情報表示

装着したSDカード／USBメモリーのメディア情報を表示します。

表示	内容
Total size	メディア全体の容量を表示します。
Used	使用済み容量を表示します。
Available	空き容量を表示します。

② Format ボタン

このボタンをタップして、フォーマットを開始します。（→276 ページ「メディアをフォーマットする」）

メモ

ライトプロテクトされているSDカードを装着された場合は、Format ボタン上部に「LOCKED」と表示されてボタンがグレースアウト表示になり、フォーマットを実施できません。

③ フォーマット名

装着したSDカード／USBメモリーのフォーマット名（ファイルシステム名）を表示します。

メモ

メディアが装着されていない場合、グレースアウト表示になります。

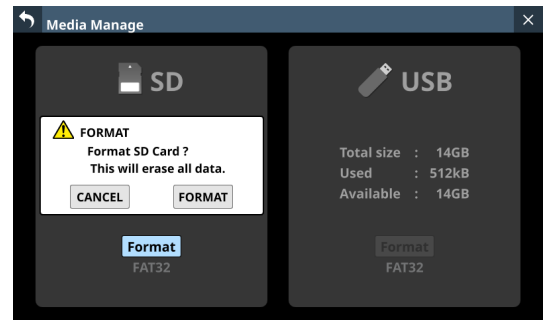
メディアをフォーマットする

注意

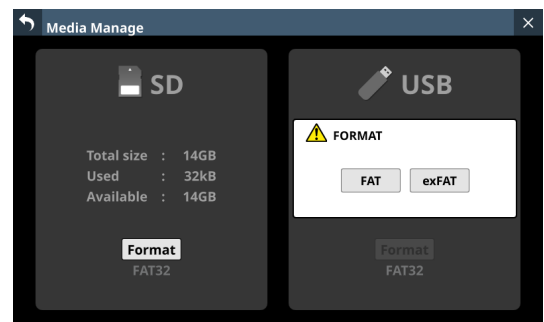
- SDカードがライトプロテクトされている場合は、フォーマットできません。ライトプロテクトを解除してください。（→35 ページ「SDカードのライトプロテクトスイッチについて」）
- フォーマットを行うと、SDカード／USBメモリー上のデータはすべて消去されます。十分確認した上で行ってください。
- 必ず本機にてフォーマットを行ってください。他の機器、パソコンなどでフォーマットしたSDカード／USBメモリーを使用した場合は、動作に影響が出る場合があります。

1. Format ボタンをタップします。

- SDカードをフォーマットする場合は、フォーマットの実施を確認するウィンドウを表示します。



- USBメモリーをフォーマットする場合は、フォーマットするファイルシステムを選択するウィンドウが表示されます。

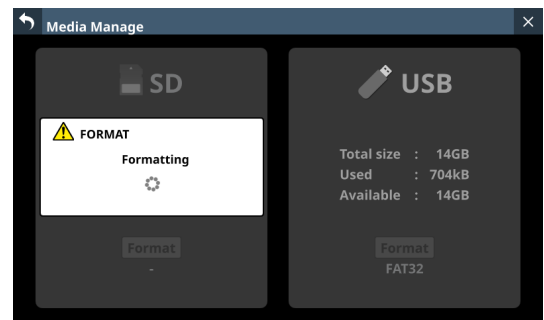


フォーマットするファイルシステムのボタンをタップします。

メモ

SDカードをフォーマットする場合、装着したSDカードの容量によってフォーマットするファイルシステムが自動的に選択されます（SDHCカード：FAT32／SDXCカード：exFAT）。

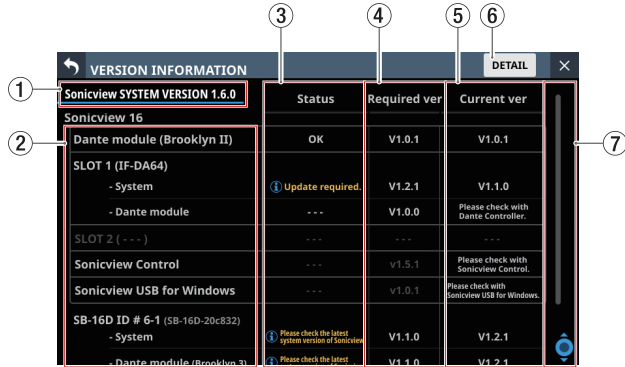
2. Format ボタンをタップして、フォーマットを開始します。 フォーマット実行中は、以下の画面が表示されます。



フォーマットが完了すると、ウィンドウを閉じます。

Version Information画面

この画面では、システムのファームウェア、各種デバイス、アプリケーションのバージョン情報やアップデートの必要性を表示します。メニュー画面 > System Setup メニュー > 「Version Information」をタップして、Version Information画面に切り換えます。



① システムバージョン

現在のSonicviewのシステムファームウェアのバージョン情報を表示します。

② 各種デバイス／アプリケーション名

Sonicview内蔵Danteデバイス、スロットカード、対応アプリケーション、SB-16Dの名前を表示します。

③ Status

各デバイス／アプリケーションのアップデートが必要かどうかを表示します。

- Current verがRequired verと一致する場合、「OK」と表示します。
この場合、該当デバイス／アプリケーションをアップデートする必要はありません。
- Current verがRequired verより小さい場合、「④ Update Required.」と表示します。
この場合、該当デバイス／アプリケーションが正常に動作しない可能性があります。
該当デバイス／アプリケーションのファームウェア／ソフトウェアをアップデートしてください。
- Current verがRequired verより大きい場合、「⑤ Please check the latest system version of Sonicview.」と表示します。
この場合、Sonicviewのファームウェアをアップデートできる場合があります。ただし、デバイスやアプリケーションだけがアップデートされている状況では、Sonicviewのファームウェアをアップデートする必要はありません。
TASCAMのウェブサイトではSonicviewの最新ファームウェアの情報をご確認ください。

Sonicview 16 / 16dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_16/support

Sonicview 24 / 24dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_24/support

メモ

Status欄に以下のメッセージが表示されている場合、各デバイスやアプリケーション、または本機のアップデートが必要であることをお知らせするため、メニュー画面の「System Setup」メニュー項目と「Version Information」サブメニュー項目に④マークが表示されます。

- ④ Update Required.
- ⑤ Please check the latest system version of Sonicview.

④ Required ver

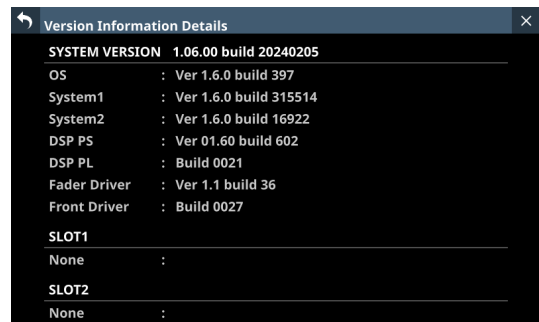
現在のSonicviewシステムファームウェアが要求する各デバイス／アプリケーションのバージョン情報を表示します。

⑤ Current ver

- 各デバイス／アプリケーションの現在のバージョン情報を表示します。
- 専用アプリケーション「TASCAM Sonicview Control」の現在のバージョン情報は、「TASCAM Sonicview Control」でご確認ください。
- 専用ソフトウェア「TASCAM Sonicview USB for Windows」の現在のバージョン情報は、Windowsパソコンにインストールした「TASCAM Sonicview USB」でご確認ください。
- IF-DA64（Danteカード）のDante Moduleバージョン情報は、Dante Controllerでご確認ください。

⑥ DETAIL ボタン

このボタンをタップすると、システムの詳細なファームウェアバージョン情報とビルド番号、SLOT 1 およびSLOT 2 に挿入されているカード情報を表示するVersion Information Details画面に切り換わります。



⑦ スクロールバー表示

Sonicview内蔵Danteデバイス、スロットカード、対応アプリケーション、SB-16Dの名前が画面内に表示しきれない場合に表示します。

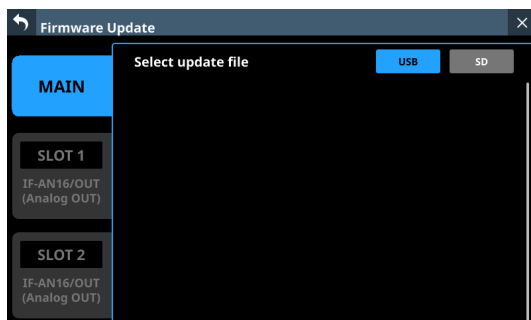
スクロールバー表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、リストを上下にスワイプする、またはLCDノブ8を回してスクロールすることもできます。

ファームウェアアップデート手順

注意

- ファームウェアアップデートの際は、本機が対応したファイルシステム（FAT32/exFAT）でフォーマットされたUSBメモリやSDカードをご利用ください。USBメモリやSDカードを本機でフォーマットしてからご利用いただくことをお勧めします。（→ 276 ページ「Media Manage画面」）
- MAIN ファームウェア Ver 1.1.0 以上の本機で作った Snapshot を Ver 1.0.x の本機で RECALL すると正常動作できないため、以下の制限があります。
 - MAIN ファームウェアを Ver 1.0.x にバージョンダウンすることはできません。
 - MAIN ファームウェア Ver 1.1.0 以上の本機で作った Snapshot/All System Data は、Ver 1.0.x の本機ではインポート／リストアできません（Ver 1.0.x の本機で作った Snapshot/All System Data は、Ver 1.1.0 以上の本機でインポート／リストアできます）。

- パソコンで TASCAM のウェブサイトより最新のファームウェアをダウンロードします。
Sonicview 16 / 16dp
https://tascam.jp/jp/product/sonicview_16/support
Sonicview 24 / 24dp
https://tascam.jp/jp/product/sonicview_24/support
 ダウンロードを行ったファイルが ZIP 形式などの圧縮ファイルの場合は、解凍してください。
- ダウンロード／解凍したファームウェアファイルのみをパソコンから USB メモリーまたは SD カードのルートディレクトリー（一番上の階層）にコピーしてください。
- 手順 2. で作成した USB メモリーまたは SD カードを、トップパネルの USB 端子または SD カードスロットに挿入します。
- メニュー画面 > System Setup メニュー > 「Firmware Update」をタップして、Firmware Update 画面に切り換えます。



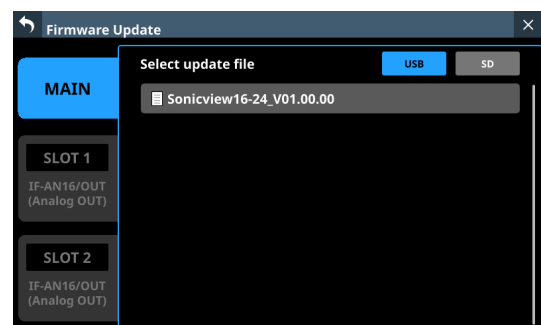
- ファームウェアをアップデートするデバイスのタブをタップします。

デバイス表示	内容
MAIN	本機のファームウェアをアップデートする
SLOT 1	SLOT 1 に挿入されている拡張カードのファームウェアをアップデートする
SLOT 2	SLOT 2 に挿入されている拡張カードのファームウェアをアップデートする

メモ

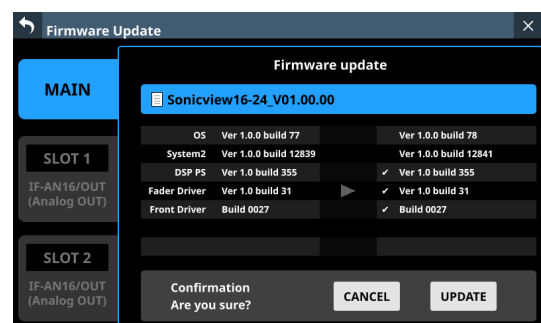
拡張カードが装着されていない SLOT のタブは表示されません。

- 画面右上の USB ボタンまたは SD ボタンをタップして、手順 3. で装着したメディアを選択します。
 USB メモリーまたは SD カードを認識し、ファームウェア用アップデートファイルを確認すると以下の画面が表示されます。



メモ

- 上記の画面には、装着した USB メモリーまたは SD カードのルートフォルダー内にあるファームウェアアップデート用のファイルがリスト表示されます。上記の 2. でコピーされたファームウェアも表示されます。
 - 最大 5 行のファームウェアを表示できます。5 行を超えるファイルがある場合には、リストを上下にスワイプしてください。
 - 画面は一例で、実際の表示とは異なります。
- アップデートするファームウェアをタップして選択すると、ファームウェアデータが自動的に展開されて以下の画面が表示されます。

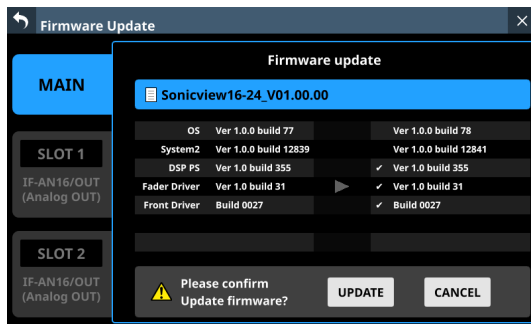


左側に現在のバージョン、右側にアップデートするバージョンナンバーが表示されます。

メモ

画面は一例で、実際の表示とは異なります。

8. アップデートの実施確認メッセージが表示されますので、UPDATE ボタンをタップします。

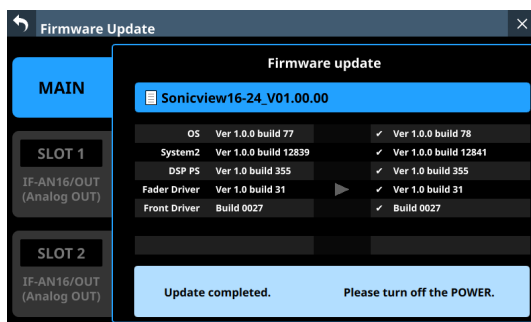


メモ

- アップデートの必要がない場合は、UPDATE ボタンが表示されません。
 - CANCEL ボタンをタップすると、アップデートを取り消して、アップデートファイルの一覧表示に戻ります。
9. 再度アップデートの実施確認メッセージが表示されますので、UPDATE ボタンをタップすると、しばらく起動画面が表示されてからアップデートを開始します。

注意

- アップデート中は電源を切断しないように注意してください。
 - アップデート途中で電源が切断されると、起動できなくなる恐れがあります。
10. アップデートが完了すると、以下の画面が表示されます。



11. 本機リアパネルのPOWERスイッチを使って、本機を再起動します。

注意

- MAIN ファームウェア Ver 1.0.2 以前のバージョンではRESTART ボタンが表示されますが、その場合でもRESTARTボタンはタップせず、必ずリアパネルのPOWERスイッチを使って本機を再起動してください。
12. 再起動後、277 ページ「Version Information画面」を参照して、最新のファームウェアとなっていることを確認してください。以上で本機のアップデート作業は終了です。
13. USBメモリーまたはSDカード内にあるファームウェアアップデート用ファイルを削除してください。

第10章 録音／再生

本機には、2トラックのWAVレコーダー（SDカード）と2トラックのWAV／MP3／AACプレイヤー（SDカード／USBメモリ）が内蔵されています。

録音ファイルフォーマットは、以下の通りです。

- WAV：48k/96kHz、24bit、2ch

SYNC CLOCK画面のSync Clockボタン（②）で設定したサンプリング周波数で録音されます。（→ 37 ページ「サンプリング周波数を設定する」）

再生可能なファイルフォーマットは、以下の通りです。

- BWF/WAV：48k/96kHz、16/24bit、2ch
- MP3：44.1k/48kHz 32k～320kbps、2ch
- AAC：44.1k/48kHz 64k～320kbps、2ch

SDカードのフォーマットについて

本機でフォーマットされたSDカードは、録音時の性能向上のために最適化されています。そのため、本機で使用するSDカードは本機でフォーマットを行ってください。（→ 276 ページ「Media Manage画面」）

他の機器、パソコンなどでフォーマットされたSDカードは、本機での録音時にエラーになる可能性があります。

本機で使用するSDカード／USBメモリー

本機にて動作が確認されたSDカード／USBメモリーのリストが、TASCAMのウェブサイトに掲載されています。

Sonicview 16 / 16dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_16/support

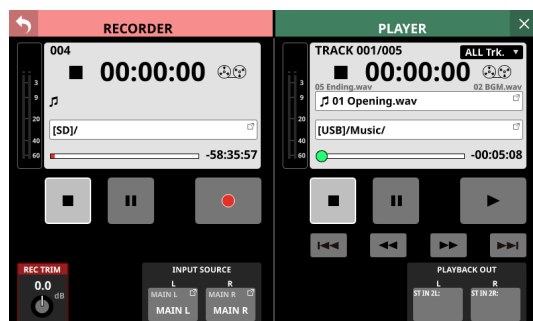
Sonicview 24 / 24dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_24/support

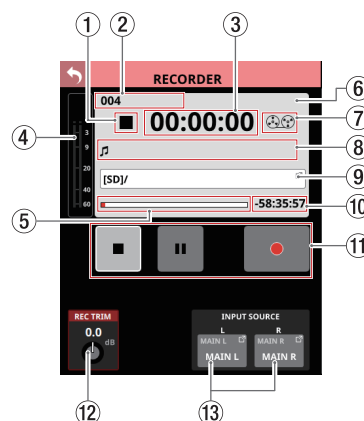
このリストに掲載されているSDカード／USBメモリーをご使用ください。

RECORDER / PLAYER画面

この画面では、内蔵レコーダー／プレイヤーの操作を行います。この画面は、メニュー画面＞Recorder/Playerメニュー＞「Recorder/Player」をタップして表示します。



RECORDER部



① 録音トランスポートステータス表示

トランスポートの状態をアイコン表示します。

② 録音総トラック数表示

録音ファイルの総トラック数を表示します。

メモ

1つのフォルダーに録音できるトラック数は、最大999です。999トラックあるフォルダー、ファイル名末尾が「999.wav」のファイルがあるフォルダーでは、録音フォルダー名表示部に「Rec Limit」と表示されて、録音できなくなります。

録音をする場合は、別のフォルダーに切り換えてください。

③ 録音経過時間

録音の経過時間を表示します。

メディアが装着されていない場合は、「---:---:---」と表示します。

④ 録音入力レベルメーター

内蔵レコーダーへの入力レベルを表示します。

⑤ メディア容量バー

メディア総容量に対する、使用済み容量の割合を表示します。録音の経過とともに、左から右にバーが伸びていきます。

⑥ RECORDER情報表示部

録音している間、録音中であることがわかりやすいように背景色が薄い赤に変わります。

⑦ テープリールアイコン

録音している間、動作中であることがわかりやすいように、テープリールのアイコンが回転します。

⑧ 録音ファイル名表示

- 録音中／録音一時停止中に、録音中のファイル名を表示します。
- 録音停止後は、最後に録音したファイル名を表示します。
- 録音ファイル名のフォーマットは、以下の通りです。

YYYYMMDD_nnn.wav

YYYY：年

MM：月

DD：日

nnn：3桁の番号

メモ

本機の起動直後／メディアの装着直後／フォルダーの選択直後は、何も表示しません。

⑨ 録音フォルダー名表示部

- 録音先のフォルダーパス名を表示します。
- この部分をタップすると、録音先のフォルダーを選択する BROWSE画面に切り換わります。(→ 283 ページ「録音フォルダー選択の BROWSE画面」)
- SDカードが装着されていない場合は、「No Media」と表示します。
- SDカードの空き容量がない場合は、「No free space」と表示します。
- 認識できないSDカードを装着された場合は、「Unrecognized」と表示します。この表示のときにタップすると、Media Manage画面に切り換えます。(→ 276 ページ「Media Manage画面」)

メモ

フォルダー内にファイルとサブフォルダーが合計 999 以上ある場合は、正常にファイルやフォルダーが表示できない場合があります。

⑩ 録音残時間

メディアの録音可能残り時間を表示します。

メディアが装着されていない場合やメディアの空き容量がない場合など、録音できない状態では、「---:--:--」と表示します。

⑪ トランスポート操作ボタン／インジケータ

内蔵レコーダーの操作を行います。

■	レコーダーが録音中にタップすると、録音を停止します。 レコーダーが停止中は、ボタンが白くハイライト表示になります。
⏸	レコーダーが録音中にタップすると、録音を一時停止します。 レコーダーが録音一時停止中は、ボタンが白くハイライト表示になります。
●	レコーダーが停止中にタップすると、録音を開始します。レコーダーが録音一時停止中にタップすると、録音を再開します。 レコーダーが録音中または録音一時停止中は、ボタンが薄い赤でハイライト表示になります。

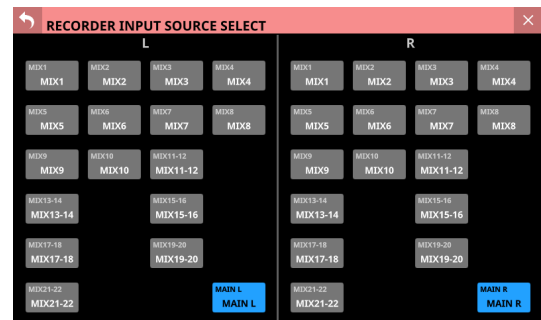
⑫ REC TRIM ノブ

LCD ノブ 1 を回して、レコーダーへの入力レベルのトリム値を調節します。

設定範囲：-20.0dB～+20.0dB (0.1dB刻み、初期値：0.0dB)

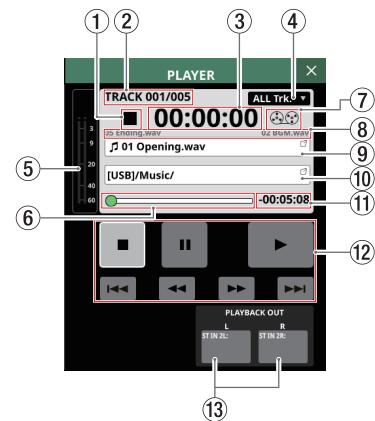
⑬ INPUT SOURCE設定ボタン

- レコーダーへの入力ソース名を表示します。
ボタン上段には、FIXED MODULE LABELを表示します。
ボタン下段には、USER MODULE LABELを表示します。
USER MODULE LABELが未定義の場合は、FIXED MODULE LABELを表示します。(→ 134 ページ「MODULE LABEL タブ画面」)
- 入力ソースがアサインされていない場合は、空欄になります。
- このボタンをタップすると、RECORDER INPUT SOURCE SELECT画面に切り換わります。



レコーダーのLチャンネルとRチャンネルへの入力信号をMIX1-22またはMAIN L/Rから選択します。(初期値：MAIN L/R)

PLAYER部



① 再生トランスポートステータス表示

トランスポートの状態をアイコン表示します。

② 再生トラック番号／トラック数

選択・再生中トラックの番号／総トラック数を表示します。

③ 再生経過時間

トラックの先頭からの経過時間を表示します。

メディアが装着されていない場合は、「---:--:--」と表示します。

④ 再生モード表示

- 再生モードを表示します。
- この部分をタップすると、再生モードを設定するウィンドウを表示します。



アイコン	表示内容
	シングル再生
	フォルダー再生（初期値）
	シングルリピート再生
	フォルダーリピート再生

ウィンドウ表示内のボタンをタップすると、タップした再生モードに変更し、ウィンドウを閉じます。

⑤ 再生出力レベルメーター

プレイヤーからの出力レベルを表示します。

⑥ Time Bar

再生トラックの長さに対する現在の再生済み時間の割合を表示します。
ノブをドラッグすることで、再生位置を移動することができます。

⑦ テープリールアイコン

再生している間、動作中であることがわかりやすいように、テープリールのアイコンが回転します。

⑧ 再生対象ファイルの前後のファイル名表示部

- 左側に再生対象ファイルの1つ前のファイル名を表示します。
- 右側に再生対象ファイルの1つ後のファイル名を表示します。

⑨ 再生対象ファイル名表示部

- 再生対象ファイル名を表示します。
- この部分をタップすると、再生メディア／再生ファイル／再生フォルダー選択のBROWSE画面に切り換わります。（→ 285 ページ「再生メディア／再生ファイル／再生フォルダー選択のBROWSE画面」）

⑩ 再生フォルダー名表示部

- 再生対象のメディア名およびフォルダーパス名を表示します。
- この部分をタップすると、再生メディア／再生ファイル／再生フォルダー選択のBROWSE画面に切り換わります。（→ 285 ページ「再生メディア／再生ファイル／再生フォルダー選択のBROWSE画面」）

⑪ 再生残時間

再生トラックの残り時間を表示します。

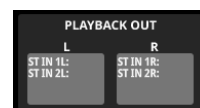
⑫ トランスポート操作ボタン／インジケーター

プレイヤーの操作を行います。

	プレイヤーが再生中にタップすると、再生を停止します。 プレイヤーが停止中は、ボタンが白くハイライト表示になります。
	プレイヤーが停止中／再生中にタップすると、再生一時停止状態になります。 プレイヤーが再生一時停止中は、ボタンが白くハイライト表示になります。
	プレイヤーが停止中／再生一時停止中にタップすると、再生を開始します。 プレイヤーが再生中は、ボタンが緑色にハイライト表示になります。
	プレイヤーが停止中／再生中／再生一時停止中にタップすると早送り／早戻しを開始し、押し続けるとその間早送り／早戻しを行います。 ● 早送り／早戻し中にタップすると、早送り／早戻し前の状態に戻ります。 ● 早送り／早戻し中は、ボタンが白くハイライト表示になります。
	プレイヤーが停止中にタップすると、手前のファイル／次のファイルにスキップします。 プレイヤーが再生中／再生一時停止中に ボタンをタップすると曲の先頭に戻ります。 ファイルの先頭で停止しているときに ボタンをタップすると、手前のファイルにスキップします。 再生中に ボタンをタップすると、次のファイルにスキップします。

⑬ PLAYBACK OUT設定表示

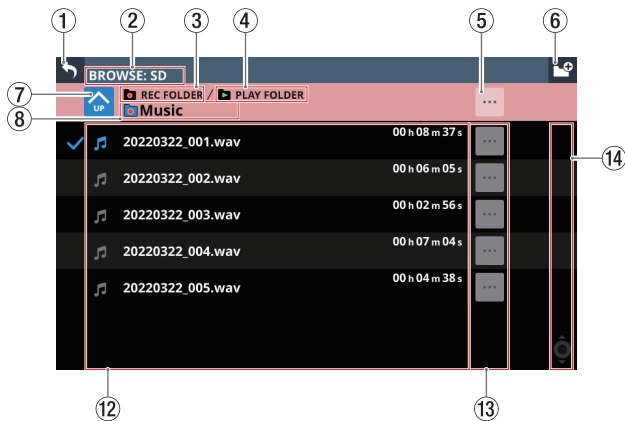
- プレイヤー出力をアサインしている入力モジュールのFIXED MODULE LABELとUSER MODULE LABELを表示します。
- プレイヤー出力をアサインしていない場合は、空欄になります。
- 複数の入力モジュールにアサインしている場合は、若い番号から順に表示されます。



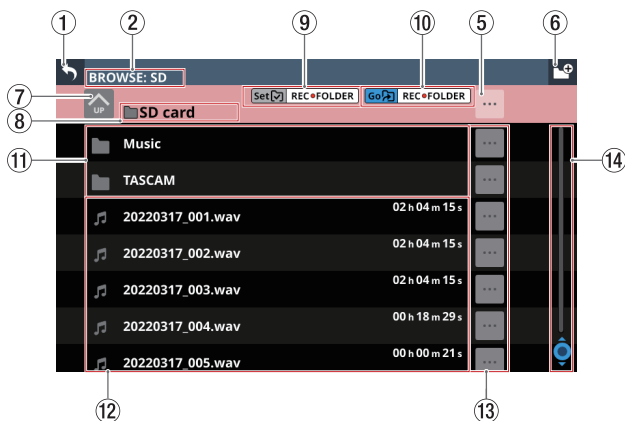
BROWSE画面

録音フォルダー選択のBROWSE画面

RECORDER部の録音フォルダー名表示部をタップすると、録音フォルダー選択のためのBROWSE画面に切り換わります。録音したい既存フォルダーや新規フォルダーに移動し、録音フォルダー設定ボタン（**Set** **REC FOLDER**）をタップすると、そのフォルダーが録音フォルダーに設定されます。



〔録音フォルダーに設定されたフォルダーの表示例〕



〔SDカードのルートの表示例〕

メモ

- USBメモリーには録音できません。録音メディアはSDカードとなります。
- フォルダー内にファイルとサブフォルダーが合計 999 以上ある場合は、正常にファイルやフォルダーが表示できない場合があります。

① ボタン

このボタンをタップすると、RECORDER/PLAYER画面に戻ります。

② メディア名表示

表示しているメディア名を表示しています。

③ 録音フォルダー表示

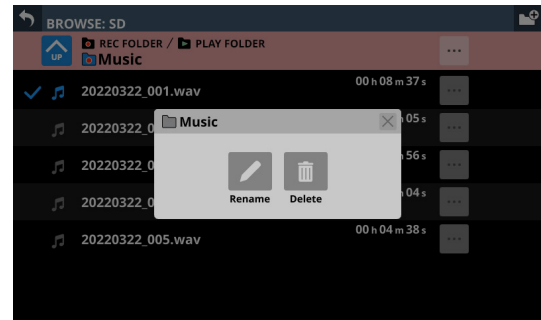
表示中のフォルダーが録音フォルダーに設定されていることを示します。

④ 再生フォルダー表示

表示中のフォルダーが再生フォルダーに設定されていることを示します。

⑤ ・・・ボタン

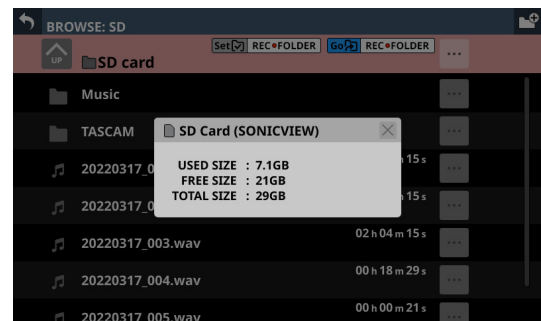
- このボタンをタップすると、現在の階層の各種操作を行うメニューウィンドウを表示します。



操作メニュー	内容
Rename	表示中のフォルダーの名前を変更する画面に切り換わります。
Delete	表示中のフォルダーを削除します。

- 録音中／再生中は、操作できません。

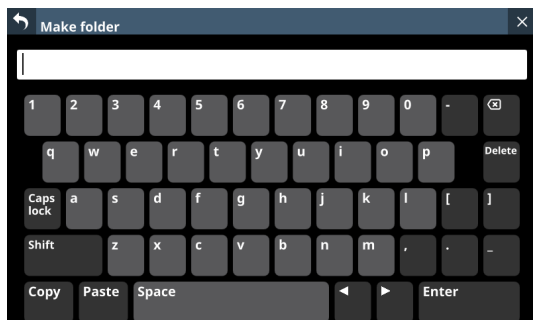
- 「SD card」階層を表示中にタップすると、メディア情報を表示します。



- SDカードのボリューム名
- SDカードの各種容量情報

⑥ ㊦ ボタン

表示中の階層に新しいフォルダーを作るためのボタンです。このボタンをタップすると、作成するフォルダー名を入力する画面に切り換わります。



Make Folder画面のキーボードのCaps lockボタンとShiftボタンの設定状態によって、入力できる文字の組み合わせを変更することができます。キーボードの変更方法については、230 ページ「キーボードの変更方法」をご参照ください。

⑦ 階層移動ボタン

㊦ ボタンをタップすると、表示中のフォルダーの階層が1つ上がります。

メモ

階層が「SD Card」（一番上の階層）のときは、グレイアウト表示になります。

⑧ 階層名表示

現在表示中の階層のアイコンおよび階層名を表示します。

⑨ 録音フォルダー設定ボタン

このボタンをタップすると、表示中のフォルダーを録音フォルダーに設定します。録音フォルダーに設定されると、このボタンと録音フォルダーへの移動ボタン（⑩）が消えて録音フォルダー表示（③）が表示されます。

録音フォルダーの設定方法については、287 ページ「録音フォルダーの設定方法」をご参照ください。

⑩ 録音フォルダーへの移動ボタン

このボタンをタップすると、録音フォルダーに移動します。

⑪ フォルダーリスト表示

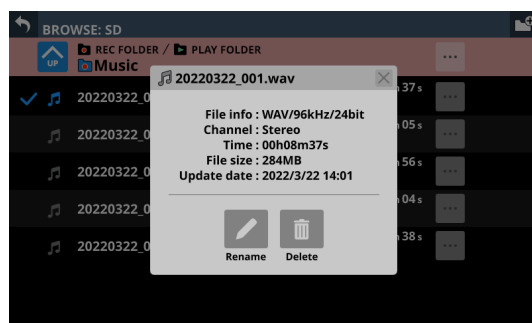
- 表示中の階層に存在するフォルダー名を名前順に表示します。
- このエリアをタップすると、タップしたフォルダー内に移動します。

⑫ ファイルリスト表示

現在表示中の階層に存在する再生可能なファイル名とファイルの長さをファイル名順に表示します。

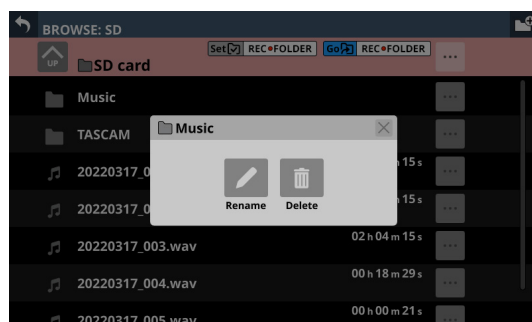
⑬ ㊦ ボタン

- 音声ファイルのボタンをタップすると、ボタン左側のファイルの各種情報表示と下記操作を行うメニューウィンドウを表示します。



操作メニュー	内容
Rename	ボタン左側のファイルの名前を変更する画面に切り換わります。
Delete	ボタン左側のファイルを削除します。

- 録音中／再生中は、操作できません。
- フォルダーのボタンをタップすると、ボタン左側のフォルダーの操作を行うメニューウィンドウを表示します。



操作メニュー	内容
Rename	ボタン左側のフォルダーの名前を変更する画面に切り換わります。
Delete	ボタン左側のフォルダーを削除します。

- 録音中／再生中は、操作できません。

⑭ スクロールバー

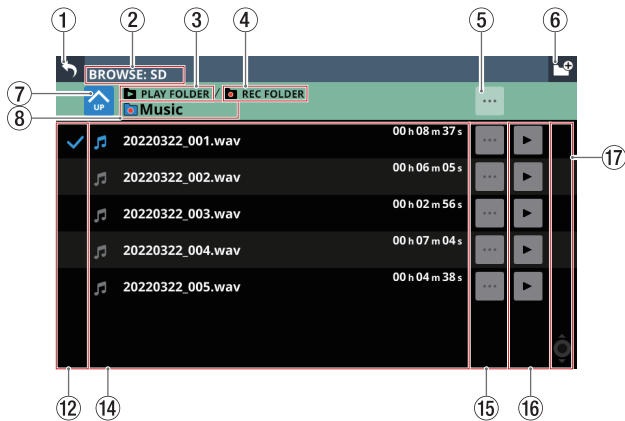
フォルダーやファイルの数が画面内に表示しきれない場合に表示します。

スクロールバー表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、ファイルリストを上下にスワイプする、またはLCDノブ8を回してファイルリストをスクロールします。

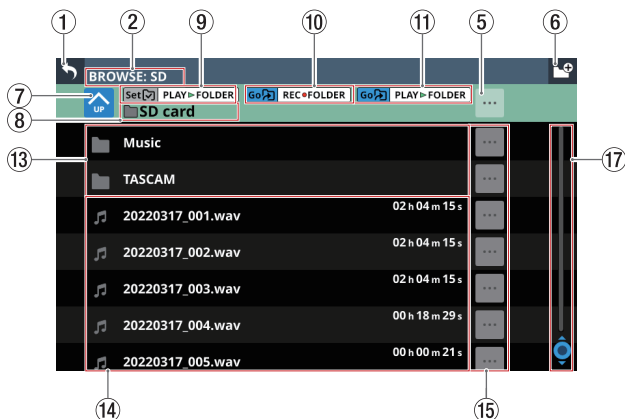
再生メディア／再生ファイル／再生フォルダー 選択の BROWSE 画面

PLAYER部の再生フォルダー名表示部または再生対象ファイル名をタップすると、再生メディア／再生ファイル／再生フォルダー選択の BROWSE 画面に切り換わります。

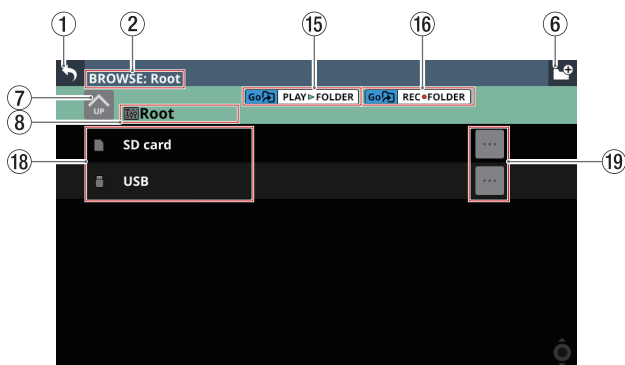
再生したいファイルがあるメディアのフォルダーに移動し、再生フォルダー設定ボタン (**Set** **PLAY>FOLDER**) をタップすると、選択したメディアの選択フォルダーが再生フォルダーに設定されます。



[再生フォルダーに設定されたフォルダーの表示例]



[SD カードのルートの表示例]



[メディア選択するためのミキサールートの表示例]

メモ

フォルダー内にファイルとサブフォルダーが合計 999 以上ある場合は、正常にファイルやフォルダーが表示できない場合があります。

① **戻る** ボタン

このボタンをタップすると、RECORDER/PLAYER画面に戻ります。

② **メディア名表示**

表示しているメディア名を表示しています。

③ **再生フォルダー表示**

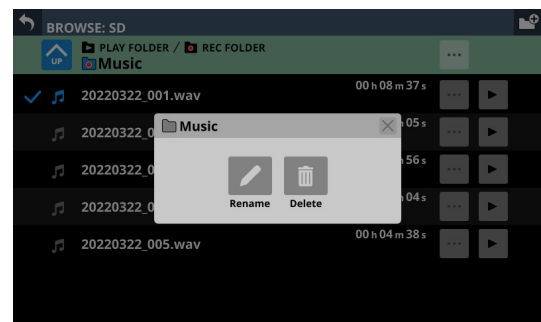
表示中のフォルダーが再生フォルダーに設定されていることを示します。

④ **録音フォルダー表示**

表示中のフォルダーが録音フォルダーに設定されていることを示します。

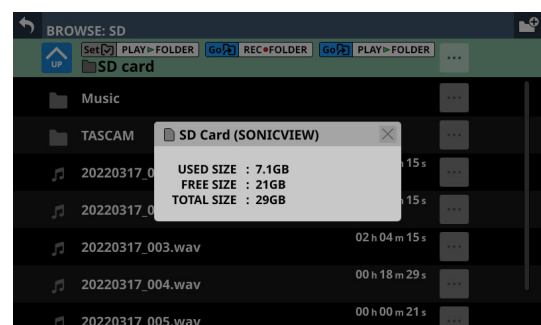
⑤ **メニュー** ボタン

- このボタンをタップすると、現在の階層の各種操作を行うメニューウィンドウを表示します。



操作メニュー	内容
Rename	表示中のフォルダーの名前を変更する画面に切り換わります。
Delete	表示中のフォルダーを削除します。

- 録音中／再生中は、操作できません。
- メディアのルートを表示中にタップすると、メディア情報を表示します。

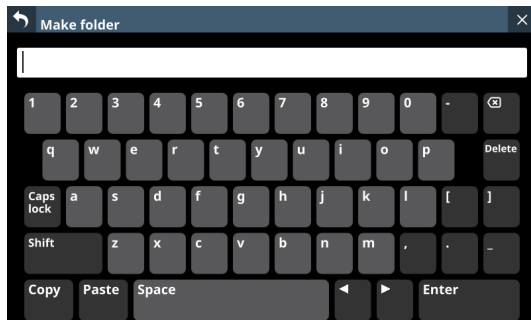


- メディアのボリューム名
- メディアの各種容量情報

第 10 章 録音／再生

⑥ ㊦ ボタン

表示中の階層に新しいフォルダーを作るためのボタンです。
このボタンをタップすると、作成するフォルダー名を入力する画面に切り換わります。



Make Folder画面のキーボードのCaps lockボタンとShiftボタンの設定状態によって、入力できる文字の組み合わせを変更することができます。キーボードの変更方法については、230 ページ「キーボードの変更方法」をご参照ください。

⑦ 階層移動ボタン

㊦ ボタンをタップすると、表示中のフォルダーの階層を 1 つ上がります。

メモ

階層が「Root」（一番上の階層）のときは、グレイアウト表示になります。

⑧ 階層名表示

現在表示中の階層のアイコンおよび階層名を表示します。

⑨ 再生フォルダー設定ボタン

このボタンをタップすると、表示中のフォルダーを再生フォルダーに設定します。

再生フォルダーに設定されると、このボタンと再生フォルダーへの移動ボタン（㉑）が消えて再生フォルダー表示（㉓）が表示されます。

再生フォルダーの設定方法については、288 ページ「再生フォルダーの設定方法」をご参照ください。

⑩ 録音フォルダーへの移動ボタン

このボタンをタップすると、録音フォルダーに移動します。

⑪ 再生フォルダーへの移動ボタン

このボタンをタップすると、再生フォルダーに移動します。

⑫ 再生対象マーク表示部

この部分をタップすると、タップした音声ファイルが再生対象ファイルとして選択され、チェックマーク（✓）が表示されます。

⑬ フォルダーリスト表示部

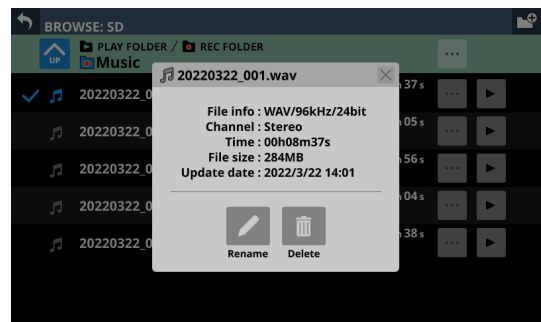
- 表示中の階層に存在するフォルダー名を名前順に表示します。
- このエリアをタップすると、タップしたフォルダー内に移動します。

⑭ ファイルリスト表示

現在表示中の階層に存在する再生可能なファイル名とファイルの長さをファイル名順に表示します。また、この部分をタップすると、タップした音声ファイルが再生対象ファイルとして選択され、チェックマーク（✓）が表示されます。

⑮ ㊦ ボタン

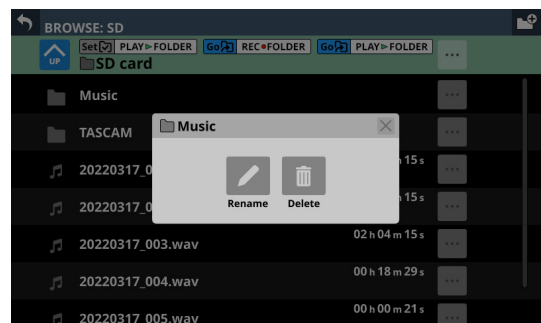
- 音声ファイルのボタンをタップすると、ボタン左側のファイルの各種情報表示と下記操作を行うメニューウィンドウを表示します。



操作メニュー	内容
Rename	ボタン左側のファイルの名前を変更する画面に切り換わります。
Delete	ボタン左側のファイルを削除します。

- 録音中／再生中は、操作できません。

- フォルダーのボタンをタップすると、ボタン左側のフォルダーの操作を行うメニューウィンドウを表示します。



操作メニュー	内容
Rename	ボタン左側のフォルダーの名前を変更する画面に切り換わります。
Delete	ボタン左側のフォルダーを削除します。

- 録音中／再生中は、操作できません。

⑩ ボタン

- このボタンをタップすると、タップした音声ファイルが再生対象ファイルとして選択され、選択した音声ファイルの再生を開始します。ボタンが緑色のハイライト表示になります。
- ボタンがハイライト表示中にタップすると、音声ファイルの再生を停止します。

⑪ スクロールバー

フォルダーやファイルの数が画面内に表示しきれない場合に表示します。

スクロールバー表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、ファイルリストを上下にスワイプする、または LCD ノブ 8 を回してファイルリストをスクロールします。

⑫ メディアリスト表示部

- 本機に装着されているメディアを表示します。
- このエリアをタップすると、タップしたメディア内に移動します。

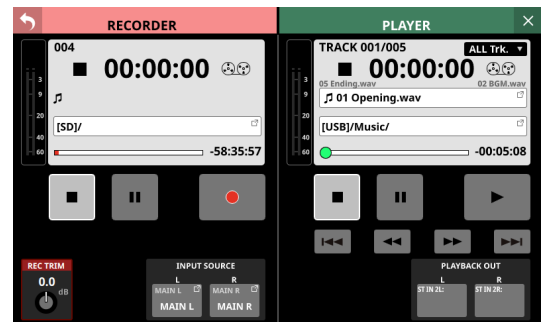
⑬ メディアメニューボタン (⋮)

このボタンをタップすると、ボタン左側のメディア情報を表示します。

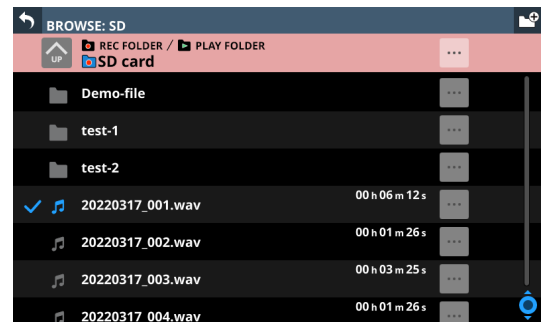
- メディアのボリューム名
- メディアの各種容量情報

録音フォルダーの設定方法

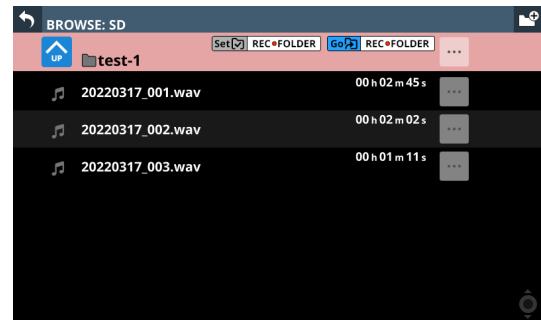
1. メニュー画面 > Recorder/Player メニュー > 「Recorder/Player」をタップして、RECORDER/PLAYER画面を表示します。



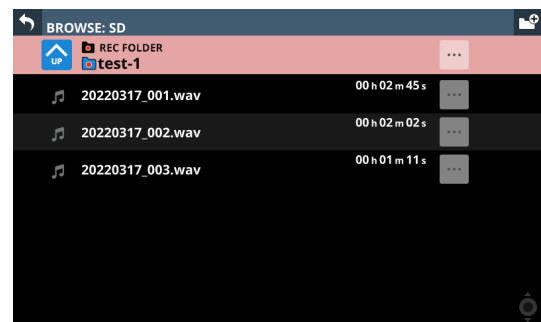
2. RECORDER部の録音フォルダー名表示部 (⑨) をタップして、RECORDERのBROWSE画面に切り換えます。



3. 録音フォルダーに設定したいフォルダーをタップします。タップしたフォルダー画面に切り換わります。

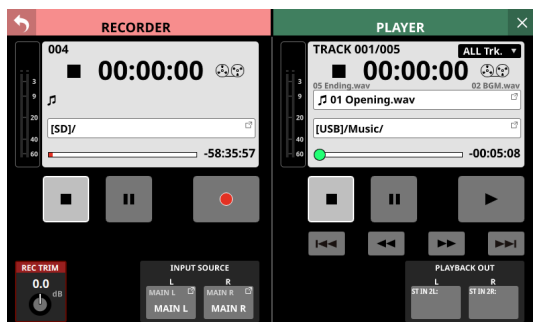


4. 録音フォルダー設定ボタン (⑨) をタップします。録音フォルダーに設定され、「REC FOLDER」が表示されます。

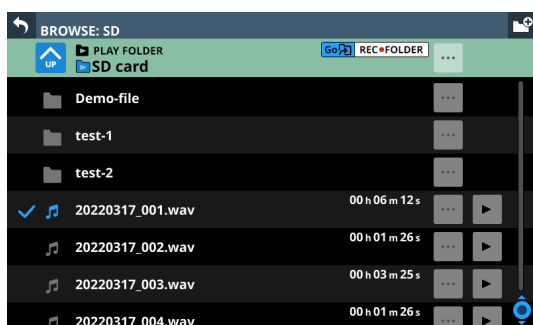


再生フォルダーの設定方法

1. メニュー画面 > Recorder/Playerメニュー > 「Recorder/Player」をタップして、RECORDER/PLAYER画面を表示します。



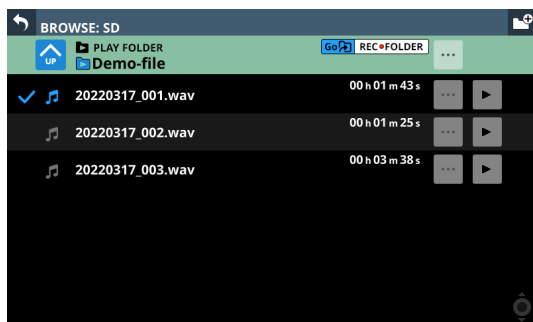
2. PLAYER部の再生対象ファイル名表示部 (⑨) または再生フォルダー名表示部 (⑩) をタップして、PLAYERのBROWSE画面に切り換えます。



3. 再生フォルダーに設定したいフォルダーをタップします。タップしたフォルダー画面に切り換わります。



4. 再生フォルダー設定ボタン (⑨) をタップします。再生フォルダーに設定され、「PLAY FOLDER」が表示されます。



第 11 章 USB オーディオインターフェース

専用ソフトウェアをインストールする

Windows パソコンで本機を USB オーディオインターフェースとして使用するには、専用ソフトウェアをインストールする必要があります。

専用ソフトウェアは TASCAM のウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) から、製品のページへ移動し、最新の専用ソフトウェアをダウンロードしてください。

専用ソフトウェアをインストールすると、ドライバーおよび TASCAM Sonicview USB (アプリケーション) がインストールされます。

注意

ソフトウェアのインストール時には、他のアプリケーションを終了してからインストールを開始してください。

メモ

macOS の場合は OS 標準ドライバーを使用するため、専用ソフトウェアをインストールする必要はありません。

Windows 専用ソフトウェアのインストール

以下の Windows 専用ソフトウェアのインストール手順にしたがってインストールしてください。

注意

- パソコンと本機を USB ケーブルで接続する前に、Windows 専用ソフトウェアのインストールを完了してください。
- パソコンに Windows 専用ソフトウェアをインストールする前に本機を USB ケーブルで接続し、パソコンに「新しいハードウェアの検出ウィザード」が起動してしまっている場合は、そのウィザードを終了させ、USB ケーブルを抜いてください。

Windows 専用ソフトウェアのインストール手順

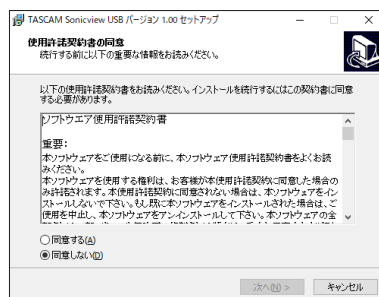
- TASCAM のウェブサイトから、最新の Windows 用ソフトウェアをダウンロードし、ご使用のパソコンに保存してください。
Sonicview 16 / 16dp
https://tascam.jp/jp/product/sonicview_16/support
Sonicview 24 / 24dp
https://tascam.jp/jp/product/sonicview_24/support
- 保存した Windows 専用ソフトウェア (zip ファイル) をデスクトップなどに解凍してください。
- 解凍して生成されるフォルダー内にある「TASCAM Sonicview USB.exe」をダブルクリックすると、インストールソフトウェアが起動します。

注意

zip ファイルを解凍せずに、ダブルクリックして開かれたフォルダーで exe ファイルを実行した場合には、インストーラーは起動できません。zip ファイルを右クリックして表示されるメニューから「すべて展開...」を選択するなど解凍してから再度実行してください。

- 「セキュリティの警告」または「ユーザー アカウント制御」の画面が表示されますので、「はい (Y)」ボタンをクリックします。

- 使用許諾契約書の内容を確認し、内容に同意ができれば、「同意する (A)」を選択します。次に「次へ (N) >」ボタンをクリックします。



- 次に「インストール (I)」ボタンをクリックします。



- 次の画面が表示されたら、インストール作業は完了です。「完了 (F)」ボタンをクリックします。



インストーラーが終了し、インストールした専用ソフトウェア「TASCAM Sonicview USB」が起動します。

メモ

ソフトウェアをインストール後にはじめて本機を USB 接続すると、デバイスドライバーのインストールが実行されます。このとき Windows は、自動的に Windows Update を検索するため、本機の接続が認識されるまでに時間がかかる場合があります。しばらくしても本機が認識されない場合、パソコンのディスプレイ右下の通知領域から、ソフトウェアのインストール画面を表示させ、「Windows Update からのドライバーソフトウェアの取得をスキップする」をクリックして、検索を終了させてください。

専用ソフトウェアをアンインストールする

メモ

通常は専用ソフトウェアのアンインストール作業は、必要ありません。問題が発生した場合や本機の使用をおやめになる場合に、以下の手順をご参照ください。

Windows 専用ソフトウェアのアンインストール

1. ご使用の OS (Windows 11 / Windows 10) に適した設定方法で「プログラムのアンインストールまたは変更」画面を開きます。
2. 一覧の中から「TASCAM Sonicview USB」を選択し、ダブルクリックします。
3. 以降は、スクリーンの指示にしたがってください。

専用ソフトウェアを開く

専用ソフトウェア「TASCAM Sonicview USB」を開くには、次の方法があります。

Windows

- 「スタートメニュー」の「TASCAM」から「TASCAM Sonicview USB」を選択します。
- 起動すると、以下のメッセージが表示されます。



「OK」ボタンをクリックすると、下記ウィンドウが表示されます。



入力遅延

パソコンとやりとりする場合、ASIO ドライバーではオーディオ入出力信号の遅延量を調節します。

設定値が小さいほど、オーディオ信号の遅れが少なくなりますが、パソコンの高速処理が要求されます。

他のシステム操作を行った場合など処理が間に合わない、オーディオ信号にクリックノイズ、ポップノイズ、ドロップアウトなどが発生する場合があります。

設定値を大きくするほど動作がより安定し、オーディオ信号への悪影響に対して強くなりますが、パソコンとやりとりするオーディオ信号の遅れが大きくなります。

本機ではユーザー環境に合わせて、遅延量を調節することができます。

この設定を変更すると即座に ASIO ドライバーに反映されます。



初期値：256Samples

メモ

macOSでは、アプリケーションの設定項目で調節します。

ビット深度

パソコンの環境によって、上記入力遅延／バッファサイズを調整してもオーディオ信号にクリックノイズ、ポップノイズ、ドロップアウトなどが発生する場合は、オーディオデータのビット深度を小さくすることで、パソコンの動作を安定させることが期待できます。

Windowsで使用する 場合

オーディオデータのビット深度を 32bit / 24bit / 16bit から選択します。(初期値: 32bit)

メモ

- この設定を変更すると、即座に ASIO ドライバーに適用されます。ただし、DAW にはこれだけでは適用されませんので、下記「注意事項」を参照ください。
- この設定は ASIO のビット深度にのみ適用されます。WDM のビット深度を変更する手順は、293 ページ「OBS Studio などの配信用アプリケーションで使用するための設定方法」を参照ください。



macOSで使用する 場合

1. アプリケーションから「Audio MIDI設定」アプリを開きます。
2. Sonicviewをサウンド入出力装置に設定します。
3. 入力／出力のフォーマットを変更します。

Windows / macOS双方での 注意事項

- 32bitに設定する場合、お使いになるDAWソフトウェアが 32bit に対応していることを確認してからご利用ください。
- ビット深度変更後はDAW設定でデバイスを選択しなおすか、DAWソフトウェアを再起動してください。

サウンドプロパティについて

1. パソコンと本機をUSBケーブルで接続します。
2. Windowsパソコンのコントロールパネルを開きます。

メモ

コントロールパネルは、下記の方法で開きます。

Windows 11

Windows のスタートボタンをクリックし、「すべてのアプリ」→「Windows ツール」の順でクリックして表示された一覧から「コントロールパネル」をダブルクリック。

Windows 10

Windows のスタートボタンをクリックし、「Windows システムツール」内の「コントロールパネル」をクリック。

3. コントロールパネル内の「サウンド」をダブルクリックして開きます。

メモ

コントロールパネルの表示方法を「アイコン」に設定すると「サウンド」アイコンが表示されます。

4. 「再生」タブ画面の「Sonicview 16 / 24」を右クリックし、表示されたポップアップメニュー内の「既定のデバイスとして設定」をクリックします。
このとき、緑のチェックマーク (✓) が選択したデバイスに移動します。



[Windows 10 の場合の画面]

メモ

「再生」タブ画面と同様に「録音」タブ画面もご使用になるデバイスに応じて既定のデバイスを設定してください。

5. 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックします。
6. Windows Media Player を起動し、オーディオファイルの再生を行うと、SonicviewのUSB IN 1 とUSB IN 2 にパソコンからの再生音が入力されます。

メモ

- Windows Media Player を起動した状態で設定を行った場合は、Windows Media Player 側でデバイスの切り換えが認識されません。この場合、Windows Media Player を再起動してください。
- 上記設定／操作を正しく行っても音が出ない場合は、USB ケーブルを抜いてパソコンを再起動してください。
- この設定を行うと本機経由で音は出ますが、パソコンのスピーカーやヘッドホン端子からは音が出なくなります。

ASIO/WDMの同時再生について

本機のドライバーは、DAWなどASIO経由の出力とWindows Media Player などWDM経由の出力の同時再生が可能です。同時再生するには、両方のサンプルレートを同じ設定にする必要があります。また、Windows のサウンドプロパティでは再生側だけでなく、録音側のサンプルレートも同じ設定にしてください。

サンプルレートが一致している場合

例) Windows (WDM) : 48000Hz、ASIO : 48000Hz

Windows オーディオとASIOの音は、ミックスされて同時に再生されます。

サンプルレートが一致していない場合

例) Windows (WDM) : 48000Hz、ASIO : 96000Hz

Windows Media Player などWDM経由の音は出力されず、DAWなどASIO経由の音のみ出力されます。DAWを終了するなどASIO経由の出力がなくなった場合は、Windows Media Player などWDM経由の音が聞こえるようになります。

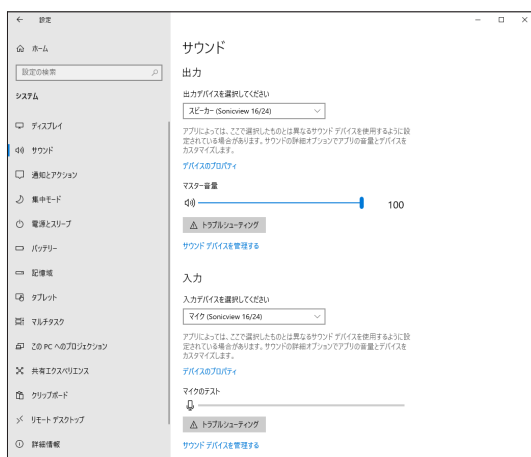
OBS Studioなどの配信用アプリケーションで使用するための設定方法

ここに記載した手順は、配信用アプリケーションを起動する前に行ってください。

パソコンのサウンド設定 (Windows)

パソコンの入出力デバイス、サンプリング周波数、ビットレートおよびチャンネル数を使用する環境に合わせて設定します。

1. パソコンと本機をUSBケーブルで接続します。
2. 「サウンド」の設定画面を開きます。



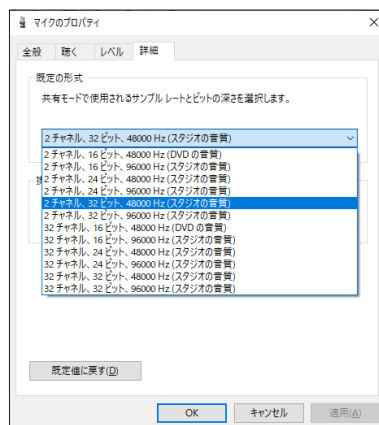
メモ

デスクトップ画面の右下のサウンドアイコンを右クリックし、「サウンドの設定を開く」から「サウンド」を開くことも可能です。

3. 出力デバイス項目を「スピーカー Sonicview 16 / 24」に設定します。
4. 入力デバイス項目を「マイク (Sonicview 16 / 24)」に設定します。
5. 「サウンドコントロール パネル」をクリックし、「サウンド画面」を開きます。
6. 「録音」タブ画面を表示し、「Sonicview 16 / 24」を選択します。



7. 「Sonicview 16 / 24」の「プロパティ」をクリックし、「マイクのプロパティ」画面を開きます。
8. 「詳細」タブ画面を表示し、「既定の形式」を設定します。



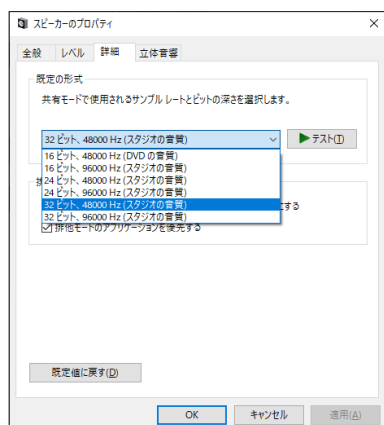
- OBS Studioなどの2チャンネルのオーディオデバイスを対象とするアプリケーションを使用する場合は、2チャンネルの設定を選択します。それ以外の場合は、32チャンネルを選択します。
- 「規定の形式」のサンプルレートは、使用する配信用アプリケーションのサンプルレートに合わせてください。

第 11 章 USB オーディオインターフェース

9. 「再生」タブ画面を表示し、「スピーカー（Sonicview 16 / 24）」を選択します。



10. 「スピーカー（Sonicview 16 / 24）」の「プロパティ」をクリックし、「スピーカーのプロパティ」画面を開きます。
11. 「詳細」タブ画面を表示し、「既定の形式」を設定します。「再生」タブ画面の「既定の形式」の設定は、「録音」タブ画面で設定したサンプルレートとビットの深さに設定してください。



12. 配信アプリケーションを起動し、配信などを行います。
13. 配信終了後、マルチチャンネルを使用するほかのソフトウェアを使用する場合は、設定を「マルチチャンネル」に戻します。
- 手順 7. のマイクのプロパティの設定を「32 チャンネル」の設定にします。

第 12 章 マルチトラックレコーダー

リアパネルの SLOT 1 または SLOT 2 に別売の IF-MTR32（マルチトラックレコーディングカード）を装着することにより、本機でマルチトラックレコーディングができるようになります。

IF-MTR32 は、最大 32 トラック（サンプリングレート：48kHz 時）の録音可能な MTR（マルチトラックレコーダー）です。

録音／再生フォーマットは、以下の通りです。

- ファイルフォーマット：BWF/WAV（録音は BWF のみ）、モノフォニック
- サンプリングレート：48kHz、96kHz
- 量子化ビット数
 - 録音時：24bit、32bit
 - 再生時：16bit*、24bit、32bit

* 量子化ビット数：16bit

MTR 動作モードが LIVE RECORDING MODE または VIRTUAL SOUND CHECK MODE のとき、外部から取り込んだファイルの再生のみ対応します。16bit では録音できません。また、外部から取り込んだファイルが 16bit だった場合、パンチイン／アウトできないため、MTR 動作モードが OVERDUB MODE では選択できません。

MULTI TRACK RECORDER - MENU 画面で設定したサンプリング周波数で録音されます。（→ 307 ページ「② Sampling Rate (Max Tracks) ボタン」）

注意

IF-MTR32 は、同時に 1 枚しか使用できません。
2 枚装着した場合は、SLOT 1 の IF-MTR32 だけが使用できます。
録音可能時間

録音可能時間

書き込みファイル フォーマット	メディア容量			
	64GB	128GB	256GB	512GB
48kHz/24bit/ 32 トラック	3h 49m	7h 41m	15h 23m	30h 49m
48kHz/32bit/ 32 トラック	2h 52m	5h 45m	11h 32m	23h 07m
96kHz/24bit/ 16 トラック	3h 50m	7h 41m	15h 24m	30h 50m
96kHz/32bit/ 16 トラック	2h 52m	5h 46m	11h 33m	23h 08m

- 上記録音時間は目安です。ご使用のメディアにより異なる場合があります。
- 上記録音時間は連続録音時間ではなく、メディアに録音できる時間の合計です。

メモ

録音中に各トラックの録音ファイルサイズが 4GB を超えると、録音は継続されますが、自動で次のテイクに録音されます。

SD カードのフォーマットについて

IF-MTR32 でフォーマットされた SD カードは、録音時の性能向上のために最適化されています。そのため、IF-MTR32 で使用する SD カードは IF-MTR32 でフォーマットを行ってください。（→ 308 ページ「⑥ Format ボタン」）

パソコンなどでフォーマットされた SD カードは、IF-MTR32 での録音時にエラーになる可能性があります。

IF-MTR32 で使用する SD カード

IF-MTR32 にて動作が確認された SD カードのリストが、TASCAM のウェブサイトに掲載されています。

Sonicview 16 / 16dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_16/support

Sonicview 24 / 24dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_24/support

このリストに掲載されている SD カードをご使用ください。

プロジェクトとテイク

この MTR では、1 回の録音ファイルの集まりを「テイク」、録音テイクを含んだフォルダーを「プロジェクト」と呼びます。

MTR 動作モード

この MTR には、以下の 3 つの動作モードがあります。
動作モードは、MULTI TRACK RECORDER 画面の MTR 動作モードボタン（④）をタップして切り換えます。（→ 304 ページ「MTR 動作モードの切り換え」）

LIVE RECORDING MODE

このモードでは、プロジェクト内に 1 テイクずつ連続して録音したり、複数テイクを連続して再生したりすることができます。

VIRTUAL SOUND CHECK MODE

このモードでの MTR とのルーティングは、バーチャルサウンドチェック用のルーティングに限定されます。
録音時は、対象 INPUT モジュールの DIRECT OUT から録音することでバーチャルサウンドチェック用の音源を録音します。
SOUND CHECK ボタンをハイライト状態にすると対象チャンネルの INPUT に MTR の再生出力が立ち上がり、バーチャルサウンドチェックを実行できます。

メモ

このモードでの DIRECT OUT POINT は、「INPUT」に設定されます。

OVERDUB MODE

このモードでの MTR とのルーティングは、INSERT SEND / RETURN に限定されます。
このモードでは、録音済みの 1 つのテイクに対してパンチイン／アウトなどでオーバーダビングすることができます。

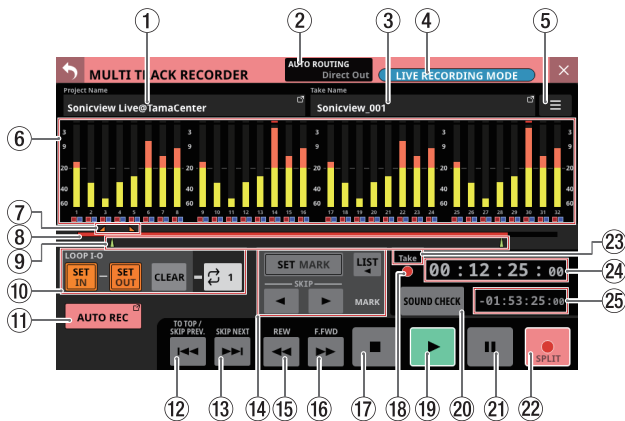
MULTI TRACK RECORDER画面

この画面では、SLOT 1 または SLOT 2 に装着した IF-MTR32（マルチトラックレコーディングカード）の設定や状態表示を行います。この画面は、メニュー画面＞Recorder/Playerメニュー＞「Multi Track Recorder」をタップして表示します。また、SLOT SETUP画面のIF-MTR32 装着スロットに表示された「Recorder/Player: MTR→」をタップして表示することもできます。

メモ

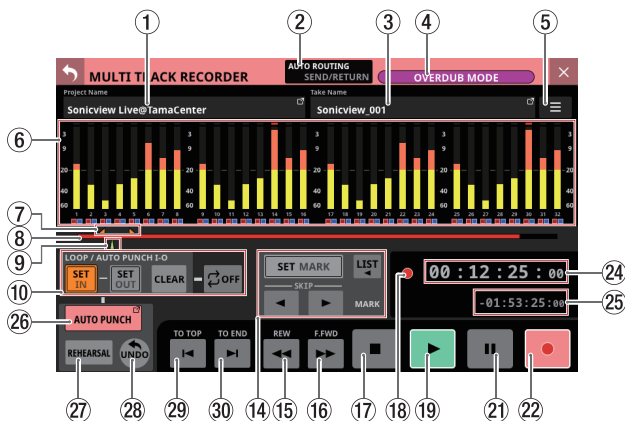
IF-MTR32 が初期化中は、メニュー画面のサブメニュー項目「Multi Track Recorder」がグレーアウトされ、タップしても MULTI TRACK RECORDER画面に切り換えできません。使用できるようになるまで少しお待ちください。

LIVE RECORDING MODE時またはVIRTUAL SOUND CHECK MODE時



[LIVE RECORDING MODE時の画面表示]

OVERDUB MODE時



① Project Name表示

- 現在開いているプロジェクト名が表示されます。
- MTR停止中にこの部分をタップするとプロジェクトリストが表示されたMTRのBROWSE画面に切り換わります。(→ 312 ページ「プロジェクトを選択する」)

② AUTO ROUTING ボタン

MTR停止中にこのボタンをタップすると、AUTO ROUTINGの実行確認メッセージを表示します。(→ 302 ページ「AUTO ROUTINGの実行」)

③ Take Name表示

- 現在開いているテイク名が表示されます。
- MTR停止中にこの部分をタップするとカレントプロジェクト内のテイクリストが表示されたMTRのBROWSE画面に切り換わります。(→ 309 ページ「MULTI TRACK RECORDER - BROWSE画面」)

④ MTR動作モードボタン



- 現在のMTR動作モードを表示します。
 - LIVE RECORDING MODE
 - VIRTUAL SOUND CHECK MODE
 - OVERDUB MODE
- MTR停止中にこのボタンをタップすると、MTR動作モード切り換え表示に切り換わります。(→ 304 ページ「MTR動作モードの切り換え」)

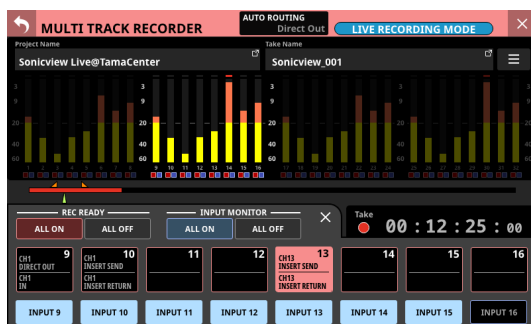
⑤ MTRメニューボタン (≡)

MTR停止中にこのボタンをタップすると、MTR専用のメニュー画面に切り換わります。(→ 307 ページ「MULTI TRACK RECORDER - MENU画面」)

第 12 章 マルチトラックレコーダー

⑥ メーター／REC READY／INPUT MONITOR表示部

- 各トラックのメーター／REC READY／INPUT MONITORの状態を表示します。
- MULTI TRACK RECORDER - MENU画面のSampling Rate (Max Tracks) ボタン (②) の設定が「48kHz/32tracks」の場合は 32 トラック分、「96kHz/16tracks」の場合は 16 トラック分を表示します。(→ 307 ページ「MULTI TRACK RECORDER - MENU画面」)
- 各メーターの最上部は、オーバーロードインジケータです。信号レベルが-0.00026dBFS (16bitフルスケール値) 以上のときに赤くハイライト表示します。
- レベルのオーバーロードが発生すると、バーメーター全体が赤くなります。
- レベルメーター下端の-60dBFS以下のエリアは、-70dBFS以上で点灯します。
- REC READYがオンのとき、メーター下にある  アイコンが赤でハイライト表示 (■) します。
- INPUT MONITORがオンのとき、メーター下にある  アイコンが青でハイライト表示 (■) します。
- このエリアをタップすると、タップした位置のトラックが属する 8 トラック単位の REC READY／INPUT MONITORの設定ウィンドウがメーターの下に表示されます。(→ 305 ページ「REC READY／INPUT MONITORの設定」)



⑦ IN／OUTマークポイント表示エリア

テイク内のINポイント (■)、OUTポイント (■) をタイムプログレスバーの上部に表示します。

⑧ プログレスバー

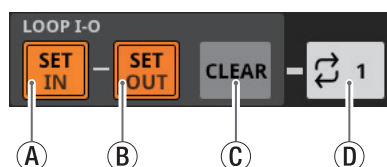
- 録音中は、メディア総容量に対する、使用済み容量の割合を赤いバーで表示します。録音の経過とともに、左から右に赤いバーが伸びていきます。
- 再生中は、再生しているプロジェクトもしくはテイク (時刻表示モードによる) の長さに対する現在の再生済み時間の割合を緑色のバーで表示します。ドラッグすると再生位置を移動します。

⑨ マークポイント表示エリア

テイク内のマークポイント (▲) をプログレスバーの下部に表示します。
時刻表示モードが「PROJECT」のときは、現在再生中のテイクのマークポイントだけが表示されます。

⑩ INポイント／OUTポイント設定エリア

このエリアで、INポイント／OUTポイントの設定、およびリピートモードの設定を行います。



⑪ SET IN ボタン

- タップしたタイミングの録音／再生時刻にINポイントを設定します。INポイントが設定済みのときにタップすると、INポイントを設定し直します。
- MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのとき、I-Oリピートポイントとして使用します。
- MTR動作モードがOVERDUB MODEのとき、I-Oリピートポイントもしくはオートパンチインポイントとして使用します。

⑫ SET OUT ボタン

- タップしたタイミングの録音／再生時刻にOUTポイントを設定します。OUTポイントが設定済みのときにタップすると、OUTポイントを設定し直します。
- MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのとき、I-Oリピートポイントとして使用します。
- MTR動作モードがOVERDUB MODEのとき、I-Oリピートポイントもしくはオートパンチアウトポイントとして使用します。





⑬ CLEAR ボタン

IN／OUTポイントをクリアします。

⑭ リピートモード設定ボタン

リピート再生機能のモードを設定します。

- MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのときは、タップするとOFF → 1 → ALL → I-Oと順番に切り換えます。
- MTR動作モードがOVERDUB MODEのときは、タップするとOFF → 1 → I-Oと順番に切り換えます。ただし、AUTO PUNCHボタンの設定が「ON」の場合は、リピート再生できません。

リピートモード	動作
	リピート再生しません。
	現在選択されているテイク全体をリピート再生します。
	プロジェクト全体をリピート再生します。 MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのときに選択できます。
	INポイントとOUTポイントの間をリピート再生します。

メモ

- インポイントとアウトポイントの間は、200ms以上開けてください。間隔が200ms未満の場合は、以下のメッセージが表示され、後から設定しようとしたポイントは設定されません。

Invalid I/O. Interval too short.

- アウトポイントをインポイントより前に設定しようとした場合、またはインポイントをアウトポイントより後ろに設定しようとした場合、以下のメッセージが表示され、後から設定しようとしたポイントは設定されません。インポイントがアウトポイントの前方になるように設定してください。

Invalid I/O. Please set IN and OUT in order.

- リピートモードがALLに設定された状態でMTR動作モードをOVERDUB MODEに切り換えた際は、リピートモードは自動的にOFFに切り換わります。

⑪ AUTO REC ボタン／インジケーター

MTR停止中にこのボタンをタップすると、オートレック設定をするMULTI TRACK RECORDER - MENU画面に切り換わります。また、オートレックがONのとき、薄い赤でハイライト表示します。

⑫ ◀◀ (TO TOP/SKIP PREV.) ボタン

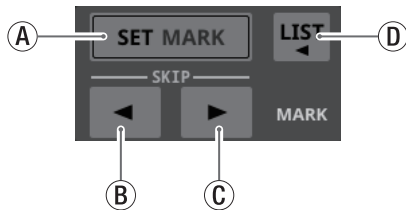
- 再生中／再生一時停止中にタップすると、カレントテイクの先頭に戻ります。
- テイクの先頭で停止しているときにタップすると、手前のテイクにスキップします。
- 押している間、ボタンが白くハイライト表示になります。

⑬ ▶▶ (SKIP NEXT) ボタン

- 停止中／再生中／再生一時停止中にタップすると、次のテイクにスキップします。
- 押している間、ボタンが白くハイライト表示になります。

⑭ MARK設定エリア

このエリアで、マーク機能の設定を行います。



① SET MARK ボタン

現在の録音／再生時刻にマークポイントを設定します。

② ◀ MARK SKIP ボタン

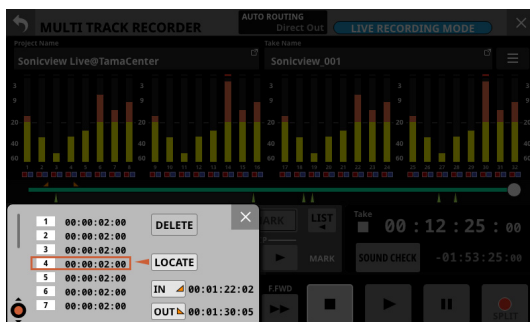
現在の再生位置より前にあるマーク位置に移動します。

③ ▶ MARK SKIP ボタン

現在の再生位置より後ろにあるマーク位置に移動します。

④ LIST ボタン

このボタンをタップすると、マークリスト情報を表示するウィンドウを表示します。



詳細については、322 ページ「マーク機能」をご参照ください。

⑮ ◀◀ (REW) ボタン

- 停止中／再生中／再生一時停止中にこのボタンをタップすると早戻しを開始し、押し続けるとその間早戻しを行います。
- 早戻し中にこのボタンをタップすると、早戻し前の状態に戻ります。
- 早戻し中は、ボタンが白くハイライト表示になります。

⑯ ▶▶ (F.FWD) ボタン

- 停止中／再生中／再生一時停止中にこのボタンをタップすると早送りを開始し、押し続けるとその間早送りをを行います。
- 早送り中にこのボタンをタップすると、早送り前の状態に戻ります。
- 早送り中は、ボタンが白くハイライト表示になります。

⑰ ■ ボタン

- 録音中／再生中にタップすると、録音／再生を停止します。
- 停止中は、ボタンが白くハイライト表示になります。

⑱ トランスポート状態表示

MTRの動作状態をアイコン表示します。

アイコン表示	動作状態
■	停止中
▶	再生中
◀◀	早戻し中
▶▶	早送り中
●	録音中

⑲ ▶ ボタン

- 停止中／再生一時停止中にタップすると、再生を開始します。
- 録音一時停止中にタップすると、録音を再開します。
- 録音中／再生中は、ボタンが緑色にハイライト表示になります。

第 12 章 マルチトラックレコーダー

②0 SOUND CHECK ボタン

- MTR停止中にこのボタンをタップして、録音用のルーティングとサウンドチェック（MTR再生）用のルーティングを切り換えます。

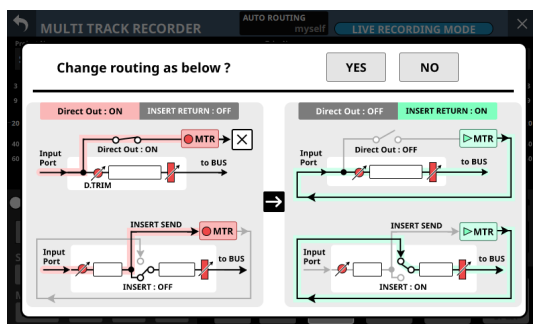
ボタン表示	ルーティング状態
SOUND CHECK	録音用のルーティング
SOUND CHECK	再生用のルーティング

メモ

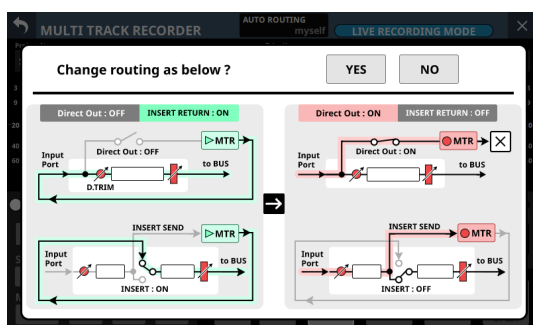
- SOUND CHECK ボタンがオンのときは録音できません。
- SOUND CHECK を切り換える際は、MTR を停止状態にしておく必要があります。MTR が動作中に SOUND CHECK を切り換えようとすると、以下のメッセージが表示されます。

To change, the MTR must be stopped.

- このボタンをタップすると、ルーティング切り換えの確認メッセージを表示します。



[SOUND CHECK ボタンをオンに切り換えときの確認メッセージ例]



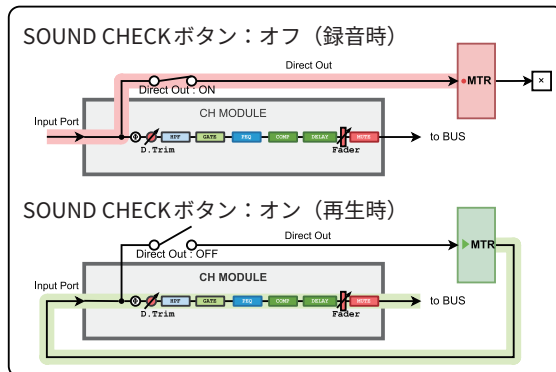
[SOUND CHECK ボタンをオフに切り換えときの確認メッセージ例]

- 確認メッセージの YES ボタンをタップすると、ルーティングとボタン表示を切り換えます。
- NO ボタンをタップすると、ルーティングとボタン表示を切り換えずにメッセージを閉じます。

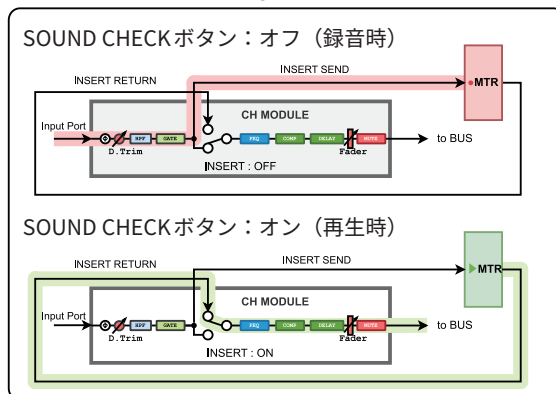
メモ

MODULE (INPUT) 画面や INPUT SOURCE SELECT 画面などにあるルーティング設定変更操作のロック／アンロック設定がロック状態であっても、SOUND CHECK ボタンのオン／オフ切り換えでルーティングを変更することができます。

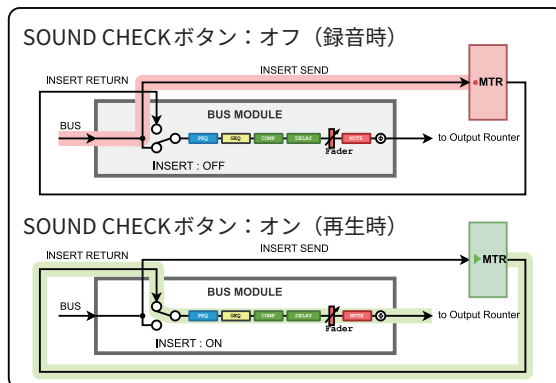
CH DIRECT OUT 使用時の MTR ルーティング (DIRECT OUT POINT = INPUT 時)



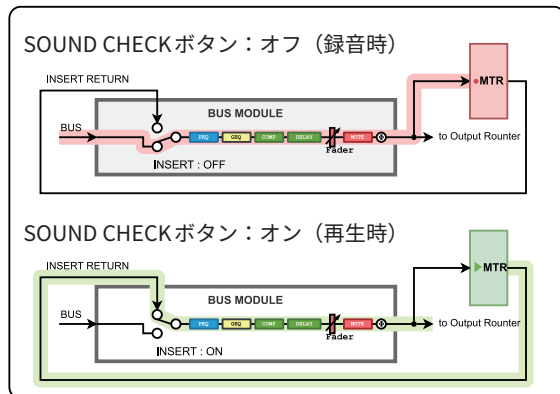
CH INSERT SEND / RETURN 使用時の MTR ルーティング (INSERT POINT = PRE EQ 時)



BUS INSERT SEND / RETURN 使用時の MTR ルーティング



BUS OUT使用時のMTRルーティング



- DIRECT OUT POINTの設定が「POST HPF」のときのDIRECT OUTを録音時*
録音時にPhase / D.Trim / HPFが有効な場合、サウンドチェック（再生）時にPhase / D.Trim / HPFを再度経由しますのでご注意ください。
- DIRECT OUT POINTの設定が「POST FADER」のときのDIRECT OUTを録音時*
録音時にPhase / D.Trim / HPF / GATE / EQ / COMP / DELAYが有効な場合、サウンドチェック（再生）時にPhase / D.Trim / HPF / GATE / EQ / COMP / DELAYを再度経由しますのでご注意ください。
* DIRECT OUT POINTの設定が「INPUT」の場合、上記のような問題は発生しません。
- BUS Output Portを録音時
BUS Output Portを録音時にEQ / GEQ / COMP / DELAY / Phaseが有効な場合、サウンドチェック（再生）時にEQ / GEQ / COMP / DELAY / Phaseを再度経由しますのでご注意ください。
BUSモジュールでこれらの信号処理を録音時と再生時の2回経由しないようにするには、BUSモジュールからMTRへのルーティングを「Insert Send」に設定してください。

②1 ボタン

- 停止中／再生中にタップすると、再生一時停止状態になります。
- MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのとき、録音中にタップすると、録音一時停止状態になります。
- MTR動作モードがOVERDUB MODEのときは、録音中には使用できません。
- 録音一時停止中や再生一時停止中は、ボタンが白くハイライト表示になります。

②2 ボタン

- REC READYが1つ以上オン状態で停止中にタップすると、録音一時停止状態になります。
- MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのとき、録音中にタップすると録音は継続したままですが、現在のテイクへの録音を停止し、新しいテイクへの録音を継続します（テイクスプリット動作）。
- MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのとき、録音一時停止中にタップすると、新しいテイクへの録音一時状態になります。
- MTR動作モードがOVERDUB MODEのとき、REC READYが1つ以上オン状態で再生中にタップすると、パンチイン録音を開始します。
- 録音中または録音一時停止中は、ボタンが薄い赤でハイライト表示になります。

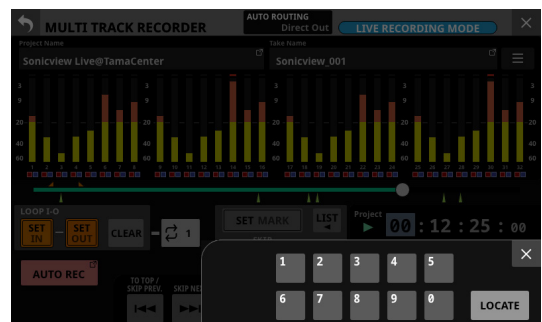
②3 タイムカウンター表示モード

- 現在のタイムカウンター表示モードを表示します。
- このエリアをタップすると、表示モードが切り換わります。

表示モード	表示内容
TAKE	テイク先頭からの経過時間・テイク末尾までの残り時間を表示します。
PROJECT	プロジェクト先頭からの経過時間・プロジェクト末尾までの残り時間を表示します。

②4 経過時間タイムカウンター表示部

- 録音／再生の経過時間を「時:分:秒:1/100 秒」のフォーマットで表示します。
- カウンターをタップするとロケート時刻入力モードに切り換わり、下に数字入力ボタンとLOCATEボタンが表示されます。LOCATEボタンをタップすると、その時点で入力された時刻にロケートします。
- ロケート時刻入力部右上の×ボタンをタップすると、ロケート時刻入力部を閉じます。



第 12 章 マルチトラックレコーダー

②5 残り時間タイムカウンター表示

- MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのとき
 - 再生中は、選択された表示モード（テイク・プロジェクト）の末尾までの再生残り時間を「時：分：秒:1/100 秒」のフォーマットで表示します。
 - 録音中は、録音可能な残り時間を表示します。
- MTR動作モードがOVERDUB MODEのとき
 - 録音可能な残り時間を表示します。

②6 AUTO PUNCH ボタン／インジケーター

このボタンをタップすると、オートパンチン／アウト機能の動作を設定するMULTI TRACK RECORDER - MENU画面に切り換わります。（→ 318 ページ「オートパンチン／アウト機能」）ONのとき、薄い赤でハイライト表示します。

②7 REHEARSAL ボタン

- このボタンをタップして、オートパンチン／アウトのリハーサル機能のオン／オフを切り換えます。（→ 319 ページ「パンチン／アウトをリハーサルする」）
- リハーサル機能がオンのとき、点滅表示します。
- このボタンはオートパンチン／アウト機能が「ON」に設定されているときのみ有効になります。

②8 UNDO ボタン／REDO ボタン

- MTR停止中にこのボタンがハイライト表示されているときにタップすると、UNDOまたはREDOを実行します。UNDOができるときはUNDOボタンを表示します。実行されたUNDOがあるとREDOボタンを表示します。
- グレーアウト表示されているときは、UNDO／REDOは実行できません。

②9 ◀ (TO TOP) ボタン

- 停止中／再生中／再生一時停止中にタップすると、テイクの先頭に戻ります。
- 押している間、ボタンが白くハイライト表示になります。

③0 ▶ (TO END) ボタン

- 停止中／再生中／再生一時停止中にタップすると、テイクの末尾にスキップします。
- 押している間、ボタンが白くハイライト表示になります。

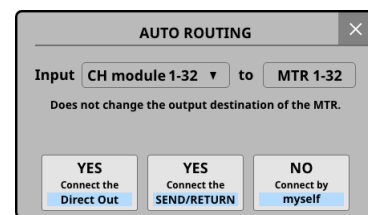
AUTO ROUTINGの実行

AUTO ROUTINGを実行するには、MULTI TRACK RECORDER画面上部のAUTO ROUTING ボタン (②) をタップします。以下のAUTO ROUTINGの実行確認メッセージが表示されます。

メモ

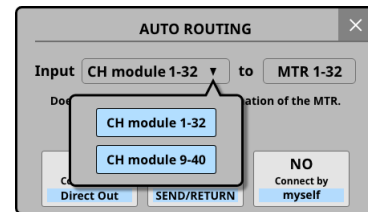
- SOUND CHECK ボタンがオン（再生用のルーティング）の状態では、AUTO ROUTINGを実行できません。AUTO ROUTINGを実行するには、SOUND CHECK ボタンをオフに切り換えてください。
- MODULE (INPUT) 画面やINPUT SOURCE SELECT画面などにあるルーティング設定変更操作のロック／アンロック設定がロック状態であっても、AUTO ROUTINGでルーティングを変更することができます。

LIVE RECORDING MODE時



最初に「CH module 1-32」もしくは「CH module 9-40」のいずれかを選択します。

MULTI TRACK RECORDER - MENU画面のSampling Rate (Max Tracks) ボタンの設定が「96kHz/16tracks」の場合は、「CH module 1-16」もしくは「CH module 25-40」のいずれかを選択します。



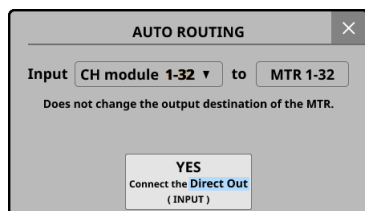
- YES Connect the Direct Out ボタンをタップすると、選択したCHモジュール群のDIRECT OUTが、IF-MTR32 を装着したスロットの「1-32」にルーティングされます。MULTI TRACK RECORDER - MENU画面のSampling Rate (Max Tracks) ボタンの設定が「96kHz/16tracks」の場合は、スロットの「1-16」にルーティングされます。

- YES Connect the SEND/RETURN ボタンをタップすると、選択したCHモジュール群のINSERT SEND / RETURNが、IF-MTR32を装着したスロットの「1-32」にルーティングされます。MULTI TRACK RECORDER - MENU画面のSampling Rate (Max Tracks) ボタンの設定が「96kHz/16tracks」の場合は、スロットの「1-16」にルーティングされます。この際、INSERT POINTの設定に合わせて、CHモジュール群のMETERING POINTを以下のように自動的に切り換えます。

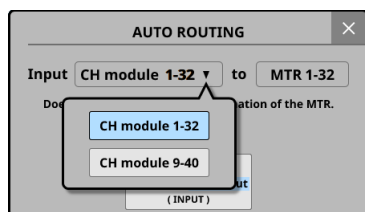
選択したCHモジュール群のINSERT POINT設定	CHモジュール群のMETERING POINT
すべて PRE EQ	PRE EQ
すべて PRE FADER	PRE FADER
PRE EQおよびPRE FADERが混在	PRE FADER

- NO Connect by myself ボタンをタップすると、現状のルーティング設定を維持しますので、ご自身で必要なルーティングを行ってください。
- ✕ ボタンをタップすると、ルーティング設定を変更せずにメッセージを閉じます。

VIRTUAL SOUND CHECK MODE時

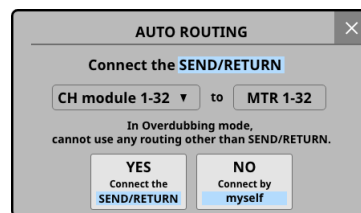


最初に「CH module 1-32」もしくは「CH module 9-40」のいずれかを選択します。MULTI TRACK RECORDER - MENU画面のSampling Rate (Max Tracks) ボタンの設定が「96kHz/16tracks」の場合は、「CH module 1-16」もしくは「CH module 25-40」のいずれかを選択します。



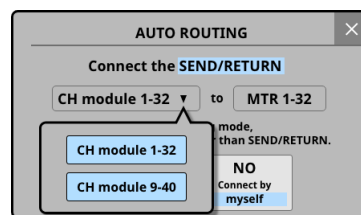
- YES Connect the Direct Out (INPUT) ボタンをタップすると、選択したCHモジュール群のDIRECT OUT POINTの設定を「INPUT」に設定されたDIRECT OUTが、IF-MTR32を装着したスロットの「1-32」にルーティングされます。MULTI TRACK RECORDER - MENU画面のSampling Rate (Max Tracks) ボタンの設定が「96kHz/16tracks」の場合は、スロットの「1-16」にルーティングされます。
- ✕ ボタンをタップすると、ルーティング設定を変更せずにメッセージを閉じます。

OVERDUB MODE時



最初に「CH module 1-32」もしくは「CH module 9-40」のいずれかを選択します。

MULTI TRACK RECORDER - MENU画面のSampling Rate (Max Tracks) ボタンの設定が「96kHz/16tracks」の場合は、「CH module 1-16」もしくは「CH module 25-40」のいずれかを選択します。



- YES Connect the SEND/RETURN ボタンをタップすると、選択したCHモジュール群のINSERT SEND / RETURNが、IF-MTR32を装着したスロットの「1-32」にルーティングされます。MULTI TRACK RECORDER - MENU画面のSampling Rate (Max Tracks) ボタンの設定が「96kHz/16tracks」の場合は、スロットの「1-16」にルーティングされます。この際、INSERT POINTの設定に合わせて、CHモジュール群のMETERING POINTを以下のように自動的に切り換えます。

選択したCHモジュール群のINSERT POINT設定	CHモジュール群のMETERING POINT
すべて PRE EQ	PRE EQ
すべて PRE FADER	PRE FADER
PRE EQおよびPRE FADERが混在	PRE FADER

- NO Connect by myself ボタンをタップすると、現状のルーティング設定を維持しますので、ご自身で必要なルーティングを行ってください。
- ✕ ボタンをタップすると、ルーティング設定を変更せずにメッセージを閉じます。

メモ

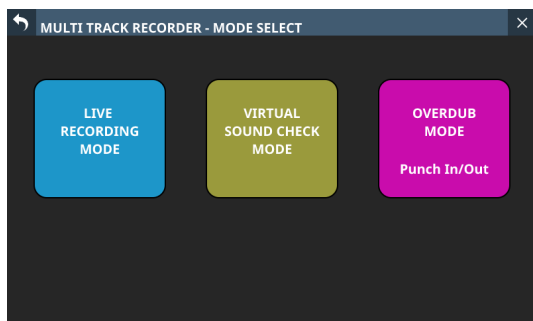
MTR動作モードがOVERDUB MODEでのミキサーとMTRとのルーティングは、必ず「Insert Send/Return」を使うようにしてください。これ以外のルーティング設定の場合、正常なパンチイン/アウト録音ができなくなります。

第 12 章 マルチトラックレコーダー

MTR動作モードの切り換え

3 種類ある MTR 動作モードを切り換えるには、MTR 停止中に MULTI TRACK RECORDER 画面上部の MTR 動作モードボタン (④) をタップします。

MTR 動作モード切り換え表示に切り換わります。



いずれかの動作モードボタンをタップすると、タップした動作モードに切り換わり、AUTO ROUTING の実行確認メッセージを表示します。(→ 302 ページ「AUTO ROUTING の実行」)
左上の ボタンをタップすると、MTR 動作モードを切り換えずに元の画面に戻ります。

メモ

- MTR 動作モードを切り換える際は、MTR を停止状態にしておく必要があります。MTR が動作中に MTR 動作モードを切り換えようとすると、以下のメッセージが表示されます。

To change, the MTR must be stopped.

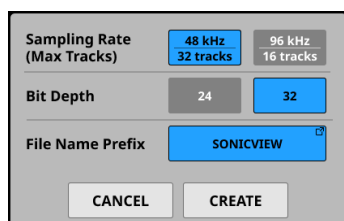
- MTR 動作モードを切り換える際は、SOUND CHECK を「OFF」にしておく必要があります。SOUND CHECK が「ON」の状態では MTR 動作モードを切り換えようとすると、以下のメッセージが表示されます。

To change, SOUND CHECK must be OFF.

- OVERDUB MODE で録音するには、1 つ以上のテイクが必要です。そのため、カレントプロジェクトにテイクが 1 つもない状態で OVERDUB MODE に切り換えると、下記確認メッセージが表示されます。



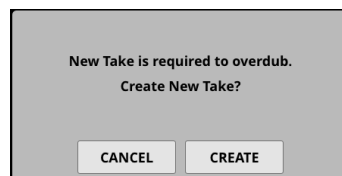
- CREATE ボタンをタップすると、下記確認メッセージが表示されます。



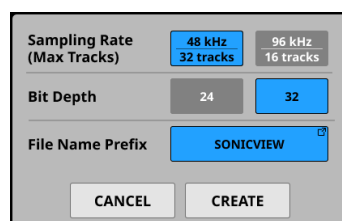
- Sampling Rate、Bit Depth、File Name Prefix を設定します。
- CREATE ボタンをタップすると、テイクが作成されます。CANCEL ボタンをタップすると、テイクを作成せずに MULTI TRACK RECORDER 画面に切り換わります。

- 上記いずれかの確認メッセージで CANCEL ボタンをタップしてテイクを作成していない場合

- MULTI TRACK RECORDER 画面に切り換える、または MULTI TRACK RECORDER 画面の ● ボタンをタップして録音を開始しようとすると、下記メッセージが表示されます。

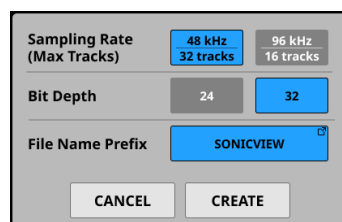


- CREATE ボタンをタップすると、下記確認メッセージが表示されます。



Sampling Rate、Bit Depth、File Name Prefix を設定して CREATE ボタンをタップすると、テイクが作成された上で録音一時停止状態になります。

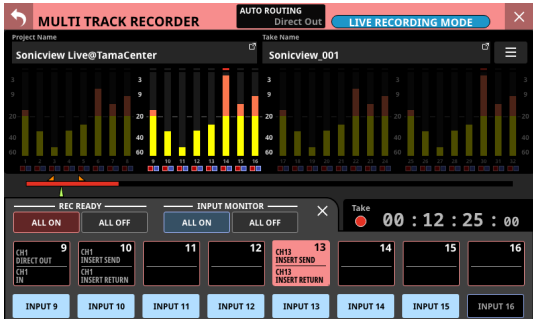
- 上記いずれかの確認メッセージで CANCEL ボタンをタップすると、停止状態に戻ります。
- MTR の BROWSE 画面のテイクリスト画面右上にある ボタンをタップすると、下記確認メッセージが表示されます。



- Sampling Rate、Bit Depth、File Name Prefix を設定して CREATE ボタンをタップすると、テイクが作成されます。
- CANCEL ボタンをタップすると、テイクを作成せずに確認メッセージを閉じます。

REC READY / INPUT MONITORの設定

MULTI TRACK RECORDER画面のメーター／REC READY / INPUT MONITOR表示部 (⑥) をタップすると、タップした位置のトラックが属する 8 トラック 単位の REC READY / INPUT MONITORの設定ウィンドウがメーターの下に表示されます。



- 上段が選択した 8 トラックの REC READY設定ボタン、下段が選択した 8 トラックの INPUT MONITOR設定ボタンです。
- ボタンをタップするとオン／オフを切り換えます。
- REC READY設定ボタンには、そのトラックのルーティング設定を以下のように表示します。
 - 上段：トラックへの入力信号
 - 下段：トラック信号の出力先
- REC READY / INPUT MONITORの設定ウィンドウ右上の ✕ ボタンをタップすると、設定ウィンドウを閉じて通常の MULTI TRACK RECORDER画面に戻ります。
- INPUT MONITORが「オン」の場合、MTRの走行状態や REC READYのオン／オフ状態にかかわらず、MTRへの入力音をそのまま MTRから出力します。

- REC READYが「オン」の場合
 - 停止中または録音中は、MTRへの入力音をそのまま MTRから出力します。
 - 再生中は、MTRの再生音を MTRから出力します。
- REC READYの ALL ON ボタン / ALL OFF ボタンをタップすると、全トラックのオン／オフを切り換えます。
ALL ON ボタン / ALL OFF ボタンに REC READYの設定状態を表示します。

REC READYの設定状態	ALL ON ボタンの表示	ALL OFF ボタンの表示
全トラックがオンの場合	ALL ON	ALL OFF
全トラックがオフの場合	ALL ON	ALL OFF
オン／オフ混在の場合	ALL ON	ALL OFF

- INPUT MONITORの ALL ON ボタン / ALL OFF ボタンをタップすると、全トラックのオン／オフを切り換えます。
ALL ON ボタン / ALL OFF ボタンに INPUT MONITORの設定状態を表示します。

INPUT MONITORの設定状態	ALL ON ボタンの表示	ALL OFF ボタンの表示
全トラックがオンの場合	ALL ON	ALL OFF
全トラックがオフの場合	ALL ON	ALL OFF
オン／オフ混在の場合	ALL ON	ALL OFF

第 12 章 マルチトラックレコーダー

REC READY / INPUT MONITORの設定ごとのMTR出力

LIVE RECORDING MODE時 / VIRTUAL SOUND CHECK MODE時


	REC READY			
	<input type="checkbox"/> オフ	<input checked="" type="checkbox"/> オン	<input type="checkbox"/> オフ	<input checked="" type="checkbox"/> オン
	INPUT MONITOR			
	<input type="checkbox"/> オフ	<input type="checkbox"/> オフ	<input checked="" type="checkbox"/> オン	<input checked="" type="checkbox"/> オン
停止中	MTR出力なし	MTRへの入力音をMTRから出力	MTRへの入力音をMTRから出力	
再生 / 再生一時停止中	MTRの再生音をMTRから出力	MTRの再生音をMTRから出力		
録音 / 録音一時停止中	MTR出力なし	MTRへの入力音をMTRから出力		

OVERDUB MODE時

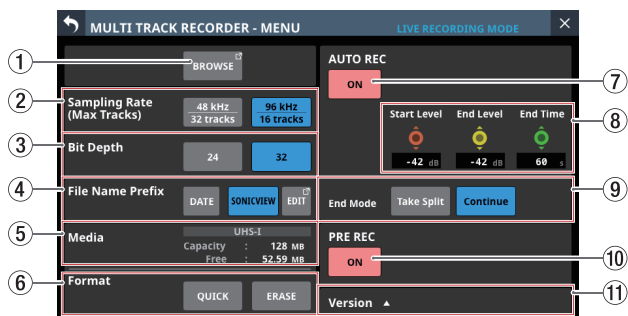
	REC READY			
	<input type="checkbox"/> オフ	<input checked="" type="checkbox"/> オン	<input type="checkbox"/> オフ	<input checked="" type="checkbox"/> オン
	INPUT MONITOR			
	<input type="checkbox"/> オフ	<input type="checkbox"/> オフ	<input checked="" type="checkbox"/> オン	<input checked="" type="checkbox"/> オン
停止中	MTR出力なし	MTRへの入力音をMTRから出力	MTRへの入力音をMTRから出力	
再生 / 再生一時停止中	MTRの再生音をMTRから出力	MTRの再生音をMTRから出力		
録音 / 録音一時停止中	MTRの再生音をMTRから出力	MTRへの入力音をMTRから出力		

黄色セル：LIVE RECORDING MODE / VIRTUAL SOUND CHECK MODE / OVERDUB MODEで違う状態となる設定の組み合わせ項目

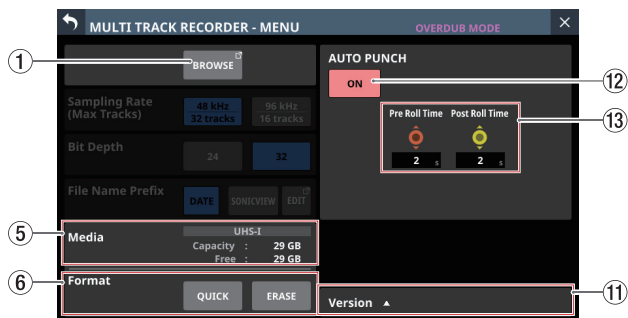
MULTI TRACK RECORDER - MENU画面

この画面では、SLOT 1 または SLOT 2 に装着した IF-MTR32（マルチトラックレコーディングカード）の各種設定を行います。
この画面は、メニュー画面＞Recorder/Playerメニュー＞「Multi Track Recorder」をタップして表示した MULTI TRACK RECORDER 画面右上の  ボタンを MTR停止中にタップして表示します。

LIVE RECORDING MODE時の MTR-MENU画面



OVERDUB MODE時の MTR-MENU画面



① BROWSE ボタン

このボタンをタップすると、MTRのBROWSE画面に切り換わります。（→ 309 ページ「MULTI TRACK RECORDER - BROWSE画面」）

② Sampling Rate (Max Tracks) ボタン

MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEとVIRTUAL SOUND CHECK MODEでの録音時のサンプリング周波数および最大トラック数を設定します。

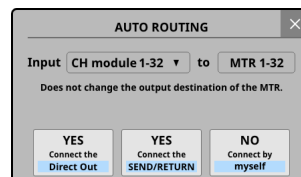
選択したボタンが水色のハイライト表示になります。

選択肢：48kHz/32tracks（初期値）、96kHz/16tracks

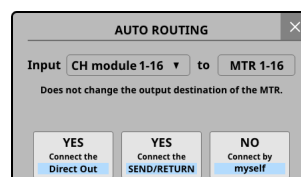
メモ

IF-MTR32 を装着した Sonicview の Sync Clock と異なる サンプリング周波数に設定することもできます。

設定を切り換えると、録音／再生可能トラック数が変わるため、以下のようなルーティング変更の確認メッセージを表示します。



[48kHz/32tracksへの切り換え時の確認メッセージ]



[96kHz/16tracksへの切り換え時の確認メッセージ]

③ Bit Depth ボタン

MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEとVIRTUAL SOUND CHECK MODEでの録音時の量子化ビット数を設定します。
選択したボタンが水色のハイライト表示になります。

選択肢：24 ビット、32 ビット（初期値）

④ File Name Prefix ボタン

MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEとVIRTUAL SOUND CHECK MODEでの録音ファイル名先頭文字列を設定します。
選択したボタンが水色のハイライト表示になります。

選択肢	内容
DATE（初期値）	YYMMDD形式の録音開始時の年月日を録音ファイル名にします。
Edit Name	ユーザーが設定したファイル名（初期値：SONICVIEW）を録音ファイル名にします。ボタンには設定した名前が表示されます。右側にあるEDITボタンをタップすると、ユーザー設定ファイル名を編集するEdit Name画面に切り換わります。

⑤ Media状態表示

IF-MTR32 に装着されたSDカードの状態を表示します。

表示	説明
UHS-I	UHS-I対応カードの場合、このエリアがハイライト表示します。
Capacity	SDカードの総容量を表示します。
Free	SDカードの空き容量を表示します。

第12章 マルチトラックレコーダー

⑥ Format ボタン

IF-MTR32 に装着されたSDカードをフォーマットします。
IF-MTR32 ではじめて使用するSDカードをフォーマットするとき、ERASEフォーマットを推奨します。

- QUICKボタンをタップすると、メディアの管理領域のみを初期化します。
- ERASEボタンをタップすると、ERASEフォーマットを実施します。

注意

フォーマットするとSDカードのすべてのデータが消去されます。データをパソコンにバックアップしてからフォーマットを実行してください。

メモ

- ERASEフォーマットは、QUICKフォーマットと比べて時間がかかります。時間に余裕を持って実施することをお勧めします。
- フラッシュメモリーを使ったSDカードのようなストレージメディアは、書き込みを繰り返すことで書き込み速度が低下する傾向があります。書き込み速度が低下すると、録音に悪影響を及ぼす可能性があります。
本機の「ERASEフォーマット」を実行すると、SDカードの書き込み速度が回復します。*
そのため、下記タイミングでERASEフォーマットを実行することをお勧めします。
 - 録音中に下記メッセージが表示された場合

MTR Recording Error. Buffer overflow.

- メディア残量がなくなるまで書き込んだ場合
- 定期的（1ヶ月程度）
- 大事な録音の前

* SDカードの状態（故障・寿命など）により、書き込み速度が回復しない場合もあります。

⑦ AUTO REC ボタン

このボタンをタップして、オートレック機能のON / OFFを切り換えます。（初期値：OFF）
ONのとき、ボタンが赤くハイライト表示になります。
詳細については、316 ページ「オートレック機能」をご参照ください。

⑧ オートレック機能設定ノブ

オートレック機能の動作レベルおよび動作時間を設定します。

- Start Level ノブ
オートレックを開始する録音レベル設定です。
赤く点灯したLCDノブ6を使って設定します。（→ 316 ページ「オートレック機能」）
選択肢：OFF*、-72dBFS ～ -24dBFS
（6dBFS刻み、初期値：-42dBFS）
* 「OFF」を選択した場合は、MULTI TRACK RECORDER画面の ● ボタンをタップして録音を開始します。
- End Level ノブ
オートレックを終了する録音レベル設定です。
黄色で点灯したLCDノブ7を使って設定します。（→ 316 ページ「オートレック機能」）
選択肢：OFF*、-72dBFS ～ -24dBFS
（6dBFS刻み、初期値：-42dBFS）
* 「OFF」を選択した場合は、MULTI TRACK RECORDER画面の ■ ボタンを押して録音を終了します。

● End Time ノブ

録音レベルが終了レベルを下回ってからオートレックを終了するまでの時間の設定です。
緑色で点灯したLCDノブ8を使って設定します。（→ 316 ページ「オートレック機能」）
時間が経過する前に録音レベルが終了レベルを上回った場合は、録音を継続します。

設定範囲：1 ～ 60 秒（初期値：5 秒）

⑨ End Mode ボタン

このボタンをタップして、オートレックが始まったあと、録音レベルが終了レベルを下回ってからEnd Timeが経過したあとの動作を設定します。（→ 316 ページ「オートレック機能」）

選択肢	内容
Take Split（初期値）	次のファイルで録音を待機
Continue	同じファイルで録音を待機

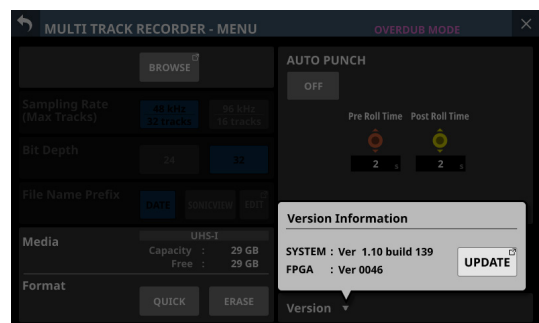
選択したボタンが水色のハイライト表示になります。

⑩ PRE REC ボタン

このボタンをタップして、プリレック機能のON / OFFを切り換えます。（初期値：OFF）
ONのとき、ボタンが赤くハイライト表示になります。
詳細については、317 ページ「プリレック機能」をご参照ください。

⑪ Version ボタン

このボタンをタップすると、IF-MTR32 のファームウェアバージョン情報のウィンドウを表示します。



ウィンドウ内のUPDATEボタンをタップすると、IF-MTR32 を装着したスロットのFirmware Update画面に切り換わります。

⑫ AUTO PUNCH ボタン

このボタンをタップして、オートパンチイン／アウト機能のON / OFFを切り換えます。（初期値：OFF）
ONのとき、ボタンが赤くハイライト表示になります。
詳細については、318 ページ「オートパンチイン／アウト機能」をご参照ください。

⑬ オートパンチイン／アウト機能の動作設定ノブ

オートパンチイン／アウト機能の動作時間を設定します。（→ 318 ページ「オートパンチイン／アウト機能」）

● Pre Roll Time ノブ

オートパンチイン時のプリロールタイム設定です。
赤く点灯したLCDノブ6を使って設定します。

設定範囲：0sec ～ 10sec（初期値：2sec）

● Post Roll Time ノブ

オートパンチアウト時のポストロールタイム設定です。
黄色で点灯したLCDノブ7を使って設定します。

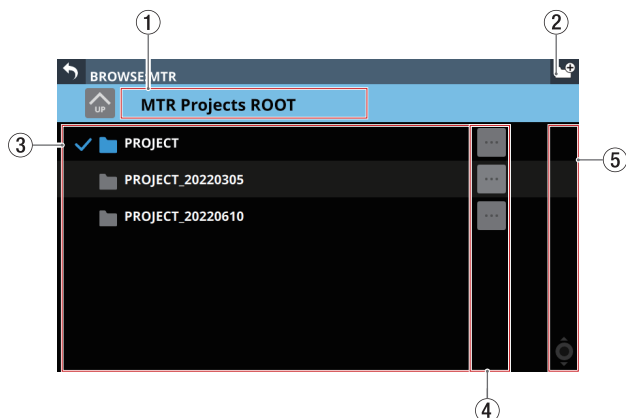
設定範囲：0sec ～ 10sec（初期値：2sec）

MULTI TRACK RECORDER - BROWSE画面

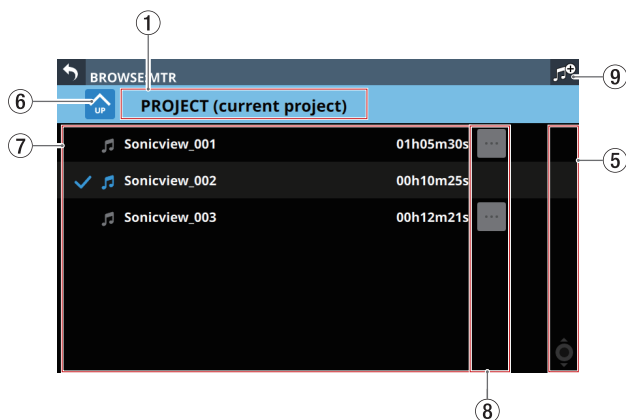
この画面では、SLOT 1 または SLOT 2 に装着した IF-MTR32（マルチトラックレコーディングカード）に装着された SD カード内のフォルダーやファイルの選択を行います。

この画面は、メニュー画面 > Recorder/Player メニュー > 「Multi Track Recorder」をタップして表示した MULTI TRACK RECORDER 画面のプロジェクト名・テイク名をタップして表示します。また、MULTI TRACK RECORDER - MENU 画面の BROWSE ボタンをタップして表示することもできます。

MTRの BROWSE画面プロジェクトリスト表示



MTRの BROWSE画面テイクリスト表示



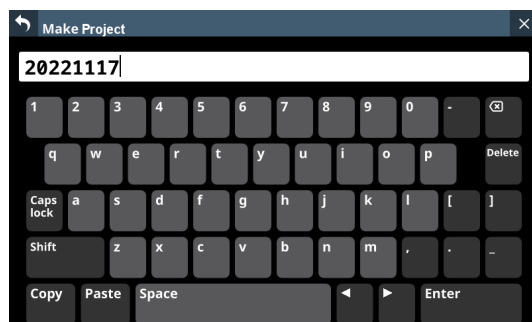
① 階層名表示

- 現在表示中の階層のアイコンおよび階層名を表示します。
- プロジェクトリスト表示では、「MTR Projects Root」と表示します。
- テイクリスト表示では、現在表示しているプロジェクト名を表示します。カレントプロジェクトを表示している場合、末尾に（current project）と表示します。

② ㊦ ボタン

SD カードのルート階層に新しいプロジェクトフォルダーを作るためのボタンです。

このボタンをタップすると、作成するフォルダー名を入力する画面に切り換わります。



Make Project 画面のキーボードの Caps lock ボタンと Shift ボタンの設定状態によって、入力できる文字の組み合わせを変更することができます。キーボードの変更方法については、230 ページ「キーボードの変更方法」をご参照ください。

③ プロジェクトリスト表示

- SD カードのルート階層に存在するプロジェクトフォルダー名を名前順に表示します。
- この部分をタップすると、タップしたプロジェクトがカレントプロジェクトとして選択されます。
- カレントプロジェクト名には、チェックマーク（✓）が表示されます。

④ プロジェクトメニューボタン（㊦）

このボタンをタップすると、ボタン左側のプロジェクトフォルダーの下記操作を行うメニューウィンドウを表示します。

操作メニュー	内容
Open	タップした ㊦ ボタン左側のプロジェクトフォルダーをカレントプロジェクトとして選択し、テイクリスト表示に切り換わります。
Rename	タップした ㊦ ボタン左側のプロジェクトフォルダーの名前を変更する画面に切り換わります。
Delete	タップした ㊦ ボタン左側のプロジェクトフォルダーを削除します。

メモ

- 録音中／再生中は、操作できません。
- カレントプロジェクトの「Rename」と「Delete」は、実施できません。


第12章 マルチトラックレコーダー

⑤ スクロールバー

フォルダーやファイルの数が画面内に表示しきれない場合に表示します。

スクロールバー表示をドラッグすることで画面がスクロールします。また、プロジェクトリスト／テイクリストを上下にスワイプする、またはLCDノブ8を回してプロジェクトリスト／テイクリストをスクロールします。

⑥ 階層移動ボタン

 ボタンをタップすると、表示中のフォルダーの階層を1つ上げられます。

メモ

階層が「MTR Projects Root」（一番上の階層）のときは、グレイアウト表示になります。

⑦ テイクリスト表示

現在表示中のプロジェクトフォルダーに存在するテイク名とテイクの長さをテイク名順に表示します。また、この部分をタップすると、タップしたテイクがカレントテイクとして選択され、チェックマーク（✓）が表示されます。

⑧ テイクメニューボタン（）

このボタンをタップすると、ボタン左側のテイクの下記操作を行うメニューウィンドウを表示します。

操作メニュー	内容
Open	タップした  ボタン左側のテイクを選択し、MULTI TRACK RECORDER画面に戻ります。
Rename	タップした  ボタン左側のテイクの名前を変更する画面に切り換わります。
Delete	タップした  ボタン左側のテイクを削除します。

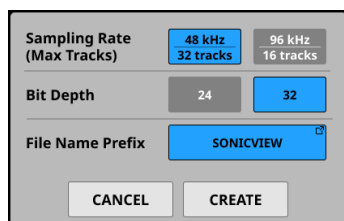
メモ

録音中／再生中は、操作できません。

⑨ NEW TAKE作成ボタン（OVERDUB MODE時のみ）

新しいテイクを作成するためのボタンです。

このボタンをタップすると、以下の確認メッセージが表示されます。



Sampling Rate (Max Tracks): 48 kHz (32 tracks) / 96 kHz (16 tracks)
Bit Depth: 24 / 32
File Name Prefix: SONICVIEW
CANCEL CREATE

Sampling Rate、Bit Depth、File Name Prefixを設定してCREATEボタンをタップするとテイクが作成されます。

フォルダー構成について

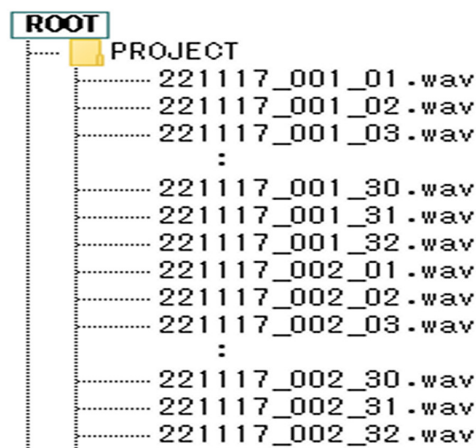
IF-MTR32は、プロジェクトフォルダーの中でオーディオファイルを管理します。

SDカードの中には、テイクをまとめるための「PROJECT」などのプロジェクトフォルダー群、プロジェクトフォルダーの中にテイクと呼ばれるオーディオファイル群（1回の録音ファイルの集まり）があります。

フォルダー構成

フォルダー構成は、下図のようになっています。

SDカードをパソコンに接続されたSDカードリーダーに装着してアクセスするとフォルダーやファイルの構成を確認することが可能です。



メモ

- これら以外にも管理用のフォルダーやファイルが作成されます。
- カレントフォルダーとして選択できるのは、SDカードのルートにあるフォルダーだけです。それ以外の場所にあるフォルダーは、カレントフォルダーとして選択できません。

録音ファイル名

録音ファイルの命名規則は、以下の通りです。

[File Name Prefix1 ～ 9 文字].[テイク番号 3 桁]_[トラック番号 2 桁].wav

ファイルフォーマットについて

IF-MTR32 で記録再生できるファイルフォーマットは、以下の通りです。

- ファイルフォーマット：BWF/WAV*
- サンプリング周波数：48kHz、96kHz
- 量子化ビット数：16bit**、24bit、32bit
- チャンネル数：1 チャンネル

* WAV ファイルの記録は、本機では行えません（再生のみ可能です）。

** 量子化ビット数 16 ビットでは録音できません。また、量子化ビット数が 16 ビットのトラックが含まれたテイクにはパンチイン／アウトできません。そのため、MTR動作モードがOVERDUB MODEでは、量子化ビット数が 16 ビットのトラックが含まれたテイクは選択できません。

メモ

- [ファイル名前前半部]_[トラック番号 2 桁].wav というファイル名で、サンプリング周波数が 48kHz のファイルの場合は 32 個以下、96kHz のファイルの場合は 16 個以下の 1 チャンネルの WAV ファイルをまとめて、1 つのテイクとして認識します。
- トラック番号が 1 桁の場合は、番号の先頭に「0」を付加して「01」、「02」のようにしてください。
- ファイル名の [トラック番号 2 桁] 部の数値が下記のような WAV ファイルは、1 つのテイクとして認識されます。
 - サンプリング周波数 48kHz の場合：33 以上
 - サンプリング周波数 96kHz の場合：17 以上
- ファイル名の [トラック番号 2 桁] 部がない WAV ファイルは 1 つのテイクとして認識されます。

プロジェクトの管理

IF-MTR32（マルチトラックレコーディングカード）では、1 回の録音ファイルの集まりを「テイク」、録音テイクを含んだフォルダーを「プロジェクト」として扱い、プロジェクトフォルダーごとにデータの管理を行っています。

録音、楽曲制作を行う場合は、作成済みのプロジェクトフォルダーを選択するか、プロジェクトフォルダーを新規作成する必要があります。

本章では、プロジェクトの選択手順や新規作成手順といった基本操作から、各種のプロジェクト管理機能までを説明します。


メモ

DAWなどでプロジェクト内の WAV ファイルをご使用になる場合は、SD カードにあるファイルを直接使用せずパソコンにコピーしてご使用ください。

プロジェクトリスト／テイクリストを見る

SD カードに保存されたプロジェクトリスト／テイクリストを表示するには、MULTI TRACK RECORDER画面のプロジェクト名表示部、またはテイク名表示部をタップして MTR の BROWSE 画面を表示します。また、MULTI TRACK RECORDER - MENU 画面の BROWSE ボタンをタップして、MTR の BROWSE 画面を表示することもできます。（→ 309 ページ「MULTI TRACK RECORDER - BROWSE 画面」）

プロジェクト操作

MTR の BROWSE 画面内のプロジェクトフォルダー名右端の  ボタンをタップするとメニューウィンドウが表示され、プロジェクト操作を行うことができます。

各プロジェクト操作を行うには、メニューウィンドウの各ボタンをタップします。

操作メニュー	内容
Open	タップするとプロジェクトをカレントプロジェクトとして選択し、テイクリスト表示に切り換わります。
Rename	タップすると選択したプロジェクトの名前を変更する Rename 画面に切り換わります。
Delete	タップすると選択したプロジェクトを削除するかどうかの確認メッセージを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ● CANCEL ボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。 ● OK ボタンをタップすると、選択したプロジェクトを削除して確認メッセージを閉じます。


メモ

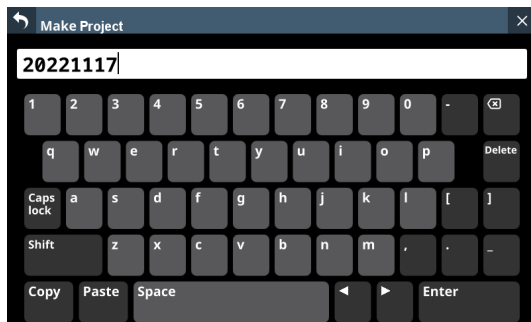
- 録音中／再生中は、操作できません。
- カレントプロジェクトの「Rename」と「Delete」は実施できません。

新しいプロジェクトを作成する

本機で録音または再生を行うにはプロジェクトを作成し、選択する必要があります。

以下の手順で、新しいプロジェクトを作成することができます。

1. MTRが停止中にMTRのBROWSE画面を表示します。(→ 309 ページ「MULTI TRACK RECORDER - BROWSE画面」)
2. 画面右上の  ボタンをタップすると、作成するプロジェクト名を入力するMake Project画面に切り換わります。




3. Make Project画面のキーボードのCaps lockボタンとShiftボタンの設定状態によって、入力できる文字の組み合わせを変更することができます。キーボードの変更方法については、230 ページ「キーボードの変更方法」をご参照ください。

ヒント

あとからRename画面でプロジェクト名を変更することもできます。

4. Enterボタンをタップすると新しいプロジェクトが作成され、MTRのBROWSE画面に戻ります。

メモ

- プロジェクトの作成をキャンセルする場合は、画面左上の  ボタンをタップします。
- 入力できるプロジェクト名の文字数は、1文字以上11文字以内です。
- プロジェクトは、SDカードのルートに作成されます。
- Enterボタンをタップした際、すでに同じ名前のフォルダーがある場合は、以下のメッセージが表示されますので、違う名前を入力してください。

This name already exists. Please enter another name.

プロジェクトを選択する

以下の手順で、使用するプロジェクトを選択します。

1. MTRが停止中にMTRのBROWSE画面を表示します。(→ 309 ページ「MULTI TRACK RECORDER - BROWSE画面」)


メモ

現在選択中のプロジェクトには、チェックマーク (✓) が表示されます。

2. プロジェクトフォルダー名をタップすると、タップしたプロジェクトがカレントプロジェクトとして選択され、チェックマーク (✓) が表示されます。

メモ

以下の手順で選択することもできます。

1. 選択したいプロジェクトフォルダー名右端の  ボタンをタップして、メニューウィンドウを表示します。
2. Openボタンをタップすると、選択したプロジェクトをカレントプロジェクトとして選択し、テイクリスト表示に切り換わります。


プロジェクトを削除する

プロジェクトを削除することができます。

SDカードの空き容量が少なくなった場合は、不要なプロジェクトを削除することでSDカードの空き容量を増やすことができます。

メモ

- カレントプロジェクトは、削除できません。
- SDカードには、OVERDUB MODEのUNDOを行うためのファイルが保存されている場合があります。IF-MTR32 に装着されたSDカードを抜き差しすると、それらのファイルを削除することができます。

1. MTRが停止中にMTRのBROWSE画面を表示します。(→ 309 ページ「MULTI TRACK RECORDER - BROWSE画面」)
2. 削除したいプロジェクトフォルダー名右端の  ボタンをタップして、メニューウィンドウを表示します。
3. Deleteボタンをタップすると、選択したプロジェクトを削除するかどうかの確認メッセージを表示します。
 - CANCELボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。
 - OKボタンをタップすると、選択したプロジェクトを削除して確認メッセージを閉じます。

プロジェクト名を変更する

1. MTRが停止中にMTRのBROWSE画面を表示します。(→ 309 ページ「MULTI TRACK RECORDER - BROWSE画面」)
2. 名前を変更したいプロジェクトフォルダー名右端の ■ ボタンをタップして、メニューウィンドウを表示します。
3. Rename ボタンをタップすると、選択したプロジェクトの名前を変更するRename画面に切り換わります。



4. プロジェクト名を変更します。
Rename画面のキーボードのCaps lockボタンとShiftボタンの設定状態によって、入力できる文字の組み合わせを変更することができます。キーボードの変更方法については、230 ページ「キーボードの変更方法」をご参照ください。
5. Enter ボタンをタップするとプロジェクト名が変更され、MTR のBROWSE画面に戻ります。

メモ

- プロジェクト名の変更をキャンセルする場合は、画面左上の ✕ ボタンをタップします。
- 変更できるプロジェクト名の文字数は、1 文字以上 11 文字以内です。
- カレントプロジェクトの名前は、変更できません。
- Enter ボタンをタップした際、すでに同じ名前のフォルダーがある場合は、以下のというメッセージが表示されますので、違う名前を入力してください。

This name already exists. Please enter another name.

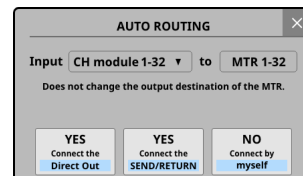
基本レコーディング

MTRの入力ソースを選択する

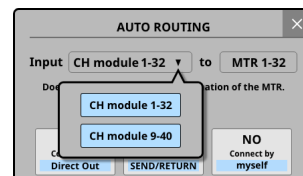
IF-MTR32（マルチトラックレコーディングカード）の入力ソースを選択します。

MTRとの自動ルーティング

MULTI TRACK RECORDER画面上部のAUTO ROUTINGボタン (②) をタップして、以下のルーティング変更の確認メッセージを表示します。



- 「CH module 1-32」もしくは「CH module 9-40」のいずれかを選択してからYES Connect the Direct Outボタンをタップすると、選択したCHモジュール群のDIRECT OUTが、IF-MTR32 を装着したスロットの 1-32 にルーティングされます。
- YES Connect the SEND/RETURN ボタンをタップすると、選択したCHモジュール群のINSERT SEND / RETURNが、IF-MTR32 を装着したスロットの 1-32 にルーティングされます。
- NO Connect by myself ボタンをタップすると、現状のルーティング設定を維持しますので、ご自身で必要なルーティングを行ってください。



- ✕ ボタンをタップするとメッセージを閉じます。この場合、現状のルーティング設定を維持します。

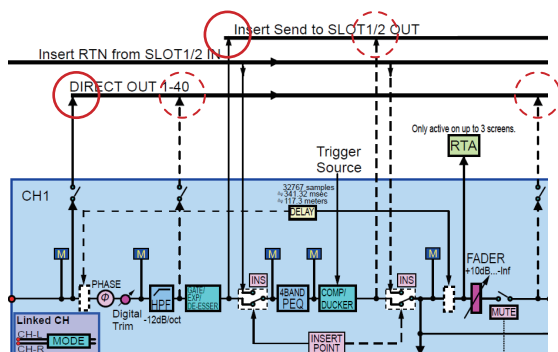
第 12 章 マルチトラックレコーダー

MTRへの手動入力ルーティング

IF-MTR32 を装着した SLOT の出力ポートに任意の信号をアサインすることで MTR に音声信号を入力できます。

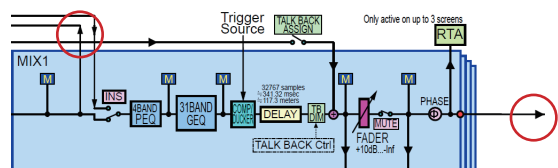
- CH モジュールの音声信号を MTR に送るには、以下のアサイン先に、IF-MTR32 を装着したスロットの「1-32」を選択してください。

- DIRECT OUT (DIRECT OUT ボタン：オン)
- Insert Send



- **BUSモジュールの音声信号をMTRに送るには、以下のアサイン先に、IF-MTR32を装着したスロットの「1-32」を選択してください。**

- Insert Send
- Output Port



✕毛

入力ポートの音声信号をCHモジュールにアサインせずにMTRに送ることはできません。

注意事項

- DIRECT OUT POINTの設定が「POST HPF」のときのDIRECT OUTを録音時：
録音時にPhase / D.Trim / HPFが有効な場合、サウンドチェック（再生）時にPhase / D.Trim / HPFを再度経由しますのでご注意ください。
- DIRECT OUT POINTの設定が「POST FADER」のときのDIRECT OUTを録音時：
録音時にPhase / D.Trim / HPF / GATE / EQ / COMP / DELAYが有効な場合、サウンドチェック（再生）時にPhase / D.Trim / HPF / GATE / EQ / COMP / DELAYを再度経由しますのでご注意ください。

回避方法

CHモジュールでこれらの信号処理を録音時と再生時の2回
経由しないようにするには、CHモジュールからMTRへのルー
ティングを以下のいずれかに設定してください。

- DIRECT OUT POINTの設定を「INPUT」に設定したDIRECT OUT
- Insert Send

注意事項

BUS Output Portを録音時：

BUS Output Portを録音時にEQ / GEQ / COMP / DELAY / Phaseが有効な場合、サウンドチェック（再生）時にEQ / GEQ / COMP / DELAY / Phaseを再度経由しますのでご注意ください。

回避方法

BUSモジュールでこれらの信号処理を録音時と再生時の2回経路しないようにするには、BUSモジュールからMTRへのルーティングを「Insert Send」に設定してください。

レコーディングする

本機では、最大 32トラックを同時に録音することができます。
以下に述べる録音操作は、IF-MTR32ではじめて録音する際の手順例です。

1. IF-MTR32にSDカードを装着します。
2. MULTI TRACK RECORDER - MENU画面でSDカードをErase Formatします。(→308ページ「⑥ Formatボタン」)
3. MULTI TRACK RECORDER画面上部のMTR動作モードボタン(→297ページ「④ MTR動作モードボタン」)をタップして、LIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのいずれかを選択します。
4. 録音するトラックのREC READYを「オン」に設定します。REC READY表示が赤く点滅し、録音待機状態となります。
5. 各録音対象チャンネルの入力レベルを調節します。
6. MULTI TRACK RECORDER画面の ● ボタンをタップし、録音一時停止状態にします。
7. MULTI TRACK RECORDER画面の ► ボタンをタップすると録音が始まり、● ボタンと ► ボタンがハイライト表示になります。
録音するトラックのREC READY表示が点滅から点灯に変わります。
8. 録音が終了したら、■ ボタンをタップします。

レコーディングした音声を確認する（再生する）

1. MTR再生用のルーティングに切り換えます。
MULTI TRACK RECORDER画面のSOUND CHECKボタン（→300 ページ「㊟ SOUND CHECKボタン」）をタップして表示されるメッセージを確認してハイライト状態に切り換えると、録音したチャンネルのインプットやInsert ReturnにMTR出力がルーティングされ、再生音をモニターすることができます。MTRルーティング切り換えの詳細については、300 ページ「㊟ SOUND CHECKボタン」をご参照ください。



2. MULTI TRACK RECORDER画面の◀◀ / ▶▶ ボタンおよび■ボタンなどを使って、確認したい位置に移動（ロケート）します。

メモ

ロケート機能については、315 ページ「ロケート機能」をご参照ください。

3. MULTI TRACK RECORDER画面の▶ ボタンをタップして、録音したトラックを再生します。

メモ

一部のトラックを差し替えたい場合は、MTR動作モードをOVERDUB MODEに切り換えてパンチイン／アウトを行います。（→317 ページ「パンチイン／アウト機能」、→318 ページ「オートパンチイン／アウト 機能」）

レコーダー機能

ロケート機能

MULTI TRACK RECORDER画面で再生位置を移動する方法は、以下の通りです。

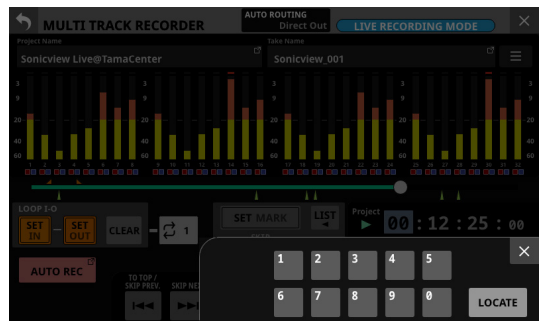
いずれもレコーダーが停止中または再生中に実施します。

- プログレスバーを左右にドラッグする
この場合、素早く大まかに移動することができます。
- MULTI TRACK RECORDER画面でLCD ノブ 8（緑色で点灯）を回す
この場合、LCD ノブ 8 の 1 クリックで 50ms～70ms ずつ再生位置を移動します。また、LCD ノブ 8 を押しながら回した場合は、1 クリックで約 10 秒ずつ再生位置を移動します。
- ◀◀ ボタンや ▶▶ ボタンを押し続ける
- ロケート時刻を入力する

ロケート時刻を入力してロケートする

タイムカウンターに時刻を入力することによって、レコーダーの現在位置を移動することができます。

1. MULTI TRACK RECORDER画面の経過時間タイムカウンター表示部をタップすると、ロケート時刻入力モードに切り換わり、タイムカウンター下に数字入力ボタンとLOCATE ボタンが表示されます。

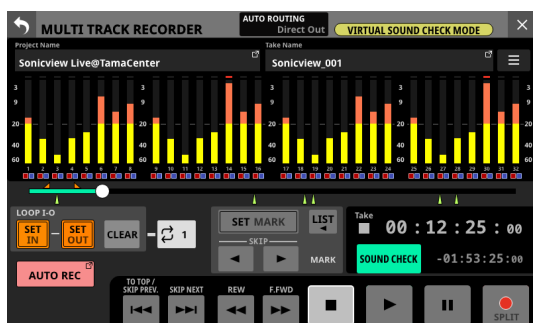


2. 移動したい時刻を入力します。
3. LOCATE ボタンをタップすると、その時点で入力された時刻にロケート（移動）します。





第12章 マルチトラックレコーダー

リピート再生機能

リピート再生機能を使って、繰り返し再生を行うことができます。MULTI TRACK RECORDER画面のリピートモード設定ボタンをタップしてリピート再生機能の設定を行います。



- MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのとき、リピートモード設定ボタンをタップするとOFF → 1 → ALL → I-Oと順番に切り換えます。
- MTR動作モードがOVERDUB MODEのとき、リピートモード設定ボタンをタップするとOFF → 1 → I-Oと順番に切り換えます。ただし、AUTO PUNCH設定が「ON」の場合は、リピート再生できません。

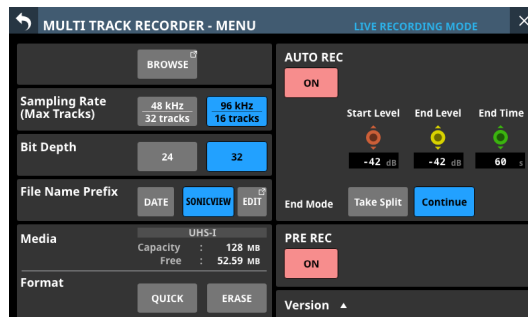
リピートモード	動作
	リピート再生しません。
	現在選択されているテイク全体をリピート再生します。
	プロジェクト全体をリピート再生します。MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのときに選択できます。
	INポイントとOUTポイントの間をリピート再生します。(→ 318 ページ「パンチイン／アウトポイントを設定する」)

メモ

リピートモードが「ALL」に設定された状態でMTR動作モードを「OVERDUB MODE」に切り換えた際は、リピートモードは自動的に「OFF」に切り換わります。

オートレック機能

録音を自動で開始させる機能です。録音レベルが設定したレベルを上回ると録音を開始します。また、録音レベルが設定したレベルを下回ったとき、一時停止するか、ファイル分割するかを設定できます。MULTI TRACK RECORDER - MENU画面で設定します。



メモ

MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのときに使用できます。

AUTO RECボタン

このボタンをタップして、オートレック機能のON / OFFを切り換えます。(初期値：OFF)
ONのとき、ボタンが赤くハイライト表示になり、以下の設定で録音を行います。

Start Levelノブ

オートレックを開始する録音レベル設定です。赤く点灯したLCDノブ6を使って設定します。

選択肢：OFF*、-72dBFS ～ -24dBFS
(6dBFS刻み、初期値：-42dBFS)

- *「OFF」を選択した場合は、MULTI TRACK RECORDER画面の
● ボタンをタップして録音を開始します。

End Levelノブ

オートレックを終了する録音レベル設定です。黄色で点灯したLCDノブ7を使って設定します。

選択肢：OFF*、-72dBFS ～ -24dBFS
(6dBFS刻み、初期値：-42dBFS)

- *「OFF」を選択した場合は、MULTI TRACK RECORDER画面の
■ ボタンを押して録音を終了します。

End Timeノブ

録音レベルが終了レベルを下回ってからオートレックを終了するまでの時間の設定です。

緑色で点灯したLCDノブ8を使って設定します。
時間が経過する前に録音レベルが終了レベルを上回った場合は、録音を継続します。

設定範囲：1 ～ 60 秒(初期値：5 秒)

End Modeボタン

このボタンをタップして、オートレックが始まったあと、録音レベルが終了レベルを下回ってからEnd Timeが経過したあとの動作を設定します。

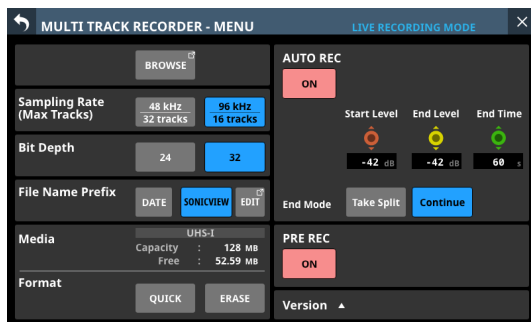
選択肢	内容
Take Split（初期値）	次のテイクで録音を待機
Continue	同じテイクで録音を待機

選択したボタンが水色のハイライト表示になります。

プリレック機能

録音一時停止中に入力される信号を最大2秒間録音しておき、録音開始時に最大2秒前からの信号を録音する機能です。

MULTI TRACK RECORDER - MENU画面で設定します。



メモ

MTR動作モードがLIVE RECORDING MODEまたはVIRTUAL SOUND CHECK MODEのときに使用できます。

PRE RECボタン

このボタンをタップして、プリレック機能のON / OFFを切り換えます。(初期値: OFF)

ONのとき、ボタンが赤くハイライト表示になります。

パンチイン／アウト機能

パンチイン／アウトは、録音済みのトラックの一部を差し替えるときに使う機能です。

レコーダーを再生して、差し替え部分に来たら録音に切り換え（パンチイン）、差し替え部分を終了したら再生に切り換え（パンチアウト）、設定時間後に停止します。

メモ

- MTR動作モードがOVERDUB MODEのときのみ使用できます。
- MTR動作モードがOVERDUB MODEでのミキサーとMTRとのルーティングは、必ずInsert Send/Returnを使うようにしてください。これ以外のルーティング設定の場合、正常なパンチイン／アウト録音ができなくなります。

1. あらかじめ差し替える部分を決めておきます。
差し替えた音声が入ったトラックのREC READY表示が赤く点滅します。
2. MULTI TRACK RECORDER画面で差し替えるトラックのREC READYを「オン」にして、録音待機状態にします（REC READY表示が赤く点滅）。
3. 差し替え部分の手前から再生を始めます。
4. 差し替え部分に来たら、MULTI TRACK RECORDER画面の ● ボタンをタップして演奏を行います。
録音に切り換わります（パンチイン）。
5. 差し替え部分の終わりに来たらMULTI TRACK RECORDER画面の ■ ボタンまたは ► ボタンをタップします。
 - ■ ボタンをタップすると停止します。
 - ► ボタンをタップすると、録音から再生に切り換わります。

フットスイッチを使ったパンチイン／アウト

リアパネルのFOOTSWITCH端子に接続した別売の推奨フットスイッチ（TASCAM RC-1F）を使って、パンチイン／アウトを行うこともできます。

フットスイッチを使ってパンチイン／アウトを行うには、あらかじめフットスイッチに割り当てる機能を「MTR」の「Punch IN/OUT」に設定しておく必要があります。（→ 74 ページ「Foot Switchタブ画面」）

上記手順の4. で ● ボタンの代わりにフットスイッチを踏み、手順5. の ► ボタンの代わりに再度フットスイッチを踏みます。

メモ

本機は、フットスイッチとしてプッシュ・トゥ・メイク（押したときに短絡状態）のアンラッチ型（モーメンタリー型）スイッチを使用する前提で設計されています。

第12章 マルチトラックレコーダー

オートパンチイン／アウト機能

オートパンチイン／アウト機能により、あらかじめ設定したパンチインポイントとパンチアウトポイント間を自動録音することができます。

オートパンチイン／アウト機能を実行すると、パンチインポイント（録音開始点）より手前のプリロールポイントから再生を開始し、パンチインポイントまで来ると録音に切り換わります。

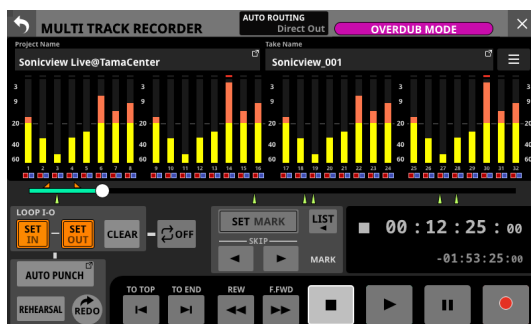
その後、パンチアウトポイント（録音終了点）まで来ると再生に切り換わり、ポストロール後に停止します。

メモ

MTR動作モードがOVERDUB MODEのときのみ使用できます。

パンチイン／アウトポイントを設定する

1. MULTI TRACK RECORDER画面を表示します。



2. ▶ ボタンをタップして、再生を開始します。
3. パンチインポイントでSET INボタン、パンチアウトポイントでSET OUTボタンをタップします。
設定したポイントは、プログレスバー上部に「■」と「■」で表示されます。

メモ

- 停止中にパンチイン／アウトポイントを設定することもできます。
- パンチインポイントとパンチアウトポイントの間は、200ms以上開けてください。間隔が200ms未満の場合は、以下のメッセージが表示され、後から設定しようとしたポイントは設定されません。

Invalid I/O. Interval too short.

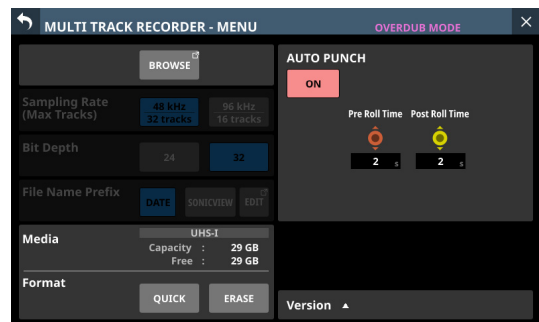
- パンチアウトポイントをパンチインポイントより前に設定しようとした場合、またはパンチインポイントをパンチアウトポイントより後ろに設定しようとした場合、以下のメッセージが表示され、後から設定しようとしたポイントは設定されません。パンチインポイントがパンチアウトポイントの前方になるように設定してください。

Invalid I/O. Please set IN and OUT in order.

- CLEARボタンをタップすると、設定したパンチインポイントとパンチアウトポイントをクリアします。

4. ■ ボタンを押して、再生を停止します。

5. AUTO PUNCHボタンをタップしてMULTI TRACK RECORDER - MENU画面に切り換え、オートパンチイン／アウト機能をオンにします。



6. 画面左上の◀ ボタンをタップして、MULTI TRACK RECORDER画面に戻ります。

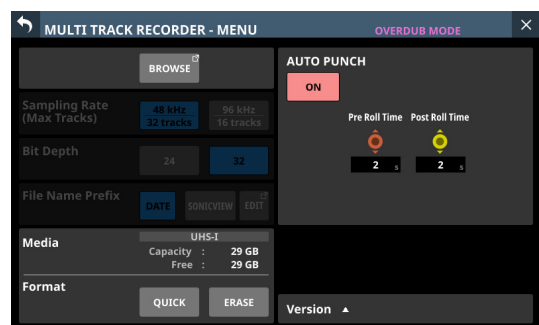
メモ

- パンチインポイントのみを設定すると、オートパンチインで録音が始まったあと、任意の位置で■ ボタンまたは▶ ボタンをタップするまで録音を継続することができます。
- パンチアウトポイントのみを設定すると、任意の位置で● ボタンをタップして録音を開始したあと、オートパンチアウトで録音を停止することができます。

プリロールポイント／ポストロールポイントを設定する

オートパンチイン／アウトを行うとき、パンチインポイントのどれくらい手前から再生（プリロールポイント）を始め、パンチアウトポイントのどれくらい後ろで再生を停止（ポストロールポイント）するかを設定します。

1. MTRが停止中にMULTI TRACK RECORDER - MENU画面を表示します。（→ 307 ページ「MULTI TRACK RECORDER - MENU画面」）



2. 赤く点灯しているLCDノブ6を使ってPre Roll Time、黄色く点灯しているLCDノブ7を使ってPost Roll Timeを設定します。
Pre Roll Time : 0sec ~ 10sec（初期値：2sec）
Post Roll Time : 0sec ~ 10sec（初期値：2sec）
3. 画面左上の◀ ボタンをタップして、MULTI TRACK RECORDER画面に戻ります。

パンチイン／アウトをリハーサルする

パンチイン／アウトを実行する前に、リハーサルをすることができます。リハーサルでは、モニターが実際のレコーディングと同じように切り換わりますが、録音はされません。

1. MULTI TRACK RECORDER画面にAUTO PUNCHボタンが赤くハイライト表示されていることを確認します。
2. MULTI TRACK RECORDER画面のREHEARSALボタンをタップしてオンに切り換え、ハイライト表示にします。
3. オートパンチイン／アウトしたいトラックのREC READYを「ON」にします。(→ 305 ページ「REC READY / INPUT MONITORの設定」)

4. ● ボタンをタップします。

オートパンチイン／アウトのリハーサルが始まります。

- トランスポートがプリロールポイントから走行し始めます。トラック再生信号と入力ソース信号の両方をモニターできます。(→ 318 ページ「プリロールポイント／ポストロールポイントを設定する」)
- パンチインポイントまで来ると、入力ソース信号だけのモニターになり、● ボタンが点滅表示します（リハーサルであることを表示）。
- パンチアウトポイントまで来ると、トラック再生信号と入力ソース信号の両方のモニターになり、● ボタンがグレーアウト表示になります。
- パンチアウトポイントからポストロールポイント設定時間経過後に自動的に停止し、▶ ボタンが点滅表示します。(→ 318 ページ「プリロールポイント／ポストロールポイントを設定する」)

繰り返しリハーサルを行うことができます。

オートパンチイン／アウトを実行する

実際にオートパンチイン／アウトを行います。

1. MULTI TRACK RECORDER画面にAUTO PUNCHボタンが赤くハイライト表示されていることを確認します。
2. MULTI TRACK RECORDER画面のREHEARSALボタンをタップしてオフに切り換え、グレーアウト表示にします。
3. オートパンチイン／アウトしたいトラックのREC READYを「ON」にします。(→ 305 ページ「REC READY / INPUT MONITORの設定」)
4. ● ボタンをタップします。
 - トランスポートがプリロールポイントから走行し始めます。トラック再生信号と入力ソース信号の両方をモニターできます。(→ 318 ページ「プリロールポイント／ポストロールポイントを設定する」)
 - パンチインポイントまで来ると、入力ソース信号だけのモニターになり、● ボタンがハイライト表示になります。
 - パンチアウトポイントまで来ると、トラック再生信号と入力ソース信号の両方のモニターになり、● ボタンがグレーアウト表示になります。
 - パンチアウトポイントからポストロールポイント設定時間経過後に自動的に停止し、▶ ボタンが点滅表示します。(→ 318 ページ「プリロールポイント／ポストロールポイントを設定する」)

メモ

- AUTO PUNCHボタンが赤くハイライト表示されている状態で、パンチイン／アウトポイントを設定しないまま ● ボタンをタップした場合、以下のメッセージが表示されます。
パンチイン／アウトポイントを設定してから ● ボタンをタップしてください。

Cannot execute AUTO PUNCH. Set both I/O points.

- AUTO PUNCHボタンが赤くハイライト表示されている状態で、MTRを再生中に ● ボタンをタップした場合、以下のメッセージが表示されます。
MTRを停止してから ● ボタンをタップしてください。

Cannot execute AUTO PUNCH. Stop the MTR.

パンチインアウト操作を取り消す（アンドゥ）

パンチインアウトをやり直したいときは、最後に行った操作を取り消すこと（アンドゥ）ができます。

アンドゥまたはリドゥに関する情報はプロジェクトを選択する、または本機の電源をオフにすると失われてしまうため、その後は行うことができません。

メモ

SDカードには、アンドゥを行うためのファイルが保存されている場合があります。IF-MTR32 に装着されたSDカードを抜き差しすると、それらのファイルを削除することができます。

最後に行ったパンチインアウト操作を取り消す

MULTI TRACK RECORDER画面のUNDOボタンをタップすると、UNDO処理が開始され、メッセージが表示されます。

処理が完了すると、最後の操作を行う前の状態に戻りメッセージを閉じます。

アンドゥ操作を取り消すには（リドゥ）

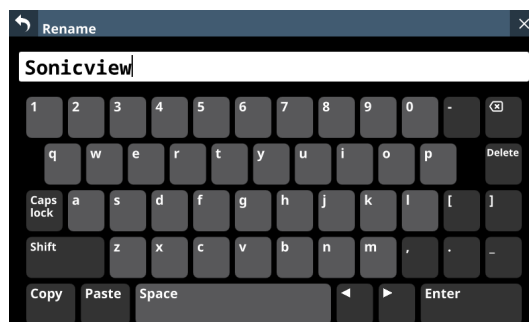
アンドゥ操作を行ったあと、MULTI TRACK RECORDER画面のREDOボタンをタップすると、REDO処理が開始され、メッセージが表示されます。

処理が完了すると、UNDO実施前の状態に戻り、メッセージを閉じます。

テイクの編集

テイク名を変更する

1. MTRが停止中にMTRのBROWSE画面を表示します。（→ 309 ページ「MULTI TRACK RECORDER - BROWSE画面」）
2. 名前を変更したいテイク名右端の ■ ボタンをタップしてメニューウィンドウを表示します。
3. Renameボタンをタップすると、選択したテイクの名前を変更するRename画面に切り換わります。



4. テイク名を変更します。
Rename画面のキーボードのCaps lockボタンとShiftボタンの設定状態によって、入力できる文字の組み合わせを変更することができます。キーボードの変更方法については、230 ページ「キーボードの変更方法」をご参照ください。
5. Enterボタンをタップするとテイク名が変更され、MTRのBROWSE画面に戻ります。

メモ

- 変更できるテイク名の文字数は、1 文字以上 16 文字以内です。
- テイク名の変更をキャンセルする場合は、画面左上の ■ ボタンをタップします。
- Enterボタンをタップした際、同じフォルダーにすでに同じ名前のテイクがある場合は、以下のメッセージが表示されますので、違う名前を入力してください。


This name already exists. Please enter another name.

テイクを削除する

指定したテイクを削除することができます。
SDカードの空き容量が少なくなった場合は、不要なテイクを削除することでSDカードの空き容量を増やすことができます。

メモ

SDカードには、OVERDUB MODEのUNDOを行うためのファイルが保存されている場合があります。IF-MTR32 に装着されたSDカードを抜き差しすると、それらのファイルを削除することができます。

1. MTRが停止中にMTRのBROWSE画面を表示します。(→ 309 ページ「MULTI TRACK RECORDER - BROWSE画面」)
2. 削除したいテイク名右端の  ボタンをタップして、メニューウィンドウを表示します。
3. Delete ボタンをタップすると、選択したテイクを削除するかどうかの確認メッセージを表示します。
 - CANCEL ボタンをタップすると、確認メッセージを閉じます。
 - OK ボタンをタップすると、選択したテイクを削除して確認メッセージを閉じます。

外部機器で録音したファイルを取り込む

以下の要件を満たす音声ファイルを取り込んで、テイクとして再生することができます。また、IF-MTR32(マルチトラックレコーディングカード) で作成された以下の要件を満たすファイルは、そのまま再生することができます。

- ファイルフォーマット：BWF/WAV
- サンプリング周波数：48kHz、96kHz
- 量子化ビット数：16bit、24bit、32bit
- チャンネル数：1 チャンネル

ファイル名フォーマット

[ファイル名前半部]_[トラック番号 2 桁].wav

実例)

SONICVIEW_001_01.wav (トラック 1 のファイル)
SONICVIEW_001_02.wav (トラック 2 のファイル)
:
SONICVIEW_001_31.wav (トラック 31 のファイル)
SONICVIEW_001_32.wav (トラック 32 のファイル)

注意

量子化ビット数が 16 ビットのトラックが含まれたテイクにはパンチイン／アウトできません。そのため、OVERDUB MODEでは量子化ビット数が 16 ビットのトラックが含まれたテイクは選択できません。

メモ

- 「[ファイル名前半部]_[トラック番号 2 桁].wav」というファイル名で、サンプリング周波数が 48kHz のファイルの場合はファイル名の [トラック番号 2 桁] 部が「01」から「32」、96kHz のファイルの場合はファイル名の [トラック番号 2 桁] 部が「01」から「16」の WAV ファイルをまとめて、1 つのテイクとして認識します。
- トラック番号が 1 桁の場合は、番号の先頭に「0」を付加して「01」、「02」のようにしてください。
- ファイル名の [トラック番号 2 桁] 部の数値が下記のような WAV ファイルは、1 つのテイクとして認識されます。
 - サンプリング周波数 48kHz の場合：33 以上
 - サンプリング周波数 96kHz の場合：17 以上
- ファイル名の [トラック番号 2 桁] 部がない WAV ファイルは 1 つのテイクとして認識されます。

取り込み前の準備

IF-MTR32 ではじめて使用するSDカードの場合は、必ずIF-MTR32 でフォーマットを行ってください。IF-MTR32 でフォーマットされたSDカードは、性能向上のために最適化されています。他の機器、パソコンなどでフォーマットしたSDカードを使用した場合は、動作に影響が出る場合があります。

1. IF-MTR32 でSDカードをフォーマットします。(→ 308 ページ「⑥ Format ボタン」)

メモ

IF-MTR32 でフォーマットを行うと、自動でルートに「PROJECT」フォルダーを作成します。

2. フォーマットしたSDカードを取り外し、パソコンに接続されたSDカードリーダーに装着します。
3. IF-MTR32 でフォーマットした場合、パソコンからは「IF-MTR32」というドライブとして認識されます。
4. 取り込みたい音声ファイルを「IF-MTR32」の下層にあるフォルダーにコピーしてください。
5. 書き込みが終わったら、SDカードをカードリーダーから取り外しIF-MTR32 に装着してください。

取り込んだファイルを本機で扱う

- カレントプロジェクトに追加した場合、自動で再生可能なオーディオファイルがテイクとして認識されます。
- カレントプロジェクト以外に追加した場合、MTRのBROWSE画面で追加したフォルダーをカレントプロジェクトに選択すると、自動で再生可能なオーディオファイルがテイクとして認識されます。

マーク機能

マークは、再生時の頭出しなどに利用することができます。WAVファイルに登録したマークポイントは、本機以外でもBWF対応ソフトなどで利用することができます。

マークポイントを登録する

録音中または再生中にMULTI TRACK RECORDER画面のSETボタンをタップすると、その位置にマークポイントを登録することができます。

- マークポイントを登録すると、マーク番号がディスプレイにポップアップ表示されます。
- マークポイントが設定されている位置には、再生位置表示プログレスバーの下に▲アイコンが表示されます。
- 録音／再生中に設定したマークポイントは、録音／再生停止時に自動的にWAVファイルに保存されます。
- 停止時に設定したマークポイントは、以下のタイミングで自動的にWAVファイルに保存されます。
 - 設定後に再生して停止したとき
 - 別のテイクに移動したとき

メモ

パンチイン／アウトポイントもマークポイントの一種ですが、SET MARK ボタンで設定したマークポイントとは以下の点が異なります。

- SET MARK ボタンで設定したマークポイントは、WAVファイルに保存されます。
- パンチイン／アウトポイントはWAVファイルには保存されず、以下の操作で破棄されます。
 - MTR動作モードを切り換える
 - プロジェクト・テイクを切り換える
 - LIVE RECORDING モードまたはVIRTUAL SOUND CHECK モードでの録音開始
 - 本機の電源を切る

マークの位置へ移動する

下記の 2 通りの方法があります。

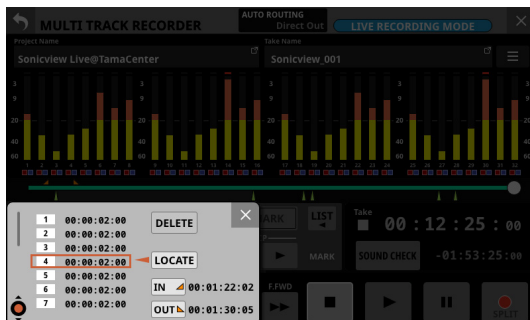
1 つずつ前後に移動する

停止中／再生中／再生一時停止中に、MULTI TRACK RECORDER 画面の ◀ MARK SKIP ボタンまたは ▶ MARK SKIP ボタンをタップすると、現在位置の手前または次のマークの位置へ移動（スキップ）します。



リストから選んで移動する

1. 停止中／再生中／再生一時停止中に MULTI TRACK RECORDER 画面の LIST ボタンをタップすると、マークリスト情報を表示するウィンドウを表示します。



2. LCD ノブ 1 を回して、移動したい時刻のマークポイントを選択します。
3. LOCATE ボタンをタップすると、選択したマークの位置へ移動（スキップ）します。

メモ

マークリストの IN ポイントまたは OUT ポイントのボタンをタップすると、それぞれの時刻に移動（スキップ）します。

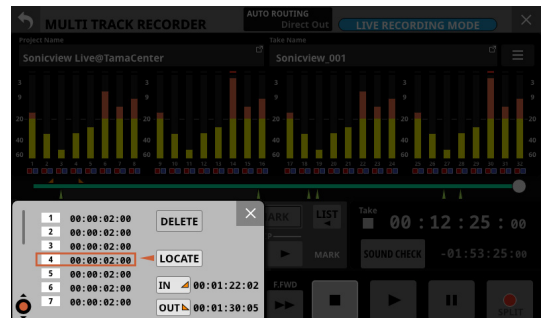
任意のマークポイントを削除する

停止中／再生中／再生一時停止中にマークポイントを削除することができます。

下記の 2 通りの方法があります。

リストから選んで削除する

1. 停止中／再生中／再生一時停止中に MULTI TRACK RECORDER 画面の LIST ボタンをタップすると、マークリスト情報を表示するウィンドウを表示します。



2. LCD ノブ 1 を回して、削除したいマークポイントを選択します。
3. DELETE ボタンをタップすると、マークポイントを削除します。

メモ

複数のマークポイントを削除するときは、手順 2.-3. を繰り返してください。

マーク位置へ移動して削除する

削除したいマークの位置に移動して MULTI TRACK RECORDER 画面の SET MARK ボタンをタップすると、そのマークを削除します。マークポイントを削除すると、ディスプレイにポップアップ表示されます。

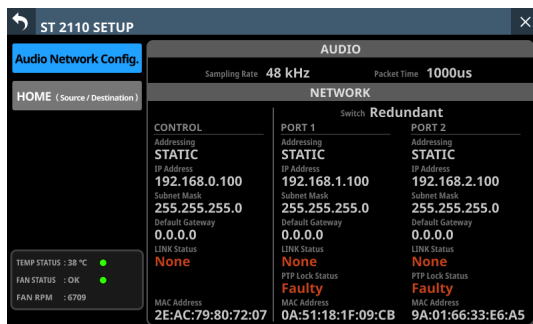
第 13 章 拡張カード IF-ST2110

ST 2110 SETUP画面

この画面では、装着したIF-ST2110（ST 2110 カード）の設定状態などの表示を行います。

- Audio Network Config. タブ画面
IF-ST2110（ST 2110 カード）の設定状態を表示します。
- HOME (Source / Destination) タブ画面
IF-ST2110（ST 2110 カード）の送信／受信の状態を表示します。

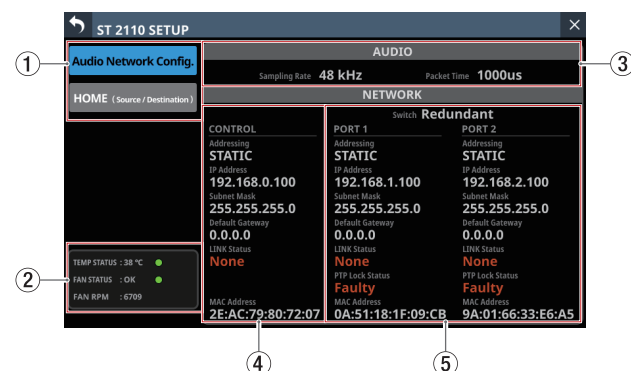
この画面は、メニュー画面＞Rear Panel Setupメニュー＞「ST 2110 Setup」をタップして表示します。



注意

- IF-ST2110 は、同時に 1 枚しか使用できません。2 枚装着した場合は、SLOT 1 の IF-ST2110 だけが使用できます。
- 電源をオンにした後、装着した IF-ST2110（ST 2110 カード）で音声入出力ができるようになるまで 2 分 30 秒程度かかります。この時間は、IF-ST2110 のネットワーク環境によって異なります。

Audio Network Config. タブ画面



① 表示切り換えボタン

このボタンをタップすると、表示する画面が切り換わります。

ボタン表示	内容
Audio Network Config.	AudioおよびNetworkの設定状態表示
HOME (Source / Destination)	SourceおよびDestinationのストリーム一覧表示

② ステータス表示

IF-ST2110 のステータスを表示しています。

TEMP STATUS

温度に関する表示をします。

インジケータ表示	TEMP STATUS表示	内容
緑色	OK	温度が正常範囲内 (~ 81.9°C)
黄色	ALERT	温度が正常範囲外に近い状態 (82.0°C ~ 84.9°C)
赤色	FAILURE	温度が正常範囲外 (85.0°C ~)

FAN STATUS、FAN RPM

冷却ファンの動作状況表示と回転数を表示します。

インジケータ表示	FAN STATUS表示	内容
緑色	OK	正常
赤色	FAILURE	故障

③ AUDIO設定状態表示

IF-ST2110 の音声信号とクロックの状態を表示します。

項目名	内容
Sampling rate	IF-ST2110 のサンプリング周波数の設定状態を表示します。
Packet Time	オーディオデータの PACKET タイムの設定状態を表示します。

④ IF-ST2110 の NETWORK 状態表示 (CONTROL)

IF-ST2110 の CONTROL 端子の設定状態を表示します。

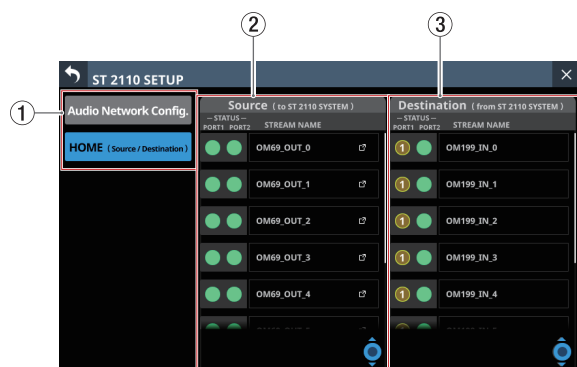
項目名	内容
Addressing	CONTROL 端子の IP アドレス 設定モード 名を表示します。
IP Address	Addressing 項目の設定が「AUTO」の場合は割り振られた IP アドレス、「STATIC」の場合はユーザーが設定した IP アドレスを表示します。
Subnet mask	Addressing 項目の設定が「STATIC」の場合はユーザーが設定したサブネットマスクを表示します。 メモ Addressing 項目の設定が「AUTO」の場合、サブネットマスクは表示されません。
Default Gateway	Addressing 項目の設定が「STATIC」の場合はユーザーが設定したデフォルトゲートウェイを表示します。 メモ Addressing 項目の設定が「AUTO」の場合、デフォルトゲートウェイは表示されません。
LINK Status	CONTROL 端子のリンク状態を表示します。通信に問題がある場合、赤文字で表示します。
MAC Address	CONTROL 端子の MAC アドレスを表示します。

⑤ IF-ST2110 の NETWORK 状態表示 (PORT 1 / PORT 2)

IF-ST2110 の PORT 1 / PORT 2 端子の設定状態を表示します。

項目名	内容
Switch	SMPTE ST 2022-7 機能 (冗長化システム) の有効/無効の設定状態を表示します。 • Redundant: SMPTE ST 2022-7 機能が有効です。 • Switched: SMPTE ST 2022-7 機能が無効です。
Addressing	PORT 端子の IP アドレス 設定モード 名を表示します。
IP Address	Addressing 項目の設定が「AUTO」の場合は割り振られた IP アドレス、「STATIC」の場合はユーザーが設定した IP アドレスを表示します。
Subnet mask	Addressing 項目の設定が「STATIC」の場合はユーザーが設定したサブネットマスクを表示します。 メモ Addressing 項目の設定が「AUTO」の場合、サブネットマスクは表示されません。
Default Gateway	Addressing 項目の設定が「STATIC」の場合はユーザーが設定したデフォルトゲートウェイを表示します。 メモ Addressing 項目の設定が「AUTO」の場合、デフォルトゲートウェイは表示されません。
LINK Status	PORT 端子のリンク状態を表示します。通信に問題がある場合、赤文字で表示します。
PTP Lock Status	PTP 同期の状態を表示します。 • Initializing: PTP 同期の準備ができていません。 • Listening: PTP 同期信号を受信しており、同期する準備ができています。 • Uncalibrated: PTP 同期信号を受信していますが、まだロックしていない状態です。 • Pre-Master: PTP マスターとしてロックしようとしていますが、まだロックしていません。 • Master: PTP マスターとしてロックしています。 • Follower: PTP フォロワーとしてロックしています。 • Passive: PTP 同期信号を受信していますが、その信号で同期しようとしていません。 • Faulty: PTP 同期できていません。
MAC Address	PORT 端子の MAC アドレスを表示します。

HOME (Source / Destination) タブ画面



① 表示切り換えボタン

このボタンをタップすると、表示する画面が切り換わります。

ボタン表示	内容
Audio Network Config.	AudioおよびNetworkの設定状態表示
HOME (Source / Destination)	SourceおよびDestinationのストリーム一覧表示

② Source エリア

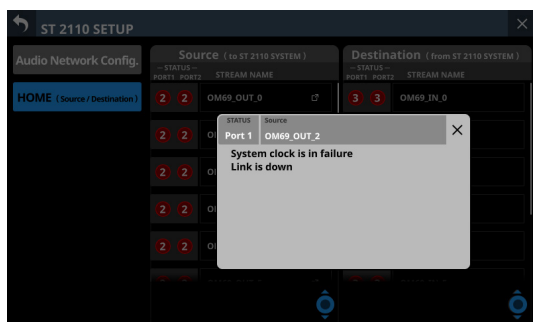
装着したIF-ST2110（ST 2110 カード）から送信するストリーム一覧が表示されます。

- STATUS項目には、拡張カードIF-ST2110のメディア端子（PORT 1 / PORT 2）のストリーム接続状況をアイコンで表示します。

表示状態	接続状態
	通信状態良好。
	接続に問題がある状態。 問題の個数を数字で表示します。
	接続できていない状態。 問題の個数を数字で表示します。

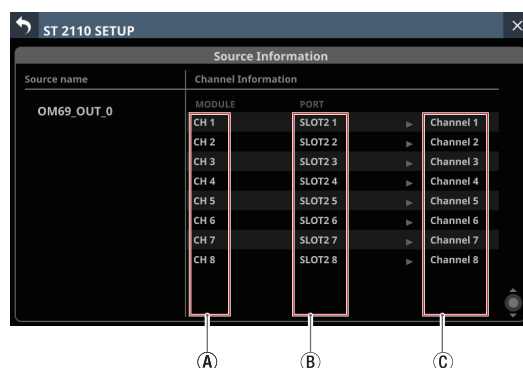
メモ

数字をタップすると、問題の詳細メッセージが表示されます。



- STREAM NAME項目には、Sourceストリームに割り当てられた名前が表示されます。

- アイコンをタップすると、Source Information ウィンドが表示されます。



- ① 送信元となるSonicviewのモジュールのラベル
- ② 送信元のスロット番号とスロット内のチャンネル
- ③ IF-ST2110（ST-2110 カード）から送信するストリーム内のチャンネル

- スクロールノブ／スクロールバー表示
Source エリア（②）のストリーム一覧に対して、画面内に表示されている設定項目の相対位置をスクロールバーで表示します。

メモ




Source エリア（②）に表示されていない設定項目を表示するには、設定項目表示を上下にスワイプして画面をスクロールします。

水色で点灯したLCDノブ5を回してスクロールすることもできます。

③ Destination エリア

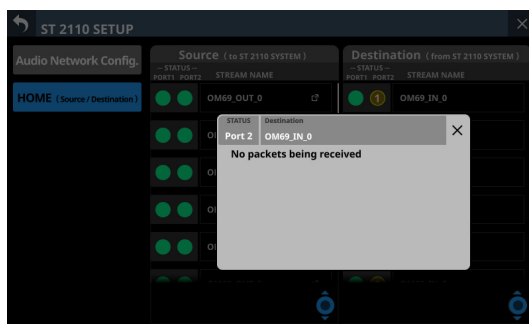
装着した IF-ST2110（ST 2110 カード）が受信しているストリームが一覧で表示されます。

- STATUS項目には、拡張カード IF-ST2110 のメディア 端子（PORT 1 / PORT 2）のストリーム 接続状況をアイコンで表示します。

表示状態	接続状態
	通信状態良好。
	接続に問題がある状態。 問題の個数を数字で表示します。
	接続できていない状態。 問題の個数を数字で表示します。

メモ

数字をタップすると、問題の詳細メッセージが表示されます。



- STREAM NAME項目には、Destination ストリームに割り当てられた名前が表示されます。
- スクロールノブ／スクロールバー表示
Destination エリア（③）のストリーム一覧に対して、画面内に表示されている設定項目の相対位置をスクロールバーで表示します。

メモ

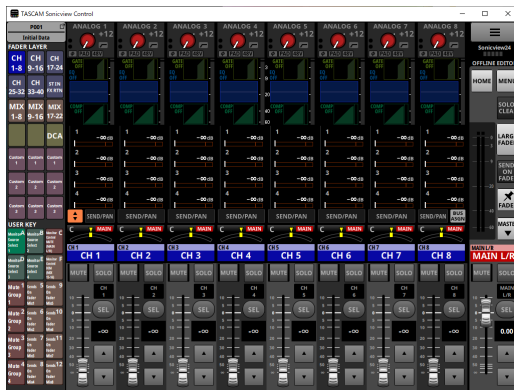
Destination エリア（③）に表示されていない設定項目を表示するには、設定項目表示を上下にスワイプして画面をスクロールします。

水色で点灯した LCD ノブ 8 を回してスクロールすることもできます。

第 14 章 ネットワーク経由での外部制御

TASCAM Sonicview Controlで本機を制御する

本機は、専用アプリケーション「TASCAM Sonicview Control」からネットワーク経由でリモートコントロールすることができます。



本機と「TASCAM Sonicview Control」を接続するためのネットワーク設定は、Network Setup画面で行います。（→ 136 ページ「Network Setup画面」）

メモ

- 「TASCAM Sonicview Control」については、アプリケーションの取扱説明書をご参照ください。
- 「TASCAM Sonicview Control」およびアプリケーションの取扱説明書は、TASCAMのウェブサイトからダウンロードすることができます。

Sonicview 16 / 16dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_16/support

Sonicview 24 / 24dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_24/support

外部制御プロトコル（Ember+）で本機を制御する

Ember+ デバイスの接続台数について

本機と Ember+ デバイスは複数台接続が可能で、Ember+ デバイス 12 台での接続動作確認を行っています。
ただし、実際の接続可能台数はネットワーク環境によって影響を受ける場合があります。

監視・制御について

本機の監視および制御は、Ember+によりネットワーク経由で行います。
詳細な操作方法については、「TASCAM Sonicview 16/24 外部制御仕様書（Ember+編）」をご参照ください。
本機に同時接続できる Ember+ デバイスの最大数は 12 台です。

メモ

Ember+は、Lawoグループによって開発された制御プロトコルです。

メーターデータの取得について

Ember+ではメーターデータを取得できません。
メーターデータの取得に関する詳細な仕様は、「TASCAM Sonicview 16/24 外部制御仕様書（メータープロトコル編）」をご参照ください。
同時に最大 12 台まで本機に接続してメーターデータを取得できます。

仕様書の入手方法

これらの仕様書は、下記の TASCAM ウェブサイトからダウンロードできます。

- TASCAM Sonicview 16/24 外部制御仕様書（Ember+編）
- TASCAM Sonicview 16/24 外部制御仕様書（メータープロトコル編）

Sonicview 16 / 16dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_16/support

Sonicview 24 / 24dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_24/support

SNMPで本機を監視する

SNMP（Simple Network Management Protocol）は、MIBと呼ばれる管理情報データベースをもとに、ネットワーク上の通信機器を監視・制御するためのプロトコルです。

本機はSNMPv1 およびSNMPv2 に対応しており、ネットワーク経由で本機の状況を確認できます。

SNMP管理ソフトウェアが利用できる場合は、これをインストールしたコンピューターから本機の監視ができます。

詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

本機で対応するSNMP監視対象パラメーター一覧

Clock Status
Sampling Rate
Clock Master
Slot 1
Slot 2
Media SD
Media USB
Recorder Status
Player Status
System Temperature
System Temperature Status
CPU Temperature
CPU Temperature Status
DSP Temperature
DSP Temperature Status
FAN Speed (RPM)
FAN Status
MTR Status
AC Status
DC Status
System Version
error list

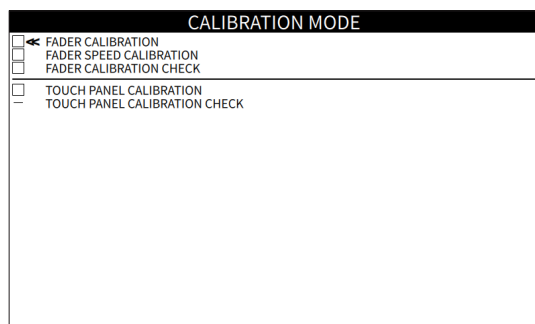
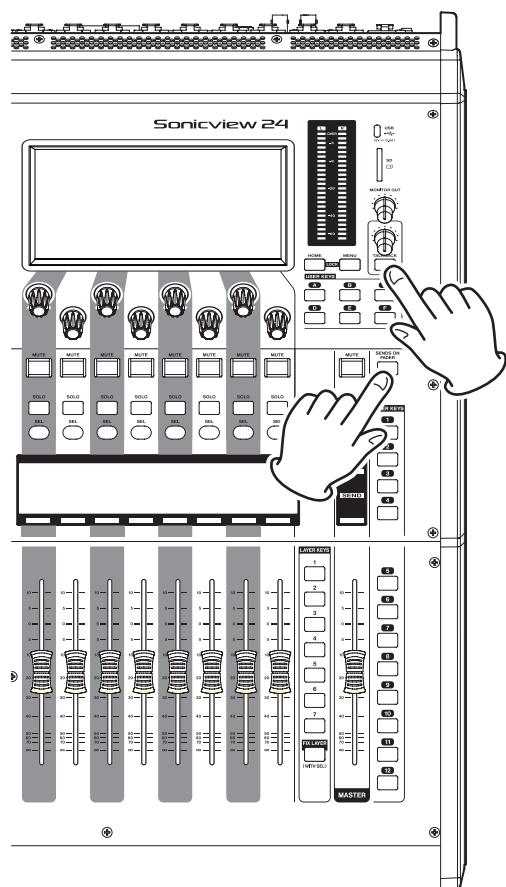
第 15 章 フェーダーとタッチパネルのキャリブレーション

フェーダーとタッチパネルの較正（キャリブレーション）を行う特別な動作モードです。
使用環境によっては、フェーダーの読み取り位置や移動位置、タッチスクリーンの検知位置にずれが生じる場合があります。
このずれは、キャリブレーションによって調節することができます。

キャリブレーションモードの起動と終了

キャリブレーションモードを起動するには

TALKBACKキーと SENDS ON FADERキーを押しながら、本機の電源をオンにします。
TALKBACKキーと SENDS ON FADERキーは、右端のタッチスクリーンに CALIBRATION MODE画面が表示するまで押し続けます。



キャリブレーションモードを終了するには

本機の電源をオフにします。

CALIBRATION MODE画面表示

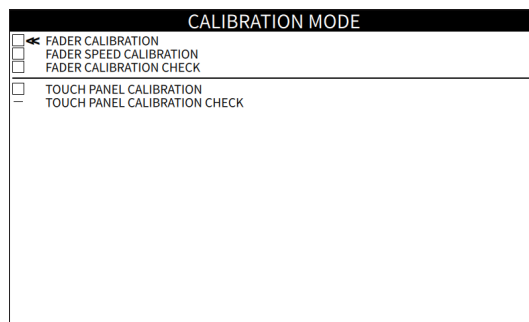
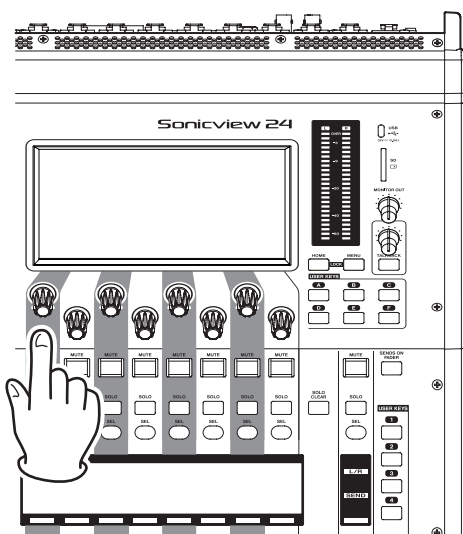
CALIBRATION MODE画面は、右端のタッチスクリーンに表示されます。

下記項目のメニュー操作を除き、右端以外のタッチスクリーンは、全画面オフ（黒表示）状態になります。

- TOUCH PANEL CALIBRATION
- TOUCH PANEL CALIBRATION CHECK

キャリブレーションモードメニュー操作

1. 右端のタッチスクリーン下部のLCDノブ1を回して、CALIBRATION MODE画面のカーソル「<<」を目的の項目に移動させます。



2. カーソル「<<」を目的の項目に移動後、LCDノブ1を押して項目を選択します。
3. 選択項目が正常に終了すると、該当するチェックボックスにチェックマーク「☑」が付いて、次の項目にカーソルが移動します。

メモ

各項目を実施中にHOMEキーが押されると、その項目を中断し、CALIBRATION MODE画面に戻ります。

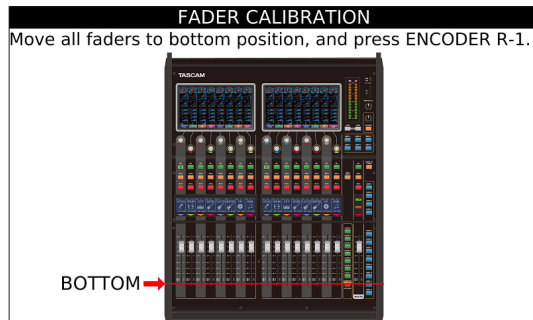
FADER CALIBRATION

各フェーダー位置の読み取り値 (A/D変換値) とトップパネルのフェーダー目盛り位置との較正 (キャリブレーション) を行います。

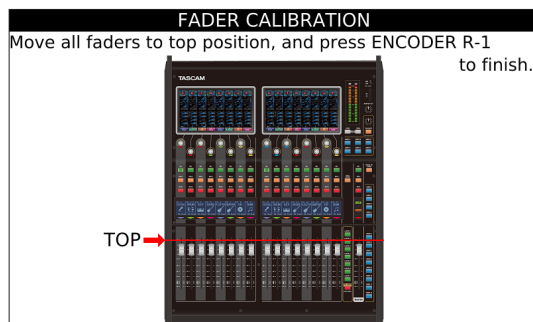
注意

FADER CALIBRATIONは、すべてのチャンネルフェーダーならびに MASTER フェーダーに対して下記手順 2 を実行する必要があります。個別の較正はできませんのでご注意ください。

1. LCD ノブ 1 を回して「FADER CALIBRATION」にカーソル「<<」を移動させ、LCD ノブ 1 を押します。
FADER CALIBRATIONの操作画面に切り換わります。



2. 較正するフェーダーの位置を、操作画面の赤線で指示します。操作画面の指示された目盛り位置に各フェーダーを手動で移動させ、フェーダー位置合わせを目視にて行います。位置合わせ完了ごとに LCD ノブ 1 (ENCODER R-1) を押して、目盛り位置を確定します。(本機の内部メモリーに記憶)
 - 較正するフェーダー目盛り位置の順番は、下記になります。
-∞(BOTTOM) → -60dB → -20dB → 0dB → 10dB(TOP)
 - 各フェーダーの較正中は、各チャンネル画面に対応するフェーダーの読み取り値を表示します。
3. フェーダーの位置合わせを「10dB (TOP)」まで、実行したら、FADER CALIBRATIONは完了です。



LCD ノブ 1 (ENCODER R-1) を押して、CALIBRATION MODE 画面に戻ります。
FADER CALIBRATION項目にチェックマーク「☑」が付き、カーソル「<<」が、次の項目に移動します。

メモ

キャリブレーションの実施中に HOME キーが押されると、キャリブレーションを中断し、CALIBRATION MODE画面に戻ります。この場合、該当項目にチェックマーク「☑」は付きません。

FADER SPEED CALIBRATION

各フェーダーの速度較正を自動で行います。

1. LCD ノブ 1 を回して「FADER SPEED CALIBRATION」にカーソル「<<」を移動させ、LCD ノブ 1 を押します。
各フェーダーのパラメーター画面に切り換わります。

FADER SPEED CALIBRATION									
Press ENCODER-R1 to start calibration. Press HOME to cancel calibration.									
	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	
Motor speed limit	344	352	358	382	352	338	352	352	
Motor kick speed	277	289	286	318	308	274	303	277	
	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	
Motor speed limit	368	338	363	362	350	368	362	363	
Motor kick speed	352	334	316	308	305	317	293	297	
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
Motor speed limit	350	363	345	362	357	338	362	343	
Motor kick speed	285	297	283	295	288	270	274	243	
	MASTER								
Motor speed limit	386								
Motor kick speed	347								

機種	表示内容
Sonicview 16 / 16dp	L/R1 ~ 8、MASTER
Sonicview 24 / 24dp	L/C/R1 ~ 8、MASTER

2. パラメーター画面で LCD ノブ 1 (ENCODER R-1) を押すと、フェーダーの速度較正を開始します。
 - 速度較正中は、パラメーター画面上部に「calibrating...」と表示します。

FADER SPEED CALIBRATION									
calibrating...									
	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	
Motor speed limit	344	352	358	382	352	338	352	352	
Motor kick speed	277	289	286	318	308	274	303	277	
	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	
Motor speed limit	368	338	363	362	350	368	362	363	
Motor kick speed	352	334	316	308	305	317	293	297	
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
Motor speed limit	350	363	345	362	357	338	362	343	
Motor kick speed	285	297	283	295	288	270	274	243	
	MASTER								
Motor speed limit	386								
Motor kick speed	347								

- 複数の較正フェーズがあるので、すべて完了するまでお待ちください。
 - 較正処理の進行具合に合わせて、フェーダー上部のカラーバー LEDが以下のように点灯します。
赤：該当較正フェーズの序盤
橙：該当較正フェーズの中盤
緑：該当較正フェーズの完了
 - すべてのフェーダー上部のカラーバー LEDが緑点灯になると 1 つの較正フェーズが完了し、次の較正フェーズに自動的に移行します。
3. すべてのフェーダーの速度較正が終わると、CALIBRATION MODE画面に戻り、FADER SPEED CALIBRATION項目にチェックマーク「☑」が付き、カーソル「<<」が、次の項目に移動します。

メモ

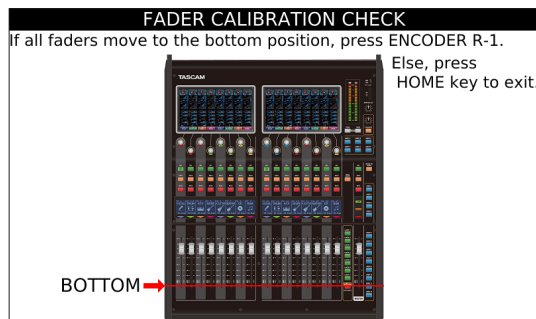
キャリブレーションの実施中に HOME キーが押されると、キャリブレーションを中断し、CALIBRATION MODE画面に戻ります。この場合、該当項目にチェックマーク「☑」は付きません。

第 15 章 フェーダーとタッチパネルのキャリブレーション

FADER CALIBRATION CHECK

FADER CALIBRATIONを行った各フェーダーが、正しい位置に移動できるかの動作確認を行います。

1. LCD ノブ 1 を回して「FADER CALIBRATION CHECK」にカーソル「<<」を移動させ、LCD ノブ 1 を押します。
FADER CALIBRATION CHECKの操作画面に切り換わります。



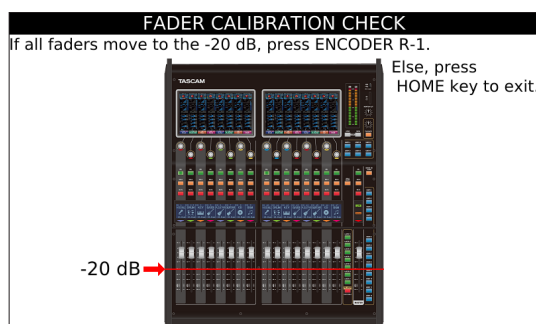
2. 動作確認するフェーダーの移動位置を、操作画面の赤線で指示します。
最初に「∞ (BOTTOM)」位置に各フェーダーが自動的に移動します。

メモ

確認するフェーダーの移動位置の順番は、以下になります。

−∞ (BOTTOM) → 0dB → −60dB → 10dB (TOP) → −20dB

3. 各フェーダーの移動位置を目視で確認します。
 - フェーダーの移動位置に問題が無い場合は、LCD ノブ 1 (ENCODER R-1) を押します。
 - LCD ノブ 1 (ENCODER R-1) を押すごとに、操作画面で指示する位置に各フェーダーが自動的に移動しますので、正しい位置に移動したかを目視で確認します。
 - フェーダーの移動位置に問題がある場合は、HOME キーを押して確認作業を中断し、331 ページ「FADER CALIBRATION」をもう一度、実施してください。
 - 各フェーダーの確認中は、各チャンネル画面に対応するフェーダーの移動位置を表示します。
4. フェーダーの移動位置の確認を「−20dB」まで実行したら、FADER CALIBRATION CHECKは完了です。



LCD ノブ 1 (ENCODER R-1) を押して、CALIBRATION MODE 画面に戻ります。

FADER CALIBRATION CHECK項目にチェックマーク「☑」が付き、カーソル「<<」が、次の項目に移動します。

メモ

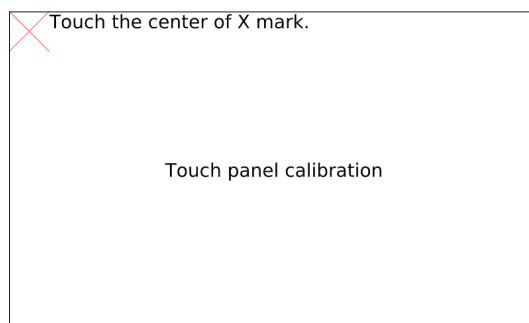
動作確認の実施中に HOME キーが押されると、動作確認を中断し、CALIBRATION MODE画面に戻ります。この場合、該当項目にチェックマーク「☑」は付きません。

TOUCH PANEL CALIBRATION

タッチスクリーンのタッチパネル機能の校正を行います。

- Sonicview 16 / 16dp の場合、タッチスクリーンは 2 面
- Sonicview 24 / 24dp の場合、タッチスクリーンは 3 面

1. LCD ノブ 1 を回して「TOUCH PANEL CALIBRATION」にカーソル「<<」を移動させ、LCD ノブ 1 を押します。
最初に左端のタッチスクリーンに TOUCH PANEL CALIBRATION画面が開きます。

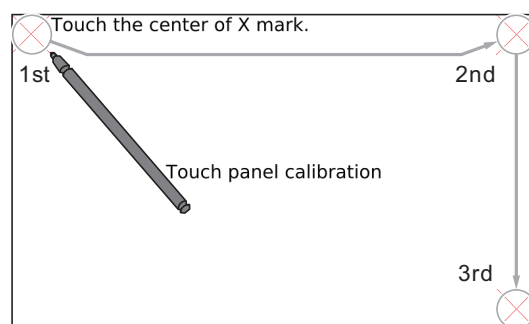


2. 画面に表示している「X」マークの中心をスタイラスペン*で、タッチしてから離します。
離れた瞬間の位置が、校正値として取り込まれます。

* TOUCH PANEL用のスタイラスペン（タッチペン）で校正を行ってください。

タッチスクリーンの表面を金属製（精密ドライバーなど）の物で押したり、叩いたりすると表面が傷ついて、タッチ操作ができなくなる恐れがあります。

3. タッチパネル校正は、タッチスクリーンの 3 コーナーを下記の順序で行います。
 - 左上（1つ目）→ 右上（2つ目）→ 右（3つ目）各コーナーに「X」マークが表示されますので、画面に表示される指示に従い「X」マークの中心をスタイラスペンでタッチしてから離します。
1つのタッチスクリーンの校正が終わると、次のタッチスクリーンのコーナーに「X」マークが移動します。



4. すべてのタッチパネルの校正が終了後、CALIBRATION MODE 画面に戻り、TOUCH PANEL CALIBRATION項目にチェックマーク「☑」が付き、カーソル「<<」が、次の項目に移動します。

メモ

キャリブレーションの実施中に HOME キーが押されると、キャリブレーションを中断し、CALIBRATION MODE画面に戻ります。この場合、該当項目にチェックマーク「☑」は付きません。

TOUCH PANEL CALIBRATION CHECK

タッチパネル校正で取り込んだ位置の確認を行います。

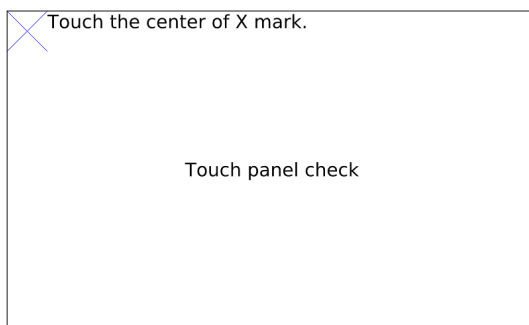
- Sonicview 16 / 16dp の場合、タッチスクリーンは 2 面
- Sonicview 24 / 24dp の場合、タッチスクリーンは 3 面

注意

TOUCH PANEL CALIBRATION CHECK は、TOUCH PANEL CALIBRATION を行った後に実施してください。

TOUCH PANEL CALIBRATION を実施していない場合、正確な位置の確認が行えません。

1. CALIBRATION MODE 画面で LCD ノブ 1 を回して、目的の項目にカーソル「<<」を移動させ、LCD ノブ 1 を押します。
2. 最初に左端のタッチスクリーンに TOUCH PANEL CALIBRATION CHECK 画面が開きます。

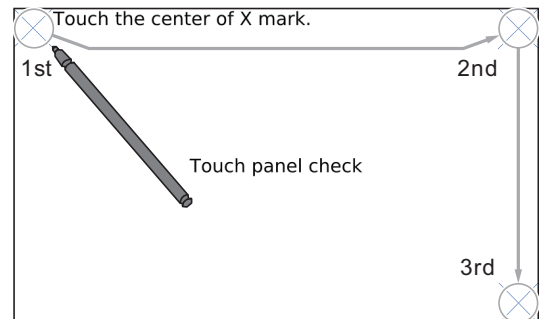


3. 画面に表示している「X」マークの中心をスタイラスペン*で、タッチします。

* TOUCH PANEL 用のスタイラスペン（タッチペン）で校正を行ってください。
金属製（精密ドライバーなど）の物で押したり、叩いたりするとタッチスクリーンの表面が傷ついて、タッチ操作ができなくなる恐れがあります。

4. タッチパネル校正の確認は、タッチスクリーンの 3 コーナーを下記の順序で行います。

- 左上（1 つ目）→ 右上（2 つ目）→ 右（3 つ目）
各コーナーに「X」マークが表示され、すべての校正が終わると、次のタッチスクリーンのコーナーに「X」マークが移動します。



5. タッチパネル校正を行った位置とタッチした位置が正しいと、タッチした場所の「X」マークが消え、次の確認場所に「X」マークを表示します。
 - タッチした位置が、「X」マークの中心からずれている場合、タッチしている間は X・Y 方向にガイド線を表示します。
 - タッチした状態でガイド線を移動させ、「X」マークとガイドの交点が一致した場合、正しく校正ができている場合は、ガイド線と「X」マークが消えます。
 - タッチした先端とガイド線の交点がずれている場合、タッチパネル校正が、正しく終わらなかった可能性があります。その場合、タッチパネル校正を最初からやり直して、もう一度、タッチパネル校正の確認を行ってください。
6. すべてのタッチパネルの校正確認が終了後、CALIBRATION MODE 画面に戻り、TOUCH PANEL CALIBRATION CHECK 項目にチェックマーク「☑」が付き、カーソル「<<」が、次の項目に移動します。

メモ

動作確認の実施中に HOME キーが押されると、動作確認を中断し、CALIBRATION MODE 画面に戻ります。この場合、該当項目にチェックマーク「☑」は付きません。

第 16 章 ショートカット操作の一覧表

本機には、キーやタッチスクリーンなどの同時操作により、特定の操作が簡単にできるショートカット操作が用意されています。

- HOME キーとの同時押し：対象パラメーターを基準値にリセットします。(輝度調節を除く)

ショートカット操作	内容
トップパネルの HOME キーを押しながら、任意の SEL キーを押す	<ul style="list-style-type: none">• トップパネルの SEL キーを押されたチャンネルの FADER レベルを「0dB」に設定します。• トップパネルの SENDS ON FADER キーが押されているとき (Sends On Fader モードがオンのとき) は、SEND レベルを「0dB」に設定します。• GEQ 画面の FADER Ctrl 機能がオンの時は、対応する周波数の GEQ ゲインを「0dB」に設定します。
トップパネルの HOME キーを押しながら、タッチスクリーンの SEND レベルエリアをタップする	<p>以下のパラメーターを「0dB」に設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• ホーム画面の SEND レベル• MODULE (OVERVIEW) 画面の FADER レベル• MODULE (SEND/PAN) 画面の SEND レベル• SEND OVERVIEW 画面の SEND LEVEL (INPUT) タブ画面および SEND LEVEL (BUS) タブ画面の SEND レベル / MASTER レベル• SEND OVERVIEW 画面の FADER LEVEL タブ画面の FADER レベルおよび MASTER レベル
トップパネルの HOME キーを押しながら、タッチスクリーンの PAN エリアをタップする	<p>以下のパン / バランスの設定を中央 (C) に設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• ホーム画面の PAN / BAL• MODULE (OVERVIEW) 画面の PAN / BAL• MODULE (SEND/PAN) 画面の PAN / BAL• SEND OVERVIEW 画面の SEND PAN (INPUT) タブ画面および SEND PAN (BUS) タブ画面の PAN / BAL
トップパネルの HOME キーを押しながら、タッチスクリーンの EQ ゲインエリアをタップする	各モジュールの MODULE (EQ) 画面の EQ ゲイン設定を「0dB」に設定します。
トップパネルの HOME キーを押しながら、いずれかの LCD ノブを回す	タッチスクリーン / チャンネル画面 / 各種インジケーター / リアパネルの LAMP 端子に接続しているランプの輝度を一括で調節することができます。
トップパネルの HOME キーを押しながら、いずれかの LCD ノブを押し回しする	タッチスクリーン / チャンネル画面の輝度を一括で調節することができます。

第 16 章 ショートカット操作の一覧表

- MENU キーとの同時押し：該当するキーの設定画面を表示します。（コントラスト 調節を除く）

ショートカット操作	内容	
トップパネルの MENU キーを押しながら、TALKBACK キーを押す	タッチスクリーンの表示を TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面の TALKBACK タブ画面に切り換えます。	
トップパネルの MENU キーを押しながら、任意の SOLO キーまたは SOLO CLEAR キーを押す	タッチスクリーンの表示を TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面の SOLO / OSCILLATOR タブ画面に切り換えます。	
トップパネルの MENU キーを押しながら、任意の LAYER KEYS 1-7 キーを押す	タッチスクリーンの表示を選択したレイヤーの Layer Key SETUP画面に切り換えます。	
トップパネルの MENU キーを押しながら、任意の USER KEY A-F キーまたは USER KEY 1-12 キーを押す	タッチスクリーンの表示を USER KEYS A-F キーおよび USER KEYS 1-12 キーにアサインされた機能に対応した下記画面に切り換えます。	
	USER キー Function	MENU+USER キーで呼び出す画面
	未設定	押された USER キーの USER KEY 設定画面
	Snapshot	Snapshot リスト画面
	Monitor	TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面の MONITOR 1 / 2 タブ画面
	SOLO	TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面の SOLO / OSCILLATOR タブ画面
	OSC	TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面の SOLO / OSCILLATOR タブ画面
	Talkback	TALKBACK / MONITOR / SOLO / OSC SETUP画面の TALKBACK タブ画面
	LED Indication	何もしない
	Sends On Fader	何もしない
	Recorder/Player	RECORDER / PLAYER画面
	MTR	MULTI TRACK RECORDER画面
	Insert ON/OFF	MODULE (OVERVIEW) 画面
	Send On/Off	Parameter1 で設定されたモジュールの MODULE (SEND/PAN) 画面
	Mute	操作対象が Mute Group 1-8 の場合、Mute Group Assign画面。 操作対象が Mute Group 1-8 以外の場合、何もしない。
	Tap Tempo	アサインされた番号の FX の MODULE (FX) 画面
	Screen	Parameter1、2 で設定された画面
トップパネルの MENU キーを押しながら、任意の LCD ノブを回す	回した LCD ノブに対応したチャンネル画面のコントラストを調節することができます。	

第 17 章 トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。
それでも改善しないときは、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご連絡ください。

電源がオンにならない

- 電源プラグなどがしっかりと差し込まれているか確認してください。

音が出ない

- 入出力のルーティングやバスアサインが正しく設定されているか？
- モニターシステムとの接続をもう一度確認してください。また、アンプの音量を確認してください。
- モニターソースが正しく選択されていますか？
- チャンネルフェーダーは、適正なレベルまで上がっていますか？
- MASTER フェーダーは、適正なレベルまで上がっていますか？
- ヘッドホンボリュームまたは MONITOR OUT ボリュームが適正なレベルまで上がっていますか？
- 各チャンネルの MUTE キー (③) や SOLO キー (④) がオンになっていませんか？

雑音がする

- 接続ケーブルが接続不良になっていないか、確認してください。

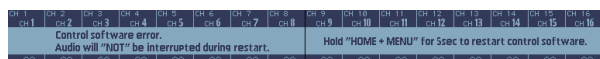
設定を変えたのに記憶されていない

本機では、1 分間隔で設定の保存を行っています。
電源を切るタイミングによっては、保存を失敗してしまう場合がありますので、電源を切る前にメニュー画面の Save Current Settings 項目で現在の設定を内蔵メモリーに保存してください。

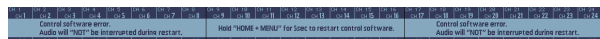
タッチスクリーン操作ができない

- タッチスクリーン操作ができなくなったことをシステムが検知すると、以下のメッセージがチャンネル画面に点滅表示されます。

Sonicview 16 / 16dp の場合



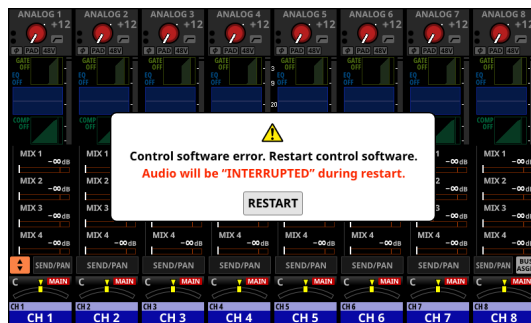
Sonicview 24 / 24dp の場合



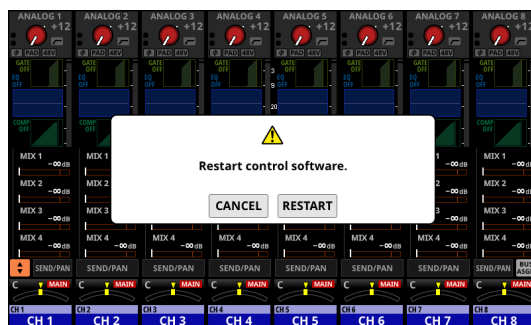
メッセージの指示にしたがって HOME キーと MENU キーを 5 秒以上押し続けると、システムが再起動してタッチスクリーン操作ができるようになります。
この際、音声は途切れずに出力されますが、再起動中はフェーダーや MUTE の操作ができなくなります。
再起動が完了するまでは時間がかかりますので、支障のないタイミングで再起動を実施してください。

フェーダー、キー、LCD ノブの操作ができない

- フェーダー、キー、LCD ノブの操作ができなくなったことをシステムが検知すると、以下のメッセージがタッチスクリーンに表示されます。



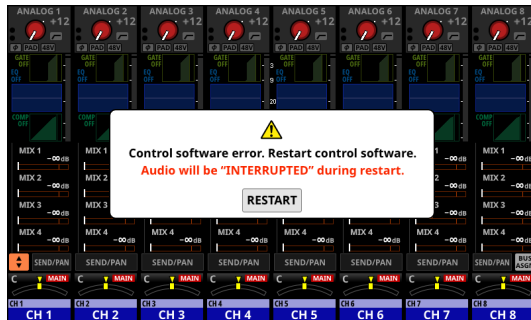
RESTART ボタンをタップすると、再度確認画面が表示されます。



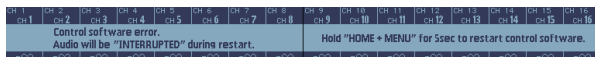
確認画面で RESTART ボタンをタップすると、システムが再起動してフェーダー、キー、LCD ノブが操作できるようになります。
ただし、再起動中は音声出力が止まります。
再起動が完了するまでは時間がかかりますので、支障のないタイミングで再起動を実施してください。

タッチスクリーン上のパラメーターは操作できるが 音声に反映されない

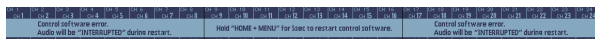
- 信号処理デバイスでトラブルが発生した可能性があります。信号処理制御デバイスのトラブルをシステムが検知すると、以下のメッセージがタッチスクリーンとチャンネル画面に表示されます。



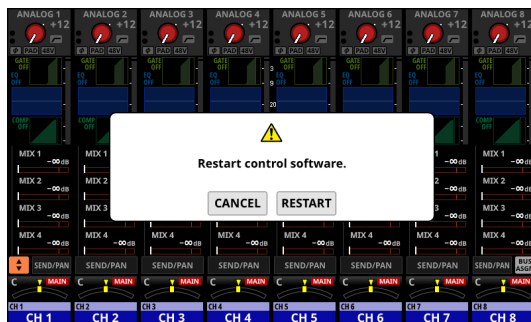
Sonicview 16 / 16dp の場合



Sonicview 24 / 24dp の場合



RESTART ボタンをタップすると、再度確認画面が表示されます。



確認画面で RESTART ボタンをタップすると、システムが再起動して正常に LCD ノブが操作できるようになります。また、チャンネル画面のメッセージの指示にしたがって、HOME キーと MENU キーを 5 秒以上押し続けることでも、システムを再起動させることができます。

ただし、再起動中は音声出力が止まります。

再起動が完了するまでは時間がかかりますので、支障のないタイミングで再起動を実施してください。

第 18 章 仕様／定格

内部処理

同時処理能力

- 入力：52
 - モノラル：40
 - ステレオ：2 ステレオ
 - FX Return：4 ステレオ
- バス：32
 - AUX/GROUP切り換え可能なMIXバス：22
 - MAIN L/Rバス：1 ステレオ
 - FX SENDバス：4 ステレオ
- 内蔵FX：4

入力ポート

- 96kHz：最大 160 ポート (Sonicview 24 / 24dp)、
最大 152 ポート (Sonicview 16 / 16dp)
48kHz：最大 256 ポート (Sonicview 24 / 24dp)、
最大 248 ポート (Sonicview 16 / 16dp)
- MIC/LINE：24 (Sonicview 24 / 24dp)、
16 (Sonicview 16 / 16dp)
 - ST IN (RCA)：4 (2 ステレオ)
 - Dante：32 (96kHz)、64 (48kHz)
 - SLOT：32x2 スロット (96kHz)、64x2 スロット (48kHz)
 - USB AUDIO：32
 - 内蔵プレイヤー：2 (1 ステレオ)
 - OSC：1
 - TALKBACK：1

出力ポート

- 96kHz：最大 148 ポート
48kHz：最大 244 ポート
- OUTPUT (アナログ)：16
 - Dante：32 (96kHz)、64 (48kHz)
 - SLOT：32x2 スロット (96kHz)、64x2 スロット (48kHz)
 - USB AUDIO：32
 - MONITOR OUT (アナログ)：2 (1 ステレオ)
 - 内蔵レコーダー：2 (1 ステレオ)

入出力ポート

- アナログ・インサート I/O：2 I/O
MIC/LINE入力 15/16 (Sonicview 24 / 24dp)
MIC/LINE入力 7/8 (Sonicview 16 / 16dp)

信号処理

- ミキサーエンジン：96kHz / 浮動小数点 54bit演算
- ADC：96kHz / 32bit
- DAC：96kHz / 24bit
- デジタル I/O サンプリング周波数：96kHz、48kHz

Signal Delay

48kHz	[ms]	経路詳細
A to A	0.510	MIC/LINE IN → CH モジュール → MAIN L/R BUS → MAIN L/R モジュール → OUTPUT (アナログ)
A to A	0.620	MIC/LINE IN → CH モジュール → MAIN L/R BUS → MAIN L/R モジュール → MONITOR OUT
D to D	0.498	SLOT MADI IN → CH モジュール → MAIN L/R BUS → MAIN L/R モジュール → SLOT MADI OUT
A to D	0.458	MIC/LINE IN → CH モジュール → MAIN L/R BUS → MAIN L/R モジュール → SLOT MADI OUT
D to A	0.571	SLOT MADI IN → CH モジュール → MAIN L/R BUS → MAIN L/R モジュール → OUTPUT (アナログ)
D to A	0.666	SLOT MADI IN → CH モジュール → MAIN L/R BUS → MAIN L/R モジュール → MONITOR OUT

96kHz	[ms]	経路詳細
A to A	0.510	MIC/LINE IN → CH モジュール → MAIN L/R BUS → MAIN L/R モジュール → OUTPUT (アナログ)
A to A	0.620	MIC/LINE IN → CH モジュール → MAIN L/R BUS → MAIN L/R モジュール → MONITOR OUT
D to D	0.104	SLOT MADI IN → CH モジュール → MAIN L/R BUS → MAIN L/R モジュール → SLOT MADI OUT
A to D	0.261	MIC/LINE IN → CH モジュール → MAIN L/R BUS → MAIN L/R モジュール → SLOT MADI OUT
D to A	0.374	SLOT MADI IN → CH モジュール → MAIN L/R BUS → MAIN L/R モジュール → OUTPUT (アナログ)
D to A	0.468	SLOT MADI IN → CH モジュール → MAIN L/R BUS → MAIN L/R モジュール → MONITOR OUT

オーディオ性能

0dBu = 0.775Vrms

マイクアンプ EIN (入力換算雑音)

− 128dBu以下

周波数特性

MIC/LINE IN → OUTPUT (アナログ)
20Hz - 40kHz : +0dB、− 1.0dB (JEITA)

ダイナミックレンジ

108dB以上 (MIC/LINE IN → OUTPUT (アナログ)、PAD = OFF、TRIM最小、D.Ref = − 20dBFS、Clock Master = INT、JEITA)
110dB以上 (MIC/LINE IN → Dante OUT、PAD = OFF、TRIM最小、JEITA)
112dB以上 (Dante IN → OUTPUT (アナログ)、Clock Master = INT、JEITA)

歪率

0.002%以下 (MIC/LINE IN → OUTPUT (アナログ)、+4dBu入力時、PAD = OFF、TRIM最小、JEITA)
0.002%以下 (MIC/LINE IN → Dante OUT、+4dBu入力時、PAD = OFF、TRIM最小、JEITA)
0.002%以下 (Dante IN → OUTPUT (アナログ)、0dBFS入力時、JEITA)

クロストーク

100dB以上 (MIC/LINE IN → OUTPUT (アナログ)、1kHzサイン波、JEITA)

D.Ref : Digital Reference Level設定

アナログオーディオ入出力定格

0dBu = 0.775Vrms、0dBV = 1Vrms

MIC/LINE入力端子

Sonicview 16 / 16dp : 1-16
Sonicview 24 / 24dp : 1-24
コネクタ : XLR-3-31 相当 (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)
入力レベル :
PAD オフ時
最大入力レベル : +12dBu (TRIM最小)
最小入力レベル : − 62dBu (TRIM最大)
PAD オン時
最大入力レベル : +32dBu (TRIM最小)
最小入力レベル : − 42dBu (TRIM最大)
入力インピーダンス : 5.0kΩ以上

メモ

+ 48Vのファンタム電源をMIC/LINE入力端子ごとに供給可能です。

LINE IN (BAL) 端子

Sonicview 16 / 16dp : 9-16
Sonicview 24 / 24dp : 17-24
コネクタ : φ 6.3mm (1/4") TRS フォンジャック
(Tip : HOT、Ring : COLD、Sleeve : GND)
入力レベル :
PAD オフ時
最大入力レベル : +12dBu (TRIM最小)
最小入力レベル : − 62dBu (TRIM最大)
PAD オン時
最大入力レベル : +32dBu (TRIM最小)
最小入力レベル : − 42dBu (TRIM最大)
入力インピーダンス : 5.0kΩ以上

INSERT端子

Sonicview 16 / 16dp : 7-8
Sonicview 24 / 24dp : 15-16
コネクタ : φ 6.3mm (1/4") TRS フォンジャック
(Tip : SEND、Ring : RETURN、Sleeve : GND)

RETURN (Ring)

最大入力レベル : +18dBu
規定入力レベル : − 2dBu
入力インピーダンス : 5kΩ以上

SEND (Tip)

最大出力レベル : +18dBu
規定出力レベル : − 2dBu
出力インピーダンス : 100 Ω以下

TALKBACK入力端子

コネクタ : XLR-3-31 相当 (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)
最大入力レベル : +10dBu
最小入力レベル : − 65dBu
ゲイン調節範囲 : 0 ~ 55dB
入力インピーダンス : 5.0kΩ以上

メモ

+ 48Vのファンタム電源を供給可能です。

ST IN 1-2 L / R端子

コネクタ : RCA ピンジャック
最大入力レベル : +6dBV
規定入力レベル : − 10dBV
ヘッドルーム : 16dB
入力インピーダンス : 10kΩ以上

OUTPUT 1-16 端子

コネクタ : XLR-3-32 相当 (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)
出力インピーダンス : 100 Ω以下
規定出力レベル :
+6dBu (D.Ref : − 9dBFS、A.Ref : +6dBu)
+4dBu (D.Ref : − 14 / − 16 / − 18 / − 20dBFS、A.Ref : +4dBu)
0dBu (D.Ref : − 18 / − 20dBFS、A.Ref : 0dBu)
最大出力レベル :
+15dBu (D.Ref : − 9dBFS、A.Ref : +6dBu)
+18dBu (D.Ref : − 18dBFS、A.Ref : 0dBu)
+20dBu (D.Ref : − 20dBFS、A.Ref : 0dBu)
+18dBu (D.Ref : − 14dBFS、A.Ref : +4dBu)
+20dBu (D.Ref : − 16dBFS、A.Ref : +4dBu)
+22dBu (D.Ref : − 18dBFS、A.Ref : +4dBu)
+24dBu (D.Ref : − 20dBFS、A.Ref : +4dBu)

D.Ref : Digital Reference Level設定
A.Ref : Analog Reference Level設定

MONITOR OUT L ／ R端子

コネクター：XLR-3-32 相当（1：GND、2：HOT、3：COLD）
最大出力レベル：+24dBu
規定出力レベル：+4dBu
出力インピーダンス：100 Ω 以下

PHONES端子

コネクター： ϕ 6.3mm（1/4"）ステレオフォンジャック、
 ϕ 3.5mm（1/8"）ステレオミニジャック
最大出力：100mW + 100mW
（32 Ω 負荷、片側ジャックのみに接続時）

デジタルオーディオ入出力定格

Dante PRIMARY ／ SECONDARY端子

コネクター：etherCON Cat5e 互換コネクター ＊
伝送プロトコル：Dante
Gigabit Ethernet規格：1000BASE-T（IEEE 802.3ab）
ケーブル：カテゴリー 5e以上の STP ケーブル
＊ etherCONは、Neutrik AGの登録商標です。

USBオーディオ

サンプリングレート：48kHz、96kHz
量子化ビット数：32bit ／ 24bit ／ 16bit
入力数：32 チャンネル（本機への入力）
出力数：32 チャンネル（本機からの出力）

コントロール入出力定格

FOOTSWITCH端子

コネクター： ϕ 6.3mm（1/4"）TS フォンジャック
（Tip：Hot、Sleeve：GND）

ETHERNET端子

コネクター：RJ-45
対応規格：100BASE-TX、1000BASE-T

GPIO端子

コネクター：D-sub 25ピン（8イン／8アウト、メス型インチ規格）
● GPIO端子のピンアサインは、15 ページ「GPIO端子について」をご参照ください。

その他の入出力定格

USB端子（トップパネル）

コネクター：USB Type-C
プロトコル：USB2.0 HIGH SPEED（480Mbps）

USB端子（リアパネル）

コネクター：USB Type-B
プロトコル：USB2.0 HIGH SPEED（480Mbps）

LAMP端子

コネクター：XLR 4pin メス（4pin：+12V、3pin：GND）
供給電圧：0V～+12V
最大電力：5W

WORD IN端子

コネクター：BNC コネクター
入力レベル：0.5V ～ 5V p-p
入力インピーダンス：75 Ω \pm 10%（終端抵抗オン）＊
入力周波数：48k/96kHz
許容周波数偏差： \pm 100ppm

＊ 終端抵抗のオン／オフ切り換えは、36 ページ「SYNC CLOCK画面」の「4WORD OUT Modeボタン」を参照。

WORD THRU/OUT端子

コネクター：BNC コネクター
出力レベル：5V TTL相当
出力周波数：48k/96kHz

● スルー／ワード出力の切り換えは、36 ページ「SYNC CLOCK画面」の「4WORD OUT Modeボタン」を参照。

レコーダー部仕様

記録メディア

SDHC カード (8GB ～ 32GB CLASS10 以上)
SDXC カード (64GB ～ 128GB CLASS10 以上)
USB メモリー (8GB ～ 128GB) (再生のみ)

メモ

本機にて動作が確認された SD カード／USB メモリーのリストが、TASCAM のウェブサイトに掲載されています。

Sonicview 16 / 16dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_16/support

Sonicview 24 / 24dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_24/support

このリストに掲載されている SD カード／USB メモリーをご使用ください。もしくは、タスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

対応ファイルシステム

SDHC カード：FAT32
SDXC カード：exFAT
USB メモリー：FAT32/exFAT

録音再生フォーマット

BWF/WAV
録音：48k/96kHz、24bit、2ch
再生：48k/96kHz、16/24bit、2ch
MP3
再生：44.1k/48kHz 32k ～ 320kbps、2ch
AAC
再生：44.1k/48kHz 64k ～ 320kbps、2ch

OS / 動作条件

最新の対応 OS 状況については、TASCAM のウェブサイトをご確認ください。

Sonicview 16 / 16dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_16/support

Sonicview 24 / 24dp

https://tascam.jp/jp/product/sonicview_24/support

注意

各 OS での動作確認は、下記のシステム条件を満たす標準的な環境での結果になります。下記の条件を満たす環境であっても動作を保証するものではありません。

対応 OS

Windows*
macOS

* 当社製ドライバー使用時 ARM64 CPU は動作保証外

一般

電源

AC 電源：
AC100-240V、50/60Hz
DC 電源 (Sonicview 16dp / 24dp のみ)：
DC14V (下限) ～ DC27V (上限) / 6A ～ 3A

- DC 電圧／電流範囲：14V / 6A - 27V / 3A
- XLR-4-32 相当 (1：-、2：NC、3：NC、4：+)

メモ

付属されている AC アダプター以外の外部電源を使用する場合は、電圧公差も含めて 14V 以上のものを使用してください。

消費電力

Sonicview 16 / 16dp：65W
Sonicview 24 / 24dp：85W

外形寸法

Sonicview 16 / 16dp：472.0 x 228.1 x 554.4mm
Sonicview 24 / 24dp：690.8 x 228.1 x 554.4mm
(幅 x 高さ x 奥行き)

質量

Sonicview 16 / 16dp：13kg
Sonicview 24 / 24dp：18kg

動作温度

0 ～ 40℃

動作湿度

25 ～ 85%RH (32℃時、結露なきこと)

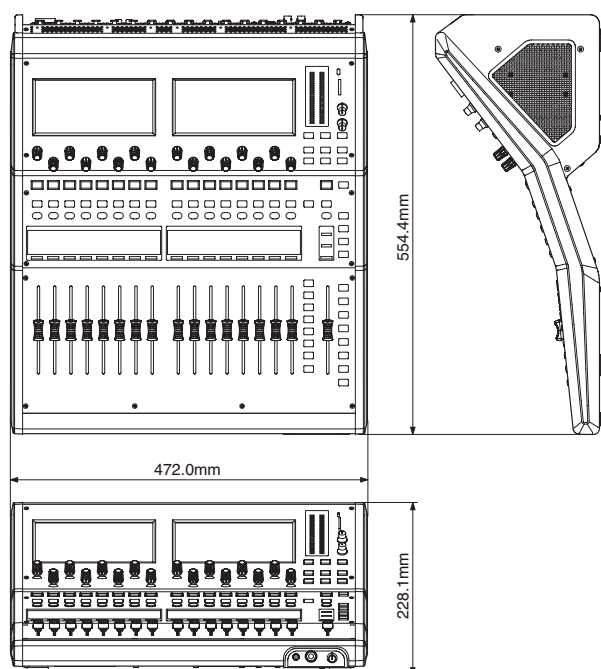
AC アダプター仕様 (Sonicview 16dp / 24dp のみ)

入力：AC 100-240V、50/60Hz
出力：DC 24V、5.0A
ケーブル長
XLR (4-pin) ケーブル：1.5m
AC ケーブル：2.0m
外形寸法：60.0 x 35.0 x 140.5 mm
(幅 x 高さ x 奥行き、突起部を含む)
質量：440g
認定タイプ：ATS120A1-P240
供給元：ADAPTER TECH
(AC アダプターは供給元により認証済み)

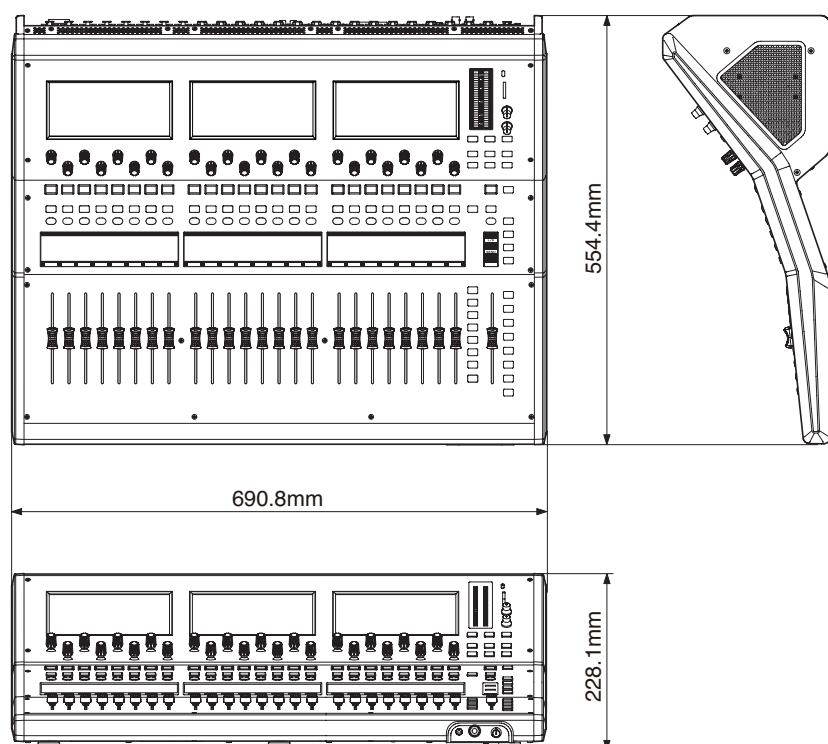
- リファレンスマニュアルのイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

寸法図

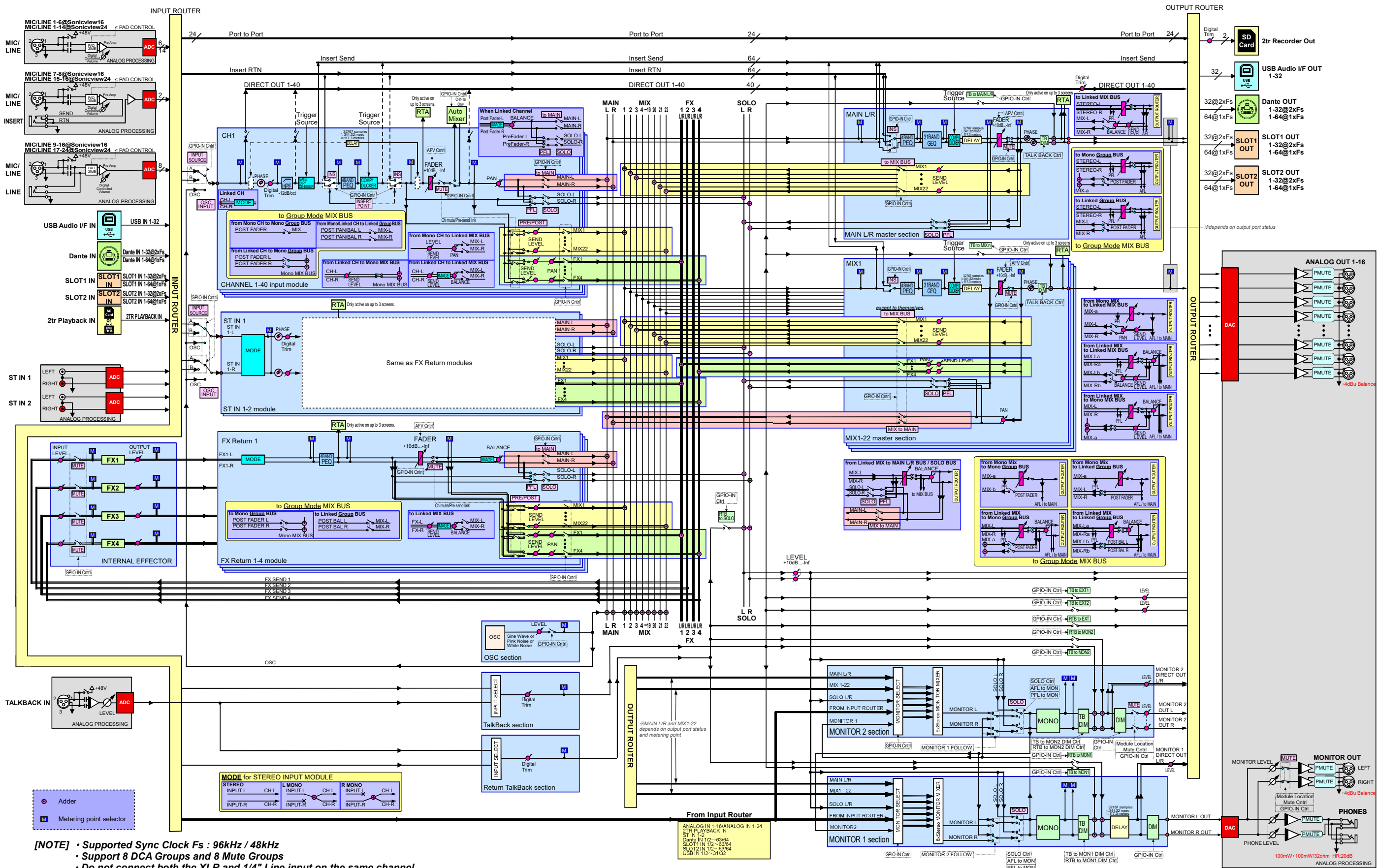
Sonicview 16 / 16dp



Sonicview 24 / 24dp



Sonicview V2.3.0



- [NOTE] • Supported Sync Clock Fs : 96kHz / 48kHz
• Support 8 DCA Groups and 8 Mute Groups
• Do not connect both the XLR and 1/4" Line input on the same channel.
• Comp Key-in Trigger Source : SELF, CH1-40 Pre Comp, MIX1-22 Pre Comp, MAIN L/R Pre Comp
• Ducker Key-in Trigger Source : none, CH1-40 Post Fader, MIX1-22 Post Fader, MAIN L/R Post Fader

Sonicview 16/Sonicview 24 Mixer Audio Block Diagram

Sonicview 16/24/16dp/24dp Mixer Basic Parameters

Libraries

Name	User	Preset
Snapshot	128	1
MODULE INPUT	128	2
MODULE FX RTN	128	4
MODULE OUTPUT	128	1
EQ	128	18
GEQ	128	0
GATE/EXP/DE-ESSER	128	11
COMP/DUCKER	128	12
FX	128	14

Input Modules

Function		Parameter	steps	Fine Step (LCD ノブを押さずに 回した場合)	Coarse Steps (LCD ノブを押しながら 回した場合)
Pre Amp	Analog Gain	Analog Reference Level = +4dBu / Digital Reference Level = - 20dBFS時 PAD OFF時 : +12dB ~ +66dB PAD ON時 : - 8dB ~ +46dB メモ 各種 Analog Reference Level と Digital Reference Level のときの 値域については、347 ページ「各 Reference Level ごとの Pre Amp Analog Gain」をご参照ください。	55	1dB/click	2dB/click
	PAD	OFF/ON			
	Phantom	OFF/ON			
OSC INPUT		OFF/ON			
Phase Sw		Normal/Reverse			
D.TRIM		- 50.0dB ~ +20.0dB	141	0.5dB / click	2.0dB/click
HPF	Switch	OFF/ON			
	Freq	20Hz ~ 1.0kHz	69	1point/click 1/12oct/click	3step/click 1/4oct/click
DIRECT OUT	Direct Out Switch	OFF/ON			
	Direct Out Point	INPUT/POST HPF/POST FADER			
	Direct Out Trim	- 20.0dB ~ +20.0dB	401	0.1dB/click	2.0dB/click
INSERT	Switch	OFF/ON			
	Insert Point	PRE EQ/PRE FADER			
GATE / EXP / DE-ESSER	Dynamics1 Switch	OFF/ON			
	Dynamics1 Type	GATE/EXPANDER/DE-ESSER			
GATE	Gate Threshold	- 80dB ~ 0dB	81	1dB/click	4dB/click
	Gate Range	- 60dB ~ 0dB	61	1dB/click	3dB/click
	Gate Attack	0ms ~ 125ms	126	1ms/click	5ms/click
	Gate Hold	0ms ~ 990ms	100	10ms/click	50ms/click
	Gate Decay	5ms ~ 5.00s	100	1point/click	5point/click

Function		Parameter	steps	Fine Step (LCD ノブを押さずに 回した場合)	Coarse Steps (LCD ノブを押しながら 回した場合)
EXP	Expander Threshold	- 60dB ~ 0dB	61	1dB/click	3dB/click
	Expander Ratio	1 : 1、2 : 1、4 : 1、8 : 1、16 : 1、 32 : 1、64 : 1	7	1point/click	1point/click
	Expander Knee	HARD/MID/SOFT	3	1point/click	1point/click
	Expander Attack	0ms ~ 125ms	126	1ms/click	5ms/click
	Expander ReleaseTime	5ms ~ 5.00s	100	1point/click	5point/click
DE-ESSER	De-Esser Threshold	- 40dB ~ 0dB	41	1dB/click	2dB/click
	De-Esser Knee	HARD/MID/SOFT	3	1point/click	1point/click
	De-Esser CenterFreq	1.0kHz ~ 10.0kHz	91	0.1kHz/step	0.5kHz/step
	De-Esser Q	1.04 ~ 17.31	28	1point/click	1point/click
4 BAND EQ	Switch	OFF/ON			
	Band Switch	OFF/ON			
	Gain	- 18.0 ~ +18.0	361	0.1dB/click	1.0dB/click
	Freq	20Hz ~ 20.0kHz	121	1point/click 1/12oct/click	6 point/click 1/2oct/click
	Q	0.10 ~ 17.31	55	1point/click	3point/click
	Type (LO)	L.Shelf/Bell			
	Type (HI)	H.Shelf/Bell/LPF			
31 BAND GEQ	Switch	OFF/ON			
	Gain	- 18.0 ~ +18.0	361	0.1dB/click	1.0dB/click
COMP / DUCKER	Switch	OFF/ON			
	Type	COMP/DUCKER			
	Key In Source	SELF、CH 1-40、MIX 1-22、MAIN L/ R			
	Key In Filter Switch	OFF/ON			
	Key In Filter Type	HPF/BPF/LPF			
	Key In Filter Freq	20Hz ~ 20.0kHz	121	1point/click 1/12oct/click	6point/click 1/2oct/click
	Key In Filter Q	0.10 ~ 17.31	55	1point/click	3point/click
COMP	Comp Thresh	- 49dB ~ 0dB	50	1dB/click	2dB/click
	Comp Ratio	1.00 : 1 ~ ∞ : 1	21	1point/click	1point/click
	Comp Knee	HARD HARD MID MID SOFT MID SOFT SMOOTH	6	1point/click	1point/click
	Comp Attack	0.02ms ~ 125ms	135	1point/click	5point/click
	Comp Release	5ms ~ 5.00s	100	1point/click	5point/click
	Comp Auto Makeup	OFF/ON			
	Comp Output Gain	0dB ~ +20dB	21	1dB/click	1dB/click
DUCKER	Ducker Threshold	- 60dB ~ - 6dB	5	6dB/click	6dB/click
	Ducker Attenuation	-∞、- 24、- 18、- 12、- 9、- 6、- 3 (dB)	7	1point/click	1point/click
	Ducker HoldTime	0.1sec ~ 5.0sec	50	0.1sec/click	0.1sec/click
	Ducker Release Time	0.1sec ~ 5.0sec	50	0.1sec/click	0.1sec/click

Function		Parameter	steps	Fine Step (LCD ノブを押さずに 回した場合)	Coarse Steps (LCD ノブを押しながら 回した場合)
DELAY	Delay Switch	OFF/ON			
	Delay Time	0.0 meter ~ 117.3meter 0.0 feet ~ 384.8feet 0.00 msec ~ 341.32msec		0.1meter/click 0.1feet/click 0.02msec/click	2.0meter/click 5.0feet/click 5.00msec/click
	Delay Point	INPUT/PRE FADER			
	Delay Edit Unit	meter/feet/msec			
FADER LEVEL		-∞ dB、- 120dB ~ +10.0dB	1024	1point/click (- 10dB ~ +10dB : 0.05dB/click)	40point/click (- 10dB ~ +10dB : 2dB/click)
MUTE		OFF/ON			
MAIN L/R Assign		OFF/ON			
PAN/BAL		L100 ~ C ~ R100	201	1point/click	10point/click
IMAGE		STEREO 100% ~ MONO ~ REVERSE 100%	101	2%/click	10%/click
MODE		STEREO/L-MONO/R-MONO	3		
Send	Send Level	-∞ dB、- 120dB ~ +10.0dB	1024	1point/click (- 10dB ~ +10dB : 0.05dB/click)	40point/click (- 10dB ~ +10dB : 2dB/click)
	Send Pan	L100 ~ C ~ R100	201	1point/click	10point/click
	Send Switch	OFF/ON			
	Send Point	PRE/POST			
DCA		8 DCAs			
Mute Group		8 Groups			
Stereo Link		OFF/ON			
Auto Mixer	Switch	OFF/ON			
	Top Priority Switch	OFF/ON			
	Top Priority Group	A ~ D	4		
	Group Switch	OFF/ON			
	Group Priority Switch	OFF/ON			
	Group Lo Cut Switch	OFF/ON			
	Group Lo Cut Freq	125Hz ~ 4.00kHz	61	1point/click	3point/click
	Group Release Time	5msec ~ 1.00sec	70	1point/click	5point/click
	Channel Group Assign	A ~ D, ---	5		
	Channel Priority	OFF/ON			
	Channel Weight	- 15 ~ +15	31	1dB/click	1dB/click

● 各 Reference Level ごとの Pre Amp Analog Gain

Analog Reference Level = +6dBu / Digital Reference Level = - 9dBFS時	
PAD OFF時	+3dB ~ +57dB
PAD ON時	- 17dB ~ +37dB
Analog Reference Level = +4dBu / Digital Reference Level = - 20dBFS時	
PAD OFF時	+12dB ~ +66dB
PAD ON時	- 8dB ~ +46dB
Analog Reference Level = +4dBu / Digital Reference Level = - 18dBFS時	
PAD OFF時	+10dB ~ +64dB
PAD ON時	- 10dB ~ +44dB
Analog Reference Level = +4dBu / Digital Reference Level = - 16dBFS時	
PAD OFF時	+8dB ~ +62dB
PAD ON時	- 12dB ~ +42dB
Analog Reference Level = +4dBu / Digital Reference Level = - 14dBFS時	
PAD OFF時	+6dB ~ +60dB
PAD ON時	- 14dB ~ +40dB
Analog Reference Level = 0dBu / Digital Reference Level = - 20dBFS時	
PAD OFF時	+8dB ~ +62dB
PAD ON時	- 12dB ~ +42dB
Analog Reference Level = 0dBu時 / Digital Reference Level = - 18dBFS時	
PAD OFF時	+6dB ~ +60dB
PAD ON時	- 14dB ~ +40dB

Output Modules

Function		Parameter	steps	Fine Step (LCD ノブを押さずに 回した場合)	Coarse Steps (LCD ノブを押しながら 回した場合)
Insert	Switch	OFF/ON			
4 BAND EQ	Switch	OFF/ON			
	Band Switch	OFF/ON			
	Gain	- 18.0 ~ +18.0	361	0.1dB/click	1.0dB/click
	Freq	20Hz ~ 20.0kHz	121	1point/click 1/12oct/click	6point/click 1/2oct/click
	Q	0.10 ~ 17.31	55	1point/click	3point/click
	Type (LO)	L.Shelf/Bell			
	Type (HI)	H.Shelf/Bell/LPF			
31 BAND GEQ	Switch	OFF/ON			
	GAIN	- 18.0 ~ +18.0	361	0.1dB/click	1.0dB/click
COMP / DUCKER	Switch	OFF/ON			
	Type	COMP/DUCKER			
	Key In Source	SELF、CH 1-40、MIX 1-22、 MAIN L/R			
	Key In Filter Switch	OFF/ON			
	Key In Filter Type	HPF/BPF/LPF			
	Key In Filter Freq	20Hz ~ 20.0kHz	121	1point/click 1/12oct/click	6point/click 1/2oct/click
	Key In Filter Q	0.10 ~ 17.31	55	1point/click	3point/click
COMP	Comp Thresh	- 49dB ~ 0dB	50	1dB/click	2dB/click
	Comp Ratio	1.00 : 1 ~ ∞ : 1	21	1point/click	1point/click
	Comp Knee	HARD HARD MID MID SOFT MID SOFT SMOOTH	6	1point/click	1point/click
	Comp Attack	0.02ms ~ 125ms	135	1point/click	5point/click
	Comp Release	5ms ~ 5.00s	100	1point/click	5 point/click
	Comp Auto Makeup	OFF/ON			
	Comp Output Gain	0dB ~ +20dB	21	1dB/click	1dB/click
DUCKER	Ducker Threshold	- 60dB ~ - 6dB	5	6dB/click	6dB/click
	Ducker Attenuation	-∞、- 24、- 18、- 12、- 9、- 6、 - 3 (dB)	7	1point/click	1point/click
	Ducker HoldTime	0.1sec、0.5 ~ 5.0sec	11	1point/click	1point/click
DELAY	Delay Switch	OFF/ON			
	Delay Time	0.0meter ~ 117.3meter 0.0feet ~ 384.8feet 0.00msec ~ 341.32msec		0.1meter/click 0.1feet/click 0.02msec/click	2.0meter/click 5.0feet/click 5.00msec/click
	Delay Point	INPUT/PRE FADER			
	Delay Edit Unit	meter/feet/msec			
FADER LEVEL		-∞ dB、- 120dB ~ +10.0dB	1024	1point/click (- 10dB ~ +10dB : 0.05dB/click)	40point/click (- 10dB ~ +10dB : 2dB/click)
MUTE		OFF/ON			
Phase Sw		Normal/Reverse			
Main L/R Assign		OFF/ON			
Pan Bal		L100 ~ C ~ R100	201	1point/click	10point/click

Function		Parameter	steps	Fine Step (LCD ノブを押さずに 回した場合)	Coarse Steps (LCD ノブを押しなが ら回した場合)
MIX to Main L/R Send	Send Level	$-\infty$ dB、 -120 dB \sim $+10.0$ dB	1024	1point/click (-10 dB \sim $+10$ dB : 0.05dB/click)	40point/click (-10 dB \sim $+10$ dB : 2dB/click)
	Send Pan	L100 \sim C \sim R100	201	1point/click	10point/click
	Send Switch	OFF/ON			
DCA		8 DCAs			
Mute Group		8 Groups			
Stereo Link		OFF/ON			
Bus Mode		AUX/GROUP			
Pan Link		OFF/ON			
OSC	OSC Switch	OFF/ON			
	OSC Level	-36 dB \sim 0 dB	37	1dB/click	2dB/click
	OSC Type	Sine Wave/Pink Noise/White Noise			
	OSC Freq	100Hz/440Hz/1kHz/10kHz			
Monitor	Monitor Mono	OFF/ON			
	Monitor Dimmer Switch	OFF/ON			
	Monitor Dimmer Level	-40 dB \sim 0 dB	41	1dB/click	2dB/click
	Monitor Delay Switch	OFF/ON			
	Monitor Delay Time	0.0meter \sim 117.3meter 0.0feet \sim 384.8feet 0.00msec \sim 341.32msec		0.1meter/click 0.1feet/click 0.02msec/click	2.0meter/click 5.0feet/click 5.00msec/click

Sonicview 16/24/16dp/24dp Mixer Basic Parameters (FX)

FX共通

Function		Parameter	steps	Fine Step (LCD ノブを押さずに回した場合)	Coarse Steps (LCD ノブを押しながら回した場合)
FX	FX Input Level	$-\infty$ dB、 -120 dB \sim $+10.0$ dB	1024	1point/click (-10 dB \sim $+10$ dB : 0.05 dB/click)	40point/click (-10 dB \sim $+10$ dB : 2 dB/click)
	FX Output Level	$-\infty$ dB、 -120 dB \sim $+10.0$ dB	1024	1point/click (-10 dB \sim $+10$ dB : 0.05 dB/click)	40point/click (-10 dB \sim $+10$ dB : 2 dB/click)
	FX Mix Level	0% \sim 100%	101	1%/click	5%/click

FX

Function		Parameter	steps	Fine Step (LCD ノブを押さずに回した場合)	Coarse Steps (LCD ノブを押しながら回した場合)	Description
REVERB	TYPE	HALL/ROOM/ STUDIO/LIVE	4	1point/click	1point/click	残響の種類
	PRE DELAY	0msec \sim 200msec	201	1msec/click	10msec/click	音を入力してから残響が始まるまでの時間
	REVERB TIME	0.1sec \sim 10.0sec	61	0.1sec/click (0 \sim 5.0sec) 0.5sec/click (5.0 \sim 10.0sec)	0.2sec/click (0 \sim 5.0sec) 1.0sec/click (5.0 \sim 10.0sec)	残響時間
	SPREAD	0% \sim 100%	101	1%/click	5%/click	残響の広がり 具合
STEREO REVERB	TYPE	HALL/ROOM	2	1point/click	1point/click	残響の種類
	PRE DELAY	0msec \sim 200msec	201	1msec/click	10msec/click	音を入力してから残響が始まるまでの時間
	REVERB TIME	0.1sec \sim 20.0sec	71	0.1sec/click (0 \sim 5.0sec) 0.5sec/click (5.0 \sim 10.0sec) 1.0sec/click (10.0 \sim 20.0sec)	0.2sec/click (0 \sim 5.0sec) 1.0sec/click (5.0 \sim 10.0sec) 2.0sec/click (10.0 \sim 20.0sec)	残響時間
	SPREAD	0% \sim 100%	101	1%/click	5%/click	残響の広がり 具合
	LO/HIGH GAIN	-12.0 dB \sim $+12.0$ dB	49	0.5dB/click	1.0dB/click	シェルビングフィルターのゲイン
	LO FREQ	125Hz \sim 2.0kHz	49	1point/click	3point/click	ローシェルビングフィルター周波数のカットオフ周波数
	HIGH FREQ	1.00kHz \sim 16.00kHz	49	1point/click	3point/click	ハイシェルビングフィルター周波数のカットオフ周波数

Function		Parameter	steps	Fine Step (LCD ノブを押さずに 回した場合)	Coarse Steps (LCD ノブを押しなが ら回した場合)	Description
PLATE REVERB	TYPE	WARM/HARD/ BRIGHT/DARK	4	1point/click	1point/click	残響の種類
	PRE DELAY	0msec ~ 200msec	201	1msec/click	10msec/click	音を入力してから 残響が始まるまでの 時間
	REVERB TIME	0.1sec ~ 10.0sec	61	0.1sec/click (0 ~ 5.0sec) 0.5sec/click (5.0 ~ 10.0sec)	0.2sec/click (0 ~ 5.0sec) 1.0sec/click (5.0 ~ 10.0sec)	残響時間
	HI DAMP	500Hz ~ 16.0kHz	61	1point/click	3point/click	残響の高域減衰カッ トオフ周波数
GATE REVERB	TYPE	FAST / SLOW	2	1point/click	1point/click	ゲートの動作 Fast : Gate Levelを超え ると素早くゲー トが開く。Gate Timeで設定した 時間、開く。 Slow : Gate Levelを超え ると徐々にゲー トが開く。Gate Timeの設定時間 経過すると完全に 開く。
	GATE LEVEL	- 48dB ~ 0dB	49	1dB/click	2dB/click	ゲートが開くレベル
	GATE TIME	10msec ~ 3.0sec	201	1msec/click (0 ~ 100msec) 10msec/click (100msec ~ 1.0sec) 0.1sec/click (1.0 ~ 3.0sec)	10msec/click (0 ~ 100msec) 100msec/click (100msec ~ 1.0sec)	ゲートが開いている 時間
MONO DELAY	DELAY TIME	1msec ~ 3000msec	3000	1msec/click	100msec/click	ディレイタイム
	FEEDBACK	0 ~ 100	101	1point/click	5point/click	フィードバック量
	HI DAMP	500Hz ~ 16.0kHz	61	1point/click	3point/click	高域減衰のカットオ フ周波数
STEREO DELAY	DELAY TIME	1msec ~ 1500msec	1500	1msec/click	100msec/click	ディレイタイム
	FEEDBACK	0 ~ 100	101	1point/click	5point/click	フィードバック量
	HI DAMP	500Hz ~ 16.0kHz	61	1point/click	3point/click	高域減衰のカットオ フ周波数
PING-PONG DELAY	DELAY TIME	1msec ~ 1500msec	1500	1msec/click	100msec/click	ディレイタイム
	FEEDBACK	0 ~ 100	101	1point/click	5point/click	フィードバック量
	HI DAMP	500Hz ~ 16.0kHz	61	1point/click	3point/click	高域減衰のカットオ フ周波数
DELAY LCR	HI DAMP	500Hz ~ 16.0kHz	61	1point/click	3point/click	高域減衰のカットオ フ周波数
	DELAY TIME L/C/ R	1msec ~ 3000msec	3000	1msec/click	100msec/click	ディレイタイム
	FEEDBACK	0 ~ 100	101	1point/click	5point/click	フィードバック量
	WET LEVEL L/C/R	0 ~ 100	101	1point/click	5point/click	ウェット音レベル

Function		Parameter	steps	Fine Step (LCD ノブを押さずに 回した場合)	Coarse Steps (LCD ノブを押しながら 回した場合)	Description
CHORUS	RATE	0.05Hz ~ 10.0Hz	101	1point/click	5point/click	コーラスの変調周期
	DEPTH	0% ~ 100%	101	1%/click	5%/click	コーラスの深さ
	DELAY TIME	0msec ~ 100msec	101	1msec/click	5msec/click	ウェット音が出力されるまでの時間
	HI PASS	22Hz ~ 2.00kHz	79	1point/click	3point/click	入力信号の周波数を限定するハイパスフィルター
	HI DAMP	500Hz ~ 16.0kHz	61	1point/click	3point/click	高域減衰のカットオフ周波数
	SPREAD	0% ~ 100%	101	1%/click	5%/click	左右の広がり効果
FLANGER	RATE	0.05Hz ~ 10.0Hz	101	1point/click	5point/click	フランジャーの変調周期
	DEPTH	0% ~ 100%	101	1%/click	5%/click	フランジャーの深さ
	DELAY TIME	0msec ~ 100msec	101	1msec/click	5msec/click	ウェット音が出力されるまでの時間
	PHASE	0deg ~ 180deg	181	1deg/click	10deg/click	左右の変調の位相差
PHASER	RATE	0.05Hz ~ 10.0Hz	101	1point/click	5point/click	フェイザーの変調周期
	STAGE	4/8/12/16	4	1point/click	1point/click	フェーズ効果の段数
	RESONANCE	0 ~ 10	11	1point/click	1point/click	フィードバック音にクセ付け
	PHASE	0deg ~ 180deg	181	1deg/click	10deg/click	左右の変調の位相差
PITCH	PITCH 1/2	- 24 ~ +24	49	1point/click	2point/click	シフト量 (半音単位)
	FINE TUNE 1/2	- 50Cent ~ +50Cent	101	1cent/click	5cent/click	シフト量 (セント単位)

Sonicview 16/24/16dp/24dp Preset List

Gate Library Preset List

No.	TYPE	NAME	Parameters				
			Threshold	Range	Attack	Hold	Decay
P001	GATE	Floor Tom	– 20dB	– 40dB	0msec	60msec	320msec
P002	GATE	Kick in	– 30dB	– 50dB	0msec	110msec	95msec
P003	GATE	Kick out	– 35dB	– 50dB	0msec	100msec	85msec
P004	GATE	Noise Gate	– 28dB	– 60dB	0msec	50msec	300msec
P005	GATE	Rack Tom 1	– 20dB	– 40dB	0msec	60msec	380msec
P006	GATE	Rack Tom 2	– 20dB	– 40dB	0msec	60msec	300msec
P007	GATE	Snare bottom	– 28dB	– 40dB	0msec	90msec	300msec
P008	EXP	EXP Snare bottom	– 27dB	4 : 1	Mid	60msec	280msec
P009	EXP	EXP Tom	– 28dB	4 : 1	Mid	60msec	380msec
P010	DE-ESSER	DE-ESS Vocal 2k	– 28dB	Mid	2.5kHz	3.45	
P011	DE-ESSER	DE-ESS Vocal 4k	– 28dB	Mid	4.2kHz	4.32	

EQ Library Preset List

No.	NAME	Parameters							
		Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
P001	A.Gtr 1	Q	–	Q	1.90	Q	–	Q	Hi Shelf
		Freq	–	Freq	397Hz	Freq	–	Freq	3.56kHz
		Gain	–	Gain	– 2.5dB	Gain	–	Gain	1.5dB
P002	A.Gtr 2	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	4.94	Q	2.02	Q	2.02	Q	Hi Shelf
		Freq	140Hz	Freq	375Hz	Freq	3.17kHz	Freq	5.04kHz
		Gain	– 3.0dB	Gain	– 3.0dB	Gain	+3.5dB	Gain	+1.0dB
P003	Bass Line	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	7.99	Q	–	Q	2.14	Q	–
		Freq	132Hz	Freq	–	Freq	1.59kHz	Freq	–
		Gain	– 3.0dB	Gain	–	Gain	+4.0dB	Gain	–
P004	Bass mic	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	–	Q	2.02	Q	2.02	Q	–
		Freq	–	Freq	265Hz	Freq	3.00kHz	Freq	–
		Gain	–	Gain	– 5.0dB	Gain	+5.0dB	Gain	–
P005	E.Gtr	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	–	Q	1.90	Q	–	Q	Hi Shelf
		Freq	–	Freq	397Hz	Freq	–	Freq	3.56kHz
		Gain	–	Gain	– 2.5dB	Gain	–	Gain	+1.5dB

No.	NAME	Parameters							
P006	Floor Tom	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	2.02	Q	1.41	Q	–	Q	1.80
		Freq	79Hz	Freq	420Hz	Freq	–	Freq	5.04kHz
		Gain	+3.5dB	Gain	– 4.0dB	Gain	–	Gain	+3.0dB
P007	Hi Hat	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	–	Q	0.92	Q	–	Q	–
		Freq	–	Freq	472Hz	Freq	–	Freq	–
		Gain	–	Gain	– 8.0dB	Gain	–	Gain	–
P008	Kick in	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	–	Q	1.90	Q	2.46	Q	–
		Freq	–	Freq	315Hz	Freq	4.49kHz	Freq	–
		Gain	–	Gain	– 4.0dB	Gain	+8.0dB	Gain	–
P009	Kick out	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	2.46	Q	1.04	Q	1.41	Q	–
		Freq	63Hz	Freq	375Hz	Freq	3.78kHz	Freq	–
		Gain	+3.0dB	Gain	– 6.0dB	Gain	+7.0dB	Gain	–
P010	Over Head	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	–	Q	1.20	Q	–	Q	Hi Shelf
		Freq	–	Freq	445Hz	Freq	–	Freq	4.24kHz
		Gain	–	Gain	– 6.0dB	Gain	–	Gain	+1.5dB
P011	Rack Tom 1	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	–	Q	1.41	Q	–	Q	1.41
		Freq	–	Freq	472Hz	Freq	–	Freq	4.76kHz
		Gain	–	Gain	– 4.0dB	Gain	–	Gain	+6.0dB
P012	Rack Tom 2	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	–	Q	1.41	Q	–	Q	1.04
		Freq	–	Freq	397Hz	Freq	–	Freq	4.24kHz
		Gain	–	Gain	– 4.0dB	Gain	–	Gain	+4.0dB
P013	Ride	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	–	Q	1.41	Q	–	Q	Hi Shelf
		Freq	–	Freq	397Hz	Freq	–	Freq	4.24kHz
		Gain	–	Gain	– 8.0dB	Gain	–	Gain	+1.5dB
P014	Snare bottom	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	–	Q	1.41	Q	2.02	Q	Hi Shelf
		Freq	–	Freq	297Hz	Freq	3.36kHz	Freq	2.52kHz
		Gain	–	Gain	– 4.0dB	Gain	+3.0dB	Gain	+2.0dB
P015	Snare top	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	–	Q	1.90	Q	2.02	Q	Hi Shelf
		Freq	–	Freq	445Hz	Freq	3.36kHz	Freq	2.00kHz
		Gain	–	Gain	– 3.5dB	Gain	+3.0dB	Gain	+5.0dB
P016	Synth Bass	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	4.32	Q	–	Q	3.84	Q	–
		Freq	70Hz	Freq	–	Freq	3.17kHz	Freq	–
		Gain	+3.0dB	Gain	–	Gain	– 3.0dB	Gain	–
P017	Vocal Female	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	3.13	Q	1.80	Q	3.45	Q	Hi Shelf
		Freq	281Hz	Freq	595Hz	Freq	2.83kHz	Freq	5.04kHz
		Gain	– 3.5dB	Gain	– 3.5dB	Gain	– 2.0dB	Gain	+2.0dB

No.	NAME	Parameters							
P018	Vocal Male	Low		Low Mid		Hi Mid		Hi	
		Q	4.32	Q	2.87	Q	3.84	Q	Hi Shelf
		Freq	210Hz	Freq	375Hz	Freq	4.49kHz	Freq	5.04kHz
		Gain	– 3.0dB	Gain	– 3.5dB	Gain	– 2.0dB	Gain	+3.0dB

Comp Library Preset List

No.	NAME	Parameters					
P001	A.Gtr	Threshold	Ratio	Knee	Attack	Release	Output Gain
		– 29dB	2.50 : 1	Mid	1msec	200msec	+2dB
P002	Bass Line	Threshold	Ratio	Knee	Attack	Release	Output Gain
		– 27dB	3.33 : 1	Mid	30msec	230msec	+2dB
P003	Bass mic	Threshold	Ratio	Knee	Attack	Release	Output Gain
		– 30dB	3.33 : 1	Hard	20msec	125msec	+3dB
P004	Keyboard	Threshold	Ratio	Knee	Attack	Release	Output Gain
		– 17dB	2.50 : 1	Mid	50msec	200msec	+0dB
P005	Kick in	Threshold	Ratio	Knee	Attack	Release	Output Gain
		– 20dB	2.86 : 1	Mid	20msec	30msec	+3dB
P006	Kick out	Threshold	Ratio	Knee	Attack	Release	Output Gain
		– 19dB	2.50 : 1	Mid	20msec	40msec	+3dB
P007	Snare bottom	Threshold	Ratio	Knee	Attack	Release	Output Gain
		– 30dB	2.50 : 1	Mid	30msec	230msec	+0dB
P008	Snare top	Threshold	Ratio	Knee	Attack	Release	Output Gain
		– 26dB	3.33 : 1	Mid	15msec	65msec	+3dB
P009	Synth Bass	Threshold	Ratio	Knee	Attack	Release	Output Gain
		– 28dB	3.33 : 1	Mid	30msec	150msec	+0dB
P010	Vocal Cho	Threshold	Ratio	Knee	Attack	Release	Output Gain
		– 28dB	3.33 : 1	Mid	30msec	150msec	+1dB
P011	Vocal Female	Threshold	Ratio	Knee	Attack	Release	Output Gain
		– 25dB	2.50 : 1	Mid	25msec	150msec	+3dB
P012	Vocal Male	Threshold	Ratio	Knee	Attack	Release	Output Gain
		– 24dB	2.50 : 1	Mid	25msec	200msec	+3dB

FX Library Preset List

No.	FX TYPE	Name	Parameters							
			TYPE	PRE DELAY	REVERB TIME	SPREAD				
P001	REVERB	Dr Rev	LIVE	6msec	2.0sec	70%				
P002	GT-REV	Gate Rev	TYPE	GATE LEVEL	GATE TIME					
			Fast	– 20dB	810msec					
P003	ST-REV	Inst Rev	TYPE	PRE DELAY	REVERB TIME	SPREAD	LO GAIN	LO FREQ	HI GAIN	HI FREQ
			HALL	20msec	2.2sec	80%	3.0dB	132Hz	2.0dB	1.89kHz
P004	PL-REV	SN Rev	TYPE	PRE DELAY	REVERB TIME	HI DAMP				
			BRIGHT	20msec	1.8sec	4.00kHz				
P005	PL-REV	Vo Rev 1	TYPE	PRE DELAY	REVERB TIME	HI DAMP				
			WARM	80msec	2.8sec	8.00kHz				
P006	REVERB	Vo Rev 2	TYPE	PRE DELAY	REVERB TIME	SPREAD				
			HALL	40msec	2.4sec	70%				
P007	LCR-DLY	Delay LCR	HI DAMP	DELAY TIME L	DELAY TIME C	DELAY TIME R	FEEDBACK	WET LEVEL L	WET LEVEL C	WET LEVEL R
			10.1kHz	250msec	750msec	500msec	40	80	80	80
P008	MN-DLY	Mono Delay	DELAY TIME	FEEDBACK	HI DAMP					
			500msec	40	10.1kHz					
P009	PP-DLY	Ping-Pong Delay	DELAY TIME	FEEDBACK	HI DAMP					
			500msec	60	10.1kHz					
P010	ST-DLY	Stereo Delay	DELAY TIME	FEEDBACK	HI DAMP					
			500msec	40	10.1kHz					
P011	CHORUS	Chorus	RATE	DEPTH	DELAY TIME	HI PASS	HI DAMP	SPREAD		
			0.25Hz	0%	40msec	125Hz	3.36kHz	100%		
P012	FLANGER	Flanger	RATE	DEPTH	DELAY TIME	PHASE				
			0.20Hz	10%	40msec	180deg				
P013	PHASER	Phaser	RATE	STAGE	RESONANCE	PHASE				
			0.40Hz	8	2	180deg				
P014	PITCH	Pitch	PITCH 1	FINE 1	PITCH 2	FINE 2				
			0	– 10 cent	0	+10 cent				

ティアック株式会社 〒 206-8530 東京都多摩市落合 1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒 206-8530 東京都多摩市落合 1-47

● 電話 **042-356-9137** 携帯電話・PHS・IP電話から

● ナビダイヤル  **0570-000-809** 一般電話から

● FAX **042-356-9185**

受付時間は、10:00 ～ 12:00 / 13:00 ～ 17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を 除く)

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック 修理センター 〒 358-0026 埼玉県入間市小谷田 858

● 電話 **04-2901-1033** 携帯電話・PHS・IP電話から

● ナビダイヤル  **0570-000-501** 一般電話から

● FAX **04-2901-1036**

受付時間は、9:30 ～ 12:00 / 13:00 ～ 17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を 除く)

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。